

日本古典作者事典 さ 2000 ; [目次にもどる](#)

- 佐(さ・右大臣家) → 佐(すけ、右大臣家女房、歌人) F 2 3 9 3
 佐(さ) → 通福(みちとみ・愛宕おたぎ/中院なかのいん/源/岩倉、権大納言) I 4 1 6 2
 佐阿弥(左阿彌さあみ、能役作者) → 安清(やすきよ・佐阿彌/日吉四郎次郎) B 4 5 2 5
 些庵(さあん) → 月居(げつきよ、俳人) 1 8 0 7
 簑庵(さあん：号) → 湖月(こげつ：道号・信鏡：法諱、臨濟僧) P 1 9 5 5
 佐為(さい) → 佐為王(狭井王さゐのおほきみ) B 2 0 0 1
 佐位(さい・佐藤) → 元春(もとはる・佐藤、文筆家) D 4 4 9 3
 済(さい・源) → 済(わたる・源、平安期歌人) 5 3 4 4
 済(さい・岡田) → 済(わたる・岡田、藩儒者) 5 3 4 7
 済(さい・種村) → 箕山(きざん・種村たねむら、儒者/詩) F 1 6 3 9
 済(さい・芥川) → 帰山(きざん・芥川あくたがわ、儒者) K 1 6 7 0
 済(さい・今枝) → 栄済(えいさい・今枝いまえだ、本草家) C 1 3 7 6
 済(さい・山口) → 立安(りゅうあん・山口やまぐち、医者/教育) C 4 9 6 6
 済(さい・井口) → 嘉一郎(かいちろう・井口いのくち、儒者) I 1 5 9 4
 済(さい・恒川) → 樸巖(ぼくがん・恒川つねかわ、藩士/儒者) D 3 9 0 0
 済(さい・加藤) → 霞石(かせき・加藤かとう、医者/儒詩人) M 1 5 6 7
 済(さい・並河) → 寒泉(かんせん・並河なみかわ/なびかわ、儒者) G 1 5 4 7
 済(さい・勝田) → 鹿谷(ろっこく・勝田かつた、藩の儒者/詩) C 5 2 1 5
 済(さい・中村/稲垣) → 成斎(せいさい・稲垣いながき/中村、商家/儒者) I 2 4 2 1
 済(さい・種村) → 箕山(きざん・種村/種、儒者/詩文) F 1 6 3 9
 済(さい・小山) → 元純(げんじゅん・小山こやま、医者) J 1 8 8 1
 済(さい・利根川) → 尚方(なおかた・利根川とねがわ、医者/詩) N 3 2 9 5
 済(さい・河津) → 直入(なおいり・河津がかわづ、藩士/歌人) L 3 2 7 6
 済(さい・上里) → 済(わたる・上里こうざと、神職/国学) 5 3 8 3
 斎(さい・市川) → 霞洞(かどう・市川いちかわ、儒者) O 1 5 2 1
 斎(さい・郷/小阪) → 北嵩(ほくすう・小阪/郷、儒者/詩) D 3 9 5 2
 斎(さい・匹田) → 柳塘(りゅうとう・匹田/疋田ひきだ/藤原、家老) F 4 9 3 0
 斎(さい・戸田) → 旭山(ぎよくざん・戸田とだ、医者/本草家) O 1 6 9 6
 斎(さい・芦沢/古川) → 元紹(もとつぐ・古川ふるかわ、医者) I 4 4 5 5
 斎(さい・山田) → 成章(なりあき・山田やまだ、藩士/歌人) P 3 2 2 0
 斎(さい・田辺) → 喜理(よしただ・田辺たなべ、藩士/家臣録) E 4 7 2 8
 斎(さい・堀) → 岫陰(はくいん・堀ほり/蒲生、藩士/尊攘) C 3 6 5 3
 斎(さい・疋田) → 松塘(しょうとう・疋田ひきだ/藤原、藩家老/詩文) R 2 2 5 5
 斎(さい・大竹) → 政泰(まさやす・大竹おおたけ/平、神職/国学) O 4 0 3 4
 斎(さい・間瀬/日比野) → 白圭(はっけい・日比野ひびの/間瀬、絵師) F 3 6 1 8
 斎(さい・広岡) → 齋(いつき・広岡ひろおか、藩士/国学) K 1 1 6 0
 斎(さい・本多) → 忠胤(ただたね・本多ほんだ、国学者) Z 2 6 4 6
 斎(さい・山室) → 明則(あきのり・山室やまむろ/白井、藩士/歌) I 1 0 7 1
 斎(さい・松井) → 乗運(じょううん・松井/牧野、仏師/歌) V 2 2 2 3
 斎(さい・宮田) → 篤親(あつちか・宮田みやた/島崎、神道/国学) L 1 0 6 0
 宰(さい・渡辺) → 寛太(かんた；通称・渡辺、水利事業) R 1 5 2 9
 犀(さい・田/田中) → 止邱(しきゅう・田中/田、儒者) B 2 1 5 8
 載(さい・亀/小倉/十亀) → 東谿(とうけい・亀井/亀き、絵師) D 3 1 1 1
 載(さい・東尾) → 美雄(よしお・東尾ひがしお、国学者/歌) O 4 7 7 1
 灑(さい/しゃ・峰岸/桑原) → 北林(ほくりん・桑原/峰岸、儒者) E 3 9 0 9
 在(さい・菱川) → 月山(げつざん・菱川/菅/修姓；菱、藩士/儒者) E 1 8 7 7

- Q2014 **細阿**(さいあ;法諱) ? - ? 南北期;時宗僧/歌人、
1387浄阿5代奉納[隱岐高田明神百首]出詠、
[夕顔の宿の昔のたそがれを思ひいでてもたのむ中かな](高田明神歌;81/寄車恋)
- Q2015 **西阿**(さいあ;法諱) ? - ? 南北期;時宗僧/歌人、
1387浄阿5代奉納[隱岐高田明神百首]出詠、
[神垣や松は千年の道ながら下草ばかり霜や置くらん](高田明神歌;59/寒草纒ヤイ)
- 2000 **西阿**(さいあ;法諱) ? - ? 1454存 法相僧;1454(興福寺)法蓮院釈迦堂修造に關与、
1454「法蓮院釈迦堂修造勸進帳」著、興福寺別当經覚と法縁はあるが不詳
西亞(さいあ) → 玉晁(ぎよくちよう・小寺こでら、随筆家/俳) H 1 6 3 1
在阿(さいあ・耀蓮社;法名) → 智堂(ちどう;法諱、浄土僧) E 2 8 9 1
在阿(さいあ・超蓮社) → 念海(ねんかい;法諱、浄土僧) 3 4 6 1
- H2000 **済庵**(さいあん・石黒いしぐろ、名;正敏/政敏、通玄男) 1787-3650 尾張藩医者;1616父を継承;寄合医師、
のち奥医師、本草に精通/写生に長ず、尾張嘗百社の一員、1821藩許を得尾張初刑屍解剖、
1835「本草会物品目録」著、
[済庵(;)の別号] 別号;富春堂、法号;白蓮院
済庵(さいあん・福長) → 玄清(げんせい・福長ふくなが、医者、軍記) E 1 8 2 8
済庵(さいあん・緒方) → 春朔(しゅんさく・緒方/瓦林、医者/天文) K 2 1 7 7
采庵(采安さいあん・熊沢) → 秀昉(しゅうほう;法諱、僧、歌人) M 2 1 9 9
菜庵(さいあん) → 吟松(ぎんしょう・中村・奥田、俳人) I 1 6 0 0
菜庵(さいあん) → 素兄(そけい・菜庵、俳人) D 2 5 6 3
柴庵(さいあん、俳人) → 道立(どうりゅう・樋口) I 3 1 2 5
再庵(さいあん) → 其殘(きざん・山田/岩波、俳人/画) K 1 6 6 8
細庵(さいあん) → 雲山(うんざん・宮沢みやざわ、儒者/詩人) B 1 2 1 5
細庵(さいあん・江幡) → 通理(みちまさ・江幡えぼた、医者/国学) I 4 1 2 3
- H2001 **在庵**(さいあん;道号・普在ふさい;法諱、源みなもと覚念男) 1298-137679 阿波倉本の僧;1307宝覚律師門、
出家(10歳)/臨済に転ず;秋澗道泉・明極楚俊・清拙正澄・竺仙梵僊門/東海竺源に嗣法、
1368建仁寺住持/72天竜寺住持/73南禅寺住持/76建長寺住持/鎌倉勝因寺没、
「雲巢集」「在庵和尚語録」著、
[在庵普在の字/号]字;凌雲、号;鶴峯、諡号;仏恵広慈禅師
- H2002 **材庵**(さいあん・松井まつい、名;閑/字;衆甫) ?-? 江中期江戸茅場町の医者、1749「脚気方論」、
1781「仮名難経」、「傷寒綱目」「脉学啓蒙」「竜門一家言」著
在庵(さいあん・三浦) → 元筋(もとりの・三浦/乙幡、藩士/国学/歌) D 4 4 8 5
- F2044 **西以**(さいい・川嶋かわしま) ? - ? 江前期上方の俳人;西鶴門?、1678西鶴「物種集」入、
[走りこ競くら初瀬の廊下らうかをかぞえて] (走りこ競;走り競べ/大和長谷寺の長い回廊、
前句;石あかりにもかつや御機嫌)
- 2060 **西伊**(さいい・里根さとね) ? - ? 江前期俳人;西鶴門、1679西鶴「飛梅千句」入
- 才一(さいいち・千代田;戲名) → 可侯(かこう・一筆庵、溪斎英泉、絵師/戲作) 1 5 1 3
在一(さいいち・箕曲) → 在一(ありかず・箕曲みのわ、神職/詩歌) F 1 0 2 6
才市郎(才一郎さいいちろう・平野) → 庸修(庸脩つねなが・平野、医者/史家) C 2 9 8 5
斎一郎(さいいちろう・河合) → 清魚(きよな・河合かわい、神職/歌人) U 1 6 0 0
斎院(さいいん、大斎院) → 選子内親王(せんしなしいんのう、村上皇女) 2 4 3 2
斎院(さいいん、六条斎院) → 禊子内親王(はしいないしのう、後朱雀皇女) 3 6 0 5
斎院(さいいん・船曳) → 大滋(おおしげ・船曳ふなぶき、国学/歌人) E 1 4 1 1
西院(さいいん) → 道法親王(どうほうしんのう;法諱、真言御室) H 3 1 2 0
西院(さいいん) → 寛尊法親王(かんそんほつしんのう、門跡/歌人) E 1 5 0 8
済胤(さいいん) → 済胤(せいいん;法諱、権大僧都/歌) C 2 4 5 4
済蔭(さいいん・井上) → 淑蔭(よしかげ・井上、国学/戲作/歌) 4 7 0 5
歳胤(さいいん・浅見/千葉) → 歳胤(としたね・千葉/平/浅見、曆算家) M 3 1 7 6

- 采隠(さいいん・伊達) → 綱村(つむら・伊達だて、藩主/歌人) B 2 9 3 7
 西院皇后宮(さいいんこうごうぐう) → 馨子内親王(けいこ・けいしなしいんのう、歌人) F 1 8 0 4
- G2050 **最胤親王**(さいいんしんのう、俗名;惟常/法号;円明院、伏見宮邦輔親王男) 1563-1639 77、
 正親町天皇の猶子、1566藪御所より円融房に移住/75親王宣下:入室得度、
 台教;梶井門跡応胤親王門、梶井門跡;二品、
 1612-39天台座主;御懺法講など宮中諸法会の導師、「覚勝院月次連歌」著、
 「禁裏着到和歌」「御懺法講次第」「最胤法親王書状」著
- 齋院出羽(さいいんのいで) → 出羽(いでは、裸子内親王家女房/歌) H 1 1 9 8
 齋院小式部(さいいんのこしきぶ) → 小式部(こしきぶ、祐子ゆうし/裸子ばいし内親王家) C 1 9 7 6
 齋院宰相(さいいんのさいしやう) → 宰相(さいしやう・選子内親王家/歌人) 2 0 8 5
 齋院撰津(さいいんのせつ) → 撰津(せつ・二条太皇太后宮、藤原実宗女) E 2 4 5 8
 齋院中将(さいいんのちゆうじやう) → 中将(ちゆうじやう・選子内親王家、源為理女) G 2 8 3 6
 齋院の津の君(さいいんのつのみ) → 撰津(せつ) E 2 4 5 8
 齋院中務(さいいんのなかつかさ) → 中務(なかつかさ・選子内親王家、源為理女) 3 2 1 0
 齋院の津の君(さいいんのみやのつのみ) → 撰津(せつ・二条太皇太后宮、藤原実宗女) E 2 4 5 8
 西院法印(さいいんほういん) → 任覚(にんかく;法諱、真言僧) G 3 3 2 2
 西院帝(さいいんのみかど) → 淳和天皇(じゅんなてんのう、詩人) K 2 1 3 6
- G2051 **西鳥**(さいう) ? - ? 大阪の俳人:1691賀子「蓮実」入、
 [拝殿にしばし雑子寐さねの時雨哉](蓮実;382)
- 濟雨亭(さいうてい) → 美影(よしかげ・小林こばやし、国学者) M 4 7 7 8
- N2019 **齊雲**(さいうん;道号・道棟どうとう;法諱、俗姓;富成) 1637-1713 77 豊後府中の禅僧、
 1649(13歳)豊後の臨濟宗大智寺雪徑正峰門;出家/黄檗僧;隠元隆琦門;道棟名を受、
 1673師隠元没後3年間服喪、のち洛北林丘楽只軒・近江長福寺・京梅山善妙精舎等に隠棲、
 「讚観音大士迦陀集」編、「活埋道人遺稿」、
 [齊雲(初め号/のち道号)の別道号/法諱/号]道号;惟梁いりょう(;初道号)、
 法諱;正実(;初法諱/臨濟)/道棟(;黄檗)、号;活埋道人
- 彩雲(さいうん・賀来) → 玉淵(ぎよくえん・賀来かく、醸造家/儒者) O 1 6 8 0
 彩雲(さいうん・藤田) → 友閑(ゆうかん・藤田ふじた、書家) B 4 6 0 7
 彩雲翁(さいうんおう) → 友閑(ゆうかん・藤田ふじた、書家) B 4 6 0 7
 塞雲子(さいうんし) → 常信(つねのぶ・狩野かのう、絵師/鑑定/歌) D 2 9 0 2
 彩雲堂(さいうんどう) → 昌綱(まさつな・朽木くつき、藩主/古銭学) E 4 0 0 0
 彩雲峰(さいうんぼう) → 榴岡(りゅうこう・林はやし、幕府儒官) D 4 9 7 8
 最恵(さいえ) → 承仁法親王(しょうにんほつしんのう、天台座主/歌) B 2 2 1 2
 菜英(さいえい・高柳) → 信之(のぶゆき・高柳、俳人) D 3 5 6 9
 在栄(さいえい・三輪) → 花信斎(かしんさい・三輪みわ、狩野派絵師) M 1 5 0 1
 再影館主人(さいえいかんしゅじん) → 長庚(ちやうこう・館たち、郷土史家) I 2 8 2 8
 采英書屋(さいえいしよおく) → 春三(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者) K 2 1 2 1
- 2061 **最恵法親王**(さいえほつしんのう、後醍醐天皇皇子) ?-1370 母;洞院実泰女の従二位守子、南朝の歌人、
 妙法院に入寺、新葉集6首;36/387/435/628/641/836、
 [吹きやめばよそに軒端の梅が香をしばし袂にやどす春風](新葉集;一春36)
- 才右衛門(さいえもん・梁田) → 蛻巖(ぜいがん・梁田やなだ、儒者/詩) 2 4 0 6
 才右衛門(さいえもん・国谷) → 金馬(きんば・国谷、俳人) R 1 6 6 4
 才右衛門(さいえもん・有沢) → 貞幹(さだもと・有沢ありさわ、藩士/軍学) J 2 0 9 1
 才右衛門(さいえもん・有沢) → 貞庸(さだつね・有沢ありさわ、藩士/記録) I 2 0 6 5
 才右衛門(さいえもん・有沢) → 師貞(もろさだ・有沢ありさわ、藩士/軍学) H 4 4 2 1
 才右衛門(さいえもん・福家) → 大有(たいゆう・福家ふけ、儒者) L 2 6 1 4
 才右衛門(さいえもん・長井) → 琳策(りんさく・長井ながい、藩医/本草家) K 4 9 3 3
 才右衛門(さいえもん・有沢) → 貞庸(さだつね・有沢ありさわ、藩士/記録) I 2 0 6 5
 才右衛門(さいえもん・下郷) → 龜洞(きどう・千代倉/下郷、学海、醸酒/俳人) B 1 6 5 7
 才右衛門(さいえもん・佐々木) → 義信(よしのぶ・佐々木ささき、藩士/国学) N 4 7 0 3

- 齋右衛門(さいえもん・稲員)→ 安則(やすのり・稲員いながず、大庄屋;土木事業) C 4 5 6 3
財右衛門(さいえもん・村上)→ 範致(のりむね・村上、藩家老/砲術家) F 3 5 9 4
- G2052 最円(さいえん;法諱・寂円じゃくえん)?-? 891存 山城元慶寺の天台学僧:叡山の遍昭門/両部密灌を受、元慶寺で顕密を敷演/897円珍に会い僧臘・座次を質疑/887遍昭の奏で伝法阿砂利闍梨位、861「金剛界次第生起」著
- G2053 濟延(さいえん;法諱・華藏院;号、源経頼男) 1012-7160 東寺の真言僧:延壽門、仁和寺華藏院院主、1054権律師/57権少僧都/66権大僧都/67東寺二長者、「護摩要集」「濟延僧都記」著
- Q2000 濟円(さいえん;法諱・) ? - ? 平安鎌倉期;興福寺法相僧;経尋門/僧都、覚弁(1132-99/興福寺別当)の師、歌人;1165清輔[続詞花集]2首・1237素俊撰[檜葉集]入、[ゆふぎりのはれずぞわれもものは思ふたぐひなげにもなく千鳥かな](檜葉;雑875)
- 2062 西円(さいえん;法諱、俗名;宇都宮播磨)?-? 鎌倉期の法師/宇都宮歌壇で活躍:「楡閑集」撰、「新玉集」撰、新和歌集・東撰和歌六帖入集、勅撰;新後撰939、異本紫明抄註入、菟玖波3句入、[いかにせんわれのみ人を思ふともこふともおなじ心ならずは](新後撰集;十二恋939)、[西円(;法諱)の通称] 播磨入道
- G2054 宰円(さいえん;法諱・月蔵房;号)?-? 鎌倉後期天台僧:湛智・明証房叡禅門、1275「弾偽褒真抄」著(湛智の正当性を主張;論魚山声明・楽理の歴史等)、1284「如法経記」1285「山門大講堂供養記」、「月蔵坊僧都宰円記」「第五伝受記」著
- 西園(さいえん・渋江) → 長伯(ちやうはく・渋江、幕府奥医/本草) J 2 8 6 9
西園(さいえん・梁田) → 天柱(てんちゆう・梁田やなだ/万代、藩儒) E 3 0 0 6
齊延(さいえん・藤とう/斎藤) → 齊延(まさのぶ・藤とう/斎藤、国学/故実) F 4 0 6 1
菜園(さいえん・田内) → 眞鎮(まじず・田内たのうち、国学者) I 4 0 8 8
蔡園(さいえん・樽井) → 守城(もりき・樽井たるい、兵法家/歌人) F 4 4 3 4
柴垣(さいえん・大島) → 藍涯(らんがい・大島おおしま、儒;藩校助教) B 4 8 6 6
柴垣(さいえん・井岡) → 良古(よしふる・井岡いおか/松沢、神職) L 4 7 3 8
在延(さいえん・四方) → 春翠(しゅんすい・四方よも/源、書肆/絵師) L 2 1 2 1
采縁斎(さいえんさい) → 一匆(いっきく・島野、俳人) G 1 1 8 8
西園斎(さいえんさい) → 米都(べいと・鈴木すずき、俳人・狂歌) 2 7 7 4
西園主人(さいえんしゅじん) → 守良(もりよし・藺田そのだ、神職/故実) G 4 4 8 8
斎垣内(さいえんない→いわいのかきつ) → 直廬(なおり・岡おか、神職/国学/歌人) O 3 2 0 8
柴垣内(さいえんない) → 稍隆(すえたか・森野もりの、農業/国学/歌) J 2 3 3 1
西塙(さいお) → 西塙(さいお・福井ふくい、俳人) H 2 4 4 7
- G2055 才翁(さいおう;道号・総藝そうげい;法諱)?-1560 曹洞僧:幼時出家/諸師歴参、越前心月寺大室総芳門、大室の嗣法/のち越前心月寺住持、檀越の招請で信州長興寺開山/野と総持寺住持、「禅宗無門閔抄」「人天眼目抄」著
- 2063 西鶯(さいおう) ? - ? 浮世草子作者、1705「御前独狂言」
- 西翁(さいおう) → 宗因(そういん・西山、俳人) 2 5 0 3
西翁(さいおう・西川) → 祐信(すけのぶ・西川にしかわ、絵師/絵本) C 2 3 7 4
哉翁(さいおう・平尾) → 数也(すうや・平尾ひらお、藩茶道方茶人) F 2 3 3 2
菜翁(さいおう) → 巢兆(そうちやう・建部、俳人) 2 5 1 7
塞翁斎(さいおうさい) → 焉馬(えんば・初世烏亭、落語/戯作) B 1 3 3 3
再応主(さいおうしゅ) → 羅江(らこう・中嶋なかじま/源、俳人) B 4 8 3 2
- Q2018 賽王丸(さいおうまる) ? - ? 鎌倉期;京の牛飼、太秦殿に属し天皇家御用、[駿牛絵詞]入、徒然草114段;西園寺公相(今出川大殿)の有栖川渡河の際の逸話あり、公経(1171-1244)・実氏・公相(1223-67)と西園寺家三代に出仕し信頼された牛飼
- 柴屋軒(さいおくけん) → 宗長(そうちやう、連歌師) 2 5 1 6
- 2064 西音(さいおん;法諱、俗名;平たいら時実、時忠男) 1152-121362 鎌倉期後鳥羽院の西面武士/讃岐守;後鳥羽院配流後出家;浄土僧、1235-38頃五十首歌を隠岐に送る(;古今著聞集入)、勅撰7首;続古今(1925)/新後撰(645)玉(1828)続千(2首)続後拾(915)以下、菟玖波1句入、[昔思ふ涙の雨のはれやらで月のみやこにすむかひもなし](続古今集;異本歌1925)
- 蔡温(さいおん) → 温(おん・蔡さい、琉球三司官/農政家) C 1 4 2 4

- 西園齋米都(さいおんさいべいと)→ 米都(べいと・鈴木すずき、俳人/歌/狂歌) 2 7 7 4
 西園寺内大臣女(さいおんじないだいじんのむすめ)→ 実衡女(さねひらのむすめ・西園寺/歌人) D 2 0 5 3
 西園寺入道太政大臣(さいおんじにゅうどうのだいじょうだいじん)→ 公経(きんつね・西園寺、歌人) E 1 6 3 5
- 2065 **西花**(さいか・松井まつい) ? - ? 江前期俳人:宗因・西鶴門、1678西鶴「物種集」入、
 1679「西鶴五百韻」「飛梅千句」入、
 [小哥などうたふはかへつて高念仏](物種集/前句;報むくひ思へば遊山もやめて、
 謡曲「善知鳥うとう」;逃げんとすれど立ち得ぬは羽抜鳥の報か善知鳥は却て鷹となり)
 [一の宮酒天童子が花農山](五百韻;何秤百韻;天秤/酒天童子;ここは大酒呑み)
- G2029 **彩霞**(さいか・杉江すぎえ) ? - ? 近江日野の俳人、1689言水「前後園」90言水「新撰都曲」4句入、
 1690島順水「俳諧破曉集」入、
 [涼しさや蛙かはつ追ひゆく夏の雨](都曲;上154)
- 2066 **樺柯**(さいか・松本まつもと、名;守雌) 1785-1840⁵⁶ 江戸の医者;鈴木暘谷門/本草学に精通、
 俳人;山岸秋良門;東杵庵2世を名告る/のち雪門を離れる、1821「俳諧四季発句集」編、
 1827「俳諧多識編」28「猿蓑さがし」29「霞袋」39「繕生堂葉疏」著、「東杵庵評連月句合」評、
 [樺柯(;号)の字/別号]字;天谿、別号;樺柯坊/空然/紫花園/東杵庵とうしょあん2世
- G2056 **彩霞**(さいか・赤城あかぎ、名;世謙) 1805-48⁴⁴ 紀伊の儒者;和歌山藩に出仕、
 「紀伊続風土記」編纂に参加、「大学定説」「王肅註家語後案」著、
 [彩霞(;号)の字/通称]字;士光、通称;総太郎
- 再可(さいか・藤田) → 知恒(ともつね・藤田ふじた/尾崎、国学) W 3 1 2 5
 蔡華(さいか/さいげ;号) → 玄雄(げんゆう;法諱・蔡華、真宗僧) M 1 8 6 6
 蔡華(さいか/さいげ;号) → 大魯(だいろ;法諱、真宗本願寺派僧) L 2 6 3 6
 蔡華(さいか/さいげ;号) → 不及(ふきゆう;法諱、真宗本願寺派僧) B 3 8 4 0
 菜窠(さいか・津田/田) → 養(よう・津田つだ/修姓;田、医者/俳人) 4 7 5 3
- G2030 **宰賀**(さいが) ? - ? 大阪俳、1691賀子「蓮実」4句入、
 [船借りて渡れば遠き柳哉](蓮実;157)
- 2067 **再賀**(初世さいが・守り、別号;春来軒/一口仙) 1692-1764⁷³ 江戸の俳人、其角座点者、
 1745湖十「江戸廿歌仙」独吟歌仙入、54竹翁「俳諧童の的」点句入
- G2057 **再賀**(2世さいが・芝しば/初姓;小倉おぐら)?-? 江後期江戸の俳人:3世平沙門、1807「年の寿」編、
 [再賀2世(;号)の別号]一滴仙/春来軒/回春庵
- 西河(さいが・渡辺) → 一(かず・渡辺、藩士/和算家) C 1 5 1 4
 在夏(さいが・菅原) → 在夏(あいなつ・菅原、廷臣/歌人) C 1 0 9 2
 在夏(さいが/あいなつ・唐橋からはし) → 顕覚(けんかく;法諱、廷臣/僧/歌) I 1 8 1 8
 崔下庵(さいかあん) → 沾涼(せんりょう、菊岡、俳人) 2 4 4 5
- 2068 **西海**(さいかい・無心坊・釈、俗姓;中村)?-? 江前期豊後の人/筑前志賀島に住;鍛冶職人、
 出家し大阪住;俳人:宗因・西鶴門、「大硯」編(1679刊)、1678惟中「次郎五百韻」入、
 1678西鶴「物種集」入/1682風黒「高名集」入、
 [靱の白秋の寐覚めの時雨哉](高名集/靱摺り作業は夜;徹夜し暁に至る;外は時雨)
- 西海(さいかい;号) → 聞哲(もんてつ;法諱・西海、僧/歌人) I 4 4 3 2
 才介(さいかい・股野) → 玉川(ぎょくせん・股野またの、藩士/儒/詩) I 1 6 8 6
 西涯(さいがい・近藤) → 西涯(さいがい・近藤、藩儒者/音韻学) 2 4 8 7
 西涯(さいがい) → 得芝(とくし・松田まつだ、農業/俳人) K 3 1 8 3
 西涯(さいがい・頼) → 支峯(しほう・頼らい、名;復、漢学者) F 2 1 7 0
 西海一狂生(さいかいいちきやうせい) → 晋作(しんさく・高杉、藩士/勤王家) E 2 2 3 1
 西海の蘭阜(さいかいのらんこう、「難波土産」序) → 貞成(さだなり・三木) F 2 0 4 1
- 2001 **西鶴**(さいかく・井原いはら、本姓;平山/井原は母方の姓?) 1642-93^{52歳} 大阪の町人/諸国遍歴、
 俳人;はじめ貞門俳諧・のち西山宗因門/阿蘭陀流と称す;1677以後矢数俳諧で有名、
 1682以後浮世草子を著述;欲望を焦点に世態人情を描く、
 [俳諧] 1673「生玉万句」75妻追善「独吟一日千句」77「西鶴大句数」81「西鶴大矢数」、
 [長持へ春ぞ暮ゆく衣更ころもがへ](以仙「落花集」;夏/鶴永名)
 [浮世草子] ①好色物; 1682「一代男」「二代男(諸艶大鑑)」86「五人女」「一代女」など

②武家物： 1687「男色大鑑」「武道伝来記」88「武家義理物語」など

③町人物： 1688「日本永代蔵」92「世間胸算用」など

④説話物： 1685「西鶴諸国咄」86「本朝二十不孝」など、

遺稿；1693「西鶴置土産」団水、94「西鶴織留」96「萬の文反古」99「西鶴名残の友」、
[西鶴(；号)の通称/別号]通称；藤五、

別号；鶴永(鶴永)・西鵬・四千翁・二萬翁、二萬堂・松風軒・松壽軒・松魂軒・難波俳林、
法号；松壽軒

N2011 才角(さいかく) ? - ? 江前期俳人；1692不角「千代見草」入
[起請とはさもしや恋の手見せ禁](千代見草/手見せ禁は手見禁；碁・将棋等の禁じ手)
(遊女の私に恋の起請誓紙を書かせるとは手見禁てみきんで卑怯者)

西鶴(二代さいかく) → 団水(だんすい・北条、俳人/浮世草子) 2 6 9 2
西郭(さいかく・工藤) → 艶文(えんぶん・工藤どう、儒者) F 1 3 3 4
賽郭(さいかく・森野) → 藤助(とうすけ・森野もりの、農業/本草家) F 3 1 8 7
最岳(さいかく道号・元良) → 元良(げんりょう；法諱・最岳さいかく；臨濟僧/詩文) E 1 8 6 2
西鶴庵(2世さいかくあん) → 団水(だんすい・北条、俳人/浮世草子) 2 6 9 2
西鶴庵(さいかくあん) → 溪尾(けいび・山田やまだ、俳人) G 1 8 5 8
西角庵(さいかくあん) → 一方(いっぽう・北川、俳人) H 1 1 8 9
三学軒(さいかくけん) → 眞戒(しんかい；法諱・慧定、黄檗僧/詩) N 2 2 6 4

E2088 西郭子(さいかくし、愛梅子)? - ? 京の洒落本作者：
「原柳巷花話しまばらやさものがたり」(宝暦1751-64頃刊)(島原遊女と遣手・客との対話)

在恬定和(さいかつじょうわ) → 道和(どうわ・喝禪かつぜん、黄檗渡来僧) I 3 1 5 2
西郭先生(さいかくせんせい) → 重勝(しげかつ・白井/源/長坂、藩士/儒者) Q 2 1 8 2
蔡華道人(さいかどうじん) → 俊鳳(しゅんほう；字・妙瑞；法諱、浄土僧) L 2 1 8 9
樺柯坊(さいかぼう) → 樺柯(さいか・松本まつもと、医/本草/俳人) 2 0 6 6
西華坊(さいかぼう) → 支考(しこう・各務かがみ/村瀬、俳人) 2 1 1 9
西華門院(さいかもんいん) → 西華門院(さいかもんいん、歌人) H 2 4 8 1

G2059 彩霞楼(さいかろう) ? - ? 江後期名古屋雑俳点者、
1857・58「苗代集」、「狂俳苗代集」編

彩霞楼(さいかろう) → 国丸(くにまる・歌川、絵師) 1 7 9 3

G2060 最寛(さいかん；法諱、藤原親隆男)1131-1210⁸⁰ 平安後期-鎌倉期の真言僧；仁和寺の任覚門、
1116仁和寺観音院で任覚より灌頂を受、宗義；尊実門、仁和寺の別当に就任、
香隆寺・慈尊院に住、貞観寺座主、攝津勝尾山に隠棲、法印、「一二口決」著、宏教の師、
[最寛(；法諱)の別法諱/通称]初法諱；隆任/澄任、通称；三位法印

最恒(さいかん・平沢) → 了伴(りょうばん・古筆こひつ9世/平沢、鑑定家) J 4 9 3 0

C2034 西鳳(さいがん・関土せきど) ? - ? 江前期上方の俳人、
1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、

[花や心親仁の事と吉野山](難波色紙；93/本歌があるか?)

2002 彩巖(さいがん・桂山かつらやま、名；義樹よしたね)1678-1749⁷² 江戸の幕臣、儒；鳳岡門、幕府儒官、
1696近習番/1718評定所儒者/34御書物奉行/49小普請、朱子学を主唱/詞章律詩に長ず、
能書家；草書・隸書、梁田蛻巖・中村蘭林と親交、「八島懷古」「彩巖詩集」「彩巖集」「寓意録」、
「天水筆記」「琉球事略」「東韓事略」「居官拾筆」「学問大旨」「赤体放言」「読書点範」外著多数、
[彩巖(；号)の字/通称/別号]字；君華、通称；三郎左衛門/三郎兵衛、別号；雪汀/天水、
法号；顕性院、先祖は甲斐武田氏の浪人という

西岸(さいがん・森田) → 盛昌(もりまさ・森田、藩士/随筆家) G 4 4 5 1
在寛(さいかん・長井) → 在寛(ありひろ・長井/馬淵、藩士/儒者) F 1 0 7 1
在寛(さいかん・淵) → 景山(けいざん・淵ふち、漢学者) F 1 8 7 2
在寛(さいかん・渡/亙) → 忠秋(ただあき・渡/亙たり/鳥居、歌人) E 2 6 7 8
歳寒堂(さいかんどう・松井) → 竹山(ちくざん・松井/岩間、医者/詩人) D 2 8 0 8

2069 西鬼(さいき・牧野まきの/のち加藤、別号；一得(初号)/鬼翁/元々子)?-? 大坂上町住の俳人；宗因門、
西鶴と交流、1673西鶴「生玉万句」/73西鶴?「哥仙大坂俳諧師」/76宗因「天満千句」入、

1681「俳諧竹林」著、81賀子「山海集」82春林「俳諧百人一句難波色紙」入、「俳諧五徳」参加、
 1682如扶「三ヶ津さんかのつ」入、[いつ聞くもはじめて奇也ほととぎす](哥仙;六番右)、
 [作蔵作介咲くや此の花](俳諧五徳;第一百韻;脇句/作蔵作介は職人たちの通名、
 発句;西翁[宗因];手ならふや難波の二郎太郎月/手習子の書初めの文字)
 [浪人の憂さには紙子もなかりけり](山海集;右16、
 本歌;平家八;世の中の憂さには神もなきものをなに祈るらむ心盡しに)

G2061 **西帰**(さいき・伊東いとう、卯兵衛祐金男)1809-? 加賀藩士、「伊東系図」著、
 [西帰(;名)の通称] 小左衛門/以如

才記(さいき・前田) → 孝弟(たかくに・前田、藩士/文筆家) L 2 6 8 1
 才記(さいき・三浦) → 安輝(やすてる・三浦みうら、藩士/歌) G 4 5 7 8
 斉貴(さいき・松平) → 斉貴(なりたけ/なりたか・松平、藩主/鷹狩) H 3 2 5 1
 斉輝(さいき・池田) → 斉輝(なりてる・池田いけだ、日記) H 3 2 6 8
 斉熙(さいき・毛利) → 斉熙(なりひろ・毛利、藩主/俗謡作) I 3 2 0 7
 斎季(さいき・山口) → 国雄(くにお・山口やまぐち、商家/歌人) E 1 7 5 8
 宰記(さいき・松木) → 範彦(のりひこ・松木/度会、神職) F 3 5 4 6
 宰記(さいき・松木) → 貞俊(さだとし・檜垣/度会/松木、神職) I 2 0 8 6
 宰記(さいき・橋村) → 正河(まさかわ・橋村はしむら/度会、神職/歌) R 4 0 6 2
 宰記(さいき・橋村) → 正並(まさなみ・橋村/度会/中山、正河養子/神職) R 4 0 6 1
 宰記(さいき・宗崎) → 孝臣(たかおみ・宗崎むねさき、藩士/国学) Z 2 5 8 6
 宰記(さいき・山田) → 昌言(まさのぶ・山田やまだ、家司/歌人) T 4 0 4 9
 采義(さいぎ・中川) → 昌房(まさふさ・中川なががわ、読本作者) H 4 0 1 7
 在熙(さいき・唐橋) → 在熙(ありひろ・唐橋/菅原、廷臣/漢学) F 1 0 7 0

G2062 **采菊**(さいきく・小宅おやけ、名;忠)1673-1741⁶⁹ 常陸水戸藩士;1697彰考館入/大日本史編纂参加、
 備者、「采菊詩集」「雲泥唱和集」「采菊随筆」著、
 [采菊(;号)の字/通称/別号]字;子朴/子告、通称;忠次平、

別号;中隠子/女几山/醜鶏老人けいけいろうじん
 採菊(さいきく) → 正路(まさみち・河原かわはら、藩士/記録) H 4 0 4 2
 採菊散人(さいぎくさんじん) → 有人(あるんど・山々亭、人情本/落語) C 1 0 0 6
 才吉(載吉さいきち・金子) → 厚載(あつなり・金子かねこ、藩士/測量/歌) E 1 0 7 9
 才吉(さいきち・伊藤) → 允讓(まさよし・伊藤いとう、陶工/里正) N 4 0 4 0
 才吉郎(さいきちろう・中島) → 重孝(しげたか・中島なかじま、農家/国学/尊攘) Z 2 1 5 5
 罪逆余生(さいぎやくよせい) → 豊信(とよしげ・山内、容堂、藩主/詩歌) R 3 1 1 8

L2022 **西及**(さいきゅう・舟橋ふなばし)? - ? 江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入、
 [奥州の軍いさは花と若衆すき](物種集/前句;あちら向いて九年が間、
 九年が間;達磨の面壁/奥州前九年の合戦あちら向いてに若衆好きを付る)

西丘(さいきゅう) → 乗完(のりさだ・松平、藩主/老中/儒) E 3 5 5 5
 才牛(さいぎゅう;俳名) → 団十郎(初世だんじゅうろう・市川、歌舞伎役/作者) 2 6 8 8
 才牛(さいぎゅう;号) → 団十郎(2世だんじゅうろう・市川、歌舞伎役者) 2 6 8 9
 在久(さいきゅう・森) → 在久(ありひさ・森もり、華道家) F 1 0 6 6
 在久(さいきゅう・唐橋) → 在久(ありひさ・唐橋/菅原、廷臣/漢学) F 1 0 6 7
 在躬(さいきゅう・菅原) → 在躬(ありみ・菅原すがわら、廷臣/漢学者) G 1 0 5 0
 彩牛庵(さいぎゅうあん) → 貞中(さだなか・佐伯、酒造業/俳・歌人) J 2 0 0 3
 西丘老夫(さいきゅうろうふ) → 訥庵(とつあん・陶山すやま、藩士/農政) O 3 1 4 0

G2063 **柴居**(さいきよ・三浦みうら、名;伴蔵)?-1794 江戸の俳人:白雄門、相模大磯住、鳴立庵主、
 「麻よもぎ」著、
 [柴居(;号)の別号]寛眠/春暁庵/暫露庵/栗坊かんぼう/鳴立庵7世

G2064 **祭魚**(さいぎよ・北川きたがわ、梅佃[榎佃/初世枯魚堂]男)?-? 京四条高倉西の俳人;父門/岡本豊彦門、
 1844「伝春集」編、55「夕からす」編、絵を嗜む、
 [祭魚(;号)の字/通称/別号]字;伯祀、通称;万蔵、別号;枯魚堂2世、薫園/神間斎/獺斎だつさい
 柴魚(さいぎよ・岡庭) → 紫魚(しぎよ、柴魚さいぎよ・岡庭おかにわ、神職) Q 2 1 1 9

濟慶(さいきょう;法諱) → 濟慶(さいけい・さいきょう;法諱、三論僧/歌) 2 0 7 3

齊匡(さいきょう・一橋/田安) → 齊匡(なりまさ・田安、画) I 3 2 1 8

- 2003 西行(さいぎょう、俗名;佐藤さとう義清[憲清]のきよ、佐藤康清男) 1118-9073 母;源清経女、武士、歌人、
1135兵衛尉/鳥羽院下北面/大徳寺家隨身、1140(23歳)出家;
東山・鞍馬・嵯峨を経て高野山住、吉野・大峰にも住;諸国行脚(陸奥/中国/四国など)、
蓮花乗院建立に關与/1180伊勢住、1186二見浦百首勸進/大仏砂金勸進に陸奥に行脚、
1187嵯峨に結庵/1190(建久元/73歳);2/16河内弘川寺に没、
「山家集」「山家心中集」「聞書集」「御裳濯川歌合」「宮河歌合」「公談鈔」「西行上人集」著、
勅撰254首;千載(18首69/267以下)新古(最多94首7/27/51以下)新勅(14首)以下(玉57首)、
寂延撰[御裳濯集]53首入/雲葉集入、

[嘆けとて月やは物を思はするかこち顔なるわが涙かな](千載集;恋929)、

[心なき身にもあはれは知られけり鳴立つ沢の秋の夕暮](新古;秋362/三夕の歌)、

[願はくは花のしたにて春死なむそのきさらぎの望月のころ](山家集;上春)、

[西行(;号)の法諱/別号]法諱;円位、別号;大宝房/大法房/大本房、通称;憲清法師

在匡(さいきょう・菅原) → 在匡(ありまさ・菅原、廷臣/歌人) C 1 0 9 4

西峽庵(さいきょうあん) → 沾山(4世せんざん・内田、社麦、俳人) F 2 4 5 4

再形庵(さいぎょうあん) → 元甫(もととし・藤堂とうどう、藩士/地誌家) D 4 4 2 9

西行庵(さいぎょうあん) → 沾耳(せんじ・洗耳せんじ、俳人) F 2 4 7 6

西行堂(さいぎょうどう) → 得芝(とくし・松田、農業/俳人) K 3 1 8 3

砕玉軒(さいぎよくけん) → 淡庵(たんあん・熊沢/南条、藩士/儒/俳人) 2 6 8 7

砕玉軒(さいぎよくけん) → 尹重(これしげ・佐枝/佐岐ささだ、兵法家) E 1 9 2 4

- 2070 西漁子(さいぎよし) ? - ? 江前期播州飾磨の俳人;談林派、1680「俳諧太平記」

在琴(さいきん/ありこと) → 有功(ありこと・千草、廷臣/歌人) B 1 0 6 8

- G2065 西吟(さいぎん;法諱、俗姓;村上、永照寺西秀男) 1605-6359 豊前小倉の真宗本願寺派永照寺住職、
宗学;紀州性応寺了尊門/のち参禅/再び了尊門/1647本願寺学寮初代能化に就任;教育、
一時帰郷/1652上洛し講説;53月感に非難され[西吟月感諍論]がとなる;幕府の裁定、
帰京し所化の指導、門弟に知空・性海ら多数、1653「破邪問答」55「客照問答集」著、
「法門争論」「略要鈔」「普門品鈔」「無量寿経私考」「無量寿経顕宗疏」「四教儀最要鈔」著、
[西吟(;法諱)の別法諱/諡号]別法諱;照黙、諡号;成規院

- 2071 西吟(さいぎん・水田みづた、名;元清)?-1709(70余歳) 摂津巖屋の生、伊丹城主家臣水田和兵衛の4世、
1648頃大阪に出る/大坂談林の俳人;西山宗因・井原西鶴門、
西鶴興行の俳諧執筆を務める、西鶴の好色一代男の版下を書く、
1677大坂生玉本覚寺で興行の[西鶴大句数おおくず]独吟千六百句の執筆しゅひつ、
(執筆は水田西吟・青木友浄の2人/指合見さしあみは児玉菊砌・桑門順座)、
1678西鶴「物種集」入、

1681「鬼の目」/86「庵桜いおざくら」編/87「難波桜」「寝覚廿日」/88「やよひ山」92「菜の花」編、

1704「宇津不之曾女」編、「西吟ざくら」「西吟引付」「外海集」「三つ物揃」「塩味集」著、

「橋柱はしばら集」「俳諧ほのほの草」「俳諧大意」著/「まんざいらく」評、

在阪30年;1678豊島郡桜塚に移住隠棲;1709(宝永6)没、

[夢かれて初秋はつき犬の遠音とほ哉](庵桜/夜半夢の途絶えから涼しさを感じる)、

[西吟(;号)の通称/別号]通称;庄左衛門、別号;桜山子/落月庵/岡松軒

裁錦楼(さいきんろう) → 正精(まさきよ・阿部あべ、藩主/書画/歌) L 4 0 5 9

斎宮(さいぐう・松平) → 忠雅(ただまさ・松平まつだいら、藩主/詩人) Q 2 6 8 0

斎宮(さいぐう・伊藤) → 萃野(しんや・伊藤いとう、儒者) 2 2 8 2

斎宮(さいぐう・中村) → 乗高(のりたか・中村、神職/文筆家) E 3 5 8 4

斎宮(さいぐう・藤) → 斉長(まさなが・藤とう、神職/藩士) F 4 0 3 1

斎宮(さいぐう・前田) → 知頼(ともより・前田まえだ、城代/記録) R 3 1 0 2

斎宮(さいぐう・山田) → 吉連(よしつら・山田やまだ、神職) E 4 7 7 6

斎宮(さいぐう・河野) → 界浦(かいほ・河野、儒者;音韻学) H 1 5 2 0

斎宮(さいぐう・比喜多) → 松斎(しょうさい・比喜多ひきた、茶人) I 2 2 9 7

齋宮(さいぐう・市川)	→ 兼恭(かねたか/かねのり・市川、医者/洋学)	O 1 5 5 9
齋宮(さいぐう・戸田)	→ 旭山(ぎよくざん・戸田とだ、医者/本草家)	O 1 6 9 6
齋宮(さいぐう・船曳)	→ 大滋(おおしげ・船曳ふなぶき、国学/歌人)	E 1 4 1 1
齋宮(さいぐう・古山)	→ 藍田(らんでん・古山ふるやま・こやま、医者)	D 4 8 0 6
齋宮(さいぐう・森)	→ 貞温(さだはる・森もり、神職/国学)	N 2 0 2 6
齋宮(さいぐう・中垣)	→ 謙斎(けんさい・中垣なかがき、藩士/儒者)	I 1 8 9 7
齋宮(さいぐう・松浦)	→ 篤所(とくしよ・松浦まつうら、儒者)	K 3 1 9 4
齋宮(さいぐう・松下)	→ 圃丈(ほじょう・松下まつした、医者/俳人)	E 3 9 2 8
齋宮(さいぐう・佐藤)	→ 久顕(ひさあき・佐藤/藤原、神道家)	3 7 8 1
齋宮(さいぐう・小野)	→ 高潔(たかきよ・小野おの、幕臣/国学者)	C 2 6 6 9
齋宮(さいぐう・山田)	→ 吉風(よしかぜ・山田/大江、神職/国学/歌)	C 4 7 6 0
齋宮(さいぐう・水野)	→ 忠之(ただゆき・水野、藩主/老中/享保改革)	R 2 6 1 3
齋宮(さいぐう・井出)	→ 道貞(みちさだ・井出いで、神職/史家)	L 4 1 1 6
齋宮(さいぐう・島川)	→ 秀尹(ひでただ・島川しまかわ、藩士/国学)	J 3 7 7 9
齋宮(さいぐう・野沢)	→ 昌樹(まさき・野沢/村瀬/山県、与力/詩歌)	C 4 0 2 2
齋宮(さいぐう・石場)	→ 高門(たかかど・石場いしば/藤原、幕臣/蝦夷調査)	U 2 6 3 4
齋宮(さいぐう・大藪)	→ 延親(のぶちか・大藪おおやぶ/香川、神職/国学)	H 3 5 7 5
齋宮(さいぐう・奥野)	→ 靖之(やすゆき・奥野おくの、宮家家臣/歌)	F 4 5 6 1
齋宮(さいぐう・柿沼)	→ 雅雄(まさお・柿沼かきぬま/河内/源、神職)	O 4 0 7 8
齋宮(さいぐう・山根)	→ 清平(きよひら・山根やまね、神職/国学)	V 1 6 5 7
齋宮(さいぐう・森)	→ 元温(もとあはる・森もり/志貴、神職/尊攘)	L 4 4 7 1
齋宮(さいぐう・宮田)	→ 篤親(あつちか・宮田みやた/島崎、神道/国学)	L 1 0 6 0
齋宮甲斐(さいぐうのかい)	→ 甲斐 ⑤(かい、前齋宮甲斐)	E 1 5 2 7
齋宮頭(さいぐうのかみ・齋藤)	→ 徳元(とくげん・齋藤、武将/俳人)	K 3 1 6 5

- 2072 齋宮内侍(さいぐうのないし) ? - ? 平安前期醍醐天皇皇女雅子内親王の女房、
934中宮穩子五十賀の屏風歌を出詠、勅撰2首;拾遺集(47/275)、
[春の田を人にまかせて我はたゞ花に心をつくる頃哉](拾遺;春47/中宮五十賀屏風歌)
- 2004 齋宮女御(さいぐうのによご、重明親王女しげあきらしんのうのむすめ) 929-985 57 母;藤原忠平女の寛子、
936齋宮に卜定/938伊勢下向/939母死去のため一時帰京/945退下、
948村上天皇に入内/949女御;規子内親王出産/962皇子出産;即日夭死、967天皇没、
975規子内親王が齋宮に卜定;977伊勢に同行、
984円融天皇讓位で齋宮を退下した規子内親王と帰京;落飾、
歌人;955「徽子女王歌合」959「徽子女王前裁合」主催、家集「齋宮女御集」、三十六歌仙の1、
玉葉集歌人重明親王女の異母姉、菟玖波;2句/御裳濯4首/続詞花集3首入、
勅撰44首;拾遺(5首451/452/485以下)後拾(7首153/319以下)新古今(12首325/348以下)、
続後撰(1209)続古(3首)玉葉(10首)続千(1110)続後拾(851)新続古(1593)、
[琴の音ねに峰の松風通ふらしいづれのをより調べそめけん](拾遺;雑451)、
(規子内親王齋宮下向前976野宮入;庚申待ちの夜の歌/[を]は琴の緒と山の尾)、
[村上の帝かくれ給ひにける御忌のほどにれいならぬこと侍りてよみ侍りける、
おくれてもこえけるものをしでの山先立つことを何うらみけむ](続詞花;哀傷415)、
[齋宮女御(;通称)の名/別称]名;徽子女王きしによご、別称;承香殿女御じょうきょうでんのによご、
齋宮内親王(さいぐうのみこ/後撰)→柔子内親王(じゅうしなしいしんのう、宇多皇女) H 2 1 6 0
- 蔡華(さいげ;号) → 玄雄(げんゆう;法諱・蔡華、真宗僧) M 1 8 6 6
- 蔡華(さいげ;号) → 大魯(だいろ;法諱、真宗本願寺派僧) L 2 6 3 6
- 2073 濟慶(さいけい・さいきょう;法諱、藤原有国男) 985-1047 63 東大寺三論僧;澄心門、
東大寺東南院院主、1025東大寺権別当/1033東大寺第16代別当/35律師、
1037興福寺領との間で水相論が起き別当を辞任、広業・資業と兄弟、
歌人:玄々集入(齋慶法師名/詞花集287と同歌)、金葉Ⅲ197、勅撰;詞花287、
[思ひいでもなくてやわが身やみなましをばすて山の月見ざりせば](詞花;雑287、
やみなましは命尽きていただろうかの意、もし姨捨山の月を見ていなかったなら、

(本歌;我が心慰めかねつ更級やをばすて山に照る月を見て)(古今読人しらず)

Q2007 **最慶**(さいけい・さいきょう;法諱、)?- ? 平安後期;僧/僧都、歌人;1165成立[続詞花集]入、
[身の程もしられぬ物は秋の夜の月にながむる心なりけり](続詞花;秋195)

際契(さいけい;法諱・黙岩)→ 黙岩(黙巖もくがん;道号・際契、黄檗僧) 4 4 7 5
濟継(さいけい・姉小路) → 濟継(なりつぐ・姉小路あねがこうじ、歌人) H 3 2 6 2
濟卿(さいけい・水原) → 三折(さんせつ・水原/最上、医者) M 2 0 5 5
齊敬(さいけい・二条) → 齊敬(なりたか・二条、摂政/公武合体派) H 3 2 4 9
采蕙(さいけい・田中) → 雁宕(がんとう・田中/田、儒者/詩人) R 1 5 5 8
采卿(さいけい・作並) → 鳳泉(ほうせん・作並さくなみ、藩儒者) F 3 9 3 5
最恵(さいけい) → 承仁法親王(しょうにんほつしんのう、天台座主/歌) B 2 2 1 2
歳計堂(さいけいどう) → 況斎(きょうさい・岡本、儒/国学者) I 1 6 7 9
西月(さいげつ・山口) → 剛斎(こうさい/ごうさい・山口、藩儒者) B 1 9 1 5
霽月堂(さいげつどう) → 丈竹(じょうちく、霽月堂せいげつどう、本草家) K 2 2 8 4
齊賢(さいけん) → 齊賢(せいけん、漢学/翻訳) E 2 4 6 8
西軒(さいけん) → 行憲(ゆきのり・明石、文筆/歌人) F 4 6 3 0
西軒(さいけん・加倉井) → 砂山(さざん・加倉井かくらい、儒者/教育) B 2 0 6 1
細軒(さいけん・山田) → 昌言(まさのぶ・山田やまだ、家司/歌人) T 4 0 4 9
齊賢(さいけん・藤) → 仲郷(なかさと・藤とう、神職/古蹟研究) D 3 2 7 3

G2066 **才玄**(さいげん、別号;大玄) 1762-1829 68 阿波那賀郡那賀川町今津の真宗本願寺派の信行寺住職、
儒・詩;島津華山門、「讚遊詩集」「東林庵集」著

最巖(さいげん;法諱) → 最巖(さいごん;法諱、天台僧/歌人) 2 0 7 7

2074 **西虎**(さいこ・木村きむら) ? - ? 江前期上方の俳人;西鶴門、1678西鶴「物種集」入、
1679西鶴「飛梅千句」/1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、
[影暗き月の鼠をとらへたか](飛梅千句;第二第七句/月の鼠は月日の過ぎゆく譬え、
前句;西尹/戸を聊爾りようじには明ぼのの霧/聊爾;かりそめ)
(月の鼠;大集経・賓頭盧説法経;人が象に追われたので木の根を伝って野中の井戸に隠れ、
井戸の周りの四匹の毒蛇が噛みつこうとし、木の根を黒白二匹の鼠が交互に噛ろうとす、
象は無常・鼠は月日・毒蛇は四大[地・水・火・風]に譬える)

[惜しい哉下戸心なく花のつい](難波色紙;70/花の終つひとつちよつとを掛るか)

西湖(さいこ) → 悦岩(悦巖えつがん・東念、臨濟僧/詩) F 1 3 5 2
西湖(さいこ・藤井) → 素月(そげつ・藤井ふじい、華道家/俳人) D 2 5 6 7
齊護(さいご・細川) → 齊護(なりもり・細川ほそかわ、藩主/歌) I 3 2 3 5
在五(さいご) → 業平(なりひら・在原ありわら、廷臣/歌人) 3 2 2 8

F2075 **西光**(さいこう;法諱、俗姓;藤原/名;師光もろみつ)?-1177 平安後期廷臣;

藤原通憲(信西1106-59)の乳母子/通憲の家臣、平治乱後主の死を悼み出家、
1177後白河法皇の旨を奉じ藤原成親らと鹿谷に密会;平氏討伐を謀る;露見し刑死、
続千載集歌人の藤原師光と同一か?

→ 師光(もろみつ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) H 4 4 9 8

K2037 **崔高**(さいこう・石塚いしか) ? - ? 薩摩の儒者、
琉球で楊文鳳と筆談(文鳳「琉館必譚」入)

G2067 **西臯**(さいこう/せいこう・多々羅たたら、名;弼) 1782-1838 57 加賀金沢の詩人/町年寄、

居所を四宜園と称す、詩賦に長ず、「四宜園詩藁」「凌雲館集」著、
[西臯(;号)の通称/別号]通称;宗右衛門/韓弼(;先祖は韓氏)、別号;夢鶴/摩呵散人

2075 **細香**(さいこう・江馬えま、名;梶お/多保、江馬蘭斎の女) 1787-1861 75 美濃大垣の女流絵師;僧玉湊門、
のち浦上春琴門、詩;山本北山門/のち頼山陽門、梁川星巖・村瀬藤城らと白鷗社を結成、
藩老小原鉄心と交流;藩政の諮問に与あがる、「山陽先生朱批細香女史詩稿」著、
「江馬細香より林棕林宛書状」著、「湘夢遺稿」(;山陽への慕情)、

[細香(;字)の別字べつのおざな/通称/号]別字;緑玉、通称;琦々/梶々じょうじょう、号;湘夢/箕山、

G2068 **西江**(さいこう・清流亭せいりゅうてい)?-1866 江戸日本橋の茶舗山本山主人山本嘉兵衛の妻、
狂歌:「狂歌茶器財画像集」著(:夫の名に仮託して刊行)

西江(さいこう) → 藤樹(とうじゅ・中江、儒;陽明学) 3 1 1 6
 西郊(さいこう:号) → 覚瑛(かくえい;法諱・道彦、真宗僧/詩歌) J 1 5 5 5
 西巷(さいこう) → 野巢(やそう・小林こばやし、藩士/俳人) D 4 5 6 6
 斉恒(さいこう・松平) → 斉恒(なりつね・松平、藩主/茶/俳) H 3 2 6 4
 斉広(さいこう・毛利) → 斉広(なりとお・毛利、藩主/文筆) H 3 2 7 1
 斉広(さいこう・前田) → 斉広(なりなが・前田まえた、藩主/謡曲) H 3 2 8 8
 最恒(さいこう・平沢/古筆) → 了伴(りょうばん・古筆こひつ、鑑定家) J 4 9 3 0
 崔高(さいこう・石塚) → 確齋(かくさい・石塚いしづか、儒者/地理) H 1 5 2 6

E2090 在高(さいこう・桂井かつらい) ? - 1765 大阪の医者、狂詩文・戯作に長ず、歌舞伎狂言作者、
 1748「建囊けんこう余話」/59滑稽本「滑稽雌黄」/61「古文鉄砲前後集」著、
 1762「青楼叢書」「咸跖酔裡」著、

[在高(;名)の通称/号]通称;蒼八、号;酒人、当世痴人伝(1795刊)に[葛井蒼八]とある

在高(さいこう・菅原) → 在高(ありたか・菅原、廷臣/漢学/詩) B 1 0 7 4
 在光(さいこう・唐橋) → 在光(ありてる・唐橋/菅原、廷臣/漢学) F 1 0 8 5
 在康(さいこう)すべて → 在康(ありやす)
 在綱(さいこう・長坂) → 在綱(ありつな・長坂ながさか、藩士/歌) G 1 0 5 6
 在綱(さいこう・逸見) → 在綱(ありつな・逸見へんみ、医者/勤王派) F 1 0 4 4
 在豪(さいこう・小岩) → 在豪(ありひで・小岩/宇多川、郷土地誌) F 1 0 6 9
 西向庵(さいこうあん) → 春帳子(しゅんちやうし、仏教説話) K 2 1 2 9
 西向庵(さいこうあん) → 好阿(こうあ・静観房じやうかんぼう、談義本) 1 9 6 3
 西向庵(さいこうあん) → 春帳(しゅんちやう・西向庵、読本作者) K 2 1 2 9
 在耕庵(さいこうあん) → 杉風(さんぷう・杉山、俳人) 2 0 5 6
 細香軒(さいこうけん) → 香軒(こうけん・鳥山とりやま、詩人) G 1 9 2 6
 西江堂(さいこうどう) → 殿峰(でんぽう・広江ひろえ、商家/詩/篆刻) E 3 0 3 0

2076 西国(さいこく・中村なかむら、久七2男) 1647-95 49 豊後日田郡豆田下町の富商の家の生、俳人:西鶴門、
 1677「俳諧之口伝」の伝受;1678西鶴・由平と「胴骨どうほね」三吟三百韻を興行、
 1678上方で俳書を出版、1691江戸住/92剃髪;ト幽と号す;江戸俳人と交流、
 書画などにも堪能、1678「俳諧胴骨」編(西鶴序)、1679「見花数寄」編、
 1680「雲喰ひ」84「俳諧引導集」著、「相腹中」「千本鐘」「西海の記」「江戸日記」著、
 1682風黒「高名集」入、

[めげてのく枕は秋のしるし哉](高名集;秋の乾燥で箱枕がくだけてしまう)、

[西国(;号)の通称/別号]通称;島屋庄兵衛/勝兵衛、別号;ト幽(;剃髪号)/松葉軒/落安舎、
 法号;大円ト幽鏡智

西谷(さいこく・滝山) → 大準(ひろのり・滝山たきやま、国学者) K 3 7 1 5
 細谷亭(さいこくてい) → 高久(たかひさ・藤井ふじい/藤原、神職/歌) H 2 6 9 8
 在五中将(さいごちやうじやう) → 業平(なりひら・在原ありわら、廷臣/歌人) 3 2 2 8
 西湖亭(さいこくてい) → 不届(ふけい・立羽たちば、俳人) B 3 8 7 4
 才五郎(さいごろう・宮永) → 大倉(たいそう・宮永、漢学者) K 2 6 5 5

2077 最巖(さいごん;法諱、越中守藤原雅弘男) ?-? 平安後期;比叡山阿闍梨/1142法橋、
 歌人;後葉集入、詞花集253(後葉集380)、

[御狩野みかりののしぼしのこひはさもあらばあれ背そりはてぬるか矢形尾やかたをの鷹]、
 (詞花;恋253/親に同道して他国に行った愛する稚児に贈る歌/木居と恋の掛詞)

菜根子(さいこんし・三宅) → 宗春(そうしゅん・三宅みやげ、俳人) B 2 5 9 7
 才佐(さいさ・榎田/大田) → 錦城(きんじやう・大田おた、儒者/詩文) 1 6 6 2
 晒斎(さいさい・橋爪) → 盛道(もりみち・橋爪はしづめ、藩士/儒者) G 4 4 6 0
 歳々庵(さいさいあん) → 忠昭(ただあき・葛上くずがみ、藩家老/地誌) P 2 6 0 8
 采々堂(さいさいどう) → 杏壇(きやうだん・采々堂、俳人) O 1 6 2 9
 才左衛門(さいざえもん・寺村) → 成樹(しげき・寺村てらむら、藩士/歌文) Q 2 1 8 9

E2091 左伊座散人(さいざさんじん) ? - ? 本名不祥/洒落本作者、

1777「浄瑠璃稽古風流」著(江戸川島丈介刊)

- 才三郎(さいさぶろう・平沢) → 了彦(りょうおん・古筆こひつ/6世、平沢、鑑定家) G 4 9 6 2
才三郎(さいさぶろう・臼井) → 房輝(ふさてる・臼井うすい、幕臣/歌人) C 3 8 1 9
才三郎(さいさぶろう・武笠) → 宣予(のぶやす・武笠たけがき、藩士/歌人) J 3 5 0 4
在三郎(さいさぶろう・西) → 鼓岳(こがく・西にし、儒者) F 1 9 4 9
- G2069 柴山(さいざん・清水しみず、名;青朗/永昌)?-? 江後期天保1830-44頃江戸橋町の和算家、
「算法開立方術」著、別号;洋装
碎山(さいざん・足立) → 櫛亭(くさてい・足立あだち/江沢、蘭学者) 5 1 8 0
- G2070 在山(さいざん;道号・素璫そせん;法諱)?-1384 京の臨濟僧:万寿寺住持の岩窓仍海門;法嗣、
東福寺49世、「在山和尚語録」「東福法堂再興化縁疏」著
濟之(さい・五十川) → 霍阜(かくこう・五十川いかわ、儒者) H 1 5 2 5
濟子(さいし/なりこ・姉小路あねがこうじ) → 卿内侍(きょうのないし・姉小路基綱女/歌) C 1 6 8 2
濟志(さい・成田) → 明遠(あきとお・成田なりた、藩士/儒/詩歌) I 1 0 1 8
裁之(さい・長井/永井) → 裁之(たつゆき・長井/永井、藩士/国学) G 2 6 2 8
裁之(さい・武田) → 成章(しげあや・武田たけだ、幕臣/兵学者) Q 2 1 5 7
- 2078 西似(さいじ) ? - ? 大阪の談林俳人・宗因門、1676「天満千句」入
2079 西治(さいじ、杉村) ? - ? 伊勢山田の俳人;西鶴門、1679「二葉集」編
- G2071 齋治(才二さいじ・並木なみき)?- ? 江中期大阪の歌舞伎作者:豊竹応律らと合作、
1765「内助手柄淵」「しきしま操軍記」/67「星兜弓勢鑑」著、
壕越齋治と同一? → 齋治(才二さいじ・壕越、歌舞伎作者) G 2 0 7 1
- E2093 菜次(さいじ・市塚いちづか) ? - ? 歌舞伎作者:1788治助「傾城吾婦鑑」番付
- G2072 才二(さいじ・松田まつだ) ? - ? 江中期明和1764-72頃大阪の浄瑠璃作者、
近松半二の助作者、1769「振袖天神記」「近江源氏先陣館」、70「萩大名傾城敵討」、
松田ぼくのの前名か? → ぼく(松田、和吉2世、雑俳/洒落本、浄瑠璃作) C 3 6 4 9
齊時(さいじ・北条) → 齊時(としとき・北条、武将/歌人) N 3 1 0 0
齋治(さいじ・田結荘) → 千里(ちさと・田結荘たゆいのしょう/但馬、蘭学/砲術) B 2 8 9 6
齋治(さいじ・壕越) → 齋治(さいじ・壕越ほりこし、歌舞伎作者) B 2 4 9 0
齋次(さいじ・平井/服部) → 聴雪(ちようせつ・平井/服部/平、儒/詩) J 2 8 2 5
才次(さいじ・中川) → 清之(きよゆき・中川なががわ、国学者) U 1 6 9 1
才治(さいじ・賀藤) → 月篷(げつぼう・賀藤かとう、藩士/文筆家) H 1 8 3 8
才治(さいじ・三宅) → 春楼(しゅんろう・三宅みやげ、儒者) P 2 1 5 5
濟時(さいじ・藤原) → 濟時(なりとき・藤原、廷臣/歌人) H 3 2 7 2
- E2092 在止(さいじ・加藤かとう) 1690- ? 江戸牛込若宮辺の談義本作者、
1774「太平国恩俚譚」「太平国恩俚談初編」著
在子(さいじ・源) → 承明門院(しょうめいもんいん、後鳥羽天皇妃) B 2 2 6 8
在子(さいじ・一橋) → 在子(ますこ・一橋ひとつばし、治済の妻/書) I 4 0 9 9
在次(さいじ) → 滋春(しげはる・在原、歌人) C 2 1 8 5
在治(さいじ・唐橋) → 在治(ありはる・唐橋/菅原、廷臣/漢学) F 1 0 6 3
- 2080 在色(さいしき・野口のぐち、名;利直としなお、関せき利長男) 1643-1719 77 遠江豊田郡草崎の生、
母方の伯父野口甚九郎直勝の養嗣子;遠州の材木商・廻米業を継嗣、1661江戸下向、
俳人;同業の新井忠知門;田代松意らと江戸談林の一派を成す/1674大阪の西山宗因門、
1675江戸の松意中心の「談林十百韻」に参加、1679-90信州上伊那の箕輪みわ木下に移住;
伊那に俳諧広める、晩年帰郷し隠退、1671蝶々子「俳諧当世いまよう男」78言水「江戸新道」入、
1685「悲母追悼」96「やぶれ床」/1714「暁眠記」18「俳諧解脱抄」著、
[雪隠せつちんへゆくかと思れば螢かな](俳諧解脱抄)、
[在色(;号)の通称/別号]通称;甚八郎、別号;市喧堂しけんどう/長松堂箕形ちやうしょうどうきけい、
法号;長松堂箕形居士
在侍従(さいじじゅう) → 滋春(しげはる・在原、歌人) C 2 1 8 5
才七(さいしち・箕浦) → 耕雨(こうう・箕浦みのうら、藩士/儒者) G 1 9 6 4
犀七郎(さいしちろう・立花/黒田) → 増熊(ますくま・黒田/立花、藩家老/歌) I 4 0 9 7

- E2094 **西室**(さいしつ) ? - ? 平安期:1000頃了「和泉往来」(:往来物の最古)
 2 説 → 興胤(こういん、高野山法印) 説 1 9 7 1
 → 雅真(まさざね、和泉の講師) 説
 在次君(さいじのきみ) → 滋春(しげはる・在原、歌、業平男) C 2 1 8 5
西寂(さいじやく;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;僧/法師/歌人、
 1233刊[御裳濯集]入、
 [われのみとなくやよすがらきりぎりす誰かは秋あはれと思はぬ](御裳濯集;秋466)
 柴若(さいじやく・岩井) → 半四郎(7世はんしろう・岩井、歌舞伎役者) I 3 6 0 6
- E2095 **最守**(さいしゅ;法諱、関白藤原基房13男) 1213-56⁴⁴ 天台僧;1224尊性親王に入室/戒を円基に受、
 1239十楽院門跡/のち道覚親王門;1247西塔院主/52青蓮院門跡/大僧正、55北山に退隱、
 道玄に授法、連歌;菟玖波集;1句入、
 [心にはいつも澄ける月なれど](菟玖波;八釈教628/前句;悟りの後そ闇ははれぬる)、
 [最守(;法諱)の法号/通称]法号;十楽院、通称;北山僧正
 載守(さいしゅ・竹田) → 載守(としもり/ときもり・竹田/武田たけだ、商家/歌) V 3 1 6 8
 在樹(さいじゅ) → 利保(としやす・前田、藩主、歌/本草) O 3 1 0 1
 最樹院(さいじゅいん;法号) → 治済(はるさだ・一橋、歌人) G 3 6 3 5
- E2096 **柴舟**(さいしゅう) ? - ? 俳人・以仙門/談林派、
 1677以仙「難波千句」・友雪「桜千句」入
- H2030 **西舟**(さいしゅう・山川やまかわ) ? - ? 江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入、
 [鈍太郎殿の両の手車](物種集/前句;此このほどは三人一所に口舌して、
 狂言「鈍太郎」;これは誰が手車々々 鈍太郎殿の手車々々)
 齊脩(齊修さいしゅう・徳川/松平) → 齊脩(なりのぶ・徳川、藩主/雅楽/詩) H 3 2 9 6
 済洲(さいしゅう・山根) → 済洲(せいしゅう・山根やまね、藩士/儒者) B 2 4 9 8
 済衆(さいしゅう・横沢) → 兵庫(ひょうご・横沢よこざわ/柴内、家老/画) F 3 7 2 3
 載周(さいしゅう・武田) → 載周(としちか・武田けけだ、郷土史家) J 3 1 2 9
- 2081 **西住**(さいじゅう;法諱、俗名;源季政すえまさ、源季貞の養子) ?-? 廷臣;左兵衛尉?、平治乱後出家;
 真言僧、醍醐寺理性因開祖の賢覚門;蓮華因住/のち西行の同行者、
 歌人;1146-47顕輔歌合参加、後葉集1首(502)入、
 勅撰;千載集(4首;463/493/753/1140)、菟玖波集1句入、入寂時に西行・寂然の哀傷歌あり、
 [駒のあととはかつふる雪にうづもてれおくるゝ人や道まどふらん](千載;冬463/行路雪)、
 (韓非子の管仲の故事[老馬は雪中でも道を知る]を踏まえる)
- 2082 **西戎**(さいじゅう・池山いけやま) ? - ? 江前期大阪の談林派俳人、
 1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、1683西鶴「精進膾」入、
 [雪の富士や都にのぼる丸合羽](難波色紙;72/道中用の袖無し裾広の丸合羽に似る)
- G2073 **西洲**(さいしゅう・川口かわぐち、名;愷) 1733-1815⁸³ 備後三原の酒造業、儒者;芥川丹丘門、
 家督を弟に譲渡;大阪天王寺に寓居;民人に教授;四言詩に長ず、菅茶山・皆川淇園と交流、
 1784「西漢言筭」86「啓蒙三種」1805「朽木集」著、
 [西洲(;号)の字/通称/号]字;楽善、通称;治左衛門、号;蕭洞/松音堂
 西住(さいじゅう・法号) → 国能(くによし・藤原ふじわら、廷臣/歌人) 1 7 3 4
 歳充(さいじゅう/としみつ・桂) → 久武(ひさたけ・桂/島津、藩士/日記) B 3 7 2 7
 在秀(さいしゅう・唐橋) → 在秀(ありひで・唐橋/菅原、廷臣/漢学) F 1 0 6 8
 采秋園(さいしゅうえん) → 坦斎(たんさい・檜山ひやま、書画鑑定/花押) T 2 6 5 3
 斉周蔵(さいしゅうぞう) → 周蔵(しゅうぞう・斉、歌舞伎作者) X 2 1 8 5
 斉脩室(さいしゅうのしつ・徳川) → 斉脩室(なりのぶのしつ・徳川、文筆) H 3 2 9 7
 斎守翁(さいしゅうおう・賀茂) → 規清(のりきよ・賀茂/梅辻、烏伝神道家) E 3 5 4 4
 菜粥居士(さいしゅうこじ) → 菜茹(さいじよ・山崎やまさき、医者) G 2 0 7 4
 さい寿先生(さいじゅせんせい) → 杏順(きょうじゅん・中野なかの、医者) N 1 6 9 8
- F2022 **西春**(さいしゅん・坂上) ? - ? 江前期大阪の俳人;談林派、
 1678西鶴「物種集」入、
 [是なる人こそ當所の婆方はばかた](物種集/婆方;芝居の老婆役、

前句;住吉の松を太夫に大芝居/秦の始皇帝が松を諸太夫にした故事/太夫;立女形)
謡曲「高砂」;此尉は津の国住吉のもの 是なる姥こそ當所の人なれば)

済俊(さいじゆん・姉小路) → 済俊(さいじゆん・姉小路あねがこうじ、歌人) H 3 2 7 3

- 2083 西順(さいじゆん;号、別号;如是庵) 1616-? 1693存 江前期大阪堂島の学僧/連歌作者、
歌;「九代抄」/1682「十一代抄」、「二十一代集要」「夫木拾穂抄」「夫木和歌集抜書」、
連歌;1667「寛文八年西順独吟夢想百韻」/72「専順百句付連歌」注・「宗祇百句付連歌」、
1693「連歌破邪顕正」編/「西順百句付」「大東千句」「若葉記」著、

- G2074 菜茹(さいじよ・山崎やまさき、名;祖静、幸助男) 1773-1828 56 尾張の商家生/儒;磯谷滄洲・石川香山門、
医術;山崎九臯門/女婿;医業、名古屋藩寄合医師/奥医師、1798「尾藩禁方集成」九臯と共編、
[菜茹の字/通称/別号]字;寂然、通称;専父/専三、別号;菜粥(さいしゆく)居士、法号;広見院
才助(さいじよ・鈴木) → 東海(とうかい・鈴木、蘭医:眼科/詩) B 3 1 9 6

才助(さいじよ・山村) → 昌永(まさなが・山村やまむら、藩士/蘭学者) F 4 0 3 4

- 2085 宰相(さいしやう・選子内親王家/齋院宰相) ?-? 平安中期;選子内親王(大齋院/964-1035)家出仕、
永観寛和983-87頃出仕か、大中臣能宣(神祇大副/921-991)の妻(婚嫁後に没;袋草子)、
歌人;1007-09後十五番歌合(公任撰)に参加/大齋院御集入、新勅撰集2首;284・1115、
続詞花集入、

[引きわかれたもとにかくるあやめ草おなじよどのにおひにしものを](後十五番;11)

[秋の夜の露おきまさるくさむらに影うつりゆく山の端の月](新勅撰;秋284/九月の夜)

[大齋院御あし悩ませ給ふを 杉の湯にてゆでさせ給ふべきよし申しければ、

ゆでさせ給へどしるしも見えざりければ、

あし引きのやまひもやまずみゆるかなしるしの杉と誰かいひけん(続詞花;雑766)、
(大齋院の)返し、

しるしありとすぎにしかたは聞くものをわがこのみわのやまぬなるべし、

(同767/此の身と三輪の山を掛る;杉の縁語)]

- F2076 宰相(さいしやう) ? - ? 平安後期源師房家女房?/1041源大納言師房家歌合参加
[くれ竹の節のしげくもみゆるかなかぞへもやらぬ千代やしるらむ](師房家歌合;右18)

- Q2005 宰相(さいしやう・光明峯寺こうみょうぶし入道前摂政家) ?-? 鎌倉中期;女房歌人、
光明峯寺入道前摂政左大臣九条道家(1193-1252)家に出仕、1253-4成立[雲葉集]入、
[たちかへりのぼらの鹿のあとみえて心すごくもゆく嵐かな](雲葉集;秋417)

- 2086 宰承(さいしやう;法諱、播磨法印、播磨法眼範承男) ?-? 1320存 梶井殿毘沙門堂の坊官;
天台僧;法眼/法印、歌人/勅撰2首;続千載1211・風雅1600、
[後の世と契りもおかばいそがましあふにはかへぬ命なりとも](続千載;恋1211)

- G2075 済承(さいしやう;法諱) 1442 - ? 1499存 山城広隆寺の学僧、権僧正、「広隆寺由来記」著

宰相(さいしやう・四条/栗田宰相) → 四条宰相(しじやうのさいしやう、後拾歌人) E 2 1 1 3

宰相(さいしやう・瑒子内親王家) → 瑒子内親王家宰相(ちやうしなないんのうけのさいしやう、歌人) I 2 8 6 1

宰相(さいしやう・菩提院) → 菩提院宰相(ぼだいいんのさいしやう、童/歌) G 3 9 4 8

宰相(さいしやう・佐崎) → 了重(りやうじゆう・佐崎ささき、本願寺派僧) H 4 9 9 0

西笑(さいしやう → せいしやう) → 承允(じやうたい/しやうたい;法諱・西笑、臨濟僧) 2 1 9 3

采樵(さいしやう;号) → 樵禅(しやうぜん;道号・禅鎧;法諱、臨濟僧) K 2 2 4 4

最勝(さいしやう;字) → 通済(つうさい;法諱・最勝、真言僧) 2 9 3 7

歳松(さいしやう・佐々木) → 徳綱(のりつな・佐々木、医者/詩歌) F 3 5 1 5

裁松(さいしやう・松岡) → 鳳州(ほうしゅう・松岡まつおか、僧/歌人) G 3 9 3 9

採蕭(さいしやう・真田) → 錦里(きんり・真田さなだ、本草家) R 1 6 9 6

西成(さいしやう;号) → 継成(けいじやう;法諱、真宗僧) G 1 8 1 1

柴杖(さいしやう;号) → 一音(いちおん、嚏居士はなびのこじ、俳人) B 1 1 1 5

再昌院(さいしやういん) → 季吟(きぎん・北村きたむら、俳人/古典学) 1 6 0 6

再昌院(さいしやういん) → 湖元(こげん・北村きたむら、幕府歌学方) C 1 9 4 5

再昌院(さいしやういん) → 季文(きぶん・北村、法印/歌人) B 1 6 7 5

最勝院(さいしやういん) → 素純(そじゆん・東とう/平、僧/歌人) D 2 5 8 5

最勝院(さいしやういん) → 素経(そけい・東とう、素純甥/僧/歌人) D 2 5 6 1

- 最勝院(さいしょういん) → 了順(りょうじゅん;法諱、真宗大谷派僧) L 4 9 4 5
 最勝園寺覚賢(さいしょうえんじかくけん)→ 貞時(さだとき・北条/平、執権/歌) C 2 0 0 8
 最勝王院(さいしょうおういん)→ 尊胤法親王(そんいんほつしんのう、知恩院門跡/詩歌) 2 5 7 6
 宰相花(裁松窩さいしょうか)→ 養老館路産(ようろうかんろさん、林はやし波臣、狂歌) B 4 7 6 5
 再昌軒(さいしょうけん) → 元長(もとなが・吉田、書肆/歌人) D 4 4 5 4
 在少将(さいしょうしょう) → 滋春(しげはる・在原) C 2 1 8 5
 宰相中将入道(さいしょうちゅうじょうのにゅうどう)→ 具世(ともよ・堀川、廷臣/連歌) Q 3 1 8 9
 最勝幢(さいしょうとう:号) → 梵僊(ぼんせん:法諱・竺仙;道号、臨濟僧) F 3 9 5 3
 宰相阿闍梨(さいしょうのあじかり)→ 心覚(しんかく;法諱、真言僧) N 2 2 6 6
 宰相阿闍梨(さいしょうのあじかり)→ 日尹(日印にちいん;法諱、日蓮僧) 3 3 4 4
 宰相阿闍梨(さいしょうのあじかり)→ 日侃(にちかん;法諱、日蓮僧) B 3 3 0 5
 宰相阿闍梨(さいしょうのあじかり)→ 日郷(にちごう;法諱、日蓮僧) B 3 3 9 1
 宰相の君(さいしょうのきみ) → 美作三位(みまさかのさんみ、女房/歌人) F 4 1 8 4
 G2076 宰相更衣(さいしょうのこうい、源)?- ? 平安中期村上天皇の更衣、歌人;960天徳四年内裏歌合参加、
 源訶子と同一? → 訶子(かし・源、村上帝更衣、玉葉歌人) G 1 5 7 7
 源計子と同一? → 計子(けい・源、村上帝更衣/広幡御息所、拾遺歌人) F 1 8 8 2
 G2045 宰相典侍(さいしょうのすけ、藤原隆宗女の隆子) 1087-1129⁴³ 藤原家保の妻/崇徳天皇の乳母、
 平安後期歌人;1093郁芳門院根合参加、
 [住吉の松のひさしきひさしくと神にぞ祈る君がみよをば](郁芳門院根合;四番左)
 2087 宰相典侍(さいしょうのすけ・後宇多院ごうだいの、飛鳥井雅有女の経子)?-? 後宇多天皇に出仕、歌人、
 1333珣子しゅんし内親王(後醍醐天皇中宮)立后時に屏風歌を出詠、自ら歌合主催、
 1333父雅有33回忌に結縁経歌を勧進、続現葉・臨永・松花集に入集、
 勅撰22首;新後撰(1153)続千載(1000/1075/1302/1819)続後拾(3首)風雅(2首)以下
 [なかなか思ひもいれぬ身の秋をもみぢよ何の色にみすらん](新後撰;恋1153)、
 (里に帰っているときもみぢを賜った返事に)
 [年をふるわが涙にぞ思ひしる花も老木やもろくちるらん](新千載;雑1707)
 宰相素雲(さいしょうのそうん)→ 善養(ぜんよう;法諱、真宗仏光寺派僧) N 2 4 2 1
 宰相典侍(さいしょうのすけ)→ 美作三位(みまさかのさんみ、藤原道綱女豊子) F 4 1 8 4
 宰相典侍(さいしょうのすけ・宝徳仙洞歌合の隠名)→ 後花園天皇(ごはなぞのてんのう) D 1 9 5 8
 宰相典侍(さいしょうのすけ)→ 績子(いさこ・中山なかやま、女房/日記) F 1 1 4 9
 宰相典侍(さいしょうのすけ)→ 嗣子(つぐこ・庭田にわた、女官/歌人) 2 9 7 0
 宰相入道頼隆(さいしょうのにゅうどう)→ 頼隆(よりたか・藤原忠宗、参議) I 4 7 8 5
 宰相法印(さいしょうのほういん)→ 経乗(きやうじやう、真言僧/歌人) C 1 6 6 0
 宰相法印(さいしょうのほういん)→ 通海(つうかい、真言僧) 2 9 2 1
 宰相乳母(さいしょうのめのと)→ 美作三位(みまさかのさんみ、藤原道綱女豊子) F 4 1 8 4
 宰相房(さいしょうぼう) → 宥快(ゆうかい;法諱、真言僧/南山流大成) 4 6 9 6
 最乗房(西乗房さいじやうぼう、法相興福寺僧)→ 信救(しんきゅう;法諱) N 2 2 8 1 ②
 信救房信阿と同一? → 信救(しんきゅう・信阿;法諱/華嚴僧) N 2 2 8 0
 斉稷(さいしやく・池田) → 斉稷(なりとし・池田いけだ、藩主/歌人) K 3 2 3 5
 在色(さいしやく・野口) → 在色(ざいしき・野口/関、材木商/俳人) 2 0 8 0
 曬書楼主人(さいしやうろうしゅじん)→ 世軌(つぐのり・松平まつだいら、幕臣) G 2 9 3 8
 催詩楼(さいしろう) → 藍涯(らんがい・大島おおしま、儒;藩校助教) B 4 8 6 6
 才二郎(さいじろう・雲井) → 正扶(まさすけ・雲井くもい、国学者) P 4 0 4 2
 才次郎(さいじろう・今井) → 晦堂(かいどう・今井いまい、藩士/儒者) J 1 5 0 0
 才次郎(才二郎さいじろう・三宅)→ 春楼(しゅんろう・三宅みやげ、儒者) P 2 1 5 5
 才次郎(さいじろう・仲島/角田)→ 九華(きゅうか・角田つのだ、藩士/儒者) B 1 6 9 3
 才次郎(さいじろう・松本) → 愚山(ぐざん・松本まつもと、儒者/詩人) 1 7 4 7
 才次郎(さいじろう・野沢) → 弘道(こうどう・野沢のざわ、藩士/兵法家) K 1 9 8 2
 才次郎(才二郎さいじろう・松原)→ 慶輔(けいほ・松原まつばら、医者) G 1 8 6 1

- 才次郎(さいじろう・桑本) → 正明(まさあき・桑本くわもと、藩士/和算家) B 4 0 1 1
 才次郎(さいじろう・大久保) → 忠督(ただまさ・大久保おおくぼ、藩士/国学) W 2 6 0 9
 才次郎(さいじろう・久津摩) → 季敏(すえとし・久津摩くづま、藩士/国学) I 2 3 4 4
 才次郎(さいじろう・雲井) → 正帥(まさのり・雲井くもい、国学者) P 4 0 4 4
- G2077 济信(さいしん;法諱、源雅信男)954-103077 祖父;敦実親王、真言密教;勸修寺雅慶僧正門、
 兩部灌頂;寛朝より受/仁和寺住、998権少僧都/東寺長者/仁和寺別当/1012勸修寺別当、
 1019大僧正/20牛車を許可;僧家牛車の初例、東大寺領春日荘につき興福寺大衆と論争、
 「不動法」著、
 [济信(;法諱)の通称]北院大僧正/仁和寺僧正/真言院僧正/観音院僧正
- 2088 最信(さいしん;法諱・足利義氏[1189-1254]男/本姓;源)?-? 鎌倉前期天台叡山僧、
 大御堂別当/勝長寿院別当/大僧正、歌人、
 勅撰9首;続古今(1554)続拾(676/1135/1378)新後撰(104/367/420/1382)続千載(912)、
 [夏山のおなじみどりのこずゑにも松はしらるる風の音かな](続古今;雑1554/夏風)
- G2078 斎震(さいしん・荒木田あらかた、名;氏筠うじたけ、福島末茂男)1719-5133 林家養子/神職;荒木田を名乗る、
 正五下/権禰宜、漢学・詩;伊藤蘭嶋門、「燈火録」「読史私言」「栗遊草」著、
 [斎震(;号)の字/通称]字;春生、通称;丹下
- G2022 采真(さいしん・頼ら、名;舜壽、杏坪男)1791-185060 儒者、安藝広島藩士/御銀奉行、
 大坂御屋敷目付、御普請奉行を歴任、詩:1864後藤松陰「松陰詩稿」に評語あり、
 妻;香川日向守国休女の加禰子、
 [采真(;号)の字/通称]字;子晦、通称;佐一郎
- 西親(さいしん;法名) → 光親(みつちか・藤原/葉室、廷臣/日記) D 4 1 8 4
 斉信(さいしん・藤原) → 斉信(なりのおぶ・藤原、廷臣/詩歌人) H 3 2 9 2
 斉信(さいしん・二条) → 斉信(なりのおぶ・二条、左大臣) H 3 2 9 5
 斎心(さいしん・中柳) → 重方(しげかた・中柳なかやぎ、陪臣/歌人) Z 2 1 5 8
 斎信(さいしん・饒田) → 西疇(せいちゆう・饒田にぎた、儒者/崎門学) J 2 4 2 3
 歳信(さいしん・紀) → 歳信(としのおぶ・紀きの、神職) U 3 1 9 6
 最信(さいしん・磯部) → 最信(よしのおぶ・磯部、国典研究/神職) F 4 7 7 1
 最信(さいしん・古筆) → 了博(りょうはく・古筆こひつ/平沢、古筆鑑定) L 4 9 9 2
 鞞臣(さいしん・山田) → 鞞臣(ゆきおみ・山田やまだ、国学者) H 4 6 4 3
- G2079 歳人(さいじん) ? - ? 奈良の俳人;1891賀子「蓮実」1句入;394、
 [其の町の人はいでぬる鉢たゝき](蓮実;394/鉢扣は鉢・瓢箪を叩き念仏して歩く空也僧)
 材親(さいしん・北畠) → 材親(きちか・北畠、武将/文筆/連歌) L 1 6 2 3
 在心(さいしん;字) → 満空(まんくう;法諱・在心;字、浄土僧) K 4 0 4 5
 最親院(さいしんいん) → 義陶(ぎとう;法諱、真宗僧) L 1 6 6 5
- G2080 采真斎(さいしんさい;号・前田まねだ)?-? 江後期加賀金沢藩士・文筆家、
 1801-12「補忘録」、1804/05「明忘録」著
 西岑舎興世(さいしんしゃこうよ) → 法蓮(ほうれん;法諱・川崎、真宗僧/国学) G 3 9 2 0
- G2081 济深親王(さいじんしんのう;法諱、俗名;寛清、靈元天皇皇子)1671-170131 母;小倉実起女、
 1682親王宣下、出家/勸修寺29代長吏/1688東大寺別当/二品/92一身阿闍梨、
 大仏殿再建に尽力、
 「賀茂下上両社御法楽和歌」「開眼供養次第」「勸修寺代々次第」「公宴御会和歌」著、
 「南京声明」「東大寺年中行事」著/1699(元禄12)「内裏和歌御会」催、
 [济深親王(さいじんしんのう;法諱)の通称]一宮/即身院宮/勸修寺宮かんじゆじのみや
- 采真堂(さいしんどう) → 固(かたし・白井しらい、藩士/歌人) M 1 5 9 4
 斉水(さいすい・都沢) → 徹(とおる・都沢みやこざわ、儒者) I 3 1 8 0
- 2089 西随(さいずい・早川はやかわ) ? - ? 大阪住の談林派俳人;宗因門、
 1673西鶴「生玉万句」初稿発句等入、78「五徳」百韻参加、82春林「俳諧百人一句難波色紙」入、
 [橋向ひ都に続く下屋敷](五徳;第一百韻第五句;四条橋の向い側の東山付近、
 前句;西鶴/上々吉の清水ながるゝ;西行の道のべの歌/ここは清水きよみづを付る)
 在数(さいすう・唐橋) → 在数(あrikaず・唐橋/菅原、廷臣/連歌) F 1 0 2 5

- G2082 **才助**(さいすけ・田川たがわ、名; 保定)?-? 江後期加賀金沢餌指町の浪人; 経世家、1833・36「救荒録」著(癸巳・丙申の2度; 庶民の経済的窮状を上申)、「田川上書」著、[才助(通称)の別通称] 才佐さいすけ
- 才助(さいすけ・山村) → 才助(さいじよ・山村、蘭学) 2 0 8 4
- 才助(さいすけ・奥村) → 得義(のりよし・奥村、藩士/国学) G 3 5 3 2
- 才助(さいすけ・宮崎) → 廷高(ていこう・宮崎みやざき、医者) 3 0 7 0
- 才助(さいすけ・山路) → 徳風(よしつぐ・山路/平/小倉、幕臣/天文) E 4 7 6 7
- 才助(さいすけ・伴) → 健尹(たけただ・伴ぼん、藩士/儒者) O 2 6 4 2
- 才助(さいすけ・国沢) → 好察(よしあきら・国沢くにさわ、藩士/国学) M 4 7 5 6
- 才助(さいすけ・山科) → 芝鳳(しほう・山科やましな、俳人) Z 2 1 8 5
- 才助(さいすけ・鈴木) → 東海(とうかい・鈴木、蘭医:眼科/詩) B 3 1 9 6
- 才助(さいすけ・佐伯) → 稜威雄(いずお・佐伯ささき、神職/尊攘) K 1 1 2 6
- 才介(さいすけ・股野) → 玉川(ぎよくせん・股野またの、藩士/儒/詩) I 1 6 8 6
- 才介(さいすけ・江幡) → 通理(みちまさ・江幡えばた、医者/国学) I 4 1 2 3
- 才輔(さいすけ・川上) → 広樹(ひろき・川上かわかみ/中村、家老/儒/国学/歌) J 3 7 1 3
- 齊助(さいすけ・樺山/村山) → 松根(まつね・村山/樺山、藩士/歌) J 4 0 8 4
- 齊助(さいすけ・木内) → 御年(みとし・木内きうち、国学者) F 4 1 3 4
- 斎助(さいすけ/いつきのすけ・笠因) → 直麿(なおまろ・笠因かさよ、神職/国学) K 3 2 1 7
- 斎助(さいすけ・和田) → 正主(まさぬし・和田わだ/橋、商家/国学) L 4 0 8 7
- 斎助(さいすけ・西村) → 早穂(はやお・西村にしむら、歌人) J 3 6 5 9
- 斎助(さいすけ・佐伯) → 正度(まさのり・佐伯ささき、神職/国学) P 4 0 7 9
- 彩助(さいすけ・石井) → 文海(ふみみ・石井いひ、絵師) E 3 8 0 6
- 犀輔(さいすけ・瀬波屋) → 東北斎飲居(とうほくさいいんきよ、官吏/狂歌) C 3 0 5 6
- 濟助(さいすけ・堀) → 岫陰(はくいん・堀ほり/蒲生、儒者/尊攘) C 3 6 5 3
- 濟政(さいせい・源) → 濟政(なりまさ・源、音楽/歌) I 3 2 1 2
- 齊政(さいせい・中尾) → 齊政(なりまさ・中尾なかお、和算家) I 3 2 1 5
- 齊政(さいせい・池田) → 齊政(なりまさ・池田、藩主/日記) I 3 2 1 6
- 齊省(さいせい・松平) → 齊省(なりさだ・松平まつだいら/徳川、藩主養子/歌) K 3 2 6 8
- 再生(さいせい・赤坐) → 正直(まさなお・赤坐あかさ、藩士) N 4 0 0 4
- 最誠(さいせい) → 日凝(にちぎょう・体蓮院、日蓮僧) B 3 3 4 4
- 西成(さいせい→さいじょう) → 継成(けいじょう; 法諱、真宗僧) G 1 8 1 1
- E2098 **在正**(さいせい・原はら、在中さいちゅう男)?-? 江後期原派の絵師; 父門、1803維竜「四方の硯」挿絵
- 在成(さいせい・中沢) → 在成(ありなり・中沢なかざわ、国学者) I 1 0 1 1
- 在盛(さいせい・賀茂) → 在盛(ありもり・賀茂、陰陽家/暦法) F 1 0 8 9
- 在清(さいせい・箕曲) → 在清(ありきよ・箕曲みのわ、暦算家) F 1 0 3 1
- 再生翁(さいせいおう) → 雲山(うんざん・宮沢みやざわ、儒者/詩人) B 1 2 1 5
- 再生翁(さいせいおう) → 清風(せいふう・村田むらた、藩士/歌人) C 2 4 9 5
- 采青閣(さいせいかく) → 透玄(とうげん・夏井なつ、医者) D 3 1 4 0
- 採成子(さいせいし) → 正命(まさのぶ・奥おく、医者/歌人) O 4 0 6 1
- 蔡世昌(さいせいしやう) → 世昌(せいしやう・蔡さい、琉球詩人) 2 4 8 6
- 齊世親王(さいせいしんのう) → 齊世親王(ときよしんのう、宇多皇子) K 3 1 3 3
- 再生坊(さいせいぼう、俳人) → 一叟(いっそう・鈴木・飛鳥園4世) B 1 1 5 7
- 2090 **西夕**(さいせき・山本やまもと) ? - ? 俳人、西鶴と関わり、1678「三鉄輪」編
- G2083 **犀夕**(さいせき) ? - ? 俳人、1686「春の日」入、
[腰てらす元日里の睡ねぶりかな](春の日/白氏文集; 暖牀斜=臥沓日腰ヲ曛ス)
- G2084 **采石**(さいせき・長沼ながぬま、名; 簡、忠清男) 1775-1834 60 周防徳山藩士; 藩校鳴鳳館修学、1801江戸遊学、国学; 高本紫溟(順したごう)門、1804頃藩の右筆役、藩校鳴鳳館教授; 学政振興に尽力、1823医学奨励覚書を公布、「大日本帝統略紀歌」著、[采石(号)の字/通称/別号]字; 大斐、通称; 文治郎、別号; 蒙山、青木葵園の弟
- G2085 **碎石**(さいせき・石井いひ、名; 菴とん)?-? 江後期文政1818-30頃上州館林藩士: 右筆、

1816「碎石街談録」、

[碎石(;)号)の字/別号]字;愚卿、別号;狸谷

彩石(さいせき・本莊) → 知貞(ともしだ・本莊ほんじょう、医者/国学) W 3 1 3 6

柴石堂(さいせきどう) → 馬貞(ばてい・長野、医/俳人) F 3 6 3 4

2091 西雪(さいせつ) ? - ? 談林派俳人、1679西鶴「飛梅千句」入

2092 濟暹(さいせん;法諱・字;南岳/号;南岳房、文綱男) 1025-1115長寿91 平安後期真言僧;仁和寺入、1084仁和寺北院にて性信親王より灌頂を受/僧都;仁和寺華藏院・慈尊院住、1104弘法大師御影供に導師を勤める、1076「性靈集」補填/79「続性靈集補闕鈔」著、「顕鏡鈔」「弘法大師御作書目録」「地蔵要釈」「十六相観私記」「無名秘釈」外著多数

G2086 濟川(さいせん・小田おだ、名;泰、勝原[本姓;松岡]治左衛門男) 1747-180155 長門宇部の庄屋の生、長府藩医小田雲同の養嗣子、1760(14歳);兄永富独嘯庵に従い上京/医学;山脇東洋門、1766兄の死により帰郷/71萩の明倫館入、長府藩で医と儒で出仕、藩校敬業館創立に尽力、督学となる;晩年は儒を専らとす、1766「独嘯庵先生行状」、「喪祭小記」著、[濟川(;)号)の字]亭叔

才仙(さいせん・比喜多) → 松斎(しょうさい・比喜多ひきた、茶人) I 2 2 9 7

西川(さいせん/せいせん;道号) → 宗恂(そうじゅん;法諱・西川、臨濟僧) H 2 5 8 8

犀川(さいせん・井口) → 嘉一郎(かいちろう・井口いのくち、儒者) I 1 5 9 4

齊宣(さいせん・島津) → 齊宣(なりのお・島津しまう、藩主/詩歌) H 3 2 9 4

G2012 在宣(ざいせん) ? - ? 江前期1大阪の俳人、

1673西鶴「生玉万句」第三花;発句入、

[雨に花散るかやはらりさんゆさうふ](生玉万句;花発句/散るにさん[散]を掛る)

2015 在川(ざいせん) ? - ? 江前期俳人;1691「若みどり」入、

[不産女うまづめと御意は表のへらず口](若みどり/前句;枕はふたつ我はひとり寝)

G2088 在禪(ざいぜん;法諱) 1739 - 182082 紀伊の浄土僧:大立寺潭光門/江戸芝増上寺に修学、館林善導寺在定門、1786増上寺学頭/江戸崎大念寺・飯沼弘経寺・鎌倉光明寺など檀林歴任、1808増上寺55世/大僧正、1813増上寺辞退;山内妙定院住、1820江戸西浅草清光寺に没、1788「円頓戒余論」89「円頓戒談義」1806「放生報応集」17「宝香即事観」、「浄土列祖諸特讃」著、[在禪(;)法諱)の別法諱/法名]初法諱;潭道、通称;無所著道人、法名;宝蓮社薫譽香阿

在先(ざいせん;道号) → 季讓(きじょう;法諱・在先、臨濟僧/詩文) B 1 6 2 4

彩川外史(さいせんがいし) → 雷首(らいしゅ・清水/下郷/平、儒者/詩) 4 8 5 4

採選亭(さいせんてい) → 直古(なおひさ・柴崎/森、商家/国学/狂歌) C 3 2 2 0

菜窓(さいそう・鈴木) → 荘丹(そうたん、高柳/鈴木、医者/、俳人) C 2 5 4 8

菜窓(2世さいそう) → 信之(のぶゆき・高柳、俳人) D 3 5 6 9

菜窓(さいそう・高) → 太初(たいしょ・高こう、俳人) K 2 6 3 2

齊荘(さいそう・徳川/松平/田安) → 齊荘(なりたか・徳川、藩主/紀行) H 3 2 4 8

柴桑(さいそう;号) → 寿桂(じゅけい;法諱・月舟、臨濟僧/五山文学) I 2 1 6 3

G2089 才蔵(さいぞう・可児か、名;吉長) 1554-161360 美濃可児郡の武将、前田利家家臣;御馬廻組、のち豊臣秀吉に出仕、さらに安藝広島福島正則の家臣;武功、笹の葉を指物とす;徳川家康より笹の才蔵と称される、剃髪後京に隠棲、「誓文日記」著、[才蔵(;)通称)の別通称/号]別通称;笹の才蔵、剃髪号;竹葉軒才人

G2090 才蔵(さいぞう・大畑おおはた、名;勝善) 1642-172079 紀州伊都郡学文路の庄屋、勸農家、水利開拓、「地方之聞書」著

2093 彩象(さいぞう) ? - ? 江戸の雑俳点者、

1702「冠独歩行かむりひとりあるき」「たから船」などに入

才蔵(さいぞう・伊藤) → 蘭岬(らんがし・伊藤いとう、藩儒) B 4 8 7 7

才蔵(さいぞう・横川) → 元凱(もとよし・横川よこかわ、儒者、詩人) E 4 4 7 4

才蔵(さいぞう・松崎) → 観海(かつかい・松崎まつさき、藩士/儒者) 1 5 4 6

才蔵(さいぞう・桜) → 三江(さんこう・桜さくら、絵師) M 2 0 1 9

才蔵(さいぞう・岡崎) → 松樹(まつき・岡崎おかざき、国学者) O 4 0 5 4

才蔵(さいぞう・柏淵) → 時憲(ときり・柏淵かしぶち、国学者) U 3 1 7 2

- 齊蔵(さいぞう・野村) → 忍介(にんすけ/おしすけ・野村のむら/折田、藩士/軍人/詩歌) H 3 3 3 2
 斎蔵(さいぞう・本田/白尾) → 国柱(くにはしら・白尾しらお、藩士/国学) D 1 7 0 9
 在藻(さいそう・三浦) → 元筋(もとりのり・三浦/乙幡、藩士/国学/歌) D 4 4 8 5
 採草庵(さいそうあん) → 素外(そがい・谷たに/池田、商家/俳人) D 2 5 4 0
 采桑居(さいそうきよ) → 高般(たかかず・藤堂とうどう、詩人) L 2 6 7 1
 E2099 才蔵丸(さいぞうまる) ? - ? 連歌:1592吉川広家願主「大山万句三物」入
 斎瑯霊神(さいそうれいしん) → 志道(しどう・山口、国学者/神代学) V 2 1 2
 齊村(さいそん・多田) → 麦洲(ばくしゅう・多田ただ、医者/俳人) D 3 6 3 1
 G2038 柴雫(さいだ) ? - ? 伊勢久居の俳人;其角門/1690より江戸住、
 1690其角「花摘」「雑談集」入/94「句兄弟」入/97其角「末若葉うらわかば」(;独吟第二歌仙)入、
 [藁苞わらつとに凋しをれて来ぬる若葉哉](末若葉;独吟歌仙発句/遠方から届いた花の苗)
 2094 宰陀(さいだ・苗村なえむら、別号;文里斎/百老館)?-? 近江大津の俳人:尚白門、
 1719「宰陀稿本」編、22「夕かほの歌」編、「大津絵之賛」著
 採茶庵(さいだあん) → 杉風(さんぶう・杉山、俳人) 2 0 5 6
 採茶庵二世(さいだあん) → 梅人(ばいじん・平山、俳人) B 3 6 6 3
 採茶庵三世(さいだあん) → 梅弟(ばいてい・垂井、俳人) B 3 6 8 4
 採茶庵四世(さいだあん) → 万里(ばんり・太田、俳人) I 3 6 6 3
 採茶庵五世(さいだあん) → 杉露(さんろ・鯉屋、俳人) E 2 0 8 3
 採茶庵六世(さいだあん) → 杉舟(さんしゅう・大沼、俳人) E 2 0 3 7
 採茶庵七世(さいだあん) → 杉卿(さんけい・松井、俳人) E 2 0 2 6
 採茶庵八世(さいだあん) → 石丈(せきじょう・重田、俳人) D 2 4 6 1
 齊泰(さいたい・前田) → 齊泰(なりやす・前田、藩主/謡曲/狂歌) E 4 0 3 8
 G2091 西乃(さいだい) ? - ? 江戸俳人;1691賀子「蓮実」2句入;274/416、
 [踏み初めし誰が足かたぞ富士詣](蓮実;夏274)
 菜田翁(さいたおう) → 弓雄(ゆみお・山崎、国学者) G 4 6 1 0
 蔡鐸(さいたく) → 鐸(たく・蔡、琉球三司官/詩人) I 2 6 6 6
 才太郎(さいたろう・二宮) → 俊実(としざね・二宮にのみや、武将/記録) M 3 1 5 4
 材太郎(さいたろう・伴) → 侗庵(とうあん・伴ばん、藩儒/詩人) 3 1 8 4
 犀潭(さいたん・木下) → 韓村(いそん・木下、儒者) E 1 1 1 2
 最智(さいち・沙彌) → 家清(いえきよ・源、歌人) 1 1 3 3
 佐一(さいち・山田) → 梅東(ばいとう・山田やまだ/清水/源、神職/儒詩) B 3 6 8 7
 佐一(さいち・岩崎) → 長容(ながかた・岩崎いわさき、藩士/画) L 3 2 2 2
 佐市(さいち・深田) → 厚斎(こうさい・深田ふかだ、藩士/儒者) G 1 9 3 1
 佐市(さいち・春日) → 延重(のぶしげ・春日かすが、神職/国学) H 3 5 9 0
 左一(佐市/再稚さいち・井土) → 学圃(がくほ・井土いど/喜多岡、藩儒) H 1 5 3 7
 左一(さいち・宮本) → 準彦(じゅんりゅう・宮本みやもと、鍼術/国学) M 2 1 0 0
 左市(さいち・宮地) → 畏山(いざん・宮地みやじ、藩士/武術/詩) F 1 1 5 7
 左市(さいち・大館) → 高門(たかかど・大館おおだち、医者/国学者) C 2 6 6 4
 左市(さいち・元田) → 次孝(つぎたか・元田もとた、藩士、国学者) G 2 9 6 0
 細竹廬(さいちくろ・高木) → 巒古(らんこ・百花坊、美濃派俳人) B 4 8 9 6
 左一兵衛(さいちひょうえ・柏) → 安之(やすゆき・柏かしわ、史家) D 4 5 4 4
 最仲(さいちゅう・竹中) → 残口(ざんこう・増穂/十寸穂/藤原/竹中、神道唱導家) F 2 0 7 9
 2095 在中(さいちゅう・原はら/本姓;平、名;致遠、酒造業坂本屋弥右衛門2男) 1750-1837 88 京の絵師;
 原派祖、初め石田幽汀門/円山応挙門/明画・土佐派など和漢古画を独学で修得、
 故実に精通、一派を形成し原派と称す、有職画に長ず;寛政内裏造営に参加、
 聖護院蔵「四季花鳥屏風」、相国寺の襖絵など描く、1804「布勢湖八勝」05「心の花実」画、
 [在中(;号)の字/別号]字;子重、別号;臥遊、在正・在明・在親・在善の父
 在中(さいちゅう・都) → 在中(ありなか・都みやこ、良香男/詩人) F 1 0 5 6
 在中(さいちゅう、ありなか?・高辻) → 福長(とみなが・高辻たかたじ、廷臣) O 3 1 9 0
 在中(さいちゅう、ありなか?・新井) → 白石(はくせき・新井、儒者) 3 6 1 0

- 在中(さいちゆう/ありなか・奥田) → 頼杖(らいじょう・奥田おくだ、心学者) 4 8 6 5
 在中(さいちゆう・宇田) → 深林(しんりん・宇田うだ、藩士/書家) Q 2 2 1 6
 在中(さいちゆう・児玉) → 順蔵(じゅんぞう・児玉こだま、医者/蘭学) L 2 1 3 0
 在仲(さいちゆう・菅原) → 在仲(ありなか・菅原、歌人) C 1 0 9 1
 在仲(さいちゆう・荻てき/荻野) → 元凱(げんがい、荻野、医者/詩) B 1 8 4 0
 在中将(さいちゆうじょう) → 業平(なりひら・在原ありわら、廷臣/歌人) 3 2 2 8
 最中堂(さいちゆうどう) → 秋良(しゅうりょう・山岸やまぎし、商家/俳人) I 2 1 4 0
- 2005 **最澄**(さいちよう;法諱、諡号;伝教大師、三津首みつのおびと百枝男) 767-822/56 近江志賀郡の生;
 漢人系帰化氏族、日本天台宗の開祖、778近江国分寺行表の門弟;780得度/東大寺で受戒、
 785叡山で修行/天台教学を研鑽/804還学生として入唐;道邃・行滿門;円・密・禪・戒を修学、
 805帰国/806日本天台宗の開宗、816頃関東に行化;会津の法相宗徳一と三一権実論争展開、
 818「山家学生式」を朝廷に提出;大乘戒独立を主張;南都僧綱と対立;822没;没7日後勅許、
 866日本最初の大師号宣下、820「顕戒論」、「真言集」、「色無色集」、「依憑天台集」、「鏡喩集」、
 「弘仁新集」、「五怖畏集」、「三蔵等名集」、「十如是集」、「本理大綱集」、「法華開講」など著書多数、
 歌/勅撰5首;新古(1920)続古(748/749/750)新拾遺(1450)、
 [阿耨多羅あくのくたら三藐さんみやく三菩提の仏たちわが立つ杣に冥加あらせたまへ](新古1920)、
 (根本中堂建立時の詠、以後「わが立つ杣」は比叡山の異称)、
 [最澄(;法諱)の幼名/通称]幼名;広野、通称;叡山大師/山家大師/根本大師
- 2096 **西長**(さいちよう・山田やまだ) ? - ? 俳人:西鶴門、1678西鶴「物種集」入、
 1679西鶴「飛梅千句」「精進膾」入、
 [寺になかつた鶯の声](物種集;寺は寺子屋の課程、
 前句;得え読まぬか雪と云ふ字の消し初そめて、
 拾遺集;藤原朝忠;鶯の声なかりせば雪消えぬ山里いかで春を知らまし)
- 宰町(さいちよう) → 蕪村(ぶそん・与謝、俳人/絵師) 3 8 1 1
 宰鳥(さいちよう) → 蕪村(ぶそん・与謝、俳人) 3 8 1 1
 斉長(さいちよう・藤) → 斉長(まさなが・藤とう、神職/藩士) F 4 0 3 1
 斉朝(さいちよう・初諱) → 恵什(えじゅう;法諱、真言僧) D 1 3 9 5
 最長(さいちよう・神田/古筆) → 了意(りょうい・古筆こひつ/9世、鑑定家) G 4 9 2 1
 最長(さいちよう・平沢) → 了意(りょうい古筆こひつ/9世、平沢/神田、鑑定家) G 4 9 2 1
 采釣亭(さいちようてい) → 太宰(ださい・河瀬/戸田、儒/勤王家) O 2 6 9 2
 在直(さいちよく・唐橋) → 在直(ありなお・唐橋/菅原、廷臣/漢学) F 1 0 5 5
 左一良(さいちりょう→さいちろう・太田) → 佑良(すけよし・太田、農業/国学/歌人) H 2 3 9 2
- G2093 **佐一郎**(さいちろう・岸本きしもと) 1822-58/37 石見大森村の棋士、漢学;山本閑休門、
 囲碁;1838(17歳)初段、将棋;本因坊秀和門;塾頭、1854六段、帰郷;七段目前で急逝、
 没後[上手]を追贈、「常用妙手」「活碁新評」著、学識あり能書家、岩田右一郎の師、
 [佐一郎(;通称)の号] 橋堂
- 左一郎(佐一郎さいちろう・後藤) → 良山(こんざん・後藤ごとう、医者) P 1 9 2 4
 左一郎(さいちろう・中田) → 季文(すえふみ・中田/加藤、庄屋/国学) I 2 3 9 0
 佐一郎(さいちろう・平野) → 庸修(庸脩つねなが・平野、医者/史家) C 2 9 8 5
 佐一郎(さいちろう・原) → 健(たけし・原はら/戸田、医者/国学/歌) Z 2 6 1 0
 佐一郎(さいちろう・頼) → 采真(さいしん・頼らい、藩士/儒者) G 2 0 2 2
 佐一郎(さいちろう・木元) → 焉馬(3世えんば・鳥亭、神官/狂歌) B 1 3 8 5
 佐一郎(さいちろう・武田) → 真興(しんこう・武田たけだ、和算家) O 2 2 3 0
 佐一郎(さいちろう・和田) → 茂寛(しげひろ・和田わた、国学者) a 2 1 1 0
 左一郎(さいちろう・山口屋/森本) → 端山(たんざん・大口、商家/国学/歌) I 2 6 7 6
 左一良(さいちろう・太田) → 佑良(すけよし・太田、農業/国学/歌人) H 2 3 9 2
- G2094 **最鎮**(最珍さいちん;法諱) ? - ? 977存 山城葛野郡上林郷右近馬場の朝日寺の住僧、
 947近江比良宮神官の神み良種・多治比奇子らと天神祠宇を朝日寺に移し北野神社草創、
 976北野寺の檢校を兼ね北野神社を主掌、977「最鎮記文貞元二年」著
- G2095 **最珍**(さいちん;法諱・号;法花房) 1143-1219/77 天台園城寺僧;直円門/天台法義;猷巖門、

- 1218伝法灌頂大阿闍梨/権律師、「大日経義积鈔」著
採珍堂(さいちんどう) → 水谿(すいけい・行方なめかた、本草家) E 2 3 3 6
- G2096 **左逸**(さいつ・浅見あさみ、田鶴樹たづき男)1748-1812⁶⁵ 大阪の医者/俳人;
1795「南山集」1808「吉句安判斎」著、
[左逸(;)号)の別号] 反古庵/天年、
父 → 田鶴樹(たづき・浅見、俳人) 2 6 3 6
- 2097 **济通**(さいつう) ? - ? 江戸の俳人、1739巴人「桃桜」入
齐通(さいつう・二条) → 齐通(なりみち・二条にじょう、廷臣) I 3 2 2 4
济通(さいつう・羽生) → 谷守(たにもり・羽生、里正/俳人) R 2 6 7 5
在通(さいつう・二条) → 在通(ありみち・菅原・唐橋、廷臣/狂歌) D 1 0 1 3
祭通坊(さいつうぼう) → 伴自(ばんじ・長井ながい、俳人;雑俳点者) 3 6 4 6
斎亭(さいてい・久米) → 通礼(みちひろ・久米くめ、庄屋/国学/歌) I 4 1 9 2
載貞(さいてい・村瀬) → 周筋(しゅうせつ・村瀬むらせ、医者) X 2 1 8 3
歳貞(さいてい・としさだ・桂) → 久武(ひさたけ・桂/島津、藩士/日記) B 3 7 2 7
柴雫(さいてき→さいだ) → 柴雫(さいだ、俳人) G 2 0 3 8
齐典(さいてん・松平) → 齐典(なりつね・松平まつだいら、藩主/紀行) H 3 2 6 5
在田(さいでん・県) → 信緝(のぶつぐ・県あがた、家老/日記) C 3 5 0 6
西天庵(さいてんあん) → 文晔(ぶんぎょう・藁井、真宗僧/俳人) F 3 8 0 4
菜田翁(さいでんおう) → 弓雄(ゆみお・山崎、国学者/教育) G 4 6 1 0
菜田楼主人(さいでんろうしゅじん) → 藍園(らんえん・堀口ほりぐち、商家/漢学者) B 4 8 6 1
- 2098 **西洞**(さいどう・藤井ふじ、名;玄芝、見隆男)1730-70⁴¹ 京の醒井松原下ル町の町医者/書家;李北海風、
1780「病家心得舛」、「古方選」「祥庵雑録」著/「西洞遺稿」、
[西洞(;)号)の字/通称/別号]字;子祥、通称;伊織、別号;祥庵
西堂(さいどう;号) → 啓闇(けいあん;法諱・春和、臨濟僧/詩) 1 8 4 5
西堂(さいどう) → 瑞杲(ずいこう;法諱・旭岑、臨濟僧) 2 3 5 3
在藤(さいとう・賀茂) → 在藤(ありふじ・賀茂、陰陽/暦学者/歌) F 1 0 7 4
济東陳人(さいとうちんじん) → 可彦(よしひこ・陸くが、医者) G 4 7 2 3
歳徳(さいとく・物部) → 歳徳(としとこ・物部ものべ、防人歌人) N 3 1 0 2
齐敦(さいとん・一橋) → 齐敦(なりあつ・一橋ひとつばし、廷臣) H 3 2 0 8
在納言(さいなごん) → 行平(ゆきひら・在原ありわら、廷臣/歌人) 4 6 0 9
- 2099 **西日**(さいにち;法諱、源みなもと雅隆男)?-? 平安末期法師;摂津の山寺住、歌人:寂蓮と交流、
新古今集1670、
[八十やそちあまり西の迎へを待ちかねてすみあらしたる柴の庵ぞ](新古;雑1670)、
(摂津の山寺の荒れた籠居に寂蓮が来訪しのちに便りが来たので返歌)
- G2097 **西忍**(さいにん;法諱、俗姓;天竺・楠葉、幼名;ムスル/俗名;天次、ヒジリ男)1395-1486^{長寿92歳}、
父はインドから来日、母;河内国楠葉の人、大和住;興福寺大乘院坊人;門跡一乘院経覚門
得度;法相僧、将軍足利義持の意に従わず一色家預り/父没後に赦免、
1432・53両度遣明船で渡海、海外貿易を力説、1459幕府肥前奉行、
「唐船日記」著
- F2029 **西任**(さいにん・岡本おかもと) ? - ? 江前期大阪の俳人、
1678西鶴「物種集」入、
[きのふは節句山本の里](物種集/前句;穴市あないちも杉の下吹く風淋し;
穴に銭を投込む遊び、山本の里;謡曲「三輪」により杉の下に付く)
- G2098 **济忍**(さいにん;字、法諱;円琳、諡号;聞香院)1787-1853⁶⁷ 越前坂井郡の真宗大谷派円蔵寺住職、
深励門/1847高倉学寮寮司/47擬講、「因明論大疏講義」/1843「因明入正理論大疏癸卯記」著
- G2099 **西忍**(さいにん;通称・国分こくぶ)?-? 江戸期河内の鍼灸医、「西忍医書」「西忍記」著、
「西忍流正伝」「纂明集」「続纂明集」「証鑑抄」「大明景西忍流妙薬集」著
济仁親王(さいにんしんのう) → 济仁親王(せいにんしんのう、真言僧/日記) J 2 4 3 6
最忍法師(さいにんぼうし) → 茂睡(もすい・戸田、歌学革新) 4 4 0 5
西奴(さいぬ・百明台) → 鳥酔(ちようすい・白井、俳人) 2 8 2 4

- B2000 **西念**(さいねん;法諱、三滝上人?)?-1178 真言僧行者;在俗の沙弥、峰定寺を開く、
1142「極樂願往生歌」(48首)著(11400・42の供養目録と共に京松原通に埋蔵;1906発掘)
- B2001 **佐為王**(狭井王さゐのおほきみ、橘宿禰、美努王男?)-737 諸兄弟/聖武近侍/736臣籍、万葉1004左注
- B2002 **佐為王近習婢**(さゐのおほきみのきんじゅうのまかたち?)-? 佐為王に出仕の召使の女性、
万葉歌人;3857(夫を恋ふる歌/左注;宿直勤が続き歎くので佐為王が宿直を免除);
[飯い食はめどうまくもあらず行き行けど安くもあらずあかねさす君が心し忘れかねつも]
才之丞(さいのじょう・岡沢)→ 友儀(ともり・岡沢たおさざわ、藩士/歌人) U 3 1 5 8
齋廼舎(さいのや) → 則庸(のりつね・齋藤さいとう、神職/国学者) I 3 5 5 9
- B2003 **西波**(さいは;釈) ? - ? 僧/俳人;西鶴門、1679西鶴「飛梅千句」入
- N2002 **西坡**(さいは/せいは・和気け、通称;石見屋清右衛門?)-? 安藝御手洗の俳人;樗堂門、
1815師樗堂1周忌追善「都々鳥つどり集」/20師樗堂7回忌追善「つき夜さうし」編、
1825篤老「巖島奉納集三編」入、
[うぐいすやさいはい膝に小盞](巖島奉納集三編)
- G2049 **才坡**(さいは・竹原たけはら) ? - ? 安藝御手洗の俳人;樗堂門、
1816一瓢「俳諧西歌仙」参加:[ことしは寒い閏名月](俳諧西歌仙;名残表10句目)
- C2030 **塞馬**(さいば) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入(120)、
[ひるがへし亦掘り起こす呪幣のろひぬさ](二葉之松;120/前句;生れ生れの人の気は直らく)、
(人を呪って埋めたが思い直して掘り起こす・人の性は善だ)
- F2000 **宰馬**(さいば・吉田よしだ、7代目麻屋喜右衛門?)-1782 名古屋の俳人;暁台門、
1768暁台「秋の日」九月十二日鷗巢おうそうにて興行6吟歌仙6句入、1774美角「ゑぼし桶」1句、
[桃咲て野鼠の面つらのどかなり](ゑぼし桶:79)
- B2004 **才馬**(さいば) ? - ? 江後期安藝大崎下島御手洗の俳人;樗堂門、
1812「萍窓集」編(:師の命で鹿門ろくもんと編集)、
[秋風や年もよらざる富士の山](1814塊翁「いたひさし」入)
- H2003 **西馬**(さいば・楽亭らくてい、西宮新六男)1799-1858⁶⁰ 江戸本材木町の書肆;2代目/戯作:式亭三馬門、
1829火災で家産傾き本屋株譲渡/京橋水谷町に移住;西宮久兵衛と改称、町役を務める、
備書と戯作を業とす;瀬川路考(5世菊之丞)・岩井紫石(7世半四郎)の代作、
1821「東海道小夜白浪」29「艶衣裳二人娘」51-67「弓張月春廼宵栄ゆうばえ」(24編;没後完)著、
1852「菊橋紫雲幕」、「雨こんこん狐のよめ入」、「桃太郎一代記」、「桃太郎一代記」外著多数、
[楽亭西馬(;号)の通称/別号]通称;西宮にしみや源六/西宮久兵衛、
別号;夷福庵/夷福亭宮守/福亭禄馬/夷福山人/楽亭主人
父 → 新六(しんろく・西宮にしのみや、翫月堂、地本問屋) 2 2 9 7
- B2005 **西馬**(さいば・富処[所]ふどころ/志倉、名;弘門)1808-58⁵¹ 上州高崎嘉多町の左官職;1826家職捨てる、
俳人:逸淵門、1844奥州松島瑞巖寺の月方和尚に参禅/46江戸住、新橋宗十郎町に惺庵を開、
のち京橋丸太新道移居;俳諧宗匠として活動、コレラで没、1842「花の雲」46「まねき笠」編、
1847「やとり貝」49「鳳朗発句集」50「亀躍集」51「まさゆめ」53「さつきくも」編、
1856「一翁四哲集」編、「去来伊勢紀行丈草寝転ねろび草」「四季句集」編、「おらが春」跋、
「標注七部集」編(出板前に没;1864門人幹雄みきお上梓)、没後「西馬発句集」(1864移柳編)、
三回忌追悼「其夕集」、幹雄・白亥・幻亜の師、[竹の子にちらりとあたる西日哉]、
[西馬(;号)の字/通称/別号]字;俊明としあき、通称;豊三郎/豊次郎、
別号;樗道・毛軒・惺庵・蕉林子・自喚居士(;剃髪後)、養子;移柳いりゅう
- B2006 **塞馬**(さいば・板倉いたくら)1788- 1867⁸⁰ 三河東加茂郡足助の俳人;岡崎の鶴田卓池門、
出家し諸国遍歴/帰郷;子弟教育、1839「ほそぬの集」編、
1852師卓池7回忌に「青々処句集」編(青々処は卓池の別号)、53「稲の露」62「はなておけ」編、
「五百機集」「いなはた集」編、
[塞馬(;号)の通称/別号]通称;七左衛門、別号;一庵
再馬(初世さいば・初代花屋久次郎)→ 雪成(初世せつせい・芙蓉散人、書肆/俳) E 2 4 4 6
再馬(2世さいば・2代花屋久次郎)→ 菅裏(かんり・雪成舎、書肆/俳/川柳) E 1 5 2 1
塞馬(さいば・虎岩) → 道説(どうせつ・虎岩とらいわ、医者/侍医) G 3 1 0 7
塞馬(さいば・阿部) → 千秋(ちあき・阿部あべ/梅内、代官/俳人) L 2 8 7 5

- 最博(さいはく・平沢) → 了音(りょうおん・古筆こひつ/6世、平沢、鑑定家) G 4 9 6 2
 齊馬雪(さいばせつ) → 馬雪(ばせつ・齊せい、歌伎作者) E 3 6 7 1
- I2062 西畑(さいはた・今治) ? - ? 江前期の俳人、1678西鶴「物種集」入、
 [丹生の山泪の雨やしらすらん](物種集/前句;穴のあくほど君が貞かほ見る、
 撰津八部郡丹生山田庄原野村の土豪栗花落つゆ理左衛門の宅地に梅雨穴;入梅の井あり、
 渡り3尺/深さ一尺;常は水無く梅雨に湧水;その水口の数で入梅の日を定む、
 栗の落花の季節により栗花落つゆ氏を名乗る)
- 才八(さいはち・沢村) → 吉重(よしげ・沢村さわむら、藩の重臣) D 4 7 5 7
 才八(さいはち・森) → 芳材(よしき・森もり、藩士/記録) D 4 7 0 5
 才八郎(さいはちろう・山崎) → 宗矩(むねのり・山崎やまさき、国学者/歌) E 4 2 3 1
 載飛(さいひ・山田) → 三川(さんせん・山田やまだ、儒者/詩人) G 2 0 1 7
- B2007 才尾(さいび・椎本しいのもと・豊島/志村、通称;平治右衛門) 1679-1727/49 江戸堺町俳人・才麿/嵐雪門、
 「花の句集」編/「五麗子歳旦帖」/1718「椎本先生語類」編/「俳林夢想扇」「享保俳諧」著、
 [才尾の別号] 有紀堂/佳風/花月亭/五麗子/篤信斎、法号;日好
- 済美(さいび・三宅) → 済美(みちよし・三宅、玉淵、幕臣/儒者) C 4 1 8 6
 済美(さいび→みちよし?・新井) → 白石(はくせき・新井、儒者) 3 6 1 0
 済美(さいび・横川) → 元凱(もとよし・横川よこかわ、儒者、詩人) E 4 4 7 4
 済美(さいび・若林) → 靖亭(せいいてい・若林友輔、藩士/詩人) J 2 4 2 6
 済美(さいび・桜田) → 簡斎(かんさい・桜田、儒者/勤王派) Q 1 5 6 1
 済美(さいび・中島) → 孝昌(たかまさ・中島なかじま、里正/俳人) D 2 6 7 3
 済美(さいび・有賀) → 秀元(ひでもと・有賀ありが、商家/国学) M 3 7 0 4
 採薇(さいび・谷) → 好井(よしい・谷たに/大神、藩士/国学) C 4 7 1 6
 採薇堂(さいびどう) → 井左(せいさ・浅野あさの、俳人) I 2 4 1 5
 済美堂(さいびどう) → 南峰(なんぼう・竹中たけなか、医者) J 3 2 4 5
 才兵衛尉(さいひょうえのじょう) → 行憲(ゆきり・二階堂、藩士/軍記作者) F 4 6 2 7
- B2008 采蘋(さいひん・原はら、名;猷、原古処の長女) 1798-1859/62 筑前秋月の女流詩人;父門/詩文に長ず、
 父の遺言により1837(30歳)江戸で活動、菅茶山・頼山陽・梁川星巖と交流、1849帰郷私塾開、
 1859父の遺稿出版を求め出郷し途中長門萩で客死、「采蘋詩集」「東遊日記」「東遊漫草」、
 「西遊日歴」「原采蘋文集」「金蘭簿」「漫録」「有煒楼詩稿」著、「采蘋女子遺稿」、
 [采蘋(;号)の別号] 霞窓/有煒楼ゆういうらう、白圭の妹/鳩巢の姉
- 齊敏(さいびん・池田) → 齊敏(なりとし・池田、藩主/日記) H 3 2 7 4
 済夫(さいふ・栗田) → 知周(ともかね・栗田あわた、神職/歌人) P 3 1 3 6
- E2097 西風(さいふう;法諱/釈) ? - ? 江前期上方の僧/俳人、
 1678西鶴「物種集」入、
 [菘の風向ふに当てて継子たて](物種集/前句;三十人は並ぶあしの穂、
 塵劫記;先腹の子15人と当腹の子15人を円陣に並べ10番目20番目に当る子を除く、
 次々除いて行き最後に残った子に家督を継がせるという数学遊戯)
- 西風(さいふう・波多野) → 西風(にしかぜ・波多野はだの、俳人) 3 3 1 9
 歳福(さいふく・内藤/川路) → 聖謨(としあきら・川路/内藤、幕臣/詩歌) M 3 1 0 2
 西仏(さいぶつ、浄土僧) → 信救(しんきゅう;法諱) N 2 2 8 1 ⑤
 才文太(さいぶんた・椿) → 正静(まさしず・椿つばき、神職/国学/歌) Q 4 0 9 7
 宰平(さいへい・広瀬) → 保水(ほすい・広瀬/北脇、実業家) E 3 9 3 5
- H2004 才兵衛(さいべえ・鈴木すずき/初姓;中嶋、名;盛宝/成宝) 1754-? 1801存 幕府金奉行鈴木盛英の養子、
 江中後期幕臣;1791小十人、儒;林家入門/文武に秀でる;時服を賜わる、1801「官事雜記」、
 [才兵衛(;通称)の別通称] 伝蔵
- 才兵衛(さいべえ・田尻) → 梅翁(ばいおう・田尻たじり、藩士/国学者) 3 6 6 8
 才兵衛(さいべえ・平栗) → 義古(よしふる・平栗ひらぐり、陪臣/国学) O 4 7 7 9
 斎兵衛(さいべえ・久保) → 清保(きよやす・久保くぼ、国学者) U 1 6 2 1
 斎兵衛(さいべえ・清水) → 雅見(まさみ・清水しみず、国学/歌人) Q 4 0 0 9
- B2009 最弁(さいべん;法諱) ? - ? 1306存 鎌倉期真言僧、

亀山院が了遍より伝法灌頂を受時の威儀師;1305「亀山院御灌頂記」著、
1306(嘉言4)「結縁灌頂記」、「伝法灌頂珍規抄」著

F2001 **載甫**(さいほ・関せき、名;長博) 1644-1730⁸⁷ 備前岡山の医者/1685豊後岡に移住/96岡藩儒、
侍講;藩の子弟に儒を講ず、1706致仕/26学堂輔仁堂が創設され侍講・子弟教育を継続、
「玉屑操」「春秋胡氏伝諺解」「公道訓」/1713「大道訓」/24「冥可訓」著、
[載甫(;字)の通称/号]通称;正軒/真庵/幸輔、号;一楽/一楽翁/仁堂

西圃(さいほ・小堀) → 永頼(ながより・小堀、藩士/詩人) G 3 2 5 7
犀輔(さいほ・瀬波屋) → 東北斎飲居(とうほくさいいんきよ、狂歌) C 3 0 5 6
西鵬(さいほう) → 西鶴(さいかく・井原、俳人/浮世草子) 2 0 0 1
際鵬(さいほう・法諱・東溟) → 東溟(とうめい;道号・際鵬、黄檗僧) H 3 1 3 3
在豊(さいほう・唐橋) → 在豊(ありとよ・唐橋/菅原、廷臣/漢学) F 1 0 5 4
在方(さいほう・賀茂) → 在方(ありかた・賀茂、陰陽家/暦学者) F 1 0 2 9
在方(さいほう・上野) → 在方(ありかた・上野うえの/大神、藩士/国学) H 1 0 0 7
西方院僧正(さいほういんそうじょう) → 院源(いんげん;法号、天台座主) C 1 1 0 4
西鵬斎(さいほうさい) → 梅朝(ばいちょう・沢井/林、俳人) B 3 6 8 1
西峰山人(さいほうさんじん) → 見林(けんりん・松下まつた、医者/史家) D 1 8 2 6
採芳舎(さいほうしゃ) → 国芳(くによし・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 0 1
西木子(さいぼくし・栗山) → 大膳(だいぜん・栗山、藩家老/黒田騒動) K 2 6 5 0
西丸(さいまる・谷) → 才麿(さいまる・榎本、俳人) 2 0 0 6

2006 **才麿**(さいまる・榎本いのもと・谷/佐々木/生駒) 1656-1738^{83歳} 大和宇陀郡の生、
宇陀藩家老佐々木主人の養子;落ち度あり浪人/一時南都で門、俳人:西武・西鶴門、
宗因に親炙、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入/1677江戸住:調和・芭蕉・言水と交流/
1689大阪住;再度江戸へ旅、感覚的・薫風の静観の句風、
1679「坂東太郎」/81「俳諧次韻」の連衆/92「椎の葉」「後椎の葉」(播磨・豊前の紀行)著、
1692「うきさき」編、「千葉集」「浪花八百韻」など編著多数、
1673「鶯笛」(宇多則武名)・78言水「江戸新道」・82如扶「三ヶ津さんかのつ」/88不卜「続の原」入、
追善集;「白玉椀」「波の入り」「梅の手本」「二日影」「椎の恩爺」など多数、

[小夜の月なぐさめかねつ捨子泣く](坂東太郎)、

(我が心なぐさめかねつ更科や姨捨山に照る月を見て[古今集]のもじり)

[才麿(;号)の通称/別号]通称;八郎右衛門、別号;則武(のりたけ;初号)、西丸/才丸/狂六堂、

旧徳/松笠軒しょうりゅうけん/誹諧一切経堂/槃[繁]特小僧/春理齋、法号;春理院

最明寺殿(さいみょうじどの/最明寺入道) → 時頼(ときより・北条、鎌倉幕府執権) K 3 1 3 4

西明房源心(さいみょうぼうげんしん) → 源心(げんしん・西明房、天台叡山僧) C 1 8 2 9

H2005 **济民**(さいみん・入江いりえ、名;清服、櫛庵の孫) 1824-55³² 陸前仙台藩士、儒詩;藩校養賢堂で修学、
藩主伊達慶邦の小姓;その命で長崎に遊学、「攘夷和議十篇」著、
[济民(;字)の通称/号]通称;長之進、号;北海/摘翠

济民(さいみん・三枝) → 峻徳(しゅんとく・三枝さいぐさ、藩医/教育) L 2 1 6 8

济民(さいみん・金子) → 霜山(そうざん・金子、藩儒/藩政改革) B 2 5 6 2

在民部卿(さいみんぶきょう) → 行平(ゆきひら・在原ありわら、廷臣/歌人) 4 6 0 9

2007 **西武**(さいむ・山本やまもと、名;西武にしたけ/出家後に音読、) 1610-82⁷³ 京の俳人:貞徳門、
貞門七誹仙の1、代々神官の家でもと壬生住/のち京三条梅忠町で綿商、歌;和田以悦門、
古風を守り貞室と確執、
1642「鷹筑波集」編/50「久流留」編、52「ツイスヘ子」57「沙金袋さきんぶくろ」65「アハハ千句」撰、
「菽花」「何迄草」「かくれ蓑」「鳥飼」編、1682如扶「三ヶ津さんかのつ」入、
[鶯の歌や書初め鳥のあと](鷹筑波)、
[雉さじの羽を透けて光は矢の如し](1695不角「水車」入)、
辞世[夜の明て花に開くや浄土門]、
[西武(;号)の通称/別号]通称;綿屋九郎左衛門、別号;無外軒/風外軒/無外斎

F2002 **在明**(さいめい・原はら、在中男/本姓;平) 1778-1844⁶⁷ 京の絵原派絵師;父門/兄在正早世;家督嗣、
有職故実精通;有職画に長ず/禁裏絵所に出仕;内匠大允・内舎人歴任/1842正六上、

奈良春日絵所;以後歴代就任、維龍「四方の硯」挿絵、「石清水臨時祭礼図巻」画、
[在明(;名)の幼名/字/号]幼名;近義、字;子徳、号;写照

西溟(さいめい) → 大潮(だいちよう;道号・元皓、黄檗僧/詩) B 2 6 8 8
西溟(さいめい・山県) → 墨僊(墨僊ぼくせん・山県やまがた、儒/書家) D 3 9 6 3
載鳴(さいめい・山田) → 三川(さんせん・山田やまだ、儒者/詩人) G 2 0 1 7

2008 齊明天皇(さいめいてんのう/皇極こうぎよく天皇、敏達天皇孫の茅渟王の皇女) 594?-661 68? 母吉備姫王、
高向王妻、のち舒明天皇皇后;630立后/642天皇に即位;皇極天皇/645孝徳天皇に譲位、
655孝徳天没後に重祚ちようそ;齊明天皇、岡本宮復興など大規模土木工事や行幸;民心の反感、
661自ら出船し百済救援;筑紫朝倉橘広庭宮で没、天智・天武・間人皇女の母、
歌人;日本書紀6首、万葉一期歌人;3首(8・12・15左注)、続古1391、
[今城いまきなる小丘をわが上に雲だにも著しるくし立たば何か歎かむ](紀;658齊明四年五月)、
(孫の建王たけるのみこ8歳で没;今城谷の上に殯もがりを立て収む)、
[齊明天皇の別名]名;宝皇女たからのひめみこ/諡名;天豊財重日芦姫尊あめとよたからいかしひたらしひめのみこと、
天豊財重日芦姫天皇/明日香川原宮御宇あめのした天皇/後岡本宮のちのおかものみや天皇
左衛門(さいも、延子の女房) → 加賀左衛門(かがのさいも、歌人) 1 5 6 0

B2010 西毛(さいも・松嵐軒しょうらんけん、別号;西茂) ?-? 江前期大阪の談林派俳人;西鶴門、
1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、
1683西鶴「精進膾しょうじんなます」(宗因追善本式百韻)入、
[物真似の婆ばい笑ひしまへは今朝の春](難波色紙;89/歳末に門付に歩く乞食婆)
さいものかみ(醍醐御時菊合参加) → 仲平(なかひら・藤原ふじわら) F 3 2 5 0
最門(さいもん・平沢) → 了延(りょうえん・古筆こひつ/7世、鑑定家) G 4 9 5 6
齊文(さいもん) → 齊文(さいもん・新漢いまきのあや、伎楽伝承) F 2 0 6 8
斎門(さいもん・渡辺) → 斎門(さいもん・渡辺わたなべ、神職/国学) V 1 6 6 4

E2087 西也(さいや・芦谷あしたに/多羅尾たらお) ?-? 江前期大阪の俳人、
1673西鶴「生玉万句」;第四更衣第三句/白雨脇句入、1678西鶴「物種集」入(多羅尾姓)、
[大あくび風もうそ吹く村雨に](生玉万句更衣第三/脇胤久;虎の尾桜待つ郭公、
謡曲「老松」;風も嘯く寅の時神の告をも待ちて見む)
西野(さいや・市河) → 寛斎(かんさい・市河/河、詩人) 1 5 4 8

Q2001 濟祐(さいゆう;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、
1237刊[檜葉集]入、
[橋上雪を、
雪つもるまののつぎはしみわたせば風もさわがでこゆる白なみ](檜葉;344)

B2011 西友(さいゆう・山本やまもと) ? - ? 談林 俳人、西鶴門、1679西鶴五百韻入、
[いろいろよ花よ団子よ上戸よ下戸](五百韻;葛何百韻発句)
西遊(さいゆう;法名) → 範綱(のりつな・藤原、廷臣/歌人) F 3 5 0 8
齊裕(さいゆう・蜂須賀) → 齊裕(なりひろ・蜂須賀、藩主/歌人) I 3 2 0 8
濟祐(さいゆう;法名) → 好仁親王(よしひとしのう・高松宮、連歌) G 4 7 4 7

H2007 在融(ざいゆう;法諱) ? - ? 江後期江戸芝の浄土宗増上寺の僧、
1843(天保14)富士山遊歴;「不二日記」著

西邑海辺(さいゆうかいへん) → 忠兵衛(ちゆうべえ・西村/伊勢屋、指峰堂釋笑、書肆) G 2 8 8 4
西邑居翁山人(さいゆうきよおうさんじん) → 永納(えいのう・狩野、絵師) 1 3 4 4
西誉(さいよ;号) → 資任(すけとう・烏丸/藤原、廷臣/歌人) C 2 3 5 1
在誉(ざいよ・常蓮社) → 祐倫(ゆうりん;法諱、浄土僧) E 4 6 1 3

B2012 西羊(さいよう/せいよう・梧桐亭/養老庵) ?-? 江中期武州騎西西/谷の俳人;涼袋[綾足]門、
江戸に養老亭を構える/武州騎西連の中心的活動、1736涼袋「古今明題集」入、
1760紀行「笠の柳」(夏に蕪村らと交流の記録)/63「宝ほぎ」編、1773几董「明鳥」入;149、
[ゆく春や又この頃のとし忘れ](明鳥;149)

02028 載陽(さいよう・春日かすが) 1812-1886 75 大坂尼崎医者の医者;父を継嗣、儒;藤沢東骸門、
[医心庵]を開塾;医と儒を教授(;1848長岡謙吉が入塾)、名医と称される、
1861(文久元)備前岡山藩に招聘;在坂のまま藩医、

- [載陽(；号)の名/字/通称/別号]名; 頤い、字; 叔寛/子陽、通称; 寛平、別号; 同庵/王台
菜陽(さいよう・壕越) → 二三治(にそうじ、歌舞伎作者) 3 3 0 1
載陽(さいよう・高安) → 蘆屋(ろおく・高安/高、商家/儒・書家) 5 2 4 8
載陽(さいよう・大村/大邨) → 成富(しげとみ・大村/大邨おむら、古銭研究) R 2 1 7 3
載陽軒(さいようけん) → 卦斎(かいさい・高橋たかはし、藩士/俳人) I 1 5 6 4
齊世親王(さいよしのう/はるとき) → 齊世親王(ときよしのう、仁和寺僧) K 3 1 3 3
- G2028 **西誉道方**(さいようほう、法名)?-1665 西鶴の祖父、西鶴を養育
西来居未仏(さいらいきよみぶつ) → 未仏(みぶつ・西来居さいらいきよ、毛受めんじゅ照寛/医・狂歌) F 4 1 7 6
晒落斎(さいらくさい) → 芳幾(よいく・落合/歌川、絵師) C 4 7 1 8
- H2008 **最蘭**(さいらん; 法諱) ? - ? 江中期江戸城西の日蓮僧; 興門派、
1760(宝暦10)「法華百金録」著
彩瀾堂(さいらんどう) → 文海(ふみい・石井い、絵師) E 3 8 0 6
- B2013 **西里**(さいり・岩田いわた) ? - ? 江前期上方の俳人; 西鶴門、
1678西鶴「物種集」入/79西鶴「飛梅千句」入、
[ぬけ参り七騎と成りて木曾越に](物種集/ぬけ参り; 親や主人に無断で参宮する道者、
前句; わづかに残る銭は戻りじや、銭は戻り; 見世物木戸の口上、
謡曲「兼平」; 僅かに残る兵の七騎となりて木曾殿は)
- P2070 **西里**(さいり・山口やまぐち、) 1739-1799 61 伊予宇和島の生/少年期; 上京し儒者; 伊藤仁斎門、
古義学を修学; 帰国; 子弟教育/寛政年間(1789-90)頃安藝広島藩家老上田主水に出仕、
儒臣として講学所で指導/傍ら私塾[柳花園]を開設し教育、徂徠派の劉元高と並称、
1799(寛政11)没、山口西園・鳴鶴の父、
[西里(；号)の名/通称]名; 直道、通称; 貫右衛門
柴籬(さいり・吉井) → 正伴(まさとも・吉井/田坂屋、和漢学/神道) E 4 0 7 2
柴籬(さいり・野坂) → 完山(かんざん・野坂、医者/俳人) Q 1 5 8 0
柴立園(さいりつえん) → 莎青(させい・柴立園、俳人) B 2 0 6 7
柴立子(さいりつし/さいりゅうし) → 惺斎(せいさ・藤原、儒者) 2 4 0 3
柴籬内(さいりない) → 稍隆(すえたか・森野もりの、農業/国学/歌) J 2 3 3 1
- H2009 **西流**(さいりゅう・西村にしむら/中西)?-? 大阪の俳人、1678西鶴「物種集」91賀子「蓮実」1句入、
[雨舎あまやどり公家としらするほたる哉](蓮実; 213/源氏物語の蛍連想)
- B2014 **西柳**(さいりゅう) ? - ? 俳人、江戸の判者、1714「俳諧媒口」入
- F2003 **採瘤**(さいりゅう・鬼窟きくつ) ? - ? 狂歌作者、1782初笑不琢玉はつわらいみがかぬたま・万載集入
- C2009 **再竜**(さいりゅう; 法諱、俗姓; 牧野)?-? 幕末明治期の曹洞僧、越後の生、
上野群馬郡箕輪村竜門寺住僧、詩人、「初生集」「再生集」「西毛野唱」著、
[再竜(；法諱)の別法諱] 皆梅(かいばい(；初法諱)/道介どうかい
細流(さいりゅう・桜井) → 元茂(もとしば・桜井さくらい、藩士/国学者) C 4 4 6 2
- B2015 **賽笠翁**(さいりゅうおう、通称; 荒物屋源兵衛)?-? 大阪雑喉場町の書肆、1807浄瑠璃「瑠璃天狗」著
細流軒(さいりゅうけん) → 長久(ちようきゅう・大野、俳人) H 2 8 8 4
細柳書屋(さいりゅうしょおく) → 春三(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者) K 2 1 2 1
載竜堂(さいりゅうどう) → 幸雄(ゆきお・鏑木かぶらき、神職/国学) G 4 6 2 3
最了(さいりょう・岩橋) → 長泰(ながやす・岩橋いわはし、庄官/歌人) L 3 2 2 4
在良(さいりょう・菅原) → 在良(ありよし・菅原、廷臣/漢学/詩歌) C 1 0 0 3
- G2040 **催林**(さいりん) ? - ? 江戸俳人、沾州座点者、1754竹翁「童の的」点句入
才林(さいりん) → 長雅(ながまさ・高辻、廷臣/漢学) F 3 2 7 0
西林院宮(さいりんいんのみや) → 承覚法親王(しょうかくほうしんのう、天台門跡/歌人) F 2 2 8 8
西嶺(さいれい・磯田) → 健斎(けんさい・磯田いそだ、儒者/書) I 1 8 9 3
齊礼(さいれい・一橋) → 齊礼(なりり・一橋、廷臣) I 3 2 0 0
在列(さいれつ・橋) → 在列(ありつら・橋たちばな、廷臣/天台僧/詩) B 1 0 8 0
- B2026 **西蓮**(さいれん; 法諱) ? - ? 南北室町期?の尼僧/歌人、新続古今集1592、
[別れてはながらふべくもなかりしにあればあらるるうき身なりけり]、
(新続古; 哀傷1592/親しかつた男と死別して)

- 彩連(さいれん・梅辻) → 秋漁(しゅうぎよ・梅辻/琴、神職/儒者) W 2 1 9 0
 在廉(さいれん・唐橋) → 在廉(ありかど・唐橋/菅原、廷臣/漢学) F 1 0 3 0
 採蓮社(さいれんしゃ) → 有一(ゆういち・三浦みづら、俳人) 4 6 5 5
 西蓮社了譽(さいれんしゃりょうよ) → 聖岡(しょうがい;法諱、浄土僧/宗学) Q 2 2 9 6
 載紹(さいる・竹田/武田) → 騏六(きろく・武田/竹田、酒造業/俳人) H 1 6 7 0
 菜通庵(さいらあん) → 周竹(2世しゅうちく・平尾、俳人) I 2 1 0 8
 西六(さいろく・山本) → 善右衛門(ぜんえもん・鴻池、商人/俳人) L 2 4 7 5
 在六(さいろく・箕曲) → 在六(ありむつ・箕曲みわ/秦、暦算家) F 1 0 8 6
 西鷺軒橋泉(さいろけんきょうせん) → 橋泉(きょうせん・西鷺軒、黄檗僧/浮世草子) O 1 6 2 2
- B2017 西和(さいわ) ? - ? 大阪の談林派俳人、1683西鶴「精進膾」入
 B2018 再和坊(さいわぼう・河村かわむら) 1726-8661 美濃北方俳人・五竹坊門;美濃派、京で医業、再和派を興す、
 1767「一日桜」76「磯つたひ」79「道理の梅」80「秋の風」85「俳諧明鑑」編、「青田のさそひ」編、
 [再和坊(;号)の通称/別号]通称;朴斎、別号;隴庵/観之坊/白朶/獅子庵5世/芋栗主人
 西湾(さいわん・亀田) → 敦(あつし・亀田、商家/儒/詩) E 1 0 6 5
- N2001 茶隠(さいん・通称;栗田屋太郎兵衛)?-? 江後期備後三原の俳人;
 1820「三原茶隠書画帖」(篤老序)、1825篤老「巖島奉納集三編」入、
 [元日やことしも酒は飲むつもり](巖島奉納集三編)
- F2004 坐隠(ざいん) ? - ? 俳人:鳥酔門/1758師と伊賀旅行:「冬扇一路」入
 O2034 小枝(さえ・楠瀬くすのせ、清蔭[1743-90]2男) 1788-185568 大枝おえ(1776-1835)の弟、医者、歌人、
 [小枝(;名)の通称/号]通称;金吾/竹次郎/橋次、号;春斎/榎山きょうざん/榎山坊
 小枝(こえだ・楠瀬) → 小枝(さえ・楠瀬くすのせ、医者/歌人) O 2 0 3 4
 左英(さえい・岩本) → 乾什(けんじゅう・岩本、妓楼主人/俳人) C 1 8 0 7
 左衛(さえい・水沢) → 清隆(きよたか・水沢みづさわ、神職/国学) V 1 6 3 7
 左衛士(さえいじ・鬼沢) → 大海(おほみ・鬼沢おにさわ、国学者/歌) C 1 4 8 4
 左衛士(さえいじ・本居) → 清島(きよしま・本居もとおり、国学者/歌) D 1 6 2 2
 左衛士(さえいじ・田所) → 顕周(あきかね・田所たどころ/海野、庄屋/歌) G 1 0 8 5
 左衛士(さえいじ・岩坂) → 建平(たけひら・岩坂いわさか/大神、神職) V 2 6 7 3
 左衛次(さえいじ・箕作みつくり) → 省吾(しょうご・箕作/佐々木、洋学/地理) J 2 2 7 2
- B2019 佐伯宿禰東人妻(さえきのすくねあずまひとのつま)?-? 万葉三期四621:732年西海道節度使判官の夫に贈歌、
 [間あひだなく恋ふれにかあらむ草枕旅なる君が夢いめにし見ゆる](万葉;621/夫への贈歌)
 参照 → 東人(あずまひと・佐伯宿禰さえきのすくね、廷臣/妻への返歌) B 1 0 1 4
- N2034 小枝子(さえこ・斎田さいた、長崎長十郎重行女) 1825-9167歳 武蔵瀬田村名主の家/和漢学/歌;父門、
 武蔵代田村名主で製茶業斎田家10代目平太郎東岱の妻、「斎田小枝子撰集」あり、
 江口忠房・太田子徳らと交流、1850太田子徳招聘で父長崎重行別邸占勝邸の集い参加;
 ;江口忠房「瀬田之記」に玉川八景[土峰雪晴]の歌入
 左衛士(さえいじ・十市) → 安居(やすあき・十市とおち、藩士/絵師) G 4 5 3 0
 左衛士(さえいじ・中山) → 幸彦(さちひこ・中山なかやま、神職/国学) O 2 0 9 7
 小枝繁(さえだしげる;号) → 繁(しげる・小枝さえだ、姓;露木つゆき、幕臣/読本作者) D 2 1 4 1
- B2020 佐越(さえつ・伊藤いとう、医者遠坂柳仙男)?-? 江中期筑前秋月の生、祖父;久留米中町大乘院山伏、
 筑前久留米呉服町の井筒屋庄兵衛の養子、俳人:1702野坡の来訪時に入門、
 1705野坡を迎え興行;「杉丸太」編、1733藩主有馬頼僮よりゆきに招聘;俳諧指導/寵愛される、
 のち不人品により人々から疎外;晩年は窮迫生活、長野野紅の妻(りん)の弟、
 [佐越(;号)の通称/別号]通称;井筒屋安右衛門、別号;岱山/岱翁
 道祖王(さえのおおきみ) → 道祖王(ふなののおおきみ) 3 8 1 3
- G2046 左衛門(さえもん) ? - ? 平安前期歌人、三条左大臣藤原頼忠家の女房、
 972女四宮(規子内親王)歌合(;左衛門君名)/977三条左大臣頼忠家前裁合参加、
 [とこなつの露うちはらふよひごと草の香うつる我が袂かな]、
 (女四宮歌合;9/大系13、芸うん・くさのかう)
- N017 左衛門(さえもん・赤松あかまつ)?-? 江後期播州加東郡下来住村住の浪人、
 先祖は大和郡山の浪人/島原の乱のとき姫路城下に移住し来住文左衛門を名乗る、

3代目の時赤松姓に復す、1796「赤松左衛門書上」著

- F2006 **佐右衛門** (さえもん・田丸たまる) ?- ? 江戸講師、夜講釈
- F2005 **佐右衛門** (さえもん・並木なみき) ?- ? 江後期歌舞伎作者; 1830-60頃大阪で合作に参加、
長唄の作詞、1849「桜舞台近江八景」53「浮名立野辺恋種」54「明烏入梅時濡事」、
1854「校姿三番叟」「御伽話譚誉高橋」/59「油売恋山崎」著
- 左衛門 (さえもん・延子女房) → 加賀左衛門 (かがのさいも、歌人) 1 5 6 0
- 左衛門 (さえもん) → 藤左衛門 (とうざえもん・内藤、謡曲作者) E 3 1 4 6
- 左衛門 (さえもん・下田/浅井) → 奉政 (とまさ・浅井、幕臣/故実) Q 3 1 5 4
- 左衛門 (さえもん・筑紫) → 従門 (よしかど・筑紫、藤原、幕臣/神道) I 4 7 5 3
- 左衛門 (さえもん・伊達/桑折) → 宗臣 (むねしげ・桑折こおり、藩家老/歌/俳人) B 4 2 4 2
- 左衛門 (さえもん・甲良) → 宗員 (むねかず・甲良こうら/藤原、幕臣/工匠) B 4 2 1 6
- 左衛門 (さえもん・横瀬) → 貞隆 (さだたか・横瀬よこせ/源、幕臣/歌人) N 2 0 2 1
- 左衛門 (さえもん・伊勢) → 貞意 (さだおき/さだむね・伊勢いせ/平、故実家/藩士) J 2 0 8 5
- 左衛門 (さえもん・赤松) → 文左衛門 (ぶんざえもん・来住) F 3 8 3 4
- 左衛門 (さえもん・亀田) → 末雅 (すえもと・亀田/藤原/度会/福井/黒瀬、神職) F 2 3 3 5
- 左衛門 (さえもん・藤田) → 安定 (やすさだ・藤田、藩士/日記) B 4 5 5 1
- 左衛門 (さえもん・佐藤) → 貞寄 (さだより・佐藤/宇多、藩士/詩歌) C 2 0 6 9
- 左衛門 (さえもん・岡田) → 磐斎 (ばんさい・岡田、正英門/神道家) H 3 6 6 8
- 左衛門 (さえもん・荒木田/藤波) → 氏胤 (うじたね・藤波ふじなみ、神職) C 1 2 4 3
- 左衛門 (さえもん・太田) → 玩鷗 (がんおう・太田おた、儒者/詩人) G 1 5 1 4
- 左衛門 (さえもん・京極) → 高亮 (たかすけ・京極きょうごく、幕臣) M 2 6 1 1
- 左衛門 (さえもん・桑折) → 宗頼 (むねより・桑折こおり/くわおり、家老/歌) D 4 2 8 0
- 左衛門 (さえもん・神野) → 世猷 (せいゆう・神野じんの/服部、藩士/儒) J 2 4 6 6
- 左衛門 (さえもん・足利) → 義根 (よしね・足利/源/平嶋、詩人) F 4 7 4 9
- 左衛門 (さえもん・榊原) → 職尹 (もとただ・榊原/源、幕臣/記録) C 4 4 9 3
- 左衛門 (さえもん・栗田) → 知周 (ともかね・栗田あわた、神職/歌人) P 3 1 3 6
- 左衛門 (さえもん・島津) → 久徴 (ひさなが・島津しまづ、藩家老/日記) B 3 7 7 1
- 左衛門 (さえもん・黒田) → 増熊 (ますくま・黒田/立花、藩家老/歌) I 4 0 9 7
- 左衛門 (さえもん・石川) → 成章 (しげあき・石川いしかわ、幕臣/日記) B 2 1 7 9
- 左衛門 (さえもん・岡本) → 氏足 (うじたり・岡本おかもと/賀茂、神職/書家) E 1 2 6 2
- 左衛門 (さえもん・跡見) → 重敬 (しげよし・跡見あとも、国学者) N 2 1 1 9
- 左衛門 (さえもん・酒居) → 角尾 (すみお・酒居さかい、藩士/歌人) I 2 3 5 5
- 左衛門 (さえもん・野々山) → 包弘 (かねひろ・野々山のをやま、歌人) S 1 5 9 1
- 左衛門 (さえもん・羽太) → 政方 (まさみち・羽太はた/藤原、旗本/歌) M 4 0 1 1
- 左衛門 (さえもん・横瀬) → 貞征 (さだゆき・横瀬よこせ/松平、旗本高家) N 2 0 3 9
- 左衛門 (さえもん・横瀬) → 貞利 (さだとし・横瀬よこせ、神職/国学) P 2 0 7 6
- 左衛門 (さえもん・栗原) → 茂景 (しげかげ・栗原くりはら/角井、神職/歌) O 2 1 3 2
- 左衛門 (さえもん・高林) → 豊鷹 (とよたか・高林たかばやし、国学/歌人) V 3 1 6 6
- 左衛門 (さえもん・西村) → 遠里 (とおさと・西村にしむら、商家/暦算家) I 3 1 5 9
- 左衛門 (さえもん・松葉) → 政直 (まさなお・松葉まつば、国学者/歌) S 4 0 7 2
- 左衛門 (さえもん・木綿屋) → 其湛 (つねやす・齋藤さいとう、酒造業/歌人) F 2 9 7 3
- 佐右衛門 (さえもん・松下) → 筑陰 (ちくいん・松下まつした、藩士/儒者) C 2 8 5 1
- 佐右衛門 (さえもん・桜井) → 元茂 (もとしげ・桜井さくらい、藩士/国学者) C 4 4 6 2
- 佐右衛門 (さえもん・赤林) → 新助 (しんすけ、赤林あかばやし、藩士) P 2 2 0 1
- 佐右衛門 (さえもん・真野) → 正陳 (まさつら・真野まの、幕臣/和学者) S 4 0 4 9
- 佐右衛門 (さえもん・斎藤) → 季義 (すえよし・斎藤さいとう、商人/歌人) F 2 3 7 5
- 佐右衛門 (さえもん・嶋屋) → 大江丸 (おおえまる・安井/大伴、飛脚問屋/俳人) 1 4 0 3
- 佐右衛門 (さえもん・大館) → 信郷 (のぶさと・大館おおだち、国学者) H 3 5 7 0
- 佐右衛門 (さえもん・神谷) → 道一 (みちかず・神谷かみや、国学/史家) I 4 1 7 0
- 佐右衛門 (さえもん・椿居) → 令為 (のりため・椿居つばきい/平、藩士/歌) J 3 5 2 4

- 左衛門五郎(さえもんごろう・榎並)→ 榎並の左衛門五郎(えなみのさえもんごろう、能作者) B 1 3 6 5
 左衛門太郎(さえもんたろう・勝)→ 夢酔(むすい・勝かつ/男谷、幕臣) 4 2 7 7
 左衛門太郎(さえもんたろう・平尾)→ 元義(もとよし・平賀、平尾/興津/犬丸、地誌/歌人) 4 4 2 4
 左衛門入道(さえもんにゅうどう・石橋)→ 和義(まさよし/かずよし・斯波しば/源、武将/歌) I 4 0 4 0
 左衛門督(さえもんのかみ・畠山)→ 政長(まさなが・畠山/源、管領/連歌) F 4 0 1 7
 左衛門督(さえもんのかみ;号)→ 実従(じつじゅう;法諱、真宗本願寺法印/歌) E 2 1 9 7
 左衛門督(さえもんのかみ・徳川)→ 頼房(よりふさ・徳川/源/松平、初代水戸藩主) J 4 7 6 9
 左衛門督(さえもんのかみ・徳川)→ 治保(はるもり・徳川、藩主/修史事業) H 3 6 0 2
 左衛門督(さえもんのかみ・徳川)→ 斉脩(なりのお・徳川、藩主/雅楽/詩) H 3 2 9 6
 左衛門督北方(さえもんのかみのきたのかた)→ 師忠室(もろただのしつ・源、後拾遺歌人) H 4 4 3 8
 左衛門督法印(さえもんのかみのほういん)→ 弘賢(こうけん・くけん;法諱、真言僧/歌) 1 9 9 9
 左衛門督法印(さえもんのかみのほういん)→ 光室(こうぼう;法諱、真言醍醐寺僧) L 1 9 2 0
 左衛門権佐(さえもんのごんのすけ・蒔田)→ 広定(ひろさだ・蒔田また、武将/藩主) F 3 7 8 3
 左衛門少尉(さえもんのしょうじゅう・小野)→ 政春(まさはる・小野おの、官人/儒/詩歌) O 4 0 1 8
 左衛門丞(さえもんのかみ)→ 保房(やすぶさ・堀内ほりうち、神職/国学) G 4 5 5 7
 左衛門尉(さえもんのかみ)→ 長泰(ながやす・進藤しんどう、連歌) G 3 2 1 5
 左衛門尉(さえもんのかみ・佐渡四郎)→ 時秀(ときひで・鞍智くらち/佐々木/源、武将) J 3 1 8 6
 左衛門尉(さえもんのかみ・牧野)→ 古白(こはく・牧野成時、武将/連歌) N 1 9 4 1
 左衛門尉(さえもんのかみ・相良)→ 為統(ためつぐ・相良さがら、武将/連歌) S 2 6 5 1
 左衛門尉(さえもんのかみ・古橋)→ 又玄(またはる・古橋、武将/軍記作者) J 4 0 5 3
 左衛門尉(さえもんのかみ・甲良)→ 宗広(むねひろ・甲良こうら、工匠/幕臣) C 4 2 3 9
 左衛門尉(さえもんのかみ・酒井)→ 忠徳(ただのり/ただあり・酒井、藩主/歌/俳) F 2 6 6 2
 左衛門尉(さえもんのかみ・佐治)→ 成爲(なりため・佐治さじ、藩士/歌人) M 3 2 1 8
 左衛門尉(さえもんのかみ・奥平)→ 昌高(まさたか・奥平/島津、藩主/蘭学) D 4 0 2 3
 左衛門尉(さえもんのかみ・川路)→ 聖謨(としあきら・川路/内藤、幕臣/詩歌) M 3 1 0 2
 左衛門尉景元(さえもんのかみかげもと・遠山)→ 金四郎(きんしろう・遠山、幕臣/町奉行) I 1 6 0 3
 B2021 左衛門佐(さえもんのかみ・章善門院しょうぜんもんいん)?-? 鎌倉期女房/歌人、
 章善門院永子[後深草天皇皇女/?-1338]に出仕、玉葉集2382、
 [先立つもとまるもおなじ夢の世をよそにおどろく身さへはかなき](玉葉;雑2382)、
 (式乾門院御匣の葬儀後の歌)
 左衛門佐(さえもんのかみ・藤井)→ 高雅(たかまさ・藤井ふじい、神職/歌人) D 2 6 7 4
 左衛門佐(さえもんのかみ・遠山/猿渡)→ 盛道(もりみち・猿渡さわたり/遠山、神職) G 4 4 5 7
 左衛門佐(さえもんのかみ・畠山)→ 義統(よしむね・畠山、武将/守護/連歌) H 4 7 5 8
 左衛門佐(さえもんのかみ・松平)→ 乗興(のりおき・松平まつだいら、幕臣/和学) K 3 5 0 4
 左衛門大尉(さえもんのかみだいじゅう・並河)→ 尚教(ひさのり・並河なみかわ・なび-平、医者) B 3 7 8 0
 左衛門太夫(さえもんのかみたいふ)→ 頼慶(らいけい・下間しもつま、本願寺坊官) 4 8 3 5
 左衛門大夫(さえもんのかみたいふ)→ 景慶(かげよし・藤原ふじわら、記録) L 1 5 4 5
 左衛門大夫(さえもんのかみたいふ・寺町)→ 通昭(みちあき・寺町てらまち、記録) B 4 1 0 4
 左衛門大夫(さえもんのかみたいふ・千秋/藤原)→ 高範(たかのり・千秋せんしゅう、廷臣/歌人) D 2 6 4 3
 左衛門大夫(さえもんのかみたいふ・福島)→ 正則(まさのり・福島、武将/藩主/連歌) F 4 0 9 2
 左衛門太夫明鏡(さえもんのかみだゆうめいきやう)→ 勝房(かつふさ・高井、神職/俳人) N 1 5 8 3
 B2022 左衛門内侍(さえもんのかみないし)?-? 平安期女房歌人、仲文と贈答、「仲文集」入
 左衛門入道(さえもんにゅうどう、十訓抄著?)
 → 六波羅二膳左衛門入道(ろくはらのじろうざえもんにゅうどう) C 5 2 5 2
 左衛門入道(さえもんにゅうどう・門真)→ 寂意(じやくい;法諱、廷臣/室町幕臣/連歌) G 2 1 0 6
 佐恵流(さえる・金錦きんきん)→ 金錦佐恵流(きんきんさえる、洒落本作者) H 1 6 7 9
 沙園(さえん・山田) → 重秋(しげあき・山田やまだ、漢学/大肝煎) a 2 1 0 2
 さを(佐尾子さおこ・松前)→ 梅好子(ばいこうし・松前まつまえ/土橋、藩主室/歌) K 3 6 8 2
 M2099 沙鷗(さおう) ?-? 備後福山俳人;1727木而「藪の井」29兔城「門鳴子」入
 B2023 沙鷗(さおう・森本もりもと/本姓;平、名;寛)1783-1843 名古屋の酒造業/町代を2度、俳人・士朗門、

煎茶・笛を嗜む、1831「一二三」32「そのいのち」35「はるのくれ」編、35「しまやま日記」著、
「沙鷗発句集」「帯川居遺稿」(没後1845刊)、
[沙鷗(；号)の字/通称/別号]字；君栗、通称；井桁屋治右衛門、別号；帯川居/嵐亭、
法号；帯川沙鷗翁

沙翁(さおう・古賀) → 茶溪(さけい・古賀こが/劉、幕府儒官) G 2 0 1 4

沙鷗(査翁さおう・益戸) → 滄洲(そうしゅう・益戸ますこ、藩士/儒/詩) H 2 5 7 7

沙鷗(さおう・河津) → 直入(なおいり・河津がかわづ、藩士/歌人) L 3 2 7 6

蓑翁(さおう) → 杉風(さんぷう・杉山、俳人) 2 0 5 6

沙鷗閑人(さおうかんじん) → 滄洲(そうしゅう・益戸ますこ、藩士/儒/詩) H 2 5 7 7

佐尾子(さおこ・松前) → 梅好子(ばいこうし・松前まつまえ/土橋、藩主室/歌) K 3 6 8 2

B2058 樟鹿巻筆(さおじかのまきふで) ? - ? 江戸の女流狂歌作者；芝連、徳和歌後万載集1首：472、
1786普栗釣方「狂歌知足振しつたりぶり」入、

[これほどにまつといひたや簪かんざしのしやんと畳へたつたひと言](後万載：472/待恋)

竿丸(さおまる・筏) → 筏竿丸(いかだのさおまる、松坂治郎吉、狂歌) F 1 1 1 8

左織之助(さおりのすけ・笠因) → 清雄(すがお・笠因かさより、神職/歌人) F 2 3 8 0

F2014 左花(さか) ? - ? 京の俳人；淡々門、1729柳岡「万国燕」2句入(142/145)、
[おさなき馬のたけき春の江](万国燕；145/草萌える河原の若駒)

C2077 佐賀(さが・山田やまだ) ? - ? 安藝広島の俳人；「糸瓜の句」作

嵯峨(さが) → 信嗣(のぶつぐ・大炊御門おおいみかど、太政大臣) C 3 5 0 4

境川翁(さかいがわおう) → 英純(ひでずみ・萩原はざむら、農業/国学) K 3 7 6 2

佐介上人(さかいしょうにん) → 良忠(りょうちゅう；法諱、浄土宗第三祖) I 4 9 8 7

B2063 堺文道(さかいのふみみち) ? - ? 狂歌/1787「才蔵集」入；362

[節ごとに千代をこめてや幾せたけ日に日にのぶる竹の子どもら]

B2024 境部王(坂合部王さかいべのおおきみ、穂積親王男) ?-? 奈良期廷臣；717従四下/721治部卿、
歌；万葉三期歌人；卷十六3833、詩；懐風藻2首、

[虎に乗り古屋を越えて青淵に咬竜みつち捕り来こむ剣大刀つるぎたちもが]

P2042 栄(さかえ・松平まつだいら、讃岐高松藩主松平頼恭6女) 1777-? 江戸生/歌人、
上野館林藩主松平武寛(1754-84)の正室、斉厚なりあつ(1783-1839)の母、
1784(天明4)夫が31歳で没；長男斉厚が2歳で家督嗣、
[栄(；名)の通称]栄姫さかえひめ

02084 栄(さかえ・戸谷とや、旧姓；上野) 1837-9862 飛騨高山の神職、
国学；山崎弘泰/佐々木弘綱門、歌人、
[栄(；名)の号]朴斎/菊栖

栄(さかえ・白石しらいし) → 桃花洞(とうかどう・白石、儒/道学) C 3 1 2 5

華(さかえ・伊勢) → 氏摩(うじあき・北条ほうじょう/伊勢いせ、藩士/詩) E 1 2 8 7

栄姫(さかえひめ・松平) → 栄(さかえ・松平まつだいら、藩主室/歌人) P 2 0 4 2

栄屋(さかえや?・猪熊) → 方主(かたぬし・猪熊いのくま/卜部、神職) N 1 5 0 4

酒甕の是飲(さかがめのこれのみ；狂名) → 瑞枝(みずえ・細木ほそぎ、庄屋/農政/歌) 4 1 9 0

N2088 栄樹(さかき・一宮いちのみや) 1846-190257 上野榛名山新居守村の榛名神社祠官/権中教正、
[栄樹(；名)の号]如竜華道/一守

栄木(佐可喜さかき・羽田野) → 敬雄(たかお・羽田野はたの、神職/国学者) C 2 6 5 4

榊蔭(さかきかげ) → 桜老(おうろう・加藤、儒/国学/尊王派) C 1 4 7 3

榊園(さかきぞの) → 義成(よしなり・伊部いべ、藩士/歌人) F 4 7 4 3

榊園(さかきぞの) → 尚方(なおかた・神尾かみお、国学/歌) L 3 2 6 3

榊園(さかきぞの) → 訓重(のりしげ・木口きぐち/垣屋、国学/神職) I 3 5 0 7

榊園(さかきぞの) → 直威(なおさね・富奥とみおく、神職/国学) O 3 2 0 0

榊園(さかきぞの) → 磐夫(いわお・前川/藤原、神職/国学) K 1 1 6 6

栄樹園(佐加伎園/賢樹園さかきぞの) → 敬雄(たかお・羽田野、神職/国学者) C 2 6 5 4

栄樹園(さかきその・小栗) → 広伴(ひろとも・小栗おぐり、国学/歌人) G 3 7 5 4

賢木園(さかきその・鈴木) → 直道(なおみち・鈴木すずき/藤原、神職/歌) L 3 2 4 3

- 榊亭(さかきてい) → 煥光(あきみつ・春木はるき、神職/本草家) D 1 0 9 8
 榊戸(さかきど) → 義芳(よしふさ・中村なかむら、国学者) O 4 7 2 3
 榊院(さかきのいん) → 保敬(やすたか・小泉/坂上、国学者) B 4 5 8 4
 賢木園(さかきのその・内藤) → 広前(弘前ひろさき・内藤、幕臣/国学者) F 3 7 8 0
 賢木園(さかきのその) → 高軈(たかとも・鈴木、神職/国学) D 2 6 2 6
 賢木園(さかきのその) → 邦直(くになお・枝窪えだくぼ、神職/国学) D 1 7 9 9
 賢木園(さかきのその) → 武文(たけふみ・白玖はく/しらく、神職/歌) V 2 6 1 5
 賢木園(さかきのその) → 千秋(ちあき・吉永よしなが/藤原、神職/画) N 2 8 7 9
 榊の壺(賢樹壺さかきのつぼ) → 致和(むねかず・武藤/藤原、商家/国学) B 4 2 1 8
 榊の舎(さかきのや) → 義恭(よしやす・多紀たき、藩士/国学/歌) H 4 7 8 0
 榊廼舎(さかきのや) → 政昌(まさよし・石神いしがみ/藤原、国学/歌) N 4 0 5 7
 榊廼舎(さかきのや) → 巖(いわお・齋木さいき/藤原、神職/国学) K 1 1 2 8
 榊舎(さかきのや) → よりあきら(・三上みかみ/源、神職) I 4 7 3 6
 榊舎(さかきのや) → 磐夫(いわお・前川/藤原、神職/国学) K 1 1 6 6
 榊舎(さかきのや) → 弓雄(ゆみお・矢掛/矢懸やがけ、国学/神職/歌) H 4 6 3 8
 賢木之舎(さかきのや) → 光憲(みつあきら・大滝/田中、商家/国学) E 4 1 4 8
 彭城百川(さかきひやくせん) → 百川(ひやくせん・榊原さかきばら、絵師/俳人) E 3 7 6 4
 榊屋(さかきや) → 常正(つねまさ・内野うちの、国学者) D 2 9 7 4
 榊山勘介(さかきやまかんすけ;号) → 勘介(かんすけ・榊山、歌舞伎作者) E 1 5 0 1
 左格(さかく・姥柳) → 有莘(ゆうしん・姥柳うばやなぎ、藩士/儒者) C 4 6 7 5
 左覚(さかく・田村) → 顕国(あきくに・田村たむら、国学者/神道) H 1 0 8 6
 F2009 **左角齋**(さかくさい・風落着山人ふらつきさんじん;姓名不詳)?-? 江戸の滑稽本作者;
 1774「浮世くらべ」(;迷歩まごつき屋版)
 N2027 **佐加子**(坂子さかこ・須賀すが、須賀直見[直躬なおみ1742-76]女)?-? 伊勢松阪の歌人、
 本居大平「八十浦の玉」中巻;3首入、
 [大神の御言かしこみ垂らし姫たひらげましし三つのから国]、
 (八十浦;618/古事記伝竟宴頌題;息長帯比売命を詠;617-619)
 嵯峨居士(さがごじ) → 涌蓮(ようれん;号・慧亮えりょう;法諱、真宗高田派僧/歌) B 4 7 6 4
 坂下上人(さかしたのしょうにん) → 良暎(りょうぎょう;法諱、浄土;白旗流祖) H 4 9 0 7
 坂下菟麻呂(さかしたのつまる) → 拙斎(せつさい・西山/坂本、医儒/詩歌) E 2 4 3 0
 嵯峨禅尼(さがぜんに) → 俊成卿女(としなりきょうのむすめ・藤原) 3 1 4 5
 坂田十郎(さかたのじゅうろう) → 忠時(ただとき・北条、幕臣/歌人/連歌) F 2 6 3 5
 阪田舎居(さかたのやきよ) → 芳滝(よしたき・歌川うたがわ/中井、絵師) E 4 7 1 5
 坂徴(さかちよう;坂は姓) → 徴(ちよう・坂、国学者) H 2 8 0 7
 酒月米人(坂月-さかづきのこめんど) → 米人(こめんど、狂歌) D 1 9 9 5
 B2025 **嵯峨天皇**(さがてんのう、名;加美能/神野、桓武天皇第2皇子) 786-842 57、
 母;皇后乙牟漏(藤原良継女)、在位809-823/讓位後も皇室家長として君臨、
 冷然院・嵯峨院に住、律令再編強化を図る、
 「弘仁式」「新撰姓氏録」の編纂を命ず/詩歌人;凌雲・文華秀麗・経国集撰進を下命、
 能書家;空海・橘逸勢はやなりと合わせ三筆、「三元表白」「田邑麻呂伝記」/818「新修鷹経」著、
 勅撰詩93首・賦3首;凌雲22首/文華秀麗34首/経国39首、歌;続後拾遺1首267
 [皆人のその香にうつる藤袴君がためにと手折りつるかな](続後拾;秋267、
 御子の宮の時に内に奉る歌)
 嵯峨天皇后(さがてんのうのきさき) → 嘉知子(かちこ、橘清友女) C 1 5 3 7
 B2027 **尺度氏娘子**(さかとうじのおとめ、坂門さかと?)?-? 万葉集中人物、児部女王こべのおおきみの嗤ふ歌3821左注、
 娘子が名家の美男子の求婚を断り身分の低い醜男と結婚したことの愚を女王が嗤ふ
 歌の作者 → 児部女王(こべのおおきみ、伝不詳) 1 9 4 1
 2009 **坂上郎女**(さかのうえのいらつめ・大伴、安麻呂女) 689?-? 穂積皇子の妻/皇子没後藤原麻呂の妻、
 のち大伴宿奈麻呂の妻となり大嬢・二嬢の母、大宰帥旅人に従い太宰府で一族をまとめた、

義母として家持の作家活動に影響大、万葉三四期歌人；万葉84首；379/380/401～、
万葉四519の大伴女郎と同一なら穂積皇子との間に今城王いまきのおおきみを出産したことになる、

→ 大伴女郎(おおもものいらつめ) 1 4 5 9

2010 坂上大嬢(さかのうえのおおいらつめ・大伴、宿奈麻呂女)723?-? 母：坂上郎女/家持の従妹で妻、
万葉四期歌人、万葉四・八に11首；581-584/729-731/735・737-738/1624・題/左注多数

B2028 坂上二嬢(さかのうえのおいらつめ・大伴、宿奈麻呂女)?-? 母：坂上郎女/万葉中人物、
駿河麻呂求婚歌407題

酒上不埒(さかのうえの→さけのうえのふらち、狂歌)→ 春町(はるまち・恋川) 3 6 3 5

G2018 坂上竹藪(さかのえのたけやぶ、姓；安藤あんどう、通称；喜兵衛)?-? 江戸牛込の狂歌；四方連、
1785「徳和歌後万載集」3首、87「狂歌才蔵集」2首；

[ほとゝぎす鳴くてつぺんをびつしやりと叩く水鶏くひなの気さへ短夜がじかよ](才蔵；143)

嵯峨后(さかのきさき) → 嘉智子(かちこ・橘) C 1 5 3 7

嵯峨居士(さかのこじ) → 涌蓮(ようれん；号・慧亮えりょう；法諱、真宗高田派僧/歌) B 4 7 6 4

坂の小二郎(さかのこじろう)→ 周阿(しゅうあ、連歌師) 2 1 4 1

嵯峨の古仏(さかのこぶつ) → 独照(どくしょう；道号・性円、黄檗僧) L 3 1 0

酒之丞(さかのじょう・大河内)→ 輝和(てるやす・大河内/松平、藩主/歌) D 3 0 0 3

酒之丞(さかのじょう・渋谷)→ 故巖(ひさいわ・渋谷しづや、藩士/歌人) 3 7 8 6

嵯峨上人(さかのしょうにん) → 雙救(双救そうきゅう；法諱、僧/歌人) 2 5 9 9

嵯峨上臈(さかのじょうろう) → 道良女(みちよしのむすめ・二条、歌人) C 4 1 8 9

嵯峨禅尼(さかのぜんに) → 俊成卿女(としなりきょうのむすめ、越部禅尼) 3 1 4 5

嵯峨入道将軍宮(さかのいゅうどうしょうぐんのみや)→ 久明親王(ひさあきらしんのう、将軍/歌人) 3 7 0 4

嵯峨法皇(さかのほうおう) → 後龜山天皇(こがめやまてんのう、南朝最後/歌) C 1 9 2 8

H2011 栄彦(さかひこ/ながひこ・松木まつき、圭彦男/本姓；度会)1740-9758 伊勢神職；1754外宮九禰宜、
1791一禰宜/1792正三位、歌人；日野資持門、「栄彦卿日次」「内外宮神拜式祓勤式」著、
[栄彦(；名)の通称]元之助/右京、範彦の父
[外宮禰宜松木信彦家]

信彦-因彦-高彦-圭彦-**栄彦**-範彦-朝彦 ┌ 美彦
└ 光彦

栄仁親王(さかひとしんのう) → 栄仁親王(よしひとしんのう、伏見宮/歌人) G 4 7 4 6

B2030 酒人女王(さかびとのおおきみ、穂積皇子の孫娘)?-? 万葉集中人物、聖武天皇の相問歌624題、
聖武天皇；[道に逢ひて笑まししからに降る雪の消けなば消ぬがに恋ふといふ我妹がむ]、
(万葉集；四624/[がに]は-かのようにの接続助詞)

酒袋粕(さかぶくろのかす) → 恰(ゆたか・飯塚/平元、藩士/歌/狂詩) G 4 6 0 7

酒船(さかふね・問屋) → 酒船(さけふね・問屋といや、狂詩/狂歌) B 2 0 5 6

左華坊(さかぼう) → 氷几(ひょうき、俳人) F 3 7 1 7

2011 相模(さがみ、初名；乙おと侍従、源頼光の養女)998?-? 1061存 母；慶滋保章女、大江公資きんより妻、
女房として初め皇太后妍子(けんし・道長女/三条天皇妃/枇杷皇太后宮)に出仕、
一条天皇皇女脩子しゅうし内親王に出仕/相模守となった夫公資に随い下向；「走湯百首」詠、
帰京後；藤原定頼と交渉/1032離婚、以後歌人として活躍；1035賀陽かや院水閣歌合参加、
1046内裏歌合・51内裏根合・56皇后宮寛子春秋歌合など多数参加、家集「相模集」、
玄々集・後葉集・続詞花集5首入、
勅撰108首余；後拾遺(39首175/206/214以下)金(4首386/388以下)詞花(4首80/255以下)、
千載(5首471/781以下)新古(11首)新勅(18首)続後撰(5首)続拾(923)玉(8首)以下、
[恨みわびほさぬ袖だにあるものを恋に朽ちなむ名こそ惜しけれ](後拾遺815；内裏根合)、
[高倉一宮(祐子内親王)歌合、

露むすぶ萩の下葉やみだるらん秋の野ばらにをしかなくなり](続詞花；秋205)

H2012 相模(さがみ) ? - ? 平安末・鎌倉期内裏の女房/歌；

1186経房家歌合/1200院当座歌合(；10月1日後鳥羽院催)・若宮社歌合などに参加、

[君がへん千歳の秋の友とてやのどけくすめる夜半の月影](院当座歌合；四番右8)

相模(さがみ・秋山) → 惟孝(これたか・秋山あきやま、神職) Q 1 9 2 2

相模(さがみ・岸) → 致知(むねとも・岸きし、藩士/国学) D 4 2 7 5
 相模(さがみ・小山) → 安延(やすのぶ・小山こやま、神職/歌人) F 4 5 8 9
 相模(さがみ・下田) → 吉蔭(よしかげ・下田しもだ、国学/歌人) N 4 7 3 5
 相模(さがみ・下平) → 倫訓(ともり・下平しもひら、神職/国学) V 3 1 4 0
 相模(さがみ・森田) → 春郷(はるさと・森田もりた、寺侍/国学者) K 3 6 9 1
 相模三郎(さがみのさぶろう) → 重時(しげとき・北条/平、鎌倉幕臣/歌) C 2 1 5 1
 相模七郎(さがみのしちろう) → 時広(ときひろ・北条/大佛/平、武将/歌) J 3 1 9 2
 相模正(さがみのしょう) → 誠則(のぶり・沼崎ぬまさき/串部、神職/歌) H 3 5 8 1
 相模介(さがみのすけ・丹羽) → 正庸(まさつね・丹羽にわ、陪臣/国学) R 4 0 3 4
 相模太郎(さがみのたろう) → 時宗(ときむね・北条、鎌倉幕府執権) K 3 1 1 1
 相模太郎(さがみのたろう) → 貞時(さだとき・北条/平、執権/歌人) C 2 0 0 8

M2094 坂道凹凸(さがみちのでこぼこ) ? - ? 狂歌;1787「才蔵集」入2首;

[さつぱりとかみなし月の月影は法師ならねど木の端はにみゆ](枕草子4段思はむ子を)

相模守(さがみのかみ・上杉) → 房定(ふささだ・上杉/藤原、武将/連歌) C 3 8 0 5
 相模守(さがみのかみ・真鍋) → 豊平(とよひら・真鍋まなべ、神職/琴譜/歌) R 3 1 5 2
 相模守(さがみのかみ・梶山) → 金竟(きんきょう・梶山かじやま、神官/俳人) Q 1 6 7 8
 相模守(さがみのかみ・青山) → 守胤(もりたね・青山あおやま、神職) F 4 4 6 7
 相模守(さがみのかみ・井上) → 正任(まさとう・井上いのうえ、藩主/歌) L 4 0 2 1
 相模守(さがみのかみ・池田) → 光仲(みつなか・池田いけだ、藩主/国学・歌) E 4 1 1 2
 相模守(さがみのかみ・池田) → 治道(はるみち・池田いけだ/源/松平、藩主) J 3 6 3 6
 相模守(さがみのかみ・大西) → 親盛(ちかもり・大西/秦、神職/国学) C 2 8 0 9
 相模守(さがみのかみ・本多) → 助実(すけざね・本多ほんだ、藩主/歌) H 2 3 8 8
 相模守(さがみのかみ・本多) → 久微(ひさよし・本多ほんだ、幕臣/歌人) L 3 7 6 0
 相模守(さがみのかみ・赤井) → 直綏(なおやす・赤井あかい、幕臣) K 3 2 7 7
 相模守(さがみのかみ・北村) → 季才(すえのぶ・北村きたむら、神職/歌人) I 2 3 4 2
 相模守(さがみのかみ・淡川) → 孝鑽(たかよし・淡川あわか、官人/歌人) V 2 6 3 2
 相模守(さがみのかみ・山本) → 嘉之(よしゆき・山本やまもと、官人/歌人) P 4 7 9 4
 相模守(さがみのかみ・鈴木) → 信重(のぶしげ・鈴木すずき、神職/国学) I 3 5 7 5
 相模守(さがみのかみ・林) → 美香(よしか・林はやし/栗田、神職/国学) O 4 7 6 2
 相模三郎(さがみのさぶろう) → 眞昭(しんしょう;法諱、鎌倉幕臣/歌人) E 2 2 5 3
 相模次郎(さがみのじろう) → 行念(ぎょうねん;法諱、北条時村、武士/僧/歌) C 1 6 8 0
 相模介(さがみのすけ・黒神) → 直民(なおたみ・黒神くろかみ、神職/国学) B 3 2 6 4

B2031 相模母(さがみのはは、能登守慶滋よししげ保胤女/源頼光の妻)?-? 平安中期、歌人:金葉集659(付句)、
 [朝まだきから櫓の音のきこゆるは](金葉/659前句;蓼かる舟のすぐるなりけり;頼光)、
 (から櫓は空櫓or唐櫓;辛しを掛ける/蓼たでは辛味料、但馬の館での詠)

坂本法印(さかもとのほういん) → 俊範(しゅんぱん;法諱、天台学僧) L 2 1 7 6

B2032 酒盛(さかもり・雀すずめの) ? - ? 狂歌;1785徳和歌後万載集2首入;303/689、
 [折もよき秋のたゞきの烏帽子魚鎌倉風にこしらへてみん](後万載;秋303/秋鯉)

H2013 酒盛(さかもり・成三楼せいさんろう)?-? 洒落本・読本作者、江後期1800-05頃活動、
 1802(享和2)「傾城買婦足禿ふたりかむろ」で筆禍、1802「青楼小鍋立」03「環雙紙」08「佐野の雪」著、
 [成三楼酒盛(;号)の別号]成三楼主人/成三楼手酌酒盛/成三楼鳳雨

F2010 酒屋の橘子(さかやのきつし) ? - ? 洒落本作者:1797「十界和尚話」(:順慶町夜市序)

酒屋隣(さかやのとなり) → 馬宥(ばゆう・堀田/芳井、俳人) F 3 6 7 7

相良(さがら・松宮) → 安平(やすひら・井手いで、藩士/歌) F 4 5 2 7

相良遠江守母(さがらとおとおみのかみのはは) → 長興母(ながおきのはは・相良さがら、藩主室/歌) P 3 2 2 9

H2014 盛少将(さかりのしょうしょう、藤原貞孝[981殿上間で頓死]の女)?-? 母:円融院乳母子、平安中期女房、
 三条院女房、通称;周防命婦、歌人:後拾遺85(源雅通[1017没]との贈答)/828、
 [折らでたゞ語りに語れ山桜風に散るだに惜しきにほひを](後拾遺;一春85/返歌)、
 (雅通の贈歌;折らば惜し折らではいかゞ山桜けふを過ぐさず君に見すべき)

参考 → 雅通(まさみち・源、丹波中将、廷臣/歌) H 4 0 3 9

- 英(さかる・沢田) → 英(えい・沢田、藩士/儒者) C 1 3 4 4
 佐嘉郎(さかう・島津) → 忠寛(ただひろ・島津しまう、藩主/国学) X 2 6 5 5
 主典(さかん・中安) → 弦斎(げんさい・中安なかやす、藩士/家老) J 1 8 0 6
- H2015 茶苔(さがん) ? - ? 京の俳人;1777江涯こうかい「仮日記」入、
 [山づらや春日の暮の長閑のどかなる](仮日記;99/山の斜面の夕日のやわらかさ)
- G2032 酒人(さかん・田中たなか、初号;野泉)?-? 撰津伊丹の俳人、「風光集」入、
 1702轍士「花見車」入、[春の浪や須磨の風みる夷えびすじま](花見車;四津の国180)、
 (夷島;1664堺の西に海中より隆起し夷の石像が出る;17ct後半芝居町として繁栄)
- H2016 さき(さき女) ? - ? 江中期撰津今津の俳人;
 1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、[下戸たてら菊の花見て遊びけり](伊丹発句;秋)
 1776樗良「誹諧 月の夜」入;171、
 [我とゝもに行くとはしらじ秋の暮](月の夜;171/季節の推移につれ老いを重ねる)
- 崎(さき・正木) → 縫(ぬい・正木まさき、妙相院/歌人) 3 4 1 8
 崎(さき・内田) → 桃仙(とうせん・内田うちだ、女流詩人) G 3 1 1 0
 佐紀(さき・七里) → 長行(ながゆき・七里しちり/源、藩士/国学) K 3 2 1 5
 福雄(さきお・藤原) → 輔民(すけたみ・福島ふくしま、医者/歌人) H 2 3 8 5
 魁(さきがけ・平久間) → 盛章(もりあき・平久間ひらくま、狂歌/国学) L 4 4 1 4
- N2025 左幾久(左菊さきく・山田やまだ、屋号;藤屋)?-? 尾張名古屋の国学者;本居宣長門、
 本居大平「八十浦の玉」中巻1首入、
 [多度山の山立ちならし啼く鹿の声きくからにいみしへ思ほゆ](八十浦;467)
 [左幾久(;号)の名/通称]名;幸来、通称;新助、別号;佐知
- B2033 茶菊(さぎく・陶後園とうごえん、義上園兎士男)?-? 伊勢山田の俳人、
 1760「義上ぎじょう集」編(父兎士の遺句606章を四季に類題選録;麦浪序)
 父 → 兎士(とし・義上園、俳人) L 3 1 8 7
 幸国(さきくに・ゆきくに・花垣) → 一衛(かずえ・花垣はながき/北原、国学者) M 1 5 1 1
- N2022 葛子(さきこ・松平まつだいら) ? - ? 美濃岩室藩主松平能登守乗蘊のりもり(1716-83)夫人、
 歌人;賀茂真淵(1697-1769)門、本居大平「八十浦の玉」入、
 [をちかたのくに野に生ふるむらさきを草とわけつつゆくは誰が子ぞ]、
 (八十浦;上44/遠江長上郡河辺郷中瀬某が家より身ゆる所々の歌参加/曠野)、
- P2072 咲子(さきこ・山中やまなか) 1817 - 1909長寿93 近江蒲生郡の歌人;[鳩のうみ]入、
 山中恵美子の親族?
 福子(さきこ・張) → 福子(ふくこ・張、医者/万葉歌人) B 3 8 4 9
- H2017 興禎(さきさだ・朝岡あさおか/本姓;藤原、狩野栄信2男) 1800-5657 絵師:父門、1820朝岡興邦の養子、
 幕臣;1830將軍家慶に出仕;小納戸役/絵番掛、1833養父の遺領相続;550石/1853致仕、剃髪、
 模写を得意、歌;前田夏蔭門、1850「古画備考」編、「長崎画系」著、
 歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、
 [人伝に聞きふるしたる後なれば誰に誇らん初ほととぎす](大江戸倭歌;夏458)
 [興禎(;名)の別名/通称/号]別名;信義、通称;三之助/三次郎、号;平洲/三楽(;剃髪号)、
 法号;白峰院
- B2035 鷺助(さぎすけ・木村きむら、木村宗意男)?-? 江前期1688-1704頃撰津伊丹の俳人:宗旦門、
 のち惟中門、書;西吟門、1691江水「元禄百人一句」入/1692青人編「伊丹生俳諧」;独吟歌仙入、
 1703芦笛編「塵の香」入/05「伊丹酒壺五歌仙」;独吟歌仙入、06団水「心葉ころは」入、
 1712長父「鉢扣はちたき」/14月尋「伊丹発句合」;四季発句入、17支考「本朝文鑑」;「名二子説」入、
 「古蔵集」「似躰記」「扇集」「四ツ音」著、
 晩年自分の吟稿を息子蛸久に焼かせる(在岡逸士伝)、
 [奈良漬に女子酔ひけりひしの餅](伊丹生俳諧)、
 [寺を出て日はちりぢりや露のとう](塵の香)、
 [鷺助(;号)の別号]慈専(;剃髪後)
- 咲足(さきたり・花廼屋、狂歌) → 広蔭(ひろかげ・富樫、国学者) 3 7 1 4
 佐吉(瑣吉さきち・滝沢) → 馬琴(ばきん・曲亭きょくてい、読本作者) 3 6 0 7

佐吉(さきち・銭屋) → 此太夫(2世このだゆう・豊竹、浄瑠璃太夫) N 1 9 3 8
佐吉(さきち・鶴沢) → 清七(4世せいしち・鶴沢、義太夫三絃) B 2 4 9 4
左吉(さきち・凶司) → 呂丸(露丸ろがん・凶司/近藤、染物業/俳人) 5 3 6 1
左吉(さきち・恩田) → 木工(もく・恩田おんだ、藩士/財政改革) 4 4 6 3
左吉(さきち・松崎) → 観瀾(かんらん・松崎まつさき、家老/儒詩) G 1 5 7 0
瑣吉(さきち・正木) → 竜眠(竜珉りゅうみん・正木まさき、商/書家) F 4 9 7 4
鎖吉(さきち・藤田) → 長年(ながとし・藤田ふじた/横橋、神職/国学) O 3 2 6 0
左吉郎(さきちろう・吉田) → 茂貞(しげさだ・吉田よしだ、藩士/弓術家) R 2 1 0 0

B2036 左橋(さきつ・水足みづたり、別号; 荷旃斎かせんさい) ?-? 大阪の俳人; 雑俳: 大立門、
1744「天香集」/51春耕「あふ夜」入、53「古硯屏」/56「十三題」編、1757律中「耳勝手」入、
1759「俳諧寅卯草」/宝暦九年歳旦編、「おきな草」編、
1754潘山(百子)「しぐれの碑」(; 貞因25回忌・貞峨[紀海音]13回忌追善集)入、
[さだまつて雲晴るゝ日のしぐれ哉](しぐれの碑/発句)

前嗣(さきつぐ・近衛) → 前久(さきひさ・近衛/藤原、関白/歌・連歌) 2 0 1 2

左吉麿(さきつまる・佐野) → 経彦(つねひこ・佐野、神道家/国学) D 2 9 3 4

P2005 前知(さきとも・西野にし、) 1822-1903 72 相模浦賀の回船問屋; 1853(嘉永6)父没; 家督嗣、
1863(文久3)下田問屋(下田から浦賀に移住した問屋仲間)の年寄役/三方問屋行司役、
維新後; 隠居し歌に専念; 浦賀歌壇を牽引、1890友人中島三郎助23回忌[追悼文]著、
妻; 田中勝子、1903(明治36)没、
[北の湖にとるやひろめのいやひろく国もさかゆるきみか御代かな](1890御歌会初)

[前知(; 名)の初名/通称/号]初名: 豊次郎、通称: 市郎左衛門(代々の称)/佐六、号: 佐玄

G2039 前豊(さきとよ・近衛このえ、初名; 輔忠すけただ、広幡長忠男/本姓; 源) 1742-83 42 廷臣; 1753従三位、
1773近衛内前養子; 前豊と改名/1775内大臣/81従一位、画を嗜む、詩会を催、
「山水帖」「唱和二咏」「前豊公記」著、「玄圃先生集」に書簡入、
[前豊(; 名)の号] 青雲/楽円樹院

前右大臣(さきのうだいじん: 続千載/風/新千/新拾/新続古; 今出河) → 公顕(きんあき・今出川) D 1 6 7 5

前右大臣(さきのうだいじん: 続後拾/風/新拾; 今出河入道) → 兼季(かねすえ・今出川) C 1 5 7 7

前右大臣(さきのうだいじん: 新後拾/新続古; 後常磐井) → 実俊(さねとし・西園寺) D 2 0 3 1

前右大臣(さきのうだいじん: 新続古) → 公冬(きんふゆ・三条/転法輪) E 1 6 6 4

前右大臣(さきのうだいじん: 続古; 忠) → 忠家(ただいえ・九条、一音院摂政) E 2 6 8 3

前右大臣(さきのうだいじん: 続古; 公) → 公基(きんもと・西園寺、京極右府) E 1 6 7 8

前右大臣(さきのうだいじん: 菊葉集) → 実直(さねなお・今出川いまでがわ[菊亭]) D 2 0 3 5

前右大臣室(さきのうだいじんのしつ: 続千) → 公顕室(きんあきのしつ) D 1 6 7 6

前右兵衛督為教女(さきのうひょうぐのかみためりのむすめ) → 為子(ためこ、京極為教女) G 2 6 7 9

B2037 前采女(さきのうねめ) ? - ? 以前采女であった女性、万葉歌人、十六3807左注;
葛城王かつらぎのおほきみが陸奥で国司の無礼に怒る時安積香山の歌を唱い心を解いたという;
葛城王は2人いるがここは橘諸兄(763改姓)か/陸奥からの采女貢進はない: 王の女官か、
[安積山影さへ見ゆる山の井の浅き心を我が思はなくに]、

但し古今序では采女の戯たはぶれより詠むとある/大和物語では異なる話に脚色

前太政大臣(さきのおおきおともちぎみ: 古今) → 良房(よしふさ・藤原、染殿) 4 7 2 5

前関白(さきのかんぱく: 新勅撰) → 道家(みちいえ・九条、光明峯寺殿) B 4 1 1 7

前関白(さきのかんぱく: 新千載) → 良基(よしもと・二条、歌/連歌) 4 7 2 9

前関白右大臣(さきのかんぱくうだいじん: 風雅/新拾遺) → 師平(もろひら・鷹司) H 4 4 8 2

前関白右大臣母(さきのかんぱくうだいじんのはは) → 師平母(もろひらのはは・鷹司) H 4 4 8 3

前関白九条(さきのかんぱくくじょう: 新後拾; 九条) → 忠基(ただもと・九条) F 2 6 9 2

前関白家三河(さきのかんぱくけのみかわ) → 三河(みかわ・法性寺入道家) 4 1 6 3

前関白近衛(さきのかんぱくこのえ: 新後拾) → 道嗣(みちつぐ・近衛、詩文) B 4 1 8 6

前関白左大臣(さきのかんぱくさだじん: 続後撰/続古) → 良実(よしざね・二条) D 4 7 4 9

前関白左大臣(さきのかんぱくさだじん: 新後撰) → 忠教(ただのり・九条) F 2 6 6 0

前関白左大臣(さきのかんぱくさだじん: 新拾遺) → 道嗣(みちつぐ・近衛、詩文) B 4 1 8 6

前関白左大臣(さきのかんぱくさだいじん:後深心院)→道嗣(みちつぐ・近衛、詩文) B 4 1 8 6
 前関白左大臣(さきのかんぱくさだいじん:続後拾)→房実(ふさざね・九条、忠教男) C 3 8 0 7
 前関白左大臣(さきのかんぱくさだいじん:風雅;通/新千/新拾/藤葉)→経通(つねみち・一条) D 2 9 8 5
 前関白左大臣(さきのかんぱくさだいじん:風雅;基)→基嗣(もとつぐ・近衛) D 4 4 0 5
 前関白左大臣(さきのかんぱくさだいじん:新後拾)→冬通(ふゆみち・鷹司) E 3 8 4 0
 前関白左大臣(さきのかんぱくさだいじん:新続古)→満家(みついえ・九条) D 4 1 0 8
 前関白左大臣一条(さきのかんぱくさだいじんいちじょう:続拾)→実経(さねつね・一条) D 2 0 2 1
 前関白左大臣押小路(さきのかんぱくさだいじんおしこうじ:続千)→道平(みちひら・二条/押小路) C 4 1 3 5
 前関白左大臣九条(さきのかんぱくさだいじんくじょう:続後拾)→師教(もろのり・九条) H 4 4 7 0
 前関白左大臣九条(さきのかんぱくさだいじんくじょう:新拾遺)→経教(つねのり・九条) D 2 9 0 9
 前関白左大臣近衛(さきのかんぱくさだいじんこのえ:新千載)→家平(いえひろ・近衛) 1 1 5 9
 前関白左大臣近衛(さきのかんぱくさだいじんこのえ:新拾遺)→道嗣(みちつぐ・近衛) B 4 1 8 6
 前関白左大臣鷹司(さきのかんぱくさだいじんとかつかさ:続拾遺)→基忠(もとただ・鷹司) C 4 4 9 1
 前関白太閤(さきのかんぱくたいこう:新後拾)→経教(つねのり・九条/藤原、歌人) D 2 9 0 9
 前関白太政大臣(さきのかんぱくたいていじょうだいじん:新後撰/玉葉)→基忠(もとただ・鷹司) C 4 4 9 1
 前関白太政大臣(さきのかんぱくたいていじょうだいじん:続千載)→冬平(ふゆひら・鷹司、基忠男) E 3 8 3 8
 前関白内大臣(さきのかんぱくないだいじん:新葉)→師基(もろもと・二条、南朝歌人) I 4 4 0 4
 前斎院安芸(さきのさいいんのあき) → 安芸②(あき・待賢門院安芸) 1 0 4 1 ②
 前斎院出雲(さきのさいいんのいずも) → 出雲(いずも・前斎院令子内親王) 1 1 9 6
 前斎院出羽(さきのさいいんのいで) → 出羽(いで・祿子内親王家) H 1 1 9 8
 前斎院尾張(さきのさいいんのおわり) → 尾張(おわり・前斎院令子内親王) C 1 4 0 2
 前斎院新肥前(さきのさいいんのしんひぜん) → 新肥前(しんひぜん・前斎院) 2 2 7 2
 前斎院摂津(さきのさいいんのせつ) → 摂津(せつ・二条太皇太后宮) E 2 4 5 8
 前斎院大弐(さきのさいいんのだいに) → 大弐(だいに・二条太皇太后宮) B 2 6 9 9
 前斎院肥後(さきのさいいんのひご) → 肥後(ひご・京極前関白家/皇后宮) 3 7 5 1
 前斎院肥前(さきのさいいんのひぜん) → 肥前(ひぜん・前斎院令子内親王家) C 3 7 4 5
 前斎院備前(さきのさいいんのびぜん) → 備前(びぜん・近衛院女房) C 3 7 4 8
 前斎院兵衛(さきのさいいんのひょうえ) → 兵衛(ひょうえ・待賢門院) 3 7 3 7
 前斎院六条(さきのさいいんのろくじょう) → 堀河(ほりかわ・待賢門院) E 3 9 8 2
 前斎宮越後(さきのさいいぐうのえちご) → 越後(えちご・令子・篤子家女房) 1 3 7 1
 前斎宮甲斐(さきのさいいぐうのかい) → 甲斐⑤(かい・前斎宮) E 1 5 2 7
 前斎宮河内(さきのさいいぐうのこうち) → 河内(こうち・かわち・百合花) B 1 9 6 8
 前斎宮大輔(さきのさいいぐうのたいふ) → 殷富門院大輔(いんぷもんいんのたいふ) C 1 1 0 9
 前斎宮内侍(さきのさいいぐうのないし) → 内侍(ないし・前斎宮) 3 2 0 0
 前斎宮肥前(さきのさいいぐうのひぜん) → 肥前(ひぜん・前斎院令子内親王家) C 3 7 4 5
 前斎宮節折(さきのさいいぐうのよおり) → 節折(折節よおり・前斎宮) B 4 7 6 9
 前斎宮六条(さきのさいいぐうのろくじょう) → 堀河(ほりかわ・待賢門院) E 3 9 8 2
 前左相府(さきのさしやうふ) → 実香(さねか・近衛) C 2 0 9 5
 前左大臣(さきのさだいじん:新勅撰) → 良平(よしひら・九条、太政大臣) G 4 7 4 9
 前左大臣(さきのさだいじん:続古今) → 実雄(さねお/さねかつ・洞院とういん) C 2 0 9 1
 前左大臣(さきのさだいじん:風雅) → 公賢(きんかた・洞院とういん) 1 6 5 9
 前左大臣室(さきのさだいじんのしつ) → 富子(とみこ・日野、義政室/権勢/歌/連歌) O 3 1 8 1

前の三房(さきのさんふさ);平安後期の「房」のついで博識で優れた人物

→ 伊房(これふさ・藤原、1030-1096) E 1 9 4 8
 → 匡房(まさふさ・大江、1041-1111) 4 0 1 9
 → 為房(ためふさ・藤原、1049-1115) H 2 6 3 9
 前侍従(さきのじじゅう) → 前侍従(ぜんじじゅう、女房歌人) M 2 4 3 9

G2047 **前典侍**(さきのすけ、掌侍しゃうじ/ないしのじやう[中右記]、源経頼[985-1039]女)?? 藤原資仲[1020-87]室、
 歌人;1093(寛治7)郁芳門院根合入(:掌侍/入道帥にゅうどうのそちの上)
 [君が代のながきためしにひけとてや淀のあやめのねざしそめけむ](根合;右4)、

(本歌;君が代の長きためしに菖蒲草千尋にあまる根をぞ曳きつる;

[六条斎院物語合15;逢坂越えぬ権中納言;小式部作]、ねざしは根を伸ばし始める)

前駿河守之光(さきのするがのかみこれみつ)→ 之光(これみつ・前駿河守、連歌) G 1 9 0 8

前摂政家民部卿(さきのせつしょうけのみんぶきょう;新統古今集)

→ 民部卿(みんぶきょう・後一条関白家、女房/歌人) G 4 1 8 7

前摂政左大臣(さきのせつしょうさだいじん:統後撰/統拾)→ 実経(さねつね・一条) D 2 0 2 1

前摂政左大臣(さきのせつしょうさだいじん:玉葉/統千)→ 師教(もろのり・九条) H 4 4 7 0

前摂政左大臣(さきのせつしょうさだいじん:新統古)→ 兼良(かねよし・一条) 1 5 3 7

前太政大臣(さきのだいいじょうだいじん:古今)→ 良房(よしふさ・藤原) 4 7 2 5

前太政大臣(さきのだいいじょうだいじん:新古今)→ 頼実(よりざね・大炊御門おおいみかど) I 4 7 6 6

前太政大臣(さきのだいいじょうだいじん:雲葉集)→ 実氏(さねうじ・西園寺) 2 0 3 2

前太政大臣(さきのだいいじょうだいじん:統後撰)→ 実氏(さねうじ・西園寺) 2 0 3 2

前太政大臣(さきのだいいじょうだいじん:統古今)→ 公相(きんすけ・西園寺) E 1 6 1 8

前太政大臣(さきのだいいじょうだいじん:新後撰)→ 公守(きんもり・洞院とういん) E 1 6 7 9

前太政大臣(さきのだいいじょうだいじん:統後拾)→ 通雄(みちお・久我こが) B 4 1 2 4

前太政大臣(さきのだいいじょうだいじん:風雅)→ 長通(ながみち・久我こが) F 3 2 8 8

前太政大臣家木綿四手(さきのだいいじょうだいじんけのゆうしで)→ 木綿四手(ゆうしで) C 4 6 2 3

前太政大臣家堀河(さきのだいいじょうだいじんけのほりかわ)→ 堀河(ほりかわ・前太政大臣家) E 3 9 8 4

前太政大臣女(さきのだいいじょうだいじんのむすめ:風雅)→ 長通女(ながみちのむすめ・久我こが) F 3 2 9 1

前大僧正(さきのだいいじょう;新統古今)→ 満濟(まんさい、真言僧/門跡/歌) 4 0 3 6

前大僧正(さきのだいいじょう;新統古今)→ 満意(まんい、天台僧/門跡/歌人) K 4 0 3 6

前中宮出雲(さきのちゅうぐうのいずも)→ 出雲(いずも・前中宮、威子女房) 1 1 9 7

前中宮越後(さきのちゅうぐうのえちご)→ 越後(えちご・令子・篤子家女房) 1 3 7 1

前中宮甲斐(さきのちゅうぐうのかい)→ 甲斐③(かい、前中宮篤子内親王家女房) E 1 5 2 8

前中宮上総(さきのちゅうぐうのかずさ)→ 上総(かずさ・前中宮篤子内親王家女房) C 1 5 2 2

F2011 前中宮のしらはふ(さきのちゅうぐうの-)?-? 平安前中期歌人、975為光催「一条大納言家歌合」入、

[おほあらしの森の草葉も二葉にて今日ぞはじめて駒もはなてる](一条家歌合;左11)

前中宮宣旨(さきのちゅうぐうのせんじ)→ 宣旨(せんじ・中宮、後撰歌人) F 2 4 6 9

→ 宣旨(せんじ、後一条院中宮威子女房) F 2 4 7 0

前中書王(さきのちゅうしやおう)→ 兼明親王(かねあきらしんのう) 1 5 2 8

前内大臣(さきのないだいじん)→ 顕統(あきむね・源) 1 0 8 4

前内大臣(さきのないだいじん:新勅撰)→ 通光(みちてる・久我こが、太政大臣) 4 1 1 9

前内大臣(さきのないだいじん:玉葉)→ 実重(さねしげ・三条;転法輪、太政大臣) D 2 0 0 5

前内大臣(さきのないだいじん:玉葉/統千;通)→ 通雄(みちお・久我こが、太政大臣) B 4 1 2 4

前内大臣(さきのないだいじん:風雅)→ 実忠(さねただ・三条) 2 0 4 1

前内大臣(さきのないだいじん:風雅;冬)→ 冬信(ふゆのぶ・大炊御門おおいみかど) E 3 8 3 5

前内大臣(さきのないだいじん:新千載)→ 公清(きんきよ・徳大寺とくだいじ) D 1 6 8 9

前内大臣(さきのないだいじん:新拾/新後拾)→ 公忠(きんただ・三条、故実) E 1 6 2 9

前内大臣(さきのないだいじん:雲葉集)→ 基家(もといえ・九条) C 4 4 1 2

前内大臣(さきのないだいじん:統後撰・雲葉;家)→ 家良(いえよし・衣笠) 1 1 0 3

前内大臣(さきのないだいじん:統古/統拾;公)→ 公親(きんちか・三条) E 1 6 3 1

前内大臣(さきのないだいじん:統千載;公)→ 公茂(きんもち・きんしげ・三条) E 1 6 7 7

前内大臣(さきのないだいじん:統千載;重)→ 通重(みちしげ・中院なかのいん) B 4 1 6 0

前内大臣(さきのないだいじん:統拾遺;師)→ 師継(もろつぐ・花山院かざんいん) H 4 4 4 3

前内大臣(さきのないだいじん:新後撰;実)→ 実重(さねしげ・三条、太政大臣) D 2 0 0 5

前内大臣(さきのないだいじん:新拾遺;実)→ 実夏(さねなつ・洞院とういん) D 2 0 4 0

前内大臣(さきのないだいじん:新後拾;実)→ 実継(さねつぐ・三条;正親町おおぎまち) D 2 0 1 8

前内大臣顕統(さきのないだいじんあきむね)→ 顕統(あきむね・源) 1 0 8 4

前内大臣隆俊(さきのないだいじんたかとし)→ 隆俊(たかとし・四条) D 2 6 1 9

前内大臣室(さきのないだいじんのむろ)→ 実重室(さねしげのむろ・三条、歌人) D 2 0 0 6

- 前右兵衛督為教女(さきのひょうえのかみのためのりのむすめ)→為子(ためこ・京極、為教女/歌人)G 2 6 7 9
佐紀乃舎(さきのや) → 隆正(たかまさ・大国/野々口、歌学) 2 6 1 7
前山科大臣(さきのやましのおとど)→ 園人(そのひと・藤原、廷臣/系譜編纂)E 2 5 2 0
- 02011 鷲彦(さぎひこ・大川おおかわ、)1773- ? 讃岐小豆島の歌人、和漢学に通ず/能書家、
代々苗羽八幡神社と関係が深い;「草加部八幡社伝記」を77歳で筆写、
[鷲彦(通称)の名/号]名;亘/宣重、号;蘭阜
- 2012 前久(さきひさ・近衛このえ、一字名;春、植家たねいえ男/本姓;藤原)1536-161277 母;源慶子、廷臣;
1541従三位/47内大臣/53右大臣/54関白左大臣/55従一位/78准三宮/82太政大臣/出家、
京慈照寺東求堂に隠棲、歌人:父門/古今伝授受、連歌/書(青蓮院流)/有職故実/馬術/放鷹、
地方遍歴が多く中央文化の地方への普及に貢献、
歌;1589「鷹百首」、「前久詠草」、「前久公三十首和歌」「弓馬二百首和歌」、
連歌:1564宗養と何人百韻/99昌琢と木何百韻/1601正益と千何百韻など百韻多数、
[前久(名)の別名/号]別名;晴嗣はるつぐ/前嗣さきつぐ/時嗣ときつぐ、号;東入/東求院、
法名;竜山、称;龍山公、法号;東求院龍山空誓
- 鷲丸(さぎまる・五位) → 五位鷲丸(ごいさぎまる・紀平義雄、狂歌) H 1 9 0 7
- 2013 福麻呂(さきまろ・田辺たなべの史ふひと)?-? 奈良期廷臣;748橘諸兄の使者;越中の家持と遊宴、
当時;造酒司令史みきのつかさふみひと(3等官)、橘家と親密な関係、
万葉四期;長歌10首・短歌34首:田辺福麻呂歌集あり、六1047-67/九1792-94・1800-06/、
十八4032-36・4038-42・4046・4049・4052/4062左注、
[まそ鏡敏馬みぬめの浦は百船ももふねの過ぎて行くべき浜ならなくに](万葉;六1066)
- G2058 前光(さきみつ・柳原やなぎわら、光愛みつなる男/本姓;藤原)1850-9445 京の廷臣、愛子(大正天皇の母)の兄、
1867国事助筆御用掛/参与助役/維新後は外交官;清・台湾と交渉/元老院議長、
「近臣番誌」「参与助役備忘」、「斎宮齋院部類」編、「柳原前光記」著
- 鷲見屋淇楽(さぎみやきらく)→ 淇楽(きらく・鷲見屋、洒落本/狂歌) H 1 6 6 2
- N2044 幸室(さきむろ・長瀬ながせ、真幸まさき[1765-1835]男)?-? 江後期;国学者;父門、父著「轟水集」1818刊行、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[有明の月影しろき庭の面にさえかさねたる霜の色かな](大江戸倭歌;冬1124/月前霜)、
[むらたづのあさる葦間に打ち寄する波さへちよの声あはずなり](同;雑1782)
- B2038 防人(さきもり・名前不明の歌のみ) ----- 万葉集 ①昔年交替時の歌(卷廿;4436)
- B2039 防人(さきもり)② 磐余諸君抄写の昔年歌(卷廿;8首4425-32)
- B2040 防人(さきもり)③ 防人の妻の歌(卷十三;2首3344/3345)
- B2041 防人(さきもり)④ 未勘国歌の防人歌等(卷十四;5首3567-71)
- 崎門三傑(さきもん→きもんさんけつ)→ 關斎(あんさい・山崎、儒/垂加神道) 1 0 3 7
崎弥(さきや・芳沢) → 富士郎(初世とみじゅうろう・中村、歌舞伎役者) 3 1 5 8
叢丘(さきゅう・加藤) → 震石(かぜき・加藤かとう、医者/儒詩人) M 1 5 6 7
佐久(さきゅう/すけひさ・赤井)→ 忠常(ただつね・赤井あかい/源、里正/歌) V 2 6 0 9
佐久(さきゅう・松原) → 佐久(すけひさ・松原まづら/佐藤、家老/故実) P 2 3 4 3
些居(さきよ・江森) → 月居(げつきよ・江森、桂川) 1 8 0 7
- B2042 又魚(さぎよ) ? - ? 俳人;沾徳門、1716宗瑞「江戸筏」天巻:独吟歌仙入、
[姥ざくら杜とが母の名の恨みかな](江戸筏;第七発句/姥桜は晩春咲く美しい桜の一種)、
(杜が母は晋の成帝の後杜皇后の母;杜姥の称/桜に姥の名が老女めいて恨めしい)
- F2012 左京(さきょう・森井) ? - ? 江前期垂加神道家、遺稿を正英が「神代卷藻草」にまとめる
- 左京(さきょう・岩井田) → 尚織(ひさおり・岩井田/荒木田、神職/連歌) 3 7 8 8
左京(さきょう・北条) → 氏貞(うじさだ・北条、氏朝男/藩主) C 1 2 6 9
左京(さきょう・永原) → 孝政(たかまさ・永原ながはら、藩士/書翰) N 2 6 1 7
左京(さきょう・神戸) → 正望(まさもち・神戸かんべ、軍記作者) H 4 0 8 1
左京(さきょう・伊達) → 村和(むらより・伊達だて、領主/歌人) D 4 2 2 5
左京(さきょう・水野) → 守政(もりまさ・水野みずの/荒尾、旗本幕臣) L 4 4 9 3
左京(さきょう・鶴殿) → 長快(ながよし・鶴殿うどの、幕臣/文筆家) G 3 2 4 4
左京(さきょう・内藤) → 頼由(よりゆき・内藤ないとう/藤原/永井、藩主) K 4 7 4 0

左京(さきょう・八羽) → 光尚(みつひさ・八羽はつば/はちは、和学者) K 4 1 1 0
 左京(さきょう・八羽) → 光当(みつまさ・八羽/太田、光尚の養子/神道) K 4 1 1 1
 左京(さきょう・岡部) → 宣勝(のぶかつ・岡部、藩主/文筆) B 3 5 2 3
 左京(さきょう・中川/藤波) → 氏養(うじもり・藤波/荒木田、神職) C 1 2 7 7
 左京(さきょう・三戸) → 信居(のぶもと・南部なんぶ/三戸、歌人) J 3 5 4 6
 左京(さきょう・森) → 昌胤(まさたね・森/源/雨森、神道家) D 4 0 5 9
 左京(さきょう) → 天宥(てんゆう; 法諱、修験/天台僧) E 3 0 4 2
 左京(さきょう・河野) → 僧叡(そうえい、真宗本願寺派僧) G 2 5 2 0
 左京(さきょう; 通称) → 寛隆(かんりゅう; 法諱・大基、真宗僧) R 1 5 8 0
 左京(さきょう・真島) → 京武(きょうぶ・真島まじま、眼科医) O 1 6 4 7
 左京(さきょう・三の御部屋) → 喜世(きよ・勝田かつた、将軍家宣室、歌) N 1 6 0 0
 左京(さきょう・山名) → 玉山(ぎよくざん・山名、幕臣/歌人) 1 6 4 0
 左京(さきょう・赤尾) → 可官(よしたか・赤尾あかお/平、官人/歌人) E 4 7 0 3
 左京(さきょう・不破) → 為章(ためあき/ためあきら・不破ふむ、藩士) T 2 6 7 6
 左京(さきょう・青木) → 永章(えいしょう・青木、神職/歌人) 1 3 3 5
 左京(さきょう・藤堂) → 高朶(たかえだ・藤堂とうどう、藩主/歌人) C 2 6 5 3
 左京(さきょう・塚本) → 玄秀(げんしゅう; 法諱、日蓮僧/国学者) N 1 8 7 6
 左京(さきょう・成瀬) → 種徳(たねのり・成瀬なるせ、藩士/記録) R 2 6 9 4
 左京(さきょう・伴林) → 光平(みつひら・伴林ばんばやし、国学/歌/尊王) 4 1 3 0
 左京(さきょう・高崎) → 親義(ちかよし・高崎、藩士/国学/歌) C 2 8 2 3
 左京(さきょう・岡) → 平保(ひらやす・岡おか、神職/国学) F 3 7 4 2
 左京(さきょう・黒住) → 宗忠(むねただ・黒住くろずみ、神道家) B 4 2 5 6
 左京(さきょう・坪内) → 保之(やすゆき・坪内つぼうち、幕臣/歌) E 4 5 8 8
 左京(さきょう・鶴嶺) → 戊申(しげのぶ・鶴嶺つるみね、国学者/歌人) C 2 1 7
 左京(さきょう・伊達) → 宗翰(むねもと・伊達だて、藩主/歌) D 4 2 5 2
 左京(さきょう・奥野) → 昌綱(まさつな・奥野/竹内、幕臣/キリスト教伝道) E 4 0 0 1
 左京(さきょう・岡田) → 義政(善政よしまさ・岡田おかだ、旗本/治水) M 4 7 0 4
 左京(さきょう・天野) → 致恭(むねたか・天野あまの/藤原、旗本/歌) 4 2 5 1
 左京(さきょう・青山/浅野) → 長容(ながかね・浅野あさの、藩主/歌) K 3 2 6 6
 左京(さきょう・岩城) → 隆韶(たかつぐ・岩城いわき/伊達、藩主/学問) V 2 6 7 2
 左京(さきょう・大島) → 義苗(よしたね・大島おおしま、旗本/俳人) K 4 7 6 5
 左京(さきょう・羽太) → 政方(まさみち・羽太はた/藤原、旗本/歌) M 4 0 1 1
 左京(さきょう・柴田) → 千町(ちまち・柴田しばた、神職/歌人) M 2 8 6 8
 左京(さきょう・長岡) → 政業(まさなり・長岡ながおか、神職/歌人) R 4 0 2 4
 左京(さきょう・広田) → 正愛(まさあか・広田ひろた/度会、神職/国学) S 4 0 2 0
 左京(さきょう・白井) → 匡之(まさゆき・白井しらい、医者/国学) Q 4 0 2 4
 左京(さきょう・辻) → 正矩(まさのり・辻つじ/度会、神職/国学) Q 4 0 9 5
 左京(さきょう・佐々木) → 信重(のぶしげ・佐々木ささき、医者/歌人) I 3 5 5 1
 左京(さきょう・益) → 喬(たかし・益ます/井上、医者/神職) Z 2 6 5 0
 左暁(さきょう、俳名) → 正七(しょうしち・清水、歌舞伎作者) S 2 2 7 5
 左暁(さきょう、俳名) → 賞七(しょうしち・清水、歌舞伎作者) J 2 2 4 2
 座興庵(ざきょうあん) → 芭蕉(ばしょう・松尾、俳人) 3 6 1 7
 左京公(さきょうこう) → 実祐(じつゆう; 法諱、華厳僧) V 2 1 1 3
 左京進(さきょうしん・赤塚) → 澄景(すみかげ・赤塚あかつか、神職/歌人) L 2 3 2 1
 左京入道(さきょうにゅうどう・甲斐) → 宗柳(そうりゅう; 法諱、甲斐親秀?、武家/連歌) J 2 5 1 2
 左京入道(さきょうにゅうどう) → 宗栄(そうえい・島田しまだ、鷹匠) G 2 5 1 8
 左京阿闍梨(さきょうのあじり) → 日教(にっきょう; 法諱・本是院、日蓮僧) D 3 3 8 1
 左京権大夫(さきょうのごんのだいぶ) → 随光(よりみつ・北小路きたのこうじ/藤原、神職) M 4 7 4 7
 左京之進(さきょうのしん・狩野) → 三雄(みつお/さんゆう・狩野かのう/三谷、藩御用絵師) I 4 1 6 6

左京亮(さきょうのすけ・山名)→ 熙利(きり・山名やまな、武士/連歌) Q 1 6 4 8
 左京亮(さきょうのすけ・織田)→ 貞置(さだおき・織田/平、幕臣/茶人) H 2 0 8 4
 左京亮(さきょうのすけ・大坪)→ 道禪(どうぜん・大坪おおつば、馬術家) G 3 1 2 3
 左京亮(さきょうのすけ・土岐)→ 頼長(よりなが・土岐とき、藩世嗣/和学) N 4 7 9 7
 左京亮(さきょうのすけ・吉井)→ 良行(よしゆき・吉井よしい、神職/神道学) Q 4 7 0 1
 左京亮(さきょうのすけ・重松)→ 安勝(やすかつ・重松しげまつ、神職/国学/歌) F 4 5 9 6
 左京亮(さきょうのすけ・岩城)→ 隆恕(たかのり/たかひろ・岩城いわき、藩主/歌) D 2 6 4 6
 左京亮(さきょうのすけ・松平)→ 乗全(のりやす/-たけ・松平、老中、詩歌) G 3 5 0 7
 左京亮(さきょうのすけ・吉川)→ 経永(つねなが・吉川きつかわ、領主/国学) F 2 9 6 2
 左京亮(さきょうのすけ・毛利)→ 元敏(もととし・毛利もうり、藩主/歌人) L 4 4 7 0

B2043 左京大夫(さきょうのだいふ・永陽門院) ?-?1333存 後深草天皇皇女永陽門院[1272-1346]の女房、
 昭慶門院少将/頓阿らと交流、歌人/勅撰9首;風雅(5首743/1392/1495/1906/1997)以下
 [さそひはてし嵐の後の夕しぐれ庭の落葉をなほやそむらむ](風雅;冬743)

B2044 左京大夫(さきょうのだいふ・後伏見院ごふしみん) ?-? 鎌倉後期後伏見院[1288-1336]出仕の女房歌人、
 風雅集715、

[うらがるる浅茅が庭のきりぎりす弱るをしたふわれもいつまで](風雅集;秋715)

左京大夫(さきょうのだいふ・式乾門院)→ 右京大夫(うきょうのだいふ・式乾門院) 1 2 1 5
 左京大夫(さきょうのだいふ・正親町院)→ 正親町院左京大夫(おおさまらいんのさきょうのだいふ) 1 4 3 8
 左京大夫(さきょうのだいふ・永明門院;筑波集)→ 右京大夫(うきょうのだいふ・承明門院) C 1 2 1 4
 左京大夫(さきょうのだいふ・河野)→ 通宣(みちのぶ・河野こうの、武将/城主) H 4 1 2 0
 左京大夫(さきょうのだいふ・立花)→ 鑑通(あきみち・立花、藩主/詩歌俳) D 1 0 9 4
 左京大夫(さきょうのだいふ・田村)→ 邦顕(くにあき・田村たむら、藩主) E 1 7 2 8
 左京大夫(さきょうのだいふ・徳川)→ 宗直(むねなお・徳川とくがわ/松平、藩主/歌) E 4 2 0 3
 左京大夫(さきょうのだいふ・徳川)→ 治貞(はるさだ・徳川、藩主/文筆家) G 3 6 3 4
 左京大夫(さきょうのだいふ・丹羽)→ 長国(ながくに・丹羽にわ、藩主/歌人) K 3 2 2 5
 左京大夫(さきょうのだいふ・伊東)→ 祐相(すけとも・伊東いとう、藩主/詩歌) G 2 3 6 8
 左京大夫(さきょうのだいふ・交野)→ 時万(ときつむ・交野かたの、廷臣/神職/歌) U 3 1 7 6
 左京の局(さきょうのつぼね)→ 喜世(きよ・勝田、将軍家宣側室、歌人) N 1 6 0 0

H2019 砂旭(さきよく) ?-? 江中後期俳人:杉山杉門?
 1790「冬かつら」重刻本に芭蕉追悼歌仙入

左極(さきよく・加治)→ 鳳山(ほうざん・加治かじ、藩士/儒者) B 3 9 0 4
 左金(さきん・岩佐/岡村)→ 鳳水(ほうすい・岡村/岩佐、絵師) B 3 9 9 4
 左金吾(さきんご・太田)→ 持資(もちすけ・太田/源、道灌/武将/歌) 4 4 0 7
 左金吾(さきんご・大原)→ 呑響(どんきょう・大原/今田、儒/経世家) S 3 1 1 3
 左金吾(さきんご・松平)→ 定寅(さだとも・松平まつだいら、幕臣/園芸) I 2 0 9 6
 左金吾(さきんご・松平)→ 定朝(さだとも・松平、定寅男/幕臣/園芸家) I 2 0 9 2
 左金吾(さきんご・石川)→ 豊翠(じょうすい・石川、藩士/詩・書) T 2 2 7 0
 左金吾(さきんご・中瀬)→ 勝文(かつふみ・中瀬なかせ/秦、国学者) V 1 5 1 9
 左金吾(さきんご・小谷)→ 巢松(そうしょう・小谷おたに、藩儒/詩文) C 2 5 0 8
 左金吾(さきんご・江川)→ 松濤(しょうとう・江川えがわ、儒者/歌人) L 2 2 1 3

H2020 さく(・山名やまな、号:かつら、広江殿峰女)1792-186170 父は長門下関醤油醸造業、文筆家/歌人、
 山名七郎左衛門[俳号;発海]の妻、俳諧/書画を嗜む、「いろは道歌」「狸狐喩話」「詠草」著、
 「日本六十余州巡歴文句」著

乍(さく・田村/照井)→ 長柄(ながら・照井てい、医/神職) G 3 2 6 0
 策(さく・寺村)→ 馬六(ばろく・寺村てらむら、俳人) H 3 6 1 4

Q2013 作阿(さくあ;法諱) ?-? 南北期;時宗僧、歌人、

1387(至徳4)浄阿5代奉納[隠岐高田明神百首和歌]2首出詠、

[花ならぬ木ずゑもみえず高田山朝る雲のいづれなるらむ](高田明神歌;16/花満山)

[ほど近き里しる神のきませるをゆふつけどりの声につげつつ](号;86/隣里鶏)

作阿(さくあ)→ 浄阿(二代じょうあ;法諱、時宗僧/連歌) Q 2 2 7 3

- N2079 **作庵**(さくあん・生熊いづま、号;臥竜亭)1558-1663長寿106歳 江戸の医者;水戸藩の侍医
- H2021 **策庵**(さくあん・浅井あさい、名;正純、将成男)1643-170563 京の医者;味岡三伯門、三伯門の四傑の1、先祖は近江浅井郡出身/医者浅井盛政の孫、「切紙之辨」「三臓之辞」「薬性記」「灸法要訣」、「難経本義記聞」「病機撮要註解」「腹舌之候」著、
[策庵(;号)の通称] 周伯/周璞しゅうはく
策庵(さくあん・里村) → 昌叱(しょうしつ・里村、南家の祖/連歌師) 2 2 2 6
朔庵(さくあん・勝部) → 青魚(せいぎょ・勝部/勝、医者/儒/俳人) B 2 4 0 1
策一(さくいち・郷) → 純造(じゅんぞう・郷ごう、農家/剣術/幕臣) O 2 1 4 8
昨鳥(さくう) → 白雄(しろお・加舎かや、俳人) 2 2 1 4
- H2022 **昨雲**(さくうん:入道号・小笠原おがさわら、名;為政/通称;勝三)?-? 江前期元和延宝1615-81頃の兵学者、兵学;小笠原左近将監則正門/儒;藤原惺窩門、1617「当流軍法功者書」21「諸家評定」、1649「軍法馬書」76「一統集」、「犬追物聞書」「武道要略」著/「軍用侍用集」編など編著多数
- B2045 **昨雲**(さくうん) ? - ? 江戸の俳人:1680江戸大坂通し馬(武蔵曲)入、1682(天和2)千春「武蔵曲」入;「錦どる」(麩埒び発句)百韻参加;
[孤村こそん遙かに悲風ひふう夫をつとを恨むかと] («錦どる」第9句、前句似春;梧桐の夕べ孺子を抱きて、梧桐の下で赤子を抱く妻;
淋しい離村で悲しさをそそる風に吹かれながら帰らぬ夫を遙かに怨みつつ)
索雲斎(さくうんさい) → 玄仍(げんじょう・里村、連歌師) 1 8 2 1
- H2023 **作右衛門**(さくえもん:通称・伊藤いとう、号;九十谷)?-? 越前福井藩士;1695出仕;勝手方、1737歴代藩主の事蹟逸話の編年体「片豊記」編、家のもと朝倉氏出仕の浪人
作右衛門(さくえもん・上松) → 木導(もくどう・上松/奈越江なおえ、俳人) B 4 4 0 4
作右衛門(さくえもん・大和屋) → 一樓(いちろう・千里岱、俳人) G 1 1 6 4
作右衛門(さくえもん・高木) → 忠任(ただたね・高木、長崎代官/薬草) P 2 6 7 8
作右衛門(さくえもん・梶川) → 可久(よしひさ・梶川かじかわ/具原、和漢学) G 4 7 2 9
作右衛門(さくえもん・高瀬) → 学山(がくざん・高瀬たかせ、儒者) E 1 5 6 9
作右衛門(さくえもん・毛利) → 正周(まさかね・毛利もうり/吉井、藩士/華道) T 4 0 1 6
作右衛門(さくえもん・河原) → 桃水(とうすい・河原/五々庵、医者/俳人) F 3 1 7 8
作右衛門(さくえもん・倉舗屋/七五三屋) → 長斎(ちようさい・七五三しめ、国学/俳人) I 2 8 3 8
作右衛門(さくえもん・田内) → 千町(ちまち・田内たのうち、藩士/国学/歌) L 2 8 4 2
作右衛門(さくえもん・今村) → 歌麿(うたまろ・今村いまむら、歌人) E 1 2 5 3
作右衛門(さくえもん・藤田) → 広見(ひろみ・藤田ふじた、藩士/国学/歌) K 3 7 8 7
作右衛門(さくえもん・大竹) → 元一(もとかず・大竹/藤原/武藤、藩士/歌) J 4 4 5 4
作右衛門(さくえもん・榎淵) → 重之(しげゆき・榎淵くしむら、国学者/歌) O 2 1 2 9
作右衛門(さくえもん・肥田) → 景肅(かげたか・肥田ひだ、国学/歌人) V 1 5 4 5
笹園(さくえん/かくえん) → 雨窓(うそう・新井あらい、儒者/詩歌) C 1 2 0 2
作畑(さくえん;初道号) → 戒琬(かいわん;法諱・蒔謙;道号、黄檗僧) J 1 5 1 6
柞園(さくえん・西川) → 蒼生雄(みんたみお・西川にしかわ、国学) Y 2 6 8 2
柞園(さくえん・渡辺) → 敏雄(としお・渡辺わたなべ、神職/国学) W 3 1 9 8
昨淵(さくえん・成瀬) → 久敬(ひさたか・成瀬なるせ、藩士/地誌) B 3 7 2 2
- N2066 **策応**(さくおう・麻生あそう、号;雲樵)1830-189566 豊前宇佐郡麻生村の人/近江妙感寺住職、歌人/能書家
策翁(さくおう・大森) → 宗勲(宗君そうくん・大森おおもり、音曲家) B 2 5 1 5
朔翁(さくおう・関戸) → 信俊(のぶとし・関戸せきと、茶人/歌) I 3 5 8 2
索我(さくが・田中) → 守貫(もりつら・田中たなか、絵師/法橋) K 4 4 2 9
酢荷担幽人(さくかたんゆうじん) → 万齡(ばんれい・玉置たまき、造酢業/文筆) I 3 6 7 1
策卿(さくけい・本多) → 忠籌(ただかず・本多ほんだ、藩主/改革) P 2 6 3 0
策彦(さくげん:道号) → 周良(しゅうりょう:法諱・策彦:道号、臨濟僧/詩) 2 1 5 0
作五郎(さくごろう・加島屋) → 鶴夫(たづお・長田おさだ、豪商/国学/歌) B 2 6 4 4
作五郎(さくごろう・小林) → 喜脩(よしなが・小林こばやし、商家/歌人) M 4 7 7 9
作斎(さくさい・轟木) → 寛胤(ひろたね・轟木とどろき、藩士/尊攘) K 3 7 3 2

- H2024 **作左衛門** (さくざえもん・板津いたづ、板津正的の養嗣子)?-? 江前期加賀藩士、
1629「將軍様相国様御成之次第」樗
- E2053 **作左衛門** (さくざえもん・古屋ふるや、名;智珍、高松与吉男)1833-69**戦死**37 筑後御原郡古飯の庄屋の生、
久留米藩士;1851脱藩/江戸で儒;安積良斎門/蘭学修学・英人から用兵学修得、
幕臣;歩兵指図頭取役、維新後旧幕臣の衝鋒隊を組織し長岡会津を転戦/五稜郭で戦死、
[作左衛門の別通称] 勝次/佐久左衛門
- 作左衛門(さくざえもん・本多)→ 重次(しげつぐ・本多ほんだ、武将/手紙) R 2 1 4 7
 作左衛門(さくざえもん・杉森)→ 門左衛門(初世もんざえもん・近松、浄瑠璃作者) 4 4 3 7
 作左衛門(さくざえもん・浅井)→ 政右(まさすけ・浅井あさい、藩士/歌人) C 4 0 8 8
 作左衛門(さくざえもん・中野)→ 惜我(せきが・中野/平、兵法・神道家) J 2 4 9 8
 作左衛門(さくざえもん・高橋)→ 至時(よしとき・高橋、幕臣/天文家) E 4 7 8 6
 作左衛門(さくざえもん・高橋)→ 景保(かげやす・高橋、至時男/幕臣/天文/シ・ホルト事件) B 1 5 9 9
 作左衛門(さくざえもん・横井)→ 時久(ときひさ・横井よこい、武将/藩士) J 3 1 8 3
 作左衛門(さくざえもん・横井)→ 時文(ときふみ・横井よこい、藩士/儒者) K 3 1 0 0
 作左衛門(さくざえもん・阿知子あちし)→ 顕成(あきなり・阿知子/山井やまのい、医者/連歌/俳諧) C 1 0 2 3
 作左衛門(さくざえもん・田口)→ 藤好(ふじよし・田口たぐち、儒者/詩) C 3 8 7 4
 作左衛門(さくざえもん・香山/佐方)→ 乙語(おつご・佐方さかた、藩士/俳人) D 1 4 1 7
 作左衛門(さくざえもん・梶川)→ 景典(かげのり・梶川かじかわ、藩士/儒者) L 1 5 1 8
 作左衛門(さくざえもん・草加)→ 白根(しらね・一文字、武士/狂歌作者) D 2 2 1 8
 作左衛門(さくざえもん・渡辺)→ 立庵(りつあん・渡辺わたなべ、与力/茶人) B 4 9 5 6
 作左衛門(さくざえもん・切部)→ 桃隣(とうりん・切部、俳人) I 3 1 3 5
 作左衛門(さくざえもん・井上)→ 紀躬鹿(きのみじか、役人/狂歌) G 1 6 1 3
 作左衛門(さくざえもん・久保/古屋)→ 菅賢(すがよし・古屋、藩士/歌人) F 2 3 4 3
 作左衛門(さくざえもん・稲次)→ 元知(もとちか・稲次いなつぐ、国学者) J 4 4 2 9
 作左衛門(さくざえもん・隅田)→ 是勝(これかつ・隅田、宇佐見流兵法家) O 1 9 2 2
 作左衛門(さくざえもん・倉舗屋/七五三屋)→ 長斎(ちやうさい・七五三しめ、国学/俳人) I 2 8 3 8
 作左衛門(さくざえもん・酒布屋/宮坂)→ 恒由(つねよし・宮坂みやさか、酒造業/国学) E 2 9 9 1
 作左衛門(さくざえもん・宮坂)→ 恒敬(つねたか・宮坂、恒由男/酒造/国学) G 2 9 5 7
 作左衛門(さくざえもん・疋田)→ 棟隆(むねたか・疋田、藩士/史家) B 4 2 5 2
 作左衛門(さくざえもん・金万)→ 浪麿(なみまる・金万かねまん、漁師/国学) L 3 2 6 0
 作左衛門(さくざえもん・堀田)→ 貫忠(かんちゆう;法諱・愛宕あたご・堀田、天台僧) T 1 5 4 3
 作左衛門(さくざえもん・北郷)→ 久嘉(ひさよし・北郷きたごう、藩家老/国学) J 3 7 2 7
 作三右衛門(さくざえもん・上条)→ 柳廬(りゅうろ・上条かみじょう/横井、官吏/儒者) F 4 9 0 8
 索々軒(さくさくけん) → 和英(わえい・岸本きしもと、俳人) 5 3 0 7
 作三郎(さくさぶろう・中山)→ 武徳(たけのり・中山なかやま、通詞) O 2 6 6 3
 柵山人(さくさんじん) → 忠直(ただなお・横井よこい、漢学/史学) 2 7 2 7
- P2029 **策司**(作治さくじ・古田ふるた、与一左衛門重興しげおき長男)1778-1849**72** 信濃高島藩士、
歌人;桃沢夢宅門、
[策司(;通称)の名/号]名;重暉しげてる、号;回春園草竜
- 佐久治(佐久次さくじ・岸崎)→ 時照(時照ときてる・岸崎、藩士/税制) J 3 1 4 1
 朔見庵(さくじあん/さくにあん)→ 貞至(ていし・中島、俳人) B 3 0 0 0
 作十郎(さくじゅうろう・加藤)→ 貞泰(さだやす・加藤/藤原、藩主/連歌) K 2 0 0 2
 索珠堂(さくしゅどう) → 南洲(なんしゅう・青葉あおば、儒者) J 3 2 1 7
 柵松軒(さくしょうけん) → 里圃(りほ、能役者/俳) C 4 9 4 8
- H2025 **作次郎** (さくじろう・吉雄よしお、名;永純、藤三郎男)1725-77**53** 肥前長崎の阿蘭陀通詞;父を継嗣、
1742稽古通詞/58小通詞末席/66小通詞並/71小通詞助役、吉雄耕牛の弟、左七郎の父
翻訳;「紅毛流膏薬方」「紅毛流油水薬之書」「阿蘭陀膏薬方」「阿暮天恵氣留」等訳書多数、
1772「阿蘭陀船一艘洋中ニ而遭難風乗捨候船五島三井楽村沖江漂着一件」著、
作次郎(さくじろう・竹内/松永)→ 薊斎(けいさい・沖、藩士/儒者) E 1 8 6 9
 作次郎(さくじろう・松木)→ 継彦(つぎひこ・松木/久志本/度会、神職) 2 9 5 3

- 作次郎(さくじろう・疋田) → 棟隆(むねたか・疋田、藩士/史家) B 4 2 5 2
 作次郎(さくじろう・安田) → 信村(のぶむら・安田やすだ/太田、国学者) K 3 5 2 2
 作次郎(さくじろう・山之内) → 貞奇(さだよし・山之内やまのうち、藩士/歌) K 2 0 3 2
 作次郎(さくじろう・内藤) → 儀重(のりしげ・内藤ないとう、藩士/神職) J 3 5 3 2
 朔次郎(さくじろう・野田/伊庭) → 時言(ときのみこと・伊庭いば/野田、歌人) J 3 1 7 3
 朔次郎(さくじろう・長谷川) → 師鴻(しこう・長谷川はせがわ/源、儒者) T 2 1 3 6
- 02082 索進齋(さくしんさい・土屋つちや、鉄屋:土屋三右衛門男)?-? 備後福山深津の鉄屋の生、
 京の狩野派絵師;鶴沢探鯨・探索門、鶴沢円山応挙・田中守貫(索我/1742-1814)と同門、
 備前池田家に招聘/法橋、晩年;帰郷し福山藩内に画風を伝授、
 [索進齋(;名)の通称]丈右衛門
- 作助(さくすけ・高橋) → 景保(かげやす・高橋たかはし、幕臣/天文家) B 1 5 9 9
 作助(さくすけ・八木) → 為茂(ためしげ・八木やぎ、藩士/和学) 2 7 0 3
 作助(さくすけ・鈴木) → 茶町(ちやちやう・蛙面坊、鈴木作助/藩士/郷土史家) F 2 8 5 9
 作助(さくすけ・小花) → 作之助(さくのすけ、小花おはな、幕臣/小笠原開発) H 2 0 2 7
 作蔵(さくぞう・近藤) → 棠軒(とうげん・近藤、藩儒/経史) D 3 1 3 5
 作蔵(さくぞう・三木) → 芳盛(初世よしもり・歌川/三木、絵師) H 4 7 7 2
 作蔵(さくぞう・河野) → 秋景(あきかげ・河野こうの、藩士/国学/歌) H 1 0 5 5
 朔叟山人(さくそうさんじん) → 源助(げんすけ・村林むらばやし、商家/和漢学) N 1 8 9 9
- H2010 昨替(さくたい) ? - ? 江前期上方の俳人、
 1673西鶴「生玉万句」第十節季いせきぞろ発句入、
 [俳言も慥たしかに御座れや節季いせきぞろ](節季いせきぞろ)
 節季い;歳暮に笠被り赤い覆面し「せきぞろござれや」と囃し祝言述べ米銭乞う乞食)
- Q2094 作太夫(さくだゆう・玉井たまい、?) ?明和1764-72頃没 紀伊新宮藩領の名草郡の水野家蔵の庄屋、
 歌人;冷泉家入門/冷泉家の玉津島代参
- 作太夫(さくだゆう・雛屋/紅粉屋) → 立厩(りゅうほ・野々口、細工師/俳人) 4 9 1 3
- H2026 作太郎(さくたろう;通称・福田ふくだ、覚右衛門男) 1833-1910 78 幕臣;1843弓矢鍵奉行同心見習、
 1844家督嗣;同心御抱入/1954箱館奉行手附出役/60御徒目付/61御勘定格、
 1863神奈川奉行支配組頭/64御鉄砲製造奉行永々御目見以上/66役歩兵指図頭取、
 1868歩兵頭兼帯/維新後;大蔵省・民部省・工部省を経て内務省地理衛生局出仕、
 1854-62「福田作太郎筆記」著
 [作太郎(さくたろう;通称)の名]名;重固、
- 作太郎(さくたろう・藤田) → 知恒(ともつね・藤田ふじた/尾崎、国学) W 3 1 2 5
 朔太郎(さくたろう・倉田) → 續(いさお・倉田、儒者) F 1 1 4 7
 作東(さくとう・坂上) → 忠介(ちゅうすけ・坂上さかのうえ、儒者) G 2 8 4 8
 作内左衛門(さくないざえもん・田近/伊藤) → 鏡河(きやうか・伊藤いとう、儒者) N 1 6 3 8
- 2014 策伝(さくでん・安楽庵あんらくあん) 1554-1642 89 美濃の浄土僧;幼時美濃山県郡浄音寺入、
 京禅林寺の智空甫叔門/山陽各地を布教活動;諸寺創建、堺正法寺・美濃浄音寺住、
 美濃立政寺住/1613京の誓願寺55世法主、1619紫衣勅許/退隠;誓願寺境内に竹林院創建、
 清涼殿曼茶羅講義/茶室安楽庵創設;小堀遠州らと茶の湯、話芸に秀で歌・狂歌を嗜む、
 仮名草子作者、1623「醒醉抄」、「百椿集」著、「策伝和尚送答控」、歌集、
 [安楽庵策伝(;号)の法諱/別号/通称]法諱;日快、別号;醒翁、通称;然空/寛励和尚
- 朔道人(さくどうじん) → 仏朔(ぶつさく;号、葡萄庵/社僧) D 3 8 3 4
 作内(さくない・北村) → 宗甫(そうほ・北村きたむら、藩士/連歌) I 2 5 8 6
 咲成(さくなり・花) → 花咲成(はなのさくなり、狂歌師) F 3 6 4 8
- B2046 昨囊(さくのう・岸名きしな、屋号;新保屋、岸名惣助男)?-1737 越前三国の材木業、俳人;支考門、
 俳文に長ず、1707俳諧撰集「日和山」編(北枝序)、
 [昨囊(;号)の通称/別号]通称;惣助/惣八郎、別号;斜雲舎、法号;惠覚道智
- 作之右衛門(さくのえもん・上条) → 柳居(りゅうきよ・上条かみじょう、与力/国学) D 4 9 3 4
 作之丞(さくのじょう・松木) → 継彦(つぎひこ・松木/久志本/度会、神職) 2 9 5 3
 作之丞(さくのじょう・押川/武井) → 周発(しゅうはつ・武井たけい、藩絵師) Y 2 1 2 3

- 作之丞(さくのじょう・横井)→ 時文(ときぶみ・横井よこい、藩士/儒者) K 3 1 0 0
 作之丞(さくのじょう・上田)→ 竜郊(りゅうこう・上田うえだ、儒者/教育) D 4 9 8 5
 作之丞(さくのじょう・池田)→ 正樹(まさき・池田いけだ、藩士/記録) C 4 0 2 3
 作之進(さくのしん・服部)→ 保昌(やすまさ・服部はつとり、幕臣/和学) G 4 5 4 2
 作之進(さくのしん・佐久間)→ 太華(大華たいか・佐久間、藩士/儒者) B 2 6 0 6
 作之進(さくのしん・児二井)→ 秀時(ひでとき・児二井こい、神職/国学) J 3 7 5 4
 朔之進(さくのしん・田中)→ 則義(のりよし・田中たなか、藩士/歌人) I 3 5 8 8
- H2027 作之助(さくのすけ、小花おぼな、名;邦孚) 1829-1901 73 幕臣;1861外国奉行支配定役元締助;
 奉行水野忠徳の小笠原派遣に随行;1863まで滞在/1867外国奉行支配調役、
 1868町奉行支配調役、維新後;東京府権大属/内務省権少丞;小笠原出張所長、
 小笠原島開発に尽力、1861「小笠原島風土略記」著、
 [作之助(;通称)の別通称/号]別通称;作助、号;白香、法号;寮源院
 作之助(さくのすけ・平石)→ 時光(ときみつ・平石ひらいし、藩士/暦算家) K 3 1 0 9
 作之助(さくのすけ・糸永)→ 茂昌(しばまさ・糸永いとなが、神職/国学) N 2 1 4 0
 作之助(さくのすけ・長田)→ 比等之(ひとし・長田おさだ、商家/歌人) I 3 7 9 5
 佐久之助(さくのすけ・川喜田)→ 政豊(まさとよ・川喜田かわきた、商家/国学) P 4 0 0 0
 酢粕(さくはく・岡田)→ 啓(けい・岡田、国学者) D 1 8 3 2
 作八(さくはち・武知)→ 方穫(まさかり・武知たけち、藩儒/詩歌人) P 4 0 1 6
- B2047 昨非(さくひ・乾いぬい) ? - ? 備前岡山の生?/大阪天満橋畔で酒屋を営む、
 俳人;立圃門/のち宗因門か?/談林系、元禄期に才麿門、俳諧点者、惟中・由平・来山と交流、
 1690「根合」/91「星祭」/「縄すだれ」「元禄かなしみの巻」編、91賀子「蓮実」4句入(昨非名)、
 1702轍士「花見車」1句入(半隱名)、13「美濃歳旦」編、「俳諧むしぼし」「立圃昨非百韻」著、
 [宵闇に白魚見知る浦半うらはかな](蓮実;146/浦半は浦回;入組んだ海岸)、
 [昨非(;号)の通称/別号]通称;桑名屋清左衛門、
 別号;半隱・作丸・薬香軒(やくかうけん)・薬香亭・昨非堂半隱・覚悟軒
- H2028 昨非(さくひ・岩井田いかわだ、名;希庚) 1698-1758 61 下野芳賀の儒者;江戸の桂山彩巖門、
 1734二本松藩に出仕/郡奉行・江戸用人を歴任/番頭格、1753致仕、
 「駅燈随筆」「四書途説」「大学和解」著、
 [昨非(;号)の字/通称/号]字;子微、通称;左馬助/舎人、号;そう嶽/屠竜、法号;今是院
 昨非庵(さくひあん)→ 正白(せいはいく・昨非庵、俳人) C 2 4 7 5
 昨非庵(さくひあん)→ 鼎丕(ていひ・古城、俳人) B 3 0 5 8
 昨非庵(さくひあん)→ 中道(ちゅうどう;法諱、真宗学僧) G 2 8 6 6
 昨非居士(さくひこじ)→ 華山(かざん・渡辺、絵師・儒・蘭学) 1 5 8 3
 昨非堂半隱(さくひどうはんいん)→ 昨非(さくひ・乾、商家/俳人) B 2 0 4 7
 作平(さくへい・山口)→ 厚菴(こうあん・山口やまぐち、儒者/歌) H 1 9 2 4
 策平(策柄さくへい・浅野屋)→ 佐平(さへい・浅野屋/塩屋、国学/勤王) L 2 0 5 4
- B2048 朔平門院(さくへいもんいん・瑠子とうし内親王、伏見天皇皇女) 1287-1310 早世 24 鎌倉期歌人、
 母;顕親門院季子(洞院実雄女)、1293内親王宣下/1309准三后;院号宣下、
 勅撰10首;玉葉(8首602/719/897/1393/1441/1477/1789/2585)・風雅(144/1368)、
 [鳴きつくす野面のもせの虫の音ねのみして人はおとせぬ秋のふる郷](玉葉;秋602)
- H2029 作兵衛(さくべえ;通称・高島たかしま) ?-? 江末期肥前長崎の町年寄/1808以降代々町奉行を世襲、
 代々[作兵衛]を名乗る、1850蛮語兼学の命により若年者への言語和解の取締役;
 唐通事・阿蘭陀通詞が満州語・露語・英語兼修の際の取締、
 1850「唐紅毛記並所望物会所請込伺引替帳」著
 作兵衛(さくべえ・安田正義)→ 貞成(さだしげ・天野/安田、武将/記録) I 2 0 2 1
 作兵衛(さくべえ・鶏冠井かえでい)→ 令富(りょうとみ・鶏冠井かえでい、歌/俳人) J 4 9 1 2
 作兵衛(さくべえ・木瀬)→ 三之(さんし・木瀬きせ、国学;歌学革新) E 2 0 3 4
 作兵衛(さくべえ・小山)→ 儀(ただし・小山こやま、国学/儒者/詩人) F 2 6 1 1
 作兵衛(さくべえ・河澄)→ 常之(つねゆき・河澄かわすみ、商家/歌人) F 2 9 5 7
 作兵衛(さくべえ・上原)→ 建胤(たけたね・上原うえはら、国学者/歌) O 2 6 4 4

- 作兵衛(さくべえ・飯島) → 為秀(ためひで・飯島いじま、歌人) V 2 6 5 6
 作兵衛(さくべえ・岡田) → 麿孫(みかしば・岡田おかだ/夏目、国学/歌) I 4 1 5 6
 作兵衛(さくべえ・久世) → 光包(みつかね・久世くぜ、国学者) I 4 1 9 1
 作兵衛(さくべえ・小山) → 翔(しょう・小山こやま、国学者) U 2 2 8 3
 作兵衛(さくべえ・向井) → 安長(やすなが・向井むかい、大庄屋/国学) G 4 5 8 6
 作兵衛(さくべえ・住江屋) → 葉流軒河丸(よりゅうけんかわまる、狂歌作者) B 4 7 6 3
 昨飽庵(さくほうあん) → 芦路(ろろ・尾谷おだに、俳人) C 5 2 5 0
 昨木軒(さくぼくけん) → 正矩(まさり・香川/平、藩士/軍記作者) F 4 0 9 3
 昨木山人(さくぼくさんじん) → 惺齋(せいさ・藤原、儒者) 2 4 0 3
 作馬(さくま・二神) → 礼和(ひろかず・二神ふたがみ、庄屋/歌人) K 3 7 8 8
 作摩(さくま・川村) → 正臣(まさおみ・川村かわむら、藩士/神職) P 4 0 0 4
 佐久馬(さくま・江守) → 城陽(じょうよう・江守えもり、藩儒) B 2 2 8 8
 作丸(さくまる) → 昨非(さくひ・乾、商家/俳人) B 2 0 4 7
- P2067 佐久美(さくみ・安元やすもと、名;滋足しげたり、真満まさみつ男) 1845-1915 71 筑後久留米の国学者/神職?、
 国学・歌;本居豊穎・船曳鉄門門
- K2039 昨夢(さくむ・浄照坊じょうしょうぼう)?-? 江前期上方の僧/俳人、1678西鶴「物種集」入、
 [憂き泪なみだもとの素顔と成りにけり](物種集/前句;白似せつかふ別路のかね、
 白似せ;全くの偽物・素知らぬふりをする事)
- N2016 昨夢(さくむ) ?-? 江後期安藝阿賀の西光寺の隠居/俳人、
 [水尾杭みをくひの鴉にくろシタかすみ](短冊)
- 昨夢(さくむ;号) → 性海(しょうかい;道号・霊見;法諱、臨濟僧) Q 2 2 9 4
 昨夢(さくむ;号) → 幽真(ゆうしん;法諱、真言僧/詩歌) C 4 6 7 7
 昨夢居士(さくむこじ) → 立守(たてもり・林はやし、国学/神職) Z 2 6 0 6
 昨夢斎(さくむさい) → 宗久(そうきゅう・今井、商家納屋衆/茶人) B 2 5 0 1
 昨夢廬(さくむろ) → 僧僕(そうぼく;法諱、真宗本願寺派僧) I 2 5 9 2
 作也(さくや・高橋) → 垣堂(たんどう・高橋たかはし、藩士/勤王) I 2 6 5 5
 佐久也園(さくやえん) → 及淵(しきぶち・上田/平井、藩医/国学) Q 2 1 1 0
- E2035 さくら(;組連) ?-? 江中期江戸麻布の雑俳の組連、
 取次;1737「琴公評万句合」入/取次例;[そばへ寄りや 消ぬ火迄を取に立つ](万句合)、
 (前句;何をいうてもいしべ金吉/ここの金吉は女性;口実つけて誘惑から逃れる)、
 のち改組されたか → 新桜(にいざくら;組連) G 3 3 9 4
- F2013 作楽(さくら・丸山まるやま) 1840- 1899 60 肥前島原藩士/国学;平田鉄胤門、江戸住;歌人・詩人、
 維新後;神祇官権判事/宮内省図書頭、妻;棚谷梅子(1844-1921/歌人)、
 「磐之屋集」「東海詩存」著、
 [作楽(;名)の別名/字/通称/号]別名;真彦まひに/麻毘古/正虎/正路/千別/朔良、
 字;安宅/善賀、通称;勇太郎/太郎/曾右衛門、
 号;素行/東華/東海/神習処/磐之屋/清水居
- 作良(桜さくら・岸田) → 吟香(ぎんこう・岸田きしだ、新聞/薬業家) S 1 6 5 2
 作良(さくら・榊原) → 芳野(よしひ・榊原さかきばら、国学者) F 4 7 5 2
 左倉(さくら) → 左倉太夫(さくらだゆう、矢野/藤原、神職) H 2 0 3 2
 桜井(さくらい・大原) → 桜井王(さくらいのおおきみ) B 2 0 4 9
 些久楽居(咲楽居さくらい) → 貞温(さだあつ・秋良あきら、藩士/国事) H 2 0 7 2
 桜井丹波掾(さくらいたんぱのじょう) → 丹波掾(たんぱのじょう・桜井、和泉太夫、金平浄瑠璃) 2 6 9 6
- H2031 桜井尼(さくらいのあま) ?-? 平安期尼僧、伝不詳、歌;金葉I565III555、
 [のきばうつ真白ましろの鷹の餌袋ぶぐるに招餌おきるもさゝで返しつるかな](金葉;雑565)、
 (別れた男が置忘れた餌袋を求めたので贈歌/のきばうつは鷹が手を離れて舞立こと)、
 (招餌は鷹を招き寄せる餌;ここは男を呼び寄せるもの/男への決別の歌)
- B2049 桜井王(さくらいのおおきみ・大原真人おおはらのまひと、川内王男)?-? 廷臣;714従後下/739賜姓/744大蔵卿、
 従四下;鈴鹿王らと久邇京くにのみやこをの留守を預る、遠江守、長皇子の孫、高安王の弟、
 728頃聖武天皇に近侍;風流侍従の1人、万葉三四期歌人:八1614・廿4478、

[長月のその初雁の便りにも思ふ心は聞こえ来こぬかも](万葉;1614/聖武天皇に奉る)

櫻井僧正(さくらいのそうじょう) → 行慶(ぎょうけい;法諱、天台僧/歌人) C 1 6 3 7
櫻井宮(さくらのみや) → 覚仁法親王(かくにんほっしんのう、天台僧/歌) B 1 5 7 1
作楽園(さくらえん) → 清安(きよやす・山田やまだ、藩士/国学者) D 1 6 6 9
作楽香(さくらが) → 政昌(まさよし・石神いしがみ/藤原、国学/歌) N 4 0 5 7
作楽居(さくらきよ) → 眞彦(まひこ・河喜多/藤原、国学/歌) G 4 0 5 1
桜翁(さくらおう・岩崎) → 綱雄(つなお・岩崎、里正/国学者) B 2 9 0 4
桜川(さくらがわ) → 春門(はるかど・三村、名主/画/狂歌) G 3 6 2 0

N2013 桜木(さくらぎ) ? - 1787 江戸の上野山下仲町薩秀堂主人;誹風柳多留制作に関与、川柳;木綿(可有)門、桜木連として取次多数;1761-84頃「川柳評万句合」入、春季万句合の催、1767桜木連句集「桜の実」刊(;柳多留七〇篇にそのまま収載)、[焼き筆の先づぶつづけは玉津寫](明和元年万句合)

B2050 桜児(さくらこ) ? - ? 万葉伝説:畝傍山麓住;2人の男の恋争に林中で経死、万葉集;3786序

作楽山樵(さくらさんしやう・坂上) → 忠介(ちゆうすけ・坂上さかのうえ、儒者) G 2 8 4 8
桜園(さくらぞの) → 春岡(はるおか・鎌垣かまがき/大伴/児玉、国学/歌) J 3 6 9 5
桜田のつくり(さくらだ-、狂歌堺丁連) → 治助(じすけ・初世桜田) 2 1 2 3

H2032 左倉太夫(さくらだゆう、矢野やの/本姓;藤原、名;守光もりみつ)?-? 江後期;和泉の神職;神主、神道;森熊夫(1783-?)門、1809伊予宇和島で神道講釈、歌人、1835「御蔭太祓」「唯一神道太祓」編、[いやましにさかえゆくべき若松の緑も深き宿の庭かな](上田堂山[延齡松詩歌集]入)、[左倉太夫(;通称)の別通称/号] 桜太夫/佐倉大輔/左倉、号;清すがの舎

桜戸(さくらど/おうこ) → 信明(のぶあき・阪倉、国学/歌) 3 5 7 4
桜戸(さくらど/おうこ) → 文泉舎唐丸(ぶんせんしゃからまる・狂歌作者) G 3 8 0 0
桜戸(さくらど/おうこ) → 惟貞(これさだ・安部、国学/連歌) O 1 9 3 4
桜戸(さくらど/おうこ) → 眞貞(まさだ・安部あべ、惟貞男/国学者) D 4 0 1 1
桜戸(さくらど/おうこ) → 繁樹(しげき・中山なかやま、藩士/国学/歌) Q 2 1 9 2
桜戸(さくらど/おうこ) → 玉緒(たまお・宮崎みやざき/榊、医者/故実) Z 2 6 8 2
爰扇(さくらど) → 美石(うまし・中山、繁樹の祖父/藩士/国学/歌人) 1 2 8 6
作楽戸翁(さくらどおう) → 豊城(とよき・山内やまうち、書家/歌人) R 3 1 1 2
佐倉戸文作(さくらどぶんさく) → 文作(ぶんさく・佐倉さくら、歌舞伎作者) F 3 8 3 5
桜廼園(さくらその) → 長世(ながよ・久松ひさまつ/菅原、藩執政/歌) O 3 2 4 9

F2015 桜(佐倉)のはね炭(さくらはねすみ、通称;源蔵)?-? 江戸牛込揚場の米屋甚兵衛方の雇人か?、狂歌作者:橘州門スキヤ連、1782「若葉集」・85「徳和歌後万載集」7首
[ふる布子ぬのこ綿はぬけども馬方の袖に残れるはるのはな哥](後万載;130)、(綿入れの綿を抜いて袷にしたが春はまだ去りやらぬ)

桜屋(桜室さくらのや) → 千幹(ちもと・正木、国学者) F 2 8 4 8
桜舎(さくらのや・黒神) → 直民(なおたみ・黒神くろかみ、神職/国学) B 3 2 6 4
桜舎(さくらのや・小倉) → 実櫛(さねあき・小倉おぐら/林、幕臣/歌) K 2 0 6 9
桜舎(さくらのや・内藤) → 中心(なかご・内藤、国学/歌人) D 3 2 6 3
桜舎(さくらのや・多羅尾) → 氏純(うじずみ・多羅尾たらお、幕臣/国学) C 1 2 4 0
桜舎(さくらのや・榊原) → 芳野(よし・榊原さかきばら、国学者) F 4 7 5 2
桜廼舎(さくらのや) → 熊臣(くまおみ・岡おか、神職/国学) 1 7 2 4
桜廼舎(さくらのや) → 幸夫(ゆきお・内田うちだ、医者/国学;内藤中心門) G 4 6 6 3
桜廼舎(さくらのや) → 貫実(つらさね・恩田おんだ、藩家老/国学) F 2 9 5 2
桜之舎(さくらのや) → 光章(みつあき・櫻井さくらい/桃沢、国学・歌) H 4 1 6 8
桜の屋(さくらのや・七里) → 蕃民(しげたみ・七里しちり、国学者) O 2 1 7 6
作楽舎(さくらのや) → 重賢(しげかた・鈴木すずき、藩士/国学・歌) Z 2 1 0 7
桜坊(さくらぼう) → 舞雪(ぶせつ・滝沢たきざわ、俳人) C 3 8 9 7
さくら坊(さくらぼう) → 芳盛(初世よしもり・歌川/三木、絵師) H 4 7 7 2

- 桜町中納言(さくらまちちゅうなごん) → 成範(しげのり・藤原、廷臣/歌人) C 2 1 7 8
- B2051 桜町天皇(さくらまちてんのう、名;昭仁てるひと、中御門天皇第一皇子) 1720-50³¹ 母;新中和門院藤尚子、1720親王宣下/28立太子/在位1735-47(12年)、朝儀典礼復興に尽力;大嘗祭・宇佐宮奉幣等、歌人:「桜町天皇御歌集」「寵妃典侍資子哀悼歌」「桜町院御集」「宇佐八幡宮御奉納和歌」、「玉津島社奉納三十首」「寛延千首」「内侍所御法楽千首和歌」「六十賀和歌御会」、「歌道御教訓書」「教訓抄」「桃薬類題」外著多数
- 桜町三位重士律師(さくらまちのさんみじゅうしりっし;字)→良勝(りょうしょう;法諱・蓮光、真言僧) I 4 9 0 7
- 桜町宮(さくらまちのみや) → 後西天皇(ごさいてんのう、詩人) C 1 9 6 0
- 桜ん坊(さくらんぼう) → 芳盛(初世よしもり・歌川/三木、絵師) H 4 7 7 2
- 燕栗園(初世さぐりえん) → 千穎(ちかひ・西村、国学/狂歌) 2 8 6 0
- 燕栗園(2世さぐりえん) → 千寿(ちほぎ・久米、書肆/狂歌) F 2 8 3 7
- 柞良(さくりょう) → 杜若(とじやく・土田、藩士/俳人) N 3 1 9 7
- 作良(さくりょう・岸田) → 作良(桜さくら・岸田さした、儒・国学/歌) H 2 0 3 0
- 朔良(さくりょう)→さくら・丸山) → 作楽(さくら・丸山、藩士/国学/詩歌) F 2 0 1 3
- B2052 佐愚留(さぐる・膝元/膝本)?- ? 江戸の狂歌作者、1785赤良「後万載集」2首/87「才蔵集」入、[冬こもる寒のうちとて霜ばしらたてゝ氷のいたもはるなり](後万載;冬341)
- P2060 作郎(さくろう・矢島やじま、号;桂城) 1839-1911⁷³ 周防徳山藩士、和漢学者、維新後;英国留学;経済学を修学/帰国後;大蔵省紙幣助、東京貯蔵銀行/大阪三軒茶屋紡績会社設立、渋沢が発起した東京電燈(株)を設立/周陽銀行取締役頭取/正則英語学校を創立、1889東京市会議員/衆議院議員
- 佐久郎(左九郎/作郎さくろう・細木)→瑞枝(みずえ・細木ほそぎ、庄屋/農政/歌) 4 1 9 0
- 作郎(さくろう・岡田) → 麿孫(みかしば・岡田おかだ/夏目、国学/歌) I 4 1 5 6
- 朔郎(さくろう・蔵田) → 伸(しん・牧野まきの、幕臣/漢学/詩歌) V 2 2 2 2
- 石榴園(ざくろえん) → 琵琶彦(びわひこ・便々館、加藤保右、商人/狂歌) 3 7 3 1
- 朔六(さくろく・渡辺) → 友水(ゆうすい・渡辺、役人/砲術/俳人) C 4 6 8 2
- 石榴堂(ざくろどう・香雪) → 可澄(よしずみ・森もり/荒木、国学/歌) P 4 7 6 2
- F2016 酒(さけ・秦はた、酒公さけのみ、普洞王[秦始皇帝の末裔と称す]の男)?-? 大和期の紀の歌謡作者、雄略天皇の代に養蚕織絹を貢進し太秦うづまさの名を賜う、雄略15年には秦造みやこ酒とある、雄略紀十二年10月;楼閣を造った木工こたくみ關鶏つけの御田みたが伊勢の采女に奸たけたと勘違いした天皇が御田を刑せんとしたとき秦酒公が琴を弾き謡って天皇に悟らせる、[神風かみかぜの 伊勢の 伊勢の野の 栄枝さかえを 五百経いほふる懸かきて 其しが盡つくるまでに 大君に堅く 仕へ奉らむと 我が命も 長くもがと 言ひし工匠たくみはや あたら工匠はや] 後の秦忌寸はたのみきの祖
- H2033 砂兄(さけい・魚の屋うおのや2世、姓;林/名;久有/通称;吉右衛門、魚の屋砂長[為山軒]男)?-? 京の人、錦小路堺町東の狂歌師;文政(1818-39)頃「狂歌山州名所集」編
父;魚の屋砂長 → 得閑斎(3世とつかんさい・砂長さちょう、林久敬、狂歌) O 3 1 4 3
- G2014 茶溪(さけい・古賀こが、名;増まさる、侗庵男/本姓;劉) 1816-84⁶⁹ 江戸の儒者/1846幕臣;小姓組/儒官、蘭学を修学;嘉永安政1848-60頃外国使節の応接掛、蕃書調所(洋学所)頭取/大坂町奉行、製鉄奉行/目付/1867従五下筑後守、1853-54「西使日記」/「西使同解」/「西使続記」、「卮言日出」/「百笑百妙」/「流蕃通書」、「蕃談」編/「度日閑言」/「先考侗菴君行述」著、[茶溪(;号)の字/通称/別号]字;如川、通称;謹一郎/欽一郎、別号;謹堂/沙蟲/沙翁/憂天生
些兮(さけい・遊字庵ゆうじあん)→誉章(たかあき・桂かつら、大庄屋/国学/俳諧) W 2 6 5 1
- 莎鷄(さけい) → 祇明(ぎめい・伊藤/伊東、札差/俳人) B 1 6 8 6
- 佐経(さけい・大江) → 佐経(すけつね・大江/伴?、廷臣/歌人) C 2 3 4 4
- 茶溪(さけい・鈴木) → 重尚(しげひさ・鈴木、漢学/樺太巡見) S 2 1 3 7
- 佐恵流(さけい・金錦きんきん)→金錦佐恵流(きんきんさえる、洒落本作者) H 1 6 7 9
- B2055 養月(さげつ) ? - ? 俳人:横井也有[1702-83]門、1766也有「蘿葉集」第二篇編[1篇;有支編/3篇;文樵編]
- H2034 沙月(さげつ) ? - ? 播州福原の俳人:1772几董「其雪影」入;277、[酔をもつて可也かなりとやせん初鯉](結局は酔で食べるのがよかろう/大袈裟な漢文調)

- 酒上熟寐(さけのうえのじゅくね)→ 瓢空酒(ひさごのからざけ、島田左内友直、狂歌) B 3 7 0 2
酒上名真のり(さけのうえのなまのり)→ 名真のり(なまのり・酒上、狂歌) J 3 2 7 9
酒上不埒(さけのうえのふらち、狂歌)→ 春町(はるまち・恋川、黄表紙) 3 6 3 5
酒内直寝(さけのうちのただね)→ 恰(ゆたか・飯塚/平元、藩士/歌/狂詩) G 4 6 0 7
酒之丞(さけのじょう・大河内)→ 輝和(てるやす・大河内/松平、藩主/歌) D 3 0 0 3
酒之丞(さけのじょう・渋谷)→ 故巖(ひさいわ・渋谷しぶや、藩士/歌人) 3 7 8 6
- M2093 酒呑親文(さけのみちかふみ) ? - ? 江戸狂歌; 四方連、1787「才蔵集」入;
[禁庭納涼 夏の夜の月をみ階はしの袂もとにて拭いたる汗も風にひたゝれ](才蔵集)
酒袋粕(さけぶくろのかす) → 恰(ゆたか・飯塚/平元、藩士/歌/狂詩) G 4 6 0 7
- B2056 酒船(さけふね・問屋といや/とんや、姓; 井上/通称; 重[幸]二郎/別号; 春蟻) ?-? 江戸霊岸島鉄砲洲住:
狂詩/狂歌作者; 本町連/1783より狂歌、1785徳和歌後万載集6首・87狂歌才蔵集1首入、
1785東作「百鬼夜狂」狂歌入/高彦「狂風大人墨叢」手紙入、万葉集を愛読する知識人、
狂詩; 1790銅脈・南畝「二大家風雅」狂詩3編入(; 序文執筆)、「十才子明月詩集」入、
[死ぬるまで狂哥をしでの旅角力あとに言葉の花はふりけり](徳和歌後万載集; 420)
- 査軒(さげん・日下部) → 順清(じゅんせい・日下部くさかべ/藤原、幕臣/詩人/書) P 2 1 5 3
- H2035 左彦(さげん) ? - ? 但馬出石の俳人; 1776几董「続明烏」入: 320、
[夜涼よすずみや念仏申して居るもあり](続明烏: 甲320/一家揃っての納涼の席)
- 佐玄(さげん・西野) → 前知(さきとも・西野にしの、商家/歌人) P 2 0 0 5
佐兼王(さげんおう) → 佐兼王(すけかねおう、元良親王男/歌) G 2 3 2 3
左源吾(さげんご・生駒) → 永言(ながこと・生駒こま、藩士/歌人) L 3 2 0 7
左源治(さげんじ・堀田) → 正睦(まさよし・堀田/紀、藩主/老中) I 4 0 6 7
左源治(さげんじ・齋藤) → 寛一(ひろかず・齋藤さいとう/藤原、歌人) J 3 7 6 9
左源治(さげんじ・城子) → 愛之助(あいのみすけ・城子しろこ、国学者) H 1 0 7 4
左源治(さげんじ・高松) → 宗博(むねひろ・高松たかまつ、和漢学) D 4 2 9 7
三源次(さげんじ・志賀/谷城) → 重信(2世しげのぶ・柳川やながわ、絵師) C 2 1 7 5
- 02031 左源太(さげんた・勝田かつた、) ?- 1875 讃岐那珂郡の国学者; 秋山惟恭(これいや/1807-63) 門
- 左源太(さげんた・朝倉) → 東軒(とうけん・朝倉あさくら、藩士/詩人) D 3 1 3 2
左源太(さげんた・名越) → 時敏(ときとし・名越なごや、藩士/見聞記) J 3 1 4 6
左源太(さげんた・大島) → 豊長(とよなが・大島おおしま、藩士/記録) R 3 1 3 7
左源太(さげんた・津田) → 永忠(ながただ・津田、藩士/藩政改革) 3 2 1 2
左源太(さげんた・児玉) → 延年(のぶとし・児玉こだま、藩士/兵学) C 3 5 3 5
左源太(さげんた・田中) → 式如(のぶゆき・田中/松浦、神道家) D 3 5 6 3
左源太(さげんた・加藤) → 安彦(やすひこ・加藤かとう、藩士、国学/歌) F 4 5 6 3
左源太(さげんた・中村) → 元道(もとみち・中村なかむら、商家/町役/国学) K 4 4 8 0
左源太(さげんた・浪合) → 胤凭(たねより・浪合なみあい、里正/国学) Y 2 6 7 5
左源太(さげんた・坂本) → 定壽(さだひさ・坂本さかもと、神職/国学) O 2 0 5 7
左源太(さげんた・土方) → 正澄(まささずみ・土方ひじかた、藩士/歌人) S 4 0 1 0
佐頭仲(さげんちゅう) → 顕仲(あきなか・藤原、廷臣/歌人) 1 0 0 7
- P2092 砂古(さこ・) ? - ? 江前期; 京の女流歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]入、
河瀬家の人か?
[やんごとなき御人の御はかにまゐりけるに其寺を光雲寺といひければ、
月の光まよひの雲を分けこして妙なる寺の庭にこそすめ](麓の塵; 哀傷548)
- 槎湖(さこ・奥山) → 榕斎(ようさい・奥山/糸井、藩士/儒者) 4 7 9 4
- B2057 砂紅(さこう) ? - ? 江戸住: 雑俳点者、1834一声「歌羅衣」入
- 左交(さこう; 俳名) → 治助(初世じすけ・桜田、歌舞伎作者) 2 1 2 3
左交(さこう; 俳名) → 治助(2世じすけ・桜田、歌舞伎作者) 2 1 2 4
左交(さこう; 俳名) → 治助(3世じすけ・桜田、歌舞伎作者) I 2 1 1 5
左公(さこう; 通称) → 泰本(たいほん; 法諱、天台宗坊官/連歌) L 2 6 0 3
左昂(さこう; 俳名) → 治助(4世じすけ・桜田、歌舞伎作者) U 2 1 0 2
佐江(さこう・益田) → 就祥(なりよし・益田ますだ、家老/国学) O 3 2 7 9

- H2036 **左螯**(さごう) ? - ? 江中期相模金目の俳人:柳居[1695-1748]門、
同門鳥酔の大山行脚記念撰集「おぼろ名月」に入
- H2037 **茶合**(さごう) ? - ? 俳;1777江涯こうがい「仮日記」入;102、
[菜の花や牛よけた手につかまるゝ](仮日記;102/畦道でのよろめき)
左五衛門(さごえもん・市毛) → 幹規(みきのり・市毛いちげ、藩士/文筆家) 4 1 7 3
左五右衛門(さごえもん・大野) → 吉規(よしのり・大野おおの、砲術家) F 4 7 8 1
佐五右衛門(さごえもん・松野) → 清邦(きよくに・松野まつ、藩士/詩) P 1 6 3 0
佐五右衛門(さごえもん・中村) → 困齋(こんさい・中村なかむら、儒者/教育) P 1 9 2 2
- F2017 **茶谷**(さこ・藤川ふじかわ) ? - 1758? 藤川繁右衛門の養子(実子説もある)、大阪の呉服商の生?、
歌舞伎役者:初め色子方/1713若女方;大坂山本彦五郎座/1726藤川半三郎2世を名乗る、
1747四世片岡仁左衛門を襲名;上方を代表する敵役・実悪、1749頃より歌舞伎作者:茶谷名、
藤川山八の師、1755藤川半三郎名で再度役者として大阪の舞台に登場、
1750「平/宮古女絵草紙」51「けいせい釣鐘淵」53「大徳寺山門供養」「男達咲分桜」、
1754「名月千里鐘」「姪姑松源平雛形」「宇多源氏曦面相」/57「けいせい千根の滝」外著多数、
[茶谷(;号)の幼名/通称]幼名;富松、
役者通称;藤川庄松(正松)/藤川半三郎2世/片岡仁左衛門4世、作者号;藤川茶谷、
佐国(さこ・大江) → 佐国(すけくに・大江おおえ、漢学者/詩人) C 2 3 0 9
佐五左衛門(さござえもん・佐藤) → 馬耳(ばに・佐藤さとう、本陣役人/俳人) E 3 6 3 6
佐五左衛門(さござえもん・戸川) → 正章(まさあき・戸川とがわ、藩士/国学) R 4 0 0 1
ざこね(大原) → 大原のざこね(おほらのざこね、狂歌) B 1 4 7 5
左近衛(さこのえ・佐竹) → 義厚(よしひろ・佐竹さたけ/源、藩主/歌) K 4 7 5 1
佐吾八(さごはち・村上) → 頑山(がんざん・村上むらかみ/長野、儒者/歌) V 1 5 9 3
ざこば鶴屋(ざこばつるや) → 清七(4世せいしち・鶴沢、義太夫三絃) B 2 4 9 4
佐五平(さごへい・殿村) → 篠斎(しょうさい・殿村/大神、商家/国学/歌) J 2 2 0 4
左五郎(さごろう → すけごろう・浦池) → 九淵(きゅうえん・浦池、藩士/詩文) I 1 6 6 9
佐五郎(さごろう → すけごろう・藤田) → 百城(ひやくじょう・藤田、医者/詩人) E 3 7 5 8
佐五郎(さごろう/すけごろう・越石) → 明寛(あきひろ・越石こいし/藤原、藩士/歌) H 1 0 5 8
- H2038 **左近**(さこん) ? - ? 平安期女房/歌人;1038源大納言師房家歌合参加、
[節ごとに千代をこめたる竹なればかはらぬいろは君ぞみるべき](師房家歌合;右4)
- H2039 **左近**(さこん;通称・恩地おんち、名;正俊)?-? 南北期河内の恩地神社祠官、楠流兵法修得、
1331楠正成に従軍;笠置山に至る/1336正成の長子正行を伴い河内に帰る、
「楠知命抄」「楠兵記」「軍用秘術聴書」「恩地左近太郎聞書」著
- H2040 **左近**(さこん・杉本すぎもと/本姓;中臣/伊野原/三神、名;義宣よしのぶ、中臣永宣男) 1786-1838 53 母;文子、
越前大野郡の神職、初め真言僧;園城寺入/儒;河村益根門、更に山崎垂加唯一神道を修学、
歌;冷泉為泰門/儒・詩歌;川村益根門、医・易学を修得、白山中居神社社頭職杉本家の養嗣、
大野郡石徹白といし村の白山中居はくさんちゅうきよ神社社頭職(社領を統治する役)継嗣、
諸州諸家諸院の人と交流、「長滝詩話訓」「神道正系略」著、1808(文化5)「杉本義宣詠草」著、
[左近(;通称)の字/別通称/号]字;伯猶、別通称;兵部卿/周防守、号;林泉
左近(さこん・三条院女蔵人/東宮女蔵人) → 小大君(こおおきみ、歌人) 1 9 2 4
左近(さこん) → くら(本院蔵ほんいんのくら、後撰歌人) B 1 7 0 7
左近(さこん・7世観世大夫) → 宗筋(そうせつ;法名・観世元忠/能役者) C 2 5 3 4
左近(さこん・9世観世大夫) → 身愛(ただちか・観世かんぜ、能楽大夫) F 2 6 2 6
左近(さこん・15世観世大夫) → 元章(もとあきら・観世、能楽/謡曲改訂) C 4 4 0 3
左近(さこん・中坊) → 覚祐(かくゆう・中坊なかのぼう、奉行/連歌) K 1 5 5 2
左近(さこん・一柳) → 直興(なおおき・一柳ひとつやなぎ、藩主/改易) O 3 2 5 1
左近(さこん・上部) → 貞雄(さだたけ・上部うわべ/度会、神職) I 2 0 4 1
左近(さこん・上部) → 貞多(さだかず・上部うわべ/度会、神職) H 2 0 9 1
左近(さこん・檜垣) → 常名(つねな・檜垣ひがき/度会、神職/歌) C 2 9 7 7
左近(さこん・高橋) → 光頼(みつより・高橋たかはし、神職/神仏分離) J 4 1 6 5
左近(さこん・木村/浅見) → 普寛(ふかん・本明院ほんみょういん、修験僧) B 3 8 3 7

左近(さこん・菅沼) → 定芳(さだよし・菅沼すがぬま、幕臣/城主) K 2 0 2 2
 左近(さこん・北条) → 元氏(もとうじ・北条ほうじょう、旗本/軍学) L 4 4 2 2
 左近(さこん・池田) → 輝澄(てるずみ・池田いけだ、藩主/日記) C 3 0 7 7
 左近(さこん・松平) → 康圭(やすかど・松平まつだいら、藩主/歌人) B 4 5 1 8
 左近(さこん・多賀) → 直清(なおきよ・多賀たが、藩士/歌) B 3 2 1 1
 左近(さこん・春日) → 忠重(ただしげ・春日かすが、神職/国学) W 2 6 4 5
 左近(さこん・吉見) → 幸勝(ゆきかつ・吉見/園崎/菅原/源、藩士/神道家) E 4 6 4 0
 左近(さこん・吉良) → 義央(よしなか・吉良/源、幕臣・赤穂事件) F 4 7 2 3
 左近(さこん・加須屋) → 武成(たけなり・加須屋かすや、弓術家) O 2 6 5 6
 左近(さこん・南部) → 信也(のぶなり・南部、歌人) C 3 5 6 2
 左近(さこん・朽木) → 植元(たねもと・朽木くちき、藩主/国学) W 2 6 8 8
 左近(さこん・満山) → 雷夏(らいか・満山みつやま、藩儒;教育者) 4 8 2 4
 左近(さこん・藤堂) → 高允(たかさわ・藤堂とうどう、藩主/教育) L 2 6 9 3
 左近(さこん・福田) → 理軒(りけん・福田ふくだ、和/洋算) 4 9 9 4
 左近(さこん・福田) → 半(はん・福田ふくだ、理軒男/洋算) H 3 6 1 6
 左近(さこん・岡田) → 磐斎(ばんさい・岡田、正英門/神道家) H 3 6 6 8
 左近(さこん・羽太) → 政養(まさやす・羽太はぶと、幕臣/箱館奉行) I 4 0 0 6
 左近(さこん・伊丹/岡部) → 勝重(かつしげ・岡部、幕臣/奉行) N 1 5 3 8
 左近(さこん・成瀬) → 種徳(たねのり・成瀬なるせ、藩士/記録) R 2 6 9 4
 左近(さこん・中園) → 愛種(ちかたね・中園なかぞの/大蔵、国学者) B 2 8 1 8
 左近(さこん・疋田) → 千益(ちます・疋田/匹田ひきた、医/歌人) F 2 8 4 0
 左近(さこん・石川) → 総昌(ふさまさ・石川いしかわ、旗本/幕臣) H 3 8 9 9
 左近(さこん・松田) → 雪柯(せつか・松田まつだ、神職/儒/書家) K 2 4 7 7
 左近(さこん・下司) → 芝亭(してい・下司しもつかさ/げじ/源、篆刻家) V 2 1 1 9
 左近(さこん・大森) → 正富(まさとみ・大森おおもり、軍学者) E 4 0 5 9
 左近(さこん・孫福) → 弘孚(ひろさね・孫福まごぶく、神職) F 3 7 8 5
 左近(さこん・八木原) → 安綱(やすつな・八木原やぎはら、国学/歌人) G 4 5 9 1
 左近(さこん・佐竹) → 義堯(よしたか・佐竹さたけ/相馬、藩主) E 4 7 1 2
 左近(さこん・藺田) → 守民(もりたみ・藺田そのだ/中川、神職/国学) K 4 4 2 2
 左近(さこん・松岡) → 定安(さだやす・松岡まつおか/越智/宮崎、神道/歌) P 2 0 3 9
 左近(さこん・井面) → 守世(もりつぐ・井面いのも/荒木田、神職) J 4 4 1 6
 左近(さこん・山高) → 信壽(のぶひさ・山高やまたか、藩士/国学者) K 3 5 3 0
 左近(さこん・細井) → 德音(とくおん・細井ほそい、歌人) T 3 1 4 9
 左近(さこん・白米) → 満直(みつなお・白米はくまい、神職) K 4 1 0 6
 左近右衛門(さこんえもん・広瀬) → 親英(ちかひで・広瀬、藩士/弓術家) B 2 8 7 0
 左近右衛門(さこんえもん・吉田) → 茂陸(しげみち・吉田、藩士/弓術家) S 2 1 7 8
 左近右衛門(さこんえもん・津田) → 政隣(まさちか・津田つだ、藩士/記録) D 4 0 7 7
 左近右衛門(さこんえもん・中村) → 元道(もとみち・中村なかむら、商家/町役/国学) K 4 4 8 0
 左近右衛門(さこんえもん・永野) → 親兄(ちかしげ・永野ながの/源、大庄屋) N 2 8 2 1
 左近太夫(さこんだゆう・福田) → 和夫(にぎお・福田ふくだ、国学/神職) H 3 3 3 3
 左近太郎(さこんたろう・北条/大仏) → 惟貞(これさだ・大仏おさらぎ/北条、鎌倉幕臣/歌) E 1 9 1 9
 左近君(さこんのきみ) → 小大君(こおおきみ) 1 9 2 4
 左近将監(さこんのしょうげん・川上) → 久国(ひさくに・川上、藩家老/儒者) B 3 7 0 0
 左近将監(さこんのしょうげん) → 往寿(おうじゅ・魚住うおずみ/赤松、神職) C 1 4 4 5
 左近将監(さこんのしょうげん) → 忠茂(ただしげ・立花、藩主/歌人) F 2 6 1 2
 左近将監(さこんのしょうげん・水野) → 忠精(ただきよ・水野、藩主/老中/歌人) F 2 6 0 3
 左近将監(さこんのしょうげん・水野) → 忠鼎((ただかね・水野みずの/源/浅野、藩主/歌) U 2 6 0 8
 左近将監(さこんのしょうげん・立花) → 鑑虎(あきたら・立花、藩主/連歌) D 1 0 6 5
 左近将監(さこんのしょうげん・水野) → 忠成(ただあきら・水野みずの、老中/日記) F 2 6 4 4
 左近将監(さこんのしょうげん・石川) → 忠房(ただふさ・石川/伊丹、幕臣/記録) F 2 6 7 7

左近将監(さこんのしょうげん・松平)→康圭(やすかど・松平まつだいら、藩主/歌人) B 4 5 1 8
左近将監(さこんのしょうげん・夏目)→ 信明(のぶあき・夏目なつめ、幕府/歌) G 3 5 6 6
左近将監(さこんのしょうげん・加藤)→ 泰衍(やすみち・加藤かとう、藩主/学制) D 4 5 0 6
左近将監(さこんのしょうげん・立花)→ 鑑寛(あきとも・立花、藩主/文筆) D 1 0 1 0
左近助(さこんのすけ・小谷)→ 守本(もりもと・小谷おだに、藩士/故実家) J 4 4 4 5
左近局(さこんのつばね) → 吉子(きこ・村上むらかみ、国学/詩歌) B 1 6 5 1

H2041 些齋(ささい・岩崎いわさき、名; 舎明・舎従、旧姓; 南合なんごう) 1786-1839⁵⁴ 岩崎弥五郎の養子、
伊勢桑名藩儒、藩校立教館読師/のち学頭、剣術家; 青木重昌門/念首座流の達人、
松平定信の命で「御家流兵学末書」を青木翠樹・秋山勝鳴と共同で増修、
1835「鸚鵡録」、「後凋録」、「曝背録」、「単騎須知略」、南合蘭室(桑名藩儒)の弟、
[些齋(;号)の通称/別号]通称; 鉄之丞/徹之丞、別号; 象雪軒しょうせつけん

佐左衛門(さざえもん・西原)→ 文虎(ぶんこ・西原にしはら、油商/俳人) F 3 8 1 2
佐左衛門(さざえもん・岡谷)→ 義端(ぎたん・岡谷おかや、藩士/書家) L 1 6 1 5
佐左衛門(さざえもん・松平)→ 康誠(やすのぶ・松平まつだいら、幕臣/歌) E 4 5 7 8
佐左衛門(さざえもん・佐野)→ 芦文(あしぶん・佐野さの、俳人) C 5 2 3 7
佐左衛門(さざえもん・久須美)→ 祐光(すけてる・久須美/藤原、幕臣/文筆) G 2 3 5 4
佐左衛門(さざえもん・赤林)→ 新助(しんすけ、赤林あかばやし、藩士) P 2 2 0 1
佐左衛門(さざえもん・柏屋/宍戸)→ 政彝(まさつね・宍戸、商家/和算) E 4 0 1 6
佐左衛門(さざえもん・江田)→ 居中(やすなか・江田えだ、藩士/歌人) F 4 5 4 6
佐左衛門(さざえもん・糸屋/伊藤)→ 義足(よしたり・伊藤/伊東、商家/歌人) E 4 7 4 4
佐左衛門(さざえもん・蟹)→ 養斎(ようさい・蟹かに、儒者) 4 7 9 2
佐左衛門(さざえもん・出口)→ 邦行(くにゆき・出口でぐち、歌人) E 1 7 3 6
佐左衛門(さざえもん・藤井)→ 貫道(つらみち・藤井ふじい、国学者) G 2 9 2 8
佐左衛門(さざえもん・広見)→ 章(あきら・広見ひろみ、歌人/教育) I 1 0 3 4
佐左衛門(さざえもん・松村)→ 政勝(まさかつ・松村まつむら、名主/代官/歌) S 4 0 7 3
佐左衛門(さざえもん・神谷)→ 道一(みちかず・神谷かみや、国学/史家) I 4 1 7 0
佐左衛門(さざえもん・渡辺)→ 為良(ためよし・渡辺わたなべ、商家/歌/俳) 2 7 4 4
佐左衛門(さざえもん・年梅)→ 昌之(まさゆき・年梅ねんばい、接骨医/国学) R 4 0 4 6

H2045 さゝを(ささお・小沢こざわ/山川、名; 鎮盈ささお) 1778-1847⁷⁰ 尾張藩士; 書物方手代、俳人: 佗殿秋麿門、
国学・篆刻に通ず、1830「柿法師」著、42「月次集」、「い年のくさくさ」「丑年のくさくさ」編、
「御文庫御書物便覧」編、「俳諧哥仙」評/「さゝを句集」著/「松枝集」編(没後1849刊)、
[さゝを(;号)の通称/別号]通称; 泰助/勘兵衛、別号; 松の家/笹尾/笹雄/竜根、
法号; 釈蹄観、列根つらねの父

笹尾(笹雄ささお・小沢)→ さゝを(鎮盈ささお・小沢/山川、藩士/俳人) H 2 0 4 5

笹垣(ささき) → 清風(せいふう・福住/長瀬、商家/歌人) J 2 4 5 3

佐々木信濃五郎左衛門尉(ささきのごろうざえものじょう)→ 道珍(どうちん、室町幕臣/連歌) G 3 1 5 4

B2059 佐々貴山君(ささきのやまのみ) ?- ? 女帝孝謙天皇の時の内侍司の女官/命婦、万葉集中人物、
万葉十九4268題; 孝謙天皇(35歳)・光明皇后(52歳)が藤原仲麻呂邸に行幸する時の詞書、
天皇達の命で沢蘭さわあらぎを仲麻呂と陪従に渡し歌を代りに吟誦;
[この里は継ぎて霜や置く夏の野に我が見し草は黄葉もみちたりけり](万葉; 4268)
佐々貴山君親人(近江蒲生郡の大領)の女とする説あり

笹隈翁(ささくまおう) → 春門(はるかど・村田) 3 6 3 1

H2042 ささ子(ささこ・沢村さわむら、佐々女ささじよ) ?-? 江後期; 江戸の女流歌人、宮中出仕?、
1867「旅のおぼえ」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[み火しろくさゆる霜夜に榊葉ををりかへしつうたふ宮人](大江戸倭歌; 冬1325、
宮中神楽)

Q2090 小笹子(ささこ・竹尾たけお) 1843-1908⁶⁶ 三河八名郡の賀茂神社祠官竹尾正久(1834-1904)の妻、
歌人; 村上忠順編[三河の玉藻]入

些々生(ささせい・高杉) → 晋作(しんさく・高杉、藩士/勤王家) E 2 2 3 1

笹園(ささぞの) → 喬樹(たかしげ・野口、藩士/剣術/歌人) M 2 6 0 5

笹園(小竹園ささの)	→	盛美(もりよし・上原うえはら、歌人)	J 4 4 3 5
楽浪河内(ささなみのこうち)	→	河内(こうち)	B 1 9 6 7
泊泊舎(ささなみのや)	→	浜臣(はまおみ・清水、国学/歌人)	3 6 2 4
泊泊舎(2世ささなみのや)	→	光房(みつふさ・清水、浜臣の養嗣/国学)	E 4 1 7 8
楽浪屋(ささなみのや)	→	親覧(ちかみ・佐々木、国学/歌人)	B 2 8 8 5
漣舎(ささなみのや)	→	完(またし・波多はた/秦/金原、国学者)	J 4 0 4 3
漣能屋(ささなみのや)	→	元徳(もとりのり・毛利/大江、藩主/歌人)	D 4 4 8 6
笹の才蔵(ささのさいぞう)	→	才蔵(さいぞう・可児かに、武将)	G 2 0 8 9
笹之丞(ささのじょう・小山)	→	安延(やすのぶ・小山こやま、神職/歌人)	F 4 5 8 9
小竹舎ささのや(篠舎)	→	光平(みつひら・伴林ばんばやし、国学/歌/尊王)	4 1 3 0
小竹舎ささのや(篠舎)	→	義足(よしたり・伊藤/伊東、商家/歌人)	E 4 7 4 4
小竹舎(ささのや)	→	玄脩(げんしゅう・竹中たけなか、藩医/歌人)	D 1 8 8 5
笹の舎(ささのや)	→	光平(みつひら・伴林、国学/歌)	4 1 3 0
笹の舎(ささのや)	→	八尋(やひろ・園その/衣笠、神職/国学/歌)	G 4 5 1 4
笹の屋(ささのや)	→	清風(せいふう・福住/長瀬、商家/歌人)	J 2 4 5 3
笹廼屋(ささのや)	→	百樹園寛持(ひゃくじゅえんひろもち、狂歌)	E 3 7 5 7
笹廼屋(ささのや)	→	春連(はるつら・齋藤さいとう、商家/国学/歌)	K 3 6 2 3
笹舎(ささのや)	→	直養(なおかい・西田、国学/歌人)	3 2 8 1
笹舎(篠舎ささのや)	→	敏(御野みぬ・小篠おささ、儒/国学)	F 4 1 4 2
笹の舎(ささのや)	→	貴恒(たかつね・中島/植木、国学/歌人)	M 2 6 3 1
篠舎(ささのや)	→	安守(やすもり・殿村、国学/歌人)	4 5 2 8
篠舎(ささのや/しのや)	→	泰吉(やすよし・朝比奈あさいな、歌人)	D 4 5 5 9
篠舎(ささのや)	→	篠斎(しょうさい・殿村/大神、商家/国学/歌)	J 2 2 0 4
篠舎(ささのや→しのや)	→	君雄(きみお・小原、藩士/国学者・歌)	B 1 6 8 1
篠舎(ささのや→しのや)	→	義足(よしたり・伊藤、歌人)	E 4 7 4 4
篠舎(ささのや/しのや)	→	景雄(かげお・篠原しのはら、国学者)	K 1 5 8 0
篠舎(ささのや/しのや)	→	保教(やすのり・渡辺わたなべ、商家/歌人)	C 4 5 6 6
篠舎(ささのや/しのや)	→	藤蔭(ふじかげ・戸田とだ/田中、藩士/歌)	C 3 8 4 2
篠廼舎(篠の屋ささのや)	→	雀庵(じゃくあん・加藤/田中/加田、俳/随筆)	G 2 1 0 5
篠廼舎(ささのや→しのや)	→	菅麿(すがまる・木島、歌人)	B 2 3 6 5
篠屋(ささのや/しのや)	→	泰吉(やすよし・朝比奈あさいな、神職/歌人)	D 4 5 5 9
篠家(篠之屋ささのや/しのや)	→	菅雄(須賀雄すがお・服部/富田、国学/歌)	B 2 3 6 1
篠の屋(ささのや→しのや)	→	貞賢(さだかた・青島、国学/詩)	I 2 0 0 0
楽声舎(ささのや)	→	茂樹(しげき・坂倉さかくら、神職/国学)	Q 2 1 8 7
楽声舎(ささのや)	→	広麿(ひろまる・坂倉さかくら、国学者)	J 3 7 7 2
小狭野屋(ささのや)	→	長孝(ながよし・望月、歌人)	3 2 2 2
小狭野屋翁(ささのやのおきな)	→	長孝(ながよし・望月、歌人)	3 2 2 2
篠廼舎翁(ささのやのおきな)	→	雀庵(じゃくあん・加藤/田中/加田、俳/随筆)	G 2 1 0 5
左三郎(ささぶろう・嵯峨)	→	朝来(ちようらい・嵯峨さが、儒者/詩)	K 2 8 0 8
笹丸(ささまる・歌沢)	→	大和大掾(やまとのだいじょう・歌沢、歌沢節創始)	I 4 5 6 9

- H2043 **笹麿**(ささまる) ? - ? 江後期狂歌作者、1785後万載集巻一長歌803/820、
 [かりのとき山からつとひいつるみはときしやさきのあやうからすや](後万載;物名820)、
 (鳥名10;雁・山雀やまがら・鳶・鶴・鳩・雉・鷺・鶉・烏/狩の時・研ぎし矢先)
 十叟舎笹丸と同一? → 笹丸(ささまる・十叟舎) B 2 0 6 0
- B2060 **笹丸**(笹麿ささまる・十叟舎じゅうそうしゃ、通称;河内屋武兵衛)?-? 江後期大阪立売堀仲橋の狂歌作者:
 鉄格子波丸門、1811頃鉄格子社中竹一連を主宰、1835「春詠撰津の名所」40「華鳥集」編、
 1840「婚礼狂歌集」編、「和泉名所題狂歌」「若狭紀行」著/「山城名所題戯歌」編
- 笹屋清七(ささやせいしち) → 清七(2世せいしち・鶴沢、義太夫三絃) B 2 4 9 2
- H2044 **笹竜胆助**(ささりんどうのすけ) ? - ? 寛政文化1789-1818頃の歌舞伎作者・助作者、
 江戸都座・中村座で台本創作に協力/1809助高屋高助・1812中村歌右衛門付作者、

1812「亀山染読切講釈」13「群客坂東頌」助作

細石の舎(さざいしのか) → 則孝(のりたか・瀬川せがわ、藩士/国学/歌) I 3 5 7 9

ささを(小沢) → ささを(ささお・小沢/山川、俳人) H 2 0 4 5

左三(ささん・三木) → 左三(さぞう・三木みき/河野、医者/歌/尊攘) P 2 0 4 8

H2046 左山(さざん・堀ほり、名;邦典、金城男) 1799-1843⁴⁵ 佐渡藤津の豪農の生/儒者;円山学古門、江戸の成島東岳・佐藤一斎門、詩人、書を収集/帰郷後子弟教育、菅岳の兄、「左山詩文稿」「発句集」「論語方鳩録」、[左山(;号)の字/通称/別号]字;佐治、通称;退蔵、別号;解醒子

B2061 砂山(さざん・加倉井かくらい、名;久雍/雍、久泰男) 1805-55⁵¹ 常陸の儒者;加倉井松山門、1820郷土、経史・書法・武技に通ず、私塾;日新塾開/子弟教育、「三楽楼文集」「南遊紀行」「新刀便覧」、「葬祭略用」「東上紀事」著、世舞子むこの父、[砂山(;号)の字/通称/別号]字;立卿、通称;淡路、別号;西軒/懶庵/不知老斎

H2047 砂山(さざん・関川せきかわ、蓼窓) ?- ? 江末期蝦夷松前江刺の俳人、1860「養老集」編

茶山(さざん・菅) → 茶山(ちやざん・菅/菅波、儒/詩/教育者) 2 8 4 0

茶山(さざん・奥村) → 茶山(ちやざん・奥村おくむら、儒者) L 2 8 1 4

砂山(さざん・抱亭) → 抱亭五清(ほうていごせい、絵師) C 3 9 3 6

砂山(さざん・陶) → 半窓(はんそう・陶すえ、医者/儒/教育) I 3 6 3 2

茶山(さざん・松岡) → 茶山(ちやざん・松岡佳清、俳人) F 2 8 5 4

茶山(さざん/ちやざん・森山) → 多吉郎((たきちろう・森山もりやま、通詞) N 2 6 8 7

左山(簗山さざん・渡辺) → 為俊(ためとし・渡辺わたなべ、商家/国学) 2 7 4 0

簗山(さざん・岸本) → 方忠(まさただ・岸本きしもと、歌人) P 4 0 2 6

坐山(さざん・秋良) → 貞温(さだあつ・秋良あきら、藩士/国事) H 2 0 7 2

山茶花(さざんか) → 友琴(ゆうきん・神戸かんべ、商家/俳人) B 4 6 2 5

蓑山懶樵(さざんらいしょう) → 鉄石(てつせき・藤本、勤王/天誅組) C 3 0 5 1

左司(さし・三輪) → 秀富(ひでとみ/ほさき・三輪、藩士/歌人) D 3 7 3 6

左司(さし・米内) → 眞豊(まさとよ・米内よねうち/高橋、陪臣/国学) T 4 0 7 5

B2062 左次(さじ) ?- ? 尾張名古屋の僧、俳人:貞門の横船門/のち露川門、東鷲の親友、1693「流川集」94「枯尾花」95「笈日記」入、1698「続猿蓑」入、[霜ちりて光身にしむ牡丹哉](枯尾花;義仲寺での芭蕉追悼句)、[秋立つや中ちゅうに吹かるゝ雲の峰](続猿蓑:立秋/雲の峰も弱る;秋の到来)

左二(さじ・岩下) → 方平(まさひら・岩下/藤原、藩家老/国学) G 4 0 8 6

左治(さじ・荒木) → 素履(もとぶむ・荒木あらかき、国学/歌) J 4 4 1 1

佐治(さじ・堀) → 左山(さざん・堀ほり、儒者/詩) H 2 0 4 6

佐時(さじ・藤原) → 佐時(すけとき・藤原ふじむら、廷臣/歌人) G 2 3 5 5

坐志(さし・横道) → 居州(やすくに・横道よこみち、国学者) H 4 5 0 1

左次右衛門(さじえもん・大沢) → 常春(つねはる・大沢おおさわ、町役人/日記) D 2 9 2 7

左次右衛門(さじえもん・佐藤) → 陶崖(とうがい・佐藤さとう、医者/陶工) C 3 1 0 1

左次右衛門(さじえもん・筒井) → 政憲(まさのり・筒井/久世、幕臣/海防) G 4 0 1 0

左次右衛門(さじえもん・岩下) → 方平(まさひら・岩下/藤原、家老/国学) G 4 0 8 6

左次右衛門(さじえもん・松尾) → 誠(まこと・松尾まつお、農商/国学) S 4 0 6 3

佐次右衛門(さじえもん・岡田) → 野水(やすい・岡田おかだ、商家/俳・茶人) 4 5 2 0

佐次右衛門(さじえもん・山岡) → 浚明(まつあけ・山岡/大伴、幕臣/国学) J 4 0 6 6

佐次右衛門(さじえもん・松尾) → 英珍(ひでよし・松尾まつお、農業/歌人) L 3 7 2 5

佐治右衛門(さじえもん・桜井) → 浦人(ほじん・桜井、商家/俳人) E 3 9 3 1

佐治右衛門(さじえもん・桐淵) → 鹿太(ろくた・桐淵きりぶち、医者/俳人) 5 2 9 7

佐治(次)右衛門(さじえもん・松尾) → 元珍(もとよし・松尾まつお、酒造業/歌) L 4 4 3 6

七影(さじかげ・医者小路) → 医者小路七影(いしゃのこうじさじかげ、狂歌) D 1 1 4 5

佐七(さしち・達磨屋) → 活東子(かつとうし・岩本) C 1 5 4 8

佐七(さしち・中川) → 五郎治(ごろうじ・中川、日本初種痘) P 1 9 0 8

H2048 左七郎(さしちろう・;通称・吉雄よしお、名;周房、作次郎男) ?-1796 肥前長崎の阿蘭陀通詞;父継嗣、

小通詞/1790オランダ文書誤訳事件に連座;町預/91押込50日の刑、
1789「咬啗吧曆和解」訳、忠次郎の父

左七郎(さしちろう・滝沢) → 馬琴(ばきん・曲亭きょくてい、読本作者) 3 6 0 7
左七郎(さしちろう・野尻/熊沢) → 蕃山(ばんざん・熊沢、儒者/陽明学) 3 6 4 2
左七郎(さしちろう・山田) → 利教(としのり・山田やまだ、幕臣/記録) N 3 1 3 8
佐七郎(さしちろう・堀部) → 魯九(ろきゅう・堀部ほりべ、俳人) 5 2 6 3

M2089 七常持(さじのつねもち) ? - ? 狂歌、1785徳和歌後万載集1首入

[年ふれば石野はだえもさぶきにや苔の衣をくるむてぞ居る](後万載:640/苔埋古墳)

左司馬(さしば・松宮) → 観山(かんばん・松宮/菅、兵学/儒/国学) 1 5 5 2
左司馬(さしば・松宮) → 定俊(さだとし・松宮/菅原/菅、兵学) I 2 0 8 5
左司馬(さしば・柳川) → 忠蔵(ちゅうぞう・柳川やながわ、歌舞伎作者) G 2 8 5 8
左司馬(さしば・山田) → 兵左衛門(へいざえもん・山田、藩士/儒) 2 7 3 6
左司馬(さしば・加藤) → 鹿洲(ろくしゅう・加藤/本木、藩士/儒者) 5 2 9 1
左司馬(さしば・桂) → 宗信(むねのぶ・桂かつら、絵師) C 4 2 1 3
左司馬(さしば→さしま・中井) → 文耕(ぶんこう・馬場ばば/馬/中井、講釈師) F 3 8 1 7
左司馬(さしば・近藤) → 甫寛(ほかん・近藤こんどう、儒者/俳人) C 3 9 8 1
左司馬(さしば・榎本) → 寛親(ひろちか・榎本えのもと、幕臣/歌人) I 3 7 6 5
左司馬(さしば・愛敬) → 正元(まさもと・愛敬あいけい/あいきょう、藩士/神職) M 4 0 9 8
左次兵衛(さじべえ・岩下) → 方平(まさひら・岩下/藤原、藩家老/国学) G 4 0 8 6
佐次兵衛(さじべえ・甲州屋) → 音主(おとぬし・石金いしがね、国学/古言) B 1 4 8 7
佐次兵衛(さじべえ・伊勢屋) → 水国(すいこく・雲津くもろ、俳人) 2 3 5 4
佐治兵衛(さじべえ・深江屋) → 直樹(なおき・森もり、酒造業/国学/歌) K 3 2 1 4
左志摩(さしま・吉成) → 好謙(よしかた・吉成よしなり、神職/和漢学) C 4 7 7 1
狭島(さしま・玉置) → 安緒(やすお・玉置たまおき、神職/国学/歌) G 4 5 2 6
左司馬(さしま・中井) → 文耕(ぶんこう・馬場ばば/馬/中井、講釈師) F 3 8 1 7

H2049 左雀(さじやく) ? - ? 俳人;1777蕪村「夜半楽」入(32;1777春の初会歌仙)、
[酒屋に腰を掛川の宿しゆく](夜半楽;歌仙32)

(前句31;つくづくと見れば真壁の平四郎;東瓦とうが)

真壁平四郎 → 法身(法心ほっしん、臨濟僧) C 3 9 6 7

左守(さしゆ・小川) → 為美(ためよし・小川おがわ、煎茶人/歌人) V 2 6 9 7

B2064 左舟(さしゅう・河村/川村、初号;紫燕/紫燕老)?-? 江中期京の俳人:貞佐門、
1765「反古文庫」著(芙蓉序;[夢遊草]名/自跋;野田藤八板)

H2050 茶州(さしゅう) ? - ? 伊勢の俳人;1773几董「明鳥」76「続明鳥」76樗良「月の夜」入、
[声々に啼いて聞かせよつらの雁](月の夜/列の順番に一羽ずつ鳴いてほしい)

H2051 左繡(さしゅう) ? - ? 俳人;几董春夜楼連に属す、
1776几董「続明鳥」4句入(春日晚望歌仙2句/発句;151/397)、

[初雛や老の後のちなる娘の子](続明鳥;151)

B2065 佐十郎(さじゅうろう・馬場ばば、名;貞由、三栖谷敬平男)1787-1822³⁶ 兄為八郎の養子、
長崎阿蘭陀通詞、蘭学;志筑忠雄(中野柳圃)門/蘭語・仏語;ゾーフ(商館長)門、
英語;ブロンホフ門、1808「万国全図」補訂のため江戸の幕府天文台出仕、
1811開局した蛮書和解御用に出仕;外交文書翻訳と異国船応接に当る、
大黒屋光太夫より露語修得;1813松前に出張、ゴロウニンに就き露語を修得、
魯西亞辞書取調御用掛に就任/1818・22英国船と応接、
江戸の蘭学者に蘭語文法を教授・翻訳活動に従事、「蘭学梯航」、ショメル「厚生新編」訳、
「和蘭辞類訳名抄」「俄羅斯語小成」「穀里漫筆」/1811「西文規範」/21「窮理摘要」外著多数、
[佐十郎(;通称)の幼名/字/号]幼名;千之助、字;職夫、号;穀里こくり

蘭名;Abraham、法号;持貞院

佐十郎(さじゅうろう・村田) → 光隆(こうりゅう・村田、和算家/規矩術) L 1 9 5 7
佐十郎(さじゅうろう・村田) → 恒光(つねみつ・村田、光隆孫/藩士/和算) D 2 9 9 4
佐十郎(さじゅうろう・馬田) → 本教(もとりのり・馬田うまだ、国学者) J 4 4 3 8

- 佐十郎(さじゅうろう・富田)→ 定徴(さだあきら・富田とみた/小寺、役人/国学) O 2 0 8 8
 左十郎(さじゅうろう・黒瀬)→ 応昇(まさのり・黒瀬くろせ、国学者) M 4 0 9 0
 茶酒隣(さしゅりん) → 寥和(りょうわ・大場、俳人) J 4 9 6 6
 H2052 左丈(さじょう) ? - ? 越中井波の俳人;1776樗良「月の夜」1句入;45、
 [あやうさや白菊のうへを走る月](月の夜;45)
 蓑杖(さじょう) → 杉風(さんぷう・杉山、俳人) 2 0 5 6
 蓑唱庵(さしやうあん) → 雲淙(うんそう・鷹羽たかのは、藩士/詩人) B 1 2 8 6
 左将監(さしやうげん・水口)→ 清光(きよみつ・水口みなくち/身人部むとべ、廷臣/歌) V 1 6 4 0
 左少将(さしやうしょう・玉井)→ 信海(しんかい;法諱、僧/国学/尊攘) V 2 2 0 3
 坐嘯亭(さしやうてい) → 政礼(まさのり・横山/山、藩士/文筆家) G 4 0 0 3
 左次郎(さじろう・木村) → 愚山(ぐざん・木村きむら、藩士/儒者) C 1 7 0 5
 佐次郎(さじろう・青山) → 直道(なおみち・青山あおやま、藩士/国学) N 3 2 5 8
 左甚五(さじんご・岩崎) → 長容(ながかた・岩崎いわさき、藩士/画) L 3 2 2 2
 佐心子(さしんし) → 賀近(がきん・佐心子、狂歌) E 1 5 6 3
 B2066 座神(ざしん・北河原きたがわら)?- ? 摂津伊丹の醸酒家、俳人;青木貞吾門、
 伊丹風俳人では最も蕉風に近い;支考に接近、1704「風光集」05「寸濃字」編、
 1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、
 [ひとつひとつ音あらば花の散る別れ](伊丹発句合;春)
 流石庵(さすがあん→りゅうせきあん)→ 羽積(はづみ・河村、俳人/歌謡) E 3 6 6 8
 H2053 左助(さすけ・伊丹屋いたみや)?- ? 江中期大阪の書肆、1770「大魁訓蒙品字選」著
 F2018 璩助(佐助さすけ・奥野おくの、俳名;馬朝)?-? 江中期1751-79頃江戸歌舞伎作者:二三治門、
 治助・二三治の助作:1770「鶴森一陽のぬえのもりいちようのまと」(立作;治助)、
 1777「従韓貢入船ひとのくによりみつぎのいりふね」(立作;二三治)
 F2019 璩助(佐助/左助さすけ・篠田しのだ)?-1859 江戸の歌舞伎作者:2世篠田金治(3世五瓶)門、
 1830河原崎座に左助初名/35森田座に佐助名/38璩助に改名、市村座で2世河竹新七の助作、
 長唄・豊後浄瑠璃の作詞者で有名、常磐津;1845「雲衛士白張くもいはなえじのしらはり」(三人生酔)、
 1864「桑名浦島浪乙姫くわなうらしまなみのおとひめ」、富本;1855「籠鳥色音廓かごのとりいりねのよしわら」、
 清元;「造鉄つくりもの菊睦言」(菊畑三勝)など浄瑠璃正本多数、
 長唄;1839「粧相撲すがたくらべ川村千鳥」53「柳糸引御攝やなぎのいとひくやごひき(操三番叟)」
 H2054 佐助(さすけ・須原屋すはらや、金花堂)?-? 江後期江戸の書肆、崑山と交遊、「金花堂蔵板目録」著
 左助(さすけ・宇佐美) → 良永(よしなが・宇佐美うさみ/大関、兵学者) F 4 7 2 8
 左助(さすけ・曾田) → 菊潭(きくたん・曾田そだ、藩士/儒者) K 1 6 1 9
 左助(さすけ・中山) → 信治(のぶはる・中山なかやま、藩当主/和学) J 3 5 3 9
 左助(さすけ・大関) → 定祐(さだすけ・大関おおせき/宇佐美、軍学者) F 2 0 2 9
 左助(さすけ・高橋) → 義方(よしかた・高橋たかはし、藩士/地誌) C 4 7 6 8
 左介(さすけ・古田) → 重然(しげなり・古田ふるた、武将/茶人) 2 1 1 1
 左介(さすけ・吉弘) → 菊潭(きくたん・吉弘よしひろ、藩士/儒者) B 1 6 0 1
 佐介(さすけ・村山) → 自伯(じはく・村山むらやま、幕臣/医者) V 2 1 4 7
 佐助(さすけ・下村) → 由章(よしあき・下村しもむら、藩士/詩歌) B 4 7 8 8
 佐助(さすけ・遠州屋) → 鼻毛永人(はなげのながびと、狂歌作者) F 3 6 4 2
 佐助(さすけ・岡島) → 自笑(じしょう・岡島おかじま、刀鍛冶/俳人) E 2 1 0 8
 佐助(さすけ・安田) → 蛙文(あぶん・安田、浄瑠璃/歌舞伎作) B 1 0 5 4
 佐助(さすけ・藤/斎藤) → 斉延(まさのぶ・藤とう/斎藤/藤原、神職) F 4 0 6 1
 佐助(さすけ・沢井) → 是々堂(ぜぜどう・沢井さわい、俳人) I 2 4 5 2
 佐助(さすけ・平岡) → 邦勝(くにかつ・平岡ひらおか/源、藩士/国学) E 1 7 4 6
 佐助(左助さすけ・中村) → 重政(初世しげまさ・北尾きたお/中村、絵師) 2 1 1 5
 佐輔(さすけ・佐原) → 豊山(ほうざん・佐原さわら、儒者/欧州視察) B 3 9 1 6
 璩助(さすけ・草場) → 佩川(はいせん・草場くさば、儒者/詩画) B 3 6 7 0
 B2067 莎青(させい・柴立園さいりつえん)?- ? 江中期江戸の俳人;吏登門、
 1744「奥細道拾遺」著(1743自序/西村源六板/芭蕉遺章を蓼太から得て発刊)

- E2048 **左静**(させい・子日庵ねのひあん)?- ? 江中期江俳人、子日庵は仏仙[1721-90]が継承
- H2055 **茶井**(させい) ?- ? 京の俳人;1774美角「ゑぼし桶」1句入;54
 [枯れがれやひさごの蔓つるに風さはぐ](ゑぼし桶)
 佐世(させい・藤原) → 佐世(すけよ・藤原、廷臣/漢学/詩人) 2 3 1 3
 左盛(させい・河野) → 行輝(ゆきてる・河野、武芸;遊泳/砲術) E 4 6 9 6
- E2069 **左石**(させき) ?- ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、
 [森陰や子に霜置けば啼く狐](丁卯集/三森;王子)
- N2000 **左夕**(させき・吉田よしだ、通称;政兵衛、別号;馬明堂)?-? 安藝広島堺町の俳人;
 1853鼎左「俳諧海内人名録」入、59「やまかつら」入、
 [地に付けて日和定る柳かな](俳諧海内人名録)
 佐跡(させき) → 佐理(すけまさ・藤原、書:三蹟/歌) 2 3 1 1
 紗雪(させつ/しやせつ・杉坂) → 百明(ひやくめい・杉坂すぎさか、俳人) 3 7 1 3
 左膳(させん・松平) → 忠雅(ただまさ・松平まつだいら、藩主/詩人) Q 2 6 8 0
 左膳(させん・寺村) → 成範(しげのり・寺村、公武合体論) S 2 1 1 9
 左膳(させん・湯川/多紀) → 安貞(あんてい・湯川ゆかわ、幕府医官) G 1 0 1 6
 左膳(させん・木村) → 正容(まさかた・木村きむら、幕臣/歌人) B 4 0 9 3
 左膳(させん・小堀) → 定明(さだあき・小堀こぼり、藩士/詩歌) H 2 0 6 4
 左膳(させん・劉/合谷) → 石秋(石舟せきしゅう・劉りゅう、商家/儒者) D 2 4 5 2
 左膳(させん・鵜殿) → 士寧(しねい・鵜殿うどの/村尾、幕臣/儒者) F 2 1 3 9
 左膳(させん・福田/林) → 一鳥(いちう・林/福田、医者) F 1 1 9 6
 左膳(させん・加治) → 盈亮(えいりょう・加治かじ、武道家) D 1 3 4 1
 左膳(させん・猿山) → 赤城(せきじょう・猿山さやま、書家) K 2 4 1 8
 左膳(させん・内藤) → 景文(かげふみ・内藤ないとう、藩士/儒者) L 1 5 3 0
 左膳(させん・村岡/尾池) → 桐陽(とうよう・尾池おいけ、医者/詩人) H 3 1 8 3
 左膳(させん・藤井) → 晋流(晋柳しんりゅう・藤井/近藤、商家/俳人) 2 2 9 1
 左膳(させん・大野木) → 克寛(かつひろ・大野木おおのぎ、藩士/記録) N 1 5 8 1
 左膳(させん・古田) → 含章(がんしょう・古田ふるた、藩士/儒者) F 1 5 7 2
 左膳(させん・伊波/印南) → 八重平(やえひら・伊波/印南いなみ/源、藩士/神道) F 4 5 2 8
 左膳(左全させん・岩佐/岡村) → 鳳水(ほうすい・岡村/岩佐、絵師) B 3 9 9 4
 左膳(させん・竹鼻) → 正修(まさなが・竹鼻たけはな、藩家老/歌人) P 4 0 4 9
 左膳(させん・寺村) → 成範(しげのり・寺村、藩士/国学) S 2 1 1 9
 左膳(させん・岡部) → 千尋(ちひろ・岡部おかべ/狛こま、家老/歌) M 2 8 2 9
 坐禅院僧都(させんいんのそうず) → 深観(しんかん/じんかん;法諱、花山天皇皇子/真言僧) D 2 2 7 4
 左膳太(させんた・野津) → 政屋(まさいえ・野津/竹屋、藩士/歌人) J 4 0 0 7
 詐善亭(させんてい/詐善館) → 高福(たかよし・三井、商家;財閥の礎) N 2 6 7 7
 坐禅堂(させんどう) → 三箱(さんばこ・宝玉蒼、川柳作者) G 2 0 2 7
 左膳介(させんのすけ・藤井) → 近道(ちかみち・藤井ふじい、神職/国学) N 2 8 3 9
 沙窓(茶窓さそう) → 曲川(きよくせん・山内、商家/俳人) P 1 6 1 6
 左叟(さそう・松葉) → 政直(まさなお・松葉まつば、国学者/歌) S 4 0 7 2
 佐壮(さそう・丸子部) → 佐壮(すけお・丸子部まるこべ、防人/万葉歌人) B 2 3 9 2
 佐総(さそう・小山) → 親頼(ちかより・小山こやま、神職/歌人) M 2 8 5 2
- P2048 **左三**(さぞう・三木みき、旧姓;河野、)1823-6947 伊予宇摩郡蕪崎の医者/歌人、尊攘活動家、
 1863(文久3)生野挙兵に失敗した沢宣嘉を自宅に匿い長州へ護送、維新後;沢家の執事、
 西条藩儒者の尾崎山人やまんどと親交、
 [左三(;名)の通称]惣吉/遠江守
 佐蔵(さぞう/すけぞう・佐竹) → 蓬平(ほうへい・佐竹さたけ/野口、絵師) C 3 9 4 9
 佐草亭(さそうてい) → 百親(ももちか・森川もりかわ、医者/歌人) L 4 4 7 2
- H2056 **莎邨**(さそん・金井かない、名;繁、長徳男)1794-182431 上州佐位郡島村の儒者;古賀侗庵門/詩人、
 長崎出清人と交流、「莎邨詩帖」「莎邨漁夫詩」「漁父百絶」「三体詩帖」「莎邨詩稿」著、
 鳥洲うしゅう・毛山の兄、[莎邨(;号)の通称];丈太郎

- G2031 **佐太**(さた・川村かわむら) ? - ? 江前期上方の俳人、
1673西鶴「生玉万句」第五夏草発句入、
[馬蘭草ばらんさう似た物野干やかん哉](生玉万句;夏草発句/馬蘭草;百合科で4月開花、
野干は野狐、字足らずの句)
佐多(さた・長谷川) → 妙貞(みょうてい・長谷川はせがわ、書家) G 4 1 6 0
- H2057 **貞**(さだ;名・沢さわ、号;弾月、酒井さかい玄高の女)1667-1710⁴⁴ 常陸茨城郡;幼時より儒を修学/歌人、
1685(19歳)沢草庵と結婚、夫が事に座し失職;紡績・裁縫の内職で四男一女を養育、
長子忠敦は禄2百石を得る、「酒井貞俊文」著
- H2058 **定**(さだ・伊藤いとう、井口いぐち蘭雪女)1739-66^{早世}28 紀伊和歌山の生、1755(17歳)伊藤東所と結婚、
弘美(東里)・弘茂の母、1762「手帳」63「道中覚帳」著、
[定(;通称)の諡号] 静懿孺人
- F2020 **左陀**(さだ・松川まつかわ) ? - ? 江中期歌舞伎作者、1782-90頃上方で創作参加、
1784初世五瓶「思花街容性」番付/90「織始室町錦」著、
佐藤魚丸の前名説あり→ 魚丸(うおまる・佐藤・釘屋、狂歌/浄瑠璃作者) 1 2 0 1
- N2073 **貞**(さだ・天野あまの/旧姓;堀部、法名;正貞院)?-1822 肥後熊本の歌人
- N2096 **貞**(さだ・於貞・植村うゑむら、宇和島藩主伊達村侯4女)1577-1823⁶⁹ 母;護姫(鍋島宗茂女)/江戸の生、
歌人、初め彦根藩世嗣井伊直尚と婚約したが直尚死去/次に二本松藩主丹羽長貴の室;離縁、
最後に大和高取藩第8代藩主植村家利(1759-85)の室、
[貞(;名)の初名/法名]初名;伊姫/長、法号;榮昌院
貞(さだ・川本) → 衡山(こうざん・川本かわもと、同心/詩人) J 1 9 3 6
貞(さだ・井上) → 定子(さだむろこ・大野おおの/井上/榎本、歌) J 2 0 8 7
貞(さだ・棚谷/丸山) → 梅子(うめこ・丸山まるやま/棚谷、歌人) E 1 2 8 9
禎(さだ・川名) → 禎女(さだじよ・川名かわな、歌人) N 2 0 6 2
- H2059 **定顕**(さだあき・荒木田あらかだ)?- ? 伊勢の神職;内宮権禰宜/神主、
1295以前「伊勢新名所絵歌合」参加、
[春といへば余所ものしるく桜木の花こそ里の名にたてりけれ](伊勢絵歌合;七番左)
- B2068 **貞顕**(さだあき・北条ほうじょう/金沢、顕時男)1278-1333^{自刃}56 鎌倉幕府15代執権、金沢文庫3代主、
前後12年間六波羅探題職/連署・執権と進み京文化を積極的に摂取;文庫に典籍多数収集、
「皇統私記」:校、早歌;1296?「宴曲集:袖余波そでのなごり」作詩(越州左親衛名)
- H2060 **定顕**(さだあき・葉室はむろ/本姓;藤原、別名;長親、宗顕男)?-1414 廷臣;蔵人頭/右大弁、
1409(応永16)参議/正四下、11従三位;播磨権守兼任/12辞任、14(応永21)没、
連歌;1401「朝何百韻」(清閑寺家房らと)/もと南朝廷臣?(;1365正平廿年点取和歌参加?)
- H2061 **貞説**(さだあき・諏訪すわ/本姓;神じん)?-? 戦国期室町幕臣;奉行人/散位、
歌;文亀末永正初1503-5頃「武家歌合」参加、
[春はまだあさ野の原のかすめるや残る雪気の雲のおもかげ](武家歌合;四番左)
- H2062 **貞晨**(さだあき・檜垣ひがき/本姓;度会たらい、常晨男)1613-1651³⁹ 伊勢度会郡西河原の神職、
1622外宮八禰宜/従五下/1644二禰宜に昇進、国学・神典に精通、常有の父、
「参宮神拜式」著/1644「二宮諸社名式図」編
- G2020 **貞顕**(さだあき・内藤ないとう)1648-1702⁵⁵ 常陸水戸藩士/国学;1683彰考館入、
1689「参考源平盛衰記」「参考保元物語」「参考平治物語」校訂、91「参考太平記」校訂、
[貞顕(;名)の字/通称/号]字;仲微、通称;甚平、号;著斎
- H2063 **定章**(さだあき・蜂屋はちや、伝左衛門定高男)1686-1749⁶⁴ 叔父蜂屋小右衛門定次の養嗣子、幕臣;
1709小姓組/24遺跡継嗣、和算家:久留道亀(重孫)門、天文;西川正休門/暦学;井川氏門
「円理発起」「算法弧発起」編/「暦法差訣」/1743「授時暦法私解」著、
[定章(;名)の字/通称/号]字;尚綱、通称;小十郎、号;淡山、法名;順空
- H2064 **定明**(さだあき・小堀こぼり、永頼男)1714-88⁷⁵ 加賀金沢藩士;1757家督嗣;2千石/番外組頭、
諸職歴任/1785事に座し遠慮を下命、「四序閑詩歌」編、1782「謙徳公御夜話」著、
[定明(;名)の字/通称/号]字;記政、通称;左膳/牛右衛門、号;芳洲
- H2065 **貞著**(さだあき・永戸ながと) ? - 1778 丹波篠山藩士/郡奉行;その間明和1764-72頃藩命で
丹波国地誌を福知山藩郡奉行古川茂正と共同編纂;未完で没、

没後茂正男古川正路により1794「丹波志」編刊、
[貞著(；名)の通称/法号]通称；半兵衛、法号；光賢院

- N2040 **定秋**(さだあき・岡沢おかざわ、藩重臣の樹徳男)1747-1824**78歳** 信濃飯田藩士；御年寄役、
1794(寛政6)文武；村沢権之進門/国学・歌；加藤千蔭・村田春海門/1818服部菅雄門、
万葉調；長歌に長ず、清水浜臣・一柳千古・三浦元簡・堀成子・桃沢夢宅・道賢らと交流、
蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、公平きんひらの祖父、
[嵐山峰の松かげ音絶えて霞にしづむ花のしらゆき](大江戸倭歌；春75)、
[定秋(；名)の通称/号]通称；八左衛門/甚左衛門、号；灌水、法号；禅海院
- 02066 **貞暁**(さだあき・柴田しばた、)1751-1821**71** 伊予吉田の歌人；本間遊清門、
[貞暁(；名)の通称/号]通称；金右衛門、号；萩の屋
- H2066 **貞章**(さだあき・富田とみた、貞直男)1755-89**35** 加賀金沢藩士；1783遺知2千4百石継嗣/御使番、
御算用場奉行/近習御用歴任、山本流の書家、「城中御用日録」「火事方留帳」「袂草」著、
1775「書道相伝之誓紙前書」85「御算用場奉行中自分留」86「御在国御用留」外記録多数、
[貞章(；名)の通称] 織人/外記、貞行の父
- P2021 **貞秋**(さだあき・広田ひろた、)1781-1833**53** 近江彦根城町の魚問屋、歌人；[彦根歌人伝・亀]入、
[貞秋(；名)の字/通称]字；広錫、通称；納屋七平、屋号；納屋七
- H2067 **定顕**(さだあき・吉田よしだ) ? - ? 江中期磐城石城郡好間村の熊野権現社司、
「磐城枕友」著、鋤柄助之「現存百人一首」入の[吉田定顕]と同一？
- H2068 **貞覚**(さだあき・高こう、通称；半之助)?-? 江後期文政1818-30頃大阪の和算家；
武田真元しんげん[?-1846]門、1824「算法便覧」校訂
- P2057 **貞明**(さだあき・望月もちづき、)1805-1859**55** 周防徳山藩士；寺社奉行、歌人；香川景樹門、
歌；[類題玉石集]入、
[貞明(；名)の通称/号]通称；兎之助/桂大夫/桂左衛門、号；篤楽/蕃智
- N2054 **定顕**(さだあき/ていけん・吉田よしだ)?- ? 江後期；歌人、
1860鋤柄助之「現存百人一首」入、熊野権現神職の[吉田定顕]と同一？、
[秋の田の穂にあらはれてみゆるかな雨にも植ゑし心づくしは](現存百人一首；81)
- P2075 **貞諒**(さだあき・劉りゅう、)1818 - 1890**73** 尾張知多郡の真福寺住職、国学；富樫広蔭門、
権大講義、1880(明治13)「改悔文徹心鈔」著、
[貞諒(；名/法諱)の初名/号]初名；篤、号；松雲
- 02029 **貞彬**(さだあき・片桐かたぎり、家老片桐源一男)1832-1913**82** 信濃伊那郡の山吹藩士、片桐春一の弟
国学；平田鉄胤門
[貞彬(；名)の通称]通称；衛門
- Q2088 **定明**(さだあき・高屋たかや、通称；助八郎)1842-? 山城綴喜郡の郷士/国学；松浦道輔(1801-66)門、
国学・神道；平田鉄胤門、維新後；宮内省に出仕
- 02093 **貞章**(さだあき・中小路なかこうじ/本姓；平、村井又兵衛3男)1845-1922**78** 近江蒲生郡西庄村の生、
儒者・詩人；北脇醒斬門、1867(慶応3)郷総代の中小路健治女まつと結婚；婿養子、
与平治と称す；政治家/1871戸長/79滋賀県会議員/85県会副議長/87議長/90衆議院議員、
1891(明治24)大津事件；京都のロシア皇太子宛謝罪電文の発起人の1、92-94議員、
与平治(2代/貞治郎/衆議院議員/銀行頭取)の父、
[貞章(；名)の幼名/通称/号]幼名；直次郎、通称；与平治よへいじ、号；槐庵/読書堂/松雲
- 02067 **定昭**(さだあき・菅沼すがぬま)1846-1912**62** 出羽(羽前)上山の染物業、儒・歌；五十嵐光春(于拙)門
- | | | | |
|------------------|---|------------------------|-----------|
| 貞明(さだあき・伊勢) | → | 貞明(さだあきら・伊勢、故実家) | H 2 0 6 9 |
| 貞明(さだあき・牧野) | → | 康哉(やすとし・牧野まきの/源、藩主/詩人) | C 4 5 2 6 |
| 貞明(さだあき・中村) | → | 耒耜(らいい・中村なかむら、庄屋/俳人) | 4 8 5 2 |
| 貞昭(さだあき・田中) | → | 適斎(てきさい・田中たなか、商家/儒者) | B 3 0 8 9 |
| 貞章(さだあき・奥) | → | 文鳴(ぶんめい・奥おく、絵師) | G 3 8 5 1 |
| 貞晨(さだあき→さだとき・中島) | → | 貞晨(貞辰ていしん・さだとき・中島、俳人) | 3 0 0 7 |
| 貞璋(さだあき・長尾/恵美えみ) | → | 大笑(たいしょう・恵美えみ/長尾、医者) | K 2 6 3 4 |
| 貞融(さだあき・岩下/滋野) | → | 貞融(さだみち・滋野、桜園、歌人) | C 2 0 4 9 |

- 定明(さだあき・林) → 定明(ていめい・林はやし、俳人) B 3 0 7 1
 定明(さだあき・久方) → 蘭溪(らんけい・久方ひさかた、藩士/記録) B 4 8 8 3
 定明(さだあき) → 雲浜(うんびん・梅田、儒者) B 1 2 2 1
 定明(さだあき・畑) → 道伯(どうはく・畑はた、藩医) G 3 1 9 4
 定明(さだあき・日尾) → 荊山(けいざん・日尾ひお、儒者/詩人) 1 8 0 5
 定明(さだあき・黒沢) → 定保(さだやす・黒沢くろさわ、国学者/歌人) O 2 0 4 2
 定秋(さだあき・豊原) → 政秋(まさあき・豊原とよはら、楽人;笙/歌) 4 0 8 8
 定章(さだあき・清家) → 貞幹(さだもと・清家せいけ/清原、神職/歌) O 2 0 7 5
 定顕(さだあき・小瀬/田中) → 朋如(ともゆき・田中/田、藩士/国学者) Q 3 1 8 0
- H2069 貞明(さだあきら・伊勢いせ/本姓;平、貞運男)?-? 安桃期天正1573-92頃の武家/故実家、父は北条家の妹婿;1590討死/貞明は幼少のため秀吉に許され京に住、「伊勢備後守貞明覚悟記」「太刀出様条々」著、[貞明(;名)の通称] 兵太夫/又七
- 02088 定徴(さだあきら・富田とみた、小寺清先4男/野中) 1775-181238 備中笠岡の生、国学;父門、妻;富田家(飛騨高山城主金森家の近臣)の娘、妻の家を継嗣;高山代官所の地役人、富田礼彦いやひ(節斎)の父、[定徴(;名)の字/通称]字;子久、通称;忠四郎/佐十郎、号;穀山
- H2070 定淳(さだあつ・今城いまき/本姓;藤原、名;為継、冷泉為尚男) 1635-8955 初め中山冷泉為継名;定淳に改名時に今城に改姓、廷臣;1669参議/74権中納言/81従二位、「花山家伝」「冷泉家系図」「冷泉族伝文書附」著、[定淳(;名)の法号]日峯院瑞山覚融
- N2023 貞温(さだあつ・筒見つみ/本姓;藤原、通称;三郎大夫)?-? 美濃大垣藩士;戸田采女正氏教(1755-1806)に出仕、歌人;本居大平「八十浦の玉」上巻138に長歌[万葉集竟宴の日]入
- H2071 貞敦(さだあつ・伊勢いせ/本姓;平、竹中定矩3男) 1735-8147 伊勢貞丈の養子/妻;貞丈女、故実家、病身のため家督を継がず子貞春が継嗣、1764「祝の書」/65「産所法式」編、「髪置切紙」著、「髪置之記切紙」「産所引目口伝」著、「將軍御元服記」注、[貞敦(;名)の通称/号]通称;登、号;心斎
- H2072 貞温(さだあつ・秋良あきら、宣直の長男) 1811-9080 長門萩藩浦家の家臣、藩校明倫館に修学、1834藩の番頭納戸役/浦家の財政破綻の再建改革に専念、黒船来航以来海防に尽力、自ら人車船を發明、国事奔走;吉田松陰・斎藤弥九郎・梅田雲浜・梁田星巖らと交流、維新後山口政事堂に出仕/鎌倉・大和の神社宮司、1864「秋良貞温封事」著、貞臣の父、[貞温(;名)の字/通称/号]字;子良/士良、通称;鶴太郎/軍三/敦之助、号;桃処/坐山/多々良山人/些久樂居/咲樂居さくらい
- H2073 定厚(さだあつ・山口やまぐち/本姓;紀、山口厚生男) 1826-8762 母;山口行厚女、京の廷臣;官人、上総介/内匠助/右小史/1840春宮少属兼任/47皇太后宮少属/49左小史/65正五下右大史、大舎人頭に至る、1847「祺子立太后宮司参勤之記」48「近衛家基贈官位宣下参勤備忘」著
- B2069 貞敦親王(さだあつしんのう・伏見宮6世、邦高親王男) 1488-157285 母;左大臣今出川教季女、1502元服、1504親王宣下/後柏原天皇の猶子、1507中務卿/16式部卿/21二品/44出家、歌人;三条西実隆・公条門、詩・書も嗜む、「貞敦親王御詠草」「貞敦親王御詠百首和歌」、「貞敦親王着到百首和歌」「貞敦親王着到百首草」「貞敦親王和歌懷紙」など多数、詩「鳳鳴集」、連歌:1521勢語詞百韻・30北野社法楽千句・百韻・36日吉社法楽千句参加、その外多数の千句・百韻や和漢聯句興行に参加、「作法故実之事」「皇帝所作事」など著多、[貞敦親王(;名)の一字名/法名/法号]一字名;松、法名;澄空、法号;妙莊嚴院
- 左大(左太さい・岡部) → 盛賢(もりかた・岡部おかべ、和算家) F 4 4 3 1
- H2074 定家(さだいえ・平たいら、行親男)?-? 母;藤原頼祐女、平安中期廷臣;藏人/檢非違使、右衛門権佐/尾張守/正四下、撰関家の家司;有職故実を掌る、「平定家朝臣記」
- 2016 定家(さだいえ/ていか・藤原ふじわら、俊成としなり男) 1162-124180 母;藤原親忠女的美福門院加賀、廷臣;1211従三位/高倉天皇侍従、14参議/27正二位/32権中納言/33出家、九条家家司;歌学研究、九条良経・慈円らと和歌新風;有心体の歌主唱/1200以降後鳥羽院仙洞歌壇の中心人物、

1201和歌所寄人/05「新古今集」撰進/20内裏歌会で院の逆鱗に触れ籠居/「藤河百首」著、
1222承久乱後復帰/35「新勅撰集」撰進、1202「三体和歌」09「近代秀歌」、「詠歌大概」、
「拾遺愚草」「八景和歌」「花月百首」「京極黄門詠五十首和歌」「錦葉集」、「明月記」外著多数、
1178賀茂別雷歌合(初詠)/後鳥羽院催歌合/99御室五十首参加・1200正治百首参加、
1201千五百番歌合判、雲葉集33首入、

勅撰465首;千載(8首355/400以下)新古(46首38/40以下)新勅(15首94/132以下)続後撰下、
[見渡せば花も紅葉もなかりけり浦の苫屋の秋の夕暮](新古今;363/三夕の歌)

[来ぬ人をまつほの浦の夕なぎに焼くや藻塩の身もこがれつつ](新勅撰;849)

[定家(;名)の別名/通称]初名;光季/季光、通称;京極中納言(黄門)、法名;明静

H2075 貞舎(さだいえ・檜垣ひがき/本姓;度会わたり、常始2男)1727-8862 伊勢横橋の神職;外宮祠官/正四上、
「神宮家別系図大略」、1777「一禰宜常之卿正三位願之控」著、常安の父、
[貞舎(;名)の通称]吉之助/求馬/越中/応助

貞家(さだいえ・松浦) → 宗案(宗安そうあん・松浦、武家/勸農家) F 2 5 8 9

定家母(さだいえのは・藤原、新古・新勅撰集) → 加賀(かが・美福門院/歌人) E 1 5 5 5

B2070 定功(さだいき・野宮ののみや/本姓;藤原、定祥の長男)1815-8167 廷臣;1857参議/従三位、58家督継嗣、
1864権中納言/65正二位/60祐宮(明治天皇)の側近に奉仕/和宮御縁組御用掛;江戸下向、
1862議奏/武家伝奏/国事御用掛;1867年まで朝幕間折衝に尽力、維新後は皇后宮大夫など、
1861「和宮御降嫁供奉日記」64「春日祭祀」67「吉田祭備忘」、「三代実録備忘」外記録多数

左大臣(さだいじん:ひだりのおほいまうちぎみ;古今集) → 時平(ときひら・藤原、政権) 3 1 3 6

左大臣(さだいじん:拾遺集) → 道長(みちなが・藤原/御堂関白) 4 1 1 3

左大臣(さだいじん:後拾遺) → 俊房(としふさ・源、堀河左大臣) 3 1 4 9

左大臣(さだいじん:千載) → 経宗(つねむね・藤原、中御門) D 2 9 9 5

左大臣(さだいじん:続古今) → 基平(もとひら・近衛、関白) E 4 4 0 4

左大臣(さだいじん:続拾遺) → 師忠(もろただ・二条、関白) H 4 4 3 7

左大臣(さだいじん:新後撰) → 師教(もろり・九条、関白/摂政/歌) H 4 4 7 0

左大臣(さだいじん:玉葉) → 家平(いえひら・近衛、廷臣/歌人/連歌) 1 1 5 8

左大臣(さだいじん:続千載) → 実泰(さねやす・洞院、後山本左大臣) D 2 0 7 3

左大臣(さだいじん:続後拾) → 冬教(ふゆり・鷹司、関白/後円光院) E 3 8 3 7

左大臣(さだいじん:新後拾) → 義満(よしみつ・足利、鹿苑院太政大臣) H 4 7 5 0

左大臣(さだいじん:新続古) → 義教(よしのり・足利、6代将軍) 4 7 2 4

左大臣家少輔(さだいじんけのしょう) → 少輔(しょう、藤原兼房女) K 2 1 7 2

左大臣阿闍梨(さだいじんのあじかり) → 仁寛(にんかん;法諱、真言僧) G 3 3 2 5

左大臣僧正(さだいじんのそうじょう) → 覚教(かくきょう;法諱、真言僧) J 1 5 6 7

左大臣橘卿(さだいじんのたちばなのきょう) → 諸兄(もろえ・橘) 4 4 3 0

左大夫(さだいふ・檜垣) → 常副(つねすけ・檜垣ひがき/度会、神職) C 2 9 2 9

左大夫(さだいふ・井上) → 正路(まさみち・井上いのかみ、幕臣/砲術家) H 4 0 5 8

定氏(さだうじ・坂上) → 定成(さだしげ・坂上、明法博士/歌人) I 2 0 2 0

左多衛(さたえ・神山) → 郡廉(ぐにきよ・神山こうやま、藩士/記録) C 1 7 7 3

H2076 貞兄(さだえ・檜垣ひがき/本姓;度会わたり、常固男)1703-7775 伊勢丹生の神職/正四上/権一座社、
一時檜垣貞命の養子;不縁/実家の丹生神社神主を継嗣、

1750「寛延御神宝調進日次別宮」、「寛延遷宮御装束御神宝検察在京日次」著、

[貞兄(;名)の別名/通称]別名;貞都/常都/貞賞、通称;亀太郎/内記

貞枝(さだえだ・宮地) → 畏山(いざん、宮地みやじ、藩士/武術/詩) F 1 1 5 7

H2077 定右衛門(さだえもん;通称・吉見よしみ、幼名;喜之助/名;直応)1740-? 幕臣;小普請方吟味手伝役、
支配勘定/1798将軍家齊女の淑姫の用達、江戸小石川鷹匠町住、直僖(鶴太郎)の父、
1822-24「吉見定右衛門日記」(年代からみて息子の著作か)

定右衛門(さだえもん・依田) → 貞鎮(さだしず・依田よだ/五十嵐、神道家) I 2 0 2 7

定右衛門(さだえもん・朝日) → 重村(しげむら・朝日あさひ、藩士/神道) D 2 1 1 3

定右衛門(さだえもん・吉見) → 幸和(よしかず・吉見/菅原/源、神職/国学) 4 7 0 6

定右衛門(さだえもん・朝日) → 重章(しげあき・朝日、重村男/藩士/儒) B 2 1 7 8

定右衛門(さだえもん・尼屋)→貞右(ていゆう・玉雲齋/雄崎、問屋/狂歌) 3 0 0 2
 定右衛門(さだえもん・堀江)→道高(みちたか・堀江ほりえ、歌道指導) K 4 1 4 2
 定右衛門(さだえもん・村瀬/久世)→兼由(かねよし・久世くぜ、郷土史家) P 1 5 0 7
 定右衛門(さだえもん・佐藤/小田)→穀山(こくざん・小田/田、漢学) F 1 9 5 5
 定右衛門(さだえもん・曾根)→寸齋(すんさい・曾根そね、藩士/篆刻) H 2 3 2 9
 定右衛門(さだえもん・矢島)→吉従(よしより・矢島やじま、国学/歌人) P 4 7 7 1
 定右衛門(さだえもん・木代)→竹禎(ちくてい・木代きしろ、藩士/和漢学) D 2 8 4 9
 定右衛門(さだえもん・浅井)→喻霞(きゆうか・浅井あさい/杉浦、藩士/儒) M 1 6 3 7
 定右衛門(さだえもん・平賀屋)→路友(ろゆう・平賀屋、書肆/俳人) C 5 2 4 7
 定右衛門(さだえもん・田代)→忠金(ただかね・田代たしろ、藩士/記録) P 2 6 4 1
 貞右衛門(さだえもん・小林)→祐良(すけよし・小林、幕臣/台所方) D 2 3 7 0
 貞右衛門(さだえもん・伊藤)→澹齋(たんさい・伊藤/伊東、医/儒者) I 2 6 1 4
 貞右衛門(さだえもん・中根)→東里(とうり;号・中根、儒者/教育) I 3 1 0 5
 貞右衛門(さだえもん・堀江)→道高(みちたか・堀江ほりえ、歌道指導) K 4 1 4 2
 貞右衛門(さだえもん・日下部/今莊/今条)→高豊(たかとよ・日下部くさかべ、国学者・歌) D 2 6 3 0
 貞右衛門(さだえもん・北田)→忠之丞(ちゅうのじょう・北田、藩士/農政) G 2 8 7 9
 貞右衛門(さだえもん・大島)→直章(なおあき・磯野いその/大島おおしま、歌) 3 2 6 1
 貞右衛門(さだえもん・中務)→高岳(たかおか・中務なかつかさ、国学/歌人) Y 2 6 5 6

- B2071 貞雄(さだお・滋野しげの、家訳男) 1795-1859 65 平安前期;漢詩人、嵯峨天皇の近侍
- H2078 貞雄(さだお・池田いげだ、守秀男?) 1613-1877 75 江戸住の幕臣;稲葉正勝の許で1641家光に出仕、納戸番/1674-84書物奉行;禄3百俵/小普請となる、「池田正印覚書」著、[貞雄(;名)の通称/法号]通称;千助/勘兵衛、法号;水月正印居士
- H2079 貞雄(さだお・大沢おおさわ) 1698-1771 74 備前岡山藩儒・国学者、侍講/国学講官、池田綱政・継政2代に出仕、1756「泮水余波」編、「松堂遺書」[貞雄(;名)の通称/号]通称;平蔵、号;松堂
- B2072 貞雄(さだお・瀬名せな/本姓;今川、俊光男) 1716-1968 81 江戸の幕臣;1747家督嗣/48大番/小普請、1789奥右筆組頭;布衣を許可/96寄合、武家故実精通/写本蒐集、1755「江戸割絵図」、1772「今川一苗之記」91「赤鳥感得記」著、「手留記」「狐阡翁雑記」「関東補任記」「炎上鑑」、「四季問答」「殿上故実附記」「道灌山記」「武家職掌分類」「武家名目抄」「二十種秘書」外著多、[貞雄(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;式福いちぶく/巳之助みのすけ、字;士雄、通称;源五郎/主膳、号;狐阡こせん/狐阡軒/狐阡翁/阡翁/亀文、法号;日中
- H2080 定雄(さだお・樋口ひぐち、定広男) 1759-1836 78 上州多胡郡馬庭村の武芸者/馬庭流剣術家、居合16世(25世説も);祖父定暁門、家を弟定輝に譲渡/江戸小石川に道場開設、のち上野七日市藩主前田利和に出仕、1823弟定輝没;遺子定伊の教育のため帰郷、1792「当流伝来秘伝書」著、[定雄(;名)の通称/号]通称;十郎左衛門/十郎兵衛(;隠居後)、号;貫齋
- 2017 貞雄(さだお・細井ほそい) 1765or72-1823 59or52 江戸桜田備前町の代々質商の生、幕府桶大工頭水具師細井家の株買収;桶町で桶方御用を勤める/弟に譲渡、1804頃浅草伝法院の傍らに閑居、国学;山本正臣門/のち本居宣長門、有職;大炊御門おおいのみかど家で修学、茶湯を嗜む、狩谷掖齋と交流、国学者・有職故実家、1807「いさや川」09「宇津保物語玉松」14「姓序考」(36巻)15「玉椿」16「宇津保物語二阿抄」、「宇津保物語玉琴」「最乗寺日記」「残の葛花」「杖代」「姓氏考」「職位考」「文章考」外著多数、所蔵の万葉集に温古堂本で校合し[細井本万葉集]と称される、[貞雄(;名)の通称/号]通称;藤十郎、号;昌阿/詞花堂、屋号;山田屋、法号;昌阿栄順居士
- P2003 貞雄(さだお・贅川にえかわ、良以よしもち2男) 1777-1844 68 駿河駿東郡の国学者 [貞雄(;名)の通称]通称;五平
- P2047 貞雄(さだお・松本まつもと、通称;太兵衛、貞幸さだゆき男) 1779-1827 49 紀伊田辺の商家/和学者
- H2081 貞雄(さだお・福嶋ふくしま、成田丈助男) 1782-1837 56 福嶋東雄はるおの養嗣子、武州足立郡大間村名主、救荒植物の研究、養父東雄の遺著を補填「武蔵志」刊(1801-頃)、1837「贍民録せんみんろく」著、[貞雄(;名)の字/通称]字;子耕、通称;耕八

- H2082 **貞夫**(さだお・宇津木うづぎ) ? - 1891 江戸の歌人;河本延之門、維新後;陸軍参謀本部勤、1867「河本延之大人家集」編
- 02043 **定雄**(さだお・古賀こが、通称;一平) 1832-77 46 肥前佐賀藩士、国学者、維新後;官僚/伊万里県参事、大木民平・江藤新平と共に[佐賀の三平]と称される
- P2011 **貞雄**(さだお・長谷川はせがわ/本姓;藤原、中村貞則男) 1845-1905 61 遠江浜名郡雄踏町宇布見の生、父の実家豊田郡川袋村の長谷川家の養嗣子;川袋水神堂の神主と酒造業、国学;平田鉄胤門、1868戊辰戦;有栖川宮織仁たるひと親王東下に遠州報国隊の結成に参加、1869函館戦に戦功、兵部省会計権佐、英国軍艦停泊の際海軍省へ派遣/海軍会計法を研究、1889海軍主計総監/会計局長、貴族院議員、晩年;浜松住;公共事業に尽力、歌集「寢覚集」著、
[貞雄(;名)の通称]通称;権太夫、長女タキは寺内正毅の後妻
- 貞夫(さだお・川津) → 眞清(まさきよ・川津かわづ/萩原、神職/国学) P 4 0 0 3
- 貞雄(さだお・上部) → 貞雄(さだお・上部うわべ/度会、神職) I 2 0 4 1
- 貞雄(さだお・桑原/井上) → 布門(ふもん・桑原/井上、医者/俳人) E 3 8 1 7
- 貞雄(さだお・北田) → 忠之丞(ちゅうのじょう・北田、藩士/農政) G 2 8 7 9
- 貞雄(さだお・森) → 三笑(さんしょう・福亭ふくてい、噺本・戯作者) F 2 0 8 8
- 佐多雄(貞雄さだお・仙石) → 隆明(たかあき・仙石せんごく、藩士/尊攘) X 2 6 8 3
- 楨夫(さだお・江田) → 世恭(せいきょう/ながやす・江田、商家/国学) H 2 4 9 0
- 楨夫(さだお・島崎) → 正樹(まさき・島崎しまさき、庄屋/国学者) C 4 0 2 9
- 定雄(さだお→やすお・宮負) → 定雄(やすお・宮負みやおい、名主/農政) B 4 5 0 2
- 定雄(さだお・百井) → 塘雨(とうう・百井ももい、商家/俳人) B 3 1 1 6
- 定雄(さだお・清家) → 堅庭(かたにわ・清家せいけ、医者/歌人) U 1 5 2 3
- B2073 **貞老**(さだおい・新あたらし/初姓;衣笠きぬがさ) 1827-99 73 因幡高草郡村上村の国学者;飯田秀雄門、歌;加納諸平門、鳥取藩士;藩校尚徳館で飯田俊平と国学を教授、1863本圀寺事件参加;幕吏に捕縛;入獄/1867赦免、明治政府に仕官;佐渡県権知事/宇倍野神社宮司、「歌論」「催馬楽解」「万葉集摘英新釈」「柿園詠草傍註」著、
[貞老(;名)の通称/号/変名]通称;田中良達/新庄恒蔵/五郎、号;真木園、
変名;池田謙斎
- 定岡(さだおか・菅原/平田/八島) → 丘山(きゅうざん・岳亭がくてい、絵師/戯作/狂歌) C 1 6 0 3
- H2083 **貞興**(さだおき・伊勢いせ/本姓;平、貞良男) 1559-82 戦死 24 武将;兄貞為病弱の為代りに織田信長臣、明智光秀の叛に加担;山崎表の戦で討死、1572「伊勢貞興返答書」著、貞為の弟、
[貞興(;名)の幼名/通称/法号]幼名;熊[能]千代、通称;三郎/小法師、法号;即心院
- H2084 **貞置**(さだおき・織田おだ/本姓;平、初名;貞長、信貞[信長9男]男) 1617-1705 89 兄病弱のため家督嗣、徳川幕臣;1624父の遺跡継嗣;千石/従五下・侍従、秀忠・家光に出仕/小姓組/進物番、1663高家/主計頭;1682致仕、茶道;織田長好(有楽の孫)門・高島玄瑞門、有楽流茶道の一派の貞置流を創始、「貞置茶伝事」著、
[貞置(;名)の幼名/通称/号]幼名;出来丸、通称;左京亮/五郎左衛門、
号;永年堂/山花老人/如齋子/黄雀軒/茅翁/文芳翁、貞置(致仕後の号)、法号;布鼓院
- J2085 **貞意**(さだおき/さだむね・伊勢いせ/本姓;平、通称;左衛門/監物) ?-1707 京の官人;故実家、加賀藩主前田綱紀に出仕;大小将組に属す/金沢住、「鞍鑑あんどう之記」著、貞広の父
- 02063 **定興**(さだおき・塩谷しおたに、) 1732-1809 78 駿河府中(駿府)城付医師、国学/歌人;芝山持豊門、妻;山梨須摩すま(同門の歌人)、
[定興(;名)の通称/号]通称;己之助/桃庵、号;寛山
- N2092 **定興**(さだおき・宇野うの、通称;兵右衛門) ?-1820 飛騨高山の国学者;田中大秀おおひで門
- 02036 **定興**(さだおき・河地かわち、通称;十郎兵衛) ?-1865 美濃大垣の国学者/歌人;本居大平門、河地重矩の孫
- P2019 **貞居**(さだおき・久松ひさまつ、貞継男) ?-1865 伊予松山藩の重臣;久松清左衛門家(定盛が祖)、歌人、貞吉の父、
[貞居(;名)の通称]清左衛門/主税
- F2024 **貞起**(さだおき・萩原はぎわら) 1807-1872 66 信州松本の酒造業/歌人;香川景樹門、

内田真弓の親友、1843桂園派歌論を集めた「歌学提要」を発起(；1850内田真弓編刊)、
内田真弓と信州に桂園派を広める、

[貞起(；名)の通称/号]通称；左門、号；楽只軒らくしけん/滝園ろうえん/風月楼/可貞

N2084 貞興(さだおき・石井いひ/旧姓；櫛山)1840-7738 肥前佐賀藩士/のち佐賀藩少参事、
歌人；枝吉経種つねね(神陽)門

[貞興(；名)の通称]乙次/大作/竹之助

定興(さだおき・宇佐美) → 道盛(どうせい・宇佐美うさみ、武将/連歌) F 3 1 9 5

定興(さだおき・栗山) → 定興(ていこう・栗山、考証) 3 0 7 2

定興(さだおき・菅沼) → 定虎(さだとら・菅沼すがぬま、幕臣/詩歌) I 2 0 9 4

定興(さだおき・茨木) → 皆山(かいざん・茨木いばらぎ、漢学者) H 1 5 1 6

定興(さだおき・松山) → 定申(ていしん・松山、藩家老/兵法家) B 3 0 2 6

定興(さだおき・大内) → 守山(しゅざん・大内おおうち、儒者/詩人) Y 2 1 8 0

貞興(さだおき・片岡) → 成斎(せいさい・片岡かたおか、家老/儒者/国学) I 2 4 3 0

B2074 貞臣(さだおみ/さだおん・横瀬よこせ/本姓；源、貞国2男)1733-180068 兄貞隆の養子/旗本；1765家督嗣；
4代；千石、幕府高家；1773(安永2)奥高家、従五下侍従/駿河守/のち従四下、書家；定家様、
歌人；冷泉為村門；幕臣三歌人の1(石野広通・内藤正範と)、国学；日野資枝・賀茂真淵門、
「貞臣朝臣詠草」、「高家衆横瀬駿河守貞臣独吟」、「一橋御屏風画讃」著、
歌；1798広道「霞関集」入、正室；平岩親教女(織田信錦養女)/継室；松田勝易養女、
貞樹(夭逝)・貞径さだみち・千枝子(歌人)・美弥子(歌人)の父、
[雪深き草木もしらぬ春の色を空より見せて立つ霞かも](霞関；春13/早春霞)、
[貞臣(；名)の幼名/通称]幼名；貞松、通称；貞次郎/兵庫/式部/駿河守

02021 貞臣(さだおみ・奥平おくだいら、貞熙長男)1809-189082 伊予松山藩士；1829(文政12)家老、歌人/俳人、
1930家老奥平昌蔭の養子/1837(天保9)江戸城西丸炎上；江戸藩邸藩士を率て紅葉山警備、
1848(弘化5)養父没；家督嗣；知行3千3百石/1850家老復帰/1864禁門変に御所警護に出陣、
1868隠居；長男貞操が家督継嗣、
俳諧；松山の塩見黙翁・江戸の田川鳳朗門、俳諧宗匠；伊予俳壇の中心となる、
句集「梅鶯集」著、1881愛比売新報の別冊俳誌[俳諧花の曙]を創刊；その選者、
[風雲をずんずとぬけて冬の月]/[時鳥花のまほろし消えにけり]、

[貞臣(；名)の幼名/通称/号]幼名；隼人/昌壽、通称；弾正/山城、号；煤滴庵/鶯居(；俳号)

定臣(さだおみ・清家) → 堅庭(かたにわ・清家せいけ、医者/歌人) U 1 5 2 3

H2085 貞香(さだか・度会わたらい) ? - ? 伊勢外宮禰宜/歌；1321外宮北御門歌合参加、
1334朝棟亭歌会参加(3首)/45刊小倉実教[藤葉とうり集]入、
[心にやさても残らん言のはにいひつくすべきつらさならねば](外宮歌合；恨恋51番左)、
[ながらへてつれなきものはあふことをゆるさぬ中の命なりけり](藤葉；恋438)

H2086 定香(さだか・大鶴おおつる)1754- 182572 伊勢桑名の医者；1774名古屋の田中養順門、
帰郷後；1777名古屋で医開業/99尾張藩御用懸、詩人；岡田新川門、
「活庵漫載」「篠谷詩集」「東海詩稿」「丹丘詩抄」「九華詩稿」、1817「治病軌範」著、
[定香(；名)の幼名/初名/字/通称/号]幼名；百太郎、初名；謹良、字；君馨、
通称；活庵、石川玄迪げんてき、号；篠谷しょうく

H2087 貞馨(貞香さだか・伊地知いちぢ、堀右衛門男)1826-8762 薩摩藩士；島津斉興の中小姓/昌平黌で修学、
江戸留守居役/国事に奔走；島津久光の公武合体運動支援、1863薩英戦で英艦と交渉役、
1871外務省勤務；琉球藩在勤/81修史局出仕；編集、「紹述編年」「沖繩志」著、
[貞香(；名)の通称/号]通称；徳之助/又十郎/仲左衛門/次郎/小太郎/壮之丞/伴右衛門、
号；恒庵、変名；堀小太郎

貞香(さだか・羽室) → 貞風(さだかぜ・羽室/藤原、藩士/歌人) H 2 0 9 5

H2088 貞蔭(さだかげ・檜垣ひがき/本姓；度会わたらい、後名；良尚、常尚男)1289-133951 伊勢外宮禰宜、
1304十禰宜・正五下/33四禰宜・正四上、1321外宮北御門歌合参加、1325「正中御飾記」、
「元亨元年高宮仮殿日記」著、章尚の父、
[吹き弱るかたにや深く積もるらん嵐にもろき峰の紅葉ば](外宮歌合；三番左5)

P2090 貞景(さだかげ・奥野おくの) ? - ? 江前期；京の歌人；1682河瀬菅雄[麓の塵]2首入、

[山川の流るる水の瀬をはやみよどむともなきわが思ひかな](麓の塵:恋508)

- 2018 **信景**(さだかげ・天野あまの、信幸男) 1663-1733 71 尾張藩士/1684家督嗣; 寄合に列す、1715鉄炮頭、国学; 出口(度会)延佳のぶよし・吉見幸和・熱田大宮司門、歌人、儒学・仏教を修学、さらに博物・天文・地理を修得/碩学として有名; 実証的/合理主義、藩命で[尾張風土記]編纂に着手; 中断(のち松平君山「張州府志」1752刊)、1730致仕、随筆「塩尻」(1千巻)、1707「尾張国神名帳集説」08「尾張古城志」、「尾張国人物志」、「新撰姓氏録校考」「職原抄聞書」「古今集序注」「徒然草浅見」「信景拾葉集」「あやめ草」、「古今易辨」「善隣紀事」「白華園随筆」「吉野紀行」「問津閑筆」「浦の名残」外著多数、[信景(;)名)の幼名/字/通称/号]幼名; 権三郎/源蔵、字; 子顕、通称; 宮内/治部、号; 残翁/白華/白華園/問津亭もんしんてい/運甕斎うんぺきさい/輟棹翁てつとうおう/凝寂堂、法名; 信阿彌陀仏しんあみだぶつ、法号; 迎接院
- N2071 **貞景**(さだかげ・朝倉あさくら/本姓; 源、通称; 真弥) 1768-1828 61 近江彦根藩士; 右筆、歌人
- H2089 **貞景**(初世さだかげ・歌川うたがわ、本姓; 小島) ?-? 江後期1818-44頃江戸目白台但馬屋敷の絵師、歌川国貞[3世豊国]門、美人画、1827「狂歌竹豊集」28「隅田川梅若縁起」29「化物忠臣蔵」画、1829「菅原伝授建部物語」31「秋雨夜話」34「狂歌絵兄弟」39「其移香梅由兵衛」画、外画多数、[歌川貞景(;)号)の通称/別号]通称; 庄五郎、別号; 貞影/五湖亭
- H2090 **貞景**(さだかげ・小池こいけ/本姓; 藤原、通称; 丈吉) 1810-79 70 常陸古渡村の国学者: 篤胤没後門、維新後; 大学少助教/大原野神社権宮司、高知で没、
貞景(さだかげ・伊勢) → 貞為(さだため・伊勢/平、故実家) I 2 0 4 8
貞影(さだかげ・歌川) → 貞景(初世さだかげ・歌川、絵師) H 2 0 8 9
- F2025 **貞和**(さだかず・伊庭いば、別姓; 種村/本姓; 源) ?-? 近江神崎郡の武士; 佐々木六角家家臣、連歌作者; 1424宗碩邸「伊庭千句」を發起; 三条西実隆・宗長・宗碩らと一座、1536再昌草入/54宗牧らと「山何百韻」、通称; 中務丞
- H2091 **貞多**(さだかず・上部うかべ/本姓; 度会わたらい、貞経長男) 1762-1826 65 上部貞張の養子/伊勢の神職、外宮祠官/正四上、「公卿勅使記」、1803「神境秘事談」05「二所太神宮正権禰宜加階記」著、[貞多(;)名)の通称] 久太郎/左近/越中/大蔵/次郎左衛門
- H2092 **貞和**(さだかず・檜垣ひがき/本姓; 度会わたらい、常幸男) 1620-67 48 伊勢神職; 1637外宮十禰宜/62四禰宜、1663正五下、歌を嗜む、「両神官系図」「神宮引付」編、[貞和(;)名)の通称] 重吉/主膳
- H2093 **貞一**(さだかず/さだかつ・前田まえだ、前田貞幹の養子) ?-? 1818-30 頃 加賀金沢藩士; 1749養父遺領を継嗣、1757常火消/71家老; 若年寄兼任/1809致仕、1757「前田貞一覚書」71「前田貞一手記」、1795「御参勤御道中日記」96「御帰国御道中日記」外記録多数、[貞一(;)名)の通称/号]通称; 又勝/図書ずしよ、号; 竜山
- H2094 **貞一**(さだかず・池田いけだ/本姓; 紀) ?-? 幕臣; 清水家(三卿の1)に出仕/和算家; 白石長忠門、1814「花かつみ考」/18「算術雑問一百好解義」「雑問二十五好解義」/19「当世塵劫記解義」著、1819「点竄初学抄附録題」、26「社盟算譜」校訂/30「数理無尽蔵」著、「算訣」「有竹居算叢」編、[貞一(;)名)の字/通称/号]字; 純夫、通称; 十左衛門、号; 旭岡きよくこう/有竹居
- 02060 **完和**(さだかず・清水しみず、旧姓; 中島) 1798-1880 83 越前鯖江藩士、京住/国学・歌人; 城戸千楯門、歌集「かけひの水」著、[完和(;)名)の通称/号]通称; 寛和、号; 鑠廼舎しゃくのや/西鐸廼舎せいたくのや/岸廼舎
- Q2084 **貞一**(さだかず・高野たかの、藩士の新貝源八2男) ?-1868 伊勢桑名藩士高野點の養嗣子; 桑名藩士; 1861奉行江戸留守居役/奉行、戊辰戦に参加; 負傷/自刃、国学者/歌人、「蘆句集」「雑題百首」著、[貞一(;)名)の通称] 百次郎/一郎左衛門
- G2087 **定員**(さだかず・二見、通称; 主殿とのも、定津男) 1817-? 1865 存 伊勢山田神職/従四上/内宮禰宜、1865「依思召玄米御奉納御祈御祓献上務記」著
- 02076 **貞一**(さだかず・清家せいけ、堅庭かたにわ男) 1837-94 58 伊予宇和郡神山村八代神社神職; 父を継嗣、神道・国学・歌; 父門、

[貞一(；名)の初名/通称]初名；貞寿、通称；下総

貞数(さだかず・伊勢) → 貞牧(さだまき・伊勢/平、幕臣/故実家) J 2 0 6 3

- B2075 **貞数親王**(さだかずしんのう、清和天皇皇子)875-916⁴² 母；在原行平女の文子、876親王宣下/四品、常陸太守/式部卿、幼少時より舞楽に秀でる/孚子内親王(宇多天皇皇女)と交渉あり、歌人；勅撰2首；後撰901/新拾760、
[人知れず物思ふ頃の我が袖は秋の草葉に劣らざりけり](後撰；恋901)、
(桂のみこ[孚子内親王]と同棲しながらみこの愛がないので/いつも露に濡れている)
- B2076 **貞風**(さだかぜ・橘たちばな、夷曲庵いきよあん一風斎)?-1800 狂歌；芝連、1782浜辺黒人「初笑不琢玉」入、1783「狂歌二葉集」編、83万載狂歌集入/1785「徳和歌後万載集」2首入、
[春雨にぬれて夜風や引つらんはなより落つる藤の玉水](後万載；春122/雨後藤)
才蔵集の一鳳斎いっぽうさいと同一か？
- Q2093 **貞風**(さだかぜ・谷田たにだ、通称；八十平/号；谷茂)1792-? 近江彦根藩士、国学/歌；小原君雄門、国学者；山本昌蔭・岡村教邦門、歌；[彦根歌人伝・寿]入
- H2095 **貞風**(さだかぜ・羽室はむろ/本姓；藤原、長鎮男)1814-46³³ 肥前佐賀藩士；江戸留守居役、西洋火術に精通；指南役、歌人；香川景樹門、古川松根(景樹門)と親交、
1845「梅廼舎集」著、
[貞風(；名)の別名/通称/号]初名；長鬘ながあき/貞香さだか、通称；平之允へいのすけ、号；梅廼舎うめのや
- B2077 **定方**(さだかた・藤原、通称；三条右大臣、高藤男)873?-932⁶⁰ 母；宮道弥益いやす女、廷臣；909参議、924右大臣/926従二位/贈従一位、今昔22高藤説話入、管絃、歌人；兼輔と宮廷歌壇の重鎮、「三条右大臣集」、898亭子院女郎花合/913亭子院歌合・内裏菊合参加、万代・雲葉集入、勅撰18首；古今(231)後撰(9首125/128/348以下)新勅(243)続後撰(1348)続古(1394)以下、
[名にし負はば逢坂山のさねかづら人にしられでくるよしもがな](後撰700)、
胤子(宇多天皇女御/醍醐の母)・定国の弟、朝忠・朝頼の父、兼輔は従兄弟で女婿、
定方の娘は多数活躍→ 定方女(さだかたのむすめ・藤原) I 2 0 0 1 初名/通称
- P2087 **貞固**(さだかた・藤田ふじた、貞清男)1649-1730⁸² 常陸水戸藩士；1671家督嗣/御小姓頭/御奉行、寺社奉行/御書院番頭、1703(元禄16)致仕、息子貞幹さだもとが家督嗣、
一刀流と居合の妙手/茶人、著多数、
[貞固(；名)の初名/通称/号]初名；一学/次郎兵衛、通称；将監/左門、
号；柳軒/釣雪翁/後凋子/一日庵/風詠堂
- H2096 **定賢**(さだかた・佐々木ささき/六角、定之男/本姓；源)1654-1727⁷⁴ 母；富田景春女、加賀藩士；
1666家督/馬奉行・新番頭・馬廻頭歴任/1725致仕、室鳩巢と交流、定明の父、
「佐々木氏系図」・1708「新佐々木氏系譜」編(祖父道求の志を継ぐ)、佐々木道求の孫、
[定賢(；名)の字/通称/号]字；汝儉、通称；左門/左兵衛、号；晩山
- H2097 **貞方**(さだかた・伊勢いせ/本姓；平)?-? 1739^存 江中期有職故実家；特に書札札に精通、「女歌仙色紙」「香の書」「山勢問答」「山問伊答」「釈門歌仙」「書札奥秘録」「新歌仙色紙形」、「中古歌仙色紙形」「山澄英貞尋給返答条々」著、1739「大嘗会集成」編
- 02019 **定賢**(さだかた・岡本おかもと/松下、?)?-1798 撰津吹田の神職；浜之宮・高浜神社祠官/出雲守、両部神道を廃し新ご神体を謹作；神祇管領ト部良延の宗源宣旨を受く；
これにより高浜神社はト部神道(吉田神道)に変わる、
のち撰津生国玉神社神主/従五位；中務少輔松下敬允と称す、
[定賢(；名)の通称/号]別名；松下敬允、通称；中務少輔なつかさのしょう/出雲守、号；松下嶺雲
- B2078 **貞固**(さだかた・清水しみず、新七男)?-1807 代々因幡鳥取藩士；徒士格、1761大坂買役を下命、1767内裏判数類役/70宮奉行、大坂在任中京で歌を修学；歌人として活躍、香川景樹の師、1766「稲葉和歌集」(難波玄生はるなりと共編)、90「続稲葉和歌集」(隠岐正甫と共編)、
[貞固(；名)の通称]伝兵衛、妻も歌人
- H2098 **貞賢**(さだかた・藤川ふじかわ、別名；薫世、貞政男)?-1820 讃岐高松藩士；勘定奉行、歌人；岡田眞澄門、挿花、「百人一首注釈」、貞世・貞富の父、
[貞賢(；名)の通称/号]通称；三太夫、号；瓮廼舎みかのや/桃李窓芳国、
- N2042 **貞固**(さだかた・蒲生がもう)1742-1814^{73歳} 蒲生家6代当主/長門藩士；阿川毛利家の家臣、儒者；経史・詩に長ず、代官・目付役など歴任、郷校時習館教授、家督を長男に譲渡；

致仕後;滝部に中山館を開設;教育者、門弟;長府藩儒臣国島宏など多数、
遺稿「夜鳥草鈔」;[丁固夢中樹 亭々気色雄 書生幾年少 十八執為公]
[貞固(;名)の通称/号]通称:久兵衛、号;鳳林ほうりん

P2077 **定堅**(さだかた・横田よこた、旧姓;原)1762-1823⁶² 信濃伊那郡の国学者・歌人;森広主門、
[定堅(;名)の初名/通称/号]初名;直種、通称;喜兵衛、号;止水/涼斎/可涼亭、
屋号;鳥屋場、 篤門すざかの父

H2099 **定賢**(さだかた・実川さねかわ)1777-1835⁵⁹ 下総香取郡今郡村の和算家;猿田の伊藤胤晴門、
天文;江戸の石坂常堅門、「雑題集」著、
[定賢(;名)の通称/号]通称;半蔵/彦左衛門、号;車谷

N2028 **定方**(さだかた・中村なかむら) ? - ? 江後期周防三田尻の国学者;本居大平門、
大平撰「八十浦の玉」下巻入、
[みふゆつぎ木の芽も春と吾が屋戸の垣根の柳もえそめにけり](八十浦;710柳)

P2022 **貞固**(さだかた・福住ふくずみ、旧姓;川上)1786-1843⁵⁸ 遠江浜松の生/信濃飯田の商家福田家の養子、
飯田藩御用商人;町年寄、国学・歌;植松茂岳・市岡猛彦門、養子;桜井貞庸さだつね、
[貞固(;名)の通称/号]通称;喜代蔵/善右衛門、号;雄飛

P2062 **定謙**(さだかた・矢部やべ、定令さだなり長男)1789-1842⁵⁴ 江戸の幕臣;旗本、従五位下駿河守、
1831堺奉行/33(天保4)大坂西町奉行;天保飢饉に大塩平八郎の助言で窮民救済、
大塩から奸佞かんがいと告発される;奉行離任し江戸へ帰る/1837大塩の乱発生、
1838西丸留守居役/41(天保12)江戸南町奉行;老中水野忠邦と対立;約8か月で罷免、
処分を不服とし絶食;そのため没、国学者/歌人、歌;北村季文門/儒学・歌;加藤景範門、
なお没後山形県飽海郡遊佐町の荘照居成そうしょういなり神社の祭神となる、
[定謙(;名)の通称]彦五郎/左近将監/駿河守、戒名;晴雲山院

02009 **貞方**(さだかた・安田やすだ、)1798-1879⁸² 肥後熊本の国学者;長瀬真幸・中島広足門、
熊本藩校時習館国学師範、「田蘆落葉」「養素堂長歌集」著、緒方公俊の師、
1838[月壺百拾番歌合](中島広足判)参加、
[貞方(;名)の別号/通称/号]初名;貞路、通称;藤助/市助、号;逸洲/養素堂/養酒堂

I2000 **貞賢**(さだかた・青島/青嶋あおしま、貞保長男)1819-96⁷⁸ 甲斐八代郡市川大門村の弓削神社祠官、
権大教正、幼少時に郷学西野手習所(松聲堂)に修学/幕臣儒者の松井渙斎門、
和漢学に通ず、国学;橋守部・平田鉄胤門、詩歌・俳諧・書を嗜む、
1857(安政4)神祇管領長より従五位下能登守を賜る/尊攘・倒幕運動に共感;
1868(慶応4)甲府入城の高松隊に参加、維新後;伊那県権台属に就任;新政府に出仕、
1871甲府県小属/73歴史地誌編纂係;致仕、弓削神社神職を長男貞真に譲り国学塾を開設、
「桃の舎説」著、数千首の歌や漢詩・襖絵・掛け軸などの書画を残す、
甥に漢詩人の有泉米松(蘆堂)、小田切浦子(葦園)の歌の師、
[貞賢(;名)の通称/号]通称;能登守、号;柳坪/篠の屋(ささのやorしのや)

N2063 **貞固**(さだかた・湯浅ゆあさ、) ? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[雨そそぐ里のはづれのくぬ木原夕べ淋しき山鳩の声](大江戸倭歌;雑1787)

定賢(さだかた・松平)	→	定賢(さだよし・松平、藩主/詩)	K 2 0 2 4
定賢(さだかた・田中)	→	定賢(さだよし・田中たなか、幕臣/国学)	O 2 0 8 0
定方(さだかた;俳名)	→	治右衛門(じえもん・田中、歌舞伎)	B 2 1 2 1
貞堅(さだかた・鎌田)	→	杜陵(とりょう・鎌田かまた、医/俳人)	R 3 1 9 5
貞固(さだかた・上田)	→	子幹(しかん・上田うえだ、儒者/藩士)	P 2 1 8 7
貞固(さだかた・下条)	→	秋水(しゅうすい・下条しもじょう、医者/国学)	X 2 1 7 4
貞固(さだかた・中原)	→	蕉斎(しょうさい・中原/藤井、儒者)	S 2 2 3 4

02061 **貞固妻**(さだかたのつま・清水しみず、) ?-1785? 因幡鳥取藩士清水貞固(宮奉行/?-1807)の妻/歌人

I2001 **定方女**(さだかたのむすめ・藤原、三条右大臣女) ?-? 平安中期歌人、新拾遺1232、定方女は多数:
①醍醐女御能子、②代明よりあきら親王室、③堤中納言藤原兼輔かねすけの室、④平随時妻(継時母)、
⑤藤原尹文室(永頼母)、⑥大后宮御匣更衣欣子、⑦藤原師尹室(済時なりとき母)、⑧橘典輔妻、

⑨藤原雅正妻(為頼母)、⑩源為善妻(雅成母)、⑪藤原康正妻(扶正母) などありいずれか不明

[下線名はこの辞書に項目のある人物]

例 ① → 能子(のうし、定頼妻、三条御息所) 3 5 3 4

- I2002 貞勝(さだかつ・伊勢いせ/本姓;平、別名;貞仲、貞直男)1407-6458 故実家;左(右)京亮/因幡守、足利義教・義政の家臣;左京亮/因幡守、足利義教・義政に出仕、「故実条々」著、
[貞勝(;)名]の通称/法号]通称;七郎、法号;心慶
- I2003 定勝(さだかつ・山角やまかど、定吉3男)1529-160375 武将;北条氏家臣;氏政・氏直父子に出仕、1590小田原落城;氏直と高野山に籠る/91氏直没後に井伊直政を通じ徳川家康家臣、相模内に千2百石領す、「小田原日記」著、
[定勝(;)名]の通称/法号]通称;紀伊守、法号;宗覚
- I2004 貞勝(さだかつ・村井むらい/本姓;源)?-1582討死 武将;織田信長家臣/民部少輔/長門守、1573信長上洛後;京所司代;京の統治管掌;御所修築・足利義昭居館新築・南蛮寺建立等、四條大橋架橋・安土城築城にも尽力、1581剃髪;春長軒と号す、1582本能寺の変で二条東宮御所で子息2人と共に討死、
連歌:1573紹巴と「初何百韻」・80紹巴と「何路百韻」、
[貞勝(;)名]の通称/号]通称;吉兵衛、剃髪号;春長軒
- N2069 定勝(さだかつ・青島あおしま)?-享保頃1716-1735頃没 駿河藤枝の歌人
- 02089 定豪(さだかつ・富山とみやま、)1751-181565 伊勢飯野郡射和いざわの商家(富豪)、歌人、国学;本居宣長・大平門/歌;西洞院時名ときな・澄月門、貞平の父、
[定豪(;)名]の通称/号]通称;岩三郎/与三兵衛/三郎兵衛、号;黙齋、屋号;大黒屋
- I2005 定勝(さだかつ・石井いひ、定好男)1764-? 母;伊東祐村女、江戸本所住の幕臣;1796家督嗣、禄百五十俵/小普請山口勘兵衛支配十二番、歌;「石井定勝十五首」、妻;一柳豊詮女、
[定勝(;)名]の通称]小千次
- 02030 貞勝(さだかつ・片桐かたぎり/本姓;源/旧姓;丹下)1829-6941 信濃伊那郡の山吹藩士、国学;平田鉄胤門、片桐春一・貞彬兄弟の一族?、
[貞勝(;)名]の通称]虎六/虎鹿ころく
- P2009 貞勝(さだかつ・野上のがみ、通称;左内)1831-191080 安藝厳島神社主典、歌人
貞勝(さだかつ・亀田) → 敦(あつし・亀田、商家/儒/詩) E 1 0 6 5
貞勝(さだかつ・横瀬) → 貞利(さだとし・横瀬よこせ、神職/国学) P 2 0 7 6
貞一(さだかつ・前田) → 貞一(さだかず・前田、藩士/文筆家) H 2 0 9 3
- B2079 定兼(さだかね・世尊寺せそんじ/本姓;藤原、定成男)?-? 1315存 鎌倉期廷臣;正四下左京大夫、行信の父、歌人;1315「後伏見上皇御所三席会」「詠法華経和歌」参加、玉葉集1960、
[けさもなほ野分のわきの名残風荒れて雨降りそそく村雲の空](玉葉;十四雑1960)
- I2006 定兼(さだかね・源みなもと、定清男)?-? 室町期廷臣;右中将/1447非参議/兵部卿/65出家、詩;1446文安詩歌合参加(3首入)、
[野外望中月上時 閑移吟杖歩遅遅 青山処処秋風暮 回首猶看天一涯](文安詩歌;十番左)
- N2068 定珍(さだかね・さだよし・阿部あべ)1779- 183860 越後蒲原郡渡辺の里正(庄屋)・阿部家7代目、1804家督継嗣;酒造右衛門に改称、村政にも参画、国学・歌;大村光枝門(自邸に逗留)、良寛と親交;良寛の経済的支援者/良寛の万葉集木版本など良寛遺墨を所有、自ら和歌・詩文を嗜む、法華経信者/1838妻子を伴い四国巡礼;土佐高知窪川の宿に没、妻;わか/息子;定緝・濤平など、
「自筆和歌書状類」(;良寛との唱和も入)、「西国紀行」「四国紀行」著、
[定珍(;)名]の幼名/通称/号]幼名;正吉、通称;寅吉/酒造右衛門みきえもん、
号;嵐窓/月華亭/養生館/偕楽軒、法号;現光院
- I2007 貞兼(さだかね・歌川うたがわ) ? - ? 江後期文政1818-30頃の絵師;歌川国貞[3世豊国]門、1826「彦山靈驗記」画
貞兼(さだかね・藤谷) → 貞兼(ていけん・藤谷、俳人) 3 0 6 6
貞兼(さだかね・吉村) → 遍宜(遍着へんぎ・吉村よしむら、医者) B 2 7 1 6
貞懐(さだかね・大江) → 貞懐(さだもと・さだやす・さだかね・大江、歌人) C 2 0 5 4
定兼(さだかね・藤原) → 真空(しんくう/しんぐう;法諱、三論/律/真言僧) N 2 2 9 3

- B2080 **貞樹**(さだき・小野おの、石見王いわみのおおきみ[長屋王の曾孫]男)?-? 平安前期の廷臣；
849春宮少進とうぐうのしょうじゅう、850刑部少輔/851甲斐守/855従五上/57大宰大貳/860肥後守、
歌人；古今783(；小野小町と贈答)・937、
[人を思ふ心の木この葉にあらばこそ風のまにまに散りもみだれめ](古今；783/返歌)、
(小町の贈歌782；今はとて我が身時雨にふりぬればことの葉さへに移ろひにけり)
[貞樹(；名)の通称] 野大夫、
- M2070 **貞樹**(さだき・横瀬よせ/本姓；源、貞臣[1723-1800]長男)?-?**早世** 幕臣/旗本；高家の家、中務、
歌人；日野家入門、早世したため弟貞徑さだみちが家督継嗣、妻；睦子(歌人；真田幸弘賀集入)、
1798刊広道「霞関集」入、
[浮き草はまだ生初そめぬ河水になびく柳の陰もめづらし](霞関；春74/河柳)
- I2008 **定吉**(さだきち・岩瀬いわせ) ? - ? 江後期大阪天満住/日蓮宗研究者；1807「本化相伝抄」著
- I2009 **貞吉**(さだきち/ていきち・今井いまい、号；風山[軒]、米次長男)1831-1903**73** 土佐潮江村の医者；博物学者、
幼時より金石・古銭蒐集、土佐高知藩士；町方下横目/1858藩命で長崎での貿易調査、
さらに薩摩での洋式工場見学/帰郷後免職、堺で医業、維新後帰郷；共立社設立；和紙製造、
晩年は古銭研究に専念、「再遊雑記」「歴島記」「古泉大全」著
- | | | | |
|-----------------|---|------------------------|-----------|
| 貞吉(さだきち・大蔵) | → | 虎寛(とらひろ・大蔵おおくら、狂言宗家) | R 3 1 7 9 |
| 貞吉(さだきち・安積) | → | 希斎(きさい・安積あさか、藩士/儒者) | I 1 6 5 0 |
| 貞吉(さだきち・佐藤) | → | 延陵(えんりょう・佐藤さとう、儒者/易学) | F 1 3 5 1 |
| 貞吉(さだきち・姫井) | → | 桃源(とうげん・姫井ひめい、藩士/儒者) | D 3 1 4 7 |
| 貞吉(さだきち・村松) | → | 蘆溪(ろけい・村松むらまつ/松、農家/藩儒) | B 5 2 3 0 |
| 貞吉(さだきち・佐竹) | → | 噌噌(かいかい・佐竹さたけ、絵師/篆刻) | I 1 5 4 9 |
| 貞吉(さだきち・山口) | → | 風簷(ふうえん・山口、藩士/儒者) | 3 8 3 7 |
| 貞吉(さだきち・成瀬) | → | 当職(まさもと・成瀬なるせ、藩士/詩人) | H 4 0 9 5 |
| 貞吉(さだきち・神谷) | → | 保貞(やすさだ・神谷かみや、和算家) | B 4 5 4 2 |
| 貞吉(さだきち・中島) | → | 九華(きゅうか・中島なかじま、儒者) | M 1 6 3 5 |
| 貞吉(さだきち・小倉) | → | 真坂(まさか・小倉おくら、商家/国学/歌) | O 4 0 0 9 |
| 貞吉(さだきち・箕浦) | → | 北江(ほっこう・箕浦みのうら、藩士/儒者) | E 3 9 6 5 |
| 貞吉(さだきち・福井) | → | 棗園(ていえん・福井ふくい、朝廷御医) | 3 0 3 6 |
| 貞吉(左多吉さだきち・津軽) | → | 儼淵(げんえん・津軽つがる、藩士/儒者) | E 1 8 8 2 |
| 貞吉(さだきち・徳弘とくひろ) | → | 孝蔵(こうぞう・徳弘、藩士/絵/砲術) | K 1 9 3 7 |
| 貞吉(さだきち・須田) | → | 肃(しゅく・須田すだ、藩医/歌人) | O 2 1 9 8 |
| 貞吉(さだきち・溝口) | → | 平兵衛(へいべえ・溝口みぞぐち/岡田、国学) | B 2 7 5 6 |
| 貞吉(さだきち・田中) | → | 年胤(としたね・田中たなか、商家/国学者) | V 3 1 4 9 |
| 貞吉(さだきち・高橋) | → | 篤敬(あつたか・高橋たかはし、代官/国学者) | H 1 0 9 4 |
| 貞吉(さだきち・宮島) | → | 老安(としやす・宮島みやじま/藤原、国学者) | W 3 1 6 2 |
| 定吉(さだきち・斎藤) | → | 伯山(初世はくざん・神田、講釈師) | D 3 6 1 1 |
| 定吉(さだきち・吉田) | → | 半兵衛(はんべえ・吉田、絵師) | I 3 6 4 9 |
| 定吉(さだきち・大田) | → | 俣(しゅく・大田おおた、漢学/詩人) | I 2 1 5 7 |
| 定吉(さだきち・森) | → | 鷗村(おうそん・森もり、儒者/教育) | C 1 4 5 8 |
| 定吉(さだきち・古谷) | → | 道生(どうせい・古谷ふるや、和算家/測量) | S 3 1 8 6 |
| 定吉(さだきち・青木) | → | 千枝(ちえだ・青木あおき、藩士/国学者) | 2 8 4 5 |
| 定吉(さだきち・小出) | → | 敬一(たかかず・小出こいで、神職/歌人) | W 2 6 9 8 |
- B2081 **定清**(さだきよ・賀茂かも、初名；秀弘、定員男)?-?**1297存** 鎌倉期廷臣；従四上/陰陽家；暦博士、
1297「定清朝臣記」著
- I2010 **貞清**(さだきよ・石谷いしがや/本姓；藤原、清定3男)1594-1672**79** 旗本/幕臣；従五下/左近将監、
1609徳川秀忠に出仕/大坂夏の陣・島原乱で戦功、上総・相模・甲斐に千五百石所領、
江戸奉行；慶安の変で丸橋忠弥を捕縛、1659致仕、1669「石谷土入いしがやどにゅう記」著、
「石谷土入手簡」「帰厚録」著、
[貞清(；号)の幼名/法号]幼名；十蔵、法号；土入

- B2082 **定清**(さだきよ・服部はつとり) ? - ? 江前期京の俳人:初め松永貞徳門/批判を受ける、立圃門;重きをなす、1663「尾蠅おぼえ集」編(鵬鷓子名で漢文跋)、66重徳「独吟集」入、1667重以「百人一句」入、鷹筑波集入、1682如扶「三ヶ津さんかのつ」82風黒「高名集」入、[かよひ路をとむる蚊帳屋もじの関](百人一句/蚊帳の緞もじ[荒布]と門司とを掛る)[定清(;号)の通称/別号]通称;喜三郎、別号;離数堂/離数子/離牧子/鵬鷓子ほうりょうし
- I2011 **貞清**(さだきよ・加納かのう、通称;幸之介)?-? 江前期対馬藩士、1685藩主宗義真の命で対馬全島の社祠を記録;1686「対馬神社誌」編
- I2012 **定静**(さだきよ・久松ひさまつ/松平まつだいら/本姓;源、定章長男)1729-7951 伊予松山新田藩主、1747遺領を継嗣、1767松山藩主没により松山本藩を継嗣/従四下侍従/備中守/隠岐守、藩財政再建を企画、儒;斎静斎を招聘、歌;冷泉為村・為泰門、「東武紀行」「定静公御道之記」著、広通「霞関集」入、[いとどなほ山わけ衣しぼれとや妻どふ鹿の声のあはれさ](霞関秋435/旅に鹿の声)、[定静(;名)の幼名/通称/号]幼名;源之助、通称;監物、号;万葉堂/千柳、法号;岱岳院
- B2083 **定静**(さだきよ・野宮のみや/本姓;藤原、定業男)1781-2141 母;花山院常雅女、廷臣;1799侍従、1805右権少将/06正四下左近衛中将、定祥の父、歌人、「野宮定静詠草」、日記「定静朝臣記」、1815「野宮定静妻凶事記」「賀茂祭記」/18「仁孝天皇大嘗会記」外記録多数
- 02091 **定静**(さだきよ・富山とみやま/本姓;辻、)1794-184956 讃岐高松城下南新町の商家;三倉屋8代目、藩の御用商人;先祖は備前富山城主という、国学者、1761・76の2度与謝蕪村が自邸滞在、藩より5人扶持支給、資産家;俗謡[あれは御城の三倉屋か]、養嗣子;島田定功さだこと、[定静(;名)字/通称/号]字;子安、通称;三倉屋市太夫、号;潜斎/梅影堂
- I2013 **定静**(さだきよ・久方ひさかた)1796-185257 常陸水戸藩士;34進士、剣術家;荷見守善門、新陰流16世襲名、1840藩主徳川斉昭の命で水府流剣術を他流と共同で創始;藩主を流祖;一刀流11世山下伊左衛門隆教と真陰流14世城所政弥太信久らと共同で創始、「百秘鈔」著、[定静(;名)の通称] 忠次衛門/忠治右衛門
- I2014 **貞清**(さだきよ・歌川うたがわ) ? - ? 江後期天保1830-44頃絵師:歌川国貞[3世豊国]門、1830「伊呂波集」画
- 貞清(さだきよ・神屋) → 宗湛(そうたん・神屋/神谷/紙屋、商家/茶人) C 2 5 4 5
 貞清(さだきよ・伊達) → 村年(むらとし・伊達だて、藩主) D 4 2 8 9
 貞清(さだきよ・伏見殿) → 貞清親王(さだきよしんのう・伏見宮/歌人) F 2 0 2 6
 定清(さだきよ・松平) → 定綱(さだつな・松平、藩主/儒/詩文) F 2 0 3 4
 定清(さだきよ・藤) → 定房(さだふさ・藤とう、神職/藩士) J 2 0 5 9
- F2026 **貞清親王**(さだきよしんのう・伏見宮10世、邦房くにとぶ親王男)1596-165459 後陽成天皇の猶子、1605親王宣下:元服/14二品/兵部卿、歌人、1608-53「貞清親王御詠草」:瑤玉集入、1626二条城歌会参加、「貞清親王懐紙御詠草」著、1638後鳥羽院四百年忌御会参加、室(妻);浮田秀家女(秀吉の養女)、1654(承応3)没、法号;後妙莊厳院
 [水無瀬山春のめぐみの世々をへて枝もさかふる花はさくらん](後鳥羽院忌;72/祝)
- H2006 **定国**(さだくに・藤原ふじわら、高藤男)869-90638 母;宮道弥益(みやます)女、廷臣;887蔵人/899参議、従四上左中将/900従三位中納言/901右大将兼任/902大納言;右大将按察使兼任、醍醐天皇母の胤子の弟/定方の兄、今昔物語;22高藤説話に入、号;泉大将
- B2084 **貞国**(さだくに・伊勢いせ/本姓;平、初名;貞慶、貞行男)1398-145457 貞経の弟、足利幕府政所執事、従五下/備中守・伊勢守、足利義教の怒りを買う兄に代わり家督嗣、屢々義教が自宅訪問、貞親・貞藤・長氏(北条早雲)の父、故実家、「將軍御元服記」「金仙寺殿記録闕」、歌;新統古今集1283、
 [鳥の音のつらきばかりをうつつにて夢にぞこゆる逢坂の関](新統古;恋1283)、
 [貞国(;名)の通称/号]通称;七郎、入道号;眞蓮、法号;深心院
- P2036 **貞国**(さだくに・前田まえだ、)1763-180442 近江彦根藩士、国学・歌;村田泰足門、歌;[彦根歌人伝・続寿]入、
 [貞国(;名)の別名/通称]別名;貞時/貞中、通称;喜七郎
- P2081 **貞国**(さだくに・和気わけ、)1771-185585 伊予宇和郡双岩村中津川の庄屋、国学者/歌人、

定規さだりの父、

[貞国(；名)の初名/通称]初名；定国、通称；所兵衛/波門太

- P2032 **貞国**(さだくに・堀口ほりぐち、)1838-1889**52** 紀伊田辺の国学者；能代繁里門、
[貞国(；名)の通称/号]通称；三郎、号；亀汀/桜蔭
定邦(さだくに・熊坂) → 台洲(たいしゅう・熊坂くまさか、儒者/教育) 2605
貞邦(さだくに・堀) → 忘斎(ぼうさい・堀ほり、藩士/儒者) 3988
貞国(さだくに・岡本) → 貞永(さだなが・岡本おかもと、藩士/国学) 02020
- F2027 **さたけ**(；源) ? - ? 平安期の武官；保明親王付きの帯刀、
歌；904-23頃「保明親王帯刀陣歌合」入、
[秋きては程へにけるをあやしくもわがまつむしのおとづれもせぬ](帯刀歌；松虫右8)
- P2068 **定子**(さだこ・柳沢やなぎさわ、曾雌そし定盛2女)1661-1713**53** 武田遺臣の旗本の家、母；曾雌定次女、
1676(延宝4)柳沢吉保(保明/母方の親戚)の正室、古典・歌・俳諧；北村季吟門、
1702(元禄15)江戸城大奥で將軍御台所鷹司信子に拝謁、
1713(正徳3)別邸(のちの六義園)に没/法名；真光院
- 02083 **貞子**(さだこ・伊達だて、通称；冬姫、久我通名女)1689-1745**57** 京の生/歌人、叔父久我通誠の養女、
陸奥仙台藩主伊達吉村の正室；江戸住、
和姫(村子/岡山藩主池田継政室)・富姫(徳子/宇和島藩主伊達村年室)・伊達宗村の母、
[貞子(；名)に法号]長松院
- N2077 **さだ子**(さだこ・真田さなだ、白河藩主松平定賢さだよし女)?-? 信濃松代藩主真田幸弘の室、歌人、
1798夫幸弘六十賀の祝宴催、「幸弘六十賀集」1808「幸弘七十賀集」入
- N2078 **貞子**(さだこ・井上いのうえ、別名；鼎子さだこ、旧姓；細川)1767-1832**66** 備中倉敷商家井上端木はきの妻、
歌人
- N2033 **貞子**(さだこ・筑紫つくし、旧姓；青木)1778-1846**69歳** 江後期旗本筑佐渡守紫孝門(1775-1838)の妻、
江戸市谷船河原町住、鹿島則孝(神職)の母、則孝「桜斎随筆」入、
歌人；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[軒にふき枕に敷きて菖蒲あやめ草長きねざしを祝ふけふかな](大江戸倭歌；494五月五日)
夫 → 孝門(たかかど・筑紫つくし/仙石、佐渡守) U2629
息則孝 → 則孝(のりたか・鹿島/中臣、神職/文筆) E3586
- P2012 **貞子**(さだこ・秦はた、)1787?-1857**70余歳** 筑前福岡の歌人；大隈言道こども門
- P2058 **貞子**(さだこ・森もり、) ? - 1846 大坂の医者森熊夫(1783-?)の妻、
国学/歌人；本居大平門(夫と同門)
- P2017 **貞子**(さだこ・檜垣ひがき、号；香雲、檜垣貞賀さだよし女)1795-1850**56** 伊勢度会郡外宮禰宜の家の生、
久志本常代つねよと結婚；婿養子、国学・歌人；足代弘訓ひろり門(夫と同門)
- P2031 **貞子**(さだこ・堀田ほった、花園実章さねぶみ[1767-1809]女)1795-1875**81** 母；穂波尚孝女、京の生、
参議花園公燕きんなるの妹、尾張海東郡の津島神社社司堀田年足としたり(1789-1851)の妻、
国学・歌人；香川景樹・熊谷直好(父の門人)門、茂之じげゆきの母
- N2094 **貞子**(さだこ・植木うえき、大竹、号；桜庵)1797-1882**86** 下野足利郡の歌人、
書・歌；奥河内(今尾)清香門
- 02094 **貞子**(さだこ・中沢なかざわ、旧姓；田部)1810-1889**80** 上野佐波郡の歌人；黒川春村門
1864(元治元)「秩父札所参詣道の記」著、
1880(明治13)「千代のたゝち(千代廻直路)」著(中沢貞子70年賀；中沢広勝編)、
- P2014 **貞子**(さだこ・林田はやし、)1819-1877**59** 筑前久留米の生/久留米藩士林田守秋の妻、
歌人[名家伝記資料集成3]入、守隆(もりたか1848-1929/藩士/事業家)の母
定子(さだこ・藤原) → 定子(てい・藤原、一条天皇皇后/歌人)3004
定子(さだこ・大野) → 定子(さだむね・大野おの/井上/榎本、歌)J2087
- 02092 **定功**(さだこと・富山とみやま/本姓；辻、旧姓；島田)1816-1877**62** 讃岐高松の商家富山定清さだきよの養子、
御用商三倉屋9代目、儒・国学・歌；友安三冬みふゆ門、
[定功(；名)の字/通称]字；永世、通称；三倉屋市太夫(養父の称)/三太夫/甚太郎
定言(さだこと・山科) → 定言(さだとき・山科、故実) I2074

- I2015 **定伊**(さだこれ・樋口ひぐち、定輝男) 1807-6761 上州多胡郡馬庭村の武芸者;馬庭念流劍術: 居合18世(27世?)/1823父没;伯父定雄さだお門;奥義を極む/1849江戸神田明神下に道場開設、水戸家出入りを許可/のち和泉橋通に移転/門人多数;矢留術を創始、「念流劍術矢留巻」著、[定伊(;名)の通称]通称;十郎左衛門/十郎兵衛;(隠居後)、
- I2016 **貞五郎**(さだごろう・名村なむら、名;元義、名村三次郎の養子) ?-? 江後期阿蘭陀通詞;1822稽古通詞、1828小通詞末席/32江戸天文台詰通詞/37小通詞並/41養父の跡継承;44小通詞助役、1844オランダ軍艦パレンバン来航時に取扱掛;小通詞に昇格、1846フランス軍艦3隻長崎沖渡来時に出役/48漂流のマクドナルドの通弁掛、1849アメリカ船長崎沖渡来時に御用詠物方掛/54下田詰通詞、「和蘭炮術全書」訳、1841「遠西火攻精選」訳/44「本国船フレガット渡来見聞記」著、「泰西水軍操砲艦」訳、[貞五郎(;通称)の別通称]貞四郎/常之助
- 貞五郎(さだごろう・樋口) → 泉(いづみ・樋口ひぐち/岩佐、和算家/歌) K 1 1 5 8
貞五郎(さだごろう・松平) → 頼胤(よりたね・松平まつだいら、藩主/幕政) P 4 7 2 4
定五郎(さだごろう・佐藤) → 有藤(ありふじ・佐藤、国学者/歌人) F 1 0 7 5
定五郎(さだごろう・津軽) → 朝喬(ともたか・津軽つがる、藩士/俳人) P 3 1 6 4
定五郎(さだごろう・増山) → 遷安(ゆきやす・増山ますやま/坂谷、神職/国学) H 4 6 2 7
定五郎(さだごろう・矢野) → 御蔭(みかげ・矢野やの、商家/国学/歌人) K 4 1 8 6
定左衛門(さだざえもん・木代) → 竹禎(ちくてい・木代ましろ、藩士/和漢学) D 2 8 4 9
- I2017 **貞里**(さださと・前田まえだ、初名;貞重、利貞男) 1617-5741 加賀金沢藩士;前田利家の孫、1620家督嗣、4千5百石/1634;5千5百石、1640(24歳)金沢城代/41寄合所御用/51藩主利常と意見対立、下屋敷に籠居閉門、1652赦免;出仕せず、「寸錦雜編」「長和佳兵私記」「聞見雜録」著、妻;前田利常養女の犬姫、貞親の父、[貞里(;名)の幼名/通称/法号]幼名;又勝、通称;出雲、法号;南桂院叢月道林
- 02071 **貞郷**(さださと・鈴鹿すずか/本姓;中臣、) 1809-7062 京の吉田神社権祝、神祇権大祐、歌人;香川景樹門、[貞郷(;名)の別号/通称/号]別名;長生/定郷、通称;真次郎/出羽守、号;風香
- I2018 **定実**(さだざね・菅沼すがぬま、丹波亀山藩主营沼定芳男) 1626-9166 母;三好一任養女、定昭の弟・定貫の兄、幕臣;父の遺領亀山領のうちより2千石賜る/のち旧領三河のうちより7千石へ改封;寄合、新城に住、1689大番頭/91二条城の守備の役中に没、1684「菅沼家譜」著、[定実(;名)の初名/通称/法号]初名;定治、通称;主水もんど、法号;義見、定易の父
- I2019 **貞実**(さだざね・武野たけの、貞孝男) 1761-184181 豊後日出藩士、和算家;二宮兼善門/藩士に教授、測量術に長ず、「算法雜記」著、[貞実(;名)の通称/法号]通称;山三郎/儀兵衛/算助、法号;保昌院
- 貞三郎(さださぶろう・小野) → 機(き・小野おの、絵師/書) T 1 6 7 1
定三郎(さださぶろう・取田) → 青実(はるざね・取田とりた/大久保、国学) K 3 6 4 8
貞治(貞次さだじ・弭間) → 淡遊(たんゆう・弭間はづま、藩士/俳人) T 2 6 6 0
貞治(さだじ・田中) → 年胤(としたね・田中たなか、商家/国学者) V 3 1 4 9
- I2020 **定成**(さだしげ/さだなり・坂上さかのうえ、別号;定氏、範親男) 1005-8884 廷臣;検非違使/晩年;明法博士、從五上/1087河内守、歌:後拾遺2首;115/138、[よそながらをしき桜のほひかなたれわが宿の花と見るらん](後拾;春115/遠花誰家)
- B2085 **貞重**(さだしげ・大江おおえ/長井、大江頼重男) 1272-133160 母;大江忠成女、從五上/掃部助/縫殿頭、鎌倉幕臣;六波羅評定衆、高広の父、歌人;頓阿と交流、続現葉集・藤葉集入、勅撰14首;新後撰(1271)玉葉(520/857/2612)続千(296/549/916/1450)続後拾(492)以下、[待つ事をならひになして郭公なくべき比ころもつれなかりけり](新後撰;雜1271)、[うつりゆく今宵は秋の半天なぞりにひかりみちたる月のさやけさ](藤葉;秋246)
- F2028 **定重**(さだしげ・ていちょう・端はた、通称;長兵衛、号;風船子) ?-? 江前期山城・京の俳人;貞徳門、1658梅盛「鸚鵡集」63梅盛「落穂集」入、1663木玉千句参加(;倫員「木玉集」所収)、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、[さかやきは老のかしらの雪間哉](手鑑)

- I2021 **貞成**(さだしげ・天野あまの、安田大膳男) 1562-1603⁴² 武将;若狭の武田義頼の家臣/明智光秀に出仕、1882豊臣秀長に出仕;天野貞成に改名、のち立花宗茂に従う;文禄役に従軍、帰国後;寺沢正成・広高に出仕;8千石を領す、「立花朝鮮記」「天野源右衛門江上鎗覚書」著、[貞成(;)名)の幼名/初名/通称]幼名;岩福、初名;安田作兵衛正義、通称;源右衛門
- I2022 **貞重**(さだしげ・伊勢いせ/本姓;平、貞常男)?-1665 江前期武家;故実家/因幡守、鞍作りを業とす、1661「小鞍寸法」著、[貞重(;)名)の通称] 伝左衛門
- I2023 **定重**(さだしげ・松平まつだいら、松山藩主松平定頼3男) 1644-1717⁷⁴ 母;京極高広女、伊勢桑名藩主松平定良の養嗣子;1657養父遺領継嗣、新田開発4万石/河川改修;災害多発、郡代に関わり藩内紛;1710越後高田へ転封;12致仕、朱子学;三宅誠齋門/兵学;杉山公憲門、「軍鑑挙要」著、[定重(;)名)の幼名/法号]幼名;万吉、法号;円鏡院
- B2029 **貞晋**(さだしげ・檜垣ひがき/本姓;度会わたらい、常之男) 1733-87⁵⁵ 伊勢の神職;1777外宮九禰宜・正四上、七禰宜、有馬入湯の帰路に京にて客死、「愚意見聞録」「愚童見聞録」著、[貞晋(;)名)の初名/通称]初名;貞富、通称;富鶴/凶書れよ/河内/土佐/上野こうげ
- I2024 **定成**(さだしげ・今城いまき/本姓;藤原、定興2男) 1774-1828⁵⁵ 廷臣;兄定恭早世;養子となり家督嗣、1813蔵人頭/20参議/24権中納言/正三位/25賀茂下上社伝奏、「今城定成蔵人頭並禁色宣下拝賀雑誌」著、法号;栄樹院
- I2026 **貞重**(さだしげ・柳瀬やなせ/本姓;橘、通称;五郎兵衛)?-? 江後期土佐香美郡生郷柳瀬村の郷土史家、史料蒐集調査;土佐藩史研究に貢献、谷真潮(1727?-97)・武藤平道(1778-1830)と交流、「土佐国蠹簡とかん集竹頭」「土佐国蠹簡集木屑」「御子神記事」著
- I2025 **貞繁**(さだしげ・歌川うたがわ) ? - ?^{夭逝} 江後期文化1804-18頃の絵師:国貞[3世豊国]門、合巻挿絵、1814「四季花黄金鉢植」15「国性爺倭談」16「常磐松艶桜草」17「市川流三升新琴」画
- P2082 **貞彙**(さだしげ・若村わかむら、旧姓;小林) 1828-90⁶³ 近江蒲生郡日野の日枝神社祠官、国学;三浦尚之ひさゆき門・神道・歌;猪熊夏樹門、娘婿の木俣彙磨いばる(1861-1923)を養子、[貞彙(;)名)の通称/号]通称;甫元、号;不能斎/不能散人
- 貞重(さだしげ・伊勢) → 貞直(さだなお・伊勢いせ/平、故実家) I 2 0 9 7
- 貞重(さだしげ・前田) → 貞里(さださと・前田、藩城代/文筆家) I 2 0 1 7
- 貞重(さだしげ・歌川) → 国輝(初世くにてる・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 9 8
- 貞鎮(さだしげ・依田) → 貞鎮(さだしげ・依田、儒者/神道) I 2 0 2 7
- 定成(さだしげ・坂上) → 定成(さだなり、坂上、歌、算博士) C 2 0 2 0
- 定成(さだしげ・藤原) → 定成(さだなり、藤原、歌人) C 2 0 2 1
- 定成(さだしげ・藤原) → 定成(さだなり、藤原、歌人) C 2 0 2 2
- 定成(さだしげ・世尊寺) → 定成(さだなり・世尊寺、歌、書) C 2 0 2 3
- 定成(さだしげ・和気) → 定成(やすしげ・和気、医官) B 4 5 6 4
- 定重(さだしげ・村/黒沢) → 瓢亭百成(ひょうていひやくなり、戯作者) F 3 7 3 6
- I2027 **貞鎮**(さだしげ・依田よだ/五十嵐) 1681-1764⁸⁴ 父は井田撰津守是政の曾孫、母;五十嵐氏、武蔵多摩郡府中本町の神道家/江戸谷中住/神道・儒学・仏教を修学、40代で旧事本紀研究、1746撰津四天王寺伝来の祭法を研究;3年間京滞在、晩年は江戸で門弟指導、「旧事本紀序伝」、「五憲法注」(;)旧事本紀の精細な注)、「先代旧事本紀」「先天本紀箋」、「天神本箋」「徧無為集」「徧無為叢書」「六社神霊記」「詠学辨要」「空華集」「参元全書」外著多、[貞鎮(;)名)の字/通称/号]字;伊織、通称;定右衛門、号;徧無為/徧無為
- 02051 **定静**(さだしげ・佐藤さとう、) 1682-1764⁸³ 陸奥仙台藩士;伊達綱村の小姓、国学、儒・神道;遊佐木齋(好生よしなり)門、[定静(;)名)の字/通称/号]字;好古、通称;源之丞、号;存齋
- 定七(さだしち・山田) → 意斎(いさい・山田、書/狂歌/戯作/浄作) 1 1 8 3
- 定七(さだしち・賀集) → 惟一(これかず・賀集かお、製陶/国学) Q 1 9 6 1
- 定七(さだしち・小林) → 吉応(よしまさ・小林こばやし、謡/歌人) M 4 7 7 6
- 貞七(さだしち・股野) → 竜溪(りゅうけい・股野またの、藩儒者/教育) D 4 9 4 7
- 貞七(さだしち・河内屋) → 無尽亭(初世むじんてい・宿丸、狂歌作者) 4 2 7 5
- 貞七郎(さだしちろう・肥後屋) → 貞芳(さだよし・歌川うたがわ、絵師) F 2 0 5 7
- 定七郎(さだしちろう・井田) → 赤城(せきじょう・井田いだ/長尾、儒者) K 2 4 1 9

- N2062 **禎女**(さだじょ・川名かほな) ? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[我が宿の軒に声せぬ松風はいつくの琴の音に通ふらん](大江戸倭歌;恋1628)
- 定四郎(さだしろう・殿村) → 琴魚(きんぎょ・櫛亭れきてい、読本作者) D 1 6 9 2
 定四郎(さだしろう・加藤) → 野逸(やいつ・加藤かとう、幕臣/俳人) 4 5 0 0
 定四郎(さだしろう・中里) → 常秋(つねあき・中里なかざと、国学者) G 2 9 0 6
 貞四郎(さだしろう・松田) → 得芝(とくし・松田まつだ、農業/俳人) K 3 1 8 3
 貞四郎(さだしろう・名村) → 貞五郎(さだごろう・名村なむら、通事) I 2 0 1 6
 貞四郎(さだしろう・小松原) → 翠溪(すいけい・小松原こまつばら、絵師) 2 3 4 5
 貞四郎(さだしろう・入交) → 省斎(せいさい・入交いりまじり/小川、藩士/国学) I 2 4 2 9
 貞次郎(さだしろう・樋口) → 碩果翁(せつかお・樋口、藩士/国学/詩) E 2 4 0 9
 貞次郎(さだしろう・中村) → 剛直(たけなお・中村なかむら、儒者) O 2 6 5 5
 貞次郎(さだしろう・清水) → 松隣(しょうりん・清水しみず、俳人) L 2 2 9 8
 貞次郎(さだしろう・松平) → 定能(さだまさ・松平/小笠原、幕臣/地誌) J 2 0 7 0
 貞次郎(さだしろう・横瀬) → 貞臣(さだおみ・横瀬/源、幕臣/歌人) B 2 0 7 4
 貞次郎(さだしろう・入交) → 省斎(せいさい・入交いりまじり/小川、藩士/国学) I 2 4 2 9
 貞治郎(さだしろう・桜井) → 盈寿(みつひさ・桜井さくらい、町年寄/国学) J 4 1 2 0
 定次郎(さだしろう・土井) → 利往(としゆき・土井とい、幕臣/故実家) O 3 1 1 2
 定次郎(さだしろう・谷沢/油与) → 近嶺(ちかね・沢/谷沢、商家/歌文) B 2 8 5 0
 定次郎(さだしろう・原/島方) → 松蔭(しょういん・島方しまかた/島、俳人/詩) G 2 2 8 2
 定次郎(さだしろう・吉雄) → 耕牛(こうぎゅう・吉雄よしお、通詞/蘭医) E 1 9 9 5
 定次郎(さだしろう・松田) → 発明(なりあき・松田まつだ、陪臣/尊攘) O 3 2 8 6
 定次郎(さだしろう・内藤) → 眞矩(しんく・内藤ないとう、商家/和算家) N 2 2 9 2
 定次郎(さだしろう・木村) → 尚寿(しょうじゅ・木村きむら、和算家) J 2 2 5 0
 定次郎(さだしろう・藤田) → 友愛(ともちか・藤田ふじた/秦/永本、神職) W 3 1 2 4
- B2086 **定季**(さだすえ・源みなもと、頼定男)?-1042射殺 母;橘輔政女、平安中期廷臣;従五下信濃権守、
淡路守/従五上;右近・左近少将、歌:1035賀陽院水閣歌合参加/後拾遺668、
母の家で藤原高貞により殺害、国房・証円・定季女(歌人)の父、
[けふよりはとく呉竹の節ふしごとに夜よは長かれと思ほゆるかな](後拾遺;恋668)、
(呉竹に暮れ/節に臥しを掛る、呉竹の縁語;節・夜[節よ])
- Q2012 **貞季**(さだすえ・菅原すがら、)?- ? 南北期;武家/歌人、
1387浄阿奉納[隠岐高田明神百首和歌]出詠、
[さらでだにうき夕暮の古里に萩吹く風のなどそよぐらむ](高田明神歌;44/秋夕風)
- B2054 **貞季**(さだすえ・上部うかべ/本姓;度会たらい、貞安男)1646-171469 伊勢外宮祠官/正四下/大物忌父、
「上部貞季神主自記」「服忌条々」著、
[貞季(;名)の初名/通称]初名;貞彦/貞秀、通称;甚兵衛
- Q2003 **定季女**(さだすえのむすめ・源みなもと、)?-? 平安後期;歌人/1233刊[御裳濯集]2首入、
父は頼定男(淡路守左近少将/1042殺害)/国房・証円の姉妹、
[たづねゆくあすはの里のゆふ霞君があたりはいづこなるらん](御裳濯集;春44)
- P2034 **貞居**(さだすえ・本庄ほんじょう、)?- 1770 安藝賀茂郡の神道家;玉木正英・松岡雄淵門、
安藝沼田郡住;布教、門人が契幽霊神の祠を建立、
[貞居(;名)の通称/号]通称;宗左衛門/伴蔵、号;幽契/神号;契幽霊神
- B2087 **貞亮**(貞輔さだすけ・源みなもと、国盛男)?-? 母;源国元女、平安中期廷臣;従四上少納言、
淡路守/土佐守、歌:金葉II 42、
[白雲にまがふ桜を尋ぬとてかゝらぬ山のなかりつるかな](金葉集;一春42)
貞亮女(さだすけのむすめ) → 土佐内侍(とさのない、金葉集歌人) L 3 1 8 2
- I2028 **定輔**(さだすけ・二条にじょう/藤原、初名;親輔、藤原親信男)1163-122765 母;官女阿古丸、
廷臣;1200参議、正二位/09権大納言;11致仕、1217-21大宰権帥/23出家、
詩歌/琵琶/蹴鞠を嗜む、1220「諸曲相承」編/「源氏催馬楽師伝相承」著、
後鳥羽・順徳天皇の琵琶の師、讒言すること多、

[定輔(；名)の通称] 二条大納言/二条帥入道にじょうのそちのにゅうどう

- B2088 **定資**(さだすけ・坊城ほうじょう/本姓;藤原、初名;俊隆、俊定男)1275-1330⁵⁶ 母;弁内侍、廷臣;1303参議、正四下/1306権中納言/1313正二位:大覚寺統廷臣;後宇多院庁出仕、自邸で詩歌合主催、歌;嘉元内裏百首・1315京極為兼[詠法華經]出詠、続現葉集入、勅撰14首;新後撰(489)玉葉(860)続千(369/881/968)続後拾(1088)風雅(620/838)以下、[さえわたる瀬瀬のいは波とだえして嵐にはやくこほる山川](新後撰;冬489/内裏百首)
- B2089 **貞資**(さだすけ・北条ほうじょう/本姓;平、時国男)?-? 鎌倉後期武将/五位備前守、時元の兄弟、歌人;続千載1525、[まれにみし夢の契もたえにけり寝ぬ夜や人のつらさららん](続千載;恋1525)
- B2090 **貞資**(さだすけ・藤原ふじわら)?-? 鎌倉・南北期歌人、五位、新千載1239 [ひとりぬる床の山風ふけぬともあはでむなしき我が名もらすな](新千載;十二恋1239)
- I2029 **貞助**(さだすけ・伊勢いせ/本姓;平、別名;貞堯、貞満or貞遠男)1504-? 1571存 室町幕臣;義輝家臣、右京亮/加賀守、故実家/楊弓・歌・連歌を嗜む/1545頃出家、1570「武雑書札礼節」、1571「鷹之事」「伊勢常真記」、「貞助記」「伊勢貞助返答書」「伊勢家鷹書薬餌拔書」外著多数、[貞助(；名)の通称/号]通称;与一/与一郎、出家号;牧雲齋/常真、
- I2030 **定輔**(さだすけ・野宮ののみや/本姓;藤原、中院通純2男)1637-77⁴¹ 母;高倉永慶女、野宮定逸の養嗣子、廷臣;従五下兵部大輔/56左近中將、1669正四下参議/70従三位東照宮奉幣使、1673権中納言/75正三位、儒/歌;熊沢蕃山門;門下4天王の1、和漢学に通、[楽舞相承血脈]「松の舎日記」著、定基の養父、[定輔(；名)の別名/号]別名;雅弘(；初名)/定縁さだより、号;松の舎、法号;恵光院
- B2091 **定資**(**貞資**さだすけ・藤田ふじた/修姓;膝とう、郷土本田親天3男)1734-1807⁷⁴ 武蔵男衾村の生、1756大和新庄藩士藤田定之の養子/和算家;山路住門/関流算学の皆伝を受、師の勧めで京の安倍(土御門)泰邦門;天文暦算を修学、1752幕府天文方助手;眼疾で辞職、1768筑後久留米藩主有馬頼種よりゆきに出仕;門弟に教授、1807致仕、「算術目録」「開乗括術」、1767「算法綴術」68「一題一十五術」69「招差新術」著/77「算法集成」編/79「精要算法」著、1781「異形同解」「膝貞資算家談」/1803「開立変術」著、07「続神壁算法」校訂、外著多数、[定資(；名)の別名/字/通称/号]別名;定賢/定軒、字;子証、通称;彦太夫/権平/四乳主人、号;雄山/退道山人、法号;澄光院
- B2092 **貞亮**(さだすけ) ?-? 連歌師:1743吉宗還暦「御賀千句」連中
- Q2095 **貞亮**(さだすけ・千野ちの)1736- 1812⁷⁷ 信濃諏訪郡の高島藩家老家の生、1754(宝暦4)家老、1781(天明元)藩主諏訪忠厚の家督相続を巡り次席家老諏訪大助と対立、二之丸騒動へ発展;幕府の裁許で大助一党は処罰、歌人;桃沢夢宅・香川景樹門、のち用水堰開削・郷村財政整備・藩校長善館の開校に尽力、嘉代・貞慎さだちかの父、[貞亮(；名)の別名/通称]初名;貞福、通称;兵庫
- P2006 **貞亮**(さだすけ・西村にしむら、通称;元吾)1844-96⁵³ 近江野洲郡の製茶業、歌人;[鴉のうみ]入
- | | | | |
|---------------|---|------------------------|-----------|
| 貞助(さだすけ・村上) | → | 貞助(ていすけ・村上、幕臣/蝦夷地誌) | B 3 0 1 7 |
| 貞助(さだすけ・安形) | → | 讃岐(さぬき・安形あがた、神道家) | K 2 0 6 6 |
| 貞助(さだすけ・鷺津) | → | 毅堂(きどう・鷺津わしう、儒者) | G 1 6 0 1 |
| 貞助(さだすけ・関口) | → | 黄山(こうざん・関口せきぐち、儒者/書家) | G 1 9 3 4 |
| 貞助(貞介さだすけ・菅間) | → | 鷺南(しゅうなん・菅間すがま、儒者) | Y 2 1 1 6 |
| 貞助(貞介さだすけ・平山) | → | 亮齋(りょうさい・平山ひらやま、藩士/文筆) | H 4 9 6 2 |
| 貞助(さだすけ・武田) | → | 春江(はるえ・武田たけだ、国学者) | K 3 6 4 1 |
| 貞助(さだすけ・宮沢) | → | 行(すむ・宮沢みやざわ、国学者) | J 2 3 2 8 |
| 貞介(さだすけ・白井) | → | 華陽(かよう・白井しらい、儒者/絵師) | P 1 5 5 9 |
| 貞介(さだすけ・松浦) | → | 誠之(せい・松浦、儒者) | B 2 4 8 7 |
| 貞介(さだすけ・奥田) | → | 楽山(らくざん・奥田おくだ、藩士/儒者) | B 4 8 1 6 |
| 貞亮(さだすけ・林/村上) | → | 義内(ぎない・林/村上、医者/滑稽本) | B 1 6 9 2 |
| 貞亮(さだすけ・柳田) | → | 正齋(しょうさい・柳田やなぎだ、書家) | J 2 2 0 6 |
| 貞祐(さだすけ・藁科) | → | 松伯(しょうはく・藁科わらしな、藩医/詩人) | L 2 2 3 6 |
| 貞甫(さだすけ・矢野) | → | 容齋(ようさい・矢野やの、儒者/測量術) | 4 7 9 0 |

貞輔(禎輔さだすけ・堀)	→ 蘭沢(らんたく・堀ほり/屈、儒者)	C 4 8 9 6
貞輔(さだすけ・井上)	→ 正香(まさか・井上いのうえ、医者/神職)	N 4 0 3 1
貞輔(さだすけ・近藤)	→ 清臣(きよおみ・近藤こんどう/小林、国学/歌)	U 1 6 3 7
禎助(さだすけ・堀)	→ 景山(けいざん・堀ほり/修姓;屈、儒者/医)	1 8 5 7
禎助(さだすけ・中島)	→ 竜橋(りゅうきょう・中島なかじま、藩士/儒者)	D 4 9 3 6
禎助(さだすけ・五十君)	→ 広当(ひろまさ・五十君いそぎみ、歌人)	L 3 7 0 7
禎助(さだすけ・鈴木屋)	→ 重庸(しげつね・鈴木すずき、国学者)	Z 2 1 1 1
禎助(さだすけ・山田)	→ 重秋(しげあき・山田やまだ、漢学/大肝煎)	a 2 1 0 2
定甫(さだすけ・古川)	→ 定甫(ていほ・古川ふるかわ/稲熊、俳人)	E 3 0 0 1
定祐(さだすけ・光吉)	→ 定祐(ていゆう・光吉みつよし、俳人)	B 3 0 7 3
定祐(さだすけ・宇佐美)	→ 良永(よしなが・宇佐美うさみ/大関、兵学者)	F 4 7 2 8
定助(さだすけ・森)	→ 鷗村(おうそん・森もり、儒者/教育)	C 1 4 5 8
定助(さだすけ・清水)	→ 蓮成(れんじょう;法諱、日蓮僧/歌人)	B 5 1 5 3
定助(さだすけ・高屋)	→ 繁樹(しげき・高屋たかや、藩士/歌人)	Z 2 1 3 0
定亮(貞輔さだすけ・西山)	→ 隆従(たかより・西山、藩士/歌人)	N 2 6 8 2

- B2093 **定輔女**(さだすけのむすめ・藤原)?- ? 平安中期歌人、父藤原定輔は正四下讃岐・播磨守(1035存)、
[うきながら形見に見つる藤衣ふじごろもはては涙に流しつるかな](後拾遺集;十591)
定輔女には次2人が知られる(尊卑分脈);上記の勅撰歌人はどちらか不明;
①藤原憲房のりふさ(正四下、尾張/讃岐権守/1073没、詩人)の妻
②源頼俊よりし(従五下、上総介/左衛門尉/1081存、後拾遺1156歌人)の妻
- 02081 **貞澄**(さだすみ・田中たなか) 1793- 1832/40 近江草津宿本陣の1つ田中七左衛門家9代当主、
歌人;香川景樹門/風流人で街道を往く文人達と交流、歌;[鳩のうみ]入
[貞澄(;名)の通称/号]通称;七左衛門(代々の称)、号;三少庵
- I2031 **定澄**(さだすみ・小川おがわ) ?- ? 江後期1830-54頃の和算家;御粥安本門、
1841「算法浅間抄」校訂/49「算額之写」、「豁術極率表解」、
[定澄(;名)の通称/号]通称;重助、号;芳山
- 02074 **定澄**(さだすみ・清家せいけ、本姓;清原)?-1856 伊予八幡浜の神職/歌人、貞幹(定章)の父、
[定澄(;名)の初名/通称]初名;正清、通称;豊前/上総
定澄(さだすみ・竹田) → 蘿亭(らてい・竹田たけだ、藩儒) B 4 8 4 8
- I2032 **貞純親王**(さだずみしんのう、清和天皇第6皇子) 873-916?/44? 母;中務大輔棟貞王女、平安前期、
873(貞観15)親王宣下、四品/中務卿/兵部卿/上総太守/常陸太守、
「延喜録」「昌泰記」著、号;桃園親王/惟彦
- F2030 **定隆**(さだたか・藤原ふじわら、左京大夫)?- ? 平安後期廷臣、三河内侍の前夫or恋人;
建春門院新中將の父、
→ 三河内侍(みかわのないし・二条院、歌人) 4 1 6 6
- B2094 **定高**(さだたか・藤原ふじわら、光長男) 1190-1238/49 母;藤原朝親女二条、兄長房の養子、廷臣;1218参議、
左大弁/1219従三位/20権中納言/32正二位/36按察使、近江・伊賀・越後・肥後守、
無心連歌、古今著聞集に逸話/狂歌入、1218「定高卿記」著、
[定高(;名)の別号] 初名;為定/忠長/経光、後名;定高
- I2033 **貞孝**(さだたか・伊勢いせ/本姓;平、貞忠男/実父は貞辰)?-1562討死 武家;従四下/兵庫頭/備中守、
伊勢守、足利義輝に出仕、室町幕臣;政所職、故実家、三好義継讒言により義輝が派兵;
舟岡山で討死、1553「伊勢貞孝誓約」、「貞孝答書」「武家雑記」「伊勢貞孝相伝条々」外著多数、
[貞孝(;名)の通称/法号]通称;又三郎、法号;梅竹院
- 02049 **定隆**(さだたか・佐々ささ、織部男) 1635-93/59 陸奥仙台藩士;江戸番頭/国老;3千石、国学/歌人、
1682(天和2)伊具郡鳥屋とや館に住(丸森邑主)、室;自秀院(国学)、
子息なく養子定條(伊織/又左衛門)が継嗣、
[散りそめし桐の一葉にはるかなるもろこしまでの秋ぞ知らるる]、
[定隆(;名)の通称] 伊賀/豊前
- N2021 **貞隆**(さだたか・横瀬よこせ/本姓;源) 1718-1764/47 江中期幕府高家、歌人;賀茂真淵門、
本居大平「八十浦の玉」入、

[諏訪の海こほりとくらし遠つあふみ天の中川みぎはまされり]、
(八十浦;上37/遠江長上郡河辺郷中瀬某が家より身ゆる所々の歌参加/天中川)、
[貞隆(;名)の通称] 又次郎/左衛門/式部/駿河守

- I2034 **定愷**(さだたか・久松ひさまつ/本姓;菅原、定郷男)1719-8668 幕臣;1753家督嗣/小普請/御書院番、御使番/新番頭/駿府奉行/1768御普請奉行/従五下・筑前守、1780大目付、1784江戸城内田沼意次刃傷事件の責任を問われ免職、「駿府広益」編、1781-5「久松日記」著、
[定愷(;名)の通称/法名]通称;善之丞/忠次郎、法名;潭然
- I2035 **貞孝**(さだたか・武野たけの)1723-177957 豊後日出藩士;和算家、貞実の父、藩主木下俊胤により認められ郡奉行に抜擢、「算法思唯集」著、
[貞孝(;名)の通称/号]通称;儀兵衛、号;計恵かづえ、法号;釈浄西
- N2021 **貞隆**(さだたか・横瀬よこせ/本姓;源、貞国の長男)1718-176447 江中期幕府高家、歌人;賀茂真淵門、本居大平「八十浦の玉」入、没後;弟貞臣が家督を嗣ぐ、
[諏訪の海こほりとくらし遠つあふみ天の中川みぎはまされり]、
(八十浦;上37/遠江長上郡河辺郷中瀬某が家より身ゆる所々の歌参加/天中川)、
[貞隆(;名)の通称] 又次郎/左衛門/式部/駿河守
- I2036 **貞堯**(さだたか・西村にしむら)1779-185678 京三条室町西住の歌人;前波黙軒門、風雅人、1813「六条家二代和歌集」編、
[春ならば都のはなとみましかばよもにあらまし今朝のはつ霜](短冊)
[貞堯(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;金造/信十郎、字;忠宣、通称;吉右衛門、号;静菴/静斎、法号;華落院
- I2037 **定敬**(さだたか・伊藤いとう、初名;時方、時敏4男)1809-9587 伊勢桑名藩士;1823藩主松平忠堯の転封に随い武蔵忍に住、和算家;平井尚久門;至誠賛化流、算術師範として勘定方組頭など歴任、1848「側円類集解義」編
[定敬(;名)の通称/号]通称;慎平/六之助、号;精斎、法号;慎証院
- I2038 **貞敬**(さだたか・浜崎はまさき) ? - ? 江後期出雲日御碕神社宮司、1831「日向国西都原王都論」著
- I2039 **完高**(さだたか・斎藤さいとう、嘉隆長男)?-? 磐城相馬藩士/文筆家、「奥相志」「相馬衆臣系譜」著、富田高慶の兄、高行たかゆきの父
- 02068 **定敬**(さだたか・菅沼すがぬま、)1827-190074 三河八名郡の国学者;平田鏡胤門、定春の父、
[定敬(;名)の通称/号]通称;耕兵衛、号;松園
- | | | |
|---------------------|-------------------------|-----------|
| 貞貴(さだたか・曾禰/柳沢)→ | 淇園(きえん・柳沢やなぎさわ、儒者/詩/画) | 1 6 0 3 |
| 貞高(さだたか・堀) | → 忘斎(ぼうさい・堀ほり、藩士/儒者) | 3 9 8 8 |
| 貞高(さだたか・広瀬) | → 月化(げつか・広瀬ひろせ、商家/俳人) | B 1 8 0 1 |
| 貞高(さだたか・佐々木/鷗鷗ささき)→ | 春水(初世しゅんすい・為永、人情本作者) | 2 1 6 1 |
| 貞高(さだたか・檜垣) | → 命彦(のりひこ・松木/檜垣、神職) | F 3 5 4 5 |
| 貞孝(さだたか・黒崎) | → 洗心(せんしん・黒崎くろさき、儒者/詩人) | M 2 4 6 6 |
| 定敬(さだたか・菅沼) | → 定敬(さだゆき・菅沼、幕臣/歌人) | K 2 0 1 7 |
| 定孝(さだたか・平野) | → 平角(へいかく・平野ひらの、商人/俳人) | 2 7 1 6 |
| 定孝(さだたか・田島) | → 春園(はるぞの・田島たじま、神職/詩歌) | K 3 6 3 3 |
- 02050 **定隆室**(さだたかのしつ・佐々ささ、号;自秀院)?-1711 陸奥伊具郡の丸森邑主佐々定隆(1635-93)の妻、夫は国老;3千石/1682(天和2)伊具郡鳥屋とや館に住、国学/歌人
貞孝女(さだたかのむすめ・藤原)→ 盛少将(さかりのしょうしょう、歌人) H 2 0 1 4
- I2040 **定武**(さだたけ・平井ひらい/本姓;源、高好男)?-? 近江愛智郡の豪族/近江守護六角義賢の家臣、武将;戦国期1533-70頃活躍;右兵衛尉/加賀守、六宿老の1、連歌;1567六角氏式目に連署、「宗養定武両吟百韻」催、宗長・宗牧・宗養と交流、息女は浅井長政の妻;離縁
- I2041 **貞雄**(さだたけ・上部うべ/本姓;度会むらい、貞偕男)1588-162235 伊勢外宮祠官/従五下、「伊勢外宮仮殿御遷宮要須」「仮殿御遷宮要須条々」著/「仮殿遷宮要須記」編、
[貞雄(;名)の通称] 久八郎/左近
- I2042 **貞武**(さだたけ・富田とみた、重貞男)1705?-6965 加賀金沢藩士;藩主前田吉徳の側小姓/御使番、1731遺知千6百石継嗣;近習頭/今石動等支配役/1748加増され2千百石/御算用奉行、

1726「富田弥六御使書控」49「今石動氷見城端支配留帳」、「支配方早引」「自分留帳」外多数、
[貞武(；名)の通称] 弥六/治大夫/次大夫/外記、貞直の父

- B2095 **貞丈**(さだたけ/ていじょう・伊勢いせ、貞益2男/本姓；平) 1715/17-8470-68 江戸の旗本幕臣；1726家督嗣、
3百石寄合/小姓組、有職故実家；独学/考証と説明による武家故実を大成；伊勢流と称す、
貞陳の弟、女(伊勢貞敦室)の父/貞広(貞敦男)の祖父、伊勢氏は元室町幕府政所執事の家、
曾祖父伊勢貞衡が將軍家光に招聘；兄貞陳が13歳で夭折し一時家断絶；貞丈が10歳で再興、
1784麻布に隠居、「武家故実百箇条詳註」注、「和歌三神考」「平家物語考」「故実色色」、
「鞞考」「安斎小説」「平義器談」「鞞考」「四季草」/「貞丈雑記」(子孫への古書案内)、
1763「伊勢貞丈家訓」、「貞丈叢書」「安斎随筆」「安斎叢書」「安斎漫筆」外著多数

[徳は本なり芸は末なり 世のことわざにも万能一心まのういしんとてなほほど芸能
すぐれたりとも心の徳おさまらざれば世わたりはなりがたし](763貞丈家訓)

[貞丈(；名)の幼名/通称/号]幼名；万助、通称；兵庫/平蔵、号；安斎/銀郷散人、法号；長譽

- F2031 **貞武**(さだたけ・高木たかぎ) ? - ? 大阪の狩野派絵師；插画/絵本など、
のち西川祐信に私淑；刻版画を能くす、1720「画図拾遺」画/32恵忠居士「太平百物語」画、
1734「絵本和歌浦」/42「日本武勇誉草」画/52「本朝画林」画/67「武林元帥伝」外画多数、
[貞武(；名)の通称/号]通称；幸助/幸介、号；素黙/素点斎

- I2043 **貞丈**(さだたけ・西守にしもり) ? - ? 江後期大阪岩田町の文筆家、1799「寺子教訓四民往来」書、
1800「東海道中案見図」1801「懷宝料理即珍」著、03「妙術博物筈後編」編

- P2049 **貞健**(さだたけ・三本みもと、号；杉屋) 1838-9255 土佐高知の国学者・歌；前田夏蔭・伊東祐命の門、
のち東京住

貞丈(さだたけ・設楽) → 貞丈(さだとも・設楽、博物学) I 2 0 9 3

- B2096 **貞建親王**(さだたけしんのう、伏見宮15代、邦永親王3男) 1700-5455 1708東山天皇の猶子/09親王宣下、
1715元服/兵部卿/一品、歌人；靈元天皇・三条西公福より和歌添削を受、
有栖川宮職仁親王より[天仁遠波]の伝授を受、「貞建親王御詠草」/「貞建親王御筆手本」書、
「近江八景和歌」「紅葉和歌」「貞建七夕七首」、詩人；「貞建親王詩」「貞建親王等七絶詩」外多、
[貞建親王(；名)の幼名/通称/法号]幼名；茶賀丸、通称；有栖川正仁たひと(；加冠後)、
法号；後乾

- B2097 **定忠**(さだただ・大中臣おおなかとみ、定世男) 1272-131645 母；大中臣隆蔭女、神職；1299伊勢神宮祭主、
1303伊勢権守/06神祇大副/09従三位/刑部卿、歌；1295伊勢新名所絵歌合参加、柳風抄入、
兼好と親交；定忠追善の結縁経歌、勅撰5首；新後撰(718)玉葉(1847)風(939/1463/2200)、
[まきもくの玉木のみよに跡たれて宮みふりぬるいすず川かみ](新後撰；神祇718)
[くれし春のわかれに花をさきだてて木のはは冬ぞねにかへりける](柳風抄；冬103)、
[定忠(；名)の号/神号]号；岩出、神号；大中臣朝臣定忠神靈

- I2044 **貞忠**(さだただ・伊勢いせ/本姓；平、初名；貞霽さだはる、貞陸男) 1483-153553 室町幕臣/足利義晴側近、
従四上兵庫頭/備中守/伊勢守、殿中申次を務める、故実家/歌人、1523將軍を自邸に招く、
「伊勢貞忠記」、「犬追物手組日記」「軍法抄」「御内書引付」著、
[貞忠(；名)の通称/法号]通称；七郎、法号；宝蓮院

- 02079 **定格**(さだただ・田中たなか、吉官よしすけ男) 1635-169258 江戸幕臣；大番頭、国学者、定賢さだよしの父、
禄7000石知行/従五下、歌人；茂睡[鳥の跡]入・了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]2首入、
[こころとく先ま咲初めて世は春と色香にみする梅のー花](茂睡[鳥の迹]春29)
[よしや吹け散るをば風のうきにのみみなして恨みを花に残さじ]、
(若むらさき；29落花/いっそ吹きただけ吹けば落花を風のためと思える)、
[定格(；名)の通称] 翁助(父の称)/内匠たくみ/大隅守、法名；良譽

- P2085 **定忠**(さだただ・菅沼すがぬま、通称；民部) ?-? 江前中期；歌人、幕臣、山室法橋了慶(蘆翁)と親交、
[山桜うゑしあたり香はもれてかこふ籬のかひやなからん](茂睡[鳥の迹]春110)、
[山室法橋蘆翁難波の片葉の蘆を庭に移し植ゑたるを聞きて読みて遣はしける
難波がたもてこし道は遠き江の蘆の若葉を近く詠めて](茂睡[鳥の迹]雑下725)

- 02014 **定伝**(さだただ・大塚おつか) 1679-176183 近江彦根藩士；井伊直興に近仕、儒学修学、
歌人；彦根歌人伝・寿入、能書家/詩人、詩集「本林塚詩集」著、
[定伝(；名)の通称/号]通称；権左衛門、号；塚山ちようざん/本林亭

- 02039 **貞忠**(さだただ・北風きたかぜ/旧姓;長谷川,)1834-95⁶² 山城紀伊郡の生/摂津神戸の北風家の養子、問屋旧家の北風荘右衛門家66代当主、幕府の御用達;他方で勤王志士側に資金情報提供、百年除金(代々の主人が個人の剰余金を地下秘密蔵に60万両以上貯蓄)を提供;倒幕推進、維新後;初代兵庫県知事伊藤博文のもと国事・県政に尽力;公德心強く理想との乖離;致仕、家業も倒産;東京で客死/荘右衛門家は没落、
[貞忠(;名)の通称] 正造/荘右衛門
貞忠(さだただ・浅海あさみ) → 澳満(おきまろ・浅海あさみ、藩士/歌人) D 1 4 8 4
貞董(さだただ・檜垣) → 貞董(さだのぶ・檜垣/度会/松本、神職) J 2 0 2 0
- B2098 **定忠母**(さだただのは・源みなもと)?- ? 平安後期歌人、堀川大納言源定房(1130-88)の室、歌;風雅集996、
[忘れん名をだにせめてなげかばやそれもなれての後ぞと思へば](風雅集;恋996)
- B2099 **貞忠**(さだただ・二階堂にかいどう/本姓;藤原、盛長男)?-? 鎌倉末期の武将/五位・伊予守、歌人;松花集・臨永集入、勅撰2首;続千載1493/続後拾遺1122、
[とはずとていつまで人をうらみけん思ひたえてはことのはもなし](続千;恋1493)
貞忠(さだただ・堀) → 元厚(げんこう・堀ほり、医者) B 1 8 7 8
貞忠(さだただ・堀) → 貞儀(さだのり・堀/菅原、藩士/記録) J 2 0 2 4
- 02022 **貞胤**(さだたね・奥平おくだいら;通称;三郎兵衛/左内)?-1706 伊予松山藩家老、歌人
- I2046 **定種**(さだたね・今城いまき/本姓;藤原、定経男)1696-1748⁵³ 母;池尻勝房女、廷臣;1730参議、1731従三位、1735権中納言/37賀茂伝奏/41従二位、1729「後水尾因五十回聖忌法会記」著、法号;懿恭院
- I2047 **定胤**(さだたね・和田わだ/本姓;平)?-? 京の国学者:1782「当世藻塩草」、「日本正語考」、「神学辨書」、「武家枢要録」、「武士要鑑」著、
[定種(;名)の通称/号]通称;五郎左衛門、号;和国齋
- Q2086 **定種**(さだたね・高橋たかはし、通称;階門)1813-85⁷³ 筑後久留米の国学者・歌;西田直養なかい門
貞種(さだたね・伊勢) → 貞直(さだなお・伊勢いせ/平、故実家) I 2 0 9 7
貞胤(さだたね・沼田) → 貞胤(ていいん/さだたね・沼田ぬまた、連歌) 3 0 2 9
定民(さだたみ・真木) → 保臣(やすおみ・真木まき、神職/勤王家) B 4 5 0 9
- I2048 **貞為**(さだため・伊勢いせ/本姓;平、貞良男)1559-1609⁵¹ 故実家;兵庫頭、1762(4歳)父戦死;若狭小浜住、織田信長の臣;病で辞し京住、のち豊臣秀吉に出仕;辞す、「貞為記」「伊勢貞為軍陣覚書」「馬鞍名所」「馬具寸法」「婚人童女髪置之記」、「馬方并馬具其外記」、1608「極秘明頭之口伝」著、
[貞為(;名)の幼名/初名/号]幼名;虎福丸、初名;貞安/貞景、号;空齋、法号;瑞芳院
- I2049 **定為**(さだため・安藤あんど、通称新五郎、定明男)1627-1702⁷⁶ 丹波尾口村の人/歌学;冷泉為景門、歌;木下長嘯子門/連歌;円立法師、伏見院貞清親王家出仕/1676致仕/85帰郷、1686「山家の記」97「常陸帯」、妻;山田道夢の女亀子かめこ(歌人)、息子;為実ためざね・為章ためあき
[定為の通称/号]称;右京進/右京亮/内匠頭、号;朴翁/容齋/嘯傲堂、法名阿唯、法号長徳院
貞為(さだため・梅原) → 和海(わかい・梅原うめばら、紅風軒、俳人) 5 3 0 3
定為(さだため→じょうい) → 定為(じょうい;法諱、真言僧/歌人) F 2 2 0 1
- P2069 **貞足**(さだたり・山内やまうち、通称;栄三郎)1810-94⁸⁵ 尾張中島郡下祖父江の国学者/歌人、国学・歌;富樫広蔭門
貞太郎(さだたろう・鷺尾/小豆嶋屋) → 南溪(なんけい・鷺尾わしの、儒者) I 3 2 8 4
貞太郎(さだたろう・西城戸) → 正直(まさなお・西城戸にしきど、神職/国学) R 4 0 3 7
定太郎(さだたろう・岡) → 鼎(かなえ・岡おか、藩士/儒者) O 1 5 2 4
定太郎(貞太郎さだたろう・岡部) → 孝之(たかゆき・岡部、藩士/歌人) N 2 6 6 5
定太郎(さだたろう・松平) → 定朝(さだとも・松平、幕臣/園芸家) I 2 0 9 2
- F2033 **定親**(さだちか・平たいら、理義男)995-1063⁶⁹ 廷臣;紀伝道に修学;対策及第/東宮学士/文章博士、1054式部大輔/正四下/右大弁/1061病で致仕、詩人:1056「殿上詩合」右方撰者、大江匡房の師、後朱雀天皇の侍読、詩;続文粹;1首入
- C2000 **貞親**(さだちか・中原、師任男)?- ? 平安後期廷臣;大外記/正五下、広宗の父、「大外記貞親記」著(1050-1053)

- 2019 **定親**(さだちか・中山なかやま/本姓藤原、満親男)1401-5959 母;島田満貞女、廷臣;蔵人頭/1421参議、1436武家伝奏/43権大納言/46笠二位;大納言辞任/48出家;法名:祐繁、親通の父、故実家/歌人、「元日節会次第」/1426「十箇条秘記」28「正長元年記」著/28「達幸故実抄」編、日記「薩戒記」、新続古今集3首;293/1145/1409、
[五月雨に淀の河岸水越えてあらぬわたりに舟よばふらし](新続古;夏293;左中将定親)
- C2001 **貞親**(さだちか・伊勢いせ/本姓;平、貞国男)1417-7357 足利義政の幕臣/政所職/寮の馬を預かる、従四上/兵庫助/備中守・伊勢守、致仕後若狭に住、歌/連歌を嗜む、伊勢流故実の祖、1464「射鏡」「眞犬追物之記」、「犬追物日記」「犬追物神鏡」「伊勢貞親家訓」「伊勢家書札」、「笠懸舂拜並装束等之記」「笠懸矢沙汰并介添等記」「殿中年中行事」著、「鬪的記」編、外多数、
[人に酒などすすむること 第一人にちかづく媒なかだちと成る也](貞親教訓)、
[貞親(;名)の通称/号]通称;七郎、致仕後号;長松軒/聴松軒、法号;聴松院
- I2050 **貞親**(さだちか・檜垣ひがき/本姓;度会むらい、常廉男)1631-53早世23 伊勢西河原の神職;従五位下、「参宮儀式」著、[貞親(;名)の通称]喜之助/右兵衛
- C2002 **定親**(さだちか・林はやし、名;久勝、別号;器水)?-? 大阪の俳人:立圃門、1672「俳諧浜荻」編、1672「よるのにしき浜荻」編、1657燕石「牛飼」177句入/重徳「続独吟下」入、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、
[團雪だんせつの扇の風や富士おろし](手鑑/
団雪の扇;前漢成帝の寵妃班婕妤はんじよはが寵衰え円く白い扇にこめた怨詩、
謡曲[班女はんじよ];秋風冷やかに吹き落ちて團雪の扇も雪なれば…)。
☆1670下河辺長流[林葉累塵集]6首入集の[定親]と同一?
[もののふのやたの広野にはなれきて早くあれ行く春の駒かな](林葉累塵;春125)、
☆蕉門の[器水]とは別人→器水(きすい、京の俳人;淡々門) J 1 6 2 9
- C2029 **定親**(さだちか・佐々木ささき)?-? 備後の俳人;立圃門、1659胤及「匏屑集」入、1670種寛「俳諧詞友集」入/79宗臣「詞林金玉集」入、83定行と福山良大明神に俳諧奉納
- I2051 **貞親**(さだちか・前田まえだ、貞里男)1653-170553 加賀金沢藩士;1686若年寄/91家老/97小松城代、備前守、「前田貞親手記」、1686「前田貞親手留書抜」95「前田貞親覚書」著、貞直の父
- Q2096 **貞慎**(さだちか・千野ちの、通称;源太)1774-181037 信濃諏訪郡の高島藩家老家の生/家老、歌人;荒木田久老・桃沢夢宅・香川景樹門、嘉代の弟
- I2052 **定周**(さだちか・武田たけだ)?-? 江後期羽前山形の和算家:日下誠・和田寧・内田五観門、1829「日門揭示録詳解」編、「容題拾解」著、
[定周(;名)の通称]量左衛門
貞親(さだちか・植木/武宮)→ 加兵衛(かへい・武宮たけみや、砲術家) P 1 5 2 8
貞近(さだちか・藤川) → 整斎(せいさい・藤川ふじかわ、剣道/故実) I 2 4 2 7
- I2053 **左達**(さたつ・松坂屋市右衛門)?-? 安永天明期1772-89頃江戸豪商/十八大通の1
- C2003 **定嗣**(さだつぐ・葉室はむろ/本姓;藤原、権中納言藤原光親男)1208-7265 母;藤原定経女、廷臣;1221承久乱に父は幕府追討の宣旨を記す;斬殺、兄光俊も流罪、定嗣は政務に優れ後嵯峨天皇の信任を得/1242参議/従三位/大蔵卿/左兵衛督、別当、1248正三位/権中納言、1250出家;法名定然、「葉黄記」「寛元御讓位記」/1238「法助准后御出家記」46「月中記」、
歌人;12487宝治百首参加・万代集入、新続古集428、
[蟬の声虫のうらみぞきこゆるなる松のうてなの秋の夕暮](新続古;秋428)、
[春さればたかきにうつる鶯を宿の梢にあさなあさなきく](宝治百首;138/朝鶯)、
[定嗣(;名)の初名/号]初名;光嗣/光継/高嗣、号;葉室宰相入道/心月房、法名;定然
- I2054 **貞嗣**(貞継さだつぐ・神じん/みか・諏訪、円忠男)?-? 南北期室町幕臣;左右衛門尉/左近将監、天竜寺供養で奉行を務める、連歌;菟玖波4句入、幼名;万歳丸
[月遅く人も待たるゝ夜は更けて](菟玖波;九恋781/前句;うき心なる独寝の秋)
- I2055 **定次**(さだつぐ・阿部/阿倍あべ、道音[四郎兵衛次福]2男)?-1582 三河の武将;岡崎城主松平清康家臣、1535甥弥七郎が誅殺されたため岡崎大樹寺で剃髪、伊勢在住の松平広忠の帰国を祈願、諸将と計り広忠を三河牟呂城/1542岡崎に迎える、以後合戦に戦功、

1535-37「阿部家夢物語」著、

[定次(；名)の通称/法号]通称；四郎五郎/四郎兵衛、法号；常德

- I2056 **定次**(さだつぐ・樋口ひぐち、重定男) **?-?** 戦国末江戸初期の上州の武芸者、樋口兼光の後裔、上野多胡郡馬庭村の代々剣術家；友松清三入道門；正法念流を修得/1595印可皆伝、1598教外別伝の奥秘を受；[馬庭念流(樋口流・未来記念流)]と称す、門弟多数、出仕せず晩年西国遊歴、弟頼次が家督を継嗣、「念流正法未来記目録」著、
[定次(；名)の別名/通称]別名；定治、通称；又七郎
- I2057 **貞次**(さだつぐ・檜垣ひがき/本姓；度会禰ら、丹生社神主檜垣常昭男) **1590-1671****82** 檜垣元尚の養子、伊勢坂之世古の神職、正五下、「檜垣貞次話記」述、
[貞次(；名)の通称]主馬/河内
- I2058 **貞継**(さだつぐ・島田しまだ、宗源男) **1608-80****73** 駿河の和算家、会津藩士；和算により招聘；勘定方、藩主保科正之に出仕/普請奉行；禄3百50石、1666磐梯山を測量/蟹川村の防水工事に従事、1653「九数算法」著、安藤有益の師、
[貞継(；名)の通称/法号]通称；覚右衛門、法号；秋月院
- 02069 **貞継**(さだつぐ・菅原すがら、) **1626-1709****84** 播磨印南郡曾根村天満宮(曾根の手植松で有名)の祠官、国学者、
[貞継(；名)の通称/号]通称；弥二郎/三左衛門/民部少輔みんぶのしょう、号；宗単
- P2095 **定次**(さだつぐ・岡おか、) **? - ?** 江前期；上方の武士/歌人、
1670下河辺長流[林葉累塵集]2首入、
[それと見よ我も思ひはしなのなるあさまの煙よそならぬみを](林葉累塵；恋794)
- 02062 **貞嗣**(さだつぐ・塩田しおだ、光成みつなり[1749-1831]男) **?-?** 江中後期；紀伊和歌山の医者、国学者；本居宣長門、
[貞嗣(；名)の通称]順造
- P2044 **貞緜**(さだつぐ・松村まつむら、通称；与右衛門) **1801-59****59** 讃岐高松藩士、国学者
貞嗣(さだつぐ・檜垣/足代)→ 弘氏(ひろじ・足代/度会、神職/俳人) F 3 7 5 6
定継(さだつぐ・藤原光家)→ 浄照房(じょうしょうぼう、定家男/廷臣/歌人) N 2 1 9 5
- C2004 **定綱**(さだつな・藤原ふじわら、関白頼通男) **1032?-1092****61?** 母；種成女の祇子、皇后寛子・師実・俊綱の兄、藤原経家の養子、廷臣；備中守/播磨守/正四上、妻；大江定経女、定実・家信・慶実(僧)の父、歌人；1067(治暦3年3月15日)「備中守定綱朝臣家歌合」(同4月)「定綱朝臣家歌合」主催、1078内裏歌合参加(；十五恋左/内蔵頭定綱名)、
[わたつみにみるめもとむるあまだにもちひろの底にいらぬものかは](内裏歌；恋左29)、
(見る目と海松布の掛詞)
- C2005 **貞綱**(さだつな・宇都宮うつのみや/本姓；藤原、景綱男) **1266-1316****51** 母；安達義景女、武将；鎌倉幕臣、従五上/備後権守・下野守・三河守、1281蒙古襲来時に九州出陣/幕府引付衆、出家；宇都宮檢校；蓮昇、歌人；玉葉983、公綱・高貞(綱世)の父、氏綱(新千載歌人)の祖父、
[かさねてもうづみなはてそまれにとふ人のなさけのあとのしら雪](玉葉集；冬983)、
[貞綱(；名)の幼名/法号]幼名；四郎、法号；蓮昇
- I2059 **貞綱**(さだつな・塩屋えんや/佐々木/本姓；源、豊高男) **?-1506** 武将；室町幕府管領細川政元の家臣、連歌；1485/86「細川千句」連衆、宗長と「何人百韻」、
[貞綱(；名)の通称]三河守/宮内少輔くないしょう
- F2034 **定綱**(さだつな・松平まつだいら/荒川、桑名藩主松平定勝3男) **1592-1651****60** 母；奥平貞友女(松源院)、一時荒川弘綱の養子、1602徳川秀忠に出仕；05江戸城書院番頭/09下総山川藩主、1616常陸下妻藩移封/19遠江掛川藩へ/25山城淀藩へ/33美濃大垣藩へ転封、従四下越中守、1635伊勢桑名藩へ転封、桑名では新田開発・殖産興業・文武振興に尽力、藩校建設；辻原元甫・三宅澹庵を藩儒に招聘、軍書；林道春門/兵学；小幡景憲・杉山盛政門、茶；小堀遠州門/書；松花堂昭乗門、元甫と詩文応酬、1647「勸岳家訓」「鎮国公贈位記念」、1649「老子厲案抄」「牧民後判」、「温知謹志」「光明管見解」「三和覚書抄」「松平定綱公記」著、
[定綱(；名)の幼名/別名/号]幼名；亀松/三郎四郎、別名；定清(；初名)/定治/定信、号；俊峯、法号；大鏡院

- I2060 **貞維**(さだつな・富小路とみのこうじ/本姓;藤原、初名;貞俊、永貞男) 1668-1711⁴⁴ 廷臣;刑部卿、1708従三位、1711踏歌節会外弁を務める、「田園早春集」、1708「富小路貞維卿記」著
- I2061 **定綱**(さだつな・佐八さばち/本姓;荒木田)?-? 江後期伊勢の神職、1787「口実類聚」編、「三四禰宜上階之記」著、井面守道(守訓男)の養父
 定綱(さだつな・疋田) → 松塘(しょうとう・疋田ひきた/藤原、藩家老/詩文) R 2 2 5 5
 貞綱(さだつな・竹俣) → 義秀(よしひで・竹俣たけのまた/保科、家老) G 4 7 3 7
 貞綱(さだつな・鷺) → 馬菟(ばげん・鷺さぎ、狂言師/俳人) E 3 6 2 2
- C2006 **定経**(さだつね・藤原ふじわら、法名;蓮位/住位?、大納言経房男/母;平範家女) 1158-1231⁷⁴ 廷臣;1197参議、1199従三位;出家、父経房に義絶、1185「西御記」、歌人:1186経房家歌合参加、万代集入・御裳濯集3首入(蓮位法師名)、勅撰5首;千載(115)続後撰(1062)続拾(1087)続千(1374)、資経・光経の父 [くちなしの色にぞすめる山ぶきの花のしたゆく井手^あでの河水](千載集;二春115)
- I2063 **貞常**(さだつね・伊勢いせ/本姓;平、貞倍男)?-1627 故事家、因幡守、足利義昭に出仕/織田信長の臣、豊臣秀吉に所領没収;処士として京住/1606伏見で徳川家康に面謁/08江戸で秀忠に謁す、「鞍鐙寸法記」「手綱図式」、1588「北上記」著、[貞常(;)名)の通称/号]通称;与十郎/伝五、出家号;因齋
- I2064 **貞恒**(さだつね・堀ほり、洄瀾かいらん男/本姓;菅原) 1752-77^{早世26} 京四条高倉西入町の医者(家学);父門、子弟教育、「杏林摘英」「医方三器便覧」「草木正名」、貞幹の兄 [貞恒(;)名)の字/通称/号]字;士輝、通称;造酒^みき、号;楓亭ふうてい
- I2065 **貞庸**(さだつね・有沢ありさわ、貞幹さだもと男)?-1837 加賀藩士;1789新知百五十石/組外/90父の遺知嗣、御馬廻/1793不慎罪で逼塞;1802赦免/大番頭、1784「兵法十九ヶ条」1811「御規式御作法書」、1816-21「諸事日記」、1824-37「日積録」、「高臥臺^{こうがたく}」「温敬公年表」「秘閣」外著多数、[貞庸(;)名)の初名/通称/号]初名;貞涉、通称;数馬/才右衛門、号;淡水堂/有沢齋^{ゆうたくさい}
- I2066 **定経**(さだつね・鷺さぎ、定賢[16世宗家仁右衛門にえもん]男) 1798-1870⁷³ 鷺流能楽師;狂言方;薩摩藩抱、藩主後援により父宗家に対し別家を立てる、1832「鷺定経相伝鷺流伝書」55「鷺賢通本」著、[定経(;)名)の別号/通称]別名;賢通、通称;健次郎、周三郎の父/鷺畔翁の養父
- I2067 **貞常**(さだつね・斎藤さいとう/旧姓;堀) 1812-80⁶⁹ 和泉岸和田藩士;江戸側役/目付/江戸留守居役、奥老/用人/番頭大監察、維新後は藩の権大属、文筆家:「宗門改廻村記」「酒のたはこと」、「村めぐり」「すひつく御供の腰折」「御留守居役年中行事」「堺御固日記」著、[貞常(;)名)の別号/通称]別名;貞、通称;熊次郎/治郎/孫兵衛
- N2057 **定恒**(さだつね・平野ひらの/本姓;平、通称;与左衛門)?-? 江後期;歌人 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[秋といへば錦の戸ばりかけ染めて人待ち顔に見ゆる山里]、(大江戸倭歌;秋990/山家紅葉、戸ばり;ここは帳)
- P2023 **貞庸**(さだつね・福住ふくずみ、旧姓;桜井) 1829-1889⁶¹ 信濃飯田の商家福田貞固の養子/飯田藩御用達、国学・歌;岩崎長世門、[貞庸(;)名)の通称]猶三郎/全九郎
 定常(さだつね・池田/松平) → 冠山(かんざん・松平、藩主/和漢学/文筆) D 1 5 8 0
 定常(さだつね・菅沼) → 曲翠(きよくすい・菅沼、藩士/俳人) 1 6 4 3
 定常(さだつね・匹田) → 柳塘(りゅうとう・匹田/疋田ひきた/藤原、家老) F 4 9 3 0
 定経(さだつね・上田) → 公鼎(こうてい・上田うねだ、眼科医/国学) K 1 9 7 1
 定経(さだつね・眞宮) → 定広(さだひろ・眞宮まみや、藩士/歌人) J 2 0 5 7
 貞恒(さだつね・広瀬) → 桃秋(とうしゅう・広瀬、商/俳人、淡窓父) E 3 1 9 4
 貞恒(さだつね・檜垣) → 常倚(つねより・檜垣/度会、神職/日記) E 2 9 2 9
 貞経(さだつね・津軽) → 為貞(ためさだ・津軽つがる、能書家/詩人) Y 2 6 2 6
- F2035 **貞常親王**(さだつねしんのう、伏見宮4世、貞成親王[後崇光院]2男) 1425-74⁵⁰ 後花園天皇の弟、母;敷政門院源幸子(庭田経有女)、兄の猶子/1445親王宣下/46式部卿/47二品中務卿、応仁乱を避け一時大原移住、歌人;1450仙洞歌合参加/69「貞常親王御百首」、「魚山百首」、1472「貞常親王御詠草」、「後大通院御歌」「後大通院殿御詠題詠」、瑤玉集入;外歌多数、連歌;1461・63・73百韻/新菟玖波8句、和漢学・書画も嗜む、1464「比巴始愚記」71「山賤記」著、

[降りつもる雪も八重立つ雲間よりさゆる横川よかはの嶺の遠をちかた]、

(宝徳二年[1450]仙洞歌合;33番左/式部卿親王名)、

[貞常親王(;名)の法名/号/法号]法名;慧光、号;日照、法号;後大通院

定常妻(さだかねのつま・菅沼)→ 破鏡尼(はきょうに、箏/俳人) 1 6 4 3

I2068 貞連(さだつら・飯尾いのお、出家後の称;性通しょうつう)?-? 室町期武将;1429-55室町幕府奉行人、大和守、連歌;1459「長祿三年十二月千句」主催(;伊予大山祇神社に奉納)

I2069 貞烈(さだつら・伊勢いせ/本姓;平、保寿庵祐怡男)?-1682 母;本田織部正女、故実家、1641「御成之車」、

[貞烈(;名)の通称/法号]通称;左兵衛丞、法号;円通院、伊勢貞儀さだりの兄弟

02055 貞連(さだつら・齋藤さいとう、通称;播磨守)?-1827 尾張清洲の国学者;本居大平門、本居内遠の叔父、一場神明社祠官

I2070 貞貫(さだつら/さだよし;名・野村のむら、初名;通称;貞能、新三郎)1794-185966 筑前福岡藩士/藩医、後妻;1829浦野もと[望東尼]と結婚、歌:1832(天保3)大隈言道門(妻[もと]も共に入門)、1845(弘化2)隠居;家督を長男(先妻の子)貞則に譲渡/郊外平尾山荘に夫婦で隠棲;風流に徹す、歌会催、1859(安政6)没;妻もとは剃髪受戒(望東尼)、「野村貞貫詠草」、後妻もと → 望東尼(ぼうとうに・もとに、歌人/勤王派) 3 9 5 7

I2071 定輝(さだてる・斎藤さいとう、幸直の長男)1686-176176 早く両親に死別し祖父に養育/対馬藩士;1707藩主宗義方の江戸参府に随従;農耕治水を研究/1709奉役/23八郷普請奉行/41郡奉行、治水・河川改修による農耕地拡大/二毛作創始/害虫駆除に功績、陶山訥庵とつあんの農事顧問、「自治民育資料」著、

[定輝(;名)の通称]久根之介(くのすけ/四郎治/兵庫

P2001 貞暉(さだてる・星野ほしの/本姓;橘、)1768-183568 上野桐生の機業家、歌人;加藤千蔭門、国学者;小山田与清・清水浜臣門、子弟教育/桐生国学の祖、桐生新町役人を務める、出羽松山藩酒井家陣屋の普請に寄与、織物買継商の書上(かきあげ)文左衛門と争論;役職辞任、[貞暉(;名)の通称/号]通称;三六、号;萩廼舎/壘翁

I2072 貞輝(さだてる・酒井さかい、初名;輝/通称;順蔵)1806-6055 阿波徳島安宅町住の代々徳島藩の水師、藩主蜂須賀斉昌の寵を受け徒士、弘化1844-48頃藩命で守住貫魚と5歳30余国遊歴、地誌家、「諸国異聞」;藩主に献、1844「亜墨新話」、「米理幹新話」、「美濃家裏道鑑」、「阿波国漫遊記」著

貞輝(さだてる・伊勢) → 貞衡(さだひら・伊勢いせ/平、幕臣/故実家) C 2 0 3 6

真人(さだと・宮本) → 八朗(はちろう・宮本、俳人) E 3 6 9 8

C2007 貞任(さだとう・安倍あべ/通称;厨川くりやがわ次郎、安倍頼時男)1019?-6244? 平安中期陸奥の豪族/武将、宗任むねとうの兄、前九年役で父戦死後も源頼義・義家に抵抗;1062厨川で敗戦;首級は京で獄門、衣川柵合戦で義家と連歌を唱和した逸話(古今著聞集)がある、菟玖波集1句入、[衣の関はほころびにけり(ころものたてはほころびにけり);義家

年ころはたてをそろへてをりしかど(年をへし糸の乱れのくるしさに);貞任]

[菟玖波集;卷十四1388/()内は古今著聞集]

I2073 貞遠(さだとお・伊勢いせ/本姓;平、貞牧2男)?-? 伊勢貞宗の養子、文明1469-87頃足利義政義尚臣、右京亮/加賀守、殿中申次を務める、故実家、「殿中申次記」、「百三条聞書」著、[貞遠(;名)の通称] 与一/与市/八郎

定遠(さだとお・百野/青木)→ 興勝(おきかつ・青木、藩士/儒/蘭学者) C 1 4 8 7

C2008 貞時(さだとき・北条ほうじょう/本姓;平、時宗男)1271-131141 母;安達義景女(朝音院覚山志道尼)、従四下/左馬権頭/相模守、1284鎌倉幕府9代執権;93政治の実権掌握;得宗専制体制確立、仏教保護、1301出家、歌;冷泉為相・二条為世門/京極為兼・冷泉為守・飛鳥井雅有と親交、多くの歌会・連歌会を主催、鎌倉歌壇;將軍久明親王家歌会参加/1292「三島社十首」勸進、拾遺風体集・柳風抄入、勅撰25首;新後撰(5首76/246/562/886/1256)玉(7首52/208以下)、続千(7首99/158/408以下)続後拾(312/443/614)風雅(877)新千(385/2288)、[山高みかさなる雲の白妙に桜もまがふ春のあけぼの](新後撰集;二春76)、[最明寺の花の盛りに人々歌よみ侍りけるついでに、

ふくかぜのをさまれ世をやまざくらしらせがほにもちらぬはなかな](柳風抄;春24)、

[貞時(;名)の幼名/通称/法名/法号]幼名;幸寿丸、通称;相模太郎、

法名;崇暁/崇演、法号;最勝園寺覚賢

- I2074 **定言**(さだとき・山科やましな、権中納言言国ときくに男)1476-94負傷夭逝19歳 母;高倉永継女、言綱の兄、
廷臣;右近少将、内蔵守/正五下、有職故実家・楽器;父門、「几帳之事」著、
1494(19歳)7月邸内侵入の盗賊により重傷;没
- K2086 **定時**(さだとき・安藤あんど) ? - ? 江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入、
[打ち付け書がきの雁か帰る山](物種集/前句;大普請詠ながめにあかぬ花の雲、
打付書;ここは下書せず筆を下す;襖絵に揮毫を付る)
- I2075 **定時**(さだとき・玉井たまい)1646- 171974 大和郡山藩士;奈良奉行書の与力、儒者;満田古文門、
詩文・狂歌に長ず、1700「伊勢日記」/18「儒林詩草」(67冊)編、「序中漫録」著
- I2076 **貞時**(さだとき・伊勢いせ/本姓;平、貞衡2男)1669-170234 故実家;徳川光圀に出仕、
1690「伊勢流薙刀腰刀伝書」著
[貞時(;名)の通称/法号]通称;平四郎/帯刀たてわき、法号;靈光院
- I2077 **定時**(さだとき・太田おた) ? - ? 江前期紀伊和歌山の俳人・貞徳門、
「塵囊集」著、1638西武さいむ「鷹筑波集」入、
[定時(;号)の通称] 太兵衛
- P2059 **定峯**(さだとき・森戸もりと、通称;彦七)?-?天明(1781-89)頃没 江中期;豊前小倉の国学者
☆峯は[時]の古字
- I2078 **貞辰**(さだとき・松永まつばが/本姓;源、覚左衛門直授男)1751-9545 羽前新庄藩西村山郡代官役宅の生、
和算家;唐牛良綱門/安島直円門/江戸の山路主住門;関流和算修学;免許取得、1780家督嗣、
新庄藩士;80石/1784舟形郷代官;3人扶持/吟味役/地方役/勘定頭格、公務傍ら家塾を開、
門弟3千余、「難題詳解」「諸術校記」「関流秘率演段」編、1769「西洋曆月食推歩国字解」著、
1770「授時七曜曆稿五星」85「推交食授時曆」86「曆術留書」1802「精要算法解儀」著、外多数、
[貞辰(;名)の字/通称/号]字;子瓊、通称;貞之允さだのすけ/覚左衛門、号;東岳、法号;釈道念
- I2079 **貞晨**(さだとき・山本やまもと/本姓;大江)1775-182147 三河宝飯郡下地村の商家;巨富古雅道/地誌家、
内山真竜・中山美石と交流、「下墜名蹤綜録」、「三河鐘銘集」「三河渥美郡名蹤綜録」、
1802「銅鐸図記」03「羽田名三河蹤綜録」「三河大津名蹤綜録」「三河国下地名蹤綜録」著
[貞晨(;名)の通称/号]通称;権平、号;須摩板琴、屋号;板屋
- P2037 **貞刻**(さだとき・前田まえだ、通称;五良右衛門)?-1828 近江犬上郡の国学者;村田泰足門、
歌;[彦根歌人伝・亀]入
貞晨(貞辰さだとき・中島)→ 貞晨(貞辰ていしん・さだとき・中島、俳人) 3 0 0 7
貞辰(さだとき・鈴木/萩原)→ 宗固(そうこ・萩原はぎわら/鈴木/源、幕臣/歌人) 2 5 0 8
貞時(さだとき・前田) → 貞国(さだくに・前田まえだ、藩士/歌人) P 2 0 3 6
定時(さだとき・奥平) → 棲遅庵(せいちあん・奥平、儒・闇齋学) C 2 4 5 8
- 2020 **貞敏**(さだとし・藤原ふじわら、継彦男)807-86761 廷臣;835遣唐使准判官/838入唐;琵琶秘曲修得、
839琵琶の名器(玄上・青山?)と楽譜を贈呈され帰国;仁明天皇前で演奏、三河介/雅楽頭、
備中介/従五上、838「風香調」「琵琶諸調子品」著
- C2010 **貞俊**(さだとし・北条ほうじょう/本姓;平/左介、時俊2男)?-? 鎌倉後期武将;安藝守/左京亮、
1313他阿と続歌を行う(他阿上人集入)、京で誅せらる、歌人;拾遺現藻・続現葉・松花集入、
勅撰4首;続千載(1484/1931)続後拾遺(748)新千載(1381)、
[せめてなどその暁をかぎりぞといひても人のわかれざりけん](続千載;恋1484)
- C2011 **貞敏**(さだとし・惟宗これむね、時俊男)?-? 鎌倉後期廷臣;従四位下筑前守/刑部少輔、
玄輝門院(後深草天皇妃)蔵人、歌人、新後拾遺1337、
[いづくをもちとふ心の身にそはばこの山かげも住みやすてまし](新後拾;十六雑1337)
- I2080 **貞俊**(さだとし・菅沼すがぬま、通称;五郎兵衛)?-? 室町末期三河の武将、1595「海道くだり」著
- I2081 **定俊**(さだとし・吉田よしだ/本姓;卜部、通称;靱負、定賢男)?-? 江前期神道家、1671「唯一神道俗解」編、
1672「和歌職原鈔」編、「大神大明神御縁起」「神道三部抄」「六根清淨大祓俗解」著/外著多数
- I2082 **定俊**(さだとし・河野/川野かわの)?- ? 江前期対馬の俳人;西鶴と交流、
西鶴と両吟歌仙;1678「虎溪の橋」所収、78西鶴「物種集」入、
[女めのふける横笛によるや秋の鹿](虎溪の橋;歌仙俳諧の発句、
徒然草九段;女の履ける足駄にて作れる笛には秋の鹿必ず寄るとぞ言ひ伝え侍る)

- I2083 **貞俊**(さだとし・添田そえだ/百沢、添田貞成2男)?-1701 陸奥弘前薬王院住;藩主津軽信義の兄小姓、百沢平右衛門の養子/父・兄が没;1664実家の家督継嗣;津軽藩士;馬廻組頭/先手廻組頭、1697津軽藩家老;7百石;以後家老職継承、居合;常井喜兵衛門・槍術に熟達、さらに克己流柔術・馴縄流馬術を創始、歌・書にも秀づ、「愚耳旧聴記」「耳目心痛記」著、[貞俊(;名)の幼名/通称/号]幼名;虎之助、通称;儀左衛門、号;泰勝軒/雅楽た
- I2084 **定利**(さだとし・小津おづ、通称;大助、道智男)1695-1740⁴⁶ 本居宣長の父、伊勢松阪の木綿業、書簡あり
- F2036 **定俊**(さだとし・野宮のみや/本姓;藤原、正親町公通2男)1702-57⁵⁶ 野宮定基の養子、廷臣;1737参議、1743権中納言/53権大納言/54従二位、国学者、定基「平家考証」補訂、1726「定俊卿記」、1736「神代講談」42「古語拾遺聞書」45「日本紀神代卷講義」「倭姫命世記聞書」著、定之の父、[定俊(;名)の別号/法号]初名;公透、法号;是性院
- I2085 **定俊**(さだとし・松宮まつみや/本姓;菅原、修姓;菅)1732-1806⁷⁵ 菅俊英養子、養父没後その父観山の嗣、北条流兵学を継承、「分度伝秘訣」「陣行營雜習附録」「分度規矩大事相伝口訣」外著多数、門弟の森山富涯が北条流兵学の学統を継承、[定俊(;名)の通称]左司馬
- I2086 **貞俊**(さだとし・檜垣ひがき/本姓;度会わたらい/松木、檜垣貞宜男)1819-? 伊勢の人;1826松木範彦の養子、宰記に改称;不縁/1843檜垣常善の養子;縫殿ぬい貞俊と改名;再び不縁/実家へ;1849外宮九禰宜;正四下、51七禰宜;常緒と改名、1854解任、1849「禰宜職転補之記」[貞俊(;名)の別号/通称]別名;常応/俊彦/常緒、通称;勝丸/宰記/縫殿/賢之介(助)
- F2037 **定俊**(さだとし/じょうしゅん・中路なかじ)1783-1838⁵⁶ 江後期成田山新勝寺の用人?、地誌家、地誌「成田名所図会」著(遺稿を1858息子中路定得じょうとくが増補刊行・長谷川雪堤画)
- N2058 **貞利**(さだとし・鳥山とりやま) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[なほざりのただ一筆のすさびにもうたてまされる我が思ひかな]、(大江戸倭歌;恋1399/見書増恋)、[谷川に朽ちし柴橋あやふさは世渡る道になにか異なる](同;雑1692/谷橋)
- N2076 **貞利**(さだとし・五十嵐いがらし/旧姓;田卷)?-1869 伊勢桑名の国学者/越後三島郡に住、勤王派、1869(明治2)軍制改革を推進する大村益次郎の暗殺に加担する;没、[貞利(;名)の字/通称/号]字;公鴨、通称;貞太/武兵衛/伊織/廬いり、号;習庵
- N2074 **貞敏**(さだとし・安東あんどう、?) - 1879 伊予松山藩士;江戸留守居役、国学/歌;海野遊翁ゆうおう門、詩書を能くす[貞敏(;名)の字/通称/号]字;徳夫、通称;収蔵、号;梅月/椎舎/枕淵/竜淵
- O2056 **貞俊**(さだとし・齋藤さいとう、神職の貞連さだつら[?-1827]男)?-?明治1868-初没 尾張清洲の国学者;本居内遠(父の叔父)門
- P2076 **貞利**(さだとし・横瀬よこせ、初名;貞勝/通称;左衛門)1843-? 江戸の神職;芝大神宮祠官、国学;平田鍊胤門
- 貞利(さだとし・阪[坂]) → 昌功(しょうこう・阪[坂]さか;4代目、連歌師) S 2 2 1 6
 貞俊(としさだ・片桐) → 貞昌(さだまさ・片桐かたぎり、藩主/茶人) J 2 0 6 6
 貞俊(さだとし・富小路) → 貞維(さだつな・富小路/藤原、廷臣/日記) I 2 0 6 0
 貞敏(さだとし・桜井) → 貞贇(さだよし・桜井さくらい/八洲、神職/国学) O 2 0 5 8
 定年(さだとし・新美/菅沼) → 鼠仙(そせん・菅沼すがぬま/新美、商家/詩人) K 2 5 0 2
 完敏親王(さだとししんのう) → 堯恕法親王(ぎょうじほつしんのう、僧/詩人) C 1 6 6 5
- I2087 **定福**(さだとし・梅小路うめがこうじ/本姓;藤原、清閑寺せいかんじ秀定男)1743-1813⁷¹ 梅小路共経の養嗣子、廷臣;1774従三位/99正二位、1805権大納言、儒者;経典を修学、1774「棲仙亭六詠」編
- I2088 **定富**(さだとし・竹中たけなか) ? - ? 江後期和算家;古川氏清門/至誠贇化流算学に長ず、「算題集」著、木村尚寿の師
- P2025 **貞富**(さだとし・藤川ふじかわ、貞賢男)1808-71⁶⁴ 讃岐高松の国学/歌;父(岡田眞澄門)門、貞世の弟、[貞富(;名)の通称]通称;三郎兵衛/三郎次
- I2089 **貞朝**(さだとし・小笠原おがさわら、長朝男)1461-1515⁵⁵ 信濃守護;武将、従五上、1485父より弓馬兵法受、

化鳥を退治した逸話、「和礼儀統要約集」著、

[貞朝(；名)の幼名/通称/法号]幼名；豊松丸、通称；又次郎/修理大夫、法号；貞朝院

- I2090 **貞知**(さだとも・伊勢いせ/本姓；平、伊勢貞助男) **?-1610** **80** **余歳没** 伊勢貞倍の養子、故実家、左衛門尉/因幡守/加賀守、聖護院道澄親王の愛顧を受る、「伊勢貞知幕之記」「伊勢有枕斎幕之記」、1580「天正年中御対面記」81「寸法雑々」著、1588「魚板記」89「人唐記」「御供故実」外著多数、
[貞知(；名)の通称/号]通称；七郎、号；友(有)枕斎如芸、法号；眞光院

- I2091 **貞俱**(さだとも・谷たに) **? - ?** 伊勢の御師おし/俳人；神風館派、心友「伊勢宮箆いせみやげ」入
I2092 **定朝**(さだとも・松平まつだいら、定寅長男) **1773-1856** **84** 幕臣；1796遺領2千石継嗣、江戸麻布百姓町住、小普請/書院番/中奥番/禁裏付を歴任、1827京都町奉行/35小普請支配；36致仕、伊勢守、従五下、園芸家；父収集の花菖蒲栽培を継承；野生種を改良し新種数百種作出、1846「花花培養考」47「花花培養集」49「百花培養集後編」53「花菖蒲培養録」著、「花菖蒲花銘」著、定央の父、門弟；吉田潤之助(熊本花菖蒲を伝う)・万年緑三郎(旗本)など、歌；蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、
[めづらしと人もこそ見れ八重に咲くわが花あやめたぐひあらねば]、
(大江戸倭歌集；夏503/花菖蒲に初めて八重に咲くを詠)

[定朝(；名)の通称/号]通称；定太郎/左金吾/織部、号；菖翁、法号；泰岳院

- I2093 **貞丈**(さだとも・設楽しだら/本姓；菅原、貞喬男) **1785-?** **1837** **存** 母；本多忠行女、幕臣；1794遺跡継嗣、千4百石、本草学；太田澄元門、博物研究[楮鞭会](富山藩主前田利保の主唱)の主要会員、1829「蒲桃図説」著、「竜骨図説」画、
[貞丈(；名)の字/通称/号]字；直之助、通称；甚左衛門、号；研芳園/芝陽

- F2038 **貞友**(さだとも・伊勢いせ/本姓；平、貞丈5代孫) **?-?** 故実家；1843貞丈「貞丈雑記」補校

- 02006 **定知**(さだとも・小保内おほない) **1812-1891** **80** 陸奥(陸中)二戸郡福岡町の吞香稻荷神社神主、国学；漆戸茂喬・島川鎌麻呂・山田吉風・平田鉄胤門、定身さだみの父、槻蔭舎を興し教育、
[定知(；名)の別名/通称/号]初名；定安、通称；常陸/孫陸、号；江村/槻蔭舎

定智(さだとも→ていち：号・平本)→ 定智(ていち・平本、儒者) B 3 0 4 3

定共(さだとも) → 定共(ていきょう、俳人) 3 0 5 9

貞俱(さだとも・牧野) → 貞通(さだみち・牧野まきの、藩主/御定書) F 2 0 5 4

- I2094 **定虎**(さだとも・菅沼すがぬま、定格2男) **1678-1743** **66** 母；三浦為時女、代々紀伊藩士；従五下・主膳正、1716藩主徳川吉宗の將軍就任に供奉；幕臣御家人に列す；16小納戸/37新番頭、1732「曲水宴詩歌」著、虎常・虎盈の父、
[定虎(；名)の初名/通称/法号]初名；定興、
通称；二郎九郎/二郎左衛門/新左衛門/主膳正、法号；日審

- I2095 **定虎**(さだとも・三田村みたむら/本姓；源) **1700-67** **68** 安藝広島藩士/国史・典籍・神祇・兵法に精通、家伝の弩法を再興；大平流弓術と称す、1749「本朝弩制口伝」、「雄児乃口すさひ」著、
[定虎(；名)の通称/号]通称；保右衛門、号；疆塾斎きょうじゅさい

- I2096 **定寅**(さだとも・松平まつだいら、定蔵2男) **1742-96** **55** 幕臣；1771遺領2千石を継嗣；寄合/火事場見廻、1788先手鉄砲頭/95先手弓頭；96致仕、天明1781-89頃から花菖蒲収集；息定朝が栽培継承、1787「一理考」著、
[定寅(；名)の幼名/通称/法号]幼名；定浄/定虎、通称；金次郎/織部/左金吾、法号；紹勇

- F2039 **貞虎**(さだとも・歌川うたがわ) **? - ?** 江後期1818-44頃の絵師；歌川国貞[3世豊国]門、花鳥・美人・役者絵、1822「江戸廻花二人助六」36「困碁手段鶴巢籠」39「犬塚縁起八藤士伝」画、1841人情本「いろは文庫四編」(溪斎英泉編)画/1840「洗髮柳春雨」「春色眉玉柳」画/外多数、
[歌川貞虎(；号)の通称/別号]通称；与之助/三之助、別号；五風亭

貞虎(さだとも・樽井) → 守城(もりき・樽井たけい、兵法家/歌人) F 4 4 3 4

- C2012 **貞直**(さだなお・大佛おさらぎ/本姓；平/旧姓；北条、通称；左馬助、宗泰男) **?-1333** **戦死** 鎌倉期武将、鎌倉幕臣；1322府引付頭/右馬助/陸奥守を歴任、1331足利高氏と上京；笠置山を落とす、1333新田義貞の鎌倉攻めの時脇屋義助軍に攻め入り戦死、歌人、勅撰2首；続千載1614/続後拾遺1083、
[忘らるる後さへ猶もしたはれて人のつらさをしらぬ身ぞうき](続千載；十五恋1614)

- I2097 **貞直**(さだなお・伊勢いせ/本姓;平、貞長男)1385-1437⁵³ 故実家、左衛門尉/因幡守・加賀守、
將軍足利家の供衆、1429「伊勢鞍鑑由来記」「大坪道禅鞍鑑由来記」、「鞍作記」著、
[貞直(;)名)の別名/通称]初名;貞種/別名;貞重、通称;七郎
- I2098 **貞直**(さだなお・藤原ふじわら) ? - ? 連歌作者、菟玖波集4句入、
[暮れにけり里なき山の松の陰](菟玖波;1258/前句;泊まればこれも宿とこそなれ)
- G2041 **貞直**(さだなお・玉手たまて、通称;九郎左衛門)?-? 和泉堺歌人;烏丸光広門、地下歌道6哲の1、
狂歌;1666「古今夷曲集」1首入/俳諧;1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、
[涌き出づる庭の泉の壺本つぼとは人の情けを請ひてこそ知れ](夷曲集;
或酒家より一瓶を得ての返事/泉の壺;謡曲猩々のような酒壺/情けに酒を掛る)、
[高根より次木に咲くや瀧櫻](手鑑)
- I2099 **貞直**(定直さだなお・小坂こさか、通称;七蔵)?-? 江前期和算家;空一流和算家始祖の徳久好末門、
1683刊「空一算学書」著、
- C2013 **定直**(貞直さだなお・木畑/木幡こはた、木畑玄佐男)?-1712 備前片上村の医者;父門/岡山藩に出仕、
俳人・西山宗因門/のち貞恕門、1677「梅翁点両吟集」編、85「卯月まで」著、90「朧月夜」編、
「せとの曙」「老の曙」「備前六歌仙」「五ヶ国」「都の長路」著、
1691江水「元禄百人一句」入/1702轍士「花見車」入;109、
[梅が香に袖ぶり直す師走かな](元禄百人一句;74/多忙な中梅の香に袖ぶりを直す)
[定直(;)名)の通称/号]通称;玄佐、号;虚心斎/芳室軒/定直いちよく
- J2000 **貞直**(さだなお・前田まへだ、貞親男)1686-1744⁵⁹ 加賀金沢藩士;1705家督嗣/1713小松城番、
1718定火消/33家老、「前田貞直手記」「前田貞直筆記」「心覚留帳拔書」著、貞幹の父、
[貞直(;)名)の通称]通称;中務/図書ずしよ
- N2075 **定尚**(さだなお・安藤あんど、初名;岩松/通称;文左衛門)1626-1704⁷⁹ 江戸の幕臣;目付、国学/歌人
- O2026 **貞直**(さだなお・笠井かさい、貞之さだゆき男)1715-61⁴⁷ 安藝竹原の浜主(塩田経営)の家の生/商家、
儒者、国学;玉木正英門/詩歌;松岡雄淵門、
[貞直(;)名)の通称/屋号]通称;正七、屋号;宗巴屋、神号;須奈保霊神
- J2001 **貞直**(さだなお・富田とみた、通称;外記、貞武男)1729-83⁵⁵ 加賀金沢藩士;1769遺知2千百石を継嗣;
越中魚津住、近習御用/1783没年3百石加増、
1772「魚津在住御用方勤帳」/1778-81「富田外記内状草案」
- F2040 **定直**(さだなお・相場あいば、鶴水堂)1775-? 江後期;1824「鶴水随筆」(:50年間の見聞記)
- C2014 **貞直**(さだなお・富小路とみのこうじ/本姓;藤原、伏原宣条男)1761-1837⁷⁷ 母;柳原光綱女、
富小路良直の養子、廷臣;1793従三位/37正三位治部卿、歌人、俳諧・書も嗜む、
加藤千蔭・本居宣長と親交、千蔭点「万葉略解」、1800玉屑「阿都満珂比」序、06「鳴鳳帖」著、
1811「蘭溪余香集」、「富小路貞直詠草」「山蔭中所新宅の歌」「貢竜」「古史序」著、
「富小路貞直卿詠歌并千蔭呈書」著、俳諧「万家名録」入、飯田つね子の師
[貞直(;)名)の字/号]字;子貞、号;蘭溪/如泥(;)俳号)
- 定直(さだなお・松平) → 三嘯(さんしやう・松平、藩主/俳人) E 2 0 4 0
定直(さだなお・今枝) → 重直(しげなお・今枝いまえだ、武将/藩士) N 2 1 4 4
定直(さだなお・竹田) → 春庵(しゅんあん・竹田たけだ、藩儒) J 2 1 1 8
定直(さだなお・松岡) → 雄淵(おぶち・松岡、神道) B 1 4 9 1
定直(さだなお・松岡) → 帰厚(もとあつ・松岡/越智、雄淵孫/国学) C 4 4 0 6
定直(さだなお・田代) → 鴉山(あざん・肅月斎、狂歌) C 1 0 6 9
貞直(さだなお・山鹿) → 素行(そこう・山鹿やまが、兵学者) 2 5 2 2
貞直(さだなお・斎藤) → 晩翠(ばんすい・斎藤、俳人) I 3 6 1 4
貞直(さだなお・長瀬/福住) → 清風(せいふう・福住/長瀬、商家/歌人) J 2 4 5 3
- J2002 **貞中**(さだなか・黒木くろき、平之允男)1699-1758⁶⁰ 熊本藩家老松井家の家臣;1719出仕(父を継嗣)、
中小姓/納戸役/軍法師/1736家譜調役、53隠居/剃髪、39旧記調を下命、
軍法に精通;極意の印可相伝を受、主君に随従し屢々江戸へ赴く、「清正勲績考」著、
[貞中(;)名)の通称/号]通称;理三郎/理助/栄助、号;石水、
- J2003 **貞中**(さだなか・佐伯さえき)1724-1804⁸¹ 伊予吉田の酒造業/俳人・のち歌人;森河高尹門、
冷泉為村門、1757「巖島歌仙合」編(;)雨律号)、「周桑歌人集」(八十賀の歌俳集)、「山月集」著、

[貞中(；名)の通称/号]通称；金吾/惟灯、号；山月/松下庵/彩牛庵/雨律/逸翁、
法号；寿嶺南巖居士

- J2004 **定中**(さだなか・喜早きそ/本姓；度会、清主きよぬし6男)1763-1823⁶¹ 伊勢山田の神職、伊勢神宮に奉仕、
篆刻を嗜む、「記録漫筆」著
[定中(；名)の字/通称/号]字；雅一、通称；因幡/大和、号；桐窓・富翁
貞中(さだなか・前田) → 貞国(さだくに・前田まえた、藩士/歌人) P 2 0 3 6
貞仲(さだなか・伊勢) → 貞勝(さだかつ・伊勢いせ/平、故実家) I 2 0 0 2
- C2015 **定長**(さだなが・大中臣おおなかとみ、定登男、叔父公長の猶子)?-1142 平安後期神職；従四下神祇権大副、
近江守、養父公長が職務停止処分のため連座；のち神祇権大副、歌；金葉672、
定範の兄弟、清長(空仁)の父
- C2016 **定長**(さだなが・藤原ふじわら、号；靈山、光房男)1149-1195⁴⁷ 母；藤原為忠女、廷臣；1187造東大寺長官、
1189参議/右大弁/95正三位勘解由長官、経房・光長の弟、「建久改元定記」「定長卿記」著、
千載集1159/1253、
[世を救ふ跡は昔に変わねどはじめ建てけむ時をしぞ思ふ](千載集；十九釈教1253)、
(後白河院の天王寺御幸に随従時の詠/創建は聖徳太子；救世観音御願の伝統がある)
- J2005 **定長**(さだなが・和気わけ、定成男/姓かばね；朝臣)1150-1185³⁶ 廷臣；官人/医者、六条天皇即位の宇佐使、
1167諸陵頭/因幡介/1176侍医/三河権介主税頭/1180美作権介/1184従四上、
1181「合薬方」「療治方」撰述五人の1(名医)、長成(；権侍医)の父
- C2017 **定長**(さだなが・藤原ふじわら、桜町通成男)?-? 鎌倉南北期歌人、五位、刑部権少輔?(勅撰作者部類)、
1346刊「風雅集」1850(；藤原定長/寂蓮の歌か；但し風雅集395/438は寂蓮法師とある)、
[またもこん春とはえこそいはし水立ち舞ふ事もありがたき世に](風雅集；雑1850)、
(石清水臨時祭の舞人の時宿の主の又こん春も待つべきの言に答えて詠/言はじ；石清水)
→ 寂蓮(じゃくれん、藤原定長/1172頃出家/俊海男、歌人) 2 1 3 9
- C2018 **貞長**(さだなが・祝部はうりべ、忠長男)?-? 1319^存 鎌倉後期神職；日吉社禰宜/歌人；続千載1967、
[遠ざかるものとはいはし思ひ出でて忍ぶところにかへる昔は](続千載；雑1967)
- E2085 **貞長**(さだなが) ? - ? 室町期尾張熱田神宮の神職、
連歌；1423「熱田法楽連歌」連衆(1句入)、
[松をも植うる庭の橘](熱田法楽；賦山何二表12/昔友をしのび橘だけでなく松も植樹、
前句；宗重；つれなくもなれしむかしの友待ちて)
- J2006 **定長**(さだなが・野沢のざわ、通称；忠兵衛)?-? 江前期武蔵川越の和算家、
1664「童介抄」著、77砲術書「算九回」(；算法による弾道論)編
- J2007 **貞長**(さだなが・牧野まきの/本姓；源、笠間藩主牧野貞通3男)1733-96⁶⁴ 越後長岡藩主忠敬の弟、
1749父の遺領継嗣；常陸笠間藩主襲封/従四下/越中守・備後守、奏者番/寺社奉行、
大坂城代/京都所司代歴任/1784老中就任；90辞職、国に長期不在；藩財政窮乏・領内荒廃、
打開できず1792致仕、1760「牧野越中守日記」著、
[貞長(；名)の幼名/号]幼名；道五郎、号；友月庵常山/沢翁、法号；泰竜院
- 02053 **定長**(さだなが・左八ささはち/本姓；藤波、) ?-1804 伊勢度会郡の内宮権禰宜、国学、
[定長(；名)の通称] 象磨きさまろ/掃部かもん
- 02020 **貞永**(さだなが・岡本おかもと、) 1776-1851⁷⁶ 肥前佐賀藩士、国学；芝山持豊門、
[貞永(；名)の別号/通称/号]別号；元永/貞国、通称；源右衛門、号；維鳩/髓巖/権が本
- N2036 **定永**(さだなが・松平まつだいら、定信の長男)1791-1838⁴⁸ 陸奥白河藩主；1812(文化9)父隠居；家督嗣、
溜間詰、1823(文政6)桑名藩に移封；松平忠堯を武蔵忍へ・阿部鍊丸を白河へ三方領替、
財政悪化；大坂商人から借財/1837(天保8)藩の飛地越後柏崎陣屋が生田万の乱勃発；鎮圧、
正室；綱姫つなひめ(蜂須賀治昭女/歌人)、江戸に没、長男定和が嗣
- C2019 **定祥**(さだなが・野宮のみや/本姓；藤原、野宮定静男)1800-58⁵⁹ 母；中山愛親女、廷臣；1835参議、
1840東宮(孝明天皇)三卿；側近/48権中納言・正二位・議奏；朝政参与/54権大納言、
1854祐宮(明治天皇)非常付；国事奔走、歌人、1811-58「定祥卿記」、「野宮定祥詠草」著、
「野宮定祥言渡備忘」、1841「日光道の記」51「石清水放生会記」外著多数、定功さださの父
[卯の花の垣穂の雪の浦曲をば鳴きてことわる山ほととぎす]、
(松平春嶽[古今百人一首]入47)

- 貞長(さだなが・織田) → 貞置(さだおき・織田/平、幕臣/茶人) H 2 0 8 4
 定長(さだなが・藤原、俊海男、俊成養子) → 寂蓮(じやくれん、歌人) 2 1 3 9
 定永(さだなが・大沢) → 順軒(じゅんけん・大沢おおさわ、儒者) J 2 1 4 9
- N2037 定永室(さだながのしつ・松平まつだいら、蜂須賀治昭女)?-? 白河のち桑名藩主松平定永(1791-1838)正室、
 歌人;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [心なきあまも今宵は舟出して浦わの月のみるめかるらん](大江戸倭歌;秋888/浦月)
- C2022 定成(さだなり・さだしげ・藤原ふじわら、朝元男、母;藤原通経女)1014-? 1086存 平安後期廷臣;
 従五下/肥前守/1086(応徳3)出家、女房歌人肥後の父、
 勅撰;千載127(後葉集80/金葉III94とほぼ同じ)、
 [いくかへりけふに我が身のあひぬらんをしむは春のすぐるのみかは]
 (金葉集;三奏本一春94/三月尽の心をよめる)
 女 → 肥後(ひご・京極前関白家/皇后宮、歌人) 3 7 5 1
 女 → 定成女(さだなりのむすめ、神祇伯源頭房の妻/頭仲の母)
- C2023 定成(さだなり・さだふさ・世尊寺せそんじ/本姓;藤原、経朝男)1254-9845 鎌倉期廷臣;正四下左馬頭、
 歌人、能書家、弘安源氏論議に参加、1292巖島社頭勸進和歌・93永仁元年内裏御会参;5首、
 1297八月十五夜歌合に参加、玉葉集奏覧本を清書(伝)、1284「願文」89「入木筆家相伝」著、
 「法然上人行状画図」書、
 勅撰7首;玉葉(5首281/421/549/723/2156)続千載(1681)風雅(557)、経尹つねまさの弟
 [くれかかるとほぢの空の夕立に山の端みせて照す稲妻](玉葉;夏421)
- J2008 貞成(さだなり・檜垣ひがき/本姓;度会わたらい、常信2男)?-1590 伊勢の神職;正五下外宮権禰宜、
 檜垣内膳家の祖、神宮使として豊臣秀吉を小田原陣中に見舞う/小田原で客死、
 「柳原殿点度会貞成和歌」、貞徳の弟、
 [貞成(;名)の初名/通称]初名;慶政、通称;内膳、
- J2009 定濟(さだなり・賀茂かも) ? - ? 神職、暦学に精通、「祭祀通考」「造暦集要」編
- J2010 貞成(さだなり・小池こいけ、通称;甚之丞)?-? 江前期信州松本藩主小笠原家の家臣;故実礼法、
 藩主転封に伴い播磨明石/豊前小倉に移住、礼法を教授;小池流と称す、「公武之記」、
 「神道墓目之秘術」「諸古礼」「書札之形書」「表刺之巻」「大書院飾之図」「宗長息女記」外多数
- C2024 定業(さだなり・野宮ののみや/本姓;藤原、定之2男)1759-181658 兄定晴の養子/廷臣;
 1804参議/14従二位、14権中納言、定静さだきよの父、歌人;「野宮定業詠草」、「野宮定業雑記」著、
 1771-1816「定業卿記」/1815「春日祭次第」著、法号;寛広院
- F2041 貞成(さだなり・三木みき、通称;平右衛門/西海の蘭臈)?-? 備前岡山の儒者;伊藤東涯門、
 浄瑠璃:大阪に行く度に同門穂積以貫と親交;1738注釈書「難波土産」著(:以貫筆録)
- J2011 貞発(さだなり・前田まえだ、貞事男)1842-? 1870存 幕末期加賀金沢藩士;7千石、
 1867「前田図書系図帳」著、[貞発(;名)の通称] 又勝/図書ざし
 定成(さだなり・坂上) → 定成(さだしげ・坂上、明法博士歌人) I 2 0 2 0
 貞成(さだなり・天野) → 貞成(さだしげ・天野、武将) I 2 0 2 1
 貞成親王(さだなり-ふさ-、伏見宮3代) → 後崇光院(ごすこういん) 1 9 3 4
 定成女(さだなりのむすめ、醍醐流源) → 院大進(いんのだいしん、歌人) E 1 1 6 9
 定成女(さだなりのむすめ、藤原) → 肥後(ひご・京極前関白家、歌人) 3 7 5 1
- 2021 貞主(さだぬし・滋野しげの、家訳男)785-85268 平安前期廷臣;文章生/大内記/正良親王の東宮学士、
 姓は元は伊蘇志臣/798滋野宿禰/823滋野朝臣、内蔵頭/宮内大輔/兵部大輔/大蔵卿歴任、
 式部大輔/842参議;正四下、嵯峨天皇に近侍、821「内裏式」編纂に参画、
 詩人:「文華秀麗集」「経国集」の編纂に参加、831勅により類書「秘府略」を他漢学者と共撰、
 仏教信仰;844邸宅を喜捨し慈恩寺建立、凌雲2首・文華秀麗6首・経国28首入、
 [枕上の宮鐘暁漏げうろを伝へ 雲間の賓雁ひんがん春声を送る
 家を辞さりて里許りき感に勝へず 況むや復他郷客子かくしの情をや]、
 (文華秀麗;37/「春夜鴻臚に宿りて渤海入朝王大師に簡す」)、
- J2012 貞主(さだぬし・菅沼すがぬま/本姓;源、初名;恒)?-? 江後期豊前中津藩士、指田流一節切の系譜に入、
 寛政1789-1801頃高山彦九郎・海量法師と交流、
 1801「賤民俚考」、「結階私考」「結階私考並図」「選叙令計考」「令覚書」、

- [貞主(；名)の字/通称/号]字;子升、通称;権兵衛/刑部ぎょうぶ、号;左檀子
- 定之丞(さだのじょう/さだのすけ・梅津)→ 白巖(はくがん・梅津うめづ、儒者) C 3 6 8 9
- 定之丞(さだのじょう/さだのすけ・関)→ 輝萼(きかく・関せき、和算家) J 1 6 8 5
- 定之丞(さだのじょう/さだのすけ・平田)→ 胤富(たねとみ・平田ひらた、藩士/随筆) R 2 6 8 6
- 定之丞(さだのじょう/さだのすけ・浅野)→ 慶熾(よしてる・浅野あさの、藩主/書/歌) K 4 7 6 1
- 定之允(さだのすけ・田村)→ 顕国(あきくに・田村たむら、国学者/神道) H 1 0 8 6
- 定之允(さだのすけ・筑和)→ 重姓(しげうじ・筑和ちくわ、藩士/国学) Z 2 1 4 5
- 貞之丞(さだのじょう/さだのすけ・本多、貞之助)→ 忠鄰(ただちか・本多ほんだ、藩主) P 2 6 8 2
- 貞之丞(さだのじょう/さだのすけ・田村)→ 道啓(みちひろ・田村たむら、歌人) C 4 1 4 0
- 貞之允(さだのすけ・松永)→ 貞辰(さだとき・松永/源、藩士/和算家) I 2 0 7 8
- 貞之助(さだのすけ・高階)→ 貞房(さだふさ・高階たかしな、藩士/国学者) J 2 0 6 0
- 定之助(さだのすけ・立羽)→ 不角(ふかく・立羽たちば/山崎、書肆/俳人) 3 8 0 3
- 定之助(さだのすけ・徳久)→ 知弘(ともひろ・徳久とくしき、藩士/和算家) Q 3 1 4 7
- C2025 定信(さだのぶ・源みなもと/三条、法名;道舜、信宗男)?-? 平安後期廷臣;従五上刑部大輔/1102出家、歌:1096-1126頃活動;藤原忠通家歌壇の常連、1096師時歌合・1118内大臣忠通歌合参加、後葉集(2首)・続詞花集・夫木集入、勅撰;4首金葉(3首Ⅱ124/523/683/Ⅲ124/514)千載403、[我妹子わぎもこに逢坂山の時鳥あくればかへる空に鳴くなり](金葉集;二夏124)[法性寺入道前太政大臣(藤原忠道)家にて 時雨をよみ侍りける音にさへ袂をぬらす時雨かな真木の板屋の夜半のね覚に](続詞花;冬286)
- C2026 定信(さだのぶ・藤原、定実男)1088-115669 母;源基綱女、廷臣;宮内権大輔/能書家、1140「白氏詩巻奥書」、「金沢本万葉集」書、一切経一筆書写、伊行の父/世尊寺伊経の祖父
- C2027 貞宣(さだのぶ・大佛おさらぎ/本姓;平/家名;北条、宣時男)?-? 鎌倉期武将;正和1312-17頃幕臣;五位、歌人;勅撰2首;続千載1886/続後拾遺437、[身ひとつのうきになしてもなげかまし人のいとはぬ此世なりせば](続千載;雑1886)
- C2028 定宣(さだのぶ・賀茂かも) ? - ? 鎌倉期歌人、四位、続千載1701、新後拾遺820、[つれなさを我も語らん時鳥おなじ心に待つ人もがな](続千載;十六雑歌1701)
- J2013 貞信(さだのぶ・大橋おおはし、重賢男)?-1615 武将;尾張津島の豪族、のち大和五条住、1615大坂陣の時大坂城に潜入;戦死(or江戸下向説もある)、「津島大橋記」著
- Q2016 定延(さだのぶ・久松ひさまつ、法号;臥林)1623-78 江前期;幕臣旗本5百石/腰物奉行、歌人;了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、[霜さむき入江の蘆の夜もすがら寝られぬ床とこに通ふ浦風](若むらさき;29霜/船中泊?)
- J2014 定誠(さだのぶ・花山院かざんいん、定好3男/本姓;藤原)1640-170465 母;鷹司信尚女、廷臣;次兄定教の嗣、1653藤原北家師実流花山院家24代当主/1661従三位/74正二位、1675-84武家伝奏、1683権大納言/84(貞享元)内大臣;86辞任/92落飾、能書家;藤木生直なりなおの師、持実/定重の父、1677「花山院誠公院記」84「伊勢例幣並春日祭次第考」、「定誠公記」「春日祭次第」著、[定誠(；名)の号]出家号(法名);自寛、法号;文恭院、
- F2023 定誠(さだのぶ・日野ひの) ? - ? 詩人;1695-東涯「当世詩林」正編入
- J2015 貞命(さだのぶ・檜垣ひがき/本姓;度会わたらい、常基男)1659-174688 伊勢神職;檜垣常和の養嗣子、伊勢度会郡坂之世古に住のち一之木に住、歌人、1676外宮十禰宜/1716従三位/18一禰宜;正三位/38従二位、「寛延遷宮記録」「外宮正遷宮行事大略」著、[貞命(；名)の通称] 重三郎
- J2016 貞宣(さだのぶ・小笠原おがさわら、河内常乗3男)1686-174560 小笠原貞久の養子;1715家督嗣;幕臣、1724甲府勤番;以後代々甲府在住、「書札聞書」著、貞宣(；名)の通称;伊左衛門
- J2017 定延(さだのぶ・高島たかばたけ、通称;左門)1690-176071 加賀金沢藩士高島定恒の養嗣子;金沢藩士、1748-58小松御馬廻番頭、1723「昌光院於江戸婚礼行列附覚帳」、「菅君雑録」外記録多数
- F2042 貞陳(さだのぶ・坪田つばた、号;負山子)?-? 京の詩人;1739富鈴「梅鏡」漢文跋
- P2051 貞庸(さだのぶ・美濃部みのべ/旧姓;青柳、)1696-174651 江戸の美濃部貞休さだやすの養子、

幕臣;道奉行、和学、

[貞庸(;名)の初名/通称]初名;貞演、通称;左伝次/庄介(養父の称)/右近/一左衛門、
法名;智空

P2024 貞陳(さだのぶ・福住ふくずみ、世貞つぐさだ[1687-1765]長男)?-1759 信濃飯田の商家;飯田藩御用達、
歌;澄月門、娘;海寿かいじゅ(・森本信就妻/歌人)、
[貞陳(;名)の通称]善之進/兵治郎/兵治良

2022 定信(さだのぶ・松平まつだいら/本姓;源、田安宗武7男)1758-1829 母;香詮院、
1774磐城白河藩主松平定邦の養嗣:83白河藩襲封:従四下上総介/越中守/侍従/左近少将、
農政重視・教育の振興、1787老中上席、1788將軍の補佐;田沼の重商主義批判、
寛政改革を推進、異学の禁断行、1793解任/溜間詰/1812致仕、
文人として諸道に通ず;詩文/書画/謡/茶道など、古典書写に精通、
歌人;歌風は父宗武の万葉風と異なり新古今風、息子定永の転封先の伊勢桑名で病没、
1781「言志集」「国本論」/85「関の秋風」87「花橘録」89「物価論」97「退閑雑記」著、
1804「輿車図考」編、05「楽亭筆記」09「月華集」/1812-28「花月日記」/17「函底秘説」著、
1818随筆「花月草[双]紙」19「旅の落葉」、26「独看和歌集」編/「花月亭筆記」「文化日歌抄」、
1827自撰家集「三草集(白河少将歌集)」(よもぎ・むぐら・あさち)、
1827「婆心録」29「風月集」著、「堀河三吟百韻」、「集古十種」著、
自叙伝「宇下人言いかのひとごと」「楽翁自伝」著、など編著百数十部、蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[人を見るにはまづ十とおにして五つばかりもよき事あるはいとよき人とみるべし、
十にして一つ二つもよき事あるはよき人なり、
十にして皆あしきをばあしきと心得給へ](花月草紙)、
[うきものもほどへて後はなつかしきおもかげみする霜のよもぎふ]、
(三草集;よもぎ序)、
[定信(;名))の幼名/字/通称/号]幼名;賢丸、字;貞卿、通称;たそがれ少将/夕顔少将、
号;旭峯/楽翁/風月翁/花月翁、法号;守国院

J2018 貞信(さだのぶ・歌川うたがわ、五香亭)?-? 江後期1818-30頃絵師:歌川国貞[3世豊国]門、
「五色調」「桂哥計」「花五十三駅」「二わか種囊」「新板サハリよし此」画

J2019 貞信(さだのぶ・片桐かたぎり、号;遜齋、貞彰男)1802-48 大和小泉藩主;1815家督/42致仕、
茶道;新石州流8世家元、さらに表千家流茶風を加え新石州流を唱道、
「論童茶則」「野中清水」「真台子伝授書」「石州流茶之湯系図」著

J2020 貞董(さだのぶ・ただ・檜垣ひがき/本姓;度会、松本恒彦長男)1807-78 檜垣常名の養子、伊勢の神職、
のち宮後みやじり朝喬の養子;朝輝に改名;不縁/再び常名の養子、伊勢西河原に住;
1832外宮八禰宜;従四上/52(嘉永5)従三位/68正三位外宮二禰宜/70一禰宜、
1871神宮改革により辞職;内宮禰宜となる、詩文・画を嗜む、「安政五年公卿勅使記」編、
[貞董(;名)の別名/字/通称/号]別名;宮後朝輝、字;子威、
通称;伊織/輔佐丸/右兵衛/宮後弾正みやじりだんじょう、号;竹窓

F2043 貞信(初世さだのぶ・長谷川はせがわ、茶巾袱紗商奈良屋長谷川治助男)1809-79 大阪の絵師、
大坂南船場安堂寺町住、本家の和紙問屋奈良忠に奉公、絵師;上田公長門、
のち歌川貞升門:浮世絵に転ず、1840-70頃活発に活動、1875貞信号を長男に譲り隠居、
1844「傾城筑紫の鞆つまご」と/46「即席噺」47「大会東一諷」、
1853「音曲竹の一節」54-57「大川仁政録」62-64「華袋」62「粹の懐」、「楽しみそう紙」外画多、
[初世長谷川貞信(;号)の通称/別号]通称;文吉/徳兵衛、
別号;有長/貞宣/緑一斎/信天翁/信翁/蘭考/浪華亭/南窓楼/

雪花園/猶園/五双亭/愛薫/雀叱、法号;寿徳院、貞信2世・小信2世の父
L2086 定信(さだのぶ・出雲路いずもじ/春原/斎部いんべ、)1812-86 京の神職;下御霊しもごりょう神社神主、
国学者/文法・有職に通ず、家伝の御霊神道を奉ず、
維新後;大学中助教/博物館鑑定議員を歴任、
[定信(;名)の字/通称/号]字;士成/成叔、通称;大和守、号;桂陰

02003 貞宣(さだのぶ・小笠原おがさわら、長坦男)1843-1907 信濃伊那郡伊豆木領主小笠原家の用人、
歌;小笠原長厚ながあつ・長裕ながかた父子の門/国学;平田鉄胤門、教派神道実行教小講義、

維新後;八幡神社祠官、副戸長/村助役、

[貞宣(;)名)の別名/通称]別名;熙宣/和志夫、通称;一太郎/建一郎/伊織/束

F2032 貞信(2世さだのぶ・長谷川はせがわ、初世貞信長男)1848-1940長寿93 大阪の絵師;父門/歌川芳梅門、1875父を継承;二世襲名、役者絵/風景・風俗画/戦争画、「雨夜のつれつれ三題咄」画、「おとし嘶」「為朝一代記」「文の枝折」「宮本無三四一代記」画、

[2世長谷川貞信(;)号)の通称/別号]通称;徳太郎、別号;小信(;)初号)、法号;明徳院

貞信(定信さだのぶ・藤原)→ 宗詮(むねあきら・藤原、廷臣/連歌) B 4 2 0 1

貞信(さだのぶ・勝田) → 竹翁(ちくおう・勝田かつた、幕府御用絵師) C 2 8 6 7

貞信(さだのぶ・木場) → 清生(きよぶ・きよお・木場こは、藩士/歌人) U 1 6 3 3

貞宣(さだのぶ・中島) → 貞晨(ていしん・さだとき・中島、俳人) 3 0 0 7

貞順(さだのぶ・伊勢) → 貞順(さだのり・伊勢/平、幕臣/故実家) F 2 0 4 5

貞陳(さだのぶ・西沢) → 太兵衛(たへえ・西沢、書肆/文筆家) 2 6 4 9

定信(さだのぶ・岡部) → 政信(まさのぶ・岡部おかべ、神職/真淵父) O 4 0 5 8

定信(さだのぶ・松平) → 定綱(さだつな・松平、藩主/儒/詩文) F 2 0 3 4

定信(さだのぶ・定平) → 安信(やすのぶ・小沢おざわ、京増七平、役人/歌) E 4 5 8 9

C2032 貞憲(さだのり・藤原ふじわら、通憲[信西]男/母;高階重仲女)1123?-? 1175存 平安後期廷臣;少納言、従四下権右中弁、1159平治乱後に土佐(or隠岐)配流/出家、歌人;言葉集・月詣集入、千載592、静賢・澄憲・成範(げのり)の兄弟、貞覚・貞慶(解脱上人)の父/阿波内侍の父?、

[限りありてふたつは着ねば藤衣涙ばかりを重ねつるかな](千載集;九哀傷歌592)、

(母重仲女と成範の母紀伊二位[朝子ちようし]の裳が重なった/藤衣は喪服)、

[貞憲(;)名)の通称] (出家後;)弁入道貞憲

F2045 貞順(さだのり/さだのぶ・伊勢いせ/本姓;平、伊勢貞久男)?-? 1559存 伊勢貞信の養子/故実家、室町幕臣、足利義輝に出仕;申次を務める、上使として九州下向時に没、素丹に「女房衣装次第」伝授、「貞順記」「伊勢貞順故実条々」「貞順故実集」「貞順色々記」「伊勢因幡守貞順廿八箇条」、「弓馬故実記」、1547「陪膳記」49「貞順豹文書」59「貞順軍札書」「産屋之規式」著、外編著多数、

[貞順(;)名)の通称] 六郎左衛門尉

J2021 貞徳(さだのり・檜垣ひがき/本姓;度会、常信長男)?-1593? 伊勢度会の神職;1560父継嗣;外宮九禰宜、

1572五禰宜/87従四上、連歌、1583「天正十一年五月十七日貞徳他行道之覚」著、貞成の兄

J2022 貞儀(さだのり・伊勢いせ/本姓;平、保寿庵祐怡男)?-1683 母;太田織部女、故実家、「武雑礼」著、

[貞儀(;)名)の通称/号]通称;七郎左衛門尉、入道号;祐是、伊勢貞烈さだつらの兄弟

P2020 定則(さだのり・平石ひらいし、通称;小五郎)1622-9473 近江彦根藩士、歌人;[彦根歌人伝・寿]入

J2023 貞則(さだのり・戸倉とくら) ? - ? 江前期豊後府内沖の浜の宿老、俳人、

元禄十一1696三千風が筑紫行脚で戸倉家に寄り「豊府聞書」の讃文を残す

C2020 貞徳(さだのり・清水しみず)1645- 171773 江戸の測量家;金沢勘右衛門門/オランダ流測量術修学、

1682師と陸奥弘前藩勘定人として江戸で仕官;88致仕/江戸で開塾、

樋口権右衛門のオランダ伝来測量術「規矩術」の伝書を整理;清水流を以って称す、

1686「図法三部集」98「清水流規矩術伝書随毛」1706「規矩元法町見市術」著、

1709「規矩元法別伝」、「規矩元法図解」「規矩術印可図解」「国図枢要」著、外編著多数、

[貞徳(;)名)の通称/号]通称;豊吉/太右衛門/九郎兵衛、号;元帰/元販斎げんきさい、

法号;来応元帰居士

Q2017 貞矩(さだのり・日戸ひと) ? - ? 江前中期;陸奥盛岡南部藩士;江戸詰?、

歌;1690元禄三年南部家江戸桜田邸詩歌会参加、

[立ちまよふ雨雲はるゝ麓より涼しく見ゆる山の端の月](桜田邸詩歌;雨後夏月)、

[寒さ帰る空に嵐の音添へて霞とはなき春の夜の月](同;余寒月/寒さが戻る冴えた月)

P2066 定則(さだのり・安永やすなが、旧姓;安藤)?-?(享保1716-36頃没) 江前中期筑前鞍手郡の神職/和学者、

鞍手郡八尋の十六じゅうろく神社祠官

N2015 貞憲(さだのり・檜垣ひがき/本姓;度会、常和男)1679-174971 伊勢度会わたらいの神職;外宮禰宜

J2024 貞儀(さだのり・堀ほり/本姓;菅原、忘斎男)?-1737 尾張名古屋藩士;1671小姓/93家督継嗣、

簡略奉行/御船奉行/1701致仕、「黄耆雑録」「朝林」著、貞紀の父、

[貞儀(;)名)の別名/通称]別名;貞忠(;)初名)/秀澄、通称;外記/治部右衛門

- J2025 **定準**(さだのり・立石たていし) ? - ? 江中期美作津山の工芸家、1756刊「匠家必用記」著
- P2063 **定令**(さだのり・矢部やべ、原田権兵衛英種2男) 1748-1813 66 江戸の幕臣/旗本矢部定章の養嗣子、1768(寛延5)家督継嗣;300石、69大番/85大番組頭/91御徒頭、1800(寛政12)堺町奉行、朝散大夫ちようさんたいふ;従五下、儒学・歌;加藤景範門、1813(文化10)没、歌人、定謙さだかた(幕臣/江戸南町奉行/1789-1842)の父、[定令(;)名)の通称]村次郎/彦五郎/下総守/駿河守
- J2026 **貞恵**(貞徳さだのり・宇野うの) 1764-1831 68 肥後熊本藩士;郡代/副奉行/藩校の授読、儒;経史に通ず/詩文を嗜む、1812「田賦考」著、[貞恵(;)名)の通称/号]通称;騏八郎、号;蘇翁(;)致仕後の号)
- J2027 **定宣**(さだのり・さだのぶ上原うえはら、通称;八左衛門) ?-? 小笠原流武家故実家;小笠原知成or小池貞成門、1821「獄木之図」、「積方図式」「婚礼次第」、「葬礼行列」「葬礼口訣」伝、水島之成の師
- P2080 **貞則**(さだのり・米田よねだ、通称;多蔵) 1783-1837 55 陸奥盛岡の剣術師範、三輪家入門/国学者
- J2028 **貞度**(さだのり・檜垣ひがき/本姓;度会わたらい、常観[良彦]男) 1784-1831 48 檜垣常古つねひさの養子;伊勢外宮神職;西河原住/1798外宮十禰宜/正五下/1819従三位/25三禰宜、国学;1813本居春庭門、のち本居大平門、歌人、1817「足代弘益副冠」編/22「遠祭記事」著、「古今集あみだつな」著、[貞度(;)名)の幼名/初名/通称]幼名;根丸、初名;常茂、通称;縫殿かい
- J2029 **貞則**(定則さだのり・平野ひらの) ?- ? 江後期武州忍藩士/江戸下谷三味線堀住、1814馬廻/19納戸/21御相手/22広敷用達・方々様傳役/41徒頭格、58隠居、「庸斎雑記」、[貞則(;)名)の字/通称/号]字;準甫(のりすけ?)、通称;休助/休右衛門、号;庸斎ようさい
- 02038 **貞規**(さだのり・和気わけ、貞国男) 1814-1902 89歳 伊予宇和郡双岩村中津川の庄屋;父継嗣、国学・歌;二宮正禎まさただ・野田広足・清家堅庭門、茶・華道;未生流自然斉門、1870(明治3)百姓一揆発生し庄屋を襲う時泰然と礼を以て応対;気概に吞まれ暴徒退散、晩年も歌道に精進;万葉・古今など歌書国典を筆写、清水雅見の師、[四拾番歌合(八幡浜歌人の歌合)](判者:近田八東)に12首入、[貞規(名)の通称]権九郎こんくろう/安芸
- P2010 **貞則**(さだのり・野村のむら、貞貫さだつら・さだよし男) 1814-51 38 筑前福岡藩士、国学者/歌人;父門、1829浦野もと(望東尼/1806-67)が継母となる、45(弘化2)父隠居;家督嗣、51(嘉永4)没、[貞則(;)名)の通称]卯左衛門/辰三郎/宇兵衛
- J2030 **貞至**(さだのり・是枝これえだ、仲兵衛貞兼男) 1817-64 48 薩摩谷山郷の商人/大隅高山郷で行商;帰郷、国学;歌;宇都宮東太・吉井清澄・大館晴勝・八田知紀門、俳諧;白茱門、勤王の志士、家老島津邸で国事尽力/1862寺田屋騒動連座;屋久島流罪、1860「羈中浮草」、1861「是枝柳右衛門詠草」62「是枝柳右衛門志天日記」、「是枝柳右衛門日記」著、[貞至(;)名)の通称/号]通称;柳右衛門、号;臥牛山人/浮天斎/如杉/唯無[雖無]/駢角/駢角せいかく
- J2031 **定辟**(さだのり・高島たかばたけ、安定やすさだ[撰山]男) 1826-? 1870存 加賀金沢藩士;1865-68御使番、1859「検使格帳」61「公儀御城米難船取捌之記」、「検使方先例」「聖堂之図」外記録多数、[定辟(;)名)の別名/通称]別名;辟、通称;五郎兵衛/善左衛門
- N2099 **貞規**(さだのり・内海うつみ、貞倚の長男) 1831-85 55 上野利根郡の肝煎名主;父を継嗣、国学・歌人;橋本直香ただか門、[貞規(;)名)の通称/号]通称;禹輔、号;蓬堂
- 02064 **定得**(さだのり・塩谷しおたに、) ? - ? 江後期;駿河府中の医者、国学;松本直秀(猶秀1791-1865)門、[定得(;)名)の別名/通称/号]別名;俊輔/信哉、通称;桃庵(代々の称)、号;髯洲ほうしゅう
- 定義(さだのり・菅原) → 定義(さだよし・菅原すがわら、孝標男/漢学) C 2 0 3 1
 定教(さだのり、歌人:「古風集」撰) → 定教(ていきょう) 3 0 5 8
 定則(さだのり・毛利/武田) → 謙蔵(けんぞう・武田/毛利、歴算家) K 1 8 7 4
 定則(貞則さだのり・勝田) → 竹翁(ちくおう・勝田かつた、幕府御用絵師) C 2 8 6 7
 定得(さだのり・中路) → 定得(じょうとく・中路なかじ、地誌刊行) L 2 2 2 5

定矩(さだのり・木村/遠藤)→ 曰人(わつじん・あつじん・遠藤/木村、藩士/俳人) 5 3 5 1
 貞度(さだのり・石黒) → 南門(なんもん・石黒いしぐろ、儒者) 3 2 4 0
 貞徳(さだのり・檜垣) → 秀俊(ひでとし・檜垣/度会、神職) D 3 7 3 2
 貞則(さだのり・鳥山/高橋)→ 巴山(はざん・高橋、儒者) E 3 6 3 3
 貞則(さだのり・小池/野崎)→ 巴明(はめい・野崎/小池、俳人) F 3 6 6 9
 貞則(さだのり・井上大和掾)→ 播磨掾(はりまのじょう・井上、浄瑠璃太夫) 3 6 2 8
 貞則(さだのり・長谷川) → 大館(おおだち・中村なかむら/長谷川、神職/歌) E 1 4 0 3
 貞矩(さだのり・玉井) → 勘解由(かげゆ;通称・玉井たまのい、藩士) L 1 5 4 2
 貞範(さだのり・源) → 馴窓(じゅんそう;法名、武将/歌人) K 2 1 1 9
 左太八(さたはち・長山) → 重行(じゅうこう・長山、藩士/俳人) X 2 1 2 4
 貞八(さだはち・秦) → 新村(しんそん・秦はた、儒者/藩士教育) 2 2 5 1
 貞八(さだはち・松岡) → 能一(よしかず・松岡まつおか、和算家) C 4 7 4 9
 貞八(さだはち・原) → 広済(ひろなり・原はら、国学) K 3 7 7 0
 貞八(さだはち・松尾) → 安定(やすさだ・松田まつだ、藩士/勤王) G 4 5 6 9
 貞八郎(さだはちろう・安原)→ 正郷(まささと・安原やすがら、商家/歌人) T 4 0 3 4
 貞八郎(さだはちろう・安原)→ 正令(まさよし・安原、正郷孫/商家/歌) T 4 0 3 6
 貞八郎(さだはちろう・日下)→ 誠(まこと・日下くさか、和算家) 4 0 7 8
 定八郎(さだはちろう・松岡)→ 清信(きよのぶ・松岡まつおか、和算家/同心) Q 1 6 1 2

- J2032 **定逸**(さだはち・野宮のみや/本姓;藤原、花山院忠長2男) 1610-5849 父忠長が後陽成天皇勅勘を受;
 父は1636まで蝦夷島遠流/1622祖父定熙の子として元服;野々宮家を興す、
 廷臣;1640従三位、1652武家伝奏/権大納言/54正二位、1656「公儀向へ遣状認帳」著、
 法号;高勝院、定輔の養父
- J2033 **貞治**(さだはち・進藤しんどう、初名;新介、長久男)?-1551 近江野洲郡の木浜城主/山城守、賢盛の父、
 六角家家臣;高頼・定頼に出仕;重用される/1538定頼の浅井攻に従軍/39北野社社殿修築、
 1547延暦寺と法華宗の調停/48年寄分、連歌:1547「天文十六年十一月七日何路百韻」参加、
 1537伊予千句連衆の貞治といと同一?
- J2034 **貞玄**(貞治さだはち・龍[竜]りゅう、貞清男) 1624-171188 伊勢度会郡の伊勢外宮祠官/国学・歌人、
 1681「伊勢名所拾遺集」編、「伊勢御鎮座遷幸図略本」著、
 [貞玄(;名)の通称] 新兵治
- J2035 **貞春**(さだはち・武宮たけみや、加兵衛男)?-? 因幡鳥取藩士;1661-1711頃活動/家学を受け砲術家、
 1668家督継嗣;5百50石、1675-1708「鉄砲伝書」著
- P2041 **定晴**(さだはち・松田まつだ、) 1683-172543 江戸の幕臣;御書院番士、和学者、
 [定晴(;名)の通称]六郎五郎/六三郎
- J2036 **定晴**(さだはち・野宮のみや/本姓;藤原、定之男) 1742-8140 廷臣;1772参議/77権中納言/79従二位、
 「定春卿記」、1766/67「論語問答」、「野宮定春生母追悼記」「春日祭次第並勘例附絵図」、
 「大嘗会参仕歴名部類」編/「野宮定頭等誕生記」外編著多数、法号;晴光院、定業さだのりの兄
- J2037 **貞喜**(さだはち/さだよし・牧野まさのり/本姓;源、笠間藩主貞長の長男) 1758-182265 母;松平乗佑女、
 常陸笠間藩主;1792襲封/従五下/備中守・日向守・越中守、父の代に荒廃した農村の復興、
 1793奏者番、1817致仕、学問・諸芸に通ず/俳人;可因門/歌人;冷泉為泰門/書;平林鴻山門、
 印刻;三井親孝門、茶人、貞幹さだもとの父、「藪鶯菊島」著、
 [貞喜(;名)の幼名/字/号]幼名;幸之助、字;子燕/九淵、
 号;春山/金英/諷詠堂/喬木園/暘谷楼、法号;寛信院
- F2047 **貞春**(さだはち・伊勢いせ/本姓;平、貞敦男) 1760-181253 母;伊勢貞丈女、江戸麻布の故実家、幕臣;
 1784祖父貞丈の遺跡継嗣;3百石/1789小姓組番士、1796幕命で「武器図説」編纂、国学者、
 「位署徴古」「進退口伝集」編、「笠懸聞書」「官職原始」「刀剣問答追考」「賀茂斎院記」、
 「伊勢流羽鏡」「箴之図」、1792「御弓場始次第」95「伊勢家蔵書目録」96「武器図説」外著多数
 [貞春(;名)の通称] 万助
- F2048 **貞晴**(さだはち・歌川うたがわ) ? - ? 江後期文政1818-30頃の大坂の絵師、
 1826柳園種春「色深狭睡夢いろふかみそらねのゆめ」(洒落本)画
- J2038 **貞治**(さだはち・穂積ほづみ/鱸すずき)?-? 江後期歌人、菅原道真の研究:

1815「菅贈太政大臣歌集」編/河井纓序

- N2026 貞温(さだはる・森もり、別名;秋津麻呂)1781-1849⁶⁹ 駿河有度郡の草薙神社神主、
国学;本居宣長門、栗田土満ひまろ門;師の女婿、太平「八十浦の玉」中巻;長歌1首・反歌入、
[古事の学びの道のいやましに弥いやさかえなむ万代までに](八十浦;587/反歌)
[貞温(;名)の通称]嘉内/斎宮/五十規/衛七
- 02070 定春(さだはる・菅沼すがぬま、定敬さだたか[1827-1900]男)?-?76 三河八名郡の国学者;父門、歌人、
「穉園言葉塵」「みどりの栄」著、定禧の父
- 貞治(さだはる) → 貞治(ていじ、連歌) B 3 0 0 3
貞治(さだはる・弭間はずま) → 淡遊(たんゆう・弭間はずま、俳人) T 2 6 6 0
貞治(さだはる・保田) → 光則(みつなり・保田、藩士/国学者) 4 1 2 8
貞治(定治さだはる・中村) → 国香(くにか・中村、儒者/郷土史家) B 1 7 4 8
貞晴(さだはる・蜂屋) → 宗意(そうい・蜂屋はちや/菅原、香道家) F 2 5 9 8
貞歙(さだはる・堀口) → 藍園(らんえん・堀口貞歙、儒者) B 4 8 6 1
貞霽(さだはる・伊勢) → 貞忠(さだただ・伊勢/平、幕臣/故実家) I 2 0 4 4
定治(さだはる・松平) → 定綱(さだつな・松平、藩主/儒/詩文) F 2 0 3 4
定治(さだはる・菅沼) → 定実(さだざね・菅沼すがぬま、幕臣) I 2 0 1 8
定晴(さだはる・久松) → 風陽(ふうよう・久松/菅原/菅、幕臣/尺八) B 3 8 0 7
定春(さだはる・小槻) → 伊治(これほる・小槻/大宮、廷臣/山口住) O 1 9 7 3
定春(定治さだはる・神谷) → 藍水(らんすい・神谷かみや、幕臣/和算家) C 4 8 7 5
- J2039 貞彦(さだひこ・妻木つまき、孟明の孫)?-? 江中期阿波徳島藩士/淡路洲本住;海防に当る、
京に遊学;国学・神道;藤井懶斎(山崎闇斎門)門、帰郷;津名郡王子村の神主井内光孝門、
吉田神道を修学、1720藩主に随従し出府/江戸の松村種常;小笠原定世門;古道説を修学、
国学;間宮定安(1647-1726)門/子弟教育、1758藩主蜂須賀重喜により追放、仲野安雄の師、
1747「和漢親疎」、58「和学大意」、「三疑破竹」著、
[貞彦(;名)の別名/通称]別名;成彦/直彦/克彦、通称;直助/彦助
- J2040 貞彦(定彦さだひこ・長谷川はせがわ、通称;興之助)?-? 江後期阿波徳島の国学者;本居大平門、
化政1804-20頃「阿波式内神社考」著
- 貞彦(さだひこ・上部) → 貞季(さだすえ・上部うわべ/度会、神職) B 2 0 5 4
貞彦(さだひこ・井出) → 道貞(みちさだ・井出いで、神職/史家) L 4 1 1 6
- C2033 定久(さだひさ・賀茂かも、忠久男)?-? 京の神職;上賀茂神社神主/従三位、
1351賀茂社務、歌;新後拾遺585、
[若菜摘むわが跡ばかり消えそめてよそには見えぬ雪まなりけり](新後拾;七春585)
[定久(;名)の号] 山神主
- J2041 貞久(さだひさ・賀茂かも、益久男)?-1490 京の神職;上賀茂社神社神主、
歌人;甘露寺親長の和歌月並会に参加、1474「鞠日記」著
- F2049 貞久(さだひさ・伊勢いせ/本姓;平、貞誠or貞泰男)?-? 故実家、下総守、「伊勢貞久武雑記」「書札鈔」、
1509「大内問答(義興貞陸問答)」筆記、1563「的出張之記」、「道照愚草」「書札法用」外著多数、
[貞久(;名)の通称/法号]通称;六郎左衛門尉、法号;道照、
1527清住寺河原の合戦で戦死した伊勢貞久(貞牧さだまさ男)とは別人
- J2042 定久(さだひさ・大森おもり、天満宮祠官大森定経男)1806-86⁸¹ 越中氷見郡上庄村の神職、
神道;六人部是香よしか門、維新後越中各地神社の神仏分離を行う/のち能登気多神社権宮司、
権少教正、1858「順考祭奠式」、「神祭式徴証」著
[定久(;名)の号]号;梅の舎、
- J2043 貞久(さだひさ・内藤ないとう、字;子恒/通称;小左衛門)?-? 江後期水戸彰考館史生/和算家;
小沢蘭江・岡崎義章・山路徳風門、「宣明曆草」著
- 02057 定壽(さだひさ・坂本さかもと)1837-1898⁶² 出羽能代の日枝神社別当坂本家の生、
国学者;平田鉄胤門、
[玉とみし千草の露にひきかへて秋も末野の露の寒けさ](能代坂本家墓地の歌碑)
[定壽(;名)の初名/通称]初名;安奴、通称;左源太
- 貞久(さだひさ) → 貞久(じょうきゅう、連歌) I 2 2 0 2

- C2035 **貞秀**(さだひで・松田まつだ/本姓;平)?-? 南北期;室町幕府奉行人/評定衆/従五位上丹後守、政所執事代/諸国守護奉行、歌人:1363覺誓法親王主催五十首;出詠、67新玉津社歌合参、自邸で歌合催(二条為重・卜部兼熙を招く)、「松田貞秀歌集」「鹿苑院殿御元服記」、「松田貞秀筆記」、歌;1387浄阿奉納[隱岐高田明神百首和歌]出詠、勅撰6首;新拾遺(1804)新後拾(3首)新続古(1476)、南朝の弁内侍と交流、[待ち出でて見るもつれなき我が身かなすむべき山の有明の月](新拾遺;雑1804)、[春来てはにぎはふりのけぶりかと見えてたなびく青柳の糸](高田明神歌;12/柳似煙)、[貞秀(;名)の通称] 八郎/八郎左衛門尉/丹後
- J2044 **貞秀**(さだひで・蒲生がもう) ? - ? 室町期永享1429-41頃;歌人、「蒲生貞秀詠草」「貞秀朝臣集」著
- G2011 **貞秀**(さだひで・蒲生がもう/本姓;藤原、法名;智閑ちかん、和田秀憲男) 1444-1514 71 蒲生秀綱の嗣、蒲生氏は近江蒲生郡日野を本拠とした豪族、六角氏の家臣、1453(10歳)出家;法名智閑、歌・連歌:宗祇より古今伝授、宗祇・兼載を招き連歌会催、三条西実隆の歌会に参加、1476「倭歌五十首」、「蒲生智閑和歌集」「貞秀宗祇両筆写」著、新菟玖波5句入 [貞秀(;名)の法名/通称/号]法名;智閑、通称;藤兵衛/刑部大輔、号;蛻塵軒せいでんけん、法号;信楽院、 秀行・高郷(定秀の父)・秀紀の父
- J2045 **貞英**(さだひで・伊勢いせ/本姓;平、貞勝男)?-? 1471存 兄貞綱の継嗣、故実家、「文明三年(1471)御内書案」著、
- J2046 **定秀**(さだひで・蒲生がもう、号;快幹軒、高郷男) 1508-79 72 近江の豪族;六角定頼の家臣;「定」を賜う、1522幕府寄りの本家蒲生秀紀を音羽城に攻撃;本家蒲生の家督を継嗣/日野城を築城、六角氏の主要合戦に参戦戦功/1558出家;剃髪後も浅井佐和山城攻撃など合戦参加、1567六角氏式目に宿老として連署/六角氏滅亡後は織田信長に出仕、連歌:1536宗定らと「何木百韻」
- P2079 **貞栄**(さだひで・吉井よい) 1693- 1765 73 伊予松山の国学者、安藝賀茂郡竹原に移住;商家[増田屋]経営;組頭・仲間役・塩田浜主、神道;玉木正英・松岡雄淵門、 [貞栄(;名)の通称/号]通称;平四郎、号;柯内、屋号;増田屋
- J2048 **定秀**(貞秀さだひで・菅沼すがぬま、菅谷政憲2男) 1699-1758 60 菅沼惣十郎貞業の養嗣子、幕臣、1724書院番/40使番、44養家の遺跡継嗣;46目付/50長崎目付/51長崎奉行/57勘定奉行、従五下/下野守、1753「呂宋国之様子漂流人共江相尋候趣申上候書付」著、 [定秀(;名)の通称/法号]通称;藤三郎/新三郎、法号;浄輪
- J2049 **貞栄**(さだひで・藤田ふじた) ? - ? 江後期京室町三条北の暦算家、「遼東豕談」著、1806「仮名暦本名頒暦略註」12「増補祇園会細記」著/20「祇園執行日記抄御霊会之部」編、 [貞栄(;名)の通称/号]通称;吉右衛門、号;錦里
- 02016 **定栄**(さだひで・砂沢すなざわ、) 1760-1831 72 陸奥(陸前)仙台藩士、国学;芝山持豊門、歌学;外山光実・高松公祐きみすけ/きんさち・加藤景範門、為胤の父/藩主伊達斉義の側室(於美寿の方)の父、 [定栄(;名)の通称]通称;三郎兵衛/十郎左衛門
- 02045 **定秀**(さだひで・河野こうの、) ? - 1838 江後期伊予宇和郡の商家;みのこしや、国学/歌人、 [定秀(;名)の通称]通称;久左衛門、屋号;みのこしや
- P2030 **定英**(さだひで・堀田ほった、通称;九郎三) 1834-1900 67 美濃岐阜の酒造業、桂園派歌人
 貞秀(さだひで・上部) → 貞季(さだすえ・上部うわべ/度会、神職) B 2 0 5 4
 貞秀(さだひで・赤松) → 了益(りょうえき・赤松あかまつ、医者/古典) G 4 9 5 1
 貞秀(さだひで・橋本/歌川) → 玉蘭斎(ぎよくらんさい、絵師) D 1 6 1 1
 貞仁(さだひと;名) → 白河天皇(しらかわてんのう、歌人) D 2 2 1 3
 定姫(さだひめ・松平、歌人) → 治好室(はるよしのしつ・松平、定信妹) H 3 6 0 7
- J2050 **定平**(さだひら・賀茂かも、憲定男)?- ? 1182存 平安後期廷臣;正四下主計頭、権暦博士;陰陽家、1182「賀茂定平朝臣記」著
- J2051 **定衡**(さだひら・三善みよし) ? - ? 1291存 鎌倉期;西園寺家の家司、西園寺実兼が鷹司冬平に琵琶秘曲[啄木]伝授の委細;「啄木御伝授西園寺殿家司定衡記」

- J2052 **定平**(さだひら・中院なかのいん/本姓;源、初名;良定、定成男)?-? 南北期廷臣;左中将/南朝;大納言、太平記に事蹟入、歌人;新葉2首629/1109、
[あはれなり八十年あまりの老が身に涙をそへてよわる虫の音](新葉;雑;1109)
- J2053 **定衡**(さだひら/じょうこう・藤原ふじわら、定重男)?-? 廷臣;官人;後光厳院北面/左衛門尉/伊予守、1443-5頃出家?、歌人;1443前摂政歌合(;藤原定衡名)参加・1446文安詩歌合参加(;定衡じょうこう法師名)、
[小牡鹿さをしかの朝たつ野辺に置く霜もまだあとみせぬ有明の月](文安詩歌合;十二番右)
- C2036 **貞衡**(さだひら・伊勢いせ/本姓;平、初名;貞輝、貞為男)1605-8985 故実家;幼時豊臣秀頼に出仕、二条城落城後徳川家康に謁し京武者小路に宅地受領/37家光に出仕/春日局の甥、幕府寄合/兵庫頭、家光女千代姫の婚儀に家伝の書籍118巻を書写献上、1672「伊勢系図」/79「延宝問答」82「参所引目鳴弦」、「天和問答」「真犬追物記」「太刀絵図」著、「伊勢家系図」編、
[貞衡(;名)の通称/法号]通称;清十郎/三郎、法号;宝照院
- M2001 **定衡**(さだひら・矢部やべ/本姓;藤原、四郎兵衛定則男)1719-8264 江戸幕臣;市左衛門幸定の養嗣、小十人/西丸の新御番、出家剃髪;空山、歌;1798石野広通「霞関集」入(妻の雅子[宝樹尼]と共に入集)、
[風さえて冬をときはの松が崎照る日に消えぬ氷室守るらし](霞関;夏317/氷室)
[定衡(;名)の通称/号]通称;辰次郎/源太郎、剃髪号;空山くうざん
- 02090 **貞平**(さだひら・富山とみやま、貞豪[1751-1815]男)?-1803 伊勢飯野郡射和いざわの商家;大黒屋(富豪)、国学・歌;父門/本居宣長門、早世、
[貞平(;名)の初名/通称]初名;定平、通称;岩次郎
貞平(さだひら・安原) → 霖寰(りんかん・安原やすはら、藩儒) K 4 9 0 7
貞平(さだひら・日野/樋口) → 三生(さんせい・樋口ひぐち/日野、医者) N 2 0 4 8
貞平(さだひら・小倉) → 真坂(まさか・小倉おぐら、商家/国学/歌) O 4 0 0 9
定平(さだひら・菅原) → 安信(やすのぶ・小沢おざわ、京増七平、役人/歌) E 4 5 8 9
定衡(さだひら・坪内) → 清穰(きよよし・坪内つぼうち、藩士/国学) U 1 6 7 9
定衡妻(さだひらのつま・矢部) → 宝樹尼(ほうじゆに、矢部雅子、能書/歌) G 3 9 0 2
- C2037 **貞広**(さだひろ・大江おおえ/長井、大江時秀男)?-? 宗秀の弟、鎌倉幕臣;左近将監/関東評定衆、日野俊光と交流、広泰の父、歌人、「出羽一宮歌」を勧進、柳風抄入、勅撰5首;玉葉(255/641/1853)続千載(1786)風雅(1535)、
[もろく散る花をばかろく吹きなして柳におもき春の夕風](玉葉;春255)
[かつめぐむわか葉はいまだみじかくて枝のみかぜになびくあをやぎ](柳葉抄;春15)
- C2038 **貞熙**(さだひろ・北条ほうじょう/本姓;平、熙時男)?-? 鎌倉後期武将;五位/左近衛将監、茂時の兄弟、歌人;続千載集1584、
[契りしはさて山の井の忘れ水わすれし後のみるかげもなし](続千載;恋1584)
- J2054 **定熙**(さだひろ・花山院がざいん/一字名;李/本姓;藤原、初名;家雅、西園寺公朝男)1558-163477 廷臣、右大臣花山院家輔の養嗣子、1579参議/従四下/1602改名;家熙、1619内大臣/20従一位、1621右大臣(10日間)、32左大臣(4日間)、1599漢和・和漢聯句/1617連歌「懐旧百韻」参加
- J2047 **貞広**(さだひろ・伊勢いせ/本姓;平、通称;右京、貞意さだおき/さだむね男)?-1722 加賀藩士;故実家、前田綱紀に出仕、国学者、1707父の遺跡継嗣;百人扶持/小姓組、「弓法聞書」編、1703「太刀作之記たちつくりのき」著
- J2055 **貞弘**(さだひろ・明石あかし、初名;吉重、吉勝男)?-? 江中期;福井藩士;初め藩重臣酒井玄蕃の家臣、1715松平吉邦に出仕;大番士、武田流軍学者;片山三盛・若竹有貞・雨森清貞門、1716-38頃福井藩の兵法指導;門弟百余人、「南越雑話」著、
[貞弘(;名)の通称/号]通称;藤太夫、号;一隅軒
- P2002 **貞寛**(さだひろ・鯉江なまざえ/本姓;平、通称;介三郎)1699-178385 近江彦根藩士、歌人;[彦根歌人伝・鶴]入
- J2056 **定寛**(さだひろ・鈴木すずき、了徳男)1754-88早世35 大阪の医者/医学・相学;父門、儒;奥田尚斎門、医;各務文獻・古野了作門、1778「刪補家伝預葉集」編(岡本玄治「家伝預葉集」の増補)、

1779「相法摘要」84「傷寒訳通」、諸方の招聘で傷寒論を講義、
[定寛(；名)の字/号]字；温卿、号；旭山、諡号；十如院日讓

J2057 **定広**(さだひろ・眞宮まみや、定奥男)1755-1804⁵⁰ 母；山県頼寛女、羽後秋田藩士；1765出仕、
1770大番組/1777家督継嗣、副役・切支丹改を歴任、歌人、「乞食袋」著、
[定広(；名)の別名/通称/法号]幼名；運蔵、初名；定経/定保、
通称；三右衛門/采女/靱負/内蔵允くらのすけ、

P2007 **貞寛**(さだひろ・西村にしむら/本姓；藤原、)1759-1831⁷³ 近江彦根藩士、歌人；[彦根歌人伝・鶴]入、
[貞寛(；名)の通称/号]通称；十助、号；日心亭

F2050 **貞広**(初世さだひろ・歌川うたがわ)?- ? 江後期大坂豊屋町三筋寺町の絵師；歌川国貞(3世豊国)門、
天保-弘化1830-48頃役者絵・風景・風俗画、1829-丘山「俊傑神稲水滸伝」画/35「街能囃」画、
1835「浪花夢」37「敵討義恋柵」38「傾城佐野の船橋」42「契情会稽山」45「大坂名所廻」画外多、
[初世貞広(；号)の別号] 浮世貞広/五蝶亭/五楽亭/五粽亭/五輝亭/南々川/南川

N2056 **貞寛**(さだひろ・服部はつとり/本姓；平)?-? 江後期；歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[蕙かづらかかるともみぢの色なくは秋とも知らですぎの下庵]、
(大江戸倭歌；秋976/蕙紅葉)

貞弘(さだひろ・村井) → 多治満(たじま・村井、砲術) O 2 6 9 7

貞広(さだひろ・藤尾) → 東鳳(とうほう・藤尾、書家) H 3 1 1 6

貞裕(さだひろ・岡谷/大橋) → 綽堂(しゃくどう、大橋/平、医者) W 2 1 1 0

貞寛(さだひろ・黒坂/三浦) → 竜山(りゅうざん・三浦/黒坂、儒者/藩士) E 4 9 1 6

貞熙(さだひろ・町原) → 照磨(ひろまる・町原まちはり/甲斐、藩士/儒) L 3 7 0 2

定広(さだひろ・毛利) → 元徳(もとりのり・毛利/大江、藩主/歌人) D 4 4 8 6

定広(さだひろ・青木) → 存久(ながひさ・青木あおき、歌人) K 3 2 7 3

C2039 **定房**(さだふさ・源みなもと、源雅兼男/中院源雅定の猶子)1130-88⁵⁹ 母；源能俊女、平安後期廷臣；
藏人頭/1157参議/58従二位/66正二位/68大納言/88病のため出家、詩歌・書に秀づ、
千載2首(30・523)、月詣集入集、定忠の父、

[昔より散らさぬ宿の梅の花分くる心はいろに見ゆらむ](千載集；春30)、

(紅梅の枝に結び俊成に贈る歌/散らさぬは秘蔵し外に出さぬと花を散らさぬを掛る)

[定房(；名)の通称] 堀川大納言

C2040 **貞房**(さだふさ・大佛おさらぎ/本姓；平/旧姓；北条、宣時男)1272-1309³⁸ 鎌倉期武将；幕臣；越後守、
従五下/1308六波羅探題として上京、歌人/勅撰2首；玉葉882/続千載2066、
[霜のしたの落葉をかへす木枯にふたたび秋の色を見るかな](玉葉集；冬882)

2023 **定房**(さだふさ・吉田よしだ/本姓；藤原、吉田内大臣、経長男)1274-1338⁶⁵ 母；葉室定嗣女、廷臣；
右中弁、藏人頭/右兵衛督/1302参議/18続千載集奉行/19権大納言/30従一位、
1334内大臣；民部卿兼任、後醍醐天皇の乳父として信頼厚い；1337吉野参仕；南朝の廷臣、
後の三房さんふさ(北畠親房・万里小路宣房)の1、隆長の兄、宗房・守房の父、
「吉槐記」「吉槐記裏書消息」「吉口伝」「除目撰定秘抄」著、
歌人；1319文保百首/24石清水歌合参加、正中百首・拾遺現藻・続現葉・臨永・松花集入集、
勅撰9首；新後撰(466)続千(277/356/636/780/1814)続後拾(3首)、新葉(325/936/1114)、
[冬がれば跡なき野への夕暮に霜をふきしく風ぞさむけき](新後撰集；冬466)
[橘のかげふむ道を過ぎやらでしばしまたるる郭公かな]、
(文保百首；夏1421/続千載；夏277)

P2088 **貞房**(さだふさ・由良ゆら、忠繁長男)1626-1674⁴⁹ 母；近藤用可女、旗本/幕臣、
1639(寛永16)父没；家督嗣；由良家4代当主、1640書院番/61内裏造営のために上京、
1665(寛文5)高家職；従五下・侍従/信濃守、以後由良家は高家旗本に列す、歌人、
正室；朽木友綱、5男1女の父(頼繁・繁栄・貞寛・横瀬貞頭の子)、1674(延宝2)没、
[すむとともかひなかりける世の中は木の葉隠れの山の井の水](茂睡[鳥の迹]述懐648)

J2058 **定房**(さだふさ・夏目なつめ、通称；軍八、定吉男)1627-? 学問；1637孝仍法師門/41山城淀藩士、
藩主永井尚政に出仕、父(上杉景勝に出仕；軍功)の話の軍記「管窺武鑑」著

J2059 **定房**(さだふさ・藤とう、斉延男)1694-1732³⁹ 対馬藩士/神道(家学)を修学；神職、

小笠原礼法;古川家入門、「対馬編稔略」編/1723「本州編稔略」著、「対馬古伝」「好識草」著、
「清水山伊豆山八幡宮伝記」「神功皇后三韓征伐」著、齊長の兄、
[定房(;名)の初名/通称]初名;定清/定許、通称;右近

J2060 貞房(さだふさ・高階たかしな)1784-184764 出羽久保田の生/秋田藩士;1799大小姓、
1807松前に出兵(25騎の1)、歌;加藤千蔭門/国学:本居大平門、秋田本居派組織、歌人、
「菅園日記」「旅寝のすさみ」「庭の松風」著、貞臣・大山重華・橋本宗彦の父
歌;大平撰「八十浦の玉」下巻入、
[そこ宝御宝ぬしと神世よりたふとき宝彌やさかきの玉](八十浦;854/玉)、
[貞房の通称/号]通称;平吉/貞之助/鞆負、号;広主ひろぬし/菅園

F2051 貞房(さだふさ・歌川うたがわ、本姓;大沢)?-? 江後期江戸京橋桶町の絵師:国貞(3世歌川豊国)門、
大坂へ移住、文政-嘉永1818-54頃役者絵・美人画・合巻挿絵を描く、1803「狂歌問答」画、
1821「ぬしにひかれて善光寺参詣」31「菊黄金陸奥」39「神田御祭礼」45「倭二十四孝」画、
1848「勸善浮世車」49金鷲「茶番今様風流」画/56「五十三次老東路」57「見世物語」画外多数、
[歌川貞房(;号)の別号]五亀亭/五楓亭/桶蝶楼とうちょうろう/震斎/橘庵

貞房(さだふさ・由良) → 親繁(ちかしげ・由良ゆら、幕臣/奥高家) 2 8 9 5
定房(さだふさ・藤原、1293吉槐記) → 定房(さだふさ・吉田) 2 0 2 3
定房(さだふさ・広岡) → 宗信(そうしん;号、広岡、俳人) C 2 5 2 0
定房(さだふさ・前原) → 伊助(いすけ・前原まはら、藩士/義士) F 1 1 7 2
定成(さだふさ・世尊寺) → 定成(さだなり・世尊寺/藤原、書・歌人) C 2 0 2 3
貞成親王(さだふさしんのう、伏見宮3代) → 後崇光院(ごたういん、歌人) 1 9 3 4

J2061 定藤(さだふじ・葉室はむろ/本姓;藤原、初名;為雄/為雅、定嗣男)?-1315 母;大中臣時継女、廷臣、
1284参議/85従三位/93正二位、「宣旨并勅裁案定藤記」著

P2099 貞藤(さだふじ・二階堂にかいどう/本姓;藤原、行藤[1236-1303]男)?-? 鎌倉期武士;左衛門尉、
従五下出羽守、1320(元応2)出家;法名道蘊(;大平記)、時藤・宗藤の兄弟、歌人;柳風抄入、
[よそながらたづねもゆかでせめてそのあたりのことをする人もがな](柳風抄;恋125)

J2062 貞藤(さだふじ・伊勢いせ/本姓;平、貞国男/貞親の弟)1432-9160 故実家、備中守、足利義尚の御供衆、
政所奉行、「御供古実」「御成次第古実」「九十六条聞書」著、
[貞藤(;名)の通称/号]通称;八郎、号;瑞笑軒、法号;瑞笑軒怡安常喜

N2083 定文(さだふみ・飯川いかわ、)1747-180458 近江彦根藩士、歌人、儒者/詩人、
[定文(;名)の字/通称]字;墨林、通称;友五郎

貞文(さだふみ・服部/山岸) → 貞文(ていぶん・山岸、藩校助教) B 3 0 6 5
貞文(さだふみ・松井) → 元泰(もとやす・松井、製墨業/詩/俳人) E 4 4 4 7

2024 貞文(定文さだぶん・平たいら、好風男)?-923 桓武天皇皇子仲野親王の曾孫、874父と共に臣籍;平姓、
891内舎人/三河権介/侍従/右馬権介/従五上/左兵衛佐に至る、歌人;中古三十六歌仙の1、
905「平定文家歌合」主催、好色で有名;戯画的に説話化;歌物語「平中物語」として成立、
勅撰26首;古今(9首238/242/279/666/670/823/964/965/1033)後撰(6首)拾(5首)以下、
[あき風の吹き裏がへす葛の葉のうらみても猶うらめしき哉](古今;恋823)、
(秋と飽き/裏見てと恨みて/を掛る)、
[貞文(;名)の通称]平中/平仲/尉の君

定平(さだへい・村上) → 範致(のりむね・村上、藩家老/砲術家) F 3 5 9 4
貞兵衛(定兵衛さだへい・奥村) → 得義(のりよし・奥村、藩士/国学) G 3 5 3 2

J2063 貞牧(さだまさ・伊勢いせ/本姓;平、貞房男)?-? 故実家;下総守/1457-87頃の室町幕臣;殿中申次、
「私刀記」著、
[貞牧(;名)の別名/通称]初名;貞数/貞扶、通称;二郎左衛門尉

C2042 定雅(さだまさ・大中臣おおなかとみ、雅光男)1123-118967 平安後期歌人、六位、千載689/新古430、
御裳濯集3首入、光輔・親実の兄、
[わが床には信夫のおくの真菅原まげはら露かゝるとも知る人のなき](千載;恋689)、
(信夫の露は忍ぶ涙、類歌;古今集;秋188/読人しらず、
ひとり寝る床は草葉にあらねども秋くる宵は露けかりけり)

C2043 定雅(さだまさ・花山院かざいん、忠経3男/本姓;藤原)1218-9477 母;藤原宗行女、廷臣;

1234(文暦元)参議/正四下、1239正二位権大納言/50大納言/左大将、
1252(建長4)内大臣/右大臣/左大将兼任/54辞任、56出家、
歌人;1247嵯峨院歌合参/1251影供歌合参加、1253-4成立[雲葉集]入(前右大臣名)、
勅撰7首;続後撰(670)続古(1446/1688)続拾遺(260/1453)新後撰(1059)玉(1072)、菟3句入、
[恋ひわびて消えなんのちの煙だに思ひありきと人に知らすな](続後撰;恋670)、
[定雅(;名)の号/法名]号;栗田口あわたぐら/後花山院のちのかざいん/花山院前右大臣、法名;隆覚

J2064 貞雅(さだまさ・伊勢いせ/本姓;平、貞長4男)1394?-147481? 室町幕臣;足利義教に出仕;
1431-35(永享3-7)及び40-44(永享12-嘉吉4)頃右筆を務める、駿河守、故実家、
「鞍之図」/「書札礼之事」著、
[貞雅(;名)の別号/通称/法号]初名;貞高/貞通、通称;五郎、法号;照安

F2052 定正(定政さだまさ・上杉うえすぎ/扇谷上杉/本姓;藤原、上杉[扇谷]持朝3男)1443-9452 武将;
相模守護、関東管領山内上杉家の分家、
扇谷家家宰の太田道真・道灌父子が河越城・江戸城を築城;扇谷家の勢力が拡大、
1473当主上杉政真が古河公方に敗れ戦死;叔父の定正が家督継嗣、扇谷城主となる、
1477長尾景春の乱で上州に逃走;太田道灌[持資]の活躍により乱平定、
1486道灌の強大さを恐れ相模糟屋館に招き謀殺、これにより多くの家臣離反、
1488本家山内顕定と合戦;一時は連勝するが勢力は疲弊/1494荒川渡河中落馬;没、
馬琴の「南総里見八犬伝」に扇谷定正として登場、「上杉定正消息」/1489「上杉定正長状」著、
[定正(;名)の通称/号]通称;修理大夫、号;範亭、法号;護国院

J2065 貞昌(さだまさ・伊勢いせ/本姓;平、有川貞真男)1570-164172 伊勢貞興の養嗣/故実家、
儒;文之玄昌門、薩摩藩士;従軍戦功/朝鮮役・関ヶ原に関与、1624藩主に随従し江戸出府;
以後定府、林羅山と交流、
1627「書札礼節証本」30「御成之記」50「伊勢貞昌書出」、「貞昌記」著、
[貞昌(;名)の通称/法号]通称;弥九郎/兵部少輔、法号;舜翁豪英

J2066 貞昌(さだまさ・片桐かたぎり、初名;貞俊、貞隆の長男)1605-7369 母:今井宗薫女/撰津茨木の生、
片桐且元(賤ヶ岳の七本槍の1)の甥;1614(慶長19)且元の人質とし板倉勝重に預けらる、
1617將軍秀忠に謁/1627(寛永4)大和小泉藩2代藩主;父の遺領相続、石見守/従五下、
1万3千石、1633-41知恩院再建の普請奉行;綾小路柳馬場住;小堀遠州・松花堂昭乗と交流、
大徳寺玉室和尚・玉舟和尚に参禅;三叔宗関の道号を受;大徳寺内に高林庵建立、
1642関東の郡奉行、土木建築に功績;1645遠州・関東堤防巡視/47相模馬入川巡視、
1650伊勢・美濃の水害巡見/53富士川・天竜川堤防巡視/68郡奉行返上致仕、
茶人;桑山宗仙門、石州流茶道の祖、1665將軍家綱の前で点茶式・茶器の鑑定;
以後將軍家の茶道宗匠、徳川光圀・保科正之・松浦鎮信の茶道の師、
正室:大久保忠常女、下條信隆・信明・貞房・松田貞尚の父、3男貞房が家督嗣、
「石州茶書」「石州流初百箇条」「石州虚実流活花初伝」「宗関翁自註三百ヶ条」「藻志穂草」、
「茶の湯之大事」「茶の湯十三箇条」「台子寸法」「霜月之巻」「片桐宗関覚書」外著多数、
[貞昌(;名)の幼名/通称/号]幼名;鶴千代、初名;貞俊、通称;長三郎/石州せきしゅう、
号;宗関/宗白/能改庵/浮瓢軒/松隠庵/高林斎/頓斎、法名;道称、法号;高林院

J2067 定政(さだまさ・松平まつだいら、通称;能登入道/号;不伯)1610-7263 三河刈谷城主/1651出家:
幕府老臣への風諫書簡

J2068 貞政(さだまさ・住友すみとも、通称;勝兵衛)?-? 江前期京の商家;大阪の住友家祖政友の親族、
1629馬の治療書「驍驍かりゅう全書」著

M2098 定雅(さだまさ・姓不詳) ? - ? 江前期備後福山俳人:貞門系/1679宗臣むねじ「詞林金玉集」入

J2069 定政(さだまさ) ? - ? 美作津山の俳人:1692常牧「冬ごもり」3吟(聴霜・梅兄と)入

P2033 貞正(さだまさ・堀家ほりけ、通称;左馬之進)?-1767 備中賀陽郡の吉備津神社社家頭、国学者、
堀家政富の祖父

O2095 定雅(さだまさ・中田なかた/本姓;源、?)?-1827 江戸の商家/国学者;平田篤胤門、
[定雅(;名)の通称/屋号]通称;源右衛門、屋号;山崎屋

J2070 定能(さだまさ・松平まつだいら、小笠原長恒2男)1758-183174 母;前田長泰女、幕臣松平定則の養嗣子、
1773養父遺跡継嗣;寄合/1785持筒頭/西丸番頭/百人組之頭/1805甲斐勤番頭、

小姓組頭/西丸書院番頭/大番頭/1816駿府城代/19嘉千代付側衆/20西丸詰、
駿河守・飛騨守・伊予守、地誌「甲斐国志」編(甲斐勤番中10年かけ編纂)、
[定能(；名)の別名/通称/号]別名;光氏(；初名こうてい・みつと?) /仲賢、
通称;貞次郎/侶之允ともすけ、号;鷹山ようざん

J2071 **定政**(さだまさ・山尾やまお、初名;治七)1790-1861⁷² 佐渡相川の絵図師山尾章政あきまさの養子;
1822養家を継嗣、絵図師/詩歌;田中葵園社中に属す、
「佐渡海岸絵図」「金銀採製図」「佐渡国金銀吹立図」画、
[定政(；名)の通称/号]通称;衛守(養父の称)、号;鶴斎

J2072 **定理**(さだまさ・菅原すがわら) ? - ? 江後期武州葛飾小松川の国学者、
1838「花のしがらみ」(；沼田順義ゆきよし「級長戸風しなとかぜ」の論難書)、「鈴屋翁系譜略」編

J2073 **定政**(さだまさ・北浦きたうら、義十郎男)1817-71⁵⁵ 大和添上郡古市の農家の生、
1821(15歳)伊勢津藩古市奉行所の手代/その間算学・歌・画を修学、儒学;斎藤拙堂門、
国学;富田泰州やすくに・本居内遠門、古陵の調査測量に尽力;1863津藩士に登用;御陵用掛、
1866独礼格に昇進;光仁天皇陵などの陵長となる、勤王思想強く伴林光平らと交流、
1848「打墨繩大和之部」52「平城京大内裏跡坪割の図」、「神武天皇御陵考」「采目考」、
「夙村考」「奈保山二陵考」「班田坪割図」「河内御陵略記并略図」「大和御陵考遺稿」外著多数、
[定政(；名)の幼名/通称/号]幼名;安太郎、通称;善助/義助/茂助、号;靈亀亭、

P2071 **貞順**(さだまさ・山田やまだ、市郎左衛門)1834-98⁶⁵ 備前岡山藩士/国学者、閑谷神社祠官
☆足守藩医の山田貞順ていじゆん(寛/?-1905/種痘活動)とは別人

定政(さだまさ・中山/秋山)→	玉山(さよくざん・秋山、藩士/儒者)	1 6 4 1
定正(さだまさ・徳江)	→ 春正(はるまさ・徳江とくえ/藤原、藩士/詩歌)	K 3 6 4 7
貞昌(さだまさ・安部)	→ 鐘成(かねなり・暁あかつき、戯作者)	C 1 5 9 3
貞雅(さだまさ・葎窓)	→ 葎窓貞雅(りっそうさだまさ、戯作者)	C 4 9 1 1
貞正(さだまさ・内藤)	→ 左兵衛(さへえ・内藤、藩士/奉行)	L 2 0 5 5
貞正(さだまさ・津軽)	→ 儼淵(げんえん・津軽、儒者)	E 1 8 8 2
貞正(さだまさ・藤田)	→ 北郭(ほっかく・藤田ふじた、藩士/書)	E 3 9 5 6
貞正(さだまさ・桐生)	→ 利正(としまさ・桐生きりゅう、歌人)	V 3 1 0 0
貞政(さだまさ・小笠原)	→ 忠知(ただとも・小笠原おがさわら、城主)	Q 2 6 1 2
貞政(さだまさ・桑山)	→ 貞寄(さだより・桑山、幕臣/記録)	K 2 0 3 8
貞幹(さだまさ・木下)→	順庵(じゆんあん・木下/平、幕府儒官/教育)	2 1 5 4

J2074 **貞益**(さだまさ・伊勢いせ/本姓;平、貞守2男)1693-1725³³ 幼時山片宗章の養子/1710兄貞永早世;
家督継嗣;禄千石/寄合、故実家;徳川吉宗に家伝書を披閲、
以後屢々武家故実の質問に応答、
「鑑之伝記」著、「酌並記」注、貞丈の父、
[貞益(；名)の通称/法号]通称;九十郎/勘左衛門/兵庫、法号;隆昌院

J2075 **貞升**(定升さだまさ・藤田ふじた、嘉言男)1797-1840⁴⁴ 関流和算家;家学、筑後久留米藩士;父を継嗣、
江戸詰勘定奉行、「四斜板問題解」、「藤田貞升筆草稿」、阿部知翁・村井長央の師、
[貞升(；名)の通称/号]通称;権四郎、号;閑海

F2053 **貞升**(初世さだまさ・歌川うたがわ)?-? 大坂船場の素封家/農人橋松屋町住、
絵師;歌川国貞(3世豊国)門/天保-嘉永1830-54頃役者絵・風景画、晩年は四条派に転向、
1846円馬「落嘶千里藪」画、「閨の友月の白玉」画、
[初世歌川貞升(；号)の別号] 五蝶亭/、五蝶斎/一樹園/一樹斎/国升/行升

貞松(さだまつ・弭間) → 淡遊(たんゆう・弭間はずま、藩士/俳人) T 2 6 6 0

C2044 **定丸**(さだまる・紀きの、姓;吉見よしみ、名;義方、吉見佐吉男)1760-1841⁸² 江戸牛込住の旗本、
母;大田南畝の姉、狂歌・狂詩・黄表紙作者、天明狂歌壇で活躍、
1797学問吟味に及第/1805支配勘定/勘定組頭、1784「新田通戦記」、89「狂月坊」編、
1790「雄長老寿話」1807「雀百まで」26「五十三次道中詩撰」著、
狂歌;1782橘州「狂歌若葉集」16首/85赤良「徳和歌後万載集」22首/87「狂歌才蔵集」入、
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入(源好聞名)、
[君をのみ思ひまゐらせそろばんのたまさかにあふ中ぞわりなき](後万載;九恋)、

(十露盤そらばんの縁語;玉・割/候・たまさか・わりなきを掛ける)、

[紀定丸(;)号)の通称/別号]通称;儀助、初号;野原雲輔のほらのくもすけ、

別号:紀定麿/本田原勝栗、晩年号;巳人亭為丸いじんてためまる、法号;昇進院

P2064 貞丸(さだまる・社やしほ、信義男)?-1913 代々近江蒲生郡馬見岡うまみおか綿向わたむき神社祠官、
神道・平田国学;西川吉輔(1816-80)門・猪熊夏樹(1835-1912)門、
[貞丸(;)名)の字/号]字;威信、号;瑞岳・瑞廼舎みずのや

貞丸(さだまる・富小路) → 任筋(にんせつ・富小路、坊官/勤王家) G 3 3 6 0

02037 貞麿(さだまる・菊池きくち、)1815-188470 佐渡雑太郡の里正、官賞屋号;山本屋授与、
国学者/歌・挿花を能くす、

[貞麿(;)名)の通称/号]通称;新左衛門、号;自芳齋/枳舟きしゅう、屋号;山本屋

定麿(さだまる・上田) → 及淵(いきぶち・上田/平井、藩医/国学) Q 2 1 1 0

N2072 貞躬(さだみ・味羽あじは/本姓;源、)?-1812? 近江彦根本町の古手物呉服商;伏見屋、

国学・歌;本居宣長門/師没後は彦根藩士村田泰足(1749-1823)門、

[貞躬(;)名)の通称]通称;伏見屋喜三郎

02007 定身(さだみ・小保内おぼない、定知男)1834-8350 陸奥二戸郡福岡町の生/吞香稻荷神社神官、
国学者;平田鉄胤門/歌人;前田夏蔭・近藤芳樹門、江戸で久坂玄瑞・安積五郎らと交流、
帰郷後;盛岡藩革新運動失敗/藩論は佐幕に決す、維新後;盛岡県大属/致仕後教育振興、
父の興した槻蔭舎を会輔社とし国学・華・茶・書・画・歌を教授、

[定身(;)名)の通称/号]通称;定三/官司、号;狂懶きょうらん/江濤

定省(さだみ・源) → 宇多天皇(うだてんのう、歌人) 1 2 6 8

N2085 貞幹(さだみき/さだもと・石川いしかわ/本姓;源)1843-64処刑22 因幡鳥取支藩鹿野新田藩士、
国学;平田鉄胤門、尊攘派/1862(文久2)脱藩;1863京で足利氏木像梟首事件に参加、
大和の天誅組挙兵に参加;敗戦し捕縛;1864(元治元)処刑、

[貞幹(;)名)の別号/通称/変名]初名;真魁まさき/万佐伎/道倅、通称;六郎/一はじめ、

変名;竹内新八郎

02008 貞幹(さだみき・尾崎おさき、)?-? 江後期武蔵忍藩士、国学者/培根堂教頭、絵師、

1861-62「石城日記」著、

[貞幹(;)名)の通称/号]通称;舒之助/隼之助じゆんのすけ、号;石城

忍藩の儒者尾崎梁甫りゅうほ(名;貞幹)と同一?

貞幹(さだみき・尾崎) → 梁甫(りゅうほ;字・尾崎おさき、藩儒者) F 4 9 6 1

C2045 定通(さだみち・藤原ふじわら、通称;七日弁、保実男/母;頭綱女)1085-111531 平安後期廷臣;少納言、
正五下/兵部大輔/1115右少弁、歌人;1113「少納言定通歌合」主催、和漢兼作・続詞花集入、
勅撰3首;金葉136/千載145/新古798、

[焼きすてし古野ふるのの小野のまくずはら玉まくばかりなりにける哉](千載;夏145)

C2046 定通(さだみち・土御門つちみかど/本姓;源、通親4男)1188-124760 母;藤原範兼女の従三位藤範子、
兄通宗の猶子、鎌倉期廷臣;1202従三位/14正二位/36内大臣、歌人;自邸で歌会主催、
万代・和漢兼作集入、勅撰6首;新勅撰(104)続後撰(95/546)続古(1798)続拾(1422)新続古、
[かへるさの道こそ知らね桜花散りのまよひにけふは暮しつ](新勅;春104/建暦二大内)

[定通(;)名)の通称] 後土御門内大臣のちのつちみかどのないだいじん

2025 貞陸(さだみち・伊勢いせ/本姓;平、貞宗男)1463-152159 故実家;伊勢・備中守、室町幕府政所職執事、
1482自邸で犬追物の儀を催、將軍義政義植に武家故実を伝授、「大内問答」「申次故事」、
「書札之案」「御成時宜被仰聞条々」著、

[貞陸(;)名)の通称/号]通称;七郎、号;吸古齋、法号;勝蓮院

C2047 貞通(さだみち・稲葉いなば、長通[一鉄]男)1548-160356 母;三条西公条女、安桃期美濃の武将;
初め斎藤家に出仕、のち織田信長に従う;父と各地転戦、1579家督継嗣;美濃曾祢城主、
本能寺変後は本国に逃亡、豊臣秀吉の家臣;家督を長男典通に譲渡、
1583秀吉に従い伊勢攻撃/87九州遠征、息典通が秀吉の機嫌を損ね蟄居;再び家督の座、
1588郡上八幡に入り八幡城の大改修/1588後陽成天皇の聚楽第行幸に供奉;羽柴姓を賜う、
1590小田原攻参加・92文禄役に渡海、1600関ヶ原戦では初め西軍で犬山城守備、

のち東軍に寝返り戦功、豊後臼杵城主となり60万石;初代臼杵藩主となる、
「聚楽第行幸記」(群書類従41)に詠草入(曾祢侍従豊臣貞通名)、
[かげたかき松にひかれて君が世の久しかるべき行多しるしも](聚楽第行幸記;寄松祝)
[貞通(;名)別名/通称]別名;以鈍、通称;彦六/右京亮うきょうの掛け

- C2048 **貞道**(さだみち) ? - ? 京住の俳人、1687新徳ら「三月物」・言水「京日記」に入集
1691江水「元禄百人一句」目録入
- F2054 **貞通**(さだみち・牧野まきの、藩主成貞男)1707-49⁴³ 日向延岡2代藩主;1719襲封/34奏者番、
1735寺社奉行、吉宗が裁判法典作成を下命;
老中松平乗邑のりさとの命で;1742「御定書百箇条(公事方御定書下巻103条)」を共編;
(共編者は三奉行;寺社奉行牧野貞通・勘定奉行水野忠信・町奉行石河政朝)、
1742従四下京所司代就任/47常陸笠間藩主(初代)に転封、
[貞通(;名)の幼名/別名]幼名;幸之助、初名;貞俱
- J2076 **貞道**(さだみち・前田まゑだ、貞一男)?-1823 加賀金沢藩士;1802出仕;千石/09定火消、
1809家督継嗣/18家老/22若年寄兼任、1818「御家老覚書」著、貞事の養父、
[貞道(;名)の通称] 又勝/中務
- C2049 **貞融**(さだみち・あき・岩下いわした/滋野げの、岩下貞諒[文兆]男)1801-67⁶⁷ 信濃善光寺大門町葛屋の生、
素封家、1819名古屋で儒学;冢田大峯門/京で詩文;頼山陽門/江戸で国学;清水浜臣門、
帰郷;善光寺別当大勧進出仕/楽人、伴信友・黒川春村・寺門静軒と交流、1832「草津私記」、
家集「桜園歌集」、「桜園文集」、1851歌文集「不繫舟つなぐね」著、1860延好「楡実ぎのみ」序
1862「桜園雨後」、「義僕伝蔵伝」「善光寺史略」「芋井三宝記」「沓野日記」「莫囂円隣歌解」著、
[貞融(;名)の字/通称/号]字;会侯のりまろ、通称;多門、号;桜園おうえん/菅山/太子堂/古堂
- J2077 **定通**(さだみち・松平まつだいら、定国5男)1804-35^{32歳} 伊予伊予松山藩主;1809(6歳)早世の兄定則の嗣、
伊予松山藩11代藩主/定勝系久松松平家宗家12代、母:側室祐光院殿(林氏女)、
菅良史・高橋忠董ら名臣に補佐され松山藩中興の名君となる、質素儉約/殖産興業、
教育振興;1828藩校明教館設立;日下陶溪・高橋復斎を教授に招聘、従四下侍従/隠岐守、
詩文、「聿修館遺稿」、妻は田安斉匡なりまさ女で歌人(1808-60)→定通室(さだみちのしつ・松平)、
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[秋の夜のふけゆく月にくる雁は幾千代かけて契りおきけん](大江戸倭歌;秋927)、
[定通(;名)の幼名/字/号]幼名;保丸/勝丸/三郎四郎、字;元志、号;亀陽/皐鶴/祝山、
法号;爽肅院
- J2078 **貞道**(さだみち・小笠原おがさわら)?-1868 常陸水戸藩士;1850出仕、
「磐城温泉日記」「続水戸紀年」「文恭院様御事業」(;将軍家斉業績)「水府諸士略譜草稿」著、
[貞道(;名)の通称]勝太郎/五兵衛
- 貞道(さだみち・伊勢) → 貞雅(さだまさ・伊勢/平、幕臣/故実家) J 2 0 6 4
貞道(さだみち・元木/畑) → 鶴山(かくざん・畑はた/修姓;銭、医者/儒) J 1 5 9 1
貞通(さだみち・江木) → 鱈水(がくすい・江木えぎ、藩士/儒/兵学) E 1 5 7 3
貞路(さだみち・安田) → 貞方(さだかた・安田やすだ、国学者/歌人) O 2 0 0 9
弁道(さだみち・山田) → 弁道(べんどう・山田やまだ、修験/国学) S 2 7 5 7
- N2031 **定通室**(さだみちのしつ・松平まつだいら、田安斉匡なりまさ女)1808-60^{53歳} 徳川斉荘なりたか室(貞慎院)の妹、
1819(文政2)伊予松山藩主松平定通と結婚、1835(28歳)夫と死別;剃髪;法名**貞寿院**、
松山藩と将軍家や田安德川家との架け橋を務める、歌人;
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[幾千代もつみはやさまし武蔵野の広き恵みにもゆる若草](大江戸倭歌;春160)、
[定通室の名/号]名;鎌子ごし、号;楽只らくし/法名;貞寿院、法号;貞寿院鑑誉探徳妙皓大姉
- B2016 **貞光**(さだみつ・碓井うすい)954 - 1021⁶⁸ 平安中期の武士;源頼光の四天王の1、
大江山の酒吞童子征伐の伝説など伝説的武士
- B2034 **定満**(さだみつ・宇佐美うさみ、房忠男)1489-1562or64^{74/76} 戦国期の武将;越後琵琶島城主、
上条上杉家臣、1536長尾為景に春日山城で敗北/のち長尾景虎(上杉謙信)に出仕;戦功、
上杉四天王の1、
(のち大関定祐により軍学者[宇佐美定行]の名で謙信の軍師とされる)

- J2079 **貞満**(さだみつ・伊勢いせ/本姓;平、貞遠男)?-? 故実家;右京亮/加賀守、室町幕臣;
天文-永禄1532-70頃足利義輝に出仕、御小袖御番衆、1533「伊勢加賀守貞満筆記」著、
[貞満(;)名]の通称/号]通称;与一郎/次郎左衛門尉、出家号;常怡
- J2080 **貞光**(さだみつ・広橋ひろはし/本姓;藤原、広橋綏光2男)1643-9957 母;三条西公勝女、
廷臣;兄兼茂の継嗣、1666参議/75正三位/77権中納言、
「貞光卿記」1660「貞光卿御八講参仕記」著、1664「内侍所御神楽申沙汰事」著、
[貞光(;)名]の別号/法号]初名;国宣、法号;空誉性寂
- J2081 **貞盈**(さだみつ・檜垣ひがき/本姓;度会わたらい、常生男)1665-172763 伊勢神職;1686外宮十禰宜、従五上、
1723外宮二禰宜/24従三位、1694「一切成就祓鈔」1703「御鎮座本紀俗解」04「日所作祓抄」、
1711「服忌令合解」15「神道啓蒙」22「両宮按内記再註」、「古語拾遺集解」外著多数、
[貞盈(;)名]の通称]内匠たくみ/求馬
- P2054 **定満**(さだみつ・宮村みやむら、)1767-184680 近江彦根の陶器商、国学者、
[定満(;)名]の字/通称/号]字;不溢ふいつ、通称;菱屋六郎兵衛、号;藍園/菱園
- J2082 **貞詳**(貞祥さだみつ・富田とみた、通称;織人、貞行男)?-? 江後期加賀金沢藩士;1854越中新浜在番、
1856-63公事場奉行、1854「役高陣列略記」/58「公事場御用留下帳」外記録多数
- J2083 **定允**(さだみつ・野宮ののみや/本姓;藤原、竹屋光有男)1848-66天逝19 野宮定功さだいさの養嗣子、
野々宮定毅の実兄、廷臣;1865侍従;従五下、
1864-66「定允朝臣記」/1865「石清水臨時祭舞人參仕記」著
貞充(さだみつ・三浦) → 葛山(かつざん・三浦みくら、藩士/儒者) N 1 5 3 5
貞盈(さだみつ・小西) → 帯河(たいが・小西こにし、俳人) J 2 6 3 9
定光(さだみつ・日尾) → 荊山(けいざん・日尾ひお、儒者/詩人) 1 8 0 5
定満(さだみつ・宇佐美) → 良勝(よしかつ・宇佐美うさみ/藤原、兵学者) C 4 7 8 2
- F2055 **定**(さだむ・源、四条大納言/賀陽院かやのいん、楊梅、嵯峨天皇皇子)815-86349 母;百濟慶命女、
828賜姓;源、大納言/右大将/正三位、至いたる/精せい/唱の父、順したごうの曾祖父
さだむこ(定子・大野)→ 定子(さだむるこ・大野おの/井上/榎本、歌) J 2 0 8 7
- F2056 **定宗**(さだむね・藤原ふじわら) ? - ? 平安後期:1171藤原実宗「坊槐記」入
- C2050 **定宗**(さだむね・源みなもと、顕定男/母;源光行女)?-? 1195存 平安後期廷臣;従四下少納言・民部少輔、
宗房・定遍(東寺長者)・宗遍(仁和寺僧)・玄修(延暦寺僧)の父、
歌人;1178賀茂別雷社歌合・95民部卿経房家歌合参加、玄玉集入、千載1072、
[山桜花をあるじと思はずは人を待つべき柴の庵いほかは](千載;雑1072/反実仮想の用法)
- J2084 **貞宗**(さだむね・小笠原おがさわら、宗長男)1292?-134756? 母;赤沢政常女、信濃伊那郡松尾館の武将、
北条高時に属す/元弘の変に勅命を受け鎌倉攻で武功/武者所;足利尊氏の師範;戦功、
信濃井川城に住;信濃守護となる、従五下、射藝騎乗に長じ犬追物を得意、
後醍醐天皇に秘伝を授ける?、臨濟禅;清拙正澄門;正宗名、伊那に禅刹開善寺を創建?、
「矢開日記」「犬追物口伝日記」「犬追物次第」「武者言葉大概」「礼儀条目百ヶ条」「修身論」、
「弓聞書」伝/「武進猿乗」注、1342「犬追物目安」「小笠原信濃守目安」著、
[貞宗(;)名]の幼名/通称]幼名;豊松丸、通称;彦五郎、法名;正宗しょうしゅう、法号;開善寺
- M2096 **定宗**(さだむね・源みなもと/入江羽林、入江少将入道)?-? 武将;鎌倉幕府將軍の側近、
早歌;1314明空「拾葉抄」;五明德」19?「別紙追加曲」鹿島靈験/同社壇切」作曲
- Q2009 **貞棟**(さだむね・度会わたらい、)? - ? 鎌倉南北期;伊勢外宮神職;権禰宜/神主、
歌;1334(建武元)度会朝棟亭歌会参加(3首)、
[名取川秋の半ばもあらはれてくもらぬ月や今宵なるらん](朝棟亭歌;61)、
[是ならで何をうき身に頼ままし月に契らぬ宵と思はば](同62)
- C2052 **貞宗**(さだむね・大友おとも/本姓;平たいら、大友親時3男)?-1333 母;戸次親時女、豊後守護、鎮西奉行、
従五下/左近将監/近江守、鎮西探題滅亡に関与、出家;禅僧に帰依;顕孝寺など創建、
明極楚俊・竺仙梵僊を招聘、京南禅寺聴松院に没、歌人;1331成立「臨永集」入、
勅撰3首;続千載1723/続後拾遺897/新千載1810、
[潮くまぬひまだに袖や濡らすらんあまの苦屋の五月雨の比こり](続千載;雑1723)、
[貞宗(;)名]の幼名/法名/通称/法号]幼名;孫太郎、法名;具簡、通称;江州入道、
法号;顕孝寺直庵具簡

- C2051 **定宗**(さだむね・中山なかやま/家名;堀河/本姓;藤原、中山家親男)1317-7155 廷臣;藏人/1349参議、1364従二位/67権中納言、親雅の父、京極派歌人;1342持明院殿歌合・43院六首歌合参加、1363覺誉法親王家五十首・67新玉津島社歌合参加、勅撰13首;風雅(590/906/1305)新千(807)新拾(428/1295)新後拾(4首)新続古(3首)、[いづるより雲もかからぬ山の端をしづかにのぼる秋の夜の月](風雅;六秋590)
- C2053 **貞宗**(さだむね・伊勢いせ/本姓;平、貞親男)1444-150966 室町幕臣;1466家督嗣/71府政所執事、故実家;兵庫頭/備中守、1487山城国守護職/將軍足利義尚の養育係;幕府内で重鎮、歌・連歌;幕府歌会など参加、新撰菟玖波5句入、1471「射鏡」73「八回図」1501「笠懸馬場」、「伊勢貞宗記」「伊勢貞宗故実記」「犬追物雑々」「犬追物八廻日記」「弓張記」外著多数、[貞宗(;)名]の通称/号]通称;七郎/汲古、剃髮後の号;全室/常安、法号;金仙寺
- G2021 **定宗**(さだむね・長井/永井ながい、夏目八左衛門2男)1668-1703切腹36 母の実家長井伝兵衛家を継嗣、岩代会津藩士/兵法;伊南芳通門/奥義を極む、儒・和漢学に通ず、1692「本朝通記」編;献上、その功により儒官;藩財政にも関与、1697?元締役;財政救済策として1700藩札発行;弊害生じ責を負い切腹、1698「日本通記」著、[定宗(;)名]の通称/法号]通称;九八郎、法号;義嶽宗忠居士
- J2086 **定統**(さだむね・佐八さばち/本姓;荒木田、通称;隼人)?-? 江後期文政天保1818-44頃伊勢宇治の人、国学者/歌人、「定統筆乗」「定統覚書」1832「文政十三年宮中類焼記」著、丙戌年月次歌会参
貞宗(さだむね・北条/大仏)→**惟貞**(これさだ・大仏おさざき/北条、鎌倉幕臣/歌)E 1 9 1 9
貞宗(さだむね・二階堂)→**頓阿**(とんあ・とんな:法諱、時宗僧/歌人) 3 1 6 7
貞宗(さだむね・松浦)→**宗案**(宗安そうあん・松浦、武家/勸農家)F 2 5 8 9
貞意(さだむね・伊勢)→**貞意**(さだおき/さだむね・伊勢いせ/平、故実家/藩士)J 2 0 8 5
- 02099 **定群**(定村さだむら・永富ながとみ、定政男)1798-186164 播磨揖保郡新在家村の庄屋;豪農、藩財政に寄与、国学・歌;長治ながはる祐儀かけし門、国学者/歌人;茶の湯・立花・兵法を修得、永富家の日記「高関堂日記」の大半を著、宗定の父、[定群(;)名]の通称]六兵衛
定群(さだむら・木田余)→**群樹**(むらき・木田余さだまり/源、藩士/歌)D 4 2 7 3
- J2087 **定子**(さだむねこ・大野おの/井上/榎本)1831-9363 大和郡山の生/歌;井上文雄門;井上文雄の養女、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入/60鋤柄助之「現存百人一首」入、1864文雄「さきはひ草」入、江戸住/1873(明治6)礪川れきせん小学校教師(最初の女性教師);読書・習字・裁縫を教授、1880学習院裁縫教師、1882「千題千首明治歌集」著、生涯の作歌;2万首余、大槻文彦の叔母、[小ぐるまの賀茂河づたひやりかへせ河原の月にひと涼みせん]、(大江戸倭歌;夏553/文雄女貞)、[村時雨染めてあらひておろしくる落葉に光る夕づく日かな](現存百人一首;30)、[定子(;)号]の名/号]名:節/貞/さだむこ、号;不二園
- J2088 **貞用**(さだもち・近藤こんどう、季用男)1606-96長寿91 母;加々爪直澄の養女、幕臣;1612父の遺跡継嗣、紀伊頼宣に出仕;1620直属の臣下;遠州井伊谷3千140石知行、1624小田原城番の祖父秀用と小田原へ赴く/祖父の遺領併せて5千5百50石の知行、領内開発に功績、鉄砲頭/百人組頭/寄合、1682致仕、神儒仏三道を修学、黄檗;隠元隆琦門、独湛どくたん性瑩・木庵もくあん性瑠しょうとう門、画も嗜む、「近藤氏由緒書」「近藤氏書上」著、[貞用(;)名]の通称/号]通称;勘助/登助、号;語石(;)致仕後)、法号;棲雲院
- 02025 **貞持**(さだもち・賀陽かや、)1779-182749 備中賀陽郡の吉備津神社社家、国学;藤井高尚門、「吉備津宮略書記」著(;)中世の吉備津神社年中行事を紹介)
- C2054 **貞懐**(さだもと・さだやす・さだかね・大江おおえ、貞秀男)?-? 南北期の廷臣、従五下大蔵少輔、歌人;風雅1524、[木かげゆくいはいねの清水底きよみ映るみどりの色ぞすずしき](風雅集;雑1524)
- P2086 **貞幹**(さだもと・藤田ふじた、貞固男)1676-172954 常陸水戸藩士;1703父隠居;家督嗣;6千石を継ぐ、弟貞馬2千石で分知、御書院番頭/大寄合頭(家老に準ず)、歌人、1729(享保14)父に先立ち没、貞一が家督嗣、[照す日のあつさしれとやけふも又朝けの空の薄陰るらん]、(茂睡[鳥の迹]夏240/朝曇りは日照りの元)、[貞幹(;)名]の初名/通称]初名;万之介、通称;式部/左平/左門/主膳

- 2026 **定基**(さだもと・野宮のみや/本姓;藤原、中院なかのいん通茂2男)1669-1711⁴³ 母;野宮定逸女、
叔父野宮定輔の養子、1677叔父の遺跡継嗣/廷臣;1704参議/10正三位/11権中納言;没、
有職故実家;高橋宗恒門/応仁乱以来断絶の賀茂祭の再興に尽力、賀茂社関係史料の蒐集、
「新野問答」著(新井白石との故実問答)、水戸家「礼儀類典」補訂、「伊勢物語厳訓抄」、
歌;「野宮定基詠草」「野宮定基集」、「本朝故実記」「平家物語考証」「賀茂祭再興記」外著多数、
[定基(;名)の別名/号]初名;親茂、号;松堂/四酔、法号;深広院 定俊の養父
- 02065 **定基**(さだもと・久松ひさまつ/松平まつだいら、定陳の長男)1687-1759⁷³ 伊予今治藩4代藩主、
定房系久松松平家4代、1700(元禄13)従五位下/美作守、1702父没;采女正を継嗣、
総社川の改修工事(;未完成)、正室;松平直丘女、
1732養子定郷(松平定昌6男)に家督譲渡;隠居
- J2089 **貞幹**(さだもと・前田まへだ、貞直男)1721-49^{早世}²⁹ 加賀金沢藩士/1740若年寄見習/42若年寄、
1744家督嗣/45家老、「前田貞幹筆記」/1746「前田貞幹手記」/47「公子覚書」著、貞一の父、
[貞幹(;名)の通称]外記/中務
- J2090 **貞根**(さだもと・檜垣ひがき/本姓;度会むらい、常広男)1727-85⁵⁹ 伊勢の神職;1748外宮十禰宜/従四下、
1777従三位/81一禰宜;正三位、1775「祓勤仕次第及両宮神拜式」81-5「貞根卿日次」著、
[貞根(;名)の通称] 常松/志摩
- 2027 **貞幹**(さだもと/ていかん・藤原ふじわら/修姓;藤とう、律師玄熙男)1732-97⁶⁶ 京の故実家、1742得度/49還俗、
国学・歌;日野資枝門/有職故実;高橋宗直門/書;持明院宗時門/儒;後藤芝山・柴野栗山門、
篆刻;高芙蓉と親交、裏松固禪(光世)に親従;「大内裏図考証」を援助、内裏復旧に尽力、
水戸彰考館修史事業に関与、1776「無仏齋記」81「衝口発」96「好古日録」、「無仏齋文集」、
「無仏齋随筆」「無仏齋手簡集」「蒙齋日録」「国朝書目」「好古小録」「逸号年表」外著多数、
[貞幹(;名)の字/通称/号]字;子冬、通称;叔蔵、
号;無仏齋/蒙齋/亀石堂/盈科堂/端祥齋/好古/芙蓉
- J2091 **貞幹**(さだもと・有沢ありさわ、武貞男)?-1790 加賀藩士;1739父の禄三分の一継嗣/41本知2百石、
槍奉行、軍学者、歌人、「十城之図」、1755「兵器集纂」、1756-79「日積録」84「甲辰紀行」外著多、
[貞幹(;名)の字/通称/号]字;伯因、通称;小太郎/才右衛門、号;藍水堂
- J2092 **貞幹**(さだもと・牧野まさの/本姓;源、藩主貞喜だはる2男)1787-1828⁴² 常陸笠間藩主;1817家督継嗣、
父の藩政改革を継承;人材育成/藩校充実/医学所博菜館・武芸所講武館創設、1823奏者番、
従五下/越中守、「花木写生」「琉球草木写生」著/「草花写生」「写生遺編」画/「欽慕画譜」編、
[貞幹(;名)の幼名/通称/法号]幼名;外之助、通称;駒吉、法号;靖徳院、貞一・康哉の父
- J2093 **貞幹**(さだもと・村部むらべ、通称;年輔、元参男)?-? 江後期伊勢久居藩士、佐善ざん雪溪の弟松林の裔、
1810「唐物語拔書証註」、「望月日記」著
- J2094 **貞基**(さだもと・竹内たけのうち/一時山本姓、竹内良太夫2男)1813-63⁵¹ 肥前長崎生/砲術;高島秋帆門、
1827兄山本晴海に代り家職;長崎奉行所出仕/1855オランダ人直伝習で蒸気機関雛形製造、
海軍伝習所で修学;1857観光丸運用長として江戸廻航;江戸軍艦教授所教授、航海術普及、
門下生多数、「航海図説」著、
[貞基(;名)の通称/号]通称;卯吉郎、号;清潭、法号;得応月潭居士
- 02075 **貞幹**(さだもと・清家せいけ/本姓;清原、定澄男)1830-1905⁷⁶ 伊予八幡浜矢野郷の八幡神社祠官、
歌人/維新後;中講義、
歌;近田八束判[四拾番歌合(八幡浜歌人歌合)]11首入/[ひなのてぶり]3首入、
[貞幹(;名)の初名/通称]初名;定章、通称;常陸介
- J2095 **貞幹**(さだもと・糸山いとやま)1831-1919⁸⁹ 肥前佐賀新北村の神職/佐賀藩神学寮の教頭、
維新後;高良神社・田島神社・香椎宮の権宮司歴任、
1858「順考祭奠式」、61「肥前旧事」補、「肥前風土記纂註」著
- 定基(さだもと・大江) → 寂昭(寂照じやくしょう、入宋天台僧/歌人) 2 1 3 6
定許(さだもと・藤) → 定房(さだふさ・藤とう、神職/藩士) J 2 0 5 9
貞元(さだもと・橋本) → 子琴(しきん・葛かつ/橋本/葛城、医/詩人) B 2 1 6 9
貞幹(さだもと・上田) → 竜郊(りゅうこう・上田、儒者) D 4 9 8 5
貞幹(さだもと・宮村) → 貞幹(ていかん・宮村、儒者) 3 0 4 6
貞幹(さだもと・曾根) → 貞幹(ていかん・曾根、年代記) 3 0 4 7

貞幹(さだもと・古松)	→	貞幹(ていかん・古松、儒者)	3 0 4 9
貞幹(さだもと、浅井)	→	貞幹(ていかん・浅井、医師)	3 0 5 0
貞幹(さだもと・都丸)	→	董庵(とうあん・都丸とまる、藩士/儒者)	3 1 8 8
貞幹(さだもと・上田)	→	竜郊(りゅうこう・上田うえだ、儒者/教育)	D 4 9 8 5
貞幹(さだもと・神沢 <small>かんざわ</small>)	→	杜口(とこう・神沢、幕臣与力/俳人)	3 1 4 2
貞幹(さだもと・奥村)	→	永世(ながよ・奥村おくむら、藩士/故事)	G 3 2 3 2
貞幹(さだもと・布施)	→	御牆(みかき・布施ふせ、藩士/典故)	4 1 5 4
貞幹(さだもと・杉浦)	→	蒙々斎牛貫(もうもうさいうしつら、狂歌作者)	4 4 6 0
貞幹(さだもと・赤崎)	→	海門(かいもん・赤崎あかさき、藩士/儒/歌)	E 1 5 4 5
貞幹(さだもと・飯淵)	→	櫟堂(れきどう・飯淵いづち、藩士/詩人)	5 1 8 2
貞幹(さだもと・馬島)	→	元長(もとなが・馬島まじま、書家)	L 4 4 2 9
貞幹(さだもと・石川)	→	貞幹(さだみき/さだもと・石川いしかわ/源、尊攘)	N 2 0 8 5
貞幹(さだもと→さだみき・尾崎)	→	貞幹(さだみき・尾崎おさき、藩士/国学/画)	O 2 0 0 8
貞幹(さだもと→さだみき・尾崎)	→	梁甫(りゅうほ; 字・尾崎おさき、藩儒者)	F 4 9 6 1
貞基(さだもと・脇田)	→	琢所(たくしよ・脇田わきた、儒者/藩士)	O 2 6 0 3

C2055 **貞元親王**(さだもとしんのう、閑院親王、清和天皇皇子) **869?-909** **41?** 母;藤原仲統女、873親王宣下/四品、887上野太守、おほつぶね(在原棟梁女)や土佐と交渉、後撰2首633・931(;土佐への歌)、
[おほかたはなぞや我が名の惜しからん昔のつまと人に語らむ](後撰;十恋633)、
(おほつぶねに贈物をしても反応がないので贈る歌/昔の妻だとして面目を保とう)、
参考 → おほつぶね(おおつぶね、在原棟梁むねやな女) 1 4 5 7
→ 土佐(とさ、平安前期女官) L 3 1 7 5

J2096 **貞守**(さだもり・県犬養あがたのいぬかい大宿禰)?-? 平安前期廷臣;849存問渤海客使/領渤海客使、855従五下/和泉守/散位頭/駿河守、869「続日本後紀」共編(序文に散位従五下とある)

J2097 **貞盛**(さだもり・平たいら、国香男)?-? 平安中期武将/常陸大掾;
940猿島さしまで父の敵平将門を討伐、鎮守府將軍/平將軍と称さる

J2098 **貞衛**(さだもり・玉井たまのい、玉井貞信の養嗣) **1695-1768** **74** 加賀金沢藩士;1724養家の家督嗣、若年寄/1747役御免/52家老、1738「元文三年毎日帳」、「御在府毎日帳」「御勝手方御用」著、
[貞衛(;名)の通称/号]通称;主税ちから/市正、隠居号;宗栄

J2099 **定盛**(さだもり・大内おおうち) **1782-1834** **53** 仙台藩士:儒・田辺中洲門/風伝流槍術;浜田義次門、藩校養賢堂副学頭/1822伊達斉宗の近習/26祭祀奉行近習目付/給主組頭、「賞花釣魚」、
[定盛(;名)の字/通称]字;子徳、通称;平馬/小左衛門

定盛(さだもり・竹田)	→	定盛(じょうせい・竹田、医者/歌/能楽)	0 2 1 2 4
貞盛(さだもり・森下)	→	貞盛(ていせい/さだもり・森下もりした、俳人)	E 3 0 8 5
貞盛(さだもり・稲垣)	→	御郷(みさと・稲垣いなぎ/源、歌人)	I 4 1 0 9
貞盛(さだもり・桐生)	→	利正(としまさ・桐生きりゅう、歌人)	V 3 1 0 0

C2057 **貞康**(さだやす・町野まちの/本姓;三善みよし)?-? 鎌倉期武将;五位備後守、歌人、1320成立[続千載]入(1356)、
[明けぬともしばしは猶やしたはまししのぶる中の別れならずは](続千載;恋1356)

C2056 **貞泰**(さだやす・源みなもと、若狭守隆泰男)?-? 鎌倉後期南北期?、五位/歌人、風雅集1486、
[さびしさは昔よりなほまさりけり我が身ふりぬる宿の春雨](風雅;雑1486)

K2001 **定安**(さだやす・尾池おいけ、通称;清左衛門)?-**1608** **手討** 丹波亀山領主前田玄以(秀吉五奉行の1)家臣、前田玄以の京都所司代に随行/関ヶ原では西軍に属す/1602玄以没;息前田茂勝が藩主、丹波多紀郡の八上やみ藩に移封、茂勝はキリストンで幕府から危険視され放蕩・発狂;忠臣尾池定安の諫言に怒り定安父子を手討にする、連座で渡辺大膳・畑平太夫も切腹、茂勝は家康の怒りを買って改易される、
定安は連歌作者;1592紹巴と「何船百韻」

K2002 **貞泰**(さだやす・加藤かとう/本姓;藤原、光泰男) **1580-1623** **44** 近江北郡磯野村の武将;豊臣秀吉の家臣、1594父遺領を襲封;甲斐府中24万石/父が石田光成と不和であった理由で美濃黒野4万石、関ヶ原では東軍;徳川家康の家臣/1610伯耆米子城6万石/大坂陣に出陣/17伊予大洲藩主、6万石/従五下左衛門尉/左近大夫、馬術/詩歌/連歌を嗜む、

- 連歌;1619昌琢らと「元和五年六月十七日昌琢貞泰等百韻」を催、
[貞泰(;)名)の初名/通称/法号]初名;光長、通称;作十郎、法号;大峯院
- K2003 **定安**(さだやす・布施ふせ、定時男/本姓;藤原)1647-171771 陸奥仙台藩士/藩主伊達綱村の側近;厚遇、
禄千石/1666・98奉行職、藩老/1712致仕/剃髪;備翁白水を名乗る/七雨軒で隠居、
「白水定安家集」著、
[定安(;)名)の通称/号]通称;清五郎/孫右衛門/刑部/和泉、号;白水/備翁/七雨軒
- P2035 **定安**(さだやす・間宮まみや、号;風軒)1647-172679 播磨明石藩士、国学者;小笠原定世(1621-1700)門、
妻木貞彦の師
- K2004 **定易**(さだやす・斎藤さいとう、大坪平右衛門定寿男)1657-174488 母;斎藤九兵衛女の阿成、
斎藤玄孫の養子、江戸の馬術家;大坪流8代斎藤求間辰之門/一派を[大坪本流馬術]と称す、
1717「大坪本流武馬必用」著;名声を得る/門弟多数、筑前福岡藩に招聘;江戸霞ヶ関藩邸住、
晩年は狂歌に遊ぶ;愚連堂凹と号す、1683「大坪武馬見笑集」、「大坪本流式」「医要録」、
「大坪本流馬術要覧」「大坪本流馭馬要覧」「大坪本流遠乗之巻」「十字録」「塵芥録」外著多数、
[定易(;)名)の通称/号]通称;正三郎/三左衛門/主税ちから/青人/易、号;愚連堂凹、法号;春生院
- P2052 **貞休**(さだやす・美濃部みのべ、旧姓;柳沢)1670-173162 江戸の美濃部家の養子;幕臣;御小納戸、
和学者、養子;青柳貞庸さだのぶ(1696-1746)、
[貞休(;)名)の通称]吉之助/庄介/大助/弥兵衛、法名;了眞
- K2005 **定保**(さだやす・太宰ださい/初姓;阿武)1703-5755 江戸の儒者;太宰春台門;春台の養子、
1751「辨道辨名考」著/54「紫芝園国字書」編、「論語古訓正文」著、
[定保(;)名)の字/通称]字;徴孺ちようじゆ、通称;弥右衛門
- 02048 **貞泰**(さだやす・佐久間さくま/本姓;菅原、)1720-7253 大和郡山藩士、国学者、
[貞泰(;)名)の通称]七兵衛
- 2084 **定静**(さだやす・西尾にしお/本姓;源)1740-180162 阿波徳島藩士/歌人;小沢蘆庵門
[定静(;)名)の字/通称]字;仲慮、通称;源右衛門/富之丞/富之介とみのすけ
- 02027 **貞康**(さだやす・笠原かさはら、)1745-181975 陸奥仙台藩士;大番頭、国学者、
伊達重村女(生姫/鳥取藩主松平治道室)の傳、登米神明社の山号を伊勢岡と改め崇敬す、
庶康ちかやすの父、
[ななそちに余るむかしをしのぶれば露はおかねどぬるる袖かな](宮城百人一首入)、
[貞康(;)名)の字/通称/号]字;叔寧、通称;兵記、号;鳩居/鳩斎
- K2006 **定静**(さだやす・石丸いしまる、通称;勇之丞、定耀男)1766-180338 幕臣;1787父の遺跡継嗣/92御書院番、
「徳川氏京都大坂役所図」編
- P2039 **定安**(さだやす・松岡まつおか/本姓;越智、旧姓;宮崎)?-1797 京の歌人;鴨祐為(1740-1801)門、
神道;松岡雄淵おぶち(仲良/1701-83/吉田家侍読)の養子、帰厚もとあつ(1791-1851)の父、
[定安(;)名)の通称]左近
- 02042 **定保**(さだやす・黒沢くろさわ、)1781-186585 陸奥盛岡の国学者/歌人
[定保(;)名)の初名/号]初名;定明、号;適翁/適翁斎
- P2027 **定津**(さだやす・二見ふたみ/宇治土公うじとこ/うじつちのみ、定静男)1783-182240 伊勢度会郡の神職、
伯父の宇治土公定哉を継嗣/1792(寛政4)大内人/内宮権禰宜、国学;本居宣長門、
宣長の歌;[大御神宮に詣て玉串大内人定津ぬしの家にとりてあるしによみてまみらす
神世より神の御末とつたへ来て名くはし宇治の土公わかせ](伊勢猿田彦社内の歌碑)、
(※宇治土公家は邸内に猿田彦を祀る;維新後猿田彦神社となる)
[定津(;)名)の通称]左兵衛/右兵衛?
- K2007 **定保**(さだやす・佐々木ささき)? - ? 江後期京の和算家、1837「算学備要大成」編、
[定保(;)名)の通称/号]通称;平安隠士、号;其争きそう
- K2008 **定帖**(定休さだやす・隅田すみだ)?- ? 江後期江戸の国学者/歌に長ず、
「諸国一宮考」「富士百種歌」著、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[伊豆の海やうさみあじろの島々にかかるは春の霞みなりけり](大江戸倭歌;71島霞)、
[定帖(;)名)の通称/号]通称;随文、号;鷗斎
- N2097 **貞安**(さだやす・臼井うすい、通称;大輔)1805-7268 信濃筑摩郡の国学者・歌人;橘守部・橘冬照門
- P2073 **定泰**(さだやす・山野やまの、通称;清作/陸奥)1824-9572 美作大庭郡の社家の生/国学;千家俊信門、

国学/歌; 大国隆正門、神道; 黒住宗忠・時尾宗道門; 黒住教布教活動、久住3代目の後見人、明治天皇御前講演

Q2092 **定保**(さだやす・立木たちき/本姓; 源、与兵衛定賢の長男)1826-72⁴⁷ 信濃諏訪郡の高島藩士/接骨医、国学; 平田鍬胤門/勤王思想; 藩主に時事を論ず; 蟄居・家屋没収、のち赦免; 藩の監察下、維新後; 藩の大属長善館監学

[定保(;)名)の初名/通称/号]初名; 予、通称; 与兵衛、号; 公松/穀城/真栄/香隅/数奇老人

P2038 **貞保**(さだやす・松浦まつら、通称; 現太郎/号; 貞亭)1834-59^{早世26} 伊予宇和郡の歌人

02072 **貞寧**(さだやす・鈴木すずき、通称; 清太郎/六兵衛)1847-80³⁴ 下総成田の国学/歌人; 神山魚貫門

- 貞安(さだやす・伊勢) → 貞為(さだため・伊勢/平、故実家) I 2 0 4 8
- 貞安(さだやす・梶谷) → 守清(もりきよ・梶谷かじたに/菊池、医者/国学) J 4 4 6 7
- 貞泰(さだやす・北条) → 熙時(ひろとき・北条/平、幕府執権/歌) 3 7 4 9
- 貞泰(さだやす・宇都宮) → 蓮智(れんち・宇都宮、室町幕臣/歌/連歌) B 5 1 2 7
- 貞懐(さだやす・大江) → 貞懐(さだもと・さだやす・さだかね・大江、歌人) C 2 0 5 4
- 貞休(さだやす・豊島) → 露月(ろげつ・豊島とよしま、謡曲/俳人) B 5 2 3 3
- 定安(さだやす・勝間) → 龍水(りょうすい・勝間かつま、絵師/書) I 4 9 3 0
- 定安(さだやす・星野) → 宗以(そうい・星野ほしの、宇治茶師) F 2 5 9 7
- 定保(さだやす・武富) → 圀南(いなん・武富たけとみ、儒者/詩文) I 1 1 1 3
- 定保(さだやす・眞宮) → 定広(さだひろ・眞宮まみや、藩士/歌人) J 2 0 5 7
- 定保(さだやす・坪内) → 保之(やすゆき・坪内つぼうち、幕臣/歌) E 4 5 8 8
- 定静(さだやす・渡辺) → 華山(かざん・渡辺、藩士/絵師/蘭学) 1 5 8 3
- 定泰(さだやす・小槻) → 伊治(これはる・小槻/大宮、廷臣/山口住) O 1 9 7 3
- 定泰(さだやす・相川) → 景見(かげみ・相川あいかわ、国学/歌人) B 1 5 9 6
- 貞廉(さだやす・秦) → 貞助(ていすけ・村上、幕臣/蝦夷地誌) B 3 0 1 7

C2059 **貞保親王**(さだやすしんのう・南宮/通称; 桂親王かつらのみこ、清和天皇第5皇子)870-924⁵⁵ 陽成天皇の弟、母; 二条后高子(藤原長良女)、873親王宣下/882元服/上野太守/中務卿/兵部卿/式部卿; 二品、芸能; 管弦・神楽、勅命で横笛・琵琶秘手を伝授; 管絃長者・尊者と称される、横笛「南竹譜」著、「韻律肝心集」「十操記」「南宮譜」「和琴譜」著、河海抄などに逸文

息女は後撰歌人? → 南院式部卿親王女(なんいんしきぶきょうのみこのむすめ) I 3 2 5 0

C2058 **貞康親王**(さだやすしんのう・伏見8世、邦輔親王男)1547-68^{早世22} 母; 西園寺公朝女、正親町天皇猶子、1563親王宣下/二品/66式部卿、歌人; 柳原資定門、「貞康親王御詠草」「貞康親王百首和歌」、「貞康親王懐紙御詠草」「貞康親王御消息案」著、詠草: 瑤玉集入、法号; 後禊光院

K2009 **佐太夫**(佐大夫さだゆう・渡辺わたなべ)?-? 加賀金沢藩士: 渡辺喜内と藩主子女の祝儀作法調査、祝儀作法旧記書写、1846・47「親姫様御婚礼一件」/57・58「筑前守様再度御婚礼一件」著、1857-8「弘化度御婚礼記」58「百八十之御餅二種市荷積方図」、「御結納皆子餅御行列」外多

- 左大夫(佐大夫さだゆう・宝生) → 沾圃(せんぼ、宝生/服部、能楽師/俳人) G 2 4 6 0
- 左大夫(さだゆう・筑紫) → 従門(よりかど・筑紫/藤原、幕臣/神道) I 4 7 5 3
- 左大夫(さだゆう・上野) → 資郷(すけさと・上野うえの/伴、幕臣/歌人) H 2 3 8 2
- 左大夫(さだゆう・中原) → 盛彬(もりあき・中原/中、国学者/天文) F 4 4 0 5
- 左太夫(さだゆう・千々和) → 直賢(なおかた・千々和ちぢわ、神職/国学) N 3 2 8 4
- 左大夫(さだゆう・村垣) → 定行(さだゆき・村垣、幕臣/蝦夷踏査) K 2 0 1 3
- 左太夫(さだゆう・三木) → 之幹(ゆきもと・三木みき/源、藩士/漢学) F 4 6 8 2
- 左太夫(さだゆう・田付) → 正景(まさかげ・田付たつけ/源、砲術家) B 4 0 7 0
- 左太夫(さだゆう・井上) → 逸斎(いっさい・井上いとうえ、藩士/系譜) H 1 1 1 4
- 左太夫(さだゆう・北) → 栄親(ひでちか・北きた、武将/軍記作者) D 3 7 1 8
- 左太夫(さだゆう・青山) → 守胤(もりたね・青山あおやま、神職) F 4 4 6 7
- 左太夫(さだゆう・猪子) → 一興(かずおき・猪子いのこ、幕臣/国学) T 1 5 5 7
- 左太夫(さだゆう・鳥山) → 芝軒(しげん・鳥山とりやま、書家/詩人) D 2 1 4 5
- 左太夫(さだゆう・渡辺) → 謙阿(けんあ・渡辺わたなべ、俳人) H 1 8 5 8
- 左太夫(さだゆう・綾小路) → 黄山(こうざん・菊池さくち/増田、儒者) J 1 9 2 1
- 左太夫(さだゆう・菊池) → 五山(ござん・菊池/修姓; 池、儒/詩人) 1 9 2 7

- 左太夫(さだゆう・田中) → 布舟(ふしゅう・田中、酒造業/俳人) C 3 8 7 1
 左太夫(さだゆう・児玉) → 尚高(ひさたか・児玉/秦、神職/国学者) B 3 7 2 6
 左太夫(さだゆう・児玉) → 尚房(なおふさ・児玉こたま/中川、国学者) M 3 2 1 3
 左太夫(さだゆう・井上) → 正清(まさきよ・井上/安部、幕臣/砲術) C 4 0 3 4
 左太夫(さだゆう・小野) → 一興(かずおき・小野おの/源、幕臣/歌) T 1 5 2 5
 左太夫(さだゆう・堀田) → 稻足(いなたり・堀田ほった、国学者) K 1 1 6 3
 左太夫(さだゆう・松井) → 秀房(ひでふさ・松井/大場、藩士/国学) L 3 7 0 3
 左太夫(さだゆう・玉虫) → 誼茂(よししげ・玉虫たまむし/荒井、藩士/儒者) D 4 7 6 8
 佐太夫(さだゆう・北村) → 政従(まさより・北村きたむら、郷士/茶/歌俳) P 4 0 3 1
 佐太夫(さだゆう・北村) → 政重(まさしげ・北村きたむら、神職/歌人) P 4 0 3 0
 佐太夫(さだゆう・和田) → 邦孝(くにたか・和田わだ、酒造業/歌人) E 1 7 6 1
 佐太夫(さだゆう・野中) → 祺明(よしあき・野中のなか、幕臣/歌人) O 4 7 4 4
- C2061 貞行(さだゆき・源みなもと) ? - ? 鎌倉期歌人、五位、風雅集1482、
 [山ふかくなほ分け入りてたづぬれば風にしられぬ花もありけり](風雅;雑1482)
- Q2011 貞行(さだゆき・三善みよし) ? - ? 南北期;武家?/歌人、
 1375頃細川頼之(1329-92)家奉納[大山祇神社百首]出詠、
 [あかみける心もしらず吹く風にかつ散りそむる山桜かな](大山祇百首;13/落花)、
 [吹く風も枝をならさじ一よにも千代をこめたる窓の呉竹](同;88/窓竹)
- C2062 貞行(さだゆき・伊勢いせ/本姓;平、貞信男)1358-1410⁵³ 室町幕臣;足利義満義持に出仕/政所執事、
 故実家;従五下兵庫助/尾張・伊勢守、義満は正月四日貞行邸での入浴を恒例とす、
 歌;新続古今1959、
 [古へを思へば身さへふりにけり窓うつ雨の夜半の寢覚に](新続古;1959/雨中懐旧)
 [貞行(;名)の通称/法号]通称;十郎、法号;思恩院
- K2010 定幸(さだゆき・黒沢くろさわ、諏訪部宗右衛門定吉2男)?-1671 黒沢重久の養嗣子/幕臣;養父継嗣、
 1615家泰に謁す/16大番、25禄加増/御馬預、屢々陸奥や武州府中に赴く、
 1647「驪黄物色図説」、「相驥鑑」「百馬図」著、黒沢石斎(安部弘忠)の幼少期の世話をす、
 [定幸(;名)の通称] 長六郎/空助もくすけ
- M2097 定行(さだゆき・佐々木) ? - ? 江前期備後の俳人;立圃門、1659胤及「匏屑集」入、
 1670種寛「俳諧詞友集」入、1679宗臣「詞林金玉集」入、83定親と福山良大明神に俳諧奉納
- F2007 定行(さだゆき・松井) ? - ? 大和片岡住人、狂歌;1666行風「古今夷曲集」2首入
 [一声に自由をこめし節なればきくともあかじ君が小歌は](夷曲集;722/小歌上手を聞き)
- K2011 貞之(さだゆき・五味ごみ、五味三太夫貞勝男)?-1754 尾張藩士;兵学を修学、故実;日高繁高門、
 壺井義知・多田南嶺門、古流と称し子弟教育;息子貞兄・取田寄頭・岡田重定など門弟多数、
 「古流故実伝」著、
 [貞之(;名)の通称/号]通称;与三郎/与兵衛/与市、号;利竜、法号;故実院
- 02027 貞之(さだゆき・笠井かさい、旧姓;安田)1688-1743⁵⁶ 安藝竹原の浜主(塩田経営)、
 儒者/国学;玉木正英・松岡雄淵門、貞直の父、
 [貞之(;名)の通称] 半兵衛/平兵衛、神号;佐駄牟霊神
- K2012 貞行(さだゆき・山鹿やまが、通称;清吉、平戸藩家老山鹿義行の長男)?-? 山鹿素行の甥、
 江中期肥前平戸藩士/山鹿流兵学の学統を継承、
 1710頃「全書古語」著/「戦法心得」「飛竜」「雑記」「当庫雑駁」著
- P2046 貞幸(さだゆき・松本まつもと)1706-1787⁸² 紀伊田辺の商家;田中屋、和学/歌人、
 [貞幸(;名)の号] 歌月庵貞休、貞雄さだお(1779-1827)の父
- P2056 貞之(さだゆき・村上むらかみ、通称;保右衛門)1717-1765⁴⁹ 安藝賀茂郡の神道家/国学者、
 神道;玉木正英(橘家きつげ神道大成)門、神道;熱田神宮の松岡雄淵おぶら門
- C2063 定之(さだゆき・野宮のみや/本姓;藤原、定俊男)1721-82⁶² 母;野宮定基女、廷臣;1754参議/従三位、
 1758権中納言/67権大納言/68正二位、歌人、故実家、「野宮定之詠草」「野宮定之雑記」、
 「卯木言談」、1737-82「定之卿記」/1759「交暈記」63「故実問答」81「代世嘉喜」外著多数、
 法号;宝荘院、定晴さだはる・定業さだなりの父、

- 02032 貞之(さだゆき・葛城かつらぎ、通称;出羽)?-? 江中後期;伊予西条の歌人;鴨祐為(1740-1801)門
- N2087 定之(さだゆき・一円いちえん、通称;要次、)1762-1810⁴⁹ 近江彦根藩士/歌人
野津基明「彦根歌人傳」寿に入
- K2013 定行(さだゆき・村垣むらがき) ? - 1832 :膳奉行/勘定吟味役/納戸頭を歴任、
1805遠山景晋と蝦夷踏査/07松前奉行/13作事奉行/18勘定奉行、
1806「遠山村垣西蝦夷日記」著、最上徳内・志賀理斎・堀田正敦と交流、
[定行(;)名)の通称]左大夫/左太郎/淡路守、範行の父/範正の祖父
- K2014 貞行(さだゆき・富田とみた、貞章男)?-1843 加賀金沢藩士;1789父の禄三分の一継嗣、
のち2千4百石に復す/小松城番/公事場奉行/寺社奉行歴任/1826若年寄、貞詳さだみつの父、
1812-17「富田貞行日課」/17「公事場附渡帳」18「富田心覚」38「巡見上使一件」外記録多数、
[貞行(;)名)の通称] 権三郎ごんざぶろう/外記/織人
- Q2099 貞之(さだゆき・坪井つばい、)1774-1849⁷⁶ 遠江磐田郡の国学者;内山真竜門、
[貞之(;)名)の別号/通称]別名;正幸、通称;幸三郎/源三郎
- K2015 貞幸(さだゆき・歌川うたがわ) ? - ? 江後期江戸の絵師:歌川国貞(3世豊国)門、
文政-嘉永1818-54頃活動、1829「廓薫名寄生梅川」画、
[歌川貞幸(;)号)の別号] 五丁亭/一雲斎
- N2039 貞征(さだゆき・横瀬よこせ、上州小幡藩主松平忠福4男)1781-1842⁶² 幕府高家旗本横瀬貞徑の養子、
貞征に改名/1809(文化6)養父隠居;家督継嗣/1811高家職/従五下/駿河守、侍従/従四上、
1830(天保元)高家肝煎に就任、養子貞固が家督嗣、松平忠房・高木正剛・松平忠彊の兄弟、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[松杉まつぎの木ずゑの外はもみぢばの色になりゆく秋の山もと](大江戸倭歌;秋967)
[貞征(;)名)の初名/通称]幼名;岩吉、初名;福慎、通称;左衛門/駿河守
- K2016 定以(さだゆき・松平まつだいら/本姓;源、坪内保休男)1802-? 1866存 幕臣松平左衛門の養嗣子;
1819家督継嗣;小普請/御書院番/1850御使番/55講武所藤堂兼任/61御使番次席頭取、
1866勤仕並寄合、
歌人;1823「武詠聚玉集」補/23「続武家百人一首」24「後撰武家百人一首」、29「鏡公遺事」、
1833「集古遺事微考」、「たそがれの記」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[山桜今は色にぞ出でにける何をしのぶの岡の松風](大江戸倭歌;春279)、
[定以(;)名)の別号/通称]初名;勝文、通称;源太夫
- K2017 定敬(さだゆき・菅沼すがぬま、定候男)?-1851 幕臣;従五下/伊賀守・信濃守、書院番・小姓組番頭、
書院番頭/給仕肝煎/留守居等歴任、歌、1838「七夕百首」「花百首詠草」/46「ちよのかけ」著、
歌;1858屋光世「大江戸倭歌集」入、
[春がすみくむうれしさにうれしさをかさねてかへるから衣かな]、
(大江戸倭歌;元日御前で大神酒御衣みけしを賜り詠)、
[定敬(;)名)の通称]直七郎/伊賀守/信濃守、妻;禎子、左京の養父
- 貞幸(さだゆき・山本) → 勘助(かんすけ・山本、兵法家/軍師) E 1 5 0 0
貞行(さだゆき・箕浦) → 耕雨(こうう・箕浦みのうら、藩士/儒者) G 1 9 6 4
貞行(さだゆき・伊地知) → 季安(すえやす・伊地知いちぢ、藩士/記録) F 2 3 7 2
貞行(さだゆき・児玉) → 益道(ますみち・児玉こだま、藩士/国学) P 4 0 6 8
貞之(さだゆき・立花) → 忠茂(ただしげ・立花たちばな、藩主/歌人) F 2 6 1 2
定行(さだゆき・宇佐美) → 良勝(よしかつ・宇佐美うさみ/藤原、兵学者) C 4 7 8 2
定行(さだゆき・出口) → 治左衛門(じざえもん・出口でぐち、歌人/茶) T 2 1 5 2
定之(さだゆき・神戸) → 定之(ていし・神戸かんべ、東林軒/俳人) 3 0 9 9
定之(さだゆき・安田) → 玉海(ぎょくかい・安田やすだ、医者) O 1 6 8 4
定之(さだゆき・日下部) → 順清(じゅんせい・日下部くさかべ/藤原、幕臣/書) P 2 1 5 3
定之(さだゆき・眞幡) → 鉄船(てつせん・眞幡まはた、医者/俳人) C 3 0 5 2
- K2018 貞致親王(さだゆきしんのう・伏見宮、貞清親王男)1632-94⁶³ 1660後水尾天皇の猶子;親王宣下/三品、
兄邦尚親王・弟邦道親王の跡を相続、弾正尹/兵部卿/式部卿/二品、
1662「貞致親王御夢想和歌短冊帖」、「貞致親王吉書始御試筆」、法号;円実照院
- 2028 貞世(さだよ・今川いまがわ、了俊、範国男/本姓;源)1326-1414⁸⁹ 武将/駿河守護/室町幕臣;幕政参画、

1367將軍義詮よあきら没に出家;了俊名、義満臣;1371から20余年九州探題、左京亮/伊予守、歌;冷泉為秀門/為尹を助け冷泉派を宣揚、連歌;二条良基門/宗匠、歌書・連歌書多数、1366年中行事歌合/67新玉津島歌合等参加、「道ゆきぶり」「九州合戦記」/1389「巖島詣記」、1302「難太平記」、歌学「落書露頭」/1402「言塵集」、08「今川了俊日記」11「了俊歌学書」、「今川了俊歌道抄」「今川大双紙」「了俊口伝」「和歌二言集」「筑紫日記」「下草」外著多数、勅撰5首;風雅(1483)新拾遺(1108/1311)新後拾遺(546)新続古今(358)、[足乳根の親に告げばや荒してふ岩国山も今日は越えぬと](道ゆきぶり)(本歌;周防なる磐国山を越えむ日は手向けよくせよ荒しその路/万葉567;山口若麻呂)

[貞世(;)名)の通称/号/法号]通称;六郎/金吾、号;松月軒徳翁(得翁)、法号;了俊りょうしゅん

- G2036 **定世**(さだよ・大中臣おなかつみ)?- ? 平安期;1266「古事記」伊勢本系真福寺本を書写
- O2002 **定世**(さだよ・小笠原おがさわら)1621-170080 紀伊の和学者/江戸住、松村種常の師
- P2045 **貞世**(さだよ・松村まつむら)1779-181941 京の国学者/歌人、
[貞世(;)名)の初名/通称/号]初名;順方、通称;太兵衛、号;翠園
- P2026 **貞世**(さだよ・藤川ふじかわ、貞賢男)?-1869 讃岐高松藩士;勘定奉行格、
国学・歌;中村春野・友部方升まさのり門、貞富の兄、
[貞世(;)名)の通称]文左衛門/門吉郎
- C2031 **定義**(さだよし/さだり・菅原すがわら、孝標男)1012-106554 母;藤原倫寧女、廷臣/漢学者;式部少輔、
民部少輔/弾正小弼/少内記/大学頭を歴任、文章博士/1184従三位/菅原氏長者、贈従一位、
同母姉妹に更級日記作者の孝標女がいる、西坂本随願寺の「勸学会序」著、忠章・在良の父
- C2064 **定能**(さだよし・藤原ふじから、藤原[楊梅]季行男)1148-120962 母;藤原宗能女、祖父宗能の養子、
廷臣;1179参議;左近中将を停止され籠居/80出仕/81従三位/89正二位/94権大納言、
1198致仕、1201出家、朝儀の故実に通ず/神楽;多好方門;神楽秘曲を相承、
「羽林抄」「羽林要秘抄」、1166-98「心記」、「定能卿記」、「四節八座抄」編、
「羽林要抄北山抄第九抜書」著、重季の弟、親能・定季・資家・定観・定玄・定乗の父、
[定能(;)名)の法名/通称]法名;定阿じょうあ、通称;清滝/樋口大納言/絹笠岡大納言
- K2019 **貞良**(さだよし・伊勢いせ/本姓;平、貞孝男)?-1562討死 武家/故実家;兵庫頭、
父が讒言され足利義輝の軍により父と共に舟岡山で討死、「蹴鞠之書」受、
[貞良(;)名)の通称/法号]通称;十郎/小法師、法号;建孝院/建光院
- K2020 **貞慶**(さだよし・小笠原おがさわら、長時3男)1546-9550 武将/従五下/右京大夫、
故実家;1579父より家伝の文書・武器を受、信長没後信濃深志(松本)城を攻略し居城とす、
家督を長男秀政に譲渡後も小田原陣に参加し戦功、「小笠原秘記」「小笠原流諸礼秘伝」、
1576「小笠原諸礼集」、「小笠原流鷹礼法」「弓道鳴弦之巻」「古実記」「築山書」「尻籠之起」、
「女礼集及目録」「墓目射様之次第」「積物置物絵図」外著多数、妻;日野晴光女、
[貞慶(;)名)の幼名/通称;法号]幼名;小僧丸、通称;喜三郎、法号;大隆寺以清宗得
- K2021 **定好**(さだよし・松本まつもと、松本彦左衛門森重男)1586-166075 越後の槍術家;日本覚天流を修得、
出羽の最上義光・鳥居忠政・土岐頼行に出仕、1629沢庵宗彭そうぼう(羽前上山に流謫)に参禅、
一指流槍術を創始/江戸で槍術指南、出雲松平直政に出仕;大番組、
「槍学授受録」、1629「一指流管槍伝書」60「早槍伝」著、
[定好(;)名)の通称/号]通称;覚左衛門/理左衛門/長門守、号;一指、法号;台震院
- K2022 **定芳**(さだよし・菅沼すがぬま、定盈男)1587-164357 母;松平家次女、定仍の弟、三河野田の武将、
1604徳川家康に謁す/06兄の遺領継嗣;伊勢長島2万石、大阪陣戦功;1621近江膳所城主、
3万千百石余/1634丹波亀山城移封;4万千百石余、「菅沼系図」編、「菅沼定盈武功覚書」著、
[定芳(;)名)の初名/通称/法号]初名;定好、通称;向丸/左近、法号;大虚院
- K2000 **定好**(さだよし・花山院がざんいん、定熙さだひろ5男、法号;惇貞院)1599-167375 母;朝倉義景女、江前期廷臣、
1614左中将/従四上/正四下/19(元和5/21)参議/20従三位/21(23歳)権中納言/24正三位、
1628従二位/31(寛永8/33歳)権大納言/34正二位/43辞任/49内大臣;辞任、
1653(承応2/55歳)右大臣;54辞任/60従一位/61(寛文元/63歳)左大臣;63辞任、
1673(延宝元)没;法号;惇貞院、定数・定誠の父
- P2093 **定好**(さだよし・羽太[はぶと?])?- ? 江前期;京の歌人;1682河瀬菅雄[麓の塵]入、
[ふくからに玉かとぞ見るたとへてもいはれの野への露の夕風](麓の塵;雑577/野風)

- P2089 **貞義**(さだよし・源みなもと、) ? - ? 江前期;武士/歌人;1688浅井忠能[難波捨草]3首入、
[夏山や青葉しげみを吹分けて木陰涼しき風のおとかな](難波捨草;夏109)
- 02080 **定賢**(さだよし・田中たなか、定格さだだ男)1657-92³⁶ 江戸幕臣旗本;7千石、国学;父門、従五下/出羽守
定安の父;定安はのち精神を犯され1702改易(同族定堅が相続;以後500俵の旗本)、
歌人;茂睡[鳥之跡]入・1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]6首、
[かもめたつ海原かけて霞む日の光りのどけき天のかぐ山](茂睡[鳥の迹]春23)
[すゑ遠く霞む夕べの小山田にきけばかはづのそことなき声]、
(若むらさき:34/夕蛙声幽かか/そことなき;どこからともなく/場所が指定出来ない)、
[定賢(;名)の通称] 翁助(;代々の称)/主殿/出羽守、法号;日妙
- 02023 **定能**(さだよし・加藤かとう、旧姓;黒沢)1677-1723⁴⁷ 江戸の幕臣;大番、国学者、
[定能(;名)の通称/法名]通称;長三郎、法名;了体
- K2023 **定良**(さだよし・石丸いまる) ? - ? 江中期備前岡山藩士、画を嗜む、地誌家、
「備前記」・1721「備陽記」編
- P2061 **定芳**(さだよし・矢野やの、通称;右近)1703-1731^{早世}²⁹ 陸奥仙台藩士/江戸詰、国学者
1729(享保14)松森の在所600石を拝領;以後定孝・定明・定継と続く、
松森在所ざいしょは仙台城から近く狩場としてたびたび藩主も訪問;のち正月恒例行事
- K2024 **定賢**(さだよし・松平まつだいら、頼貞4男)1709-70⁶² 越後高田藩主松平定儀の養嗣子(1726)、
1727遺領継嗣;高田藩主襲封/41磐城白河に移封、従四下/越中守、
学問を好む/国学;荷田春満門、書画嗜む、「定賢公詩稿」著、
正室;幾姫(お菟/松平定遠女)、継室;幸子ゆきこ(烏丸光榮女/歌人)、定邦(1728-90)の父、
[定賢(;名)の別号/字/通称/号]別名;頼儀(よりのり);初名)/頼軌(よりのり)、字;国器、通称;左門、
号;雲台、法号;俊徳院
- K2025 **定良**(さだよし・松本まつもと) ? - ? 江中期松江藩士、松本定好の裔;一指流槍術の宗家、
1741「管槍製書」「早槍伝口訣成書」著、
[定良(;名)の通称/号]通称;理左衛門、号;節外
- K2026 **貞義**(さだよし・田住たずみ/別姓;別所)?-? 江中期宝暦明和1751-72頃播磨佐用郡平福の大庄屋、
妻;岡田光圃女、地誌家、「播磨国式内神社考」「式内神社記」「醴泉考問」著、
[貞義(;名)の通称] 通称;三郎左衛門
- N2081 **貞良**(さだよし・伊勢いせ/旧姓;原田)1735-1803⁶⁹ 薩摩藩士伊勢貞矩家家臣、故実;伊勢貞敬門、
[貞良(;名)の通称] 嘉次右衛門/平治
- 02041 **貞良**(さだよし・栗田くりた、左兵衛信安男)1739-1808⁷⁰ 栗田土満ひまろ(1737-1811)の弟、
遠江城飼郡平尾村広幡八幡宮(平尾八幡宮)の神主の家の生、国学者、駿河府中で油屋業、
高天神城をめぐる戦で焼失した平尾八幡宮に鳳輦の神輿を奉納、
[貞良(;名)の通称/号]通称;幸助、号;道俣居翁
- N2082 **貞喜**(さだよし・伊勢いせ、通称;亙/弥九郎)?-1794 薩摩鹿児島藩士、故実;伊勢貞丈門
- K2027 **貞毅**(さだよし・柴野しばの、平左衛門軌遠男)?-? 江中期讃岐牟礼の医者;家業継嗣、
栗山[1736-1807]の弟、1764栗山「雑字類編」(辻子礼と共同で修訂補填)、
息子碧海・方閑は栗山の塾で養育、
[貞毅(;名)の別号/字]別名;養貞、字;小輔こすけ
兄 → 栗山(りつざん・柴野、幕府儒官) 4903
- K2028 **貞芳**(さだよし・片桐かたぎり、初名;貞陳さだよし、貞音男)1740-1805⁶⁶ 大和小泉藩主;1750襲封、
石見守/従五下/1787致仕、「儉約辨」著、母;木下織部谷福女、
[貞芳(;名)の通称/法号]通称;孫之丞、法号;松濤軒学叔宗習
- K2029 **貞義**(さだよし・鶴飼うかい/初姓;岡田/石部)1743-79³⁷ 代々伊勢内宮祠官、1778御馬飼内人、
神道;谷川士清ことすが門/垂加神道;竹内たけのうち式部門、「中臣祓講義」編、
[貞義(;名)の別号/通称/号]別名;河雄、通称;又太夫、号;毅斎
- K2030 **定敬**(さだよし・坂原さかはら、幕臣都筑つぎ景林3男)1743-1813⁷¹ 坂原定静の養嗣子、
幕臣;1759養父家を継嗣、1791大坂鉄砲奉行/1807金奉行に就任;1813免職、
「裏書読解」、「軍法巻考異」著、
[定敬(;名)の通称] 鍋吉/清次郎/儀左衛門

- P2018 **貞賀**(さだよし・檜垣ひがき、常倚男) 1758-1796³⁹ 伊勢度会郡の外宮権禰宜、神道/国学、
息女貞子の婿養子の常代つね(久志本常忠男)が家督嗣
- K2031 **貞宜**(さだよし・齋藤さいとう) 1774-1830⁵⁷ 長州萩藩士;記録方、本朝文献・藩家典故に精通、
藩命で周布五郎左衛門と共に鎌倉の大江広元・季光二公墓碑建設、
藩祖元就・隆元・輝元三代の事蹟編輯用掛、1817「鎌倉御墳墓調」27「官位相当位便覧」著
[貞宜(;名)の通称]彦右衛門
- C2065 **定良**(さだよし・木村きむら/本姓;藤原) 1781-1846^{66歳} 幕臣;御先手与力、歌人:加藤千蔭門、能書家、
家集「檀園歌集」、1819「類題草野そや集」編、35「牧野忠雅菊合」編、39「七夕百首序難義」著、
蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
[初午や行きかふ人の袖さえて吹くや稲荷の杉の下風](大江戸倭歌;春116/二月余寒)、
[定良(;名)の字/通称/号]字;駿卿、通称;駿藏、号;檀園きょうえん
- K2032 **貞奇**(さだよし・山之内やまのうち、作右衛門の長男) 1798-1874⁷⁷ 薩摩鹿児島藩士、
島津斉興・斉彬・茂久に出仕/おゆら騒動に連座;流刑/赦免/1858郡奉行見習、
1863薩英戦争の軍議に参画/側役兼教授;藩校造士館の督、1868奥羽遠征の際は番頭、
「山之内貞奇和歌草稿」/1851「山之内貞奇奥秘稿」著、
[貞奇(;名)の通称]作次郎
- F2057 **貞芳**(さだよし・歌川うたがわ)?- ? 大坂島の内心斎橋の絵師;初世歌川貞升門、
天保-嘉永1830-54頃;役者絵・根本・絵本制作、1835銀鷄「浪花の夢」画、
1830「艶福百人一首千歳草」30-31「けいせい遊山桜」50「英傑三国誌伝」画、
1850「芳野詣道の枝折」画、「絵本小栗物語」画、
[歌川貞芳(;号)の通称/別号]通称;肥後屋貞七郎、
別号;梅窓園/魁春亭かいしゅんてい/葵生斎きせいさい/五瓢亭/五瓢亭/梅窓園琴金
- K2033 **定吉**(さだよし・貞方さだかた、通称;堅吉)?-? 江後期肥前福江藩士/藩校育英館に修学、
1836大目監、1844-48頃知行2百10石、1843「律令採要」編、「律令採要目録」「公譜別録」著
- N2089 **貞良**(さだよし・岩井いらい) 1813-1865⁵³ 讃岐高松藩具足師;絨製作に長ず、故実に通ず、
彫刻・書画にも通じ歌を嗜む、
[貞良(;名)の字/通称/号]字;秋卿、通称;桂次、号;桂窓/桂巖/天香室
- P2053 **定毅**(さだよし・水沢みずさわ、邦綱くにな男) 1917-1848³² 母;並河美子はるこ、備中倉敷の商家;
井筒屋10代目、国学;本居内遠門、妻;並河家より、定興・女(弘毅の妻)の父、
[定毅(;名)の通称/号]通称;常太郎/伊左衛門(代々の称)、号;田鶴舎/幽琴
[井筒屋] 殷満(7代)一隆恵たかよし一邦綱一定毅さだよし一定興一弘毅(定毅の娘婿)
- N2093 **定賀**(さだよし・上原うえはら)?- ? 江後期天保1830-44頃筑前御笠郡原田の代官、
書・詩歌;二川相近すけか門、
[定賀(;名)の通称/号]通称;久五郎、号;楽只
- 02058 **貞贊**(さだよし・桜井さくらい、旧姓;八洲) 1838-1902⁶⁵ 石見邇摩郡久利村の神職、
山辺八代姫命やまべやしるひめのみこと神社の大宮司、国学;大国隆正・平田鉄胤門、竜田神社主典、
[貞贊(;名)の初名/通称]初名;貞敏、通称;太郎/帯刀
- P2040 **貞義**(さだよし・松岡まつおか、旧姓;深見) 1846-1901⁵⁶ 肥後熊本の医者、肥後琢磨郡に住、
[貞義(;名)の通称/号]通称;善吾、号;独醒庵/茶湯外史/凌雲/竹村
- 定吉(さだよし・中村/安田) → 雷洲(らいしゅう・安田/中村、幕臣/絵師) 4 8 5 8
定良(さだよし・高島/竹田) → 梅廬(ばいろ・竹田/高島、藩儒) C 3 6 3 7
定珍(さだよし・阿部) → 定珍(さだかね・さだよし・阿部あべ、庄屋/詩歌) N 2 0 6 8
定侯(さだよし・関口) → 侯彦(よしひこ・関口せきぐち/野中/富田、幕臣/国学) N 4 7 5 5
定好(さだよし・村松) → 露融(るゆう・村松むらまつ、製紙業/俳人) C 5 2 4 6
貞吉(さだよし・安積あさか) → 希斎(きさい・安積、儒者/詩文) I 1 6 5 0
貞喜(さだよし・牧野) → 貞喜(さだはる/さだよし・牧野/源、藩主/諸芸) J 2 0 3 7
貞好(さだよし・藤谷) → 貞兼(ていけん・藤谷、俳人) 3 0 6 6
貞良(さだよし・糟谷) → 磯丸(いそまる・糟谷かすや、歌人) 1 1 1 5
貞美(さだよし・吉雄) → 紫溟(しめい・吉雄よしお、蘭医) F 2 1 8 5

- 貞義(さだよし・長沢) → 粹庵(すいあん・長沢ながさわ、藩儒) 2 3 0 0
貞義(さだよし・寺田) → 愚仏(ぐぶつ・淤足斎おそくさい、書肆/狂詩) B 1 7 0 2
貞義(さだよし・伊沢) → 文谷(ぶんこく・伊沢いざわ、藩士/書画) F 3 8 2 5
貞義(さだよし・石河) → 積翠(せきすい・石河いしこ、幕臣/俳人) D 2 4 6 4
貞義(さだよし・橋村) → 正衡(まさひら・橋村はしむら/度会/檜垣、神職) R 4 0 6 5
貞義(さだよし・小関) → 三英(さんえい・小関こせき、蘭学/蘭医) E 2 0 1 3
貞慶(さだよし・伊勢) → 貞国(さだくに・伊勢/平、幕臣/歌人) B 2 0 8 4
貞能(さだよし・宇多/佐藤) → 貞寄(さだより・佐藤/宇多、藩士/詩歌) C 2 0 6 9
貞貫(貞能さだよし・野村) → 貞貫(さだつら・野村のむら、藩医/歌/望東尼夫) I 2 0 7 0
- K2034 貞敬親王(さだよししんのう・伏見宮、邦頼親王男) 1775-1841 67 母;松木宗実女のみ子、
1797後桃園天皇の猶子;親王宣下/上野太守/1804兵部卿/41一品、「貞敬親王御詠草」著、
[貞敬親王(;名)の通称/法号]通称;嘉禰宮、法号;勝光明院
- K2035 定賢室(さだよししつ・松平まつだいら、名;幸子、松平定遠女) ?-? 越後高田藩主松平定儀の養女、
1726結婚、1727夫定賢が藩主を継嗣、歌人;「清暁院殿御詠草」著
- 2029 定頼(さだより・藤原ふじわら、通称;四条中納言、公任男) 995-1045 51 母;昭平親王女、廷臣;1020参議、
1022従三位/29権中納言/42正二位/兵部卿/44病気の為出家;45(寛徳2)没、
能書家/音楽/歌人;1035賀陽院水閣歌合参加、「定頼集」、中古三十六歌仙、経家の父、
小式部内侍・相模・大式三位らと逸話多し、
和漢兼作・玄々集・新撰朗詠・続詞花4首・後葉・万代・雲葉集等入、
勅撰46首;後拾(14首114/144/162以下)千載(420/1098/1170)新古(48/509/946/1597)以下
[朝ぼらけ宇治の川霧たえだえにあらはれわたり瀬々の網代木](千載集;六冬420)
母昭平親王女 → 定頼母(さだよりのはは・藤原、歌人) C 2 0 7 0
女2人 → 定頼女(さだよりのむすめ・藤原) C 2 0 7 1
- C2066 貞頼(さだより・渋川しぶかわ/本姓;源、義春男) ?-? 母;平時広女、南北期武家;五位丹波守/兵部大輔、
歌人;1344金剛三昧院奉納和歌参加、頓阿と交流、勅撰2首;続千載1929/風雅1519、
[ともすればよるせも知らぬ河舟のくだりやすきはうき身なりけり](続千載;雑1929)、
[山もとに日かげおよばぬ木がくれの水のあたりぞ夏にしられぬ](風雅;雑1519)
- K2036 貞頼(さだより・中原なかはら) ? - ? 南北期?連歌作者;1356成立「菟玖波集」入、
[すゝの屋の隙もる風を枕にて](菟玖波;十四雑1430/前句;ふくる夜迄は見る夢もなし)
- C2067 貞仍(貞頼さだより・伊勢いせ/本姓;平、貞牧長男) 1455-? 1529存 室町幕臣;奉公衆/故実家、
左衛門尉/下総守、将軍義政~義晴4代に出仕、殿中申次を務める;殿中礼法故実を指導、
周防大内家と関係深くその家臣杉弘相と親交、1484幕府歌会に参加、将軍義植と流浪、
加賀在住、「犬追物日記」「犬追物方聞書」著/「書札礼義集」編、歌;家集「下つふさ集」、
1464「糺河原勸進猿楽日記」、89「延徳元年十二月薄何百韻」参、1528「宗悟大草紙」外著多数、
[貞仍(;名)の初名/通称/号]初名;貞頼、通称;次郎左衛門/二郎左衛門、
号;鳩拙斎、入道号;宗五/宗悟、
- K2038 貞寄(さだより・桑山くわやま、貞晴4男) 1613-1700 88 幕臣;1638兄貞利の名跡継嗣;2千石、
丹後守/下野守/従五下、御書院番/屋鋪奉行/仙台国目付を歴任、東照宮造営に参画、
屋鋪割・西城修補に関与、1684致仕、「両宮御造営吟味帳」著、元頼もとしげの父
[貞寄(;名)の別号/通称/号]別号;貞政、通称;猪兵衛、号;可斎(;致仕後)、法号;宗賢
- C2068 貞頼(さだより・河原かわはら) 1665-1743 79 美濃加納藩士;1725主家転封で信濃松本に移住、
松本藩江戸詰家老、測量術;清水貞徳門/兵法;伊賀風山門;正伝を伝承、
元禄1688-1704頃幕府に美濃国絵図を提出、松本で清水流測量術を指導;小里頼章の師、
1689-91「太平記年表」4巻/1727「国図要録」「町見国図要録」/28「町見規矩術印可」著、
「規矩術」「規矩元法」「規矩元法町見絵」「規矩元法町見絵目録」「経権提要口訣」外編著多数、
[貞頼(;名)の通称/号]通称;吉兵衛、清水貞頼/源貞頼、号;滴水堂/滴翠堂/鳳鸞子、
- C2069 貞寄(さだより・佐藤さとう、宇多うだ重堅2男) 1771-1838 68 佐藤家を継嗣、近江彦根藩士、
儒;大菅南坡門、国学;村田泰足門、
多芸;詩歌・書画・天文・和算・糸竹・点茶・蹴鞠・兵法・武術に通ず、
1799藩校稽古館創立に素読方となる;書物奉行添役・目付・郡代官・納戸を歴任/1827致仕、

「松園歌集」「松園雜記」「英主話証」「井家美談」「花香」著、

[貞寄(；名)の初名/字/通称/号]初名；貞能、字；子託/子純、

通称；次郎三郎/左衛門/左内/隼太/隼人/韋太/孫右衛門、号；松園、

02000 貞倚(さだより・内海うつみ/旧姓；高橋)1806-8782 上野利根郡の肝煎名主、貞規さだのり(国学者)の父、

[貞倚(；名)の通称/号]通称；磯七/弥平治、号；枕肱舎可楽ちんこうしゅからく/完齋

N2051 貞倚(さだより・杉山すぎやま) ? - ? 江後期；歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[糸にまだ貫ぬきもとめえぬ玉ならし滝つ岩根にすだく螢は]、

(大江戸倭歌；夏577/螢似玉)

定縁(さだより・中院/野宮)→定輔(さだすけ・野宮/藤原/中院、廷臣/儒者) I 2 0 3 0

定頼(さだより・串田) → 凡十(ほんじゅう・串田、藩士/俳人) F 3 9 4 2

貞頼(さだより・神田) → 蝶々子(ちょうちょうし・神田/平野、俳人) J 2 8 4 7

C2070 定頼母(さだよりのは・藤原ふじわら、昭平親王女/村上天皇の孫)?-? 1045存 母；多武峰少将藤原高光女、

関白藤原道兼の養女、990藤原公任室(小右記入)となる；993定頼・1000藤原教通室を出産、

さらに仁円(任人)及び中姫(公任の姉遵子に養育された)を産む、1012以前に出家、

平安中期歌人；勅撰2首；後拾遺563/玉葉2375、

[あだにかく落つとは思ひしむばたまの髪こそながき形見なりけれ](後拾；哀傷563；

娘の大政大臣藤原教通室が1024[治安4]正月死してのち落ちていた髪をみての詠、

栄花物語では1023[治安3]中姫の死に際しての詠とする、2年連続我娘の死の悲しみ)

C2071 定頼女(さだよりのむすめ・藤原ふじわら、母；源濟政女)?-? 平安後期歌人、千載集419/続詞花集入、

[みやこだにさびしさまさる木枯しに峰の松原思ひこそやれ](千載；419/続詞花288)、

(山里に隠棲した父を思いやる歌/この後に定頼[あさぼらけ宇治の川霧(420)]の歌)

☆定頼女は2人知られているが上記歌人は次の誰か不詳、

①右少将兼平の母/藤原経季の妻/後拾遺917・新勅928の歌人

→ 兼平母(かねひらのは・藤原) G 1 5 8 2

②神祇伯敦輔王あつすけのおおきみの母/敦貞親王(小一条院皇子)の室

左太郎(さたろう・長沢) → 九郎兵衛(くろべえ・長沢、武将/記録) D 1 7 5 4

左太郎(さたろう・上田) → 宗籥(そうご・上田うえだ、家老/茶人) H 2 5 2 0

左太郎(さたろう・高崎) → 親義(ちかよし・高崎、藩士/国学/歌) C 2 8 2 3

左太郎(さたろう・高野) → 倫兼(ともかね・高野たかの、藩士/詩歌) P 3 1 3 5

左太郎(さたろう・大国) → 盛宗(もりむね・大国/荒木田、神職/国学) G 4 4 6 6

左太郎(さたろう・真野) → 正陳(まさつら・真野まの、幕臣/和学者) S 4 0 4 9

左太郎(さたろう・河内) → 常宣(つねのぶ・河内こうち/山崎、幕臣) D 2 9 0 4

左太郎(さたろう・村垣) → 定行(さだゆき・村垣、幕臣/蝦夷踏査) K 2 0 1 3

左太郎(さたろう・大口) → 久富(ひさとみ・大口おおぐち、歌人) B 3 7 5 6

左太郎(さたろう・福知) → 赫(かく・福知ふくち/源、歌人) T 1 5 1 2

左太郎(4世さたろう・田中) → 伝左衛門(6世でんざえもん・田中、歌舞伎囃子方) D 3 0 5 0

左太郎(さたろう・片桐) → 栄久(ひでひさ・片桐かたぎり/源、国学者) J 3 7 0 4

佐太郎(さたろう・松浦) → 霞沼(かしよう・松浦まつうら、儒者) F 1 5 1 2

佐太郎(さたろう・高木) → 正照(まさてる・高木たかぎ、俳人) E 4 0 2 5

佐太郎(さたろう・滝沢) → 羅文(らぶん・滝沢/源/松沢、俳人) B 4 8 5 1

佐太郎(さたろう・矢野) → 翠竹(すいちく・矢野やの、藩儒者) E 2 3 8 4

佐太郎(さたろう・櫛田) → 利眞(としまさ・櫛田くしだ、脇本陣/郡長) V 3 1 0 3

佐太郎(さたろう・堀舎ほりや) → 永世(ながよ・二神ふたがみ、商家/歌人) O 3 2 6 1

佐太郎(さたろう・高橋) → 義方(よしかた・高橋たかはし、歌人) N 4 7 7 1

佐太郎(さたろう・安井) → 克彦(かつひこ・安井やすい、酒造業/国学) W 1 5 0 4

K2040 貞事(さだわざ・前田まえた、前田貞道の養子)1795-? 金沢藩士/1823家督嗣/24定火消/26小松城代、

1826家老/30若年寄を兼任、1828「家老方諸事日記」47「信州路大地震之記」、外著多数、

[貞事(；名)の通称] 凶書ずしよ

乍憚(さたん；初号、乍単齋) → 等躬(とうきゆう・相楽、俳人) C 3 1 6 4

- 左檀子(さだんし) → 貞主(さだぬし・菅沼/源、藩士/文筆家) J 2 0 1 2
 娑旦那(さたんじん) → 雲鈴(うんれい・摩詰庵、俳人) B 1 2 2 5
- K2041 **さち**(幸さち・石川いしかわ、初名;しげ、石川雅望女)1782-?;文化1804-18頃没23-37 母;中村たかせ、
 1801(享和元)飯田兵蔵(内藤新宿名主)の妻;1804一女とよ出産;のち没、「花見記」著
 さち(・西川) → 幸子(さちこ・西川にしかわ、国学) P 2 0 0 4
 斜知(さち・田内) → 幸子(さちこ・田内たうち/伴、歌人) K 2 0 4 3
 佐知(さち・山田) → 左幾久(左菊さきく・山田やまだ、国学/歌) N 2 0 2 5
 坐馳(さち・雲谷) → 任斎(じんさい・雲谷うんや/水野/兵藤、藩士/和漢学) E 2 2 2 3
- K2042 **哲頭**(さちあき・藤木ふじき、幼名;万之介、大隅紹頭2男)1711-6858 江中期神職;1754沢田社祝、
 若宮社禰宜、「所司代年中行事」著
- Q2098 **幸雄**(さちお・土持つちもち、旧姓;山室)1832-9160 日向延岡の国学者;樋口種実たねみ・門、
 国学・神道;六人部むとべは香よしか門、延岡藩広業館皇学(国学)助教、
 のち神明宮(安賀多神社)祠官
 茶竹子(さちくし) → 茶竹子(ちやくし、禪僧/茶人) F 2 8 5 5
- N2018 **幸組**(さちぐみ;組連) ? - ? 江戸市谷の雑俳の組連、
 取次;1758「菊丈評万句合」入、
 取次例;[腰帯をゆると腰もいきて来る](前句;盛也けり々々/しごき帯で初めて女盛り)、
- N2030 **佐知子**(さちこ・堀江ほりえ/初姓;森、名;佐智)1758-183174歳 筑後御井郡の生、
 筑後久留米藩士堀江家に嫁ぐ、国学/歌;本居大平門、大平撰「八十浦の玉」下巻入、
 [我が宿の秋萩の花咲きにけり来ませ妹なね見ませ妹なね](八十浦;804)
- N2091 **さち子**(さちこ/幸子・岩沢いわさわ、旧姓;北原)?-1838 信濃飯田の歌人;桃沢夢宅・福住清風門、
 飯田藩士岩沢幸年ゆきとしと結婚、直真なおさねの母
 夫 → 幸年(ゆきとし・岩沢いわさわ、藩士/歌人) G 4 6 5 8
 息子 → 直真(なおさね・岩沢いわさわ、藩士/歌人) L 3 2 2 3
- K2043 **幸子**(さちこ・田内たうち/旧姓;伴)1791-185767 伊予松山の歌人、教育者田中董史ただふみと結婚、
 「蟹のすさび」著、
 [幸子(;名)の別名/号]別名;福子(さちこ;初名)/斜知さち、号;白苧花はくちよか
- N2045 **さち子**(さちこ・大竹おおたけ)? - ? 江後期;歌人、大竹吉十郎の母、
 歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [ほととぎす深山の奥の柴の戸をあけちかしとや音づれて鳴く](大江戸倭歌;夏474)
- K2044 **幸子**(さちこ・小笠原おがさわら)?- ? 江戸期歌人、家集「子の日集」
- P2004 **幸子**(さちこ・西川にしかわ、名;さち/佐智、西川吉輔よしげ女)1848-191871 近江蒲生郡八幡の商家の生、
 西川吉武(1842-76)と結婚(婿)、国学・歌人;平田鍊胤門、1876(明治9)夫吉武没、
 吉之助(1874-1940)の母、吉之助(2歳父と死別)は母と祖父に養育;1880祖父没後に家督嗣、
 幸子(さちこ・足代) → 幸子(ゆきこ・足代、弘訓女、歌人) E 4 6 4 5
 幸子(さちこ・権藤) → 幸子(ゆきこ・権藤ごんどう/水間、国学/歌) G 4 6 8 6
 幸子(さちこ・川瀬) → 幸子(ゆきこ・川瀬かわせ/飯島、国学・歌) G 4 6 7 7
- C2072 **幸子内親王**(さちこないしんのう、後醍醐天皇皇女?)?-? 南朝歌人、母;新室町院(後伏見院皇女)?、
 新葉6首;55/267/367/571/900/1041、1365[正平廿年点取三百首和歌]参加の[新参]か?、
 [我が袖にわきてや月のかすむらん問はばやよその春のならひを](新葉集;一春歌55)
 祥子内親王(さちこないしんのう、後醍醐皇女)→ 祥子内親王(しょうしないしんのう) N 2 1 2 7
 幸殖(さちたね・近藤) → 幸殖(ゆきたね・近藤/平巖、藩老/詩) E 4 6 8 0
- N2024 **幸直**(さちなお/ゆきなお・永井ながい)?-1865(慶応元) 信濃水内郡権堂村の名主、国学/歌;荒木田久老門、
 歌;本居大平「八十浦の玉」上巻末に[八月十五夜]の長歌入、
 [幸直(;名)の別名/通称/号]別名;幸一ゆきかず、通称;善左衛門、号;拙庵
- 02010 **幸生**(さちなり・億岐おき、別名;賢篤/号;蘆州)1746-181368 隠岐国造、玉若酢命神社宮司の社家、
 歌人/神道;有栖川家入門
 幸之丞(さちのじょう・丹羽)→ 氏嘩(うじあき・丹羽にわ/近藤、国学・歌) B 1 2 6 9
 幸廻舎(さちのや) → 徳風(とくふう・富田、儒/国学者) L 3 1 3 3
 幸屋(幸能舎さちのや) → 忠行(ただゆき・吉川きつかわ/よしかわ、藩士/国学/兵法) G 2 6 0 0

- 幸の屋(さちのや) → 直古(なおひさ・柴崎/森、商家/国学/狂歌) C 3 2 2 0
 幸乃屋(さちのや) → 清之(きよゆき・中川なががわ、国学者) U 1 6 9 1
 幸舎(さちのや) → 美楯(みたて・福田、商家/国学/歌人) 4 1 0 2
- 02097 幸彦(さちひこ・中山なかやま、繁樹男) 1854-1900⁴⁷ 三河吉田の国学者・神道; 渡辺重石丸いかりまる門、丹波出雲神社禰宜、少講義、
 [幸彦(;)名]の通称]左衛士
 幸彦(さちひこ・小沼) → 幸彦(ゆきひこ・小沼おねま、商家/国学者) F 4 6 3 4
 幸彦(さちひこ・平山) → 道訓(みちのり・平山ひらやま、神職/国学) K 4 1 2 6
- 02046 幸養(さちひさ・近藤こんどう、幸殖ゆきたね長男) 1834-70³⁷ 伊勢亀山士; 藩家老; 父を継嗣、国学者; 父門、
 [幸養(;)名]の通称]百助/左右衛門
- K2045 祥正(さちまさ・鈴木すずき) ? - ? 江後期1789-1804頃駿河沼津の儒者/詩文に長ず、
 1798「論語筆談」著、
 [祥正(;)名]の字/号]字; 子師、号; 仰山
- P2083 福麿(さちまる・渡辺わたなべ、通称; 文右衛門/号; 如行子) ?-1824 出羽久保田(秋田)藩士; 祐筆筆頭、
 国学・歌; 加藤千蔭門、能書家
 士観(さちまる・村田) → 春海(はるみ・村田、商家/国学/歌) 3 6 3 6
 幸丸(さちまる・檜垣) → 常名(つねな・檜垣ひがき/度会、神職/歌) C 2 9 7 7
 佐致麻呂(さちまる・中島) → 撫山(ぶざん・中島なかじま、儒者/教育) C 3 8 3 6
- 02047 幸止(さちもと・近藤こんどう、幸殖ゆきたね2男) 1843-1909⁶⁷ 伊勢亀山士の国学者; 父門、幸養さちひさの弟、
 維新後; 新潟県大書記、1871(明治4)岩倉具視の欧米視察に随行/西南戦争で熊本城を守る、
 のち山口県や茨城県などの大書記官、
 [幸止(;)名]の通称]努/百助
- K2046 左中(さちゅう・谷たに) 1740 - ? 1799存 幕臣; 1786御勘定吟味方改役/88御勘定、
 1789佐渡奉行支配組頭、1791「岩間之水」、「いか栗」著、
 [左中(;)通称]の名/別通称]名; 柄明、別通称; 平五郎/瀬兵衛せひょうえ
 左中(さちゅう・山県/村瀬) → 昌樹(まさき・野沢/村瀬/山県、与力/詩歌) C 4 0 2 2
 左中(さちゅう・県) → 正豊(まさとよ・県あがた/藤原、神職/国学) N 4 0 0 8
 左中(さちゅう・池田) → 光重(みつげ・池田いけだ、藩士/詩歌) L 4 1 1 9
 左中(さちゅう・千葉) → 正中(まさなか・千葉ちば/田中、庄屋/林業/歌) Q 4 0 8 9
 左中(さちゅう・勅使河原) → 直誠(なおのぶ・勅使河原てしがわら/滝、藩士歌) N 3 2 9 3
 左中(さちゅう・溝口) → 謀(はかる・溝口みぞぐち、医者/国学) K 3 6 8 7
 左仲(さちゅう・荻てき/荻野) → 元凱(げんがい、荻野、医者/詩) B 1 8 4 0
 左仲(さちゅう・土肥) → 黙翁(もくおう・土肥どひ、儒者/講説業) 4 4 7 1
 左仲(さちゅう・味木/沢) → 喬(たかし・沢さわ/味木、藩士/書画) L 2 6 9 6
 左仲(さちゅう・谷) → 麩山(びざん・谷たに、儒者/詩人) 3 7 0 6
 左仲(左沖さちゅう・富永) → 滄浪(そうろう・富永とみなが、儒者) D 2 5 2 4
 左仲(さちゅう・石島) → 筑波(つくば・石島/石/尾見、儒者/詩) 2 9 7 9
 左仲(さちゅう・宮沢) → 竹堂(ちくどう・宮沢みやざわ、詩人) D 2 8 6 3
 左仲(さちゅう・平沢) → 随庵(ずいりゅう・平沢ひらさわ、卜占家) F 2 3 1 5
 左仲(さちゅう・羽倉) → 信満(のぶまる・羽倉はくら/荷田、国学) H 3 5 8 8
 左仲(さちゅう・星野) → 則臣(のりおみ・星野ほしの、藩士/文筆) E 3 5 3 3
 左仲(さちゅう・伊藤) → 圭介(けいすけ・伊藤、医者/植物学者) 1 8 7 9
 左仲(さちゅう・前川) → 清広(きよひろ・前川まえがわ、神職/歌人) T 1 6 3 4
 左仲(さちゅう・幡鎌) → 幸雄(ゆきお・幡鎌はたかま/匂坂さぎさか、神職/歌) H 4 6 1 4
 左沖(さちゅう・富野) → 義胤(よしたね・富野とみの/香川、医者) E 4 7 3 6
 佐中(さちゅう・すけなか・中西) → 弘佐(ひろすけ・中西/度会、神職/歌) G 3 7 1 1
 佐中(さちゅう・すけなか・泉) → 家胤(いえたね・泉いずみ、易/国学/神職) J 1 1 9 2
 佐仲(さちゅう・すけなか・神門) → 全瓦(せんが・神門ごうと、藩士/俳人) L 2 4 8 4
 佐忠(さちゅう・藤原) → 佐忠(すけただ・藤原、廷臣/歌人) C 2 3 3 2
 佐忠(さちゅう・真木) → 佐忠(すけただ・真木まき、神職/国学) J 2 3 2 5

- 沙蟲(さちゅう・古賀) → 茶溪(さけい・古賀こが/劉、幕府儒官) G 2 0 1 4
 些中庵(叢中庵さちゅうあん/叢虫庵みのむしあん) → 土芳(とほう・服部、俳人) 3 1 5 7
 叢蟲庵(さちゅうあん・下郷) → 蝶羅(ちようら・下郷しもと、醸酒業/俳人) K 2 8 0 7
 左中太(さちゅうた・佐藤) → 寛雄(ひろお・佐藤さとう、神職/地誌家) F 3 7 5 9
 左仲太(左忠太さちゅうた・金井) → 烏洲(うしゅう・金井かない、儒/絵師) B 1 2 7 5
 左仲太(さちゅうた・高梨) → 保定(やすさだ・高梨たかなし、代官/国学) G 4 5 1 9
 左仲太(さちゅうた・伊能) → 忠敬(ただたか・伊能、酒造業/測量図) F 2 6 2 5
- P2015 幸行(さちゆき・林はやし、通称;半之丞) 1838-1914 77 筑後久留米の国学者;
 国学・歌;本居豊穎とよかい門/神典・歌;船曳磐主いぬし(鉄門かなと)門、1904(明37)「国語辞典」著
 砂長(さちよう・林) → 得閑斎(3世とつかんさい・砂長さちよう、書肆/狂歌) O 3 1 4 3
- K2047 座朝(ざちよう・海静亭/茶之仙)?-? 江中期俳人、1779「俳諧きのふけふ」82「俳諧物よろこび」編、
 02040 察通(さつ・倉地くらち、小橋市兵衛和登3女) 1754-1811 58 備前和気郡香登本村の生、
 美作英田郡川合庄奥村の豪農倉地平蔵明正の妻、1785(32歳)夫と死別、
 歌人;西洞院にしのとしいん時名ときな門、書・笙・琴を嗜む、
 倉地家の家督は察通の姪の孝こうに村上信晴男平蔵親敬を迎え相続
 茁(さつ・桜井) → 石門(せきもん・桜井さくらい、藩儒/学制) D 2 4 8 7
 佐津(さつ・高村) → 貞柳尼(ていりゅうに・高村たかむら、歌人) F 3 0 1 2
 察阿(さつあ;法名) → 善筑(ぜんちく・竹尾/源/斎藤、浄土僧/故実) G 2 4 3 3
- K2049 察応(さつおう;法諱・逸堂いつどう;道号)?-1724 尾張名古屋の曹洞僧;万松寺14世/福昌時2世、
 1709「亀山志」著
- K2048 朔花仙(さつかせん) ? - ? 江後期名古屋伏見の俳人;五竹坊門;美濃派、
 1789「終のわかれ」編(:馬六の追善集)/99「尾城歳旦」編/1805-10「尾張歳旦」編、
 [朔花仙(;号)の別号]后獅子/朔華坊
 朔華坊(さつかぼう) → 朔花仙(さつかせん、俳人) K 2 0 4 8
- G2025 五月(さつき・平たいら) ? - ? 平安初期漢学者/廷臣;武蔵国録事、
 詩;文華秀麗集95(「訪幽人遺跡」/嵯峨天皇[94]・藤原冬嗣[95]の和す詩あり)、
 [借問す幽栖の客 悠々去りて幾年ぞ 玄経空しく 卷ふみを秘め 丹竈たんさう早すてに煙を収む
 影は歌つく 青松の下 声は留む 白骨の前 今古跡を訪ふに 因りて 覚えぬ 涙潺湲せんくわんなり]
- C2073 五月庵(さつきあん) ? - ? 江後期川柳作者、1831「米沢柳樽」撰
 皐月園(さつきえん) → 十右衛門(じゅうえもん・荒川、藩士/俳人) W 2 1 7 0
- K2050 五月磨(さつきまろ・度会むらい、度会広河男or安麻呂男)?-? 度会忍人の養子、奈良末平安初期神職、
 767伊勢外宮禰宜;在任39年、正六うえ/神主、768「倭姫命世紀」804「止由気宮儀式帳」著
 察経(さつけい・中川/孫福) → 弘運(ひろかず・孫福まごぶく/度会、神職) F 3 7 6 9
- K2051 察罔(さつがい;法諱・法名;光蓮社彦誉)?-1782 武蔵の浄土僧;走誉連察門、京百万遍知恩寺50世、
 1765上州館林善導寺から転昇/70京下寺町極楽寺に隠居;同寺を中興、「浄業知識」著
- F2058 昨今非(さっこんひ) ? - ? 江前期俳人;1681言水「東日記」/松意「軒場の独話」入
 颯々(さつさつ・秋廼屋) → 秋廼屋颯々(あきのやさつさつ・狂歌/伊東巨規) C 1 0 2 4
 颯々亭南水(さつさつていなんすい) → 歌国(うたくに・浜松、読本/随筆/脚本) 1 2 6 7
 薩州(さつしゅう;号) → 諦忍(たいにん;法諱・道隱、真宗本願寺派僧) K 2 6 8 7
 薩生房(さつしょうぼう;号) → 全報(ぜんぼう;法諱、浄土僧) N 2 4 7 3
 颯然(さつぜん・橋爪) → 幸求(こうきゅう・橋爪沢右衛門、神道家) I 1 9 2 6
 雑体噺社(ざつたいざんしゃ) → 千穎(ちかひ・燕栗園えんりつえん初世、狂歌) 2 8 6 0
 薩太郎(さつたろう・戸田) → 元周(もとちか・戸田、国学者) D 4 4 0 3
- C2074 雑端(ざつたん) ? - ? 江戸雑俳点者、1775「相合袴」入
 察通(さつとう・倉地) → 察通(さつ・倉地くらち/小橋、歌人) O 2 0 4 0
 雑亭(ざつてい/雑亭駄鹿ざつていだろく) → 白石(はくせき・野田、詩/狂歌) D 3 6 4 7
- K2052 察度王(さつたおう、奥間大親男) 1320-1395 76 琉球王1350-95在位;三国統一以前で初代中山王、
 浦添間切謝名の奥間大親と伝説上の天女のる飛衣(羽衣)の子と伝承される、
 極貧だったが勝連按司の女を娶り家運を興す;牧港貿易・農民の救援など人望を集める;

浦添按司となる、1350推薦され中山王に即位、経済改革;貿易館・御物城設置;
東南アジア・明・高麗と貿易、明の冊封体制の中で中山・山南・山北の三山時代が確定、
古琉歌作者;1878朝昇「琉歌大歌集」入、
神号;大真物うぶまもの

- K2053 薩摩(さつま) ? - ? 平安前期女房歌人;康子内親王家に出仕?、
956坊城右大臣殿(師輔前裁)歌合参加、
[かぎりなく頼まるるかなつゆばかりうつろふ色にあらぬやますげ](右大臣歌合;8/山菅)
- 薩摩(さつま・安部) → 宗久(むねひさ・安部あべ、神職/記録) C 4 2 3 1
薩摩(さつま・吉成) → 好謙(よしかた・吉成よしなり、神職/和漢学) C 4 7 7 1
薩摩(さつま・井上) → 宗統(むねつぐ・井上いのうえ、神職/歌人) D 4 2 6 1
薩摩(さつま・熊懐) → 行礼(ゆきり・熊懐くまがい、神職/国学) G 4 6 7 9
薩摩(さつま・高山) → 茂樹(しげき・高山たかやま、神職/国学) Z 2 1 3 1
薩摩太夫(さつまだゆう) → 浄雲(じょううん・薩摩太夫、浄瑠璃太夫) S 2 2 0 0
薩摩守(さつまのかみ・安藤) → 親重(ちかしげ・安藤、神職/国学/故実) 2 8 9 7
薩摩守(さつまのかみ・島津) → 宗信(むねのぶ・島津しまづ、藩主/弓術) D 4 2 8 6
薩摩守(さつまのかみ・井上) → 頼定(よりさだ・井上いのうえ、神職/歌人) L 4 7 3 6
薩摩守(さつまのかみ・長利) → 仲聴(なかあきら・長利おさり、神職/歌人) L 3 2 5 3
- C2041 薩摩掾(さつまのじょう・富士松ふじまつ、宮古路加賀太夫) 1676-1757⁸² 新内節;宮古路豊後掾門
- 薩摩介(さつまのすけ・池田) → 東籬亭菊人(とうりていきくひと、池田、官人/読本) 3 1 2 7
薩摩介(さつまのすけ・三角) → 有孝(ありたか・三角みすみ、廷臣/医官) I 1 0 5 0
薩摩法印(さつまほういん) → 日睿(日叡にちえい;法諱、修験者/日蓮僧) 3 3 5 7
察問(さつもん;字) → 日船(にっせん;法諱・隆冲院、日蓮僧) 3 3 8 1
刷雄(さつゆう・藤原) → 刷雄(よしお・藤原、廷臣/詩人) C 4 7 3 1
察竜(さつりゅう;法諱) → 善筑(ぜんちく・竹尾/源/斎藤、浄土僧/故実) G 2 4 3 3
颯涼窓(さつりょうそう) → 純固(すみかた・久野くの、藩家老/詩歌) D 2 3 8 8
佐哲(さてつ・小林) → 西岳(せいがく・小林こばやし、藩儒) 2 4 9 0
- C2075 佐提比古(狭手彦さでひこ・大伴おおも) ?-? 537(宣化2)任那へ/562(欽明23)高麗へ派遣、
572大將軍/万葉集:大伴金村男、佐用媛伝説/風土記;弟日姫説、
→ 松浦佐用媛(まつらさよひめ、万葉伝説人物) J 4 0 8 9
☆袋草紙;遣唐大使大伴佐手丸の妻奈刀自なとじが端正美麗のため途中海神に奪取の説話
- 左伝(さでん・村田) → 氏純(うじずみ・村田むらた、藩士/故実) C 1 2 3 9
左伝(さでん・岩間) → 十竹(じっちく・岩間いわま、修験僧/俳人) U 2 1 9 2
佐伝(さでん・太田) → 白(はく・太田おた、蓬山/国学者) J 3 6 8 6
左伝次(さでんじ・朝倉) → 東軒(とうげん・朝倉あさくら、藩士/詩人) D 3 1 3 2
左伝次(さでんじ・武嶋) → 茂敦(しげあつ・武嶋/菅原、幕臣) Q 2 1 5 4
佐伝丸助(さでんまるすけ) → 義章(よしあきら・松沢まつざわ、商家/国学) C 4 7 0 6
- 02054 里(さと・座光寺ざこうじ、別名;房/郷、為巳ためみ女) 1831-66³⁶ 母;山村列れつ(?-1881/父為巳の後妻)、
信濃伊那郡の山吹領主の娘、歌人;片桐源栄門
- さと(・田中) → 稚子(まさこ・田中たなか、歌人) Q 4 0 6 0
さと(・儘田) → 誓恂(誓順せいじゆん・儘田まだ、歌人) O 2 4 5 0
さと(・武藤/宮内) → 里女(さとじよ・武藤むとう/宮内、商家/歌) P 2 0 5 5
里(さと・伊達) → 温子(あつこ・伊達だて/渡辺、側室/歌) H 1 0 9 1
佐登(さと・吉田) → 佐登子(さとこ・大倉おくら/吉田、詩/絵師) O 2 0 1 2
佐渡(さと・岡本) → 業常(なりつね・岡本おかもと/石上、藩士/歌) L 3 2 5 0
佐渡(さと・広辻) → 光春(みつはる・広辻ひろつじ/橘/小林、歌/茶人) K 4 1 2 8
佐渡(さと・水沢) → 清隆(きよたか・水沢みずざわ、神職/国学) V 1 6 3 7
佐渡(さと・渡辺) → 成雄(しげお・渡辺わたなべ、神職/国学・歌) a 2 1 1 4
佐渡院(さどいん) → 順徳天皇(じゆんとくてんのう、佐渡配流/歌) 2 1 6 4
左藤(さとう・山田) → 秀紹(ひでつぐ・山田まだ、神職/国学/歌) M 3 7 2 0
- K2054 砂童(さどう) ? - ? 江後期熊本の俳人:綺石門、

1817「綺石十三回忌」/17「阿為多伝」編

- 左藤次(さとうじ・浅加) → 友郷(ともさと・浅加/浅香、藩士/詩歌) P 3 1 5 0
 佐藤治(さとうじ・佐伯) → 惟忠(これただ・佐伯さき、藩士/国学者) Q 1 9 8 7
 佐藤太(さとうだ・高井) → 英一(ひでかず・高井、藩士/蝦夷記録) C 3 7 9 2
 仏兄(さとえ) → 鬼貫(おにつら・上島うえま、俳人) 1 4 2 4
 仏兄(2世さとえ) → 李原(りげん・山本やまと、鬼貫追善集) 4 9 9 6
 郷吉(さときち・伊島) → 重枝(しげえ・伊島いじま/直江/伊藤、庄屋/勘定奉行) N 2 1 2 5
 里木予一(さときよいち;「野本」の字謎) → 道元(どうげん・野本、茶人/仮名草子) D 3 1 6 0
 佐徳(さとく) → 十口(じゅうく・柳/青木/広瀬、俳人) E 2 1 8 5
- 02012 **佐登子**(さとこ・大倉おおくら、初名;佐登、医者吉田南涯女) 1797-1866 70 京の生、
 詩人・書家・絵師、詩・書;頼山陽門/画;中林竹洞門;山水・梅竹・蘭画を得意、
 京の竹洞門の絵師大倉笠山りつざんの妻、夫笠山没後に山城笠置の笠山の生家に住;
 乱れた家政を立て直す、
 [佐登子(;名)の字/号]字;成文(成史?)、号;袖蘭しゅうらん
 夫 → 笠山(りつざん・大倉おおくら、絵師/詩人) M 4 9 0 4
- N2038 **さと子**(聡子さとこ・鳥居とりい、初名;聰子、石見藩主松平康任3女) 1815-86 72歳 母;松平康定女、
 江戸の生、下野壬生藩6代藩主鳥居丹波守忠挙ただひら[1815-57]の正室、忠肅・忠宝の母、
 歌人;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(夫と共に入集)、
 [さえわたる富士のねおろし吹きたえて月しづかなる田子の浦波](大江戸倭歌;秋889)
- P2065 **さと子**(さとこ・安田やすだ、) 1821-1842 早世 21 紀伊和歌山の商人安田長穂(1796-1856)の後妻、
 国学・歌人;本居大平・加納諸平門、千穎(1827生)穂並(1826生)は先妻の子、
 穂末ほづえ(1838-62)の母?
 佐登子(さとこ・川路) → 高子(たかこ・川路かわじ/大越、歌人) C 2 6 7 6
 佐渡五郎左衛門尉(さどごろうざえもんじょう) → 基隆(もとたか・後藤/藤原、武家/歌人) C 4 4 7 6
- Q2087 **敏**(さとし・高橋たかはし、) 1829 - 1900 72 讃岐小豆郡四海村の村長、教育者、
 1872(明治5)長勝寺に小豆島最初の学校建設、
 [敏(;名)の字/通称/号]字;有功、通称;伊門、号;梅峯
- Q2097 **敏**(さとし・塚村つかむら、加藤良左衛門男) 1838-1900 63 備中下道郡岡田陣屋岡田藩士の家の生、
 浅口郡地頭上村の塚村太郎昌言の婿養子、絵師、歌;熊谷直好門/国学・歌;藤井高雅門、
 [敏(;名)の通称/号]通称;五左衛門、号;暘谷/曜峰
 郷重(さとしげ・肥丹) → 眞守(まもり・肥丹ひたん/高橋、神職/国学) S 4 0 0 6
- N2060 **さと女**(さとじよ・市川いちかわ) ?- ? 江後期;歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [逢はぬまのしげきなげきにくらぶればしのだの杜の千枝はものかは]、
 (大江戸倭歌;恋1553/寄杜恋)
- P2055 **里女**(さとじよ・武藤むとう、旧姓;宮内) 1788-1855 68 土佐高知の武藤平道ひらみち(1778-1830)の後妻、
 武藤家は高知の豪商美濃屋、歌人;夫門、
 [里女(;通称)の名/号]名;さと、号;西蘭/西鸞
- N2061 **里女**(さとじよ・小倉おぐら) ?- ? 江後期;歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [わが思ふ心の奥もしら鳥のとはにつらさをみする君かな]、
 (大江戸倭歌;恋1586/寄鳥恋)
 里女(さとじよ) → 里女(りじよ/りによ、美濃牧田の俳人) B 4 9 2 4
 佐渡大夫判官入道(さどたいふはんがんにゅうどう) → 道誉(どうよ;法諱、佐々木/京極、武将/連歌) 3 1 1 1
- K2055 **郷孝**(さとたか・山崎やまさき/本姓;源、通称;辰三郎) ?-? 山崎景憲の養嗣子/江末期陸前仙台藩士、
 大征流の捕縄術を継承、「追善之城取」著
- 02035 **良翰**(さとたか/よしさと・河合かわい、松下高知2男) 1803-76 74 江戸生/播磨姫路藩老河合道臣ひろおみの養子、
 姫路藩士/養父を継嗣;姫路藩家老、藩主酒井忠績の佐幕活動に反し藩内で尊攘活動、
 密謀が発覚;幽閉/1868王政復古で赦免、維新後;姫路藩大参事

- [良翰(；名)の通称/号]通称;鎧七がいしち/小太郎/隼之助、号;屏山びょうざん
- 里恭(さとたか/さとも・柳沢/柳)→淇園(きえん・柳沢、藩士/漢詩/絵師) 1 6 0 3
- 佐渡阿闍梨(さどおのあじやり)→日満(にちまん;法諱・興円、日蓮僧) D 3 3 2 2
- 里の家(さどのいえ) → 芳瀧(よしたき・歌川うたがわ/中井、絵師) E 4 7 1 5
- 里の都(さどのいち) → 里長(初世りちよう・鳥羽屋、三味線/作曲) B 4 9 5 2
- 佐渡院(さどのいん) → 順徳天皇(じゅんとくてんのう) 2 1 6 4
- 佐渡守(さどのかみ・久須美)→祐雋(すけとし・久須美/藤原、幕臣/文筆) G 2 3 6 5
- 佐渡守(さどのかみ・小笠原)→野戸川伎(のどのかわき、狂歌) 3 5 6 6
- 佐渡守(さどのかみ・森川) → 養生(ぎせい・森川もりかわ、歌人) S 1 6 9 9
- 佐渡守(さどのかみ・堀家) → 政富(まさとみ・堀家ほりけ、神職/国学者) M 4 0 9 1
- 佐渡守(さどのかみ・京極) → 高矩(たかのみ・京極きょうごく、藩主/国学) W 2 6 8 1
- 佐渡守(さどのかみ・立神) → 清正(きよまさ・立神たつかみ、神職/国学) U 1 6 7 1
- 佐渡守(さどのかみ・早雲) → 高古(たかふる・早雲はやくも、神職/国学) Z 2 6 0 3
- 佐渡守(さどのかみ・中川) → 久恒(ひさつね・中川なかがわ、藩主/和学) K 3 7 3 5
- 佐渡守(さどのかみ・松平) → 輝高(てるたか・松平まつだいら/大河内/源、藩主/老中/歌) E 3 0 8 6
- 佐渡守(さどのかみ・北郷) → 久加(ひさます・北郷きたごう、家老/歌人) J 3 7 2 6
- 佐渡四郎左衛門尉(さどのしろうさえものじょう)→時秀(ときひで・鞍智くらち/佐々木/源、武将) J 3 1 8 6
- 佐渡廻輔(佐渡介さどのかみ・小原)→実風(さねかぜ・小原/物部、神職/国学) K 2 0 8 0
- 里信(さとのぶ・根本) → 鶴銭(かくせん・根本ねもと、藩士/俳人) K 1 5 1 5
- 里之舎素水(さとのやすい)→慶孝(よしたか・小野おの/宇治、神職/歌人) L 4 7 8 3
- K2056 佐渡八(さどはち・三島みしま、別通称;大坂弥八)?? 江前期大阪歌舞伎役者:佐渡島伝八の門系、
1699大坂音羽座の道外方、大坂各座で活動、1714頃より歌舞伎作者兼任;座元も勤める、
1715「八幡長者乙姫」/18「陰陽乾町造」著
- 里人(さとびと・今津) → 雀庵(じゃくあん・加藤、俳人) G 2 1 0 5
- 識仁(さとひと;名) → 霊元天皇(れいげんてんのう、歌人) 5 1 0 3
- N2070 里美(さとみ・秋本あきもと、通称;玄芝/号;鷹洲ようしゅう、岱寿男) 1806-8782 周防三田尻の医者/歌人、
1861(文久元)梅田幽斎と三田尻医学館好生堂御用達となる、
好謙よしかね(地山/1842-1908)の父
- 里美(さとみ・吉田) → 謙斎(けんさい・吉田よしだ、藩士/詩文) I 1 8 9 0
- 02024 里路(さとみち・加藤かとう、) 1840-191172 加賀金沢藩士;1845父を継嗣;千5百石、
国学・歌;狩谷竹輦(鷹友)門、維新後;神祇官宣教使/のち能登白山比咩(しらやまひめ)神社宮司・
射水神社・気多神社宮司、1872諸社で神道説教、晩年;金沢帰郷;興道社設立;国学を講義、
「神風余響」「神木記」「志北能屋集」著、
[桜花さけばぞ春はうらゝなるうらゝなればぞかくは句へる]、
[里路(；名)の通称/号]通称;喜久松/修理/図書、号;椎廼舎いのみや
- 里通(さとみち・岩橋) → 長泰(ながやす・岩橋いわはし、庄官/歌人) L 3 2 2 4
- 里光(さとみつ・柳沢) → 里之(さとゆき・柳沢やなぎさわ、藩主/俳人) K 2 0 5 7
- K2057 里之(さとゆき・柳沢やなぎさわ、大和郡山藩主柳沢信鴻のぶとき5男/本姓源) 1758-180447 柳沢信著養嗣子、
越後三日市藩主;1782襲封、藩制の整備政改革、日光祭礼奉行・大坂加番、
俳人;実父信鴻門;俳号;珠成しゅせい、1782「春ふくろ」編、84「蘇明山荘発句藻」編、
[里之(；名)の別名/通称/号]別名;方教まさのり?/信古のぶひさ?/信瑗(しんえん)/里光、
通称;吉蔵/来五郎、号:桂花園/星羅/珠成(；俳号)、法号;如意珠院葛山慈禅
- K2058 郷義(さとよし・山崎まさき/本姓;源、郷寧男) 1773-184674 陸前仙台藩士;父の遺跡継嗣;武田流軍法、
小笠原流軍礼・弓儀、劍徳流剣法など諸流の奥義を極め;捕縄術の大征流を創始;門弟指導、
1808幕命による仙台会津両藩の北法警備の際にクナシリ警備副隊長・武頭を務める、
1808「仙台藩クナシリ警固日記」14「一騎伝口授秘決蘊奥抄」著、「桃陽聞書」「山崎氏家譜」、
「甲州流軍法口授秘決蘊奥抄後篇」著、外編著多数、
[郷義(；名)の別名/通称/号]別名;郷誼、通称;益之進/源太左衛門、隠居号;半也
- K2059 郷美(さとよし・山崎まさき/本姓;源)?? 幕末明治期陸前仙台藩士/のち伊達毛家令、
山崎郷義の裔、仙台南町通に住、和算家;国分高広門、「算法初学」校、

[郷美(;名)の通称] 隼太郎

P2084 覺(さとる・渡辺わたなべ、通称;伊右衛門、戸田茂睡長男)1665-82天逝18 江戸の和学者・歌人;父門、1682(天和2)没;父茂睡が東陽寺境内手向野に追悼碑建立;

[風の音苔の雫も天地の絶えぬ御法の手向にはして](茂睡;[柴の一本])

C2076 左内(さない・若狭守藤原吉次)?-? 浄瑠璃太夫、軟派、「ともなり」「いけとり夜うち」作

K2060 左内(さない;通称・鈴木ずさ)1803-? 1865存 最上流和算家;斎藤雋門、

1853「約術雑題六章」54「最上流天生雑解」、「算術伝受帳」著

K2061 左内(さない・橋本はしもと、名;綱紀、長綱の長男)1834-59斬罪26歳 母;小林静境女の梅尾、

越前福井藩士/漢学;吉田東臯・千手旭山門/蘭方医学;1849洪庵の適塾入門、

1852父没のため家督嗣/表外科医となる、1854江戸遊学/蘭学;杉田成卿・戸塚静海門、

1856藩校明倫館の蘭学科係/57学監同様心得;洋書習学所を開設、勤王家、

藩主を補佐し一橋慶喜擁立による幕政改革の活動;朝廷工作に失敗;安政大獄連座、

伝馬町獄舎で斬罪、1848「啓発録」55-56「景岳割記」57「景岳先生意見割子」、

1878「橋本左内建白書」79「適意偶抄」、「明道館之記」「蘭書冶鉄学」「六合叢談抄」外著多数、

[志ナキ者ハ魂ナキ虫ニ同ジ 何時迄立候テモ丈ノノブル事ナシ](啓発録)、

[左内(;通称)の字/号] 字;伯綱・弘道、

号;景岳/黎園/容安/篤斎/松亭/挹翠ゆうすい、桃花晴暉楼/無憂子/雄気楼

[左内の変名] 桃井伊織/亮太郎/不破哲次郎、法号;景鄂院

左内(さない・足立) → 信頭(のぶあきら・足立あだち、幕臣/暦学) 3 5 8 8

左内(さない・足立) → 信行(のぶゆき・足立あだち、信頭孫/暦学) D 3 5 7 7

左内(さない・小堀) → 永頼(ながより・小堀、藩士/詩人) G 3 2 5 7

左内(さない・宮島) → 御園(みその・橋たちばな/宮島、藩士/歌人) H 4 1 5 0

左内(さない・森川) → 香山(こうざん・森川もりかわ、弓術家) J 1 9 1 5

左内(さない・島田友直) → 瓢空酒(ひさごのからざけ、狂歌) B 3 7 0 2

左内(さない・梶原) → 景毅(かげよし・梶原かじら、藩士/歌) L 1 5 5 1

左内(さない・佐藤) → 貞寄(さだより・佐藤/宇多、藩士/詩歌) C 2 0 6 9

左内(さない・上田) → 光秋(みつあき・上田うねだ、神職) D 4 1 0 0

左内(佐内さない・萩原/水野) → 為長(ためなが・水野/萩原、歌人) H 2 6 1 9

左内(さない・桃井) → 保教(やすのり・桃井もものい、神職/国学) G 4 5 8 8

左内(さない・大国) → 盛業(もりなり・大国/荒木田、国学/歌) G 4 4 1 5

左内(さない・小林) → 義兄(よしえ・小林/藤原、歌/博物学) C 4 7 2 4

左内(さない・安部) → 武士八十氏(ものみのやそうじ、幕臣/狂歌) E 4 4 8 5

左内(さない・桑そう/桑山) → 玉洲(ぎよくしゅう・桑山/桑、絵師) D 1 6 0 2

左内(さない・亀屋/武重) → 正重(まさしげ・武重たけしげ/児玉、国学者) L 4 0 8 8

左内(さない・栗山) → 孝庵(2世こうあん・栗山、医者/解剖) H 1 9 2 2

左内(さない・葉山) → 高行(たかゆき・葉山はやま、藩士/儒者) N 2 6 6 4

左内(さない・奥平) → 貞胤(さだたね・奥平おくだいら、家老/歌人) O 2 0 2 2

左内(さない・石川) → 成章(しげあき・石川いしかわ、幕臣/日記) B 2 1 7 9

左内(さない・坂口) → 公弼(きみすけ・坂口さかくち、藩士/国学) U 1 6 4 0

左内(さない・松岡) → 帰厚(もとあつ・松岡/越智、雄淵孫/国学) C 4 4 0 6

左内(さない・浅井) → 清足(きよたり・浅井あさい/菊地、庄屋/歌) T 1 6 3 9

左内(さない・田中) → 友鶴(ともつる・千歳軒せんざいけん、狂歌) P 3 1 8 9

左内(さない・野上) → 貞勝(さだかつ・野上のがみ、神職/歌) P 2 0 0 9

佐内(さない・後藤) → 元量(もとかず・後藤ごとう、神職/国学/歌) J 4 4 9 8

K2062 眞一(佐奈一さないち・杉枝すぎえだ/初姓;齊藤)1674-174774 鍼医;杉山和一门、柳沢吉保に出仕、

1701將軍綱吉に謁す;1706御医師/09寄合医、1741致仕、「針灸約」著、

[眞一(;名)の通称/法号]通称;杉枝検校、法号;放照院前三老検校光雲亮明和上

K2063 早苗(さなえ・玉田たまだ、号;桃仙)?-? 江後期文久1816-64頃信濃伊那代官、「桃仙見聞雑誌」著

N2095 早苗(さなえ・植村うゑむら、号;魯斎)?-1905 近江膳所藩士/歌人、廃藩後は公務

- 早苗(さなえ・橘樹園) → 橘樹園(きつじゆえん・早苗、狂歌) L 1 6 4 6
 佐奈具屋又三郎(さなぐやまたさぶろう) → 鶯秋(ろしゅう・橋井はしい、俳人) B 5 2 7 1
- K2064 左入(さにゅう・田中たなか) ?-1739 京の窰元:楽焼6世、元祖は渡来人、
 初代長祐(長次郎)は秀吉に賞され[楽]の字の金印を受ける;以後楽焼と称す、
 「茶器定本記」著、
 [左入(;号)の通称/別号]通称;吉左衛門、別号;楽吉、法号;智覚院
- C2078 讚岐(さぬき、讚岐守安倍清行[825-900]女)?-? 平安中期歌人、古今1055
 [ねぎごとをさのみ聞きけむ社やしろこそはてはなげきの森となるらめ](古今集;十九1055)
 (願い事を聞き届ける社は人々の嘆きの森となる/裏に男の甘言に乗ると泣きをみる意?)
 父 → 清行(きよゆき・安倍/阿部あべ、廷臣/歌) 1 6 4 8
- K2065 讚岐(さぬき、裸子内親王[六条斎院]家の女房、藤原兼房女?)?-? 1094存70歳位 歌人/物語作者:
 1049-70六条斎院裸子歌合に14回参加;うち1055斎院物語合「あやめうらやむ中納言」作、
 1093[師実(1042-1101)家歌合]参加、続詞花2首入、
 [あやめ草なべてのつまとみるよりはよどのに残るねをたえねばや](物語合;10)
 [春風やまだうちとけて吹かざらむ薄く氷の池に残れる](1070裸子歌合;六番左11)
 [京極前太政大臣(藤原師実)家歌合に、
 秋の夜はいとど長くぞ成りぬべきあくるもしらぬ月の光に](続詞花;秋193)
- C2079 讚岐(さぬき、二条院讚岐にじょういんのさぬき、源頼政女)1141?-1217?77? 母:源齊頼の孫(齊頼の養女)、
 二条天皇の掌侍;讓位後に退任、藤原重頼の妻;陸奥にも赴く、
 1190宜秋門院任子(九条兼実女)の立后の際に再度宮中に出仕;讚岐内侍名、歌人、
 1207伊勢の所領問題で鎌倉幕府に訴;三善康信(善信)の尽力で解決(;玉葉集2076-77)、
 二条・後鳥羽・順徳院の内裏歌壇や歌林苑に参加;1178別雷社歌合・1200正治初度百首、
 1201千五百番歌合・1216百番歌合などに参加、「二条院讚岐集」、
 続詞花(1首550頼政女讚岐名)・言葉・月詣集・雲葉集(6首)入、
 勅撰73首;千載(4首760/880/891/925)新古(16首130/237/271/435以下)新勅(13首26下)、
 続後撰(4首289/526以下)続古(6首)続拾(2首)新後撰(4首)玉葉(8首)続千(4首)以下、
 [わが袖は潮干に見えぬ沖の石の人こそ知らねかわく間ぞなき[もなし]]
 (千載760、[百人一首];「沖石の讚岐」の異名)
 [わが袖やみるめなぎさのいかならんむなしき浪のかけぬまぞなき](正治百首;1974恋)、
 [二条院讚岐の別通称]讚岐内侍/沖石の讚岐、仲綱の姉妹、重光・有頼の母
- Q2004 讚岐(さぬき、七条院讚岐にじょういんのさぬき、藤原孝道[1166-1237]長女)?-? 平安鎌倉期;箏琵琶の家、
 箏の名手/歌人、妹の尾張(すぢ御前/水落ちの尼連寿)は琵琶の名手、共に七条院に出仕、
 七条院殖子しよくし(藤原信隆女/1157-1228)は高倉天皇の後宮/後鳥羽天皇の母、
 姉妹は承久(1219-22)頃後鳥羽上皇兄の守貞親王(後高倉院)に請われ、
 七条院から後高倉院に出仕(のち尾張は承久乱後守貞親王子の後堀河天皇の内侍)、
 歌;1233刊[御裳濯集]入(七条院讚岐名)、
 [いそぐともなほゆくすゑも山桜花のあたりはえやはすぐべき](御裳濯集;春110)
- C2080 讚岐(さぬき、後照念院ごしょうねいん関白太政大臣家讚岐)?-? 鎌倉後期の女房歌人、
 後照念院関白鷹司冬平[1275-1327]家の女房、
 歌;勅撰4首;新後撰(1197)続千載(444/871)続後拾遺(729)、
 [よしさらば人のつらさも有りてうき命のとがとなしてうらみじ](新後撰;恋1197)
 [讚岐(;女房名)の別通称]右大臣家讚岐
- K2066 讚岐(さぬき・安形あがた、名;貴林)1784-185875 三河の神道家;三河国陰陽道取締役、
 自称;日本一社八幡宮神主、1822「太上神仙鎮宅靈符感応記」26「開運原始録」52「利運談」著、
 [讚岐(;通称)の別通称/号]別通称;貞助/清蛾、号;白鯉
- 讚岐(さぬき、上西門院女房)→美濃(みの・皇后宮、1100頃生/歌人) F 4 1 6 1
 讚岐(さぬき・蘆田) → 鈍永(どんえい・九如館、狂歌師) 3 1 6 9
 讚岐(さぬき・味木/沢) → 喬(たかし・沢さわ/味木、藩士/書画) L 2 6 9 6
 讚岐(さぬき・車館) → 末眞(すえまさ・車館くるまで/和田、神職/茶) F 2 3 6 3
 讚岐(さぬき・春日) → 潜庵(せんあん・春日かすが/源、儒者/勤王) E 2 4 8 0

- 讃岐(さぬき・十文字) → 重光(しげみつ・十文字じゅうもんじ/木下、神職/和漢学) O 2 1 8 6
- 讃岐(さぬき・水沢) → 清稔(きよね・水沢みずさわ、神職/国学) V 1 6 3 6
- 讃岐(さぬき・宮川) → 経正(つねまさ・宮川みやがわ、神職/国学) G 2 9 5 6
- 左貫治平(佐貫治兵衛さぬきじへい) → 治蔵(じじう・竹田、歌舞伎作者) E 2 1 4 8
- 讃岐十郎(さぬきじゅうろう) → 頼有(よりあり・細川ほそかわ/源、武将/守護/歌) Q 4 7 4 2
- 讃岐院(さぬきのいん) → 崇徳天皇(すとくてんのう) D 2 3 4 1
- 讃岐守(さぬきのかみ・青山) → 秀堅(ひでかた・青山あおやま、幕臣) C 3 7 9 6
- 讃岐守(さぬきのかみ・藤木) → 茂季(しげすえ・藤木ふじき/賀茂、神職) R 2 1 0 7
- 讃岐守(さぬきのかみ・藤木) → 呂顕(すみあき・藤木ふじき、国学者) J 2 3 1 8
- 讃岐守(さぬきのかみ・毛利) → 元世(もとよ・毛利もうり/堀田、藩主/歌) I 4 4 7 8
- 讃岐守(さぬきのかみ・仙石) → 久利(ひさとし・仙石せんごく、藩主/歌) I 3 7 4 9
- 讃岐守(さぬきのかみ・松平) → 頼起(よりおき・松平らつだいら、藩主/和学) P 4 7 1 8
- 讃岐守(さぬきのかみ・松平) → 頼儀(よりのり・松平まつだいら、藩主) P 4 7 2 5
- 讃岐守(さぬきのかみ・島) → 重道(しげみち・島しま/出雲宿禰、神職/国学) O 2 1 8 1
- 讃岐守(さぬきのかみ・中川) → 長延(ながのぶ・中川なががわ/藤原、廷臣/歌) F 3 2 1 9
- 讃岐宰相(さぬきのさいしやう) → 美作三位(みまさかのさんみ、道綱女豊子) F 4 1 8 4
- 讃岐三位(さぬきのさんみ) → 伊予三位(いよのさんみ、藤原顕綱女兼子) 5 4 7 9
- 2030 **讃岐典侍**(さぬきのすけ、名;藤原長子、藤原顕綱女) 1079?-? 1119存 平安期女房歌人、堀河天皇の乳母伊予三位兼子けんしの妹(兼子の養女になったか?)/道経妹、1100堀河天皇に出仕/01典侍/07堀河天皇没後に鳥羽天皇に出仕、「讃岐典侍日記」著(堀河天皇病床奉仕と追憶)、1119精神錯乱;兄の許に預けられる、歌;新勅撰集1222、[いにしへをこふる涙にそむればやもみちも深き色まさるらん](新勅撰;雑1222)、[讃岐典侍(;女房名)の別称]堀河院讃岐典侍、藤原実信の母(顕綱女/保実の妻)と同一説あり → 実信母(さねのぶのは・金葉歌人) D 2 0 4 2
- 讃岐介(さぬきのすけ・岡本) → 氏臣(うじおみ・岡本おかもと/賀茂、神職/書家) C 1 2 3 4
- K2067 **讃岐宣旨**(さぬきのせんじ、法橋隆尊女) ?-? 関白藤原忠通の乳母、藤原親隆(四条宰相)の母
- 讃岐内侍(さぬきのないし) → 讃岐(さぬき、二条院讃岐、歌人/源頼政女) C 2 0 7 9
- 讃岐入道(さぬきのにゅうどう) → 顕綱(あきつな・藤原、歌人) 1 0 4 5
- 讃岐入道(さぬきのにゅうどう) → 行家(ゆきいえ・藤原ふじわら、廷臣/詩歌人) E 4 6 2 7
- 讃岐法印(さぬきのほういん) → 宗快(しゅうかい、天台僧/声明) W 2 1 7 6
- 讃岐靈瑞(さぬきのれいずい) → 靈瑞(れいずい;法諱・一現;字、真言僧) 5 1 4 3
- C2081 **実**(さね・源みなもと、舒男) ? - 900 平安前期廷臣;蔵人/897左近少将/従五上、899信濃守、歌人;筑紫湯治のとき山崎で遊女白女しろめ・藤原兼茂かねもちと贈答歌、古今388 [人遣りの道ならなくにおほかたは行き憂しといひていざかへりなむ](古今;離別388)
- C2082 **実秋**(さねあき・一条いちじやう/家名;清水谷、初名;実次、公勝男/本姓;藤原) 1384-1420³⁷ 室町期廷臣、1408参議/15従二位/20権大納言、歌人;新続古今793、[もろともにみぎりのたづもよばふなりはこやの山の万代のこゑ](新続古;賀793)、(菟姑射はこやの山は仙人のすむ山;ここは仙洞)
- C2083 **実顕**(さねあき・阿野あの/本姓藤原、実時[休庵]男) 1581-1645⁶⁵ 祖父季時の猶子、廷臣;1612参議/正四下、1619権中納言/33権大納言/39正二位、歌人/歌学;細川幽斎・中院通村・鳥丸光広門、連歌、書を嗜む、1631-33「北野法楽詩歌」33「古今文字読聞書」、歌道消息、玄仲・昌琢らと連歌、各種百韻;1598何人・何木・何路百韻/1600何路百韻/15手何・白何百韻/23山何百韻など多、1638後鳥羽院四百年忌御会参加(息子の阿野公業・山本勝忠と)、[長き夜の露の袂にやどしつる昔おぼゆる月の影かな](後鳥羽院忌;57)、[実顕(;名)の別名/号]別名;実政(;初名)/実好/実治、号;什斎/松林院、法号;真空院
- K2068 **実顕**(さねあき・三条さんじやう/転法輪三条/本姓;藤原、三条公謙男) 1708-72⁶⁵ 母;藤原直興女、1719三条公充の養嗣子/廷臣;24従三位/45改名;実顕/54右大臣/従一位、「実顕公記」著、

- 「改元定備忘記」/1725「実頭公中納言御奏慶御日記」31「神宮伝奏記録」著、
[実頭(；名)の初名/通称/法号]初名；利季、通称；誠心院右大臣、法号；誠心院閑空円浄
- H2018 **眞章**(さねあき・古屋ふるや、初名；直親、以時男)1729-180678 甲斐八代郡神職；甲斐一宮浅間神社祠官、
加賀美光章門/諸家を涉獵、歌/書、1807「神代卷古訓考」(宣長の序)、
[眞章(；名)の字/通称/号]字；秀明、通称；大和/日向/嘉門、号；君洞
- K2069 **実麿**(さねあき・小倉おぐら、林述斎男)1802-4847 江戸の生/小倉隆時の養子、幕臣；西丸納戸頭、
歌人；1840「墨田川二百首」編、林檎宇い・鳥居耀蔵ようぞう・林復斎の弟、
[実麿(；名)の別名/字/通称/号]別名；政焰、字；明原/以葆/公明、
通称；焰之助/超之助/内蔵助、号；桜舎、
- Q2089 **実秋**(さねあき・財部たからべ、)1827-191388 日向都城の島津家家臣；島津藩士、
国学・歌；八田知紀門、1862(文久2)島津久光に随従し江戸へ/帰藩後尊攘活動；
鳥羽伏見戦参加/奥羽各地転戦、のち都農神社権官司、権中講義、
歌集「梅廼舎集」「稻の垂穂」著、
[実秋(；名)の通称/号]通称；雄右衛門、号；梅廼舎/布留廼舎ふるのや
実章(さねあき→さねぶみ・花園)→実章(さねぶみ・花園/藤原/正親町三条、琵琶) L 2 0 3 1
- 2031 **信明**(さねあきら・源みなもと、公忠男)910-97061 平安前期廷臣；藏人/若狭・備後・信濃・陸奥守、
歌人；931宇多院没時哀傷歌/屏風歌などを詠む、中務と交流、「信明集」、
万代集/秋風集/雲葉集入、
勅撰22首；後撰(5首103/595/596/668/708)拾遺(787)新古(591/810)新勅(1313/1319)以下
[あたら夜の月と花とをおなじくはあはれ知れらん人に見せばや](後撰集；春103)
- F2059 **信明**(さねあきら・源みなもと、博雅男)?-? 平安期楽家、箏譜・琵琶譜を撰
- Q2006 **実明**(さねあきら・源みなもと、俊明[1044-1114]男)?-? 平安期廷臣；少納言/従四下、歌人；雲葉集入、
能俊(大納言/正二位)・明賢・憲明・俊源・静観の兄弟、俊基・実国・良明・実信らの父、
[人の許へ文遣したりけるに返事にみみずがきをしておこせたりければ、
なかなかにおぼつかなさの夢ならばあはする人もありもしなまし](雲葉；恋995)
- C2084 **実麗**(さねあきら・橋本はしも/本姓；藤原、幼名；幸丸、実久長男)1809-8274 廷臣；1857参議/従三位、
尊攘論主唱；中山忠能らと建白/八十八卿列参し日米条約勅諭の修正要求、
経子(和宮の生母)の兄、1860和宮降嫁に反対；但し勅許後は御縁組御用掛；外戚とし協力、
1861東下に随う/62国事御用掛/63国事参政；国事に奔走/一時参内停止、歌人、
1867正二位権大納言に至る、孝明天皇関係を記録、養子小倉実梁さねやなが家督嗣、
「橋本実麗詠草」「橋本実麗備忘録」「和宮関東御下向御用備忘」「石清水社行幸一会」著、
「慶応二年橋本家当座和歌」外記録多数、
[春来ぬと日を経て染むる青柳の糸繰りかへし鶯の鳴く]、
(1861松平春嶽[古今百人一首]入；37)
- K2070 **実明**(さねあきら・志茂しも)1830- 1868斬殺39 仙台藩士；児小姓/奥小姓、歌道・茶道・経史に通ず、
公義使祭祀奉行小姓頭近習目付、武術に長ず、藩主の信頼が厚い、1867「磯のもくづ」著、
1868維新後すぐ藩命で秋田藩へ使者に赴く；豊間源之進ら秋田藩の壮士により斬殺、
[実明(；名)の通称]寅吉/直之輔/又左衛門
- C2085 **実明女**(さねあきらのむすめ・正親町おおぎまち)?-? 1356存 権大納言正親町実明女、公蔭の妹、南北期歌人、
1342両度「持明院殿歌合」・50仙洞歌合参加；後京極派歌合参加、貞和・1356延文百首出詠、
勅撰17首；風雅(15首123/289/378/601/680/767/1019/1127以下)新千載(1357)新拾(930)、
[風になびく柳のかげもそことなく霞みふけゆく春の夜の月](風雅；二春123/百首歌)、
[頼めても来るよひかたきささがにの糸の乱れて物をこそ思へ]、
(新千；恋1357/延文百首；282)、

☆正親町実明[1272-?];1296参議/1302権大納言/22出家；以後不詳

☆正親町実明女は14人；うち歌人と想定されるのは3人/

勅撰歌人はいずれか確定しない[母はいずれも藤原公貫女]

- ①後伏見院女房の対御方
- ②宣光院廊御方
- ③花園院女房の対御方

- P2097 **実敦**(さねあつ・小倉おぐら/本姓;藤原、公脩きんが[1294-1337]男)?-? 鎌倉南北期廷臣/歌人、
 実名(1315-1404/参議・正三位)の弟、1345?祖父実教撰[藤葉集]2首入、
 [更けゆけば浦風さむし難波江のあしのかれはに霜や置くらん](藤葉;冬318)
 [むすぶともいかがたのまんあだ人のなさけばかりの露の契は](藤葉;恋485)
- C2086 **実淳**(さねあつ・徳大寺とくだいじ/本姓;藤原、右大臣徳大寺公有男)1445-1533⁸⁹ 室町期廷臣;
 1462従三位/81内大臣/85従一位/87左大臣/1509太政大臣/11辞職;
 仁和寺で出家;法名忍継、歌;三条西実隆門;古今伝授を受・冷泉為広門、自邸で歌会主催、
 1503三六番歌合など多くの歌合歌会に参加、宗祇と交流/息子空実⁹⁰に古今伝授、
 「徳大寺実淳集」「実淳公記」「徳大寺実淳三十首和歌」、1492「禅光院太政大臣記」著、
 1498「漢和方式」1509「徳大寺実淳百首和歌」、連歌;新菟玖波16句入、
 [代は千世の始めと思ふ石上ふるきに通ふ道もありけり](三六番歌合;寄道祝言26番左)
 [実淳(;)名)の法名/通称]法名;忍継、通称;禅光院入道、公胤の父
- 02001 **実厚**(さねあつ・衛藤えとう、)1722-1805⁸⁴ 肥後熊本⁸⁵の米田家家臣、国学者、
 [実厚(;)名)の字/通称/号]字;子豊、通称;安之允/伝四郎/宇左衛門/忠左衛門、
 号;紫潭
- 02015 **実敦**(さねあつ・大松沢おおまつざわ、通称;民記)1805-77⁷³ 陸奥(陸前)仙台藩士;養賢堂助教、
 歌人;砂沢為胤門
- K2071 **実徳**(さねあつ・正親町おぎまち/本姓;藤原、通称;亀久磨、実光3男)1814-96⁸³ 廷臣;1849参議、
 1857大歌所別当/58正二位/59権大納言/賀茂下上社伝奏/朝政に参画;攘夷の策を建言、
 1864禁門変に長州藩士と通じた庸で処罰/赦免;1868参与/皇太后宮大夫、82隠居;従一位、
 1846「賜倚廬素服劔将備忘」53「正親町実徳記抄」「新嘗祭卜合備忘」/54「春日祭参向雑記」、
 1858「墨夷一条書留」67「天皇御元服伝奏備忘」著
- K2072 **実順**(さねあつ・今出川いまでがわ/本姓;藤原、菊亭、公久男)1832-64³³ 廷臣;1849従三位/59権中納言、
 1861正二位、1852「実順卿記」著
- C2087 **実有**(さねあり・藤原ふじわら、号;一条、西園寺[藤原]公経男)1203-60⁵⁸ 清水谷家祖、廷臣;1235正二位、
 1238権大納言/41左近大将兼任、「実有卿記」、歌;万代・閑月集入、新勅撰358/続後撰1300
 [木枯しのさそひはてたるもみぢ葉を川瀬が地の秋と誰ながむらん](新勅撰;秋358)
- N2029 **実猪**(さねい・伊与木いよき/本姓;藤原)?-? 土佐高知藩士、国学;本居大平門、
 大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌・短歌入、
 [錦なす花咲きををりももとのさひづりかはす春ぞたぬしさ](八十浦;728)、
- C2088 **実家**(さねいえ・藤原ふじわら、号;河原/八条、公能男)1145-93⁴⁹ 母;藤原俊忠女豪子、廷臣;1185正二位、
 1190大納言、歌;1170住吉社歌合・建春門院北面歌合/72広田社歌合参加、家集「実家卿集」著、
 1275家経「摂政家月十首歌合」参加(左衛門督名)、今撰・月詣・玄玉・万代・秋風・和漢兼作集入、
 勅撰19首;千載(8首29/156/274以下)新古(792)新勅(3首)続後撰(1220)玉(3首)風雅以下、
 慈円と親交、今様にも造詣/能書家、妻;藤原憲方女(1185没)、
 実定・実守・公衡・忻子(後白河天皇中宮)・多子(近衛・二条天皇皇后)の兄弟、
 [風わたる軒端の梅に鶯の鳴きてこづたふ春のあけぼの](千載集;一春29;権大納言名)
 母 → 三位(さんみ、藤原豪子、俊忠女) E 2 0 7 3
- C2089 **実家**(さねいえ・一条いちじょう/家名;町/本姓;藤原、一条実経2男)1250-1314⁶⁵ 母;藤原有信女、廷臣、
 1267従三位/権大納言/1302従一位内大臣/1306太政大臣、師良の兄、内家・実家女の父、
 歌;1307歌会始に参加、勅撰7首;続拾遺(227/648/1074)新後撰(4首950/1380/1418/1460)、
 [あさからぬ契とぞ思ふ天の川逢せは年の一夜なれども](続拾遺;四秋227/七夕の心)
 実家母(さねいえのは・藤原、大納言藤原実家母)→三位(さんみ、藤原豪子、俊忠女) E 2 0 7 3
- C2090 **実家女**(さねいえのむすめ・一条、一条実家女)?-? 鎌倉後期歌人、
 勅撰4首;新千載1373/新拾1322・1844/新続古1502;一条前太政大臣女名、
 [はかなくも数かく水のあはれとは思はぬ中に逢瀬まつらん](新千載;十三恋1373)
- K2073 **実勲**(さねいそ/さねいさ・三条西さんじょうにし、廷季男/本姓;藤原)1785-1845⁶¹ 母;広幡前豊女、
 廷臣;1814参議/24権中納言/29正二位/36出家、「賀茂祭覚悟案」著、季知の父
- K2074 **実純**(さねいと・武者小路むしやのこうじ/本姓;藤原、三条季春男)1766-1827⁶² 武者小路公陰の養嗣子、

武者小路実岳の孫、廷臣；従四上/左兵衛佐/1790辞職/92位記返上、
歌人/能書家；「武者小路実純卿御詠」著、

[実純(；名)の幼名/号]幼名；定丸、号；観古堂/徹山、法号；実誠院

- 2032 実氏(さねうじ・西園寺さいおんじ、公経きんつね男/本姓；藤原)1194-126976 母；一条能保女の全子、廷臣；
1211従三位/31内大臣/36従一位、46太政大臣、女2人を入内；関東申次として権勢を誇る、
公基/公相の父、1260出家、歌人；藤原定家門、為家を支持し御子左家を支援、
1218-9道助法親王家五十首/18順徳院中殿御会/19内裏百番歌合参加、
1232洞院撰政家百首/47自別邸で[宝治元年後嵯峨院詠翫花和歌]催/48宝治百首参加、
1261弘長百首参加、1219-21「常磐井相国記」著、菟玖波集15句入、[増鏡]入、
1253-4成立[雲葉集]11首入(前太政大臣名)、徒然草94段；公私の区別見識の逸話入、
勅撰236首；新勅撰(17首28/107-)続後撰(36首12/56-)続古(61首30/38-)続拾(29首)以下、
[うちはへて世は春ならし吹く風も枝をならさぬ青柳の糸](新勅；春28/内大臣)
[氏実の称/法名] 常磐井入道相国ときわいにゆうどうしよく、法名；実空、
[西園寺実氏女]；2人、

→ 栞子(かきこ・大宮院、後嵯峨中宮/後深草・亀山母) 1 6 2 1

→ 公子(こうし・東二条院、後深草皇后/遊義門院母) J 1 9 4 0

- K2075 実兄(さねえ・宇野うの、実直[1698-1751]男)?-? 江後期国学者；橋村正身門、「開国神都考」編

- D2045 実紀(さねえ・姉小路あねがこうじ/本姓；藤原、公景男)1679-174668 廷臣；1698左中将/1706蔵人頭、
正四上/1707致仕/出家、歌学；1735「竹亭和歌式」、「和歌竟宴私記」「和歌用心之事」著、
「勸修寺八幡宮祭礼次第」著

[実紀(；名)の号]出家後の号；空識/風竹亭/自嘯/嘯翁、法号；風竹亭空識、諡号；信解院

- 2034 実条(さねえだ・三条西さんじょうにし、公国男/本姓；藤原)1575-164066 母；西園寺公朝女、廷臣；1597参議、
1613武家伝奏/14家康の太政大臣叙任のため江戸下向/35従一位/40(寛永17)右大臣；没、
歌学；細川幽齋門；1604古今伝授を受、自邸で歌会催、歌道家として活躍、
1598-1640「実条公記」/「三条西実条詠草」、「実条公遺稿」(孫の実教編)、外著多数、
1638後鳥羽院四百年忌御会参加、

[名にたてるかえではやく朽ちはててさびしく残るまりの音かな](後鳥羽院忌；71、
楓；上賀茂松下家の鞠場の楓/松下家は蹴鞠相伝)、

[実条(；名)の通称/法号]通称；香雲院右大臣、法号；香雲院英嶽泰空

実枝(さねえだ) → 実枝(さねき・三条西実澄) 2 0 3 3

実枝(さねえだ・正親町) → 実胤(さねたね・正親町おんぎまち/藤原、権大納言) K 2 0 9 3

- C2091 実雄(さねお/さねかつ・洞院とういん/本姓；藤原/家名；山階、太政大臣西園寺公経男)1217-7357 洞院家祖、
母；平親宗女(七条院女房)、廷臣；1236従三位/正二位/61左大臣/62従一位/63致仕、
1273出家(法名浄覚)、1246-「階記」、58「任大臣東宮傳拝賀記」59「山階左相府記」著、
歌人；自邸歌会屢々主催、1247後嵯峨院歌合/51影供歌合/48宝治百首/65亀山五首歌合参、
1265白河殿七百首・66続古今集竟宴和歌参加、連歌；菟玖波集10句入、
勅撰82首；続後撰(8首176/278/354/421/451/490/566/753)続古(13首19/290/330以下)、
続拾(13首31/46/147以下)新後撰(7首)玉(6首)続後拾以下、
後宇多天皇・伏見天皇・花園天皇の外祖父、

[われぞまづこととひわたる郭公人づてにだになほまたれつつ](続後撰集；夏176)

[実雄(；名)の通称/法名]通称；山階大納言、法名；浄覚/経学

[洞院実雄の男]； 公宗きんむね/公守きんもり/小倉おぐら公雄きんお

[洞院実雄の女]； 3人

→ 侘子(わかし・京極院、亀山天皇皇后/後宇多天皇母；1245-1272) F 1 6 9 1

→ 愔子(いんし・玄輝門院、後深草天皇妃/伏見天皇母；1246-1329) I 1 1 5 9

→ 季子(きし・顕親門院、伏見天皇妃/花園天皇母；1265-1336) C 1 8 3 9

- K2076 実雄(さねお・一東いとう) ? - ? 1792存 尾張押切村の町人、1792「御冥加普請之記並図」著、
[実雄(；名)の通称]利助/理助

実雄(さねお・小原) → 実雄(じつゆう・小原おはら/原、僧/国学) N 2 1 6 8

- C2092 実岳(さねおか/さねたけ・武者小路むしやのこうじ/本姓；藤原、公野きんの男)1721-6040 歌；祖父実陰の遺風継嗣、

廷臣;1755従三位、歌;有栖川職仁より親王門、伴高蹊・小沢廬庵・澄月の師、
「武者小路実岳集」「武者小路実岳卿詠歌」著、1760「芳雲和歌集類題」編、公陰の父、
[実岳(;名)の幼名/法号]幼名;虎丸、法号;真空院

- C2093 **実興**(さねおき・藤原ふじはら、清季男)?-? 1375存 南朝廷臣;右大弁/藏人頭/左近中将/1375権中納言、
歌人;1365南朝三百番(点取三百首)和歌/1375五百番歌合・住吉社三百六十番歌合参加、
新葉9首;56/151/221/264/313/709/746/923/1196、
[さのみやはかすみはつべき春の月むかし思はぬ袖にやどらば](新葉集;春56)
- 02004 **実起**(さねおき・小倉おぐら/本姓;藤原、藪嗣良3男)1622-8463 小倉実為の養子;小倉家12代当主、
廷臣;1675(延宝3)正二位/権大納言、妻;小倉公根女、藪嗣孝・中園季定の兄弟、
子;公連きんり・熙季・中納言典侍、
1681(延宝9)娘・中納言典侍の子の一宮(済深法親王/靈元天皇第一皇子)出家に反対、
一宮を匿うなどのため勅命違反として息子公連・季伴と共に佐渡に配流、
佐渡河原田の中山宗春むねはる邸に寄宿/佐渡に没、
[実起(;名)の別名]初名;季雅すえまさ
- K2077 **実起**(さねおき・三条さんじょう/転法輪三条/本姓;藤原、季晴男)1756-182368 母;井伊直定女、廷臣;
1764従三位/1800従一位/14右大臣、「実起公記」「禁中仙洞東宮年始御礼覚悟」著、
1808「崎鎮騒動記」著、公修の父
- K2078 **実揖**(さねおき・清水谷しみづたに、徳大寺実祖2男)1782-185170 清水谷公壽きんひさの養子、廷臣;
1816参議、1829正二位/36権大納言、
「管見拾綴」「新嘗祭部類記」「文政大嘗揖卿巳日記」著
- C2094 **実音**(さねおと・三条さんじょう/正親町三条/本姓;藤原、公秀男)1321-138666 母;藤原家相女、廷臣、
1350従三位/63権大納言/70兼大宰権帥/81従一位/82准大臣(儀同三司)宣旨、
1368「山門嗽訴記」著、歌人;1369後光厳天皇催[応安二年内裏和歌]参加、
勅撰4首;新後拾遺(649/762)新続古今(125/1734)、
[花散りし山は青葉に咲く藤の色にも残る春や見ゆらん](新後拾遺;雑春649)
- E2086 **眞臣**(さねおみ・広沢ひろさわ/柏村/波多野、長門藩士柏村安利男)1833-71暗殺39 母;三浦氏、
萩十日市の生/藩校明倫館で修学/波多野直忠の婿養子;1844家督/萩藩士;諸役歴任、
尊王攘夷派に接近;1864保守派により野山獄入牢/65脱獄/御手当御用掛;藩政中枢に参加、
1865藩命で広沢に改姓、66(慶応2)第二次長州戦争収拾に当たり勝海舟と休戦協定締結、
1868新政府の参与/69民部大輔・参議/71(明治4)刺客により暗殺、
1863「日載」63-「広沢眞臣日記」、
[眞臣(;名)の初名/通称/号]初名;直温、通称;季之進すえのしん/金吾/藤右衛門/兵助、
号;障岳/向山
- C2095 **実香**(さねか・近衛このえ/本姓;藤原、公敦男)1261-132565 鎌倉後期廷臣;1301参議/1307権中納言、
正二位/1322兵部卿、歌人;続現葉集入、勅撰3首;玉葉(2227)続千載(1905/1911)、
[さびしさを世のうきかたに思ひかへてみ山の月をひとり見るかな](玉葉;雑2227)、
[実香(;名)の別名]実邦(;初名)/実員(;次名)
- K2079 **実香**(さねか・三条さんじょう/転法輪三条/本姓;藤原、公敦男)1469or68-1558or59長寿90/91 廷臣;
1487従三位、1515従一位/35太政大臣、37出家、
1505「十六日節会次第」著/12「三条実音真蹟和歌書様」書、
1518「水無瀬法楽」、「白馬節会職事要」著、連歌;1510永正七年九月十三日肖柏等夢想百韻参、
新菟玖波2句入、公頼の父、
[実香(;名)の法名/通称]法名;諦空、通称;後浄土寺太政大臣のちのじょうどじのだいじょうだいじん
実柿(さねがき・平郡へぐり、狂歌師)→ 正式(まさもり)・池田、古典学/俳/歌人) F 4 0 9 4
- 2035 **実陰**(さねかげ・武者小路むしよのこうじ/本姓;藤原、西郊実信男)1661-173878 武者小路公種の養子、
廷臣;1695従三位/1699-1709議奏/1724正二位権大納言/38従一位准大臣、
歌人;1714靈元院より古今伝授を受;中御門・桜町両天皇に伝授、宫廷歌壇の中枢、
「芳雲秘底」編、「初学考鑑」、「亜槐譚」「実陰百首」「実陰公吟藻類題」「実陰公自撰歌集」著、
家集「芳雲集」「武者小路実陰歌集」(;孫の実岳編)、「詞林拾葉」(;門弟慈雲の聞書)、
「雲泥和歌集」入(;前半に実陰の題詠330余首)、1701田村家深川別業和歌出詠(芳雲集入)、

[明星あかばしのまだ夜を残す光より春も雲みにめぐり来にけり](芳雲集;春10/明星は金星)、
[武蔵野は幾千里ちさともしら雪の限りを雲にむかふ富士のね]、

(田村家別業和歌最終首;雪中遠望/隅田川越し雪景色の江戸と遠景の富士/芳雲集入)、
[実陰(;名)の幼名/別名/法号]幼名;虎、別名;蔭/芳、法号;超嶽院

G2023 **実数**(さねかず・三条さんじょう/正親町三条/本姓;藤原、内大臣三条公秀男)?-1359 廷臣;左近中将、
南朝廷臣;大納言、歌;新葉集(2首676/864)、

[くちなしの色ならなくに恋しともいはでぞ人を思ひそめぬる](新葉;恋676)

C2096 **実量**(さねかず・三条さんじょう/転法輪三条/本姓;藤原、公光男)1415-8369 廷臣;1429従三位、
改名;実量、右近大将/1450内大臣/53従一位/57右大臣/59左大臣、67出家、
歌人;新続古今集撰集時の和歌所寄人、

永享百首入、1438「詠法華経和歌」催、1450仙洞歌合(;右大将名)/82将軍家歌合参加、
1483「三条実量加点詠草」、「三条実量公歌合百首」、「一遍上人絵伝」書、

勅撰;新続古(3首552/945/1246)、新菟玖波8句入、

[秋霧の籬の島のへだてゆゑそことも見えぬちかの塩竈](新続古;秋552/百首歌)、

[実量(;名)の別名/法名/通称]別名;実尚さねひさ(;初名)/実教さねのり、法名;禅空、

通称;後三条左大臣のちのさんじょうのさだいじん、公敦の父

P2016 **孚一**(さねかず・林はやし、旧姓;石井)1811-9282 備前児島郡の生/備中倉敷の薬種商林家の養子、
薬種商を継嗣、歌;藤原忠朝ただとも門/国学・歌;鈴木重胤門、森田節斎尊王説に共鳴;

尊攘家を支援、維新後;郡長/義倉を再興/土木・教育など公共事業の尽力、

[孚一(;名)の初名/字/通称/号]初名;易安、字;子審、通称;竹三郎/源助、

号;僊松/仙松/梧陰

N2090 **実積**(さねかず・岩切いわきり、通称;喜次郎)1843-7735 薩摩鹿児島藩士、

歌人;是枝生胤(八田知紀門)門

P2008 **実和**(さねかず・西山にしやま、)1849-190961 土佐土佐郡の国学者、

「日本文典」著/「土佐巡唱歌」作詞

実員(さねかず・近衛) → 実香(さねか・近衛/藤原、権中納言/歌)C2095

K2080 **実風**(さねかぜ・小原おはら/本姓;物部、千実男)1828-9871 陸奥(陸中)丹内山神社神職家の生、
幼少より家学修学、神道;菊池正古門/1855上京し吉田神道修学、

維新後は神職と江刺県立寸陰館準教頭兼任、歌人;万葉風、「神典鈔」著、

[実風(;通称)の名/別通称/号]名;佐渡之輔/佐渡介、別通称;広司/備後/真三知、

号;滝廻舎

2036 **実方**(さねかた・藤原ふじわら、貞[定]時男)?-998(陸奥没) 母;左大臣源雅信女、平安前中期廷臣、
叔父小一条藤原濟時なりとよきの養子、花山院の近臣;侍従/左近少将/右馬頭/左近中将、

殿上で行成に暴行・冠を庭に投ず;左遷、995陸奥守;998任地で客死、多数の説話あり、

歌人;家集「実方朝臣集」、清少納言と交渉(;今鏡)、公任・道信と交流、986内裏歌合参加、

麗花集・和漢朗詠・玄々・後葉集2首・続詞花集8首・万代・秋風・雲葉集入、中古36歌仙の1、

勅撰68首(重出1首);拾遺(7首124/670/764以下)後拾(14首564/566/570/612以下)、

金葉(378)詞花(188/237/352)千載(4首)新古(12首760/875以下)新勅(4首)続後撰以下、

舞の名手/菟玖波集5句入、

[五月闇さつきやみ倉橋山の郭公おぼつかなくも鳴き渡る哉](拾遺;夏124、

東宮居貞親王[三条天皇]の扇絵を見て詠/大和倉橋山に暗さを連想;覚束ない声)

[かくとだにえやはいぶきのさしも草さしもしらじなもゆる思ひを](後拾遺;612)

P2000 **実賢**(さねかた・長井ながい、通称;武兵衛)?-1765 長門萩藩士;御直目付、歌人、

[ひるは雪の色もひとつの花に今おもへば夜半の風の梅が香]([萩の歌人]入)

C2097 **実勝**(さねかつ・滋野井しげのい/本姓;藤原、公尚男)?-1352戦死 南北期廷臣;正四下/右中将、

八幡の合戦で討死、歌;新続古今集1336、

[あはでだに年へぬる身のいつのまにけさの別をしたひわぶらん]、

(新続古;恋1336/新玉津島社に奉る歌の中に)

K2082 **実達**(さねかつ・園池そのいけ/本姓;藤原、権大納言公翰男)1792-185059 廷臣;1824従三位/28正三位、

1824「新嘗祭次将要」、「文政度大嘗祭ト合参仕備忘」著、

[実達(；名)の別名/法号]別名;実達、法号;拙念院

実雄(さねかつ・洞院) → 実雄(さねお・洞院とういん、歌人) C 2 0 9 1

実勝(さねかつ・井東) → 弦斎(げんさい・井東いとう、儒者) J 1 8 0 7

K2083 実廉(さねかど・花園はなぞの/本姓;藤原、初名;実仲、公晴男)1690-1761⁷² 廷臣;1721従三位/29参議、1753正二位/59権大納言、1754桂宮親王より琵琶の伝授を受;54「琵琶両曲復伝之事」受、法号;慈徳院覚海道竜

02086 実門(さねかど・東郷とうごう、通称;伝兵衛)1733-1803⁷¹ 薩摩鹿児島藩士、歌人;日野資枝^{すけ}門

K2084 実兼(さねかね・藤原ふじわら、初名;敏範、季綱男)1085-1112^{早世28} 母;藤原通宗女、廷臣;文章生出身、鳥羽天皇の東宮時に昇殿/1107一藪の蔵人、詩文/歌、朝野群載・本朝無題詩・和漢兼作集入、大江匡房言談の説話集「江談抄」筆録

2037 実兼(さねかね/さねかぬ・西園寺さいおんじ、公相3男/本姓;藤原)1249-1322⁷⁴ 母;中原師朝女、廷臣、1261従三位/88従一位/89内大臣/91太政大臣、99出家、3人の女を入内(→実兼女)、1315以後関東申次として権勢、歌人;京極派を支援/京極為兼の驕慢を怒り失脚させる、娘瑛子(昭訓門院)の子恒明親王の即位工作に後宇多天皇の反対で挫折、公衡・公頭・兼季・覚円・性守・道意・永福門院鐙子(しょうじ・亀山院后瑛子・後京極院禧子の父、1278「詠百首応制和歌」1289「音律事」1305「実兼公集」、「詠十首和歌」「西園寺実兼詠草」、「実兼公記」「任太政大臣記」「後西園寺入道相国記」著、「とはずがたり」に[雪の曙]名で入、1293伏見天皇永仁元年内裏御会参加5首/1303亀山院催[嘉元百首]出詠、勅撰209首;続拾遺(7首112/181/252以下)新後撰(27首23/39/147以下)玉葉(60首)以下、小倉実教[藤葉集]11首入、徒然草118段に娘禧子中宮に故実を教える逸話入、[尋ねこむ春より後の跡もがな志賀の都の花の白雪](続拾遺;春112/百首歌)、[雲より春たちくらし朝づく日霞みて出づる天の香具山](文保百首;春500;空性名、藤葉集;冒頭歌;1319[文保3]後宇多院に百首歌奉る;春立つ心)、[実兼(；名)の法名/通称]法名;空性/悦空、通称;後西園寺/入道前太政大臣

N2098 実務(さねかね・内田うちだ、通称;竜甫)1792-1874⁸³ 陸奥(陸中)磐井郡の儒医、歌人

C2098 実兼女(さねかぬのむすめ・西園寺、入道前太政大臣女)?-? 鎌倉期歌人、玉葉1598・1709 洞院公守女の歌か?→公守女(きんもり)のむすめ・洞院/入道前太政大臣[1249-1317]女)E 1 6 8 0 [見てしもにまさるうつつの思ひかなそれとばかりのうたたねの夢](玉葉;恋1598)、参考;西園寺実兼[1249-1322]女 ; 3人

→ 鐙子(しょうじ・永福門院、伏見后;1271-1342) 2 1 8 3

→ 昭訓門院(えいし・瑛子、亀山妃;1273-1336) 1 2 2 1 4

→ 後京極院(ごきょうごくいん・禧子/後醍醐中宮、1303-1333) C 1 9 3 3

N2065 実枝(さねき・西園寺さいおんじ、太政大臣公経男)1229-67³⁹ 母;舞女(→実材母・西園寺C2099) 廷臣;1254(建長6/26歳)従三位/左中將、1257正三位/58(正嘉2/30歳)参議/兼右兵衛督、1258権中納言/59従二位/62正二位/1265(文永2)中納言;66辞任、1267(文永4)没

2033 実枝(さねき・三条西さんじょうにし、初名;実世/実澄、公条男/本姓;藤原)1511-79⁶⁹ 母;甘露寺元長女、廷臣;1530参議/41権大納言/44正二位;嗣子公世と妻の死別・父の出家等で実澄に改名、1546東国旅行;武田・今川・北条などの武人との出合/1552-69駿河在国/以後公務に精励、1574実枝に改名/75大納言/79内大臣;出家、三条西家は[西三条]とも称する、歌学;祖父実隆・父公条門、少年期から歌・連歌会を催/歌合催/細川幽斎に古今伝授、「実澄公和歌」「三光院詠草」「三光院内府百首」「初学一葉」著、家集「三光院歌集」、1573「清見瀉の記」(扶桑拾葉集入)、宗祇「古今血脈」編、1573「桂林集」編、昌叱らと百韻、[実枝(；名)の一字名/号]一字名;竜、号;三光院/澄空、法号;三光院玄覚豪空

真枝(さねき、木村宮之助)→ 調歌堂真枝(ちやうかどうさねき、藩士/狂歌)H 2 8 7 1

実興(さねき・藤原) → 実興(さねおき・藤原) C 2 0 9 3

実紀(さねき・姉小路) → 実紀(さねり・姉小路) D 2 0 4 5

C2099 実材母(さねきのはは・西園寺さいおんじ、公経きんつねの妾)?-? 鎌倉中期;舞女/歌人、初め平親清の妻、平親時・平親清四女・同五女ら数人を出産、のち西園寺公経の妾;1229実材を出産、1244公経・67実材・72親時と相次ぎ没;近親者との死別を体験、歌;「権中納言実材卿母集」

D2000 実清(さねきよ・藤原ふじわら、公信男)?-? 1167^存 平安後期廷臣;四位/右馬権頭、1156保元乱連座;

土佐配流/召還、歌;1150崇徳院久安百首/67経盛歌合参加(実清入道名)、
続詞花集・月詣集・閑月集/雲葉集入、
勅撰2首;千載(138)続後撰(291)、菟玖波集1句入、妻;藤原為経(寂超)女、
[飽あかでゆく春の別れにいにしへの人やう月といひはじめけむ](千載集;夏138)、
(卯月に憂月を掛る)

[落ちつもる紅葉の色は深けれど浅く成り行く山の井の水](久安百首;冬752)

G2024 **実清**(さねきよ・洞院とういん/本姓;藤原、公敏男)?-1359 母;三条公貫女、南朝廷臣;左中将/権中納言、
1354大納言/57正二位、洞院公賢の甥、歌人;1353内裏千首入集、新葉集2首(661/1023)、
[池水の下にくちなばねぬなはのねぬ夜くるしきものは思はじ](新葉;恋661)、
(根蕁菜ねぬなはの根の長い蕁菜じゅんさいを繰って取ることから寝ぬ・苦しきの枕詞)

D2001 **実清**(さねきよ・三条西さんじょうに、公時男/本姓;藤原) 1373-1406³⁴ 南北期廷臣;1403参議、
1405権中納言、従三位、歌人;新続古今集626/1343、姓は西三条とも称す、
[うづもれし庭の落葉に霜消えてまたあらはるる秋の色かな](新続古;六冬626)

K2085 **実潔**(さねきよ・押小路おしこうじ/本姓;藤原、滋野井公敬2男) 1826-97⁷² 押小路公連の養子、
廷臣;1842遠江介/51正四下、「押小路実潔雑記」著

D2002 **実国**(さねくに・藤原ふじわら/家名;滋野井、三条[藤原]公教男) 1140-83⁴⁴ 滋野井しげの家の祖、廷臣;
1160参議/62従三位/権中納言/1170権大納言/75正二位、笛の師、「実国卿記」、
歌;1166重家家歌合・70住吉社歌合・建春門院北面歌合参加、70「左衛門督実国歌合」主催、
1172広田社歌合/78別雷社歌合参、「前大納言実国卿集」、実綱・三条実房の兄弟/公時の父、
勅撰13首;千載(6首91/162/719/774/1135/1266)新勅(816)続後撰(1221)続拾(1317)以下
[あかなくに袖につゝめば散る花をうれしと思ふになりぬべき哉](千載集;春91)

実邦(さねくに・近衛) → 実香(さねか・近衛/藤原、権中納言/歌) C 2 0 9 5

孚子内親王(さねこないしんのう) → 孚子内親王((ふしないしんのう、歌人) C 3 8 5 2

実惟(さねこれ・阿野) → 実惟(さねただ・阿野あ、権中納言/日記) K 2 0 9 2

孚尹(さねこれ・林) → 蓀坡(そんぱ・林/渋谷、藩士/儒者/詩) F 2 5 0 3

D2003 **実前**(さねさき・滋野井しげの/本姓;藤原、初名;冬成、冬季男) 1278-1327⁵⁰ 母;藤原公教女、
鎌倉期廷臣、1304参議;08辞任/18還任/19権中納言従二位、歌;正和文保1312-19頃活動、
1319文保百首出詠、藤葉とうよう集入、
勅撰4首;続千載(1195/1466)新千載(1370)新拾遺(1351)、
[ながらふる命のみこそはかなけれ行く末とだに契りやはする](続千載;恋1195)
[津の国やなにはの秋の空晴れて伊駒の岳を出づる月かげ](藤葉;秋235)

2038 **実定**(さねさだ・藤原ふじわら、通称;後徳大寺左大臣/法名;如円、公能さんよし男) 1139-91⁵³ 母藤原俊忠女、
同母姉に忻子(後白河天皇中宮)・多子(近衛天皇皇后)、実家・実守・公衡の兄、俊成の甥、
平安後期廷臣;1165正二位/89左大臣(祖父徳大寺左大臣と区別して後徳大寺と呼ぶ)、
1191出家、日記「槐林記」、1182「寿永改元定記」、「掌函補抄」「庭槐抄」、歌人;家集「林下集」、
「実定百首」、歌林苑歌人と交流、1170住吉社・建春門院北面歌合/72広田社歌合参加、
勅撰79首;千載(17首27/54/161/280以下)新古(16首35/141/219/288以下)新勅(9首)以下、
雲葉集6首入、

[ほととぎす鳴きつる方をながむればただ有明の月ぞ残れる](千載集;161)

さねさだ(実定;後葉集/かねさだの誤写?・中原) → かねさだ(・中原なかはら) S 1 5 6 0

真学(さねさと・早川) → 真学(しんがく・早川はやかわ、国学/歌人) N 2 2 7 1

D2004 **実重**(さねしげ・平たいら、宮内大輔平昌隆男[or藤原実義男?])?-? 1155^存 母;菅原是綱女、
平安後期廷臣;中務丞/1149六位/蔵人/50従五下、出家;西山に隠棲、
歌人;後葉集・続詞花集4首・今撰集入集、
勅撰6首;(金葉解66)/詞花221/千載5首438/862/863/1010/1270、
[恋ひ死なむ身こそおもへば惜しからぬうきもつらきも人の咎とがかは](詞花;恋221)、
(藤原頭輔家歌合での詠/うきは我身を嘆く心・つらきは人を恨む心/過ちは自分のせい)
[実重(;名)の法名/通称]法名;願西、通称;式部大輔入道(和歌色葉入)

C2021 **実重**(さねしげ・藤原ふじわら) ? - ? 鎌倉前期廷臣;筑後守、伊勢四日市善教寺に仏像納入、

1224-1241善教寺阿弥陀如来立像の胎内文書「作善日記」/59「藤原実重願文」著

- D2005 **実重**(さねしげ・三条さんじょう/転法輪三条/本姓:藤原、公親男)1259-1329⁷¹ 母;西園寺実雄女、公茂・実忠の父、廷臣;1274/従三位/88権大納言/92内大臣/93致仕/1318太政大臣/従一位、1319致仕/20出家、歌;1303嘉元・20文保・正中の三度の百首に詠進、「三条相国御百首」、書「法然上人行状画図」、小倉実教[藤葉集]3首(三条入道前太政大臣名)入、勅撰56首:新後撰(6首128-)玉(6首120-)続千(13首32-)続後拾(10首32-)風雅(2首)以下、[あだなりやうはの空なる春風にさそはれやすき花の心は](新後撰;春128)、おのづから涙ほすまもわが袖に露やはおかぬ秋の夕暮(嘉元百首;729/露)、[実重(;名)の法名/通称]法名;覚空、通称;三条入道相国/三条入道前太政大臣、前内大臣実
- D2006 **実重室**(さねしげのしつ・三条さんじょう、中院通成女)?-? 鎌倉期歌人、太政大臣三条実重の妻、内大臣三条公茂の母、勅撰4首;玉葉(2132/2465)[前内大臣室さきのないだいにんしつの名]/続千載(1745/1821)[太政大臣室の名]、[山深み鳥の音ねきかぬすみかにはわが寝覚よりあくるをぞ知る](玉葉;雑2132)
- D2007 **実季**(さねすえ・藤原ふじわら、公成男/母;藤原定佐女)1035-91⁵⁷ 廷臣;1072参議1073後三条天皇住吉行幸に従駕/74権中納言/75正二位/80権大納言/83按察大納言、贈太政大臣正一位、歌;1078(承暦二年)内裏歌合参加、秋風集・和漢兼作集入、後拾遺155、茂子(後三条天皇東宮期の寵妃で白河天皇の生母)の兄、公実・仲実・堀河天皇妃苅子の父、[水底みなこも紫ふかく見ゆるかな岸の岩根にかゝる藤波](後拾遺;155/承暦2内裏歌合)[実季(;名)の通称]後閑院のちのかいんの贈太政大臣/按察大納言、
- D2008 **実季**(さねすえ・秋田あきた/本姓:安倍、羽後檜山城主安東[秋田]愛季2男)1576-1659⁸⁴ 安倍貞任末裔、母;畠山清信、安桃期;武将/従五下/秋田城介、1592頃羽後北半を制圧;秋田領主、江戸期;1602常陸宍戸藩主に転封、1630伊勢浅熊に流謫、三春秋田家の祖、文武に秀づ;詩歌・書画・茶道・蔵書家、「色紙朗詠詩歌並三十六歌仙絵歌」書、業季・秋田局・実季・英季(小浜藩家老)・季勝・浪岡頭村正室の兄弟、正室:円光院(細川昭元女)/側室:瑞峯院(荒木高兼女)息子;俊季/季次/季信/季長/季則、息女;荒木高綱室/津軽信建室[実季(;名)の幼名/通称/号]幼名;下国安東太郎、通称;城之介/藤太郎、号;宗実/凍蚪、法号;高乾院
- 実季(さねすえ・清水谷) → 実栄(さねひで・清水谷/藤原、権大納言) L 2 0 2 8
- 2039 **実資**(さねすけ・藤原ふじわら、斎敏ただとし男)957-1046^{長寿90} 母;藤原尹文女/祖父実頼の養子、廷臣;蔵人頭/983左近中将/989参議/990従三位/権中納言/右近大将/権大納言、1021右大臣/37従一位、実頼流(小野宮流)故実(に)精通;当代随一の有職家、日記「小右記」、「小野宮年中行事」著、藤原高遠・懐遠(懐平)の弟、歌人;988[蔵人頭実資歌合][蔵人頭実資後度歌合]を主催、続詞花集入、勅撰8首;拾遺(1179;連歌)新古(773)新勅(474)続後撰(1087)続古(2首)以下、菟入、[よそなれど同じ心ぞかよふべきたれも思ひのひとつならねば](新古今;哀傷歌773)、(妻が亡くなった頃同じく妻を亡くした藤原為頼への贈歌)、(774為頼の返歌;ひとりにもあらぬ思ひはなき人も旅の空にやかなしかるらん)、[大式高遠(949-1013/実資の同母兄)くだり侍りけるに遣しける、ゆきめぐりあひ見まほしき別には命もともにをしまるるかな](続詞花;別673)、[実資(;名)の幼名/号]幼名;大学丸、号;小野宮右大臣/後小野宮のちのおのみや、賢人右府
- F2060 **実右**(さねすけ・小倉おぐら/本姓:藤原、裏辻実秀男)1418-70⁵³ 小倉公種の養子、廷臣;右中将/1454参議、従三位/55参議辞任;右衛門督/58正三位/60権中納言/65従二位;致仕、1470加賀で没、歌;1450宝徳二年仙洞歌合(後崇光院催)入、[散りかかる紅葉の色に織おり延はへて浪のあやさへ染川の水]、(仙洞歌合;十三番右26/染川;筑紫の歌枕)
- D2009 **実理**(さねすけ・橋本はしもと/本姓:藤原、西園寺致季男)1726-98⁷³ 橋本実文の養嗣子/廷臣;1763参議、1775正二位/77権大納言/歌、家業;笛;種々の空挺儀式を務める、実誠の父、「橋本実理詠歌留」/1757「賀茂祭近衛使要」1793-97「橋本実理当座詠歌留」外記録多数、[実資(;名)の初名/法号]初名;寿季、法号;信浄院無量自覚

- D2010 **実澄**(さねずみ・小倉おぐら/本姓:源、実良男)1439-1505⁶⁷ 室町期近江の武将;蒲生郡佐久良城主、近江守護京極家の被官;多賀高忠に属す、左近将監/瑞仙桃源に参禅、歌/鞠;飛鳥井雅親門、騎射・詩文にも長ず、1469永源寺の傍に[識廬庵]建立、戦乱避け瑞仙桃源・横川景三ら来訪、景徐周麟・宗祇も来訪、「実澄記」「犬追物之物語」「犬追物八廻日記」1504「犬追物実澄記」著、家集「昨薄残葉集」(散佚)、「小倉左近少監三十六首」(教訓和歌)、「小倉将監実澄詩草」著、「留守警策七首」(:江北記に入)、連歌:新撰菟玖波集5句入、実量の父、
[実澄(;)名]の字/号]字;正綱、号;松牧斎/随縁居士、法号;仲明寺文紀正綱
- K2087 **実純**(さねずみ・齋藤さいとう、実之男)?-1740 土佐高知藩士:借用奉行/浦奉行、神儒の学;谷重遠門、国学者、兵法;武林洞に修学、1726「明君遺事」、「明君遺事拾遺」著、
[実純(;)名]の通称]平兵衛/九八郎
実澄(さねずみ・三条西) → 実枝(さねき・三条西/藤原、内大臣/歌) 2 0 3 3
実純(さねずみ→さねいと・武者小路) → 実純(さねいと・武者小路、歌人) K 2 0 7 4
- D2011 **実孝**(さねたか・徳大寺とくだいじ/本姓:藤原、称;野宮、公孝男)1293-1322³⁰ 実母;二条良実女の喜子、鎌倉期廷臣;1309従三位/11(応長元)権中納言/従二位/17正二位、公清の父、歌人:1315京極為兼[詠法華経和歌]出詠/新千載1424、
[暁の別れはいまだならばねぼうしとも知らずありあけの空](新千載;恋1424)
[雲もなく霞も霧もみえぬ空のただむなしきを心にぞ思ふ](詠法華経歌;61)
- D2012 **実隆**(さねたか・藤原;公季流、公実男)1079-1127⁴⁹ 母;基貞女、平安期廷臣;1111参議/22中納言、正三位、歌人;新勅撰86、実行/通季/実能/源有仁室/待賢門院璋子の兄
[桜花うつれる池のかげ見れば波さへけふはかさしをりけり](新勅撰;春86/池上花)
(堀河院の鳥羽院行幸のとき)
- 2040 **実隆**(さねたか・三条西さんじょうに/西三条、初名:公世/公延、公保男/本姓:藤原)1455-1537⁸³ 廷臣、母;甘露寺房長女、兄実連の夭逝;1460家督(4代目)/69元服(実隆に改名);侍従/77参議、1480権中納言/89権大納言/1502正二位/06内大臣/16出家、以後公武地下で多彩な活動、歌;飛鳥井雅親門、一条兼良の古典学修得/宗祇から古今伝授を受、能筆:古典多数を書写、三条西家の伝統文化の権威確立、連歌;1495「新撰菟玖波集」編纂に奉行格で参加(33句入)、「愚記(実隆公記)」、1520日記「再昌草」、「伊勢物語直解」「万葉一葉抄」「着到和歌」「細流抄」、故実「書装束抄」「多々良問答」、1524「高野山参詣記」、百韻多数、「逍遥院殿自歌合」外多数、
[春の色そめ出ぬ海のみどり哉](享禄五年1532正月十八日住吉法楽百韻:何船発句)、
[実隆(;)名]の一字名/号/法名]一字名;雪、号;逍遥院/聴雪/逃隠子/逃虚子/亞槐散木、法名;堯空、道号;耕隠、通称;逍遥院入道前内府
- K2088 **実岑**(さねたか・押小路おしこうじ/本姓:藤原、公音男)1679-1750⁷² 母;河鱒実陳女、廷臣;1712従三位、三条実治の猶子/1744権大納言/46正二位、1705「羽林秘抄」09「東山院御凶事」著、「実岑卿記」著、法号;観中道院撰心即空
- 02044 **実崇**(さねたか・後藤ごとう、通称;十右衛門)?-? 陸奥(陸中)胆沢郡の国学者/歌人、国学・歌;保田光則(仙台藩士/1797-1870)門、堀籠順・本田康章門
- 02096 **実敬**(さねたか・中村なかむら、)1816-1892⁷⁷ 陸奥仙台藩登米伊達家臣(陪臣、)歌人、国学;砂沢為胤/歌;香川景恒門、
[実敬(;)名]の通称/号]通称;喜内/想右衛門、号;竹径
- K2089 **実建**(さねたけ・武者小路むしやのこうじ/本姓:藤原、公隆男)1810-63⁵⁴ 廷臣;1851従三位左近権中將、1855正三位/58日米条約勅裁案に反対列参の廷臣88卿の1、公香きんかの父、「大嘗会卯日備忘」著
- K2090 **真節**(さねたけ・上うえ/本姓;狛こま、初名;近節、近興男)1825-95 江後期雅楽の大家、従四下、左近将監、維新後;雅楽維持に尽力/1872大伶人;京都雅楽出張所を督す;帝室雅楽を司る、「中軒雑抄」著
実岳(さねたけ・武者小路) → 実岳(さねおか/さねたけ・武者小路/藤原、歌人) C 2 0 9 2
- K2091 **真忠**(さねただ・藤原ふじわら、右大臣恒佐男)?-? 951^存 母;藤原清貫女、平安前期廷臣;従四上/左馬頭、歌;後撰1046/後撰715題詞入、妹に後撰集作者[真忠妹]がいる、
[筑紫なる思ひ染め河渡りなば水やまさらん淀む時なく](後撰;十四恋1046)、
(染河は太宰府の川;思ひ染めと掛詞/水は見つとの掛詞)

- 2041 **実忠**(さねただ・三条さんじょう/転法輪三条/本姓;藤原、公茂男)1304-4744 実父;祖父の実重(公茂父)、
 廷臣;1319参議/43内大臣/45致仕/46従一位、公忠の父、「東寺塔供養記」編、歌;貞和百首参加、
 七夕御会参加、勅撰14首;続後拾(652)風(570/1729)新千(4首252/462-)新拾(515)以下、
 [さのみかく袖にはせかじ涙川我が身ひとつのうき名ならずは](続後拾;恋652)、
 [実忠(;名)の初名/通称]初名;公重、通称;後三条内府のちのさんじょうのいふ、後三条前内大臣
- D2013 **実尹**(さねただ・さねまさ、今出川いまでがわ/本姓;藤原/菊亭、兼季長男)1318-42早世25 母;今出川公頭女、
 南北期廷臣;1328従三位/38正二位/39権大納言、琵琶が得意、歌人;風雅集600、
 公直・実直の父、妻;三条実忠女(今出川実直母;菊葉集歌人)、
 [ま萩原夜ぶかき月にみがかれておきそふ露のかずぞかくれぬ](風雅;秋600/月前萩)
- K2092 **実惟**(さねただ/さねこれ・阿野あゝ、大納言公緒男)1700-4344 母;鷲尾隆尹女、廷臣;初め師季名、
 1726(享保11/27歳)非参議従三位;実惟に改名/侍従/30正三位/33(享保18)参議/34左中将、
 1735院別当/36東照宮奉幣使/38(元文3/39)権中納言;従二位/1743(寛保3)辞任;没
 歌人、「実惟卿記」著、
 [実惟(;名)の初名/法号]初名;師季もろけ、法号;般若院
- 02078 **実禎**(さねただ・田上たがみ、)1758-1850長寿93 周防佐波郡の周防毛利家の家臣、国学、
 学問;松田才三門、
 [実禎(;名)の通称/号]通称;太良右衛門、号;青墻せいじょう
- 02005 **実忠**(さねただ・小幡おぼた/本姓;平)1806-7368 近江彦根藩士、歌人、彦根歌人伝・寿入、
 [実忠(;名)の別名/通称/号]別名;平忠、通称;与五兵衛、号;春塘
- 02085 **実忠**(さねただ・土居どい、通称;栄造/正治/七助)1843-? 讃岐丸亀藩士、国学者
- D2014 **真忠妹**(さねただのいもうと・藤原ふじわら、右大臣恒佐女)?-? 平安前期歌人、藤原真忠の妹、
 901但馬介に左遷された菅原道真女婿と交遊(伊勢集・中院本後撰集)、後撰763、
 [山の葉にかかる思ひの絶えざらば雲井ながらもあはれと思はん](後撰集;恋763)
- K2093 **実胤**(さねたね・正親町おごまち/本姓;藤原、公兼男)1490-156677 母;三条西実隆女、廷臣;1512参議、
 1526正二位/28権大納言/41従一位;出家、「為政録」編、「一位大納言実胤卿御記」著、
 [実胤(;名)の初名/号]初名;実枝、出家号;空円
- K2094 **実種**(さねたね・風早かざはや/本姓;藤原、姉小路あねがこうじ公景2男)1632-171079 母;西洞院時慶女、
 廷臣;1637姉小路を出て風早家を起す、1666従三位/99権中納言/1701正二位、
 歌道;烏丸光広門、茶道;千宗旦・一尾伊織門、香道を修得;風早流を称す、
 1676「連歌難陳判」90「中臣祓御講聞書」著、
 [実種(;名)の別名/法号]別名;貫/末種、法号;是心院一法無念
- K2095 **実種**(さねたね・今出川いまでがわ/本姓;藤原/菊亭、西園寺公晃男)1754-180148 今出川公言きんことの養子、
 廷臣;1766従三位/75権大納言/大歌所別当/1798内大臣/右大将/1800従一位、「実種公記」、
 「花むしろ」編、「詠草」「今出川実種卿紀行」「享和革命改元記」「在府中雑事」著
 [実種(;名)の号]号;後一林院、法号;後一林院覚浄心空
 実胤(さねたね・四辻) → 公亨(きんみち・四辻よつじ、廷臣/楽譜) R 1 6 8 2
- D2015 **実為**(さねたね・阿野あゝ/本姓;藤原、法号;匡円、実村男)?-? 1398頃存 南北期廷臣;南朝廷臣;
 権大納言/内大臣/従一位;南北講和交渉、
 歌人;1365内裏三百六十首(正平廿年点取和歌)/南朝五百番歌合参加、
 新葉集11首(35/180/439/710/852/955¥985/1015/1159/1239/1348)
 [匂ひくる風をしるべにたづねばや梅咲く宿の花のあるじを](新葉集;35/五百番歌合)
- K2096 **実垂**(さねたる・正親町おごまち/本姓;藤原、権大納言公通2男)1694-172633 廷臣;1711右中将、
 1715正四下/23病により辞職;位記返上、「賀茂祭近衛使記」著、
 [実垂(;初名)の後名/法号]後名;公成さんなり、法号;智成院
- D2016 **実親**(さねちか・平たいら、時範男)1087-114862 母;平経章女、廷臣;1101文章生/03藏人/左近将監、
 中宮少進/紀伊守/淡路守/左大弁/勘解由長官を歴任/1136参議/42従三位/45参議を辞す、
 1148出家、1123「実親朝臣記」著
- D2017 **実親**(さねちか・三条さんじょう/転法輪三条/本姓;藤原、公房男)1194-126269 母;中山忠親女、
 鎌倉期廷臣、1211従三位/権大納言/1232蟄居/38右大臣/40従一位、1253出家、公親の父、

歌;続後拾280、

[色かはる萩の下葉の下にのみ秋うきものと露や置くらむ](続後拾遺集;秋280)、

[実親(;名)の法名/通称]法名;静因/静円、通称;白川入道右府/三条浄土寺、三条右大臣実

D2018 **実継**(さねつぐ・三条さんじょう/正親町三条おぎまら-/本姓;藤原、公秀男) 1313?-8876? 母;藤原家相女?、
鎌倉南北期廷臣;侍従/1330右中将/31蔵人頭/32(正慶元)参議/33従三位/参議停止;
右中将に戻る、持明院統に忠節、1337蔵人頭/38(暦応元)参議復帰/39従三位/42権中納言、
43正三位左兵衛督/右兵衛督/46檢非違使/47従二位/49(貞和5)中納言/権大納言、
1353按察使兼任/54内膳司別当/55正二位/63父の喪に辞任/66本座/67(貞治4)内大臣、
1370辞任/71従一位/87(至徳4)出家/88(嘉慶2)、公豊・公時の父、
歌人:1350為世十三回忌和歌出詠/57延文百首/67新玉津島歌合参加、新千載集奉行、
永和百首詠、1376「菊十首和歌」入、菊葉集入(三条入道前内大臣名)、
「実継公記」「実継公書牘」「延文度改元年号字事」「年号字之事」著、
勅撰30首;新千載(4首685/1107/1919/2290)新拾(7首)新後拾(5首)新統古(14首)、
[落たぎつ滝のしら糸くりためて岩間にむすぶうす氷かな]、
(新千;冬685/延文百首;1960/氷;按察使名)、

[実継(;名)の初名/法名/通称]初名;実世、法名;円照、

通称;後八条入道前内大臣のちのはちじょうにゅうどうさきのないだいじん

真嗣(さねつぐ・大橋) → 真綱(まづ・大橋、歌人) J 4 0 7 0

実次(さねつぐ・一条) → 実秋(さねあき・一条/清水谷/藤原、権大納言/歌) C 2 0 8 2

D2019 **実綱**(さねつな・藤原ふじわら/家名;日野ひの、資業男) 1012-8271 母;藤原師長女、廷臣;対策及第後蔵人、
宮内大輔/1037東宮学士/50正五位/51文章博士/63式部大輔、詩;1056殿上の詩合で撰者、
本朝無題詩・中右記部類紙背漢詩集・和漢兼作集・新撰朗詠集・続文粹入、
実政の兄、有綱・有信・有定の父、
歌;1035賀陽院水閣頼通歌合参加、後拾遺(853)金葉(346、Ⅲ357)、続詞花集入、
[いつとてもかはらぬ秋の月見ればたゞいにしへの空ぞこひしき](後拾遺;雑853)

K2097 **実綱**(さねつな・藤原ふじわら/三条、初名実経、公教男) 1126-8055 母;但馬公僧林覚女(源有仁家女房)、
祖父実行の養子/1163実綱に改名、廷臣;1167参議/68従三位/74正三位/75権中納言、
後白河上皇近臣/清盛の上皇幽閉時に解官/翌年復任、実国・三条実房・後白河女御の兄弟、
歌人;1170住吉社歌合/建春門院北面歌合参、72広田社/78別雷社歌合参、千載979、
[秋を経て光を増せと思ひしに思はぬ月の影にもあるかな](千載;十六雑979)、
(女御琮子[実綱の実妹]の出家に扇紙に月を描き贈る/後宮で光を増してほしかった)

D2020 **実綱**(さねつな・藤原ふじわら、公直男)?-? 1315存 鎌倉期廷臣;左近中将/1314正三位、15出家、
歌;続千載1648

[山はなほみ雪し降れどかげらふのもゆる野原の春のさわらび](続千載;十六1648)

K2098 **実綱**(さねつな・姓不詳) ? - ? 連歌;1588「了意千句」入(;[山河追加]参加)

K2099 **実綱**(さねつな・梅園うめぞの/本姓;藤原、初名;勝久/実視、久季男) 1727-9468 母;梅園実邦女、廷臣;
侍従;従五上/1745実視に改名/42正五下/43左京権大夫/45左兵衛権佐/46従四下、
1753右近権少将/54正四下/56実綱に改名/58右近中将/59従三位非参議/62左兵衛督、
1763正三位/67参議/66松尾奉幣使/70豊明外弁(御酒勅使)/71参議辞任/73従二位、
1791権中納言;辞任/92正二位、歌人、1757「鴨祭一件」、「七社奉幣記」著

真綱(さねつな・和気、清麻呂男) → 真綱(まづな・和気、官人/詩人) J 4 0 8 1

F2061 **実経**(さねつね・藤原ふじわら、行成ゆきなり/こうぜい[972-1027]男) 1019-1045早世27 母;源泰清女、
平安期廷臣、正四上近江守、良経・行経・永親の兄弟、妻;大江清通女、師仲・政経・貞尋の父、
歌人:1035「賀陽院かやのいん水閣歌合(関白左大臣頼通家歌合)」の右方人(撰者公任)

D2021 **実経**(さねつね・一条いちじょう/本姓;藤原、関白九条道家4男) 1223-8462 母;西園寺公経女の淑子、
鎌倉期;五撰家の1;一条家の祖、1233(天福元)右中将・従三位播磨権守/34正三位、
1235(嘉禎元)従二位;非参議より権中納言/36(14歳)正二位権大納言/38左大将兼任、
1240(延応2/18歳)右大臣/42即位叙位執筆/43東宮傳/44(寛元2/22歳)左大臣、
1246(寛元4/24歳)関白/後深草天皇摂政/氏長者/従一位、47辞任、1263(弘長3)左大臣還任、
1265(文永2/43歳)関白再任;氏長者/67関白辞任、84(弘安7)出家(法名行祚);没;

教実・良実の弟/特に兄良実と確執、1247「実経公記」著、歌人;1265亀山五首歌合参加、1266八月十五夜歌合参加、自邸で百首歌主催、家集「円明寺関白集」、夫木集・雲葉集入、勅撰59首;続後撰(960/1100/1156)続古(13首325/436以下)続拾(20首)新後撰(6首)以下、[いかにせん雲の上飛ぶ雁がねのよそになりゆく人の心を](続後撰;十五恋960)、[実経(;名)の法名/法号]出家後法名;行雅/行雄/行祚、法号;円明寺、通称;円明寺関白、歌集の通称

続後撰;前摂政左大臣/続古;関白前左大臣/続拾;前関白左大臣一条

新後撰/続千以下;後一条入道前関白左大臣

- L2000 **実常**(さねつね・広瀬ひろせ、実義男)1640-171576 江戸の兵学者;福島国隆門;北条流兵法修得、1686師国隆没後門人講授;松宮観山と並称/1691土佐藩主山内豊昌の招聘;兵法学師範、のち土佐藩中老に昇進、1706「足軽百条図解」35「城制図解」、「武事百箇条鈔」外著書多数、[実常(;名)の通称/号]通称;伝左衛門、号;随影斎、
- 02087 **実則**(さねつね・徳大寺とくだいじ/本姓;藤原、実義男)1840-191981 京の廷臣;1862国事御用掛/63議奏、1863政変関与で謹慎/1868明治政府の参与・議定、内廷職知事、権大納言/宮内卿、明治天皇の侍従長、流行性感冒(スペイン風邪)で没、
実経(さねつね・藤原/三条)→ 実綱(さねつな・藤原/三条、廷臣/歌人)K 2 0 9 7
- D2022 **実経女**(さねつねのむすめ・一条、後一条関白女、一条内実の妻)?-? 鎌倉期歌人、1315京極為兼[春日宝前詠法華経和歌]に参加、勅撰2首;玉葉2672・新続古今1286、[子を思ふ心の闇を照らすとてけふかかげつる法のともし火](玉葉;釈教2672)
歌集の称; 後一条入道前関白左大臣女
- L2001 **実積**(さねつむ・風早かざはや/本姓;藤原、公長男)1691or92-175363or62歳 廷臣;1722従三位/39参議、1743従二位、1752山県大弍事件に連座;落飾/号;為空、法号;無量院暁、1723「実積卿記」著
- K2081 **実万**(さねつむ・三条さんじょう/転法輪三条/本姓;藤原、公修きんが2男)1802-5958 母;一条輝良女、廷臣;1814従三位/21正二位/57内大臣、58辞任/その後も朝儀に参加;朝幕関係を処す;勤王、1858日米条約勅許反対;将軍に慶喜を推薦;佐幕派九条尚忠と対立/安政大獄に謹慎、1859出家/のち謹慎解除;従一位/贈右大臣、歌人;香川景樹門、公睦・実美の父、「実万公記」「虚中随筆」「三条実万意見書」「三条実万手録」「改元雑事」「閑院記録系図」、「和歌弁疑」「安政三年詠藻」「愚詠」「愚詠草」「和歌弁疑」外著多数、
[眞白斑ましろの手馴の鷹を引きすゑて駒うちいづる松の下道]、
(松平春嶽[古今百人一首]入;50)
[実万(;名)の幼名/法名/法号]幼名;千代曆、法名;澹空、法号;後暁雲院、諡号;忠成公
実積(さねつむ・岩切) → 実積(さねつむ・岩切いわきり、藩士/歌人) N 2 0 9 0
- D2023 **実連**(さねつら・三条西さんじょうにし/本姓;藤原、公保男)1442-58夭逝17歳 室町期歌人、実隆の兄、歌;雅親門、歌会主催、「実連詠草」著
- G2037 **実連**(さねつら・正親町おぎまち/本姓;藤原、公通の末男)1720-180283 兄公梁没により家督嗣、廷臣;1750参議従三位/55賀茂下上社伝奏/56権大納言/79従一位、歌・神道;吉見幸和門、公明の父、「正親町実連日記」、1745「日本神代卷講義」48「実連卿記」86「練秘抄」、「知命開宴集」外著多
- N2014 **実陳**(さねつら・橋本はしもと/本姓;藤原、実梁男)1850-73早世24 廷臣;正五位、国学;1862(13歳)平田篤胤没後門、1865「春日祭旧儀御再興諸儀」67「橋本実陳詩稿」、1867-68「橋本実陳日記」、「橋本実陳廻文留」著
実連(さねつら・藤原) → 生覚(しょうかく、綾小路経資/源、廷臣/歌)H 2 2 7 3
実照(さねてる・橋本) → 実文(さねぶみ・橋本/藤原、権大納言/記録)L 2 0 3 0
- D2024 **実任**(さねとう・三条さんじょう/正親町三条おぎまち-/本姓;藤原、公種男)1264-133875 鎌倉後期廷臣、母;安嘉門院大弍(藤原為継女)、1305参議/27中納言30正二位、「継塵記」「実任卿改元定記」、1306「七僧法会記」07「後宇多院灌頂記」11「新院姫宮御行始記」著、「七夕御会」、歌人;為世勸進春日社三十首・1315花十首寄書参加・19文保百首(第五冊1798-1897)参加、続現葉・臨永・松花・藤葉集入集、勅撰10首;続千(1120/1338)続後拾(277)新千(533/1764/2289)新拾(423)新後拾(177)以下、[いはで思ふ心のうちの苦しきもしらせて後はなぐさみやせん](続千載;恋1120)、[いづくをか我がふるさとと紅葉ばのにしきたちきて秋の行くらん](藤葉;秋285)、

[実任(；名)の初名/法号]初名；実名さね、法号；藏心院

- L2002 **実任**(さねとう・清水谷みづたに/本姓；藤原、阿野実時男[実は孫])1587-166478 母；山名宗意女、祖父阿野季時の養子/のち廢絶した清水谷家を再興、廷臣；1601(慶長6)叙爵正六位、1620従五上侍従/左中將/36(寛永13/50歳)従三位/41正三位参議/42(56歳)権中納言、1645辞任/1647(正保4)権大納言；49辞任、50従二位/52正二位/61(寛文元)出家；素快名、連歌；1608夢想百韻/12両吟何人百韻、1616智仁親王と山何百韻・何路百韻、
[実任(；名)の初名/号/法号]初名；忠治/忠定、出家号；素快、法号；慈順院
- D2025 **実遠**(さねとお・藤原ふじわら、公冬男)1271-130838 鎌倉期廷臣；1299正三位/侍従/左兵衛督、關東で没、歌人；「柳風抄」入、勅撰3首；新後撰(1161)新千載(1612)新拾遺(1843)、[年月のつもればとても恋しさのなどわすられぬ心なるらん](新後撰；恋1161)、[池水にちりしく花のひまみえてのこるさくらの影ぞうつろふ](柳風抄；春31)、
[実遠(；名)の通称] 一条前左兵衛督いちじょうさきのさひょうえのかみ
- D2026 **実遠**(さねとお・小倉おぐら/本姓；藤原、季雄男)1321-8464 実教の孫/廷臣；1359従三位/66参議、1369権中納言/74従二位、歌人；北朝歌会で詠/1367新玉津島社歌合参加、永和百首入・1345?祖父実教編[藤葉集]2首入/1369後光厳天皇応安二年内裏和歌参加、勅撰6首；新後拾遺(516/806)新続古今(174/219/624/1064)、
[落ちたぎつくだくる波は岩こえて行せに氷る山河の水](新後拾；六冬516)、
[おどろかす人やなからん秋深きかり田の面に鹿ぞ鳴くなる](藤葉；秋211)
- F2062 **実遠**(さねとお・西園寺さいおんじ、公名きん男/本姓；藤原)1434-9562 廷臣；1448従三位/66内大臣、1467従一位/81右大臣/83左大臣、「実遠公記」「管見記」著、歌；1473按察使親長卿家歌合/84義尚歌合参加、和漢聯句；1463・87・93和漢聯句参加、連歌；新撰菟玖波集；30句入集、
[山の端はさらでも見えず春霞立てるやいづこ武蔵野の原](親長卿家歌合；一番右)、
[実遠(；名)の号] 後竹林院のちのちくりんいん、公藤きんぶじ・実遠女の父
- L2003 **実遠女**(さねとおのおむすめ・西園寺さいおんじ)?-? 室町期足利将軍家の上臈女房、公藤きんぶじの妹、連歌；新撰菟玖波集4句入
- D2027 **実時**(さねとき・藤原ふじわら、公蔭男)1251-130858 母；洞院実雄女、鎌倉期廷臣；1297参議/98正二位、1300致仕/04出家、歌人；1291北畠師行邸五十番歌合/92巖島社頭和歌参加、1308前「倭譚か十首懷紙」(寂恵・三善春衡・三善遠衡・定蓮らと；静玄名)入勅撰3首；新後撰(985)玉葉(2397/2572)
[思ひやれ空だのめせぬ月だにも待つは心をつくすものとは](新後撰；恋985)、
[実時(；名)の号/法名] 号；六条、法名；静玄じょうげん、昭訓門院大納言の父
- 2042 **実時**(さねとき・北条ほうじょう・金沢かなざわ、北条実泰男)1224-7653 母；天野政景女、鎌倉の武将、執権北条泰時の後援で幕府要職/小侍所別当；父の跡を継嗣、執権4代経時5代時頼の側近；1252引付衆/53評定衆/58引付頭人/執権時宗を補佐；寄合衆、1275致仕；六浦荘金沢住、典籍収集；1275金沢文庫と称名寺創設、儒(明経道)；清原教隆門、歌；北条政村門、源光行・親行「河内本源氏物語」注釈書の編纂、息子実政への「訓戒状」
- D2028 **実時**(さねとき・徳大寺とくだいじ/本姓；藤原、公清男)1338-140467 母；家女房、北期廷臣；1350左近中將、1354従三位・非参議/1356参議/57権中納言/61正三位/63従二位/64権大納言/67正二位、1371左大將兼任/82内大臣・従一位/88左大臣；92辞任(足利義満；左大臣)/94太政大臣；辞、1395出家(；法名常実)、1382「徳大寺太政大臣藤実時公記」「永徳御讓位記」著、歌人；自邸で詩歌会主催、勅撰4首；新後拾遺(455/825/1122/1298)、
[嵐山ちらぬ紅葉のかげながらうつれば落つる滝の白波](新後拾；秋455；内大臣)
[実時(；名)の通称/法名]通称；野宮太政大臣、法名；常実 実秀の兄、公俊の父
- D2029 **実利**(さねとし・橘たちばな、春行男)?-? 972存 平安前期廷臣/官人；藏人/少納言/大舍人頭、従四上、歌人；後撰集656、960内裏歌合後宴で歌出を務めた[右京大夫実利]と同一か?、
[つらしとも思ひぞはてぬ涙河られて人をたのむ心は](後撰集；恋656)
- D2030 **実俊**(さねとし・西園寺さいおんじ、公相きんすけ4男/本姓；藤原)1260-134182 廷臣；1277参議/従三位、1279正二位、1301出家、歌；1320[元応二年八月十五夜月十首]入(空玄名)、

- 勅撰9首：新後撰(239/920)玉葉(312/737/946/1325)続千(3首)、
 [夏草のしげみの葉ずゑ暮るるより光みだれてとぶ螢かな](新後撰；夏239)、
 [実俊(；名)の法名/号]法名；空玄、号；橋本/冷泉、女は後醍醐妃で世良親王母
- D2031 **実俊**(さねとし・西園寺さいおんじ、公宗男/本姓；藤原)1335-8955 母；日野資名の女名子(竹向)、
 公兼の父、父公宗の誅殺時は母の胎内、幼時より叔父公重と家督争奪；公重は南朝へ走る、
 北朝の頭臣；北山右大臣と称される；1344従三位/64内大臣/66右大臣/75従一位、1389出家、
 1367「中殿御会之記」著、歌人；1357延文百首/67新玉津島社歌合参加、
 勅撰14首；新千載(4首；366/638/1172/1894)新拾(5首)新後拾(4首)新統古(1首；1835)、
 [露分くる袖にぞうつる紫の色こき野辺の萩が花ずり](新千；秋366/延文百首；2039/萩)、
 [実俊(；名)の別名/号]初名；実名さねな、号；後常磐井
 母 → 竹向(たけむき、日野の資子/名子、日記作者) 2 6 2 2
- L2004 **実敏**(さねとし・大松沢おおまつざわ/本姓；藤原)1772-184877 陸前仙台、石巻住、「管見録」著、
 [実敏(；名)の通称/号]通称；丹宮、号；居易館
 実敏(さねとし・小倉) → 遜斎(そんさい・小倉おぐら、藩儒/教育) F 2 5 4 1
 実俊(さねとし・橋本) → 実村(さねむら・橋本/藤原、権中納言/笛) D 2 0 6 7
 実俊(さねとし・宇野) → 春溪(しゅんけい・宇野うの、商家/漢学/詩) I 2 1 8 1
 実俊母(さねとしのは・西園寺、日野名子) → 竹向(たけむき、日記/歌人) 2 6 2 2
- D2032 **実富**(さねとみ・今出川いまでがわ/家号；菊亭、公行男)?-1428 廷臣；1402従三位/04参議；越中守、
 1406権中納言/1407従二位/13-21権大納言/15正二位、僧正円尋の兄、
 公富(1396-1421)・教季(1425-84)の父、歌人、父公行と貞成親王を養育、
 1400頃成立「菊葉和歌集」編纂(公行さきゆきと共編)；約30首入、母も歌人(菊葉集入)
 [朝日影にほへる山はほのかにて裾野は深く立つ霞かな](菊葉集；春45)
- L2005 **実富**(さねとみ・押小路おしこうじ/本姓；藤原、従季男)1749-182678 母；五辻盛仲女、廷臣；1777従三位、
 1814権大納言/15正二位、1775「石清水放生会参向記」76-1813「押小路実富日記」著、
 「藤原実富紀行」著、法号；報土院翫月晴空
- 02017 **実富**(さねとみ・大松沢おおまつざわ、通称；郡記)1761-182868 陸奥(陸前)仙台藩士、国学者、
 11代藩主伊達斉義の近習
- L2006 **実美**(さねとみ・三条さんじょう/転法輪三条/本姓；藤原、実万さねつむ4男)1837-9155 母；山内豊策女の紀子、
 廷臣；1854兄公睦没で父を継嗣/58-9安政大獄で父謹慎出家後は尊攘派の中心、
 1862従三位/権中納言、63薩摩公武合体派に追われ長州逃亡/止官位、/67王政復古で復位、
 1868従一位右大臣/維新後；副総裁/輔相、1869太政大臣/85内大臣/89首相兼任/91正一位、
 歌；家集「梨のかた枝」、「教業鈔」編/「実美公記」「三条実美意見書」「庭訓節会条々」外著多、
 [実美(；名)の幼名/字/通称/号/変名]幼名；福麿、字；遜叔、通称；香雪閣、号；梨堂、
 変名；梨本誠斎・実まこと
- N2064 **実富母**(さねとみのは・今出川いまでがわ)?-? 今出川公行の室、歌人；菊葉集50首入、
 実富・僧正円尋の母、
 [消えやらぬ野沢の雪間踏み分けて氷の下の若菜をぞ摘む](菊葉；春35/百首歌)
- G2026 **真友**(さねとも・清原きよはら)?-? 平安期詩人・848「本朝文粹」1篇：朝野群載入、
 卷一雑詩；[字訓詩](五言律詩最初の2字を合わせ第5字とする)、
 [禾失曾知秩 中心豈忘忠 里魚穿浪鯉 江鳥度秋鴻 火盡仍為燼 色糸辞不絶 凡虫泣寒風]
- 2043 **実朝**(さねとも・源みなもと、頼朝2男)1192-1219. 1. 27暗殺28 母；北条政子、鎌倉三代将軍、1203従五下、
 征夷大将軍/1213正二位/15右大臣/兄頼家3男公暁(きょう)により鶴岡八幡宮社頭で暗殺、
 歌人；藤原定家門；京歌壇とも交流、家集「金槐和歌集」/「和歌二十首」著、
 万代・秋風・雲葉(7首)・東撰六帖・閑月・拾遺風体集・夫木抄入集、勅撰94首；
 新勅撰(25首30/31/106/128/207/208/236/237/303/316/319/337/408/423/437/525以下)、
 続後撰(13首)続古(8首)続拾(5首)新後撰(5首)玉(11首)続千(3首)続後拾(4首)以下、
 [箱根路をわが越え来れば伊豆の海や沖の小島に波の寄る見ゆ](金槐集)
 [世の中は常にもがもな渚こぐあまの小舟の綱手かなしも](新勅撰525)
 [実朝(；名)の幼名/通称]幼名；千万/千幡、通称；鎌倉右大臣
 実備(さねとも・沢崎) → 実備(さねなが・沢崎、郷土史家) L 2 0 1 4

- L2007 **実豊** (さねとよ・三条さんじょう/正親町三条おおぎまち-本姓;藤原、内大臣公豊男)?-1404 南北期廷臣; 1385参議/97権大納言/1400正二位、「実豊卿記」著
- L2008 **実豊** (さねとよ・正親町おおぎまち、季俊男) 1619-1703⁸⁵ 母;源勝盛女、江前期廷臣;右中将/蔵人頭、正四上/1644参議/46従三位/49正三位/52権中納言/53春日祭上卿参行/55従二位、1656権大納言;58辞任/59正二位/85(67歳)靈元天皇に背いた実教に連座;蟄居/87蟄居解、歌人;三条西実教門、「実教聞書」著?、連歌;1666「法皇御会何木百韻」参加、妻:藤谷為賢女、息子;公通・公綱・公廉・季親・承頤・中山篤親・中山篤親、息女;梅檀院(讃岐高松藩主松平頼豊室)・正親町町子(柳沢吉保側室)
- D2034 **実名** (さねな・小倉おぐら/本姓;藤原、初名;季保すえやす、公脩男) 1315-1404^{長寿90} 南北期廷臣、父没後;祖父実教の跡を継嗣、1343従三位/49参議/64従二位/1402権大納言;02出家、実教の兄、歌;持明院殿歌会参加、1367新玉津社歌合参加、1357延文百首・藤葉集3首入集、勅撰9首;風雅(574)新拾遺(504/696/1668)新後拾(527/704)新続古(403/606/1620)、[秋の雨のはれゆくあとの雲間よりしばしほのめく宵の稻妻](風雅集;秋574)
- L2009 **実称** (さねな・三条西さんじょうにし、公福男/本姓;藤原) 1727-91⁶⁵ 廷臣;1748参議/57権大納言、1776正二位、「和歌節会詠進の記」著、姓は西三条とも称す、法号;随誠院広海静空
 実名(さねな・西園寺) → 実俊(さねとし・西園寺、廷臣/歌人/母;名子[竹向]) D 2 0 3 1
 実名(さねな・三条) → 実任(さねとう・三条/正親町三条、中納言/歌) D 2 0 2 4
- D2036 **真直** (さねなお・安倍あへ/初姓;阿倍;姓かばね朝臣)?-? 平安前期廷臣;左京住、衛門佐/従五下相模介、808「大同類聚方」百卷撰述;少納言に昇進/809従五上/主殿頭兼豊後守/815左少弁/正五下
- L2010 **さねなほ** (平たいら) ? - ? 平安前期保明やすあきら親王[903-923]の帯刀、歌;904-23頃「保明親王帯刀陣歌合」参加、
 [朝霧は立つとも見えずいとどしき小倉おぐらの山のふもとと思へば](帯刀陣歌合;霧右14)
 参考 → 保明親王(やすあきらしんのう、醍醐天皇皇子) 4 5 8 9
- L2011 **実直** (さねなお・大中臣おおなかつみ、蔭直(1316祭主/1337没)男)?-? 鎌倉末南北期神職、伊勢神宮祭主(1338-47頃)、神祇官権大副/正四下、連歌;菟玖波集2句入;1497/1591、蔭宣(南朝廷臣)の弟/親直(1348祭主/1350没)の兄、清直の父、大中臣能宣の末裔、
 [捨つる身のしばしと思ふ柴の庵](菟玖波;雑1497/前句;かりそめながら時移るなり)
- D2035 **実直** (さねなお・今出川いまでがわ[家号;菊亭]/本姓;藤原、実尹2男) 1342-96⁵⁵ 廷臣;兄公直の跡継嗣;1358従三位、1374権大納言/90左大将兼任/94右大臣/95従一位、妻(歌人)/公行の父、歌人;公行編の菊葉集(私撰集)の主要歌人;230首入、日記「実直卿記」著、
 [九重に袖をつらねて諸人の春とともにや立初むらん](菊葉集;春6/前右大臣名)、
 [実直(;名)の通称] 後今出川右大臣のちのいまでがわのうだいじん
- D2037 **実直母** (さねなおのは・今出川いまでがわ、三条実忠女)?-? 1342^存 南北期歌人、右大臣今出川実直の母、今出川実尹さねただ/さねまさの室、
 [称];新千;左近中将実直母/新拾;権中納言実直母/新後拾;権大納言実直母、
 勅撰7首;新千載(1109)新拾遺(3首939/1018/1272)新後拾(3首436/770/840)、
 [人しれずほのめかしてもかひなきは思はぬかたのあまのいさり火](新千;恋1109)
- D2038 **実直女** (さねなおのむすめ・今出川いまでがわ)?-? 歌人、新拾遺1272(但し諸本は実直母作とす)
 実仲(さねなか・花園) → 実廉(さねかど・花園/藤原、廷臣/琵琶) K 2 0 8 3
- D2039 **実長** (さねなが・藤原ふじわら、公行男/母;源顕親女) 1128-82⁵⁵ 平安後期廷臣;1156参議/64権大納言、1168正二位/82出家、歌;千載集469
 [かきくらし越路も見えず降る雪にいかでか年のかへりゆくらむ](千載集;冬469)
 (越の国で雪の歳末を迎えた人の寂寥感/越路と来し道を掛け年を擬人化)
- L2012 **実長** (さねなが・波木井はきい、南部三郎光行男) 1222-97⁷⁶ 甲斐波木井など三郷領主、源頼朝に出仕、日蓮僧;日教門/1269鎌倉出仕中に日蓮門/74日蓮を所領に迎え身延山久遠寺の開基とす、日連の強力な外護者/1281出家、日蓮没後;身延護持に関し日興と対立;日興は身延を去る、日教の父、1295「置文」著、
 [実長(;名)の通称/法諱/法号]通称;彦三郎/三郎/六郎、法諱;日円、法号;法寂
- L2013 **実永** (さねなが・西園寺さいおんじ/本姓;藤原、公永男) 1377-1431⁵⁵ 南北室町期廷臣;従四上左中将、1393参議/95正四下・権中納言・従三位/97正三位/99権大納言/1401従二位/02正二位、

1415右大将兼任/19内大臣/1420(44歳)右大臣;辞任/21従一位、歌;1407内裏九十番歌合参、
[更くる夜の月に残らぬ雲きえてさてもや影のなほこほるらむ](内裏九十番;三番右6)

- L2014 **実備**(さねなが・さねとも・沢崎さわさき、実純男)1713or14?-177967/66 岩代二本松藩士;千手物頭、
御旗奉行を歴任、1773致仕、史家、
「陸奥国史」「国郡旧主記」「補闕本朝録」「松府来歴金花抄」著、
[実備(;)名)の通称/号]通称;金左衛門、号;楽哉らくさい/楽軒、致仕号;朝倉霜台、法号;貞性院
実長(さねなが・小林藤三郎)→ 日向(にこう:法諱、日蓮宗僧) 3 3 1 4
- L2015 **実無**(さねなし・高大夫) ? - ? 戦国期永正文天文1504-54頃の歌人:一条兼良[1402-81]門?、
「詠百寮和歌」編(;108首/百官名を題にしその職能・性格を詠む)
- D2040 **実夏**(さねなつ・洞院とういん/本姓;藤原/家名;山階、公賢男)1315-6753 母;藤原光久女の従三位光子、
実世(南朝に出仕)の弟/杲守こうしゅ/吉子の兄弟、公定の父、父と北朝廷臣/1337参議従三位、
1360父公賢没後;公賢の養子実守と家督を争う/1363内大臣/64従一位;64内大臣辞職、
「改元記」「実夏公記」著、連歌;菟玖波5句入、
歌人;藤葉集3首入、1357延文百首/67新玉津社歌合参加、
勅撰10首;風雅(2167)新千(4首284-)新拾(308/830)新後拾(880)新続古(309/801)、
[くもりなく高天たかまの原にいでし月八百万代やはるぶのかがみなりけり](風雅;賀2167)、
[夢をだにむすびもあえぬみじかよになにと水鶏くひのおどろかすらん]、
(藤葉;夏142/春宮大夫実夏名)、
[実夏(;)名)の通称/法名]通称;後山階内大臣のちのやましないだいじん、 法名;崇実
- 2044 **実業**(さねなり・清水谷しみずたに/本姓;藤原、信濃飯田藩主堀親昌男)1648-170962 母;清水谷実任女、
母方の叔父三条西公勝の養子/1662清水谷公栄の養嗣子/廷臣;1681参議/1689権大納言、
1704正二位、清水谷雅季まさすえ・小倉有季の父、歌学・熊沢蕃山門;堂上四天王の1、
1688霊元院より和歌てにをは伝授を受、霊元院歌壇の宮中歌会の所役を務む、
中院通茂・武者小路実陰と共に霊元院歌壇の中心、北村季吟・香川宣阿・細井広沢の師、
1693-97歌学「水青れい記」、「清水谷実業卿百首」「清水谷実業詠草」「清水谷垂槐御答」著、
「近代賀算詩歌」「高雄紀行」著、1702百首歌・04「一人二臣集」・05「宝永仙洞着到百首」入、
1706「雲上和歌集」入、「筑州浅山行良にあたふる詞」著、徳川光圀と交流、
[流れゆく音ぞさびしき花鳥の春もとまらぬ庭の遣り水](宝永仙洞着到百首)
[実業(;)名)の号/法号]号;鳴滝なるたき/めいろう、法号;醒泉院芳苑唸秋
- L2016 **実誠**(さねなり・橋本はいもと/本姓;藤原、実理男)1758-181760 廷臣;1800参議/10権中納言/15正二位、
歌人、実久の父、「橋本実誠詠草」/1786-1800「橋本実誠日記」著、
1811「有道親王宣言下上卿参上留」著、法号;後信浄院観窓輝覚
- L2017 **実愛**(さねなる・嵯峨さが/本姓;藤原、正親町三条実義男)1820-1909長寿90 母;松平光年女、
廷臣;1848参議/従三位/1849右中将/権中納言/50右衛門督正三位/52従二位/55正二位、
1859権大納言、議奏として王政復古に尽力;討幕の密勅を薩長に授る、63権大納言辞任、
嵯峨を名乗る、維新後;大納言/正二位、
1833「石清水臨時祭り使備忘付副図」67-8「嵯峨実愛手記」、「嵯峨実愛記」「嵯峨実愛備忘」、
「先朝御事蹟年表草」著/「嵯峨実愛備忘」、外編著多数、
[実愛(;)名)の号]成翁/子成/真成/叟
- D2041 **実宣**(さねのぶ・さねのり・滋野井しげのい/本姓;藤原、初名;実広、公時男)1177-122852 母;藤原経房女、
廷臣;1207参議/17正二位/24権大納言、歌;1195経房歌合参加、1200石清水若宮歌合参加、
勅撰;新続古今集890、
[をしと思ふ心や君にたちそひて知らぬ波ちを友に行くべき](新続古;離別890)、
(詞書;筑紫のかたへまかりける女に餞し侍るとてよめる)
- L2018 **実信**(さねのぶ・洞院とういん/本姓;藤原、正親町おごまち忠季男)1357?-141256? 母;藤原冬兼女、
洞院公定の猶子、廷臣;1395参議/1402権大納言/03正二位/07白馬の内弁、
法名;玄信、満季みつすえの父、
「安楽行院事」著、歌;1407内裏九十番参加;3首、
[うちとけてねられぬ夜半の袖のしもむすびそへてや月もやどれる]
(内裏九十番;十三番左25/寒月)

- L2019 **実宣**(さねのぶ・西園寺さいおんじ、公藤きんぶし男/本姓:藤原) 1496-1541⁴⁶ 廷臣;1512参議/25正二位、1535内大臣/37左大臣/40従一位、「管見記」/1522-23「実宣公記」著、
[実宣(;)の号] 後観音寺
- L2020 **実宣**(さねのぶ・星野ほしの) 1638- 1699⁶² 筑前秋月の生;藩主黒田長興に出仕/致仕、江戸で和算家:横川玄悦門;天元術を修学/帰郷;1678福岡藩主黒田光之に出仕;30石、測量に精通;1697幕命で門人高島武助と国絵図作成に従事、1672「算学啓蒙註解」注、1672「股勾弦鈔」、「算学注解」「坤輿旁通儀図説」著、
[実宣(;)の通称/号]通称;助右衛門、号;廓庭
- L2021 **允信**(さねのぶ・遠藤えんどう/大蔵、元良男) 1836-99⁶⁴ 陸奥仙台藩士;宿老の家の生、1854(安政元)家督継嗣;3千石/大蔵元良に代り宿老;執政参加/藩奉行、和漢学に通ず、勤王派で佐幕派に排斥、維新後復職/1870神祇少祐/従六位/71権少教正、国書に精通、氷川神社・都々古別神社・平野神社の各官司/1891志波彦神社・鹽竈社官司、従四位、「塩社叢説」、「塩松考証」編、1862「遠藤允信建白書」著、
[允信(;)の通称/号]通称;文七郎、号;睡竜齋、法号;大竜院
実信(さねのぶ・郷/小阪)→ 北嵩(ほくすう・小阪/郷、儒者/詩) D 3 9 5 2
真信(さねのぶ・神谷) → 真信(しんしん・神谷かみや、歌人) U 2 2 5 5
- D2042 **実信母**(さねのぶのは・藤原ふじわら、藤原頭綱女)?-? 平安後期歌人、藤原保実[やすざね、参議権中納言、1060?-1102没]の妻/離婚?、実信[?-1130]は備後守従四上、歌人、金葉579(Ⅲ569)、道経・伊予三位兼子(堀河院乳母)・讃岐典侍長子の姉妹、
[ことわりや曇ればこそは真澄鏡うつれる影も見えずなるらめ](金葉集;九579)、
(夫保実が他の女の許に移ったのちの詠/うつれる影は他に移った男を掛ける)、
讃岐典侍と同一説あり→ 讃岐典侍(さねきのすけ、日記作者) 2 0 3 0
- F2063 **実範**(さねのり・藤原ふじわら、能通男)?-? 1062存 母;藤原元尹女、平安後期漢学者;藤原義忠門、文章生/文章得業/1023太政官入、28蔵人兼式部丞/29殿上の花見の詩宴の序者、1053文章博士/59大学頭/62致仕、藤原南家の儒学を確立、「菌城寺竜花会縁起」、詩人;本朝無題詩(14首入)/類聚句題抄・中右記部類紙背漢詩集・教家摘句・続文粹入、文;三十五文集・朝野群載に3篇入、季綱の父
- D2043 **実教**(さねのり・小倉おぐら、公雄男/本姓藤原) 1264-1349⁸⁶ 母;姉小路実世女、廷臣;1292(正応5)参議、1296正二位、1299(正安元)権大納言・民部卿/兵部卿/1348出家、大覚寺統の近臣、二条派堂上歌人/連歌、1303後二条院歌合・嘉元百首/14詩歌合/23龜山殿七百首(49首)参、1324後宇多院十首・石清水歌合/30北野宝前和歌/35内裏千首参加、1345?「藤葉とうよう和集」撰(5首入)、連歌;菟玖波 3 句入、勅撰71首;新後撰(5首139/385/929/1028/1099)玉(1310)続千(11首)続後拾(8首)以下、
[行く春の日数ぞ花をさそひける風ばかりとはなにうらむらん](新後撰;春139)、
[うき雲をへだつるかひもなかりけり霞めばはれぬ春の夜の月](藤葉;春38)、
[実教の通称/法名]通称;富小路とみのこうじ大納言、法名;空覚・阿覚、
季孝・季雄・公脩・公熙・実教女4人(藤葉入集歌人1人)の父/洞院公賢の舅、
- D2044 **実教**(さねのり・三条西さんじょうし/西三条、公勝男/本姓:藤原) 1619-1701⁸³ 廷臣;1639参議、1655正二位権大納言、歌学(家伝)継承、後水尾院・霊元院歌壇で活躍/霊元院に背き蟄居、「和歌聞書」「記籍類史」「西三条実教卿歌話」「押小路前大納言実岑卿紀聞」著、「三条公遺稿」編、1638後鳥羽院四百年忌御会参加、
[更けゆけば紅葉にまがふ色つきて霜の花咲くねやの埋み火]、
[夕まぐれむすぶが内に月もはや泉の水のわきて涼しき](後鳥羽院忌;52/泉)、
法号;霊心院眞覚元空
- L2023 **実憲**(さねのり・徳大寺とくだいじ/本姓:藤原、公全男) 1714-40^{早世} 27 母;近衛家熙女、廷臣;1724従三位/1731権大納言/38正二位、17736-39「徳大寺実憲卿記」、「昭仁親王御元服加冠理髮要」著
- L2024 **実徳**(さねのり・園池そのいけ/本姓:藤原、水無瀬氏孝の末男) 1736-92⁵⁷ 1755権大納言園池房季の養子、1757**実徳**に改名/廷臣;1774従三位、1776**水無瀬**家に復帰;成徳に改名/1785**忠成**に改名、1787正三位参議兼太宰大弼/88従二位/89東照宮奉幣発遣使参向/91踏歌外弁;御酒勅使、

1790致仕、「園池家伝」著、
[実徳(；名)の別名]氏精うじきよ(；初名)/成徳なりのり/忠成ただなり

- L2025 **実典**(さねのり・阿野あの/本姓；藤原、公倫男)1798-1838⁴¹ 廷臣；1825従三位/29正三位、
1804-34「実典卿記」著
- P2074 **実政**(さねのり・山本やまもと、実城男)1826-1900⁷⁵ 京の廷臣/右近衛権中将/正三位、国学者、
歌人；御歌所次長、安政勤王八十八廷臣の1、
泰子(細川忠毅妻)・実庸さねもち・玉松真幸・鉄子(大在達映妻)・穂稜俊香の父、
[実政(；名)の初名/通称]初名；公寧、通称；右近衛権中将
- 02013 **実徳**(さねのり・大谷おおたに、)1838-1865^{切腹28} 長門阿武郡須佐の萩藩家老の益田家の家臣、国学、
1864禁門(蛤御門)の変で益田親施が切腹後に過激正義派の河上範三らと回天軍を組織、
心光寺に立籠り須佐内証事件を起す；1865河上範三と切腹、
[実徳(；名)の初名/字/通称/号]初名；茂樹、字；篤甫、通称；与十郎/**樸助**、号；雪溪/梅窓
実教(さねのり・三条) → 実量(さねかず・三条/転法輪三条、左大臣/歌) C 2 0 9 6
実宣(さねのり・滋野井) → 実宣(さねのぶ・滋野井、歌人) D 2 0 4 1
実則(さねのり・岩淵) → 加兵衛(かへえ・岩淵いむぶち、藩士/馬術家) P 1 5 2 9
実規(さねのり・徳大寺) → 実通(さねみち・徳大寺/藤原、権大納言/歌) D 2 0 6 4
実紀(さねのり→さねえ・姉小路)→実紀(さねえ・姉小路あねがこうじ/藤原、廷臣/歌人) D 2 0 4 5
- P2096 **実教女**(さねのりのむすめ・小倉おぐら、)?-? 鎌倉南北期；歌人、1345?父撰[藤葉とうよう集]2首入、
公脩きんなが(1294-1337)の姉妹、父実教(1264-1349)は正二位権大納言・大覚寺統近臣/歌人、
[待ちわびてふけ行くほどに明けにけり山端しらむみじか夜の月](藤葉；夏144/夏月)
[いつまでかよそにも聞きし我が方に吹きけるものを薦のうら風](藤葉；恋609)
☆尊卑分脈には実教女は4人；従三位教子・藤原公賢妾桓恵僧正母・藤原基成室・女
- L2026 **実治**(さねはる・三条さんじょう/転法輪三条/本姓；藤原、右大臣公富男)1650-1724⁷⁵ 江前中期廷臣；
1667元服；改名；実通/1668従三位/89改名；実治/1705従一位/15左大臣、
「実治公記」「諸文記体」「暁心公東宮御元服御記」著、娘(井伊直通の室)の父、
[実治(；名)の別名/法号]別名；季房(；初名)/実通、法号；暁心院本空観照
実治(さねはる・阿野) → 実頭(さねあき・阿野、権大納言/歌/連歌) C 2 0 8 3
- D2046 **実彦**(さねひこ) ? - ? 戦国期16ct中期 連歌師、宗鑑「犬筑波集」入
- L2027 **信比古**(さねひこ・岩政いわまさ/本姓；越智おち)1790-1856⁶⁷ 周防玖珂郡新庄村の国学者；
出雲の千家俊信門、古学で一家を成す/歌人、上林諸史もろふみの師、
「梅の林」「故事記伝異考」「てらつゝき」「淫祠論評」「物語詞林」著、
1817「本末譚解」「止由気之御霊」著、43「出雲国式社考」校訂/52「蛭子淡島考」56「桜の林」著、
[信比古(；名)の通称/号]通称；要吉、号；桜処
佐寝彦(佐禰比古さねひこ)→ 種彦(初世さねひこ・柳亭、高屋知久、旗本/戯作) 2 6 4 3
- P2098 **実古**(さねひさ・三条さんじょう/本姓；藤原、初名；実雅、権大納言公雅[1274-1340]男)?-? 南北期廷臣、
実重(太政大臣/1259-1329)の養子/1328右中将/1346(貞和2)従三位/非参議/49参議、
1363正三位/1365(貞治4)没、歌人；小倉実教[藤葉集]入、
[あふとみるおもかげまではかはらぬを夢にはのこるうつり香ぞなき](藤葉；恋567)
- E2046 **実久**(さねひさ) ? - ? 大阪天満住人/狂歌；1666行風「古今夷曲集」入
- D2047 **実久**(さねひさ・橋本はしもと/本姓；藤原、実誠さねなり長男)1790-1857⁶⁸ 母；花山院常雅女、
廷臣；1831参議/44正二位/1843-44議奏/後桜町・光格両上皇の院別当兼任、48権大納言、
外祖父とし和宮を養育、歌人、音楽；笛、「橋本実久詠草」「実久卿記」「春日社参向記」、
1815「東照宮参向記」36「橋本実久院伝奏備忘」42「光格天皇参向聖忌懺法講参仕備忘」外多、
[実久(；名)の幼名/法号]幼名；幸丸、法号；勝光徳院
実尚(さねひさ・三条) → 実量(さねかず・三条/転法輪三条、左大臣/歌) C 2 0 9 6
実寿(さねひさ・茶室) → 康哉(やすなり・茶室ちやむつ、暦算家/歌人) C 4 5 4 7
- D2048 **実秀**(さねひで・藤原ふじわら、家名；清水谷?、公隆男)?-? 鎌倉期歌人、廷臣；五位/少将、新後撰1154、
[うき身にはいかに契りてことの葉のしぐれもあへず色かはるらむ](新後撰；恋1154)
- D2049 **実秀**(さねひで・徳大寺とくだいじ/本姓；藤原、公清男)?-? 1371存 南朝廷臣；蔵人頭/左近衛権中将、
参議/中納言、歌人；1365「内裏三百六十首」(正平廿年)参加、1371「南朝三百番歌合」参加、

新統古今1393(読人しらず;新葉994)、新葉9首;46/117/241/285/433/713/785/994/1318、
[かき絶えてへだつる中と成りにけり見し玉章たまづさの文字の関守](新統古;1393)、
(新葉集994の2句目;かよはぬ中と/関白家三百番歌合)

- D2050 **実秀**(さねひで・正親町おおぎまち/本姓;藤原、家名;裏辻、公仲男)1388-1432⁴⁵ 公蔭の孫、
廷臣;1411参議/正四上/1421権大納言/28従一位/出家;法名;祐実、箏の名手、
歌人;1407内裏九十番歌合参加、1422足利義持の命で名号和歌を詠、
新統古792(応永26年3月仙洞にて鶴馴砌を詠む)、
[末とほき千世の友とやわが君になれてみぎりのたづも住むらん](新統古792)
- E2084 **実秀**(さねひで・転法輪三条/清華家/本姓;藤原、権大納言公広男)1598-1671⁷⁴ 廷臣;侍従/左中将、
1619(元和5)従三位/20権中納言/21正三位/28従二位/29(寛永6)権大納言/31正二位、
1633踏歌外弁/35右大将兼任/46除服宣下/48内大臣;辞任/52(慶安5)右大臣;53辞任、
1657従一位/60(万治3)左大臣;61辞任/71(寛文11)没、
歌;1638後鳥羽院四百年忌御会参加、
[山里の秋の夜さむをしれとてやきぬたの音のたゆむ日ぞなき](後鳥羽院忌;58/擣衣)、
[実秀(;名)の法号]己心院
- L2028 **実栄**(さねひで・清水谷しみずたに/本姓;藤原、雅秀男)1722-1777⁵⁶ 母;阿野公緒女、廷臣;1752参議、
1761権大納言/63正二位、「清水谷口伝」著、清水谷実業の孫、
[実栄(;名)の別号/法号]別名;実季さねすえ、法号;蓮華誠院
実秀(さねひで・藤原) → 実峰(じっぽう;道号・良秀;法諱、曹洞僧)V 2 1 0 8
- D2051 **誠仁親王**(さねひとしんのう、正親町おおぎまち天皇第一皇子)1552-86³⁵ 母;万里小路秀房女の房子、
1568親王宣下/父天皇讓位の儀の前に没、室町期の歌人・連歌、歌会催、雅楽・書に堪能、
1567「着到御和歌」/77「陽光院五十首」「桂林一枝」、「陽光院三十首和歌」「陽光院御百首」、
「陽光院誠仁親王当座詠草」「陽光院到着百首」「陽光院御詠草」「陽光院御願文」外著多数、
[誠仁親王(;名)の諡号/追号]諡号;陽光院、追号;陽光太上天皇、
- D2034 **実平**(さねひら・賀茂かも) ? - ? 平安期神職/歌人;1182重保撰「月詣和歌集」入、
[五月雨の晴れま待ちえては旅衣ほさでもやがて朽ちぬべきかな]、
(月詣;五440/連日五月雨)
- D2052 **実衡**(さねひら・西園寺さいおんじ、公衡きんひら男/本姓;藤原)1291-1326³⁷ 母;中御門経任女、廷臣;
1304従三位/11正二位/24内大臣/1322以降関東申次、1315「実衡公記」「春日社頭和歌諸事」著、
歌人、勅撰8首;玉葉(663)続千載(627/1217/1587)続後拾(230/395)新千(1056)新拾(463)、
1315京極為兼[詠法華経和歌]参加、徒然草152段に日野資朝(1290-1332)との逸話入、
[もしほ火も月の夜ごろはたきさして煙なたてそ須磨の浦人](玉葉;秋663)、
[実衡(;名)の通称]竹中殿/今出川前内大臣、公宗・公重・実衡女の父
- D2053 **実衡女**(さねひらのむすめ・西園寺さいおんじ)?-? 1367存 南北期歌人;後期京極派、公宗・公重の姉妹、
1343院六首歌合・67新玉津島社歌合参加、
勅撰22首;風雅(13首95/637/710以下)新千(844/1164/1270)新拾(948)新後拾(3首)新統古
[霞みわたる小野をか柳のひともとにのどかにすさぶ春の夕風](風雅集;春95)
- D2054 **実熙**(さねひろ・清水谷しみずたに/本姓;藤原、藤原成経男)?-? 1354存 南北期廷臣;正四下左近中将、
歌;1354文和三年花園院七回忌法華経要文和歌懐紙に参加、風雅集1267、
[せめてわが思ふほどこそかたくともかけよやつねのなさけばかりは](風雅;恋1267)
- D2055 **実熙**(さねひろ・洞院とういん、満季男/本姓;藤原)1409-? 1457存 母;法印兼真女、廷臣;1424従三位、
権中納言/1446内大臣/50従一位/54右大臣/55左大臣/57出家;東山閑居、故実家;朝儀典礼、
「当今年中行事異記」「蛙抄」「政部類記」「人体篇」「東山左府記」、「名目鈔」「行類抄」補填、
「御遊東山入道左府記」/1457「女叙位執筆記」、詩;1446文安詩歌合参加(3首;内大臣名)、
[酔帽吟筇一望寛 蕭条野径覚秋闌 汀煙断処蘆花白 村雨残辺楓葉丹](詩歌合;七番左)
[実熙(;名)の初名/通称/法名]初名;実博、通称;東山左府/東山入道左府、法名;元鏡、
実広(さねひろ・滋野井) → 実宣(さねのぶ・さねり・滋野井/藤原、権大納言/歌) D 2 0 4 1
実広(さねひろ・土肥) → 渭虹(渭江いこう、土肥どひ、藩士/俳人) F 1 1 4 3
実寛(さねひろ・正親町) → 公蔭(きんかげ・正親町おおぎまち、廷臣/歌) D 1 6 8 5

- 2045 **実房**(さねふさ・三条さんじょう/転法輪三条/本姓;藤原、公教男)1147-1225⁷⁹ 母;藤原清隆女、廷臣;1160従三位/71正二位/90左大臣、鎌倉幕府成立後1196出家、「愚昧記」「愚昧記取要」著、「三条中山口伝」「叙位次第」、1171「藤原基房任太政大臣大饗記」91「除目親王給事」外著多、歌;「実房公御百首」「御室五十首」1200「釈静空集」著、1170住吉/72広田/78別雷社歌合参加、1200後鳥羽院催[正治初度百首]参加、雲葉集入、勅撰30首;千載(6首90/140/362/458/525/947)新古(438/589/701/839)新勅(551)続古以下、[散りかゝる花のにしきは着たれどもかへらむ事ぞわすられにける](千載;春90)、(南史;柳慶遠記[錦をきて郷に還る]/花に心を奪われ故郷に帰るを忘れる)、[池水にしまぬ蓮はあすの花よりも清き心をいかですまさむ](正治百首;1833/夏/静空名)、[実房(;名)の法名/通称]法名;静空じょうくう、通称;三条入道左大臣
- L2029 **実房**(さねふさ・木村きむら、通称;佐平次)?-1853 江後期筑後久留米の国学者、「閑暇箒木」著
実房(さねふさ・八木/江竜)→ 清雄(すがお・江竜えいたつ/八木、歌人) I 2 3 1 3
- N2067 **実藤**(さねふじ・阿野あの/本姓;藤原、初名;季信すえのぶ、公業男)1634-93⁶⁰ 廷臣;1638(5歳)叙爵、1642従五上/1662(寛文2/23歳)従三位/66(寛文6)正三位参議/67左中将/69東照宮奉幣使、1672(寛文12/39歳)権中納言/73従二位/75神宮伝奏/80辞任/91(元禄4)正二位、1692(元禄5/59歳)権大納言;実藤に改名/辞任/60没、歌人;浅井政右まさすけの師
実藤(さねふじ・五辻) → 之仲(ゆきなか・五辻いつつじ/源、廷臣/連歌) F 4 6 1 1
- D2056 **実文**(さねふみ・阿野あの/本姓;藤原、公仲3男)?-1316 鎌倉期廷臣;1271叙爵/78備後守、1301左中将/12(正和元)従三位侍従、鎌倉に伺候、公廉の弟/公豊の父、1316(正和5)没、歌人;夫木抄・柳風抄(2首)入、玉葉集600、[山ぎはの霧はれそめて声ばかり聞きつる雁のつらぞ見え行く](玉葉;秋600)[山めぐる雲のしばしのあとまでも袖をゆるさずふるしぐれかな](柳風抄;冬101)
- L2030 **実文**(さねふみ・橋本はしもと/本姓;藤原、初名;実照、実松2男)1704-79⁷⁶ 母;三木隆豊女、廷臣;1747参議/60権大納言/63正二位、歌人、「橋本実文等詠草」「橋本実文雑記」「下外諸次第」、1728「石清水放生会参向一会」35「中御門天皇御譲位一会」49「日光例幣使参向」外著多数
- L2031 **実章**(さねふみ・花園はなぞの/本姓;藤原、正親町三条公積男)1767-1809⁴³ 花園公純の養子、1770琵琶相伝の花園家(羽林家の1)を継嗣、廷臣;1801従二位/1807出家、熊谷直好の師、1796「要中合秘」著、妻;穂波尚孝女、息子公燕きんなるが家督嗣/堀田貞子(津島社司妻/歌人1795-1875)の父
- D2057 **実冬**(さねふゆ・滋野井いげの/本姓;藤原、公光男)1243-1303⁶¹ 母;清水谷(藤原)実有女、廷臣;右衛門督/1273参議、1283正二位/1288権大納言/大覚寺統廷臣/89出家;法名**実覚**、歌人;亀山・後宇多両院歌壇における和歌行事に参加、1303嘉元百首出詠、1303没、「実冬卿記」著、勅撰7首;続拾(308/985)新後撰(544/977/1537)続千(1777)新続古(1420)、[ささ島やよわたる月の影さえて磯こす浪に秋風ぞ吹く](続拾遺;秋308/右衛門督)、(文永七年[1270]八月十五夜内裏三首歌:海月)、[鶯の涙もまたやこほるらん谷の戸寒し春の山風](嘉元百首;1200/鶯)
- D2058 **実冬**(さねふゆ・三条さんじょう/転法輪三条/本姓;藤原、公忠男)1354-1411⁵⁸ 母;大宮季衡女、廷臣;1367従三位/96右大臣/99従一位左大臣/1402太政大臣/07出家、姉;後小松天皇母、公冬の父、三条流故実家、「実冬公記」「作法故実」「内外故実」、「後三条相国抄」「元日節会次第納言内辨要」「三節会次第」1391「元日節会略次第内辨要」著、歌;1407内裏九十番歌合参加、新続古2首(1534/1730)、[契りしもあらぬこの世にすむ月やむかしの袖の涙とふらん](新続古;恋1534)、(応永十六年九月十三夜内裏にて百首歌)
[実冬(;名)の法名/通称]法名;常忠/常恩、通称;後三条入道相国/後三条入道前太政大臣
- D2059 **実冬女**(さねふゆのむすめ・三条さんじょう)?-? 1437^存 室町期歌人;後小松天皇に出仕、1407内裏九十番歌合参加/1433永享百首入/37室町殿行幸和歌御会に出詠、新続古今集4首(216/712/1348/1922)、[くれはつる春はいづくにかへる山ありとしきかばゆきて尋ねん](新続古;春216)、実冬女の通称;後三条入道前太政大臣女のちのさんじょうにゆうどうさきのだいじょうだいのむすめ
- G2048 **真正**(さねまさ・平たいら、参議平随時[890-953]男;仁明流)?-? 平安期廷臣;正五下安芸守、仲政の父、

歌人;977三条左大臣頼忠殿前裁歌合参加(能宣・時文・元輔らと)、
[水の上につれる秋の空の月ながれてふかき影とこそみれ](頼忠前裁歌合;71)

- L2032 **実正**(さねまさ・藤原ふじわら、清遠男)?-? 平安前期期廷臣;但馬守/右衛門佐、正五下、
母;藤原子高女、歌人;960天徳内裏歌合・977三条左大臣頼忠殿前裁歌合入、
[水底にやどれる影もにごらねばさやけかるらし秋の夜の月](頼忠前裁歌合;72)
従兄弟長能(949?-1015?)の男に実正がいるが年齢的に無理
- D2060 **実政**(さねまさ・藤原ふじわら/家名;日野、資業男)1019-93流刑地没75 母;源重文女、平安末期廷臣;
実家/実綱の弟、東宮学士/文章博士/蔵人頭/1080参議/従三位/1084大宰大貳/85従二位、
大宰府赴任中1088宇佐八幡宮の御輿を射たとの訴えで伊豆配流/配所で没、敦宗の父、
歌人;1073後三条院の天王寺御幸に歌題と歌を献上;講師を務める、78内裏歌合参加、
本朝文集・続詞花集・万代・秋風集入集、勅撰3首;後拾遺(95/1169)続後撰(556)、
[春ごとに見るとはすれど桜花あかでも年のつもりぬるかな](後拾遺;春95)
- D2061 **実雅**(さねまさ・三条/正親町三条おおぎまちさんじょう、公雅さんまさ男/本姓;藤原)1409-6759 廷臣;1432参議、
大宰権帥/権大納言/1457内大臣/1457従一位/將軍義教の寵臣、実済/公綱さんつなの兄、
歌;1450仙洞歌合参(大宰権帥名)、幕府御会参加、新統古今5首161/257/605/1177/1444、
[山たかみ夕ある雲の跡もなし吹きこす風に花や散るらむ](新統古今;春161/百首歌)
[実雅の法名/法号] 法名;常禱、法号;青蓮華院しょうれんげいん
- Q2085 **真祇**(さねまさ・高野たかの、通称;久兵衛[代々の称])1655-173783 近江彦根藩士;禄130石、
歌人;[彦根歌人伝・亀]入
- N2020 **真政**(さねまさ・高井たかい/本姓;源)1677-176387歳 幕臣;大番/桐間番/近習番/蔵奉行/同組頭、
御賄頭、1740(元文5)月光院殿(徳川家宣側室喜世きよ)御用人/寄合、従五下・長門守、
歌;冷泉家入門、石野広通「霞関集」2首入、
[今ぞ知るなこそその関の関守は人の心の奥にありとも](霞関:恋845/寄関恋)、
[真政(;名)の通称]蔵人/長門守/伊豆守、法号;宗灌
- L2033 **実全**(さねまさ・滋野井げい/本姓;藤原、公澄男)1700-3536 廷臣;1733参議権/正四上/34従三位、
1735権中納言;10月没、有職故実に通ず、1728「昭仁親王立太子記」33「東宮御元服記」著、
1733「立坊拝観記」著、法号;恭文院豊運良融
実尹(さねまさ・今出川) → 実尹(さねただ・今出川・大納言/歌人) D 2 0 1 3
実政(さねまさ・阿野) → 実顕(さねあき・阿野、権大納言/歌/連歌) C 2 0 8 3
実匡(さねまさ・田村/土肥) → 石斎(せきさい・土肥どひ/田村、藩士/儒者) K 2 4 0 7
- D2062 **実松**(さねまつ・橋本はしもと/本姓;藤原、葉室頼孝2男)1672-173261 橋本公綱の養嗣子/廷臣;
1717参議/19権中納言/29従二位、楽道(笛)、儀礼を修学、
「橋本実松詠草」「御法事方次第」、1708「慶親王立坊記」著、実文さねふみの父
- L2034 **信満**(さねまる・山根やまね、通称;民部)1763-? 石見日御碕八幡宮宮司の長男、浜田藩士、
国学;小篠敏門/1788師に随い肥前長崎に遊学/90本居宣長門、家督継嗣;八幡宮宮司、
「伊勢参宮道中記」「諸社詔戸辞」著
実満(さねまる・児玉) → 実満(じつまん/さねまる・児玉こたま、郷土史) V 2 1 0 9
- D2063 **実躬**(さねみ・三条さんじょう/正親町三条おおぎまち-/本姓;藤原、公貴男)1264-? 1317存 母;藤原為経女、
廷臣;1298参議/従三位/1309正二位/16権大納言、17出家/法名;実円、公秀の父、
「実躬卿記」「除目部類」「後伏見天皇御即位記」/1301「正安三年大嘗会記」著、
1302「正安四年雑記」/03「実躬卿中納言拝賀記」/06「石清水臨時祭記」著、
歌人;1291北畠師行邸五十番歌合・92厳島社頭和歌・1301東二条院七十賀後宴参加、
勅撰5首;新千載(571)新拾遺(301)新統古今(1400/1475/1642)、
[竜田山いかに時雨の染めわけて青葉にまじる紅葉なるらん](新千載;秋571)
- N2041 **実祖**(さねみ・徳大寺とくだい/本姓;藤原、初名;季繁、西園寺公晃2男)1573-181947 母;今出川伊季女、
1760(宝暦10)徳大寺公城の養子、西園寺賞季の弟/今出川実種の兄、
廷臣;侍従/右近権少将/左近権中将/1773(安永2)権中納言/74後桜町上皇の院御厩別当、
1776踏歌節会外弁/79(安永8)権大納言/86(天明6)大歌所別当、
1794(寛政6)光格天皇中宮欣子内親王の中宮大夫/97(寛政9)右近衛大将・右馬寮御監、
1798(寛政10)内大臣;辞任/1800従一位/15(文化12)右大臣;辞任、歌;香川景樹門、

- 公迪・清水谷実揖・実繁・泰君(浅野齐賢継室)の父、
- L2035 **実堅**(さねみ・徳大寺とくだいじ/本姓;藤原、鷹司輔平男)1790-1858⁶⁹ 徳大寺公迪の養嗣子、廷臣;
1806従三位/48内大臣;辞任/49従一位、歌:香川景樹門、武家伝奏;学習所(学習院)設立、
1835「儲君御治定一件」/44「景樹一周忌追悼和歌」/48-58「徳大寺実堅卿自筆日記抄」著、
「徳大寺実堅武家伝奏記録」「改元申沙汰記」「石清水臨時祭備忘付服飾僮僕」著、
[世々をへて絶ず澄むらん隅田川こぎゆく舟の末もはるかに](季文[墨水遊覧記])、
実視(さねみ・梅園) → 実繩(さねつな・梅園/藤原、廷臣/歌) K 2 0 9 9
- D2064 **実通**(さねみち・徳大寺とくだいじ/本姓;藤原、初名;実規、公胤男)1513-45^{殺害33} 戦国期廷臣;
1527従三位、1532権大納言/38正二位、
歌人;父を継承し家蔵の和歌資料整備;1541頃「続撰吟集」編纂、
1545京の兵乱のため知行の越中に下向;長尾為景の攻撃を受け同国放生津城に没
実通(さねみち・三条) → 実治(さねはる・三条/転法輪三条、左大臣) L 2 0 2 6
実道(さねみち→じつどう・拝郷)→蓮苜(れんいん;法諱、拝郷はいごう、僧/歌人) 5 1 9 1
実道(さねみち・小野寺) → 壽人(ひさと・小野寺おのでら、蘭医/儒者) I 3 7 7 5
- D2065 **実光**(さねみつ・藤原ふじわら/家名;日野、有信男)1069-1147⁷⁹ 母;藤原実政女、廷臣;
1131参議/34従三位、36権中納言/40従二位/44(天養元)出家、鳥羽・崇徳天皇の侍読、
歌人;1117内裏歌合参加、和漢兼作集に詩歌文入、金葉集208/582、御裳濯集入(西寂名)、
[月影のさすにまかせて行く舟は明石の浦やとまりなるらん](金葉集;秋208)、
(月影射すと棹さす/月明しと明石の浦を掛ける)、
[実光(;名)の通称/法名]通称;日野帥、法名;西寂、実綱の孫/日野資長の父
- Q2008 **実満**(さねみつ・荒木田あらかぎだ、)?- ? 鎌倉南北期;伊勢内宮神職;権禰宜、
歌人;1334(建武元)渡会朝棟亭歌会参加、
[見る人のあくがれやすき秋の夜の月に契りの末をまつかな](朝棟亭歌会;47)
[後の世のやみを思ふもうきに我が身に添果てよ袖の月影](同;48)
- P2013 **実満**(さねみつ・花園はなぞの/本姓;藤原、公久男)1629-84⁵⁶ 廷臣;1636侍従/47右近中将/従四上、
1657従三位/64正三位/66(寛文6)参議/72従二位、妻;神祇権大副吉田兼敬女、公晴の父
- L2036 **実光**(さねみつ・滋野井げいの/本姓;藤原、教広男)1643-87⁴⁵ 廷臣;右近権中将、1664土佐に配流、
2年後赦免;帰京/1670右近衛中将/74正四下、「贈官宣下申沙汰記」著、法号;瑞雲院
- L2037 **実光**(さねみつ・正親町おぎまち/本姓;藤原、公明男)1777-1817⁴¹ 廷臣;1798参議従三位、
1803権中納言、院別当/1805賀茂下上社伝奏/06大歌所別当/07正二位/12権大納言、
「実光朝臣記」/1784-5「実光朝臣御首服並拝賀次第等」1804-5「賀茂下上社伝奏雑記」著、
「春日社奉幣使要」著
- D2066 **実宗**(さねむね・藤原ふじわら/西園寺さいおんじ、藤原公通男)1149-1212⁶⁴ 母;藤原通基女、公経の父、
廷臣;1176参議/85正二位、1205内大臣/1206出家;法然門、琵琶;藤原師長門、
1171「高倉天皇御元服記」著、1171日記「坊槐記」、歌人;1172広田社歌合参(;頭中将)、
勅撰4首;千載(1047)新古(1127)新勅(988)玉葉(565)、
[播磨瀉須磨の晴れ間に見渡せば波は雲居のものにぞありける](千載;1047/権中納言)、
[実宗(;名)の号]坊城/大宮/五条/坊城内大臣、西園寺公経・藤原定家妻(為家母)の父
- D2067 **実村**(さねむら・橋本はしもと/本姓;藤原、初名;実俊、橋本季景男)1598-1664⁶⁷ 伯父橋本実勝の継嗣、
1588家人に殺害され断絶した実勝の養嗣子となり家再興、廷臣;1642従三位/44参議、
1649権中納言/52従二位、楽道(笛)を修得、「橋本実村詠歌留」著
- L2038 **実村**(さねむら・齋藤さいとう、齋藤大雅[実延]の孫)1821-98⁷⁸ 紀伊和歌山藩士;江戸の生/勘定奉行、
側用人/参政、維新後は侯家の家令、詩歌を嗜む、1865「東帰りの記」「齋藤桜門日記」著、
「白藤園叢書」編、
[実村(;名)の別号/通称/号]別号;坦、通称;大次郎/政右衛門、号;桜門/秋声
- L2039 **実持**(さねもち・藤原ふじわら、公定男)1189-1256⁶⁸ 鎌倉期廷臣;1230左中将/34非参議従三位、
1236参議/皇后宮権大夫兼任/37正三位;左中将兼任/38権中納言/39従二位/40正二位、
1241権大納言;42辞任;本座/53出家、歌;1232名所月歌合参加;右方、
[ゆふなぎの明石の門とより見渡せば大和しまねをいづる月影](名所月歌合;三番右6)
- L2040 **実茂**(さねもち・押小路おにじり/本姓;藤原、三条実記2男)1780-1827⁴⁸ 1796押小路実富の養子、

- 廷臣;1814左少将/正四下、1799「実茂日記」著、法号;真明院安楽善心
- D2068 **実基**(さねもと・源みなもと:醍醐流、経房男)?-? 左大臣源高明の孫、平安中期廷臣;正四下左近中将、尾張・美濃守、歌人;1035賀陽院水閣歌合参加、続詞花集入、千載集568、
[思はむとたのめながらにつれなきはつらきにまさる物にぞ有りける](続詞花;恋544)、
[都へと思ふにつけてかなしきはたれかはいまは我を待つらん](千載集;九哀傷568、
京に残した女人の死を地方で聞き急ぎ上京の途次の歌)
- D2069 **実基**(さねもと・徳大寺とくだいじ/本姓;藤原、公継2男) 1201-73 母;白拍子の五条夜叉、廷臣;
1213従五下/侍従/右少将/右中将/左中将歴任/正四下、19(承久元/19歳)従三位左中将、
1221(承久3)5月承久変勃発;7月後鳥羽法皇隠岐左遷/11月正三位左中将権遠江権守、
1224(元仁元)非参議から権中納言/25兼左衛門督/従二位、26中宮権大夫、
1228正二位/31(寛喜3)中納言/32籠居/35(嘉禎元/35歳)権大納言/39辞任;41還任大納言、
1242右近大将兼任/46(寛元4/46歳)内大臣;50辞任/53(建長5/53歳)太政大臣/54従一位、
;同年辞任/1265(文永2)出家;法名円覚、73(文永10)2月没
歌人;1248(宝治2)正月歌会の序者/54亀山殿五首歌会の序者、
徒然草206/207段に明敏な高い見識人としての逸話入、「実基公記」著、
勅撰2首;続拾遺729/続後拾遺367、
法名;円覚/円性/因性、称;水木
[池水のたえずすむべき御代なれば松の千歳もとはに逢ひみむ](続拾遺;十賀729)
(宝治二年1248正月松色春久といふことを講ぜられける時 序奉りて)
- L2041 **実紐**(さねもと・阿野あの/本姓;藤原、公繩男) 1746-86 廷臣;1769従三位/70丹波権守/71右中将、
1781従二位、1783「実紐卿記」著
- 02098 **実苞**(さねもと・永田ながた、通称;岩右衛門) 1773-1835 讃岐香川郡の石清水尾八幡神社祠官、
妻;りさ(1774-1834、号;かぜ/歌人)
- P2078 **実礎**(さねもと・横田よこた、通称;亦助、旧姓;土肥) 1838-84 沓岐松浦藩士、国学者、
歌;橘守部・橘冬照・橘東世子とせ(冬照妻)門、維新後;沓岐住吉神社祠官、
1874年(明治7)対馬一宮海神かいじん神社宮司;1878[和多都美たづみ神社]を申請
実甫(さねもと・松本) → 寒緑(かんろく、松本まつもと、藩士/儒者) R 1 5 9 0
実元(さねもと・郷) → 東厩(とうこう・郷ごう、儒者/詩文) D 3 1 8 5
- D2070 **実基女**(さねもとのむすめ・徳大寺)?-? 徳大寺実基[1201-73]女、鎌倉期歌人、続拾遺545、
[つれもなき別はしらじ郭公なに有明の月に鳴くらん]
(続拾遺;七雑春545/徳大寺入道前太政大臣女とくだいじにゅうどうのさきのだいじょうだいじんのむすめ)
- L2042 **実盛**(さねもり・藤原ふじわら)?-? 平安後期廷臣;女四宮篤子内親王の侍所に出仕、
歌;1083後三条院女四宮(篤子内親王)侍所歌合参加、
[荒小田あらをだに苗代水をますらははおもひおもひにまかせてぞひく]、
(女四宮歌合;四番左7/苗代)
- D2071 **実守**(さねもり・藤原ふじわら、右大臣公能男) 1147-85 母;藤原俊忠女豪子、平安後期廷臣;1170参議、
1171従三位、1182権中納言/従二位、実定・実家の弟、
歌人;1170住吉社・建春門院北面歌合/72広田社/78別雷社歌合入、
月詣・万代・和漢兼作集入、勅撰3首;千載(363/1076)新勅撰(307)、
[もみぢ葉を関もる神に手向け置きて逢坂山を過ぐるこがらし](千載;秋363)
- L2043 **実守**(さねもり・洞院とういん/本姓;藤原、通称;賀茂大納言、実泰4男) 1314-72 母;高倉永康女の康子、
兄公賢の養子;南北期廷臣;1328参議従三位/1339権大納言正二位;48辞職、51南朝に参仕、
南朝の権中納言/内大臣従一位、1360公賢没後に公賢の実子実夏(北朝廷臣)と家督を争う、
実夏没後;1368北朝に帰参;70大納言、「消息四通」、琵琶・秦箏・神楽を相承
- D2072 **実盛**(さねもり・徳大寺とくだいじ/本姓;藤原、公俊男) 1400-28 母;藤原俊忠女豪子、平安後期廷臣;1170参議、
1414(応永21/15歳)従三位右中将/18(応永25/19歳)非参議から権中納言/20正三位、
1421(応永27/22歳)従二位権大納言、27(応永34)正二位;28(応永35)没、法号;大機院、
1419仙洞和歌会参加、新続古今680、
[夜もすがら嵐吹きそふ篠の葉にさやぐあられば音もわかれず](新続古;冬680/霰)
- L2044 **信謹**(さねもり・田中たなか/若林、医者田中信繁男) 1699-1781 撰津西宮の医者、

1709(11歳)大阪の菓舗小西家の徒弟/若林家の養子/1719生家に戻る/灘に紙の行商、儒;井上斎門/復古学を主唱;経史・雑書を講説/1731医者となる;号常淑、1756和泉堺に転住、諸家と交流し経義を極める、1686「広西両宮記」「天靈説」「絃楽集説」、「感傷中字解」「視聽漫筆」「祝寿方考」「俗医問答」「文業興廢録」「文艸彫蟲伎稿」外著多数、[信謹(;名)の別名/字/通称/号]別名;信恒(;初名)/信敬、字;子庸、通称;卯平/忠七、号;魯軒/見竜/常淑、法号;見竜院

- L2045 **実盛**(さねもり・橋本はしもと、安居やすい男)1795-1868⁷⁴ 伊勢外宮の神職;1854宮掌大内人祝部、和漢学・神典に通ず/書;小俣蟻庵門、「神道大意」「山田火災記」「神領日記」著、[実盛(;名)の字/通称/号]字;薰郷、通称;孟介/金太夫/刑部、号;菊亭/介石
- C2060 **実保**(さねやす・賀茂かも、重保男)?-? 平安期神職/歌人;1182重保撰「月詣和歌集」入、[岩つつじ映れるかげは大井おほ河紅葉を寄せし波かとぞみる](月詣;三229)、重政・重信・重房・季保の兄弟、実行の父
- D2073 **実泰**(さねやす・洞院とういん/本姓;藤原、公守男)1270-1327⁵⁸ 母;平親継女の亀山院民部卿局、廷臣、1284従三位/正二位権大納言/1315内大臣/16右大臣/17従一位/1318左大臣、1324(元亨4)左大臣辞任、通称;後山本左大臣、公賢・公敏・公泰・実守の父、西園寺公衡に倣い太政大臣にならず(徒然草83段入)、法名;寂元、「県召除目次第」「後山本左府記」、1288「実泰卿記」著、歌人;1293内裏御会和歌参加、1303嘉元百首/19文保百首/24石清水社歌合参加、菊葉集7首入、勅撰53首;新後撰(5首171/433/971以下)玉(12首54/251678以下)続千(13首)続後拾(5首)、風雅(7首360/373以下)新千(7首)新拾(2首661/1773)新後拾(2首271/1063)、[待てとだに頼めもおかず時鳥いつまでさのみ心つくさむ](新後撰;夏171/百首歌)[雨そそく園の呉竹枝たれてゆふべのどかに鶯ぞ鳴く]、(玉葉;春54/嘉元元年(1303)百首歌たてまつりける時 鶯[800/四句;しづかに])、洞院左幕下家と同一?→ 洞院左幕下家(とういんのさばくけ、早歌作者)S 3 1 6 1
- L2046 **実休**(さねやす・伊東/伊藤いとう、通称;要人)?-? 江後期;天保1830-44頃陸前仙台藩士、江戸留守居役、堂上派歌人、1835「仮名類題集」、「滴露集」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[是もまた心ぞとまるははそ原もみぢは色の深きのみかは](大江戸倭歌;秋975/柞黄葉)実泰(さねやす・藤原) → 生覚(しょうかく、綾小路経資/源、廷臣/歌)H 2 2 7 3
- D2074 **実梁**(さねやな・橋本はしもと/本姓;藤原、小倉輔秀男)1834-85⁵² 橋本実麗(さねあきら)の養嗣子、尊攘論主唱、1858日米条約勅諭の修正要求の88卿に列参/1861侍従;和宮東下に随従/62国事御用掛、戊申戦で東海道先鋒総督兼鎮撫使、江戸開城のとき勅使として徳川家処分を伝える、1870従三位/度会府知事/式部助/元老院議官歴任/従二位、実陳の父、「橋本実梁詠歌留」、「橋本実梁日記」、「橋本実梁私記」「橋本実梁等詠歌短冊」「市ヶ谷の芥」外著多数
- D2075 **実行**(さねゆき・三条さんじょう/本姓;藤原、公実男)1080-1162⁸³ 母;藤原基貞女、平安後期廷臣;1115参議正四下、1150太政大臣/従一位/60出家、歌;1116(永久4)参議実行六条宰相家歌合、1118右兵衛督実行歌合主催、「崇仁記」、1118「一会和歌纂」24「高野御幸記」著、1146-7頭輔歌合の判者、袋草子入、歌;続詞花集4首入、妻は藤原顕季女(公教の母/歌人)、三条家の祖、実隆/通季/実能/源有仁室/待賢門院璋子と兄弟、勅撰14首;金葉(Ⅱ6首102/115/308/368/605/673)詞花(293/369)千(502/621/972)新古以下[おどろかす声なかりせば時鳥まだうつゝには聞かずぞあらまし](金葉:二115)、[実行(;名)の号/法名]号;八条太政大臣/八条入道相国、/法名;蓮覚
- Q2010 **実之**(さねゆき・平たいら、) ? - ? 南北期;武士、歌人;1375頃細川家(頼之)奉納[大山祇神社百首和歌]出詠、[むかしにもかかはらぬ春のよなよなは月やあらぬとなど霞むらむ](大山祇百首;6/春月)
- P2028 **実行**(さねゆき・古久保ふるくほ、常德つねり男)1847-1903⁵⁷ 紀伊日高郡の小釜本八幡神社祠官、直之(さねゆき)の孫/資愛(すけあ)の甥、国学;熊代繁里/歌;瀬見善水門、国学;佐々木弘綱・久米幹文(もとぶみ)門、[実行(;名)の通称/号]通称;善一郎、号;有恥/杉涼園/不二之家

- 実之(さねゆき・山田) → 公章(きみあき・山田、藩士/兵学) L 1 6 9 9
 実之(さねゆき・小野寺) → 壽人(ひさと・小野寺おのでら、蘭医/儒者) I 3 7 7 5
- L2047 **実世**(さねよ・洞院とういん/本姓;藤原、公賢男)1308-5851 廷臣;侍従/右少将/権左中弁/1328参議、
 1337権中納言/正二位、南朝廷臣;1347右大将/48従一位/55左大臣、通称;与喜左大臣、
 実夏(北朝廷臣)の兄、歌:1330元徳二年八月御会参/56内裏歌会序者、新葉2首326/1411、
 [心なきものとはいはじ雨はれて月にかからぬ夜半のうき雲](新葉集;秋326)
 実世(さねよ・三条西) → 実枝(さねき・三条西/藤原、内大臣/歌) 2 0 3 3
 実世(さねよ・三条) → 実継(さねつぐ・三条/正親町三条、廷臣/歌) D 2 0 1 8
- D2076 **実能**(さねよし・藤原ふじわら、号;徳大寺左大臣、公実男)1096-115762 母;隆方女光子、徳大寺家の祖、
 1108侍従/10従五上/11美作守/左少将/左中將/21従三位非参議/22権中納言/23左兵衛督、
 1129正三位/32右衛門督/35別当/36従二位・正二位権大納言/39右大将兼任/40東宮大夫、
 1149大納言/50内大臣/54左大将兼任/55東宮傳兼任/56左大臣/57従一位;病で出家;没、
 法名;真理、実隆/通季/実行/源有仁室/待賢門院璋子と兄弟、公能/育子(二条天皇中宮)の父、
 1137「実能記」著、歌人;1116六条家歌合/18実行歌合参加、後葉2首・続詞花4首・雲葉集入、
 勅撰18首;金葉(8首38/58/139/365以下)詞花(295)千載(45/647/712)新古(1909)以下、
 [この春はのどかに匂へ桜花枝さしかはす松のしるしに](金葉集;春38)、
 [八条入道太政大臣(三条実行/1080-1162)右兵衛督に侍りける時歌合し侍りけるに、
 夏風をよみ侍りける、(1118右兵衛督実行歌合)、
 夕さればしののをざさをふく風のまだきに秋の気色なるかな](続詞花;夏147)、
 妻 → 顕隆女(あきたかのむすめ・藤原) D 1 0 0 6
- Q2091 **実麗**(さねよし・竹村たけむら、通姓;都茂吉)?-? 江後期信濃伊那郡の歌人、
 桃沢夢宅(1738-1810)門
- N2035 **実善**(さねよし・郷ごう) 1809 - 188173歳 美濃方県郡の地頭松平家の家臣、
 国学・歌人;千種有功・富樫広蔭・松田直兄門、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [萩が枝のそよぐゆふべは露ならで風にも袖をぬらしつるかな]、
 (大江戸倭歌;秋729/夕萩)、
 [実善(;名)の通称/号]通称;勇太郎/数馬/元之進、号;余斎
- L2048 **実良**(さねよし・一条いちじょう/本姓;藤原、右近大将忠香男)1835-6834 母;家女房、廷臣;
 1848(嘉永元/14歳)非参議;従三位権中將、49(嘉永2)権中納言兼左衛門督/50左近中將、
 1852正三位/56従二位/58(安政5/24歳)権大納言;正二位/61(文久元)改元定に参加、
 1867(慶応3/33歳)右大臣/従一位、公武合体派、安政(1854-)以後朝議に参加、
 明治天皇皇后美子の兄、1847「童殿上次第」著
 実好(さねよし・阿野) → 実顕(さねあき・阿野、権大納言/歌/連歌) C 2 0 8 3
 実好(さねよし・出納) → 尚堅(しょうけん・出納すいろう/納、漢学者) I 2 2 5 1
 実勝(さねよし・藤原) → 実勝(さねかつ・藤原) C 2 0 9 7
- 2046 **実頼**(さねより・藤原ふじわら、忠平男)900-97071 母;宇多天皇皇女源順子、廷臣;蔵人頭/931参議、
 949氏長者/964従一位/967関白太政大臣/969摂政、「小野宮故実旧例」/964-970「水心記」、
 「類聚証」、有職故実;小野宮流、箏・笙の名手、歌人;「清慎公集」、921「醍醐御時菊合」参、
 960内裏歌合;判者、金玉・和漢朗詠・新撰朗詠・万代・如意宝・秋風・雲葉・和漢兼作集入、
 勅撰35首;後撰(10首5/136/266/294以下)拾遺(9首86/158以下)新古(4首)新勅(711)以下、
 [松もひき若菜もつまずなりぬるをいつしか桜はやも咲かなむ](後撰;春5)、
 (子の日に支障があり朱雀院に参上できないため近習の延光朝臣に贈歌)、
 [実頼(;名)の幼名/通称/諡号]幼名;牛養、通称;小野宮、諡号;清慎公
 女は3人 → 実頼女(さねよりのむすめ・藤原)①②③・
 → 清慎公女(せいしんこうのむすめ、歌人/玉葉1512) I 2 4 9 5
- L2049 **実順**(さねより・葛谷くずや)1708- 175245 美濃の和算家:西塚重勝・山本格安門、
 名古屋で子弟教育、1741「開宗算法」「通玄算法」、「井子算法」「換式順逆維乗定式」著、
 [実順(;名)の字/通称]字;子和、通称;円右衛門
 実因(さねより・志村) → 五城(ごじょう・志村むら、藩儒/詩文) G 1 9 4 6
実頼女(さねよりのむすめ・藤原、清慎公女): 尊卑分脈に3人見える、

- ①朱雀女御(すざくいんのようご) → 慶子(けいし、大将御息所、歌人) 1 8 6 3
- D2078 ②**実頼女**(さねよりのむすめ・藤原、小野中君、清慎公女)?-? 源高明の室、平安期歌人、
後拾654[;小野宮太政大臣女]
[頼むるにいのちののぶるものならば千歳もかくてあらむとや思ふ](後拾遺;十一恋654)
(男の哀願するような贈歌に対する擲揄しつつ誘い掛ける返歌)
- ③四条御息所述子(しじょうみやすごころのじゅし) → 弘徽殿女御(こうきでんのようご、村上天皇妃) M 1 9 0 3
※ 玉葉1512の[清慎公女]は上記3人のうち、②実頼女(源高明室)と考えられる
→ 清慎公女(せいしんこうのむすめ、歌人/玉葉1512) I 2 4 9 5
- 02033 **佐野**(さの・神河かみかわ、通称;清久) 1813-4230 阿波徳島の医者神河渭南(いなん/1801-64)の妻、
歌人
- | | | |
|--------------------|---------------------------|-----------|
| 茶農(さのう・林はやし) | → 洞海(どうかい・林はやし、蘭医) | C 3 1 0 6 |
| 佐之衛門(さのえもん・谷) | → 維揚(いよう・谷たに、儒者) | I 1 1 3 4 |
| 佐之衛門(さのえもん・谷) | → 鬼谷(きこく・谷たに、維揚男/儒者/兵学) | K 1 6 3 7 |
| 左之吉(さのきち・黒住) | → 宗忠(むねただ・黒住くろずみ、神道家) | B 4 2 5 6 |
| 左之丞(さのじょう/さのすけ・岩井) | → 重遠(しげとお・岩井/巖井/祝い、和算) | R 2 1 6 4 |
| 佐之助(さのすけ・宮地) | → 常盤(とこわ・宮地みやじ/菅原、神道家) | K 3 1 3 7 |
| 狭野茅上娘子(さのちがみのおとめ) | → 茅上娘子(ちがみのおとめ) | 2 8 0 7 |
| 狭野尊(さのみこと) | → 神武天皇(じんむてんのう) | 2 2 8 1 |
| 佐野屋(さのや) | → 篤老(とくろう・飯田、医/俳人) | L 3 1 6 2 |
| 佐野渡(さのわたる) | → 渡(わたる・六橋園ろっさきょうえん、狂歌作者) | 5 3 4 5 |
- D2079 **沙婆**(佐婆さば・林はやし、姓かばね;宿禰)?-? 平安初期廷臣;少外記/安藝守/806東宮学士、
808従五下/809嵯峨賀天皇即位に伴い功賞;正五位、平城・嵯峨天皇側近の文人、
詩:凌雲2首/経国1首入
- | | | |
|------------|-------------------------|-----------|
| 佐倍(さばい・小林) | → 佐倍(すけます・小林こばやし、藩士/文筆) | H 2 3 0 2 |
|------------|-------------------------|-----------|
- D2080 **鯖麻呂**(佐婆麻呂さばまろ・六人部連むとへのむらじ、通称;六鯖むさば)?-? 奈良期廷臣;万葉四期歌人、
736遣新羅使人;737帰朝、751舎人佑;従六上/758正録上伊賀守/764従五位下、
遣新羅使人3694-96;壱岐病死の雪連宅満ゆきのむらじやかまろへの挽歌(長歌と反歌)
[新羅へか家にか帰る壱岐の島行かむたどきも思ひかねつも](3696)
- | | | |
|-----------------|---------------------------|-----------|
| 佐波良之垣内(さばらのかいち) | → 長麿(ながまる・内田うちだ、国学/歌人) | L 3 2 3 1 |
| 左眉一(さびいち・川口) | → 道斎(どうさい・川口、医者) | E 3 1 4 3 |
| 左瓢(さひょう・酒井) | → 忠徳(ただのり/ただあり・酒井、藩主/歌/俳) | F 2 6 6 2 |
- F2064 **佐兵衛**(さひょうえ・大曾根おおそね)?-? 江中期地誌家、
1709地誌「東海道駅路えきろの鈴」著(5巻5冊/江戸出雲路和泉掾刊/道中記風の地誌)
- | | | |
|------------------|--------------------------|-----------|
| 左兵衛(さひょうえ・徳川) | → 治紀(はるとし・徳川、藩主/歌) | G 3 6 5 8 |
| 左兵衛(さひょうえ・伊達) | → 村望(むらもち・伊達/三沢、領主/詩文) | D 4 2 2 2 |
| 左兵衛(さひょうえ・金森) | → 重頼(しげより・金森かなもり、藩主/茶/歌) | O 2 1 0 7 |
| 左兵衛(さひょうえ・土岐) | → 朝直(ともなお・土岐とき、幕臣/弓術) | P 3 1 9 8 |
| 左兵衛(さひょうえ・三枝) | → 守繁(もりしげ・三枝さいぐさ、幕臣/国学) | K 4 4 0 2 |
| 左兵衛(さひょうえ・多賀) | → 秀種(ひでたね・多賀/堀、武将/日記) | D 3 7 1 6 |
| 左兵衛(さひょうえ・氷室) | → 民部(みんぶ・氷室ひむろ、神職) | G 4 1 8 6 |
| 左兵衛(さひょうえ・橋村) | → 正身(まさのぶ・橋村/度会、神職/神典) | F 4 0 6 9 |
| 左兵衛(さひょうえ・吉良) | → 義弥(よしみつ・吉良きら/源、幕臣/高家) | K 4 7 3 6 |
| 左兵衛(さひょうえ・前田) | → 安知(やすとも・前田まえだ/菅原、幕臣/歌) | E 4 5 8 1 |
| 左兵衛(さひょうえ・松本/大山) | → 為起(ためおき・大山/秦/松本、神職/国学) | S 2 6 3 6 |
| 左兵衛(さひょうえ・上野) | → 資郷(すけさと・上野うえの/伴、幕臣/歌人) | H 2 3 8 2 |
| 左兵衛(さひょうえ・森内) | → 繁富(しげとみ・森内、藩士/漢学/和算) | R 2 1 7 2 |
| 左兵衛(さひょうえ・榊原) | → 職尹(もとただ・榊原/源、幕臣/記録) | C 4 4 9 3 |
| 左兵衛(さひょうえ・福島) | → 満政(みつまさ・福島ふくしま、藩士/書簡) | E 4 1 8 8 |
| 左兵衛(さひょうえ・三浦) | → 瓶山(へいざん・三浦みうら、藩儒) | 2 7 3 9 |
| 左兵衛(さひょうえ・三宅) | → 椋園(しょうえん・三宅みやげ、儒家/詩歌) | H 2 2 3 0 |

左兵衛(さひょうえ・稲津) → 為実(ためざね・安藤、国学/歌人) G 2 6 8 6
 左兵衛(さひょうえ・長井) → 孔阜(こうふ・長井ながい、俳人) L 1 9 0 4
 左兵衛(さひょうえ・佐々木) → 定賢(さだかた・佐々木/六角、藩士/系図) H 2 0 9 6
 左兵衛(さひょうえ・渡辺) → 重豊(しげとよ・渡辺わたなべ、神職/歌人) R 2 1 7 6
 左兵衛(さひょうえ・安部) → 信貞(のぶさだ・安部あべ、藩士/国学) H 3 5 0 3
 左兵衛(さひょうえ・五富利) → 言足(延足のぶたり・五富利ごぶり、御師代官/国学) I 3 5 4 6
 左兵衛(さひょうえ・黒田) → 利章(としあき・黒田くろだ、藩士/国学) V 3 1 1 0
 佐兵衛(さひょうえ・平久間) → 盛章(もりあき・平久間ひらくま、狂歌/国学) L 4 4 1 4

左兵衛(さひょうえ) → 左兵衛(さへえ)を参照

左兵衛督(さひょうえのかみ・松平) → 信成(のぶしげ・松平まつだいら/藤原、藩主/歌) G 3 5 6 4

左兵衛督(さひょうえのかみ・井伊) → 直惟(なおのぶ・井伊い、藤原、歌人) K 3 2 9 8

左兵衛督(さひょうえのかみ・井伊) → 直中(なおなか・井伊い、藩主/歌人) B 3 2 9 1

左兵衛丞(さひょうえのじょう・伊勢) → 貞烈(さだつら・伊勢/平、故実家) I 2 0 6 9

左兵衛尉(さひょうえのじょう・賀茂) → 氏徳(うじのり・賀茂・西池、神職/日記) C 1 2 5 6

左兵衛尉(さひょうえのじょう・源) → 観空(かんくう・源光忠、浄土僧/画) Q 1 5 2 4

左兵衛尉(さひょうえのじょう・山本) → 宗恒(むねつね・山本やまもと/源、侍臣/笛) E 4 2 3 3

左兵衛佐(さひょうえのすけ・青山) → 忠高(ただたか・青山、藩主/藩校創設) P 2 6 7 4

左兵衛佐(さひょうえのすけ・安部) → 信貞(のぶさだ・安部あべ、藩士/国学) H 3 5 0 3

左兵衛大尉(さひょうえのだいじょう・河村) → 季興(すえおき・河村かわむら、尊攘) I 2 3 3 1

茶瓢軒(さひょうけん) → 調泉(ちようせん・茶瓢軒) J 2 8 2 8

左府(さふ・東山) → 実熙(さねひろ・洞院) D 2 0 5 5

左富(さふ・片岡) → 成斎(せいさい・片岡かたおか、家老/儒者) I 2 4 3 0

三ぶ(さふ・奈河) → 三ぶ(さんぶ・奈河/三好、歌舞伎作者) F 2 0 6 5

佐舞(さぶ・細川/加来) → 行孝室(ゆきたかのしつ・細川ほそかわ、藩主室/歌) E 4 6 6 7

D2081 左武喜(さぶき・北向きたむき)? - ? 狂歌スキヤ連、1785赤良「後万載集」1首:833
 [明け暮れにつみかさねたる車引身をうしとてや願ふ念仏](後万載; 釈教833)

左武次(さぶじ・藤林) → 保武(やすたけ・藤林、武芸者/忍術書編) B 4 5 8 9

D2082 左夫流児(さぶるこ、越中遊行女婦)?-? 万葉集家持歌・少咋を迷わす女:4108家持の歌中
 → 少咋(おくい・尾張連おわりのむらじ) 1 4 3 4

茶不老(さぶろう) → 鯨夫(いさお・木村きむら、商家/歌/神職) K 1 1 1 6

L2050 三郎(さぶろう・本庄/本莊ほんじょう、守正3男) 1807-6761 筑後上妻郡山内村の農家・造酒業の生、
 1823(17歳)兄星川と江戸の古賀侗庵門; 儒を修学/帰郷後は家業の農事・造酒に励む、
 外国の地理・軍事を研究/筑後久留米藩の殖産興業政策に協力; 製鉄・精糖・養蚕・植林等、
 1863久留米藩の浪人格; 下関四国艦隊砲撃に参加、「晴雨日記」著、武八郎の父、
 [三郎(; 通称)の名/号]名; 怨、号; 崎村きそん

D2083 三郎(さぶろう・藤井ふじ、方亭男) 1819-4830 加賀金沢藩士; 天文数理に精通、
 1840幕府天文台出役となる; 当分曆作御用出役を務む/1847天文方手伝、
 英文法の研究; 英文翻訳、1847「船砲新編」訳、48「英文範」著、「荷蘭紀略」編/「地震説」訳、
 [三郎(; 通称)の名/号]名; 質、号; 泉梁

L2051 三良(さぶろう・尾崎おさき、名; 盛茂、若林陸奥介盛之3男) 1842-191877 山城葛野郡西院村の勤王家、
 三条実美に出仕; 1863八月の政変に際し実美に随い長州入、命を受け国事奔走、
 1867頃坂本龍馬・中島信行と官制案を作成し岩倉具視に呈す、1868英国留学/太政官出仕、
 1867「尾崎三良ヨリ三条公ニ呈セシ書」著、
 [三良(; 通称)の別通称/号/変名]別通称; 捨三郎、号; 四寅居士/四虎山人、
 変名; 戸田雅楽た/小沢床次

三郎(さぶろう・観世) → 世阿彌(ぜあみ、名; 元清、能楽役/作者) 2 4 0 1

三郎(さぶろう・南部/波木井) → 実長(さねなが・波木井はきい、日円、武将/日蓮僧) L 2 0 1 2

三郎(さぶろう・鳥海とりうみ) → 宗任(むねとう・安倍あべ、武将/豪族) B 4 2 7 2

三郎(さぶろう・陸奥/新相模) → 時村(ときむら・北条/平、幕臣/歌人) K 3 1 1 2

三郎(さぶろう・北条) → 眞昭(しんしょう; 法諱、鎌倉幕臣/歌人) E 2 2 5 3

三郎(さぶろう・足利) → 義氏(よしうじ・足利/源、武将/幕臣/歌) C 4 7 1 9
 三郎(さぶろう・蜷川) → 親俊(ちかとし・蜷川/宮道、親孝の孫、幕臣/連歌) B 2 8 2 8
 三郎(さぶろう・茂木) → 持知(もちとも・茂木もてぎ/小田/源、武将/連歌) B 4 4 4 9
 三郎(さぶろう・細川) → 頼元(頼基よりもと・細川ほそかわ/源、武将/歌) 4 7 4 9
 三郎(さぶろう・伊勢) → 貞興(さだおき・伊勢いせ/平、武将) H 2 0 8 3
 三郎(さぶろう・伊勢) → 貞衡(さだひら・伊勢/平、幕臣/故実家) C 2 0 3 6
 三郎(さぶろう・児玉) → 旗山(きざん・児玉こだま、儒者/詩) K 1 6 6 6
 三郎(さぶろう・南部) → 利謹(としのり・南部なんぶ、有職故実) N 3 1 3 2
 三郎(さぶろう・観世) → 宗筋(そうせつ; 法名・観世大夫7世/元忠) C 2 5 3 4
 三郎(さぶろう・金剛) → 長能(ちやうのう・喜多きた、七大夫/能役者) J 2 8 6 5
 三郎(さぶろう・安田/山県) → 璣(たまき・山県、儒者) S 2 6 2 3
 三郎(さぶろう・沢田) → 眉山(びざん・沢田さわだ、藩儒/書/詩人) C 3 7 3 0
 三郎(さぶろう・湯川) → 安道(あんどう・湯川ゆかわ、幕府医官) G 1 0 2 0
 三郎(さぶろう・富田) → 育斎(いくさい・富田とみだ、藩士/儒医) E 1 1 2 1
 三郎(さぶろう・菅波/菅) → 自牧斎(じぼくさい・菅かん、儒者/詩文) V 2 1 7 6
 三郎(さぶろう・六角) → 氏頼(うじより・六角/佐々木、武将連歌) 1 2 5 9
 三郎(さぶろう・南摩) → 羽峯(うほう・南摩なんま、藩士/儒者) D 1 2 3 2
 三郎(さぶろう・島津) → 久光(ひさみつ・島津、領主/藩政実権) C 3 7 0 1
 三郎(さぶろう・榊原) → 守典(もりのり・榊原さかきばら/上田、儒者) G 4 4 2 5
 三郎(さぶろう・沢) → 熊山(ゆうざん・沢さわ、漢学/教育者) B 4 6 9 9
 三郎(さぶろう・狩野/岡田) → 為恭(ためちか・冷泉/岡田、絵師/歌) H 2 6 0 0
 三郎(さぶろう・押川/武井) → 周発(しゅうはつ・武井たけい、藩絵師) Y 2 1 2 3
 三郎(さぶろう・田中/大滝) → 光憲(みつあきら・大滝/田中、商家/国学) E 4 1 4 8
 三郎(さぶろう・佐久良乃屋) → 紫峰(しほう・柳原/小西/柳、国学者) V 2 1 6 9
 三郎(さぶろう・三島; 変名) → 通桓(みちたけ・河野/甲田、医者/勤王) B 4 1 7 5
 三郎(さぶろう・中瀬) → 米牛(べいぎゅう・中瀬なかせ、俳人/教育) 2 7 2 0
 三郎(さぶろう・衣川きぬがわ) → 広滋(ひろしげ・衣川/桐林、藩士/国学) G 3 7 0 0
 三郎(さぶろう・神道) → 清臣(きよおみ・佐藤/高橋/大関、国学) O 1 6 6 6
 三郎(さぶろう・横山) → 隆章(たかあきら・横山、藩家老/記録) L 2 6 5 2
 三郎(さぶろう・児島/佐々木) → 高成(たかなり・佐々木/児島/源、神道) M 2 6 6 3
 三郎(さぶろう・斎藤) → 赤城(せきじょう・斎藤さいとう、儒者/教育) K 2 4 2 2
 三郎(さぶろう・山田) → 三川(さんせん・山田やまだ、儒者/詩人) G 2 0 1 7
 三郎(さぶろう・木村) → 松陵(しょうりょう・木村、儒者/藩政) L 2 2 9 5
 三郎(さぶろう・伊東) → 祐命(すけのみこと・伊東/藤原、藩士/歌人) C 2 3 1 3
 三郎(さぶろう・河野) → 静山(せいざん・河野こうの/越智、儒者) I 2 4 5 1
 三郎(さぶろう・中村) → 栗園(りつえん・中村/片山、藩儒/執政) B 4 9 5 9
 三郎(さぶろう・小橋) → 武磨(武麻呂たけまる・小橋こばし、神職/歌) V 2 6 1 6
 三郎(さぶろう・立川) → 従(まさる・立川たつかわ/たち-、心学/歌人) Q 4 0 8 5
 三郎(さぶろう・葦名) → 盛倫(もりとも・葦名あしな、邑主/国学) J 4 4 0 8
 三郎(さぶろう・岩井田) → 尚徳(ひさのり・岩井田いわいだ、神職/国学) I 3 7 5 5
 三郎(さぶろう・井上) → 素良(もとよし・井上/藤原/梯、藩士/国/史学) J 4 4 1 4
 三郎(さぶろう・原田) → 重方(しげかた・原田はらだ、神職/勤王家) Q 2 1 7 6
 三郎(さぶろう・兼松) → 石居(せききよ・兼松かねまつ、藩/儒/教育) D 2 4 4 0
 三郎(さぶろう・桐林) → 広滋(ひろしげ・桐林きりばやし、国学者) J 3 7 3 1
 三郎(さぶろう・近藤) → 清臣(きよおみ・近藤こんどう/小林、国学/歌) U 1 6 3 7
 三郎(さぶろう・鍋島) → 春城(はるき・鍋島なべしま/藤原、詩歌) K 3 6 5 1
 三郎(さぶろう・藤本) → 千里(ちさと・藤本ふじもと/原、国学/歌) N 2 8 4 1
 三郎(さぶろう・藤田) → 克友(かつとも・藤田ふじた/田村、国学) V 1 5 5 5
 三郎(さぶろう・堀口) → 貞国(さだくに・堀口ほりぐち、国学者) P 2 0 3 2
 三郎(さぶろう・古川) → 豊彭(とよちか・古川ふるかわ/前田、神職) W 3 1 2 8

- 三郎(さぶろう・山県) → 有稔(ありとし・山県やまがた/中村、藩士/国学) I 1 0 6 4
 左武郎(さぶろう・五十川) → 詡堂(じんどう・五十川いそかわ、儒者/教育) P 2 2 4 8
- D2084 三郎右衛門(さぶろうえもん・川角かわすみ)?-? 豊臣秀吉家臣田中吉政に出仕、
 1621-24頃軍記「川角太閤記」著(秀吉一代の行状の聞書)
- F2066 三郎右衛門(さぶろうえもん・池田いけだ)?-? 大阪の書肆/17c後半・浮世草子・節用集刊行
- 三郎衛門(さぶらえもん・湯田) → 眞垣(まがき・湯田ゆた、国学者/歌人) T 4 0 6 3
 三郎右衛門(さぶらうえもん・小笠原) → 長昌(ながまさ・小笠原、藩士/日記) F 3 2 7 5
 三郎右衛門(さぶらうえもん・淀屋/岡本) → 个庵(こあん・淀屋、商家/歌/連歌) H 1 9 0 3
 三郎右衛門(さぶらうえもん・北村) → 宗甫(そうほ・北村きたむら、藩士/連歌) I 2 5 8 6
 三郎右衛門(さぶらうえもん・土橋) → 良恵(りょうけい・土橋、商家/連歌) H 4 9 2 2
 三郎右衛門(さぶらうえもん・笹屋) → 遅望(ちぼう・辻、笹屋、俳人) F 2 8 3 6
 三郎右衛門(さぶらうえもん・伊勢屋) → 丁知(ていぢ・村林/高柳、札差/俳人) 3 0 4 4
 三郎右衛門(さぶらうえもん・阿部) → 遂良(やすよし・阿部あべ、幕臣/歌人) E 4 5 8 0
 三郎右衛門(さぶらうえもん・桜山) → 典直(のりなお・桜山さくらやま、国学者) F 3 5 3 0
 三郎右衛門(さぶらうえもん・広瀬) → 桃秋(とうしゅう・広瀬、商/俳人、淡窓父) E 3 1 9 4
 三郎右衛門(さぶらうえもん・正木) → 梅谷(ばいこく・正木まさき、儒者) B 3 6 2 4
 三郎右衛門(さぶらうえもん・猪飼) → 敬所(けいしょ・猪飼いかい、儒者) 1 8 7 3
 三郎右衛門(さぶらうえもん・山鹿) → 義甫(よしすけ・山鹿やまが、藩士/兵学) D 4 7 7 9
 三郎右衛門(さぶらうえもん・川口) → 信之(のぶゆき・川口かわぐち、幕臣/国学) H 3 5 9 9
 三郎右衛門(さぶらうえもん・本多) → 利明(としあき・本多/本田、経世家) L 3 1 9 9
 三郎右衛門(さぶらうえもん・鷹見) → 星臯(せうざい・鷹見、藩士/儒/詩) B 2 4 4 5
 三郎右衛門(さぶらうえもん・柏崎) → 永以(えいい・柏崎かしわざき、国学者) B 1 3 8 9
 三郎右衛門(さぶらうえもん・塩飽屋) → 安材(やすき・平松ひらまつ、商家/歌人) G 4 5 4 9
 三郎右衛門(さぶらうえもん・宮崎屋) → 永俊(ながとし・井上いづえ、商家/歌人) L 3 2 0 3
 三郎右衛門(さぶらうえもん・宮崎屋) → 常之(つねゆき・井上/小原、端木/商家/歌/画) E 2 9 1 5
 三郎右衛門(さぶらうえもん・松野) → 清邦(きよくに・松野まつの、藩士/詩) P 1 6 3 0
 三郎右衛門(さぶらうえもん・久米) → 駿公(しゅんこう・久米/靱山、藩士) M 2 1 8 0
 三郎右衛門(さぶらうえもん・井上) → 秀栄(しゅうえい・井上、幕臣/記録) W 2 1 6 6
 三郎右衛門(さぶらうえもん・石井) → 英純(ひでずみ・石井いし、州吏/軍学者) L 3 7 1 7
 三郎右衛門(さぶらうえもん・伊能) → 忠敬(ただたか・伊能、商家/測量図) F 2 6 2 5
 三郎右衛門(さぶらうえもん・西村) → 広休(ひろよし・西村、商家/本草家) H 3 7 7 2
 三郎右衛門(さぶらうえもん・高島/宇留野/山野辺) → 江南(こうなん・田中/田でん、儒/医/投壺) G 1 9 4 3
 三郎右衛門(さぶらうえもん・柴屋) → 荷豆(かとう・加藤、商家/俳人) O 1 5 1 7
 三郎右衛門(さぶらうえもん・大井) → 満郷(みつさと・大井おおい、幕臣/国学) I 4 1 3 2
 三郎右衛門(さぶらうえもん・岡) → 矩清(のりきよ・岡おか/曾根、歌人) H 3 5 7 9
 三郎右衛門(さぶらうえもん・大野) → 正盛(まさもり・大野おおの、庄屋/歌人) O 4 0 3 9
 三郎右衛門(さぶらうえもん・小松) → 有隣(ありちか・小松こまつ、名主/歌人) H 1 0 5 0
 三郎右衛門(さぶらうえもん・馬場) → 信祥(のぶよし・馬場ばば、幕臣/和学者) J 3 5 5 8
 三郎右衛門(さぶらうえもん・日下部) → 令文(よしふみ・日下部くさかべ、藩士/国学) M 4 7 5 3
 三郎右衛門(さぶらうえもん・賀集) → 惟一(これかず・賀集かしお、製陶/国学) Q 1 9 6 1
 三郎右衛門(さぶらうえもん・城戸) → 正竊(まさたか・城戸きど、庄屋/国学/歌) P 4 0 2 0
 三郎右衛門尉(さぶらうえもんのじょう・財部) → 俊賀(としよし・財部たからべ、武士/連歌) O 3 1 1 9
 三郎右衛門尉(さぶらうえもんのじょう・梅野) → 吉仍(よしあつ・梅野とがの、武家/歌・連歌) C 4 7 0 8
 三郎右衛門尉(さぶらうえもんのじょう・志野) → 宗信(そうしん・志野/篠、香道志野流祖) I 2 5 0 2
 三郎右衛門尉(さぶらうえもんのじょう・長野) → 野虹(やこう・長野ながの、庄屋/俳人) 4 5 5 6
 三郎九郎(さぶらうくろう・山村) → 良景(たかかげ・山村やまむら、藩士/代官) L 2 6 6 7
 三郎九郎(さぶらうくろう・山村) → 良喬(たかてる・山村やまむら、藩代官/俳人) M 2 6 3 4
 三郎九郎(さぶらうくろう・山村) → 良祺(たかのり・山村、良喬男、藩代官/儒/教育) M 2 6 7 8
 三郎五郎(さぶらうごろう・亀田/春木) → 房光(ふさみつ・春木/度会、神職/国学) C 3 8 2 7

- D2085 **三郎左衛門** (さぶろうざえもん・安達) ?-? 江中期上方の歌舞伎役者/作者:
元禄初1688-頃より大坂で立役/宝永1704-11頃より京で活動;親仁方風の役も演ず、
1704-19頃作者も兼ねる、1705「けいせい因幡松」07「石山寺誓の湖」08「閏正月吉書始」、
1716「けいせい雄床山」18「傾城千人枕」19「成相観音縁起」、「西行歌枕」外作品多数
- D2086 **三郎左衛門** (さぶろうざえもん・佐渡島さどしま) ?-? 江前中期1688-1736頃京の歌舞伎役者/作者:
初め役者;舞踊家佐渡志摩流祖の佐渡島伝八門?/京で立役、のち京万太郎座の座付作者、
1708「傾城暁の鐘」09「いづみ式部千人男」14「万代幸福蔵」15「粟島金龍滝」、
1716「大湊百軒蔵」21「津国女夫池」33「一体分身曾我」35「小野篁千本扇」外作品多数、
- 三郎左衛門 (さぶろうざえもん・志野) → 宗信(そうしん・志野/篠、香道志野流祖) I 2 5 0 2
 三郎左衛門 (さぶろうざえもん・小串) → 秀行(ひでゆき・小串おぐし/こぐし/藤原、歌人) E 3 7 0 2
 三郎左衛門 (さぶろうざえもん・山村) → 蘇門(そもん・山村良由たかよし、家老/儒詩) E 2 5 4 3
 三郎左衛門 (さぶろうざえもん・谷) → 時中(じちゅう・谷たに、僧/儒者/南学) E 2 1 5 9
 三郎左衛門 (さぶろうざえもん・桂山) → 彩巖(さいがん・桂山かつらやま、幕府儒官) 2 0 0 2
 三郎左衛門 (さぶろうざえもん・桂) → 南野(なんや・桂かつら、藩士/儒者) 3 2 4 1
 三郎左衛門 (さぶろうざえもん・沢田) → 由健(ゆうけん・沢田さわだ、俳人) B 4 6 4 0
 三郎左衛門 (さぶろうざえもん・松平) → 康済(やすずみ・松平まつだいら、幕臣・和学) G 4 5 7 2
 三郎左衛門 (さぶろうざえもん・松平) → 康共(やすとも・松平、康済男/幕臣/和学) G 4 5 7 3
 三郎左衛門 (さぶろうざえもん・加賀屋) → 似春(じしゅん・小西、俳人) E 2 1 0 0
 三郎左衛門 (さぶろうざえもん・灰屋はいや) → 紹益(じょうえき・佐野/本阿弥、商家/歌) F 2 2 4 6
 三郎左衛門 (さぶろうざえもん・下野屋) → 喜寛(よしひろ・海老原えびはら、商家/歌人) Q 4 7 4 6
 三郎左衛門 (さぶろうざえもん・佐久間) → 柳居(りゅうきよ・佐久間、幕臣/俳人) D 4 9 3 3
 三郎左衛門 (さぶろうざえもん・山村) → 良喬(たかてる・山村、蘇門の養子/藩代官/俳人) M 2 6 3 4
 三郎左衛門 (さぶろうざえもん・山村) → 良祺(たかのり・山村、良喬男、藩代官/儒/教育) M 2 6 7 8
 三郎左衛門 (さぶろうざえもん・宇都宮) → 国綱(くにつな・宇都宮、武将/記録) C 1 7 8 9
 三郎左衛門 (さぶろうざえもん・常世田) → 長世(ながよ・常世田とこよだ、国学者) N 3 2 9 9
 三郎左衛門 (さぶろうざえもん・富田) → 弘実(ひろざね・富田とみだ、藩士/兵法) H 3 7 8 1
 三郎左衛門 (さぶろうざえもん・沢口) → 一之(いっし・かづゆき・沢口、和算家) B 1 1 4 4
 三郎左衛門 (さぶろうざえもん・大板屋) → 蕉雨(しょうう・櫻井、商家/俳人) F 2 2 3 0
 三郎左衛門 (さぶろうざえもん・佐橋) → 佳清(よしきよ・佐橋さし、幕臣/国学) N 4 7 1 5
 三郎左衛門 (さぶろうざえもん・田住) → 貞義(さだよし・田住/別所、大庄屋/地誌) K 2 0 2 6
 三郎左衛門 (さぶろうざえもん・高島/宇留野/山野辺) → 江南(こうなん・田中/田でん、儒/医/投壺) G 1 9 4 3
 三郎左衛門 (さぶろうざえもん・若林) → 靖亭(せいいてい・若林友輔、藩士/詩人) J 2 4 2 6
 三郎左衛門 (さぶろうざえもん・松平) → 隆任(たかとう・松平、幕臣/歌人) D 2 6 1 1
 三郎左衛門 (さぶろうざえもん・浦野) → 孝正(たかまさ・浦野うらの、国学/歌人) V 2 6 8 8
 三郎左衛門 (さぶろうざえもん・尾崎) → 義正(よしまさ・尾崎おさき、和漢学/教育) L 4 7 9 0
 三郎左衛門尉 (さぶろうざえもんのじょう・島津) → 氏久(うじひさ・島津、武将/馬術) C 1 2 6 3
 三郎左衛門尉 (さぶろうざえもんのじょう・島津) → 忠良(ただよし・島津、武将/いろは歌) G 2 6 0 5
 三郎左衛門尉 (さぶろうざえもんのじょう・島津) → 貴久(たかひさ・島津、忠良男/武将) M 2 6 9 5
 三郎左衛門尉 (さぶろうざえもんのじょう・島津) → 義久(よしひさ・島津、貴久男/武将/連歌) G 4 7 2 7
- L2052 **三郎治** (三郎次さぶろうじ・津打つうつ/つうち) ?-? 江中期江戸歌舞伎作者:2世津打治兵衛門門、
1754二枚目格作者、江戸森田座・中村座で活動、1754「鬼一法眼指南車」58「赤沢源氏山」、
1761「間山女敵討」「入間川男寸雅籬」/63「梅水仙伊豆入船」65「天津風念力曾我」外作多数、
- 三郎治 (さぶろうじ・青山) → 枇杷麿(枇杷丸びわまる・青山堂、書肆/狂歌) 3 7 3 2
 三郎次 (さぶろうじ・藤川) → 貞富(さだとみ・藤川ふじかわ、国学/歌) P 2 0 2 5
 三郎次 (さぶろうじ・湯田) → 貞垣(まがき・湯田ゆた、国学者/歌人) T 4 0 6 3
 三郎四郎 (さぶろうしろう・尼子) → 晴久(はるひさ・尼子あまこ、武将/連歌) G 3 6 7 2
 三郎四郎 (さぶろうしろう・有沢) → 命貞(のりさだ・有沢、藩士/軍学者) E 3 5 5 6
 三郎四郎 (さぶろうしろう・中島) → 宣光(のぶみつ・中島なかじま、大庄屋/歌人) J 3 5 3 6
 三郎次郎 (さぶろうじろう・松平) → 康盛(やすもり・松平まつだいら、幕臣) E 4 5 6 5
 三郎次郎 (さぶろうじろう・松平) → 康兆(やすよし・松平まつだいら、幕臣) D 4 5 5 1

- 三郎次郎(さぶろうじろう・松平)→ 義堯(よしとか・松平まつだいら、幕臣) D 4 7 9 9
 三郎次郎(さぶろうじろう・松平)→ 義亮(よしすけ・松平まつだいら/源、幕臣/歌) P 4 7 1 5
 三郎助(さぶろうすけ・反町)→ 谷峨(初世こくが・梅暮里うめぼり、洒落/人情本) 1 9 2 6
 三郎助(さぶろうすけ・三井)→ 高治(たかはる・三井・3代八郎右衛門、商家) M 2 6 9 1
 三郎助(さぶろうすけ・三井)→ 高房(たかふさ・三井、4代八郎右衛門、商家) D 2 6 6 7
 三郎助(さぶろうすけ・三井)→ 牧山(ぼくざん・三井みつゐ、詩人) G 3 9 4 0
 三郎助(さぶろうすけ・野中/田辺)→ 築斎(らくさい・田辺/野中、藩儒) B 4 8 1 3
 三郎助(さぶろうすけ・荒巻)→ 竹茂(ちくも・荒巻あまき、商家/俳人) D 2 8 7 9
 三郎助(さぶろうすけ・河崎)→ 致高(むねたか・河崎かわさき、藩士/国学/歌) D 4 2 7 2
 三郎介(さぶろうすけ・大原/望月)→ 千之(せんし・望月/大原、商家/俳人) F 2 4 6 5
 三郎介(さぶろうすけ・大野)→ 義房(よしふさ・大野わおおの、藩士/歌人) L 4 7 9 8
 三郎大夫(さぶろうだいはつ・筒見)→ 貞温(さだあつ・筒見つみ/藤原、藩士/歌) N 2 0 2 3
 三郎太夫(さぶろうだゆう・杉浦)→ 正景(まさかげ・杉浦、藩士/剣術家) B 4 0 7 1
 三郎太夫(さぶろうだゆう・慶徳)→ 家義(いえよし・慶徳けいとく/秦、歌人) K 1 1 2 4
 三郎太夫(さぶろうだゆう・片桐)→ 栄久(ひでひさ・片桐かたぎり/源、国学者) J 3 7 0 4
 三郎太夫(さぶろうだゆう・慶徳)→ 家雅(いえまさ/いえただ・慶徳けいとく/笠井、神職/歌俳) D 1 1 3 2
 三郎太夫(さぶろうだゆう・鎌田)→ 魚妙(なたえ・鎌田、藩士/刀剣鑑定) G 3 2 6 4
 三郎太郎(さぶろうたろう・河津)→ 祐邦(すけくに・河津かわづ/藤原、幕臣/奉行) H 2 3 9 5
 三郎入道(さぶろうにゅうどう)→ 眞昭(しんしょう; 法諱、鎌倉幕臣/歌人) E 2 2 5 3
 三郎八(さぶろうはち・魚住)→ 明誠(あきのみ・魚住うねずみ、藩士/国学) H 1 0 1 1
- L2053 三郎兵衛(さぶろうひょうえ・辻つじ)?-? 江後期紀伊藩士、故実研究、
 藩主の登営・仏参等の装束・色目などを宇治田左衛門に聞書、「有職小録」
 三郎兵衛(さぶろうひょうえ・岡部)→ 政長(まさなが・岡部おかべ/賀茂、藩士/歌) F 4 0 2 5
 三郎平(さぶろべい・富田)→ 育斎(いくさい・富田とみだ、藩士/儒医) E 1 1 2 1
 三郎平(さぶろべい・川中)→ 庸平(つねひら・川中かわなか、国学者) F 2 9 5 6
 三郎平(さぶろべい・末松)→ 則安(のりやす・末松すえまつ、里正/国学) I 3 5 7 2
- D2087 三郎兵衛(さぶろべえ・吉田、文三郎父)?-1747 浄瑠璃・大阪竹本座の立役人形師、
 初世竹本三郎兵衛と同一か? → 三郎兵衛(初世さぶろべえ・竹本) D 2 0 7 7
- F2067 三郎兵衛(さぶろべえ・山田やまだ、向栄堂)?-? 京の書肆; 1751「唐本類書考」(: 二酉洞増訂)
- D2077 三郎兵衛(初世さぶろべえ・竹本たけもと)?-? 浄瑠璃作者、
 大阪竹本座の人形遣吉田三郎兵衛と同一か?
 → 三郎兵衛(さぶろべえ・吉田、文三郎父) D 2 0 8 7
- D2088 三郎兵衛(2世さぶろべえ・竹本たけもと、竹本義太夫男or孫)?-? 浄瑠璃作者: 初世竹田出雲門、
 竹本座の院本作者; 近松半二・三好松洛らと合作、大阪で並木十輔らと歌舞伎制作、
 1771豊竹座で立作者、1759「太平記菊水之巻」60「極彩色娘扇」64「傾城阿古屋の松」、
 1766「本朝廿四孝」69「近江源氏先陣館」71「角額嫉蛇柳」72「艶容女舞衣」外作品多数
- D2089 三郎兵衛(3世さぶろべえ・竹本たけもと、本名; 富田市右衛門)?-? 大阪島内の茶屋の生、歌舞伎作者、
 初世三郎兵衛の別家筋、京諸座で浄瑠璃/歌舞伎作者、1785「けいせい天の橋立」作、
 1785「仮名双紙女大学」88「言時花女夫振袖」90「今様糸の調」92「色競続箭戦」外作品多数
- 三郎兵衛(さぶろべえ・佐々木)→ 秀乗(ひでのり・佐々木、兵法家) D 3 7 6 0
 三郎兵衛(さぶろべえ・熊谷)→ 遊節(ゆうせつ・滝田たきた、兵法家) D 4 6 1 0
 三郎兵衛(さぶろべえ・国重)→ 政恒(まさつね・国重くにしげ、藩士) E 4 0 0 6
 三郎兵衛(さぶろべえ・高岡)→ 斜嶺(しゃれい・高岡たかおか、藩士/俳人) G 2 1 6 3
 三郎兵衛(さぶろべえ・本保)→ 長益(ながます・本保ほんぼ、藩士/詩人) F 3 2 8 1
 三郎兵衛(さぶろべえ・灰屋はいや)→ 紹益(じょうえき・佐野/本阿弥、商家/歌) F 2 2 4 6
 三郎兵衛(さぶろべえ・薄田/橋)→ 以貞(もちさだ・薄田すすきだ/橋/常磐木、神道/兵法) B 4 4 3 9
 三郎兵衛(さぶろべえ・服部)→ 保昌(やすまさ・服部はっとり、幕臣/和学) G 4 5 4 2
 三郎兵衛(さぶろべえ・板原)→ 宗朋(そうほう・柏原、俳人/狂歌) C 2 5 9 2
 三郎兵衛(さぶろべえ・三井)→ 高治(たかはる・三井・3代八郎右衛門、商家) M 2 6 9 1
 三郎兵衛(さぶろべえ・磯辺: 変名)→ 多一郎(たいちろう・高橋、尊攘家) K 2 6 6 5

三郎兵衛(さぶろべえ・小寺)→ 信正(のぶまさ・小寺、兵学/郷土史) D 3 5 3 0
 三郎兵衛(さぶろべえ・正木)→ 梅谷(ばいこく・正木まさき、藩士/儒者) B 3 6 2 4
 三郎兵衛(さぶろべえ・津村)→ 涼庵(そうあん・津村/円、商家/随筆/歌) 2 5 4 7
 三郎兵衛(さぶろべえ・桂山)→ 彩巖(さいがん・桂山かつらやま、幕府儒官) 2 0 0 2
 三郎兵衛(さぶろべえ・塩屋/陰山)→ 白縁斎梅好(はくえんさいばいこう、書肆/狂歌) C 3 6 7 0
 三郎兵衛(さぶろべえ・塩屋/陰山)→ 寿好(じゅこう・玉縁斎、白縁斎男/書肆/狂歌) I 2 1 6 7
 三郎兵衛(さぶろべえ・田中)→ 玄宰(はるなか・田中、藩家老/儒/歌) G 3 6 6 2
 三郎兵衛(さぶろべえ・成田;通称)→ 一雪(いっせつ・椋梨、俳人/実録) B 1 1 5 4
 三郎兵衛(さぶろべえ・荒井)→ 一掌(いっしょう・荒井あらい、茶人) H 1 1 3 4
 三郎兵衛(さぶろべえ・上島)→ 鬼貫(おにつら・上島うえじま/平泉、俳人) 1 4 2 4
 三郎兵衛(さぶろべえ・西田)→ 元知(げんち・西田にしだ、俳人) F 1 8 1 3
 三郎兵衛(さぶろべえ・中川)→ 宗瑞(初世そうずい・中川、両替商/俳人) C 2 5 2 5
 三郎兵衛(さぶろべえ・水野)→ 義風(よしかぜ・水野みずの、藩士/歌人) C 4 7 5 9
 三郎兵衛(さぶろべえ・梶原)→ 景惇(かげあつ・梶原、商家/和漢学) B 1 5 8 1
 三郎兵衛(さぶろべえ・佐瀬)→ 主計(かずえ・佐瀬させ/させ、藩家老/狂歌) M 1 5 0 9
 三郎兵衛(さぶろべえ・市野)→ 東谷(とうこく・市野いちの、商家/儒者) E 3 1 0 8
 三郎兵衛(さぶろべえ・井沢)→ 強斎(きょうさい・井沢いざわ、儒者) N 1 6 8 0
 三郎兵衛(さぶろべえ・辻)→ 三郎兵衛(さぶろうびょうえ・辻、藩士/故実) L 2 0 5 3
 三郎兵衛(さぶろべえ・鷹見)→ 爽鳩(そうきゅう・鷹見/鷹、家老/儒者) B 2 5 0 3
 三郎兵衛(さぶろべえ・解良)→ 栄重(よししげ・解良けら、国学者) D 4 7 6 7
 三郎兵衛(さぶろべえ・山路)→ 忠珍(ただたか・山路やまぢ、国学/歌人) U 2 6 6 1
 三郎兵衛(さぶろべえ・反町)→ 谷峨(初世こくが・梅暮里うめぼり、洒落/人情本) 1 9 2 6
 三郎兵衛(さぶろべえ・天野)→ 康隆(やすたか・天野あまの、幕臣/歌人) F 4 5 1 8
 三郎兵衛(さぶろべえ・磯谷)→ 泰隆(やすたか・磯谷いそがや/加藤、幕臣/国学) F 4 5 2 9
 三郎兵衛(さぶろべえ・藤田/栗田)→ 高伴(たかとも・栗田/藤田/大林、歌人) D 2 6 2 4
 三郎兵衛(さぶろべえ・奥平)→ 貞胤(さだたね・奥平おくだいら、家老/歌人) O 2 0 2 2
 三郎兵衛(さぶろべえ・富永)→ 謙斎(けんさい・富永仲基、思想家) E 1 8 8 3
 三郎兵衛(さぶろべえ・熊谷)→ 令徳(よしのり・熊谷くまがい/宮崎、藩士/歌) M 4 7 5 9
 三郎兵衛(さぶろべえ・砂沢)→ 定栄(さだひで・砂沢すなざわ、藩士/歌人) O 2 0 1 6
 三郎兵衛(さぶろべえ・砂沢)→ 為胤(ためたね・砂沢、定栄男/藩士/歌) W 2 6 1 9
 三郎兵衛(さぶろべえ・柳屋)→ 風外(ふうがい、俳人) H 3 8 6 5
 三郎兵衛(さぶろべえ・色川)→ 三中(さんちゅう・色川、商家/国学者) G 2 0 0 3
 三郎兵衛(さぶろべえ・久保)→ 寛住(ひろずみ・久保くぼ、国学者/歌人) J 3 7 3 4
 三郎兵衛(さぶろべえ・大黒屋)→ 定豪(さだかつ・富山とみやま、商家/歌人) O 2 0 8 9
 三郎兵衛(さぶろべえ・木下)→ 光忠(みつただ・木下きのした、商家/歌人) I 4 1 7 9
 三郎兵衛(さぶろべえ・越野)→ 守任(もりとう・越野こしの/吉田、商家/歌) J 4 4 9 9
 三郎兵衛(さぶろべえ・井狩)→ 惇義(あつよし・井狩いかり、商家/国学・歌) G 1 0 9 3
 三郎兵衛(さぶろべえ・佐々木)→ 薫綱(しげつな・佐々木ささき、藩士/国学) O 2 1 5 1
 三郎兵衛(さぶろべえ・佐伯)→ 成美(しげよし・佐伯さえき、藩士/国学) O 2 1 4 9
 三郎兵衛(さぶろべえ・渡辺)→ 通朝(みちとも・渡辺わたなべ、国学/歌人) K 4 1 9 8
 三郎兵衛(さぶろべえ・藤川)→ 貞富(さだとも・藤川ふじかわ、国学/歌) P 2 0 2 5
 佐分(さぶん・平、佐介) → 親清女(ちかきよのむすめ・平たいら、相模七郎の妻、歌) 2 8 8 1
 砂文(さぶん・中江) → 千別(ちわけ・中江、国学者) J 2 8 5 5
 左文太(さぶんた・椿) → 正静(まさしず・椿つばき、神職/国学/歌) Q 4 0 9 7

L2054 佐平(さへい・浅野屋あさのや、塩屋次左衛門2男) 1814-65 獄死 52 加賀金沢の扇商の生、
 浅野屋の養子、国学者;田中躬之・賀茂季鷹・穂井田忠友・河北真彦門、国書典故に精通、
 金沢町会所横目肝煎兼通送方として在京;福岡惣助ら勤王派と交流;捕縛;獄死、
 「茂枝雑抄」編、1838-53「諸事意保栄」著、
 [佐平(;通称)の幼名/名/別通称/号]幼名;勘三郎、名;茂枝しげえ/茂幹しげもと/茂身/持枝/持江、
 別通称;策平/策柄、号;麻舎あさのや/藻干、屋号;浅野屋、法号;釈楽信

左平(鎖平さへい・井上) → 赤水(せきすい、井上/修姓;井、儒者) K 2 4 2 3
 左平(さへい・藤田) → 貞幹(さだもと・藤田ふじた、藩士/歌人) P 2 0 8 6
 左平(さへい・伊勢屋) → 隣春(ちかはる・福島/藤原、商家/絵師) B 2 8 6 6
 左平(さへい・北川) → 善淵(よしふか・北川きたがわ、藩士/歌人) G 4 7 7 9
 左平(さへい・三宅) → 樅台(しょうだい・三宅みやげ、儒者/詩文) U 2 2 0 7
 左平(さへい・近松/変名) → 頼該(よりかね・松平、藩士/宗教家) I 4 7 5 4
 左平(さへい・青木) → 典則(つねのり・青木あおき、里正/国学/画) F 2 9 1 1
 佐平(さへい・稲垣) → 定毅(ていこく・稲垣、蘭学/暦算) 3 0 7 4
 佐平(さへい・青木) → 木米(もくべい・青木あおき、陶工) B 4 4 1 0
 佐平(さへい・黒瀬) → 正親(まさちか・黒瀬くろせ/秦、神職/絵師) P 4 0 5 4
 佐平(さへい・宮負) → 定雄(やすお・宮負みやおい、名主/農政) B 4 5 0 2
 佐平(さへい・川田) → 資始(すけもと・川田かわだ、藩士/国学者) I 2 3 2 7
 佐平(さへい・向坂) → 友成(ともなり・向坂ささか、歌人) V 3 1 3 6

D2090 佐平次(さへいじ・小島/小嶋こじま;号)?-? 江前期;初期の浄瑠璃作者(;岡清兵衛と並ぶ)、
 1660「箱根山合戦」作(江戸の薩摩太夫直政正本)

左平二(さへいじ・浜中/五味) → 李峰(りほう・宮本/五味/浜中、俳人) C 4 9 5 2
 左平次(さへいじ・得能) → 通昭(みちあき・得能とくのう、藩士/歌人) B 4 1 0 6
 左平治(左平次さへいじ・羽黒) → 養潜(ようせん・羽黒はぐろ/牧野、儒者) B 4 7 3 5
 左平治(さへいじ・植村) → 政勝(まさかつ・植村、本草家/採薬) C 4 0 0 9
 左平治(さへいじ・岡見) → 知愛(ともなる・岡見おかみ、藩士/地誌) Q 3 1 1 0
 佐平次(さへいじ・荒巻) → 助然(じょねん/じょぜん・荒巻あらまき、俳人) C 2 2 8 8
 佐平次(さへいじ・近江屋) → 景舎(けいしゃ・近江屋おうみや、札差) F 1 8 9 2
 佐平次(さへいじ・木村) → 実房(さねふさ・木村きむら、国学者) L 2 0 2 9
 三平治(さへいじ・梅村) → 重操(しげあや・梅村うめむら、藩士/和算家) Q 2 1 5 6

L2057 佐平太(さへいた・川村かわむら)? - ? 江戸期南部盛岡の人、「百姓用向」著

左平太(さへいた・中川) → 重興(しげおき・中川ながわ/源/村上、武術/歌) a 2 1 2 0
 左平太(さへいた・谷) → 寛得(ひろのり・谷たに、儒者) G 3 7 9 1
 左平太(さへいた・島川) → 秀邦(ひでくに・島川しまかわ/倉田、藩士/和漢学) J 3 7 7 8

L2055 左兵衛(さへえ・内藤ないとう、名;貞正/幹年、貞幹男) 1791-1863 73 長門萩藩士;1822密用方、
 1842江戸方右筆/目付役/山代代官/海防手当掛/江戸洋所役/郡奉行/表番頭格当役用談役、
 兵制儉政に尽力/1862致仕、1853「黒船渡来大森出張一件」著、
 [左兵衛(;通称)の別通称] 市之進/左平/兵衛

L2056 佐兵衛(さへえ・山城屋やましるや、姓;稲田・西村)?-? 江後期江戸日本橋二丁目の、
 1863「玉山堂製本書目」著、

[佐兵衛(;通称)の号] 号;玉山堂、屋号;山城屋
 左兵衛(さへえ・正木;変名) → 政重(まさしげ・本多/倉橋/直江、藩国老) C 4 0 6 9
 左兵衛(さへえ・栗原) → 信晁(のぶあき・栗原くりはら、幕臣/画) 3 5 8 2
 左兵衛(さへえ・神田) → 蝶々子(ちようちようし・神田/平野、俳人) J 2 8 4 7
 左兵衛(さへえ・国分) → 威胤(たけたね・国分こくぶ、藩士/儒/詩人) O 2 6 4 3
 左兵衛(さへえ・森内) → 繁富(しげとみ・森内、藩士/漢学/和算) R 2 1 7 2
 左兵衛(さへえ・佐々木) → 定賢(さだかた・佐々木/六角、藩士/系図) H 2 0 9 6
 左兵衛(さへえ・前田) → 安知(やすとも・前田まえだ/菅原、幕臣/歌) E 4 5 8 1
 左兵衛(さへえ・前田) → 安敬(やすたか・前田まえだ/菅原、幕臣/歌) E 4 5 8 2
 左兵衛(さへえ・武市) → 蓼花(りょうか・太田/武市、藩士/俳人) G 4 9 6 7
 左兵衛(さへえ・倉鹿野) → 義文(よしふみ・倉鹿野くらかの、与力/歌) G 4 7 8 3
 左兵衛(さへえ・橋村) → 正令(まさのり・橋村/度会、神職/和漢/書) R 4 0 7 2
 左兵衛(さへえ・大石) → 千引(ちびき・大石おおいし、国学者/歌) 2 8 1 6
 左兵衛(さへえ・石河) → 勝栄(かつひさ・石河いしこ/吉田、幕臣) T 1 5 6 6
 左兵衛(さへえ・石河) → 勝延(かつのぶ・石河いしこ、勝栄男/幕臣) T 1 5 6 5
 左兵衛(さへえ・吉澤) → 末盈(すえみつ・吉澤よしざわ/度会、国学) J 2 3 3 9

左兵衛(さへえ・山川) → 賢隆(けんりゅう・山川やまかわ、藩士/紀行) B 1 8 2 5
 左兵衛(さへえ・加藤) → 文麗(ぶんれい・加藤かとう、幕臣/絵師) G 3 8 8 0
 左兵衛(さへえ・渡辺) → 重豊(しげとよ・渡辺わたなべ、神職/歌人) R 2 1 7 6
 左兵衛(さへえ・黒田) → 利章(としあき・黒田くろだ、藩士/国学) V 3 1 1 0
 左兵衛(さへえ・安部) → 信貞(のぶさだ・安部あべ、藩士/国学) H 3 5 0 3
 左兵衛(さへえ・細川) → 長世(ながよ・細川ほそかわ、藩士/歌人) O 3 2 6 5
 左兵衛(さへえ・二見) → 定津(さだやす・二見ふたみ/堤、神職/国学) P 2 0 2 7
 左兵衛(さへえ・渡辺) → 豊之(とよゆき・渡辺わたなべ、神職/歌人) X 3 1 0 0
 左兵衛(さへえ・五富利) → 言足(延足のぶたり・五富利ごぶり、御師代官/国学) I 3 5 4 6
 佐兵衛(さへえ・本間) → 丹野(たんや・本間ほんま、能楽太夫、俳人) 2 6 9 8
 佐兵衛(さへえ・綾部) → 道弘(みちひろ・綾部あやべ、医者/藩儒) C 4 1 3 7
 佐兵衛(さへえ・稲垣) → 定毅(ていこく・稲垣いながき、蘭学/暦算) 3 0 7 4
 佐兵衛(さへえ・会津屋) → 一夢(初世いちむ・石川、講釈師/合巻) C 1 1 0 7
 佐兵衛(さへえ・河内屋) → 三蔵(さんぞう・難波、浄・歌舞伎作者) G 2 0 0 0
 佐兵衛(さへえ・米屋) → 無尽亭(2世むじんてい・澄丸、狂歌作者) 4 2 7 4
 佐兵衛(左兵衛さへえ・吉野屋) → 美楯(実楯みたて・福田、商家/国学) 4 1 0 2
 佐兵衛(さへえ・つたや) → 吉孝(よしとか・篠田しのだ、酒造業/風流人) E 4 7 0 1
 佐兵衛(さへえ・吉岡) → 羽人(うじん・吉岡よしおか、俳人) C 1 2 8 7
 佐兵衛(さへえ・中村) → 喜時(よしとき・中村なかむら、大庄屋/郷士) E 4 7 8 5
 佐兵衛(さへえ・山名/清水) → 時庸(ときもち・清水、幕臣/神道/兵学) K 3 1 1 5
 佐兵衛(さへえ・清水) → 時良(ときよし・清水、時庸男/幕臣/弓術) K 3 1 3 2
 佐兵衛(さへえ・溝口) → 勝信(かつのぶ・溝口みぞぐち、藩士/和算家) N 1 5 7 3
 佐兵衛(さへえ・西村) → 藐庵(みやくあん・西村、名主/書・茶・歌) F 4 1 9 0
 佐兵衛(さへえ・前野) → 眞門(まかど・前野まえの、歌人/書/藩士) 4 0 5 4
 佐兵衛(さへえ・伊東) → 正直(まさなお・伊東いとう、藩士/歌人) N 4 0 3 9
 佐兵衛(さへえ・佐久間) → 義濟(よしなり・佐久間さくま/赤川/中村、藩士/尊皇) M 4 7 9 7
 佐兵衛(さへえ・平久間) → 盛章(もりあき・平久間ひらくま、狂歌/国学) L 4 4 1 4
 佐兵衛(さへえ・山城屋) → 大蘇(たいそ・高橋、商家/俳人) B 2 6 8 0
 佐兵衛(さへえ・深見) → 直温(なおはる・深見ふかみ、商家/国学) O 3 2 5 6
 左兵衛次(さへえじ・植村) → 政勝(まさかつ・植村、本草家/採薬) C 4 0 0 9
 左弁(さべん・木村) → 綱端(つなもと・木村きむら、藩士) B 2 9 3 9
 佐芳(さほう・加藤) → 千蔭(ちかげ・加藤/橘、国学/歌人) 2 8 0 3
 佐邦(さほう・杉原) → 佐邦(すけくに・杉原すぎはら/多羅尾、国学) I 2 3 6 4
 佐房(さほう・江口) → 佐房(すけふさ・江口えぐち、歌人) I 2 3 0 1

D2091 作木(さぼく・原田はらだ、通称;覚右衛門)?-? 伊賀上野の俳人;芭蕉門、
 1689師の「鶯の笠」歌仙に一座、1694其角「枯尾花」・97玄梅「鳥の道」・98「続猿蓑」入、
 [たつ鴨を犬追ひかくつゝみかな](続猿蓑;巻下鳥)

沙木子(さぼくし) → 元甫(げんぼ・辻原つじはら、儒/仮名草子) D 1 8 0 1
 佐保大伴大家(さほのおおとものおおいえ) → 石川郎女(大伴安麿妻) 1 1 0 9
 佐保山(さほやま;女房名) → 速成尼(そくせい、出家/歌人) B 2 5 7 6
 左馬(さま・飯田) → 忠彦(ただひこ・飯田/里見、史家) F 2 6 6 7
 左馬(さま・中川) → 経高(つねたか・中川/荒木田、神職/歌) C 2 9 3 7
 左馬(さま・岩井田) → 尚行(ひさゆき・岩井田/荒木田、神職) C 3 7 1 2
 佐馬五郎(さまごろう・桂) → 陽山(ようざん;道号・楚軾、臨濟僧/勤王) B 4 7 0 6
 左馬権助(さまごんのすけ・入江) → 則栄(のりひで・入江いりえ、歌人) F 3 5 5 6
 左馬次(さまじ・中井) → 文耕(ぶんこう・馬場ばば/馬/中井、講釈師) F 3 8 1 7
 左馬之丞(さまのじょう/さまのすけ・森) → 為泰(ためひろ・森、国学者/歌) H 2 6 3 8
 左馬之丞(さまのじょう・荻野) → 澤之丞(さわのじょう・荻野、歌舞伎役者) E 2 0 0 6
 左馬之丞(さまのじょう・沖) → 清別(きよわけ・沖おき/大野/三上/和氣、藩士/歌) T 1 6 8 0
 左馬之丞(さまのじょう・佐々木) → 義教(よしのり・佐々木ささき/宮部、国学) N 4 7 0 4

左馬允(さまのじょう・古田) → 広計(ひろかず・古田ふるた、藩士/歌人) F 3 7 6 8
 左馬之允(さまのじょう・千) → 宗左(初世そうさ・千せん、江岑宗左/茶人) B 2 5 5 4
 左馬之進(さまのしん・堀家) → 貞正(さだまさ・堀家ほりけ、神職/国学) P 2 0 3 3
 左馬助(さまのすけ・大館) → 氏明(うじあき・大館おおだち、武将) C 1 2 2 7
 左馬助(さまのすけ・今川) → 範以(のりもち・今川いまがわ、武将/連歌) F 3 5 9 7
 左馬助(さまのすけ・上杉) → 房定(ふささだ・上杉・藤原、武将/連歌) C 3 8 0 5
 左馬助(さまのすけ・明智) → 政宣(まさのぶ・明智あけち/源、幕臣/連歌) F 4 0 5 1
 左馬助(さまのすけ・山口) → 正弘(まさひろ・山口やまくち、武将/領主) G 4 0 9 3
 左馬助(さまのすけ・神徳) → 良賢(よしかた・宇佐美うさみ、兵学者) C 4 7 6 3
 左馬助(さまのすけ・本多) → 政長(まさなが・本多ほんだ、藩士/藩政) F 4 0 2 1
 左馬助(さまのすけ・本多) → 政和(まさかず・本多ほんだ、藩士/記録) B 4 0 7 9
 左馬助(さまのすけ・岩井田) → 昨非(さくひ・岩井田いわいだ、藩士/儒者) H 2 0 2 8
 左馬助(さまのすけ・藤野) → 春淳(しゅんじゅん・藤野ふじの、香道家) K 2 1 9 8
 左馬助(さまのすけ・松田) → 宗岑(そうしん・松田まつだ、鷹匠) I 2 5 0 3
 左馬助(さまのすけ・島津) → 華山(かざん・島津しまづ、儒者/詩) H 1 5 4 5
 左馬之助(さまのすけ・山本) → 晟孝(あきたか・山本やまもと/藤原、神職/歌) I 1 0 7 2
 左馬之介([助]さまのすけ・高井) → 立志(初世りゅうし・高井たかい、俳人) E 4 9 2 7
 左馬之介(さまのすけ・宍戸) → 眞激(まさもと・宍戸ししど/林、藩士/国事) H 4 0 9 6
 左馬之介(さまのすけ・大平) → 蘆平(あしひら・大平おのだいら/鎮西、神職/詩歌) H 1 0 2 5
 左馬之介(さまのすけ・大平) → 俊治(としはる・大平おのだいら、蘆平男/神職) U 3 1 5 1
 左馬大允(さまのだいじょう・池田) → 東籬亭菊人(とうりていきくひと、池田、官人/読本) 3 1 2 7
 左丸(さまる・高橋) → 千川(ちかわ・高橋たかはし、国学/神職) M 2 8 7 8
 沙弥(さみ) → 満誓(まんせい、沙弥、万葉歌人) 4 0 3 8

- D2092 **沙弥尼等**(さみにども、姓名不詳)?-? 万葉歌人、1558-9、(1557に丹比真人国人くひとの歌)、明日香の豊浦とゆら寺の尼達が私房に宴する歌(沙弥尼は十戒は守るが具足戒を未受の尼)、[秋萩は盛さかり過ぐるを徒いたづらに挿頭がざしに挿さず帰りなむとや](万葉;1559)
- D2093 **沙弥女王**(さみのおおきみ、出自/伝不詳)?-? 万葉歌人;1763(;290間人はひとと大浦の歌とほぼ同じ歌)、[倉椅くらはしの山を高めか夜隠よごりに出で来る月の片待かまち難き](万葉;九1763)
- D2094 **沙美麻呂**(沙弥麻呂さみまろ・安倍あべ朝臣)?-758 奈良期廷臣;739従五下/少納言・左中弁を歴任、749従四上/紫微中台大弼;防人を檢校する勅使(万葉4433)/758中務卿参議/正四下、万葉集廿4433(:3月3日勅使の業務から解放され家持ら兵部の役人達と宴)、[朝な朝さなあがる雲雀ひばりになりてしか都みやこに行きてはや帰り来む](万葉;4433)
- G2092 **沙弥麻呂**(さみまろ・船ふね、姓;連むらじ)?-? 奈良末期廷臣/詩人;731対策、経国集2首
 沙弥満誓(さみまんせい) → 満誓沙彌(まんせいさみ、廷臣/僧/万葉歌人) 4 0 3 8
 左民(さみん・芥川) → 思堂(しどう、芥川あくたがわ、儒者/明楽) V 2 1 2 7
- L2058 **寒川入道**(さむかわにゅうどう;伝不詳、貞徳の戯名か?)?-? 江前期;1613随筆「寒川入道筆記」著
 醒(さむる・岩瀬) → 京伝(きょうでん・山東、戯作者) 1 6 3 7
- D2095 **左明**(さめい) 1711 - 1760⁵⁰ 江戸で高家に出仕/俳人:柳居門(;南菊号)、致仕し南総の黒戸の浜に住、再び出府/俳;鳥酔門;執筆、1752「歌仙貝かせんがい」編(百童序/左明改号の記念集)、[左明(;号)の別号] 南菊、軽鷗、夏冬庵、松露庵2世
- D2096 **沙明**(さめい・関屋せきや、通称;甚右衛門)?-1727 筑前黒崎の俳人;蕉門、水颯と並称
 沙明(さめい) → 利助(としすけ・梅田、歌舞伎作者) M 3 1 6 2
 左馬蔵(さめぞう・藤崎) → 義頭(よしあき・木曾さそ/入江、藩士/国学) M 4 7 3 7
- 02073 **醒麿**(さめまる/すがまる・鈴木すずき/物部ものべ、鈴木和太夫2男) 1840-1900⁶¹ 伊予宇和島藩士;幼少より文武両道を修学、剣術;江戸の千葉周作門、帰藩後;伊達宗城の側近/国事に奔走、神官家を嗣ぎ物部醒麿を称す、維新後;大阪裁判所内国事務掛/藩政改革取調加番、1869宇和島藩権少参事/権大参事/宇和島県八等出仕、1873(明治6)宇和津神社祠官、1875和霊神社祠官/1877特設県会議員/78南宇和郡長/80北宇和郡長/81東宇和郡長、

晩年;神職、国学者・歌人;[伊予歌人録]入、
[醒磨(名)の通称]通称;震吉

F2068 齊文(さも・新漢いまきのあや) ? - ? 推古期伎楽;612百濟渡来の味摩之(みまし)門;
真野首弟子まのおびとでしらと桜井で習得;伝承[日本書紀入]

N2046 左門(さもん・水谷みずたに、通称;水口坊観清)1844-64戦死21歳 豊前英彦山ひこさんの修験者、
尊攘活動家;1863(文久3)山内の同志と共に長州に行く;七卿を警護、
1864(元治元)真木和泉隊に参加;上京し禁門の変で戦死

- 左門(さもん) → 加賀左衛門(かがのさえもん/かがのさいも、歌人) 1 5 6 0
- 左門(さもん・戸田) → 氏鐵(うじかね・戸田、武将/藩主) C 1 2 3 6
- 左門(さもん・藤田) → 貞固(さだかた・藤田ふじた、藩士/武術/茶) P 2 0 8 7
- 左門(さもん・藤田) → 貞幹(さだもと・藤田、貞固男/藩士/歌) P 2 0 8 6
- 左門(さもん・松永) → 道斎(どうさい・松永、文筆家) E 3 1 3 6
- 左門(さもん・高島) → 定延(さだのぶ・高島たかばたけ、藩士/記録) J 2 0 1 7
- 左門(さもん・水野) → 忠福(ただよし・水野、幕臣/神宮記録) R 2 6 2 7
- 左門(さもん・福井) → 末質(すえかた・福井ふくい/度会、神職) F 2 3 3 8
- 左門(さもん・吉見) → 幸寛(ゆきひろ・吉見よしみ、廷臣/神道家) F 4 6 4 8
- 左門(さもん・横山) → 忠知(ただちか・横山よこやま、幕臣/船奉行) P 2 6 8 1
- 左門(さもん・佐々木) → 定賢(さだかた・佐々木/六角、藩士/系図) H 2 0 9 6
- 左門(さもん・成瀬) → 当栄(まさひで・成瀬なるせ、藩士/記録) G 4 0 6 5
- 左門(さもん・松平) → 直明(なおあき・松平まつだいら、藩主/和学) O 3 2 8 7
- 左門(さもん・朽木) → 昌綱(まさつな・朽木くつき、藩主/蘭学/古銭学) E 4 0 0 0
- 左門(さもん・土屋) → 知貞(ともさだ・土屋、幕臣/記録) P 3 1 4 6
- 左門(さもん・林) → 直秀(なおひで・林はやし、幕臣/歌人) C 3 2 2 2
- 左門(さもん・本多) → 恒久(つねひさ・本多ほんだ、家老/和学) G 2 9 3 4
- 左門(さもん・萩原) → 貞起(さだおき・萩原はざむら、商家/歌人) F 2 0 2 4
- 左門(さもん・平元/飯塚) → 恰(ゆたか・飯塚/平元、藩士/歌/狂詩) G 4 6 0 7
- 左門(さもん・梶山) → 主水(もんど・梶山かじやま、藩家老/和算) I 4 4 3 5
- 左門(さもん・橋屋) → 以南(いなん・山本、名主/俳人/勤王) B 1 1 7 9
- 左門(さもん・内海) → 雲石(うんせき・内海うつみ、槍術/漢学) D 1 2 8 6
- 左門(さもん・福島くしま) → 国雄(くにお・福島くしま、幕臣/軍学) D 1 7 6 8
- 左門(さもん・久志本) → 常陳(つねのぶ・久志本/度会、神職/日記) D 2 9 0 3
- 左門(さもん・久志本) → 常庸(つねのぶ・久志本/度会、神職/歌) D 2 9 0 5
- 左門(さもん・松平) → 定賢(さだよし・松平、藩主/国学/詩) K 2 0 2 4
- 左門(さもん・真野) → 正陳(まさつら・真野まの、幕臣/和学者) S 4 0 4 9
- 左門(さもん・松木) → 岳彦(くにひこ・松木まつき、神職) D 1 7 1 0
- 左門(さもん・森内) → 繁富(しげとみ・森内、藩士/漢学/和算) R 2 1 7 2
- 左門(さもん・平沢) → 元愷(げんがい・平沢、旭山、儒者) B 1 8 3 9
- 左門(さもん・前田) → 孝和(たかかず・前田まえだ、藩士/記録) L 2 6 7 0
- 左門(さもん・野口) → 西里(せいり・野口のぐち、医者/詩) J 2 4 7 5
- 左門(さもん・不破) → 正寛(まさひろ・不破むね、藩士/藩政改革) L 4 0 1 7
- 左門(さもん・中園) → 愛種(ちかたね・中園なかぞの/大蔵、国学者) B 2 8 1 8
- 左門(さもん・石黒) → 千尋(ちひろ・石黒いしぐろ、藩士/国学者) F 2 8 2 3
- 左門(さもん・猪子) → 一朝(かづとも・猪子いのこ、幕臣/国学) T 1 5 5 8
- 左門(さもん・加藤) → 泰統(やすむね・加藤かとう、藩主/歌人) F 4 5 6 9
- 左門(さもん・堀/戸川) → 安昌(やすまさ・戸川とがわ/堀、幕臣) C 4 5 9 5
- 左門(さもん・大原) → 幽学(ゆうがく・大原おおはら、経世/教導家) B 4 6 0 5
- 左門(佐門さもん・武雄) → 逍遥(しょうよう・武雄たけお、儒者) B 2 2 8 6
- 左門(さもん・小川地) → 喜広(喜広よしひろ・小川地おがわち、神職) G 4 7 6 5
- 左門(さもん・唐崎) → 信通(のぶみち・唐崎からさき、神職/国学) H 3 5 9 6
- 左門(さもん;通称) → 徳隣(とくりん;法諱/願昌、本願寺派僧/国学) T 3 1 4 3

- 左門(さもん・丹羽) → 嘯堂(しょうどう・丹羽にわ/源、漢学/医者) R 2 2 6 0
 左門(さもん・水谷) → 高之(たかゆき・水谷みずたに、歌人) U 2 6 5 4
 左門(さもん・寺川) → 通克(つうこく・寺川てらかわ、歌人) E 2 9 9 7
 左門(さもん・柴田) → 勝頭(かつあき・柴田しばた/平、家老/国学) U 1 5 7 5
 左門(さもん・北島) → 主道(きみみち・北島きたじま、国学者) U 1 6 1 4
 左門(さもん・馬島) → 元長(もとなが・馬島まじま、書家) L 4 4 2 9
 左門(さもん・橘/山本) → 泰樹(やすき・橘たちばな/山本、里正/歌) G 4 5 2 4
 左門(さもん・柳川;変名) → 瑞山(ずいざん・武市たけち、剣術/勤王派) E 2 3 5 9
 左門(さもん・弥村;変名) → 義済(よしなり・佐久間さくま/赤川/中村、藩士/尊皇) M 4 7 9 7
 左門(さもん・並木) → 栗水(りつすい・並木なみき、儒者/私塾) C 4 9 0 5
 左門治(左門次さもんじ・伊沢) → 文谷(ぶんこく・伊沢いざわ、藩士/書画) F 3 8 2 5
 左文次(さもんじ・三浦) → 為室(ためとみ・三浦みうら/内田/菊地、国学) W 2 6 7 2
 左門次郎(さもんじろう・毛内) → 雲林(うんりん・毛内もうない茂幹、藩士/絵師) E 1 2 9 3
 左門太(さもんた・前羽/井上) → 不鳴(ふめい・井上いのうえ、医者/詩歌) E 3 8 1 3
 潔夫(さやけお・村上) → 円方(まどかた・村上むらかみ、国学/歌人) J 4 0 9 2
 亮々舎(さやさやのや) → 幸文(たかふみ・木下、歌人) 2 6 1 5
- F2069 佐山檢校(さやまけんぎょう) ? - 1694 上方唄、長歌ながうた創始:律呂三六声麓の塵
 佐山殿(さやまどの) → 泉尊法親王(いづみそんほつしんのう、天台僧/南朝歌人) B 1 9 6 4
 素湯庵(さゆあん) → 左簾(初世させん・笠家/三浦、妓楼主人/俳人) E 2 0 0 5
- I2045 左右(さゆう) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入(357)、
 [梶原が悪頭あらはるゝ含み状](二葉之松;357/梶原景時の讒言が義経の含状で露頭)
- D2097 乍遊(さゆう) ? - ? 大阪の俳人、
 1722俳諧集「道づれ草」編(丹波・讃岐行脚の句)、1749「独歩行」編
- N2043 左雄(さゆう・鍋島なべしま) ? - ? 佐賀藩家老、平野柄悟・村井琴山・菊舎らと交流、
 [左雄(;号)の名/通称/号]名;茂体、通称;弥平左衛門、号;来鳳館
- L2059 左右(さゆう・日田山ひたやま、姓;財津/名;永晟ながあき) 1781-1855 75 肥後熊本藩士/代々豊後日田住、
 祖父以来八代城付、1814番士に昇進;熊本出仕、天守方目付/同支配頭、禄百五十石、
 1845致仕;改称日田山左右、1832「藩譜採要」50「藩譜便覧」著、
 [日田山左右(;致仕後の通称)の通称/法号]通称;三左衛門、法号;謙良院
 左右庵(さゆうあん) → 江棧(こうさん・信国のぶくに/神、刀工/俳人) J 1 9 0 9
 左右軒(さゆうけん) → 采女(うねめ・長沼ながぬま、武士/和学者) E 1 2 8 2
 左右馬(さゆうば→そりま?・寺田) → 剛正(たけまさ・寺田てらだ、藩士/佐幕派) O 2 6 7 6
- L2060 清(さよ/きよ・河野こうの、宮下七郎右衛門女) 1710-88 79歳 河野太兵衛の妻、
 信州伊那の歌人:高遠藩士の依田正純まさずみ(梅山)門、
 伊那三才女(上原さん・桃沢亀と)の1、晩年は参禅;白隠禅師門、通称;清女せいじよ、
 1745「源氏三枕」、「茂里の落葉」著、法号;浄邦知蓮大姉
 佐世(さよ・保田) → 佐世子(さよこ・保田やすだ、歌人) L 2 0 6 1
 小夜庵(さよあん) → 五明(ごめい・吉川/那波、商家/俳人) D 1 9 9 3
 佐代吉(さよさち・桑名屋) → 青岐(せいき・上野うえの、商家/俳人) 2 4 9 5
- L2061 佐世子(さよこ・保田やすだ、初名;佐世さよ) ?-? 江戸期但馬豊岡の歌人、「昨見集」「認香集」著
- L2080 さよ子(さよこ・武田たけだ、名;よし子、知春尼) ?-? 江後期歌人;賀茂真淵門、剃髪、
 歌文集「さよ子詠草」(;真淵の添削/1820大久保知故の跋)
- N2032 佐代子(さよこ・土方ひじかた) ? - ? 江後期歌人、
 幕臣(最後の浦賀奉行)土方八十郎勝敬かつよしの妻、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(夫と共に入集)、
 [年毎にあはれも深く霞みけりみしや幾夜の春の夜の月](大江戸倭歌;174/春月)
 夫 → 勝敬(かつよし・土方ひじかた/源、幕臣/歌) S 1 5 8 3
 佐代治(さよじ・峯) → 潔(きよし・峯みね、藩士/天文学) P 1 6 5 9
 清女(さよじよ・河野) → 清(さよ/きよ・河野こうの/宮下、歌;伊那三才女) L 2 0 6 0
- D2098 佐用媛(さよひめ・松浦、大伴佐堤彦の妾) ?-? 万葉集・風土記に領巾振ひれりの伝説、万868-

- L2062 **莎来**(さらい・亀齡軒2世、本名;葛野意庵)?-? 大阪南久太郎町三丁目の華道家:是心軒一露門、松月堂古流を修得;五大坊ト友と共に同流理論的發展に尽力、大阪以西を行脚し広める、1793「挿華故実集」1803「古流生花諸国百瓶図」編/1804「出生伝私考」著
左来(さらい・木原) → 正直(まさなお・木原きはら、庄屋/儒者) P 4 0 1 4
茶雷(さらい・山県) → 茶雷(ちゃらい・山県、俳人) F 2 8 6 0
茶雷(さらい・鹿嶋) → 茶雷(ちゃらい・鶏舌楼、俳/茶・琵琶) F 2 8 6 1
茶雷(さらい・板東) → 茶雷(ちゃらい・板東、俳人) F 2 8 6 2
- L2063 **坐来**(ざらい・里見さとみ、松露庵5世)?-? 上州の俳人:烏明門、1801「華の終」編、烏明社中月並発句集「松露庵随筆」編(1801師烏明没後継承し1811年度分まで現存)
更科一七庵(さらしないちしちあん) → 天姥(てんぼ・宮本みやもと、農業/俳人) E 3 0 2 5
沙羅々皇女(さららのひめみこ) → 持統天皇(じとうてんのう) 2 1 2 9
- L2064 **左里**(さり) ? - ? 俳人;1691北枝「卯辰集」1句入、
[くもれども月夜はやさし丸木橋まるさばし](卯辰集;358)
佐理(さり・藤原) → 佐理(すけまさ・藤原ふじわら、廷臣/能書家) 2 3 1 1
茶裡(さり・鹿嶋) → 茶裡(ちゃり・鹿嶋、茶雷男/俳人) F 2 8 6 3
佐理女(さりのむすめ) → 佐理女(すけまさのむすめ・藤原ふじわら、書家) D 2 3 0 3
- D2099 **左柳**(さりゅう・浅井あさい、通称;源兵衛)?-? 美濃大垣藩士、俳人:芭蕉門、1686細道の帰途芭蕉は左柳邸で歌仙を興行、1695浪化「有磯海」/94其角「枯尾花」入、1698「続猿蓑」2句入/1700杉風「冬かつら」/13湖十「二のきれ」入、
[名月や草のくらみに白き花](続猿蓑;卷之下秋)
- E2000 **紗柳**(さりゅう) ? - ? 長崎の蕉門俳人、1700宇鹿と「艸の道」編
- L2065 **左流**(さりゅう・松木まつき) ? - ? 大阪の歌舞伎作者;市山助五郎座助作者、1750頃まで上方諸座に参加、1744「花情枕軍談」49「阿弥陀坊東帯鑑」50「会稽和合瓔」外多
- L2066 **莎笠**(さりゅう) ? - 1842 備前岡山の俳人:二松庵巴ト門、1807「をのかさま」編、没後七回忌追善集「茶の煙」、
[莎笠(;号)の別号]各柳(;初号)/雪朝舎
左竜(さりゅう・山内) → 南州(なんしゅう・山内やまうち、医者) J 3 2 1 8
左柳(さりゅう) → 雨岡(あめがき・多賀たが、俳人) C 1 2 1 9
蓑笠庵(さりゅうあん) → 梨一(りいち・関・高橋/一祚・一紹、幕臣/俳人) 4 9 3 1
蓑笠漁隠(さりゅうぎょいん) → 馬琴(ばきん・曲亭きょくてい、読本作者) 3 6 0 7
蓑笠人(さりゅうじん) → 一匆(いっく・島野、俳人) G 1 1 8 8
蓑笠釣者(さりゅうちようじや) → 立兆(りつちよう・酒巻さかまき、絵師) C 4 9 1 2
- L2067 **左梁**(さしやう・中村なかむら)?-? 江中期天明1781-89頃撰津の俳人、1787「季寄筆まめ」「俳諧筆真実」著、
[左梁(;号)の通称/別号]通称;桑名屋長左衛門、別号;蝸牛庵/畔坊
茶寮主人(さしやうしゅじん) → 蟻堂(あきどう・山田、儒者/詩) H 1 5 3 5
猿成(さるなり・山上) → 山上猿成(やまのえのさるなり、狂歌作者) E 4 5 4 7
- E2002 **去法師**(さるほうし・南都なんと、北村季吟の匿名か?)?-? 俳人、1674「洪団(しぶうちわ)」(宗因「蚊柱百句」への論難書)
申松(さるまつ・青木) → 存久(ながひさ・青木あおき、歌人) K 3 2 7 3
- E2003 **猿万里大夫**(さるまりだゆう、姓;長門/通称;万里)?-? 江中期江戸吉原の幫間、黄表紙作者、狂歌;吉原連(狂歌知足振入;猿万里大夫名)、蜀山人南畝・山東京伝と交流、1780「大通一寸廓茶番」87「島台眼正月」著、1785「徳和歌後万載集」2首(601/673)入、1787「狂歌才蔵集」入(;561)、
[あくるとびどくどくどくと音あれど薬ときくの酒印かな](後万載;673/菊印の酒を贈る)、(樽から別の容器に移すたびに;擬音と毒/聞くと菊の掛詞)
[猿万里大夫(;号)の別号] 社楽斎万里しゃらくさいばんり
- 2048 **猿丸大夫**(さるまるだゆう/-だゆう)?-? 奈良期708-15頃or平安期777-85頃の伝説的歌人、三十六歌仙の1、古今集真名序に初見、家集「猿丸太夫集」(本人と確認される歌はない)、
[奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の声聞く時ぞ秋はかなしき](古今215)

- 猿屋路考(さるやろく) → 菊之丞(4世きくのじょう・瀬川、歌舞伎役者) B 1 6 0 2
 猿若(さるわか・清水) → 道閑(初世どうかん・清水しみず、茶人) C 3 1 3 5
 猿若(さるわか・中村) → 勘三郎(かんざぶろう・初世・中村、歌伎役者/座創設) 1 5 5 0
 猿人(さるんど・尻焼;狂歌名)→抱一(ほういつ・酒井さかい忠因ただなお、画・俳人) 3 9 1 3
- E2024 左礫(されき) ? - ? 江中期俳人、
 1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、
 [網代木のかふりふりやむ寒さかな](伊丹発句合;冬)
- E2005 左簾(初世されん・笠家かさや/初姓;三浦、名;古道) 1714-7966 江戸新吉原の妓楼主人、俳人;逸志門、
 宗因座沾涼せんりょう側点者/江戸座3世、1754竹翁「誹諧童の的」点句入、1773「花実相對」、
 1770「絵本青樓美人合」、「誹諧滑稽百箇条」「乞食袋」著、
 [左簾(;号)の通称/別号]通称;四郎左衛門、別号;鴨之(;初号)/古道/素湯庵/幽雲齋
- L2068 左簾(4世されん・笠家/笠屋かさや) ?-1869 80 歳没 江戸の俳人、1834「二世宝晋齋句集」編
 [左簾4世(;号)の別号]幽松庵/醒好堂/騰雲齋
 佐六(さろく・殿村) → 篠斎(しょうさい・殿村/大神、商家/国学/歌) J 2 2 0 4
 佐六(さろく・西野) → 前知(さきとも・西野にし、商家/歌人) P 2 0 0 5
- L2069 左六郎(さろくろう・神谷かみや) ?- ? 江後期天保1830-44頃尾張の人、
 1841「尾張藩検地由来条目」
 左六郎(さろくろう・伊藤) → 逸齋(はやえ・伊藤いとう、書家/歌人) J 3 6 6 5
- P2091 澤(さわ・西河にしかわ) ? - ? 江前期;京の歌人、西河嘉長(医者・歌人)の女?、
 1682河瀬菅雄[麓の塵]2首入、同集の[西河氏妻の岩]は母か?
 [むなしく成りにし母のかたみのきぬ、手づから縫て御法の場に打ち敷き奉るとて、
 得入無上道といふ心を、
 たらちめの形見の衣を打ちしきてうへなき道のたよりともしん] (麓の塵;哀傷564)
- L2070 沢一(さわいち・大神おおが、福岡藩士大神四郎平男) 1684-1725 筑前佐原郡の医者;幼児期失明、鍼医、
 儒;佐藤直方・三宅尚齋門、平曲・狂歌を嗜む、「塵芥」「婦女亀鑑」著、別号;活都
 沢右衛門(さわえもん・山高) → 信順(のぶより・山高やまたか、藩士/兵法) E 3 5 0 9
 沢右衛門(さわえもん・山高) → 信篤(のぶあつ・山高やまたか、藩士/兵法) 3 5 8 9
 沢右衛門(さわえもん・橋爪) → 幸求(こうきゅう・橋爪、神道家) I 1 9 2 6
 沢右衛門(さわえもん・塚谷) → 五明(ゆきあきら・塚谷つかたに、藩士/記録) E 4 6 2 2
 沢右衛門(さわえもん・岩月) → 良直(よしなお・岩月いわつき、藩士/歌人) L 4 7 6 8
 茶話窟(さわくつ) → 廬元坊(ろげんぼう・佐野/仙石、俳人) 5 2 0 3
 沢大納言(さわだいなごん) → 師忠(もろただ・源、廷臣/和琴/歌人) H 4 4 3 6
 沢田屋和助(さわだやわすけ) → 和助(わすけ・音おと、歌舞伎作者) 5 3 3 5
 佐和太夫(さわだゆう・陸竹) → 三蔵(さんぞう・難波、浄・歌舞伎作者) G 2 0 0 0
 沢辺あや子(さわべあやこ) → あやめ(4世菖蒲あやめ・芳沢、歌舞伎女形/狂歌) G 1 0 2 3
- E2007 左和多里の手児(さわたりてご) ?- ? 万葉集中人物、万葉十四相問3540入、
 左和多里(地名)の場所不詳;上州吾妻郡沢渡温泉/常陸水戸の佐渡/陸奥磐城の沢渡など、
 [左和多里の手児にい行き逢ひ赤駒が足搔あがきを速み言問はず来きぬ](万葉;3540)
- E2008 沢住檢校(さわすみけんぎょう) ? - ? 安桃江初期慶長1596-1615頃;三味線の名手
- E2006 澤之丞(さわのじょう・荻野おぎの、前名;左馬之丞、俳名;袖香) 1656-1704 49 上方歌舞伎役者;女方、
 元禄1688-初年まで大阪の荒木与次兵衛座に属す/1691京の万太郎座の「嫁鏡」の役が好評、
 以後三都で「嫁鏡」物を演ず、1692-1700江戸で活動/1701上京/02大阪で演ず;後江戸下向、
 三か津の女方の随一と称される、
 江戸で初世市川団十郎相手に「参会名護屋」葛城役・「源平雷伝記」雲の絶間役など好評
- 沢之進(さわのしん・保崎) → 教貞(のりさだ・保崎ほさき、藩士/歌人) J 3 5 9 3
 沢之助(さわのすけ・中山) → 篤則(あつり・中山なかやま、藩士/歌人) I 1 0 1 5
 沢辺あや子(さわべあやこ、狂歌) → あやめ(4世菖蒲あやめ・芳沢、歌伎役) G 1 0 2 3
- G2019 沢辺帆足(さわべのぼたる、信沢重二郎) ?-? 高松藩士;江戸小石川住、小石川狂歌;四方連、
 1785徳和歌後万載(;3首103/556/715)・87狂歌才蔵集(242)入;
 [十三夜 明月と今宵の月は天秤にかけてもひけぬ小判形りかな](才蔵集;五秋242)

- M2090 **沢辺横行**(さわべのよきゆき) ? - ? 狂歌;1785刊「後万載集」3首入(;210/298/600)、
[今宵しも手向たむけにせんと短冊をかくや娘も孫もひこぼし]、
(後万載;秋210/七夕/曾孫と彦星を掛る)
沢宮(さわみや) → 文智女王(ぶんちじょおう、歌人) G 3 8 1 4
- L2071 **早良親王**(さわらしんのう、追号;崇道すどう天皇、光仁天皇皇子)750-785³⁶ 母;高野新笠、
桓武天皇の同母の弟、781桓武即位と共に皇太弟、
785藤原胤継暗殺事件で大伴家持・継人らに擁立された容疑;長岡京乙訓寺に幽閉、
淡路配流の途次断食没/淡路葬送後に怨霊鎮祀のため天皇を追号、
のち863神泉苑御霊会で御霊祭祀、「親王軍紀」著
佐和律師(さわりっし) → 莘斎(しんさい・佐和さわ、儒者/勤王/僧) O 2 2 4 4
- L2072 **さん**(上原うえはら、那須野なすの三左衛門女)1705-58⁵⁴ 信州伊那郡七久保村の歌人;依田梅山門、
1745「源氏三枕」、伊那三才女の1
- L2073 **璨**(さん;名・横井よこい、字;季玉、号;全柳)?-? 江後期加賀の医者/蘭医;小石元瑞門、
1836から金沢藩家老長氏の侍医、1837「薬名早引」著
三(さん・小倉) → 無隣(むりん・小倉おぐら無邪、儒者) D 4 2 3 0
三(さん・さん・細川/加来) → 行孝室(ゆきたかのしつ・細川ほそかわ、藩主室/歌) E 4 6 6 7
参(さん・田中) → 従吾軒(じゅうごけん・田中、藩儒) X 2 1 2 6
参(さん・氏家) → 緑山(りょくざん・氏家うじえ、藩儒者) J 4 9 7 6
山(さん;一字名) → 通村(みちむら・中院/源、廷臣/歌人) 4 1 2 1
粲(さん・丁野) → 南洋(なんよう・丁/丁野ちやうの、儒者) 3 2 4 6
粲(さん・結城) → 甘泉(かんせん・結城ゆうき、絵師) R 1 5 2 0
粲(さん・小出) → 粲(つばら・小出/松田英粲、藩士/歌人) E 2 9 3 1
粲(さん・金井) → 莎邨(さそん・金井かない、儒者/詩人) H 2 0 5 6
参(さん→みつぼし・森本) → 甄里((せんり・森本もりもと、藩士/儒者) N 2 4 2 7
贊(さん・西) → 鼓岳(こがく・西にし、儒者) F 1 9 4 9
纘(さん・三浦)) → 乾斎(けんさい・三浦みうら、医者/詩人) I 1 8 9 1
瓊(さん・原田) → 霞裳(かしよう・原田はらだ、藩士/儒者/詩) L 1 5 9 3
瓊(さん・田中/田) → 大観(たいかん・田中/修姓;田、暦算/儒) B 2 6 1 8
- L2074 **三阿**(さんあ;法諱) ? - ? 法師(僧)、連歌;菟玖波集3句(354/1198/1643)入、
[深山にはもりくる月も幽かにて](菟玖波;秋354/前句;しつくをうくる松の下陰)
三愛舎(さんあいしゃ) → 捨魚(すてな・至清堂せいどう、狂歌作者) D 2 3 8 3
三蛙軒(さんあけん) → 高門(たかかど・京極、幕臣/禅門/歌人) C 2 6 6 3
三阿弥(さんあみ) ; 室町将軍家同朋衆として書画鑑定に当たった父子3代の絵師
→ 能阿彌(のうあみ、能阿)1397-1471 3 5 0 0
→ 藝阿彌(げいあみ、芸阿)1431-1485 1 8 3 1
→ 相阿彌(そうあみ、相阿)?-1525 2 5 0 2
- L2075 **三庵**(さんあん・石井いし、名;政満)?-? 陸中南部藩の侍医、1632奥羽を巡歴、
「石井三庵政満覚書」著
三安(さんあん・嶋) → 三安(みつやす・嶋しま、幕臣/奉行) F 4 1 0 2
三庵(さんあん・岡) → 信好(のぶよし・岡おか、国学者) H 3 5 7 8
山庵(さんあん;号) → 大巖(だいてん;道号・宗碩;法諱、臨濟僧) K 2 6 7 4
山庵(さんあん;号) → 古梁(こりよう;道号・紹岷;法諱、臨濟僧) O 1 9 0 0
傘庵(さんあん) → 倭泉(わせん・石田いしだ、女流俳人) 5 3 4 0
杉庵(さんあん・山口) → 志道(しどう・山口、国学者/神代学) V 2 1 2
杉庵居士(さんあんこじ) → 季茲(すえしげ・久保くぼ/源、幕医/国典) B 2 3 1 9
杉庵志道(さんあんしどう) → 志道(しどう・山口、国学者/神代学) V 2 1 2
- E2009 **三惟**(三維/三以さんい・菊谷きくたに)?-1746 江前中期大阪の俳人;雑俳;才磨門、富裕な家、
1690「鳩の水」91「梅の嗟峨」(鳩の水後編)編(芭蕉;朝顔やこれも又我が友ならずの句入)、
1698諷竹「淡路島」1701「鳥おどし」1702轍士「花見車」/14月尋「伊丹発句合」;四季発句入、

1723「智恵海」(；前句付)入/40野坡追善集「三日之庵」入、
[鶯やさしもの客に見ゑませぬ](花見車；167)、
[初秋や水に一すぢ鯉の道](伊丹発句合；秋)、
[三惟(；号)の通称/別号]通称；金や善左衛門/菊谷安右衛門、別号；菊叟

- F2070 **三以**(さんい) ? - ? 俳人、1733巴人「一夜松」入
三依(さんい・大伴) → 三依(御依みより・大伴、廷臣/万葉歌人) 4 1 4 4
三畏(さんい・相原) → 友直(ともなお・相原、医/儒者/地誌) P 3 1 9 9
三育(さんいく・山田) → 梅東(ばいとう・山田やまだ/清水/源、神職/儒詩) B 3 6 8 7
残育(ざんいく；字) → 日悟(にちご；法諱・心性院、日蓮僧) B 3 3 7 4
三畏軒(さんいけん) → 東里(とうり・樋口ひぐち、医/儒者) I 3 1 0 9
三市郎(さんいちろう・大久保) → 忠寛(ただひろ・大久保おおくぼ、一翁、幕臣) U 2 6 3 9
山逸人(さんいつじん) → 素堂(そどう・山口、俳人) 2 5 2 6
散逸道人(さんいつどうじん) → 若芝(じやくし・河村かわむら、絵師/工芸) G 2 1 1 5

G2015 **山陰**(さんいん・佐野さの、名；憲/之憲、佐野喜兵衛貞行男) 1751-1818⁶⁸ 阿波助任の儒者、
京の西村清河・菅原為俊門、1792徳島藩主蜂須賀治昭に召し出され京住のままで小姓格、
藩命で「阿波志」編参に着手、1792帰国、藩主息女典姫の教育に従事、1798資料収集し上京、
1815「阿波志」完成、「山陰余録」「關蕪談」「論語古本考異」「伝疑古説辨」「孟子章指」著、
[山陰(；号)の字/通称/別号]字；元章、通称；少進、別号；靖恭先生

E2010 **山蔭**(さんいん・伊吹いぶき) ? - ? 江後期俳人、1847俳諧作法書「俳席両面鏡」著

P2050 **三隠**(さんいん・三輪みわ、通称；七左衛門/屋号；平井屋、) 1822-1909⁸⁸ 加賀金沢の商家、
国学・歌；東条義門^{きもん}門、町年寄

- 山陰(山蔭さんいん・藤原) → 山陰(山蔭やまがげ・藤原、廷臣/包丁術) E 4 5 0 6
山陰(山隠さんいん・永島) → 審(しん・永島ながしま、医者/引水工事) N 2 2 2 2
山陰(さんいん・伊藤) → 蘭林(らんりん・伊藤いとう、儒者/詩人) D 4 8 3 1
山蔭(さんいん・狩野/岡田) → 為恭(ためちか・冷泉/岡田、絵師/歌) H 2 6 0 0
山隠(さんいん・山岡) → 浚明(まつあけ・山岡/大伴、幕臣/国学) J 4 0 6 6
三允(さんいん・金) → 蘭斎(らんさい・金こん、医/漢学；老荘) C 4 8 1 3
三印(さんいん・矢尾板) → 拙谷(せつこく・矢尾板やおいた、藩医/儒者) K 2 4 9 0
三寅(さんいん・加藤/大原) → 観山(かんざん・大原おおはら、儒者) H 1 5 6 5
三寅(さんいん・高橋) → 竹之介(竹之助たけのすけ・高橋、勤王派) T 2 6 8 8
三隠(さんいん；号) → 阿溪(あけい；法諱、真言僧/社僧/歌人) G 1 0 8 3
三蔭(さんいん・首藤) → 三蔭(みつかげ・首藤すどう、藩士/歌人) J 4 1 3 1
山隠樵夫(さんいんしやうふ) → 延年(えんねん・長谷川、剣術/篆刻家) B 1 3 3 1
山陰道士(さんいんどうし) → 清丸(きよまる・川合かわい、神職/思想家) T 1 5 9 6

E2011 **杉雨**(さんう・曙紫庵しよしあん) ? - ? 江中期俳人；1758注釈書「芭蕉翁発句評林」編、
紀逸・田社と交流

L2076 **杉羽**(さんう・馬場ばば) 1725- ? 信州松代藩士；御刀番/御膳番、和漢学修得、
俳人；蓼太・太初門、1802「井伊家旧記」、恩田木工もく「日暮硯」の原著説あり、
[杉羽(；号)の通称/別号]通称；広人、別号；玉畳庵^{ぎよくじやうあん}

L2077 **杉雨**(さんう・寺山てらやま) ? - ? 江後期江戸の俳人；
1832「杉家春帖」刊、1845・51「俳諧年月草」編、「浜の真砂」著、
[杉雨(；号)の通称/別号]通称；源六郎、別号；白眼台、寺山月村の一族(兄か)

- 月村(げつそん・寺山てらやま、白眼台/俳人) H 1 8 2 1
参雨斎(さんうさい・志野) → 宗温(そうおん・志野しの、香道家) G 2 5 3 9
山蔚(さんうつ・泰) → 泰山蔚(たいさんうつ、語学) B 2 6 4 9
参雨道人(さんうどうじん) → 九峰(きゅうほう；道号・宗成、臨濟僧) M 1 6 8 9

E2012 **山雲子**(さんうんし、姓；坂内さかうち、名；直頼^{なおより}) 1644?-1711?^{68歳?} 武芸の家の生/浪人生活；京住、
国学/歌・俳諧を嗜む、大阪の風鈴軒友松と親友、山の八やまのやつと交流、1688頃仏教に帰依、
洛北一乗寺に隠棲；母没後出家；号如是相/洛西高雄神護寺の迎接院に住、「牡丹花歌集」著、
「善光寺縁起」/1674「頭書伊勢物語抄」「山城四季物語」著/83「歌仙金玉抄」「和歌詞林抄」編、

1685「本朝諸社一覽」著/91「説法用歌諺註」編/94「九想詩諺解」/1711「山州名蹟志」外編著多、
[山雲子(；号)の字/別号/法号]字；雪庭、別号；如是相(；出家号)、法号；白慧、

山雲水月主人(さんうんすいげつしゅじん)→ 道雲(どううん・池永、書/篆刻) B 3 1 2 7

E2013 **三英**(三栄さんえい・小関せき/おげき、小関弥五兵衛2男) 1787-1839自殺53 出羽庄内の医者、
1804江戸で蘭学・医学；吉田長叔・馬場佐十郎門、21鶴岡で開業医/22仙台医学館教授、
1823長崎でシボルト門、岸和田藩医/1833幕府天文訳員/渡辺崋山・高野長英らと尚齒会結成、
1839蛮社の獄に累の及ぶを恐れ自殺、「泰西内科集成」「西洋内外大成」「牛痘種法」訳、
1783「学語略説」訳・「西医腹病略」著、「大韃而韃誌」「卜那把盧的戰記」訳、外訳本多数、
[三英(；名)の別名/通称/号]別名；貞義/好義、通称；良蔵/貞吉/貞橘/弁助、
号；篤斎とくさい/鶴洲/確斎/額斎、法号；黄雲院

三英(さんえい・望月) → 鹿門(ろくもん・望月もちづき、幕府医官) B 5 2 1 1

三影(さんえい・杉) → 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2

三栄堂(さんえいどう) → 句仏(くぶつ・三谷、俳人) D 1 7 3 9

L2078 **三益**(さんえき・小河/小川おがわ/本姓；源、小河頼重男) 1531-160676 父は北畠家の遺臣、僧侶；伊勢住、
書家、父と諸国を流浪/1580能書により徳川家康の家臣/1583御家人、のち秀忠に出仕、
連歌；「三益独吟聯句」/1591「天正十九年十一月三日紹巴三益等何木百韻」催、法名；利鉾

L2079 **三益**(さんえき・竹田たけだ、名；弘益、元庵男) ?-1735 播磨の医者；父(本多家出仕の医者)門、
儒；江戸の人見鶴山門/医；井上玄徹門、1700尾張藩主徳川光友招聘で松寿院夫人の侍医、
のち表医師；禄3百石/1725致仕、「家蔵秘巻」「王注老子国字辨」「行余感興集」著
[三益(；通称)の字/別通称/号]字；恭明、初通称；玄春、号；子竜、法号；貞蔵院

N2047 **三益**(さんえき・樋口ひぐち、清水金右衛門2男) 1811-185949歳 信州南殿村の生、
書；嶺頭院15世仏庵大宗門/漢学；諏訪の武井見竜門/医学；樋口三生門、
1837(天保8)三生の息三圭が38歳早世/その息三立が幼少のため三益が樋口家の養嗣子；
幕府侍医を継嗣、1854(安政6)病没；三圭が家督継嗣、
歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[さえかへるゆふべながらに春なれや霞みていづる山の端の月](大江戸倭歌；春175)、

[三益(；号)の名/別号]名；佐蔵(幼名)/秀明(初名)/光徳みつり/隆益、号；今梁(初号)

三益(さんえき；道号) → 永因(えいん；法諱・三益、臨濟僧/詩) 1 3 1 1

三益(さんえき・野坂) → 完山(かんざん・野坂、医者/俳人) Q 1 5 8 0

三益(さんえき・武田) → 立斎(りつさい・武田たけだ、儒医/経学) B 4 9 8 7

三益(さんえき・塩川) → 尚白(しょうはく・江左/塩川、医者/俳人) 2 2 0 3

三益(さんえき・富樫) → 盛正(もりまさ・富樫とがし、藩医/国学) K 4 4 6 8

三亦堂(さんえきどう) → 拙斎(ちゆうさい・渋江、儒；考証学) G 2 8 0 9

三悦(さんえつ・篠崎) → 東海(とうかい・篠崎、儒/国学/故実) 3 1 0 5

02052 **三右衛門**(さんえもん・佐藤さとう、) 1629-169668 陸奥本吉郡馬籠村の生、製鉄職人；荒鉄吹方、
1683(天和3)播磨に製鉄法見学、その間に赤穂で播州流の製塩法を修得、
帰郷後；仙台藩領波路上はじかみ塩田を開発、1690(元禄3)6町7反歩の塩田を完成

2049 **三右衛門**(初世さんえもん・嵐、西崎) 1635-169056 歌舞伎役者；立役、六法ぶりだし芸/俳名；三楽

E2014 **三右衛門**(二世さんえもん・嵐、初世男) 1661-170141 歌舞伎立役者、1690襲名/六法・音曲/俳名；三楽

E2015 **三右衛門**(三世さんえもん・嵐、2世男) 1697-175458 歌舞伎立役者、六法・やつし・所作

L2081 **三右衛門**(さんえもん・樽屋たるや) ?- ? 江中期享保1716-36頃江戸日本橋の名主、
江戸町年寄の樽屋藤左衛門家初代の次子三右衛門が家祖；代々三右衛門を称す、
1710江戸地割役(不行跡により罷免された木原与右衛門の後を継嗣)、
1716-36頃「町年寄地割役由緒」著

L2082 **三右衛門**(さんえもん・後藤ごとう、名；光亨、林はやし弥七4男) 1795-1845刑死51 信濃飯田の商家の生、
1815後藤庄三郎の養子；16家督継嗣/1818より始まる文政天保の貨幣改鑄に携わる、
江戸金座の御金改役、天保改革で水野忠邦側近として活躍、飯田藩主堀親審ちかじげに融資、
1823の飯田大火に見舞金送金・1834三世尾上菊五郎や41七世市川団十郎の飯田興行斡旋、
故郷に貢献、1845(弘化2)水野忠邦失脚後；老中牧野忠雅により貸借事件等で死罪、
1843「ひめふみ」43-44「後藤家記録」著/44「朶雲箋帖」編、「光次叢話」編

[三右衛門(；通称)の幼名/法号]幼名:奥三郎/奥輔、法号:大夢院

- 三右衛門(さんえもん、狂歌:網破損針金)→ 静廬(せいろ・北) D 2 4 2 3
三右衛門(さんえもん・安部)→ 石斎(せきさい・黒沢/安部/与村、藩儒) D 2 4 4 8
三右衛門(さんえもん・駒木根)→ 投李(桃李とうり・駒木根こまきね、藩士/俳人) I 3 1 0 7
三右衛門(さんえもん・彭城/劉)→ 素軒(そけん・劉りゅう/彭城/武岡、通事) J 2 5 6 0
三右衛門(さんえもん・松平)→ 乗良(のりよし・松平まつだいら、幕臣/和学) K 3 5 0 6
三右衛門(さんえもん・竹垣)→ 直温(なおひろ・竹垣たけがき、幕臣/代官) C 3 2 2 9
三右衛門(さんえもん・竹垣)→ 直道(なおみち・竹垣たけがき、幕臣/代官) C 3 2 6 2
三右衛門(さんえもん・服部)→ 時保(ときやす・服部はつとり、藩士/和学) W 3 1 1 0
三右衛門(さんえもん・山根)→ 嘉壽(よしひさ・山根やまね、旗指/歌人) P 4 7 9 1
三右衛門(さんえもん・市野屋)→ 迷庵(めいあん・市野いちの、質商/儒者) 4 3 0 0
三右衛門(さんえもん・小松屋)→ 百亀(ひゃっき・小松こまつ、薬屋/嘶本) E 3 7 9 4
三右衛門(さんえもん・小紅屋)→ 常伯(常白じょうはく・米川よねかわ、商家/香道家) L 2 2 3 8
三右衛門(さんえもん・平福屋/書林)→ 千山(せんざん・井上/越智、商家/俳人) F 2 4 4 7
三右衛門(さんえもん・真野)→ 正次(まさつぐ・真野まの、鷹匠) D 4 0 8 8
三右衛門(さんえもん・宮瀬)→ 竜門(りゅうもん・宮瀬みやせ、劉、儒者/詩) F 4 9 8 0
三右衛門(さんえもん・萩原)→ 時章(ときあき・萩原、和算家) I 3 1 8 8
三右衛門(さんえもん・蘆野)→ 三省(さんせい・蘆野/金野、漢学者) M 2 0 4 4
三右衛門(さんえもん・伊能)→ 穎則(ひでのり・伊能、商人/国学/歌) D 3 7 6 5
三右衛門(さんえもん・鈴木/北)→ 静廬(せいろ・北きた、国学/狂歌) D 2 4 2 3
三右衛門(さんえもん・叶屋)→ 白芹(はつきん・関根せきね、旅宿業/俳人) F 3 6 1 6
三右衛門(さんえもん・叶)→ 小六(四世ころく・嵐、歌舞伎役者) E 1 9 6 3
三右衛門(さんえもん・堀田)→ 之邑(ゆきむら・堀田ほつた/紀、神職) F 4 6 7 8
三右衛門(さんえもん・原)→ 双桂(そうけい・原はら、医/漢学/詩文) B 2 5 1 9
三右衛門(さんえもん・原)→ 念斎(ねんさい・原はら、藩儒/双桂孫) 3 4 6 3
三右衛門(さんえもん・寺村)→ 三貫(さんかん・寺村、商家/俳人) E 2 0 2 0
三右衛門(さんえもん・寺村)→ 百池(ひやくち・寺村、三貫男/俳人) E 3 7 6 6
三右衛門(さんえもん・下河)→ 東里(とうり・下河しもかわ、藩士/儒者/詩) I 3 1 1 1
三右衛門(さんえもん・伊藤)→ 半山(はんざん・伊藤、郷土史家) H 3 6 7 6
三右衛門(さんえもん・永井)→ 隠求(いんきゅう・永井ながい、儒者) I 1 1 4 7
三右衛門(さんえもん・狩谷)→ 掖斎(えきさい・狩谷かりや、国学/漢学者) 1 3 0 7
三右衛門(さんえもん・磯野)→ 本孝(もとたか・磯野、藩士/系譜制作) C 4 4 8 4
三右衛門(さんえもん・黒田)→ 一春(かずはる・黒田くろだ、藩士/歌人) M 1 5 3 9
三右衛門(さんえもん・京極)→ 高明(たかあきら・京極/水野、幕臣/詩人) L 2 6 5 0
三右衛門(さんえもん・砂岡)→ 雁宕(がんとう・砂岡いさおか、俳人) 1 5 5 3
三右衛門(さんえもん・市野)→ 東谷(とうこく・市野いちの、商家/儒者) E 3 1 0 8
三右衛門(さんえもん・眞宮)→ 定広(さだひろ・眞宮まみや、藩士/歌人) J 2 0 5 7
三右衛門(さんえもん・油屋/伊能)→ 穎則(ひでのり・伊能、商家/国学/歌) D 3 7 6 5
三右衛門(さんえもん・鎰屋/鍵屋)→ 黙我(もくが・安藤、商家/俳人) 4 4 7 2
三右衛門(さんえもん・宮崎屋/井上)→ 常之(つねゆき・井上/小原、商家/歌/画) E 2 9 1 5
三右衛門(さんえもん・日野屋)→ 山暁(さんぎょう・川村かわむら、俳人) E 2 0 2 2
三右衛門(さんえもん・中屋)→ 双鳥(そうう・戸谷、商家/俳人) 2 5 5 8
三右衛門(さんえもん・扇屋/榎本)→ 米人(こめんど・酒月さかつきの、商人/狂歌) D 1 9 9 5
三右衛門(さんえもん・土屋)→ 牧亭駒人(ぼくていこまんど、狂歌/歌人) D 3 9 7 4
三右衛門(さんえもん・宮田)→ 金峯(きんぼう・宮田みやた、藩士/儒者) I 1 6 2 6
三右衛門(さんえもん・志賀/原)→ 徳斎(とくさい・原、儒者/紀行) K 3 1 7 2
三右衛門(さんえもん・中島)→ 予斎(よさい・中島/中嶋なかじま、藩儒) B 4 7 8 2
三右衛門(さんえもん・佐藤)→ 牧山(ぼくざん・佐藤さとう、漢学者/教育) D 3 9 3 0
三右衛門(さんえもん・佐藤)→ 信也(のぶなり・佐藤さとう、藩士/国学) I 3 5 5 5
三右衛門(さんえもん・福田)→ 義方(よしかた・福田ふくだ、郷土/文筆家) C 4 7 7 8

- 三右衛門(さんえもん・大島;変名)→ 隆盛(たかもり・西郷さいごう、藩士/倒幕) D 2 6 9 2
三右衛門(さんえもん・水野)→ 正信(まさのぶ・水野みずの、陪臣/国学者) F 4 0 8 2
三右衛門(さんえもん・岡本)→ 豊嗣(とよつぐ・岡本わかもと、商家/歌人) U 3 1 6 0
三右衛門(さんえもん・磯部)→ 守常(もりつね・磯部いそべ、国学者) F 4 4 8 3
三右衛門(さんえもん・加藤)→ 木叟(ぼくそう・加藤かとう、藩士/歌人) G 3 9 1 8
三右衛門(さんえもん・小林)→ 美影(よしかげ・小林こばやし、国学者) M 4 7 7 8
三右衛門(さんえもん・鱸屋いとや)→ 金宝(かねみち・喜多きた、酒造業/歌人) U 1 5 4 7
山右衛門(さんえもん・伊勢屋)→ 行風(こうふう・生白堂/朝倉、狂歌) B 1 9 8 9
算右衛門理正(さんえもんとしまさ・会田)→ 利明(理明としあき・大原/会田、和算家) L 3 1 9 5
杉垣(さんえん・松江) → 氏貫(うじつら・松江、藩士/書家) C 1 2 5 0
杉園(さんえん・すぎの・中西)→ 久受(ひさつぐ・中西/大中臣、神職/歌) B 3 7 3 8
杉園(さんえん・小谷) → 古蔭(ふるかげ/ひさかげ・小谷こたに/おたに、歌人) E 3 8 6 5
杉園(さんえん・小杉) → 楹邨(すぎむら・小杉こすぎ、国学/歌人) B 2 3 6 6
杉園(さんえん・小町谷) → 吉福(よしとみ・小町谷こまちや、農業/国学) M 4 7 8 0
杉園(さんえん・中西) → 石陰(せきいん・中西なかにし、神職/歌人) O 2 4 5 2
三猿(さんえん・松平) → 信登(のぶおき・松平、藩主/記録) B 3 5 0 5
三園(さんえん→みその・宮島)→ 御園(みその・橋たちばな/宮島、藩士/歌人) H 4 1 5 0
三園(さんえん・神谷) → 克楨(かつさだ・神谷かみや、藩士/故実) N 1 5 3 2
三円(さんえん・樺山) → 資之(すけゆき・樺山かばやま、藩士/勤王) B 2 3 0 1
三縁院入道前関白左大臣(さんえんいんさきのかんぱくさだいじん)→ 道教(みちのり・九条) C 4 1 2 4
三猿斎(さんえんさい・伊木)→ 忠澄(ただずみ・伊木いぎ/土倉、藩家老/歌) V 2 6 4 0
山遠里(さんえんり;配流名)→ 隆寛(りゅうかん;法諱、浄土僧/多念義祖) D 4 9 2 6
L2083 三翁(さんおう) ? - ? 江戸俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
山翁(さんおう、俳人) → 東臯(とうこう・高橋、書家) D 3 1 8 3
算翁(さんおう・田中) → 千村(ちむら・田中たなか、藩士/国学者) M 2 8 7 4
残翁(ざんおう・天野) → 信景(さだかげ・天野あまの、藩士/国学者) 2 0 1 8
残翁(ざんおう・佐藤) → 蕉廬(しょうろ・佐藤、幕吏/国学/詩歌) M 2 2 0 7
山桜戸(さんおうこ) → 正平(まさひら・萩原、国学/神道家) G 4 0 8 8
山桜子(さんおうし・中川) → 喜雲(きうん・中川なかがわ、医者/俳人) 1 6 0 2
山桜楼(さんおうろう) → 正之(まさゆき・加藤かとう、商家/尊王) I 4 0 3 7
杉屋(さんおく・三本) → 貞健(さだたけ・三本みもと、国学者・歌) P 2 0 4 9
E2016 杉化(さんか) ? - ? 江戸俳人:芭蕉門、1680「桃青門弟独吟廿歌仙」入
L2084 杉下(さんか) ? - ? 俳人:1698「続猿蓑」入、
[風ごとに長たけくらべけり 蔦つたかづら](続猿蓑;下;秋草)
E2018 傘下(さんか・加藤かとう、通称;治助)?-? 尾張名古屋の俳人:芭蕉門、荷兮系俳書に所見、
1689「あら野」35句入、1693荷兮「曠野後集」/94荷兮「ひるねの種」/98「続猿蓑」入、
[駒鳥の目のさやははずす高ね哉](続猿蓑;下鳥/駒鳥は高鳴きの時頭を左右に振る)
L2085 三化(さんか・瓢乞士) ? - ? 江後期俳人;積翠門、
1813「野さらし紀行翠園抄」編、1815「さこくらへ」編
三霞(さんか・木村) → 履軒(りけん・木村きむら、儒者/書家) 4 9 9 5
山花(さんか・岩波) → 午心(ごしん・岩波、俳人) D 1 9 0 1
餐霞(喰霞さんか・祇園) → 尚濂(しょうれん・祇園ぎおん、藩儒/詩) M 2 2 0 3
樹華(さんか・杉) → 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2
E2017 三ヶ(さんか) ? - ? 俳人、1679惟中「太郎五百韻」入
L2086 蚕臥(さんか・沢田さわだ、名;正線、別号;蒲廬ほろ亭)?-? 江中後期1781-1804頃越中戸出の俳人、
康工門、京で医を修学、1793「芭蕉新巻」、「蚕臥公山中道の記」「俳諧三夕談」著
L2087 杉芽(さんか・山本やまもと、名;頼一) 1813-87 75 陸前仙台藩士、藩校養賢堂で修学、童子教育、
多くの志士と交流;開国説主唱/松浦武四郎・小野寺鳳谷らと「寛政魯国遣使始末」外編纂、
西洋医学を唱揚;種痘普及に尽力、1859藩主伊達慶邦に認められ御帳役から武頭に昇進、

俳人、1849「しのふすり」編、

[杉芽(；号)の幼名/通称/別号]幼名；今朝松、通称；文治/文治郎/兵衛/又貫/百内、
別号；麓庵/禁庵/堇浦

- L2088 **三瓦**(さんが・竜りゅう、名；維孝、雪窓男)1823-9371 伊勢山田の儒者；1839大阪の篠崎小竹門、
のち伊勢津の斎藤拙堂門/帰郷後は独学で研鑽/山田学校教授、1855「僊月影唱和」著、
[三瓦(；号)の字/通称/別号]字；伯仁、通称；主計かづえ、別号；東洲/松菊草堂
三雅(さんが) → 一通(いつう・坂本屋、俳人) H 1 1 6 3
- L2089 **残花**(ざんか・上田うえだ、名；美寿みず、三宅松庵女)1784-185774 上田官兵衛妻、阿波美馬郡脇町俳人、
「阿波国上田美寿日記」、随筆「いつまで草」、「残花稿本」著、「残花遺稿」、碧水の母
残瓦(ざんが・清水) → 義壽(よしひさ・清水しみず、神職/国学) N 4 7 2 8
三瓜庵(さんかあん) → 柳尾(りゅうび・内田、俳人) F 4 9 4 5
三瓜庵(さんかあん) → 流美(りゅうび・間野まの、俳人) F 4 9 4 6
- L2090 **山海**(さんかい・稲村いなむら、名；松茂、俳人桃花源上老人男)?-? 信濃松本の俳人；父門、
松本に俳諧結社創立、1781「姨捨集」刊、1783信州訪問の菅江眞澄と交遊；共に姨捨山の旅、
[山海(；号)の字/号]字；元如/逸郎、号；松声廬/微雨窓/虎鼠窟/時習庵、百瀬峨月の師
三亥(さんがい→みつゐ・市河)→ 米庵(べいあん・市河いちかわ、儒者/詩/書家) 2 7 0 0
山外高樹楼(さんがいこうじゅうろう)→ 茂正(しげまさ・竹村たけむら、国学/歌/神職) Z 2 1 3 6
三階松屋(さんがいしょうおく)→ 道雄(みちお・新庄/藤原、商家/国学者) B 4 1 2 6
山海堂(さんかいどう) → 風光(ふうこう・和知、俳人) 3 8 5 8
三戒堂(さんかいどう) → 芳草(ほうそう・三戒堂、俳人) C 3 9 1 5
三界無頼(さんがいぶらい) → 梅崖(せんがい；法諱・奕堂、曹洞僧) F 2 4 9 2
- M2092 **傘外無庵**(さんがいむあん) ? - ? 狂歌作者；1787「狂歌才蔵集」入、
[十三里乗合船の一夜鮎ひとよしまごとまごとに仕切りてぞ買ふ](才蔵集；三113一夜鮎)、
(京大坂間は十三里；船中一泊/仕切った船室ごとに一夜鮎を切分けて買う；賑わう乗客)
三果園(さんかえん) → 蕪村(ぶそん・与謝、俳人) 3 8 1 1
三菓園(さんかえん) → 月居(げつきよ・江森、俳人；蕪村門) 1 8 0 7
三香園(さんかえん) → 永隆(ながたか・喜多山きたやま、国学/兵学) L 3 2 8 5
山下園(さんかえん) → 英一(えいち・静斎、小林市太郎、絵師) B 1 3 9 0
三華翁(さんかおう) → 斉泰(なりやす・前田、藩主/謡曲) E 4 0 3 8
餐霞館(さんかかん) → 治憲(はるのり・上杉鷹山、藩主/儒) G 3 6 7 1
- L2091 **三鶴**(さんかく・向井むかい、名；義介/通称；弥平次)?-1769 伊予松山藩士；旗奉行；150石、
兵法家；木村勝政門/源家古法の皆伝、藩主松平定功の兵法学師範、
1748師位を継承し松山藩軍師、柳生流剣術・志道流半弓にも長ず、1699「明珍伝鎧名所図」、
「貫草録」「御自筆覚書」「免許心得書」著
- E2019 **三角**(さんかく、奥田おくだ、名；士亨、宜休男)1703-8381 伊勢榑田の大庄屋に生/儒；柴田蕪州門、
古義学；1721伊藤東涯門、長兄竜溪の嗣、1731津藩儒；門弟8百余名/76致仕、詩歌/書を嗜む、
1729「詠象詩」編、「三角集」「詩経国風詁解」「相馬図説」「明史目録」「蘭汀文集」、「孝子伝」編、
[三角(；号)の字/通称/別号]字；嘉甫、通称；宗四郎/清十郎、別号；三角亭/蘭汀/南山、
諡号；簡肅先生
- L2092 **三角**(さんかく) ? - ? 俳人；1772几董「其雪影」(273)入、
1777江涯「仮日記」(106)/1782蕪村「花鳥篇」(60)入、
[山おろしふせぐ青葉や花の楯たて](花鳥篇；60)
- F2071 **山郭**(さんかく・劉りゅう) ? - ? 佚斎樗山の談義本「田舎荘子いなかぞうし」内編の序(1727.9月)
- L2093 **三岳**(さんかく・鈴木すずき)1792- 185463 三河吉田の俳人・卓池門、画；渡辺崋山門、
1849「崋山先生俳諧画譜」編/52「むくらかり」著、崋山の遺墨を蔵す、蓬宇と親交、
[三岳(；号)の通称/別号]通称；与兵衛、別号；椎廬舎/椎屋
三学(さんがく・紀) → 鹿衝(ろくがん・紀き/石、篆刻家) 5 2 7 9
賛岳(さんがく・中村) → 十竹(じちく・中村なかむら、藩士/書画) U 2 1 9 3
算学(さんがく・和田) → 寧(やすし・和田わだ、和算家) B 4 5 6 1
参叡成(さんかくせい) → 直胤(ただたね・横川よこかわ、和算家/史家) P 2 6 7 9

三角亭(さんかくてい) → 三角(さんかく、奥田おくだ、藩士/儒者) E 2 0 1 9
 三角堂(さんかくどう) → 景佑(かげすけ・渋川しぶかわ、天文曆算家) K 1 5 9 2
 三学堂(さんかくどう) → 峯陽(とうよう・千村/木曾、儒者) H 3 1 8 7
 三学堂(さんかくどう) → 立栄(初世りゅうえい・野村/舍人、医者) C 4 9 8 5
 三学堂(さんかくどう) → 立栄(2世りゅうえい・野村/野、初世男/医者) C 4 9 8 7
 山岳道者(さんかくどうしや) → 大雅(たいが・池/池野、絵師;文人画) B 2 6 1 2
 三岳道者(さんかくどうしや) → 芙蓉(ふよう・高こう/大島、篆刻家) E 3 8 4 7
 山岳道者(さんかくどうしや) → 天壽(てんじゅ・韓かん/青木/中川、書家) D 3 0 7 2
 三果軒(さんかげん) → 蕪村(ぶそん・与謝/谷口、俳人/絵師) 3 8 1 1
 山霞軒(さんかげん・山崎) → 英常(ひでつね・山崎やまさき、藩士/郷土史) D 3 7 2 7
 三我主人(さんがしゅじん) → 竹田(ちくでん・田能村、儒/絵師/詩人) D 2 8 5 4
 山家女(さんかじよ) → 赤城山人(あかぎさんじん、戯作者) D 1 0 2 7
 山人(さんかじん・岩波) → 午心(ごしん・岩波、俳人) D 1 9 0 1
 山臥井老蛙(さんがせいらうあ) → 百庵(ひやくあん・寺町/越智、幕臣/茶/歌) E 3 7 4 3
 山家大師(さんかだいし) → 最澄(さいちよう;法諱、天台開祖/歌) 2 0 0 5
 三果亭(さんかくてい) → 紫笛(してき・如雲舎、黄檗僧/狂歌) F 2 1 2 1
 三菓亭(さんかくてい・画号) → 蕪村(ぶそん・与謝・谷口、俳人/絵師) 3 8 1 1
 三菓堂(さんかどう) → 蕪村(ぶそん・与謝・谷口、俳人/絵師) 3 8 1 1
 三菓堂(さんかどう) → 月溪(げつけい・松村、俳人・絵師) B 1 8 0 4
 杉霞楼(さんかろう) → 吉孝(よしたか・小町谷こまちや、農業/歌人) E 4 7 0 8
 山花老人(さんかろうじん) → 貞置(さだおき・織田/平、幕臣/茶人) H 2 0 8 4

E2020 **三貫**(さんかん・寺村てらむら、名;了爾) **?-?** 京の糸問屋/俳人;巴人[1676-1742]門、
 百池[1748生]の父、1772几董「其雪影」1句(381)/77蕪村「夜半楽」1句(11)入、
 [はつ雪やふりふり帰る牛車うしぐるま](其雪影;巻尾381/雪が降ると首を振るを掛ける)
 [三貫(;号)の通称/別号]通称;三右衛門、別号;洒白窓

L2094 **三貫**(さんかん・渋谷しぶや、名;誠) **1798-1864** **67** 越後蒲原郡三貫野の大庄屋の生、
 絵師:羽後本荘の増田九木門/京の浦上春琴門、山本梅逸・中林竹洞と交流、1833帰郷、
 1833書画詩歌会を主催、華道・俳諧を嗜む、富川大塊と交流、嘉永1848-54頃「佐渡栞」著、
 門弟;庄川松雲・小林重儀など、
 [三貫(;号)の字/通称/別号]字;公成、通称;洒左衛門、別号;桑園/実骨

N2053 **三貫**(さんかん・河野こうの) **?-?** 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
 [水枯れて蘆あしが花散る冬川に浮ぶかもめの声あはれなり](大江戸倭歌;雑1788/鷗)、
 [日影ひかげ見ぬ山下沼のあやめ草あすは都に夏をしるらむ](現存百人一首;80)

山間月(さんかんげつ) → 依平(よりひら・石川いしかわ、国学/歌人) 4 7 3 5
 山間月(さんかんげつ) → 方教(よりのり・原川はらかわ、依平門歌人) O 4 7 6 6
 山閑人(さんかんじん) → 交来(こうらい・武田、茶屋/傭書家/合巻) L 1 9 5 2
 三緘堂(さんかんとう、三緘主人) → 海屋(かいおく・貫名ぬきな、書家/画人) 1 5 9 1
 三閑老人(さんかろうじん) → 兼良(かねよし・一条、撰閑/古典/連歌) 1 5 3 7

L2095 **三喜**(三帰さんき・田代たしろ、名;導道、兼綱男) **1465-1544(80歳) or 1473-1537(65歳)** 武州の医者、
 代々の医家/医を志し臨濟宗妙心寺派の禅僧;足利学校庠主利陽門、1487中国に渡る、
 李東垣・朱震享の医術修得/日本の留学僧月湖に師事/1498帰国;鎌倉円覚寺江春庵住、
 古河公方足利成氏に招聘;下総古河に移住;のち関東各地遊歴、日本の李朱医学の祖、
 この学は曲直瀬まなせ道三[一溪]・玄朔により継承、「三喜直指篇」「三喜十卷書」「能毒集」、
 「小児諸病門」「諸食禁好集」「眼療秘方書」著、「三帰流大成捷術之方」「三帰流夜談義」編、
 1525「捷術大成印可集」03「当流和極集」著、外編著多数、
 [三喜(;通称)の字/号]字;祖範、号;範翁/意足軒/支山人/江春庵/日玄/善道/玄淵、
 法号;三喜一宗居士

L2096 **三喜**(さんき・鍋谷) **?-?** 大阪の俳人;1678西鶴「物種集」入、
 1691賀子「蓮実」1句入、

[荻薄をぎすき最眞いきのならぬ夕べ哉](蓮実;308/秋風にそよぐ風情は共に捨てがたい)

- N2004 **山亀**(さんき) ? - ? 俳人;1691不角「二葉之松」1句入、
[枯木にも花にも同じ風の音](二葉之松;368/天地は公正)
- L2097 **三鬼**(さんき・赤根あかね) ? - ? 江末期俳人、1853「なかの九日」編
- 三紀(さんき・岡島) → 木兵(もくへい・岡島おかじま、俳人) B 4 4 0 8
三希(さんき・楊井) → 盛良(もりよし・楊井やない、藩士/儒者) G 4 4 8 9
三喜(さんき・橘) → 三喜(光義みつよし・橘たちばな、神道家) F 4 1 1 7
三季(さんき/みつかつ・堀) → 季雄(ときかつ・堀ほり、藩士/詩歌/国学) J 3 1 0 5
三輝(さんき・千葉) → 葛野(かどの・千葉/大蔵屋、国学/歌) 1 5 7 1
三宜(さんぎ・高木) → 源六郎(げんろくろう・高木たかぎ、幕臣/歌) N 1 8 4 5
三宜(さんぎ・小川) → 宜(ぎ・小川おがわ、医者/儒者) T 1 6 6 6
三義(さんぎ・小川) → 忠篤(ただあつ・小川おがわ、医者/儒/勤王) P 2 6 1 8
三宜園(さんぎえん・小川) → 宜(ぎ・小川おがわ、医者/儒者) T 1 6 6 6
餐菊館(さんぎくかん) → 琴山(きんざん・櫛田くしだ、儒者) H 1 6 8 9
三宜斎(さんぎさい;号) → 昌陸(しょうりく・里村;南家、幕府連歌師) B 2 2 9 2
纂己叟(さんきそう) → 魯庵(ろあん・石川いしかわ/水野、藩儒) 5 2 1 3
三吉(さんきち・市河) → 雲潭(うんたん・鎭木かぶらぎ、絵師) D 1 2 9 4
三吉(さんきち・劉) → 石秋(石舟せきしゅう・劉りゅう/合谷、儒者) D 2 4 5 2
三吉(さんきち・谷田部) → 胤久(たねひさ・谷田部やたべ、国学者) 2 7 0 7
算耆亭(さんきてい) → 宗好(むねよし・間宮まみや、国学者) C 4 2 8 8
三帰堂(さんきどう) → 一肖(いっしょう・津民/小森、俳人) C 1 1 8 3
- F2072 **算木有政**(さんぎのありまさ、羽倉はくら/細井、名;訓之のりゆき)?-1823 下総古河生、国学;荷田蒼生子たみに門、
草屋師鱒もろあじ(橘実副みぞえ)の兄、狂歌:元木網門、羽倉/荷田姓を名乗る、
江戸数寄屋町二丁目住/のち京橋弥左衛門町住、
「言霊草稿」、1782橘州「若葉集」16首/赤良「後万載」2首・「狂歌才蔵集」入、
[こがれゆく妹もがり船のをき炬燵ごたつ栄耀いように餅のかは千鳥かな](才蔵集;六冬)、
(本歌;貫之「思ひかね妹がり行けば冬の夜の川風寒み千鳥鳴くなり」(拾遺集))、
[算木有政(;号)の通称/別号]通称;三河屋[細井]長助、別号;常総庵/言霊翁
- 三脚(さんきゃく;号) → 湖心(こしん;道号・碩鼎;法諱、臨濟僧) M 1 9 8 2
- L2098 **三級**(さんきゅう;号・公嚴;法諱、右大臣中院通為男)?-? 母;三条西公条女、山城山科毘沙門堂の僧、
天台僧;恵水門/1596-1615頃山科の僧正/のち還俗、1611「慶長十六年五月四日何人百韻」、
[三級(;号)の別号]玄庵(;還俗後の号)
- L2099 **三休**(さんきゅう・無事庵ぶじあん、姓;志村むら) 1701-57 幕臣;江戸城西丸御広間方組頭格、
茶人;三斎流中井祐甫門/書に長ず、松平治郷(不昧)の師、1748「茶道伝心録」、
[無事庵三休(;号)の別号] 宗一/不遠斎/不違斎
- M2000 **三休**(さんきゅう・渡辺わたなべ、名;順/栗、信男) 1778-1851 74 加賀金沢藩士/儒;林屋山門、
1792学校読師/93定番御歩;禄30俵/97江戸;昌平覺修学;1801帰郷/18新番組、
1824藩儒;禄百石、38頭並/都講/39物頭並;役料百五十石/藩校明倫堂・経武館督学、
藩主侍読を兼任、1846退隠;三休に改号、「皇朝百代通略」編、
[三休(;隠居号)の字/通称/別号]字;祐夫、通称;吉次郎/吉郎/兵太夫、別号;文堂
- F2073 **山丘**(さんきゅう・楚雲堂) ? - ? 上方の狂歌作者・紫笛門
- 三休(さんきゅう・有庵) → 敦通(あつみち・久我こが/源、権大納言/能書) C 1 0 7 2
三久(さんきゅう・森脇) → 三久(みつひさ・森脇もりわき、藩士/古典/神道/歌) K 4 1 8 3
三九(さんきゅう・十字亭、糸井鳳助) → 一九(いっく・二世十返舎) B 1 1 3 7
三丘(さんきゅう・木梨) → 恒充(つねみつ・木梨、藩士/絵師) D 2 9 9 3
三休庵(さんきゅうあん) → 万仞(ばんじん;道号・道坦どうたん、曹洞僧) I 3 6 0 7
- M2002 **三休子**(さんきゅうし・梅花軒ばいかげん、上坂こうさか/中沢なかざわ/本姓;源、中沢道可[夕庵]3男) 1672-?1726 存
母;久米九兵衛女(上坂可一の養女)、磐城棚倉藩士、藩主内藤弑信に出仕/1701頃江戸住、
1726「梅花軒随筆」著、
[梅花軒三休子(;号)の名/通称/別号]名;命、通称;平次郎、別号;老鶴翁/雅明叟/樂亀斎

- 三級亭(さんきゅうてい) → 魚文(魚汶ぎよぶん、俳人) D 1 6 6 8
三魚(さんぎょ・佐々木) → 春夫(はるお・佐々木、商人/国学/歌) G 3 6 0 5
三居庵(さんきょあん) → 飛良(ひりょう・大倉おおくら、俳人) F 3 7 4 4
三居庵(さんきょあん) → 古音(こおん・大倉、飛良男/神職/俳人) C 1 9 1 7
- M2003 三橋(さんきょう・甘棠舎/青風舎)?-? 上州館林高根の俳人:涼袋(建部綾足)門、
1763「たづの足」著/74「柳風狂句類題集」編
- E2021 傘狂(さんきょう・大野おの、名;親芳)1727-9367歳 美濃岩手村の俳人:以哉坊門、菊舎尼の師、
美濃の旗本竹中家の家臣、美濃派(以哉派)6世道統、
1756「傘狂月次集」83「道之月」編、「世の花」編、
[傘狂(;号)の別号]是什坊/朝暮園/老森庵/風諭子/花中人
- M2004 三峽(さんきょう) ? - ? 俳人;1772几董「其雪影」1句入、
[水に添ふて橋たづぬるや朧月](其雪影;243)
- 三橋(さんきょう・伊藤) → 臨臯(りんこう・伊藤いとう、儒者) K 4 9 2 5
三鏡(さんきょう) → 豊熙(とよてる・山内、藩主) R 3 1 3 3
山郷(さんきょう・浅加) → 久敬(ひさたか・浅加あさか、国史・国学・歌) B 3 7 2 1
- M2005 参行(さんきょう・伊藤いとう、本名;花形はながた浪江なみえ)1745or46-180965/64 京の生、
江戸浅草山谷で彫刻業、1766富士講の行者;一行花いちぎょうはな(食行身禄の三女)門;
食行身禄じきぎょうみろくの教義を継承、花(伊藤氏)の養子として伊藤に改姓、富士講2代目教主、
小谷三志の師、
「御ふりかはり」「食行身禄伝」「ゑぼし山御伝解」/1806「四民教諭」08「四民の巻」著、
[参行(;行名)の通称/別行名]通称;伊兵衛/、別行名;六王/心仏
- M2006 三暁(さんきょう) ? - ? 大阪の俳人;1773几董「続明烏」1句入、
[光るめり糰糰(じんだ)の中の薄氷](続明烏;701/糰糰は糠味噌;瓶かめの中まで凍る寒さ)
- F2074 三暁(さんきょう・春亭) ? - ? 合巻作者:1821遺稿「十種香萩廼白露」弟歌川国直画
- E2022 山暁(さんきょう・川村かわむら)?-? 江戸横山町の俳人:寥松門、
1828「紫苑の露」編/41「俳諧職人百女」編/44「俳諧ゆかりの一もと」編、
[山暁(;号)の通称/別号]通称;日野屋三右衛門、別号;正風堂/閑月庵/俳阿弥
- 三暁(さんきょう・金井) → 由輔(2世ゆうすけ・金井、歌舞伎作者) C 4 6 8 6
三居庵(さんきょあん) → 飛良(ひりょう・大倉、俳人) F 3 7 4 4
山興(さんきょう・桜井) → 雪館(せつかん・桜井さくらい/桜、絵師) K 2 4 7 9
三狂庵(さんきょうあん) → 桐羽(とうう・窪田くぼた、藩士/俳人) B 3 1 1 5
三暁庵(さんきょうあん) → 探元(たんげん・木村/平、絵師) T 2 6 4 0
三教主人(さんきょうしゅじん) → 蘇門(そもん・服部はつとり、漢学/仏典) E 2 5 4 2
三曲窩(さんきょくか) → 含粘(がんねん、俳人) E 1 5 1 2
三玉斎(さんぎょくさい・小島) → 嘉木(よしき・小島こじま/水原、陪臣/歌人) M 4 7 7 3
山旭亭主人(さんきょくていしゅじん) → 眞婆行(まばゆき・山旭亭さんきょくてい、商家/戯作) K 4 0 0 3
山旭亭眞婆行(さんきょくていまばゆき) → 眞婆行(まばゆき・山旭亭さんきょくてい、商家/戯作) K 4 0 0 3
三近(さんきん、俳人) → 遯菴(とんあん・宇都宮、儒者/詩) 3 1 6 8
三芹(さんきん・小池) → 白麻(はくま・小池、俳人) D 3 6 9 3
- F2077 三近子(さんきんし・中村なかむら/本姓;平、名;一蒼)1671-174171 京の儒者:山崎闇斎門、町の闇斎学者、
一時尾張藩に出仕、京の町学者として啓蒙的教訓書を多数著述、
[第一類]節用・調法記類;1695「書札調法記」著/97「用文章指南大全」編、1730「一代書用」著、
「一世宝要袋」「俗諺注釈」「筆用文林富貴蔵」著等
[第二類]随想風教訓類;1729「象のみつぎ」31「温知政要輔翼」「六論衍義小意」著、
「児戯笑談」著(没後刊)等、
[第三類]絵師との共著類;1735「謡曲画誌」編/39「絵本池の心」著等、
[三近子(;号)の通称/別号]通称;勘介/平吾/平五、別号;三近堂/綱錦斎けいめんさい、
法号;綱錦院
- 三近子(さんきんし、由的、俳人) → 遯菴(とんあん・宇都宮、儒者/詩) 3 1 6 8
三近舎(さんきんしゃ・小野) → 高潔(たかきよ・小野おの、幕臣/国学者) C 2 6 6 9

- E2023 **山金堂**(さんきんどう) ? - ? 書肆?、俳諧;
1803季寄「四季の持扇もちおうぎ」著(；方円庵序/季題2440余を月順に集録)
三近堂(さんきんどう) → 三近子(さんきんし・中村、儒者) F 2 0 7 7
三近堂(さんきんどう) → 栗山(りつざん・柴野、幕府儒官/異学の禁) 4 9 0 3
三九(さんく・十字亭) → 一九(2世いっく・十返舎、戯作者) B 1 1 3 7
山隅(さんぐ;字) → 難海(なんかい;法諱/山隅、僧/歌人) O 3 2 1 8
三隅山莊主者(さんぐうさんそうしゅしや) → 清風(せいふう・村田、藩士/歌人) C 2 4 9 5
- N2049 **参九郎**(さんくろう・山本やまと/本姓;源、名;政布まさのぶ?)?-? 江後期歌人、幕臣?
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[花鳥はなとりのいろねをめづる心のみ世にのがれ得ぬ春のあけぼの]、
(大江戸倭歌;春194/閑居春曙)
三九郎(さんくろう・前田) → 知好(ともよし・前田まへだ、藩士/城代) Q 3 1 9 0
三九郎(さんくろう・前田) → 知足(ともたり・前田、藩士/系図) P 3 1 7 4
三九郎(さんくろう・石田) → 面のあつき(つらのあつき、狂歌) E 2 9 4 4
三九郎(さんくろう・横田) → 柳几(りゅうき・横田よこた、酒造業/俳人) D 4 9 3 0
三九郎(さんくろう・横田) → 柳也(りゅうや・横田、柳几男/俳人) F 4 9 8 1
三九郎(さんくろう・高井) → 鴻山(こうざん・高井たかい、農業/儒/歌) J 1 9 3 3
三九郎(さんくろう・川上) → 貴行(たかゆき・川上かわかみ、和算家) N 2 6 6 3
三九郎(さんくろう・浅野) → 栗斎(りつさい・浅野/中村、藩士/儒者) B 4 9 9 6
三九郎(さんくろう・山田) → 政平(まさひら・山田やまだ、藩士/神職) M 4 0 9 2
山君(さんくん・安西) → 雲煙(-烟うんえん・安西あんざい、書画鑑定) D 1 2 5 7
山君(さんくん・田中) → 寅亮(とらすけ・田中たなか、藩士/尊王派) R 3 1 7 6
- E2004 **山螢**(さんけい・天満) ? - ? 江前期上方の俳人、
1673西鶴「生玉万句」第一吉書きつは脇句入、
[庭訓ていきんによむ谷の螢](吉書脇句/庭訓往来;習字の手本、
発句;信元孫しんげんのまご[7歳];書初のことしは七伊呂波哉)
- M2007 **三圭**(さんけい・恵美えみ、名;貞秀、三白男)1762-184180 広島島の医者/父の養嗣子大笑たいしやうの後継、
安藝広島藩医;代々三白を襲名、「流行病愚考」著、
[三圭(；通称)の字/別通称]字;君美、別通称;三白
- M2008 **三溪**(さんけい・藤川ふじかわ、名;忠猷、藩儒医藤川南凱男)1816-8974 母;鈴木八重、讃岐高松藩士、
儒;中山城山門/1841長崎で蘭学・砲術;高島秋帆門、銃殺捕鯨を体験、
1851江戸輪王寺宮家の侍講/高杉晋作・日柳燕石らと交流;帰藩後尊攘運動参加、
1863竜虎隊を組織;洋式訓練と砲台建設、佐幕派により投獄;1868出獄;上京、
奥羽鎮撫総督沢為量に出仕、維新後捕鯨舎設立;初の水産学校を開設、1851「三溪学矩」、
1863「孝明天皇紀略」編、「盛徳史料及盛徳記」編/「蘆中漁唱」「皇国千字文」「弟子則」、
[三溪(；号)の字/通称]字;伯孝、通称;求馬/能登/将監
- 2050 **三溪**(さんけい・菊池きくち、名;純、梅軒男)1819-9173 紀伊の儒者;安積良斎・林檎字でい門、
和歌山藩江戸赤坂藩邸内明教館教授/1863幕府儒官;66將軍家茂急逝;下総に隠棲、
維新後は常陸下館藩校に招聘/晩年は京都で著述;随筆家、1845「西苑記」著、
1848「香雲楼詩鈔」52「三溪文稿」55「雨辰余筆」59「晴雪楼余稿」64「簾鬢集」65「京華集」、
1868「晴雪楼詩鈔」、「晴雪楼文話」「晴雪楼存稿」「国史略」「訳準綺語」「遊勢奇賞」外著多数、
[三溪(；号)の字/通称/別号]字;子頭、通称;純太郎、別号;晴雪楼主人
- E2027 **杉溪**(三逕さんけい・小山おやま、名;尚陶)1819-9678 備中上出部村の儒者;1831京の梅辻春樵門、
1836江戸昌平黌に修学/蘭学;箕作阮甫門/阮甫推挙で1852越後高田藩校修道館教官、
廃藩後は私塾で子弟教育/画にも長ず、小野湖山・丸田初齋と親交、1850「雷撃銃略記」訳、
1855「百幾撤私」訳、「話多耳羅戦記」訳、
[杉溪(；号)の字/別号]字;猶存、別号;三逕
- E2026 **杉卿**(さんけい・松井まつい) ? - ? 俳人、採茶庵七世
- M2009 **三慶**(さんけい・岡おか、名;道/字;明卿?)?-? 江末明治期1848-1912頃の漢学者、
儒;森田節斎・月瀬門、「岡三慶日記」、「断腕記」著、明治期に文章に関する著多数

- 三径(さんけい・山本) → 泰順(たいじゅん・山本、儒者) K 2 6 2 6
 三径(さんけい・苗村) → 丈伯(常伯じょうはく・苗村なむら、仮名草子) B 2 2 2 3
 三圭(さんけい・梶谷) → 守久(もりひさ・梶谷かじたに、医者/国学) J 4 4 6 6
 三逕(三慶さんけい・五条坊ごじょうぼう) → 木尻(もくじ・伊藤いとう、俳人) 4 4 9 0
 暫計(ざんけい・紀) → 紀暫計(きのざんけい、仮名草子作者) L 1 6 7 6
 狻猊子(さんげいし) → 昌喜(昌熹まさよし・入江、国学者/歌) I 4 0 5 3
 山珪士信(さんけいしん) → 意斎(いさい・山田、書/狂歌/浄作/読本) 1 1 8 3
 三禊舎(さんけいしゃ) → 義彦(よしひこ・斎藤/荒船、神道家/歌) G 4 7 2 0
- M2010 杉月(さんげつ、初号;茶堂)? - ? 京の料亭の主人/俳人:1783維駒「五車反古」入、
 [巻葉より浮葉にこぼせ蓮の雨](五車反古;247/蓮の花に降り注ぐ雨に注文)
 山月(さんげつ) → 応其(おうご・木食上人、真言僧/連歌) 1 4 0 1
 山月(さんげつ・佐伯) → 貞中(さだなか・佐伯、酒造業/俳・歌人) J 2 0 0 3
 山月庵(さんげつあん) → 古柳(こりゅう・山月庵:1804-18頃戯作) N 1 9 9 3
 山月庵京鶴(さんげつあんきょうかく) → 恒成(つねなり・瀬川、戯作者) C 2 9 9 5
 山月庵主人(さんげつあんしゅじん) → 恒成(つねなり・瀬川、戯作者) C 2 9 9 5
 山月堂(さんげつどう) → 泰温(やすあつ・加藤かとう、藩主/国学) F 4 5 6 5
 山月楼(さんげつろう) → 水丸(みずまる・山月楼、狂歌) 4 1 9 4
 残月(ざんげつ・島) → 霞ト(かほく、島しま、商家/俳人) P 1 5 4 0
 残月庵樹安麿(ざんげつあんきやすまろ) → 正蔭(おおかげ・中臣、歌人/狂歌) C 1 4 7 5
 残月翁(ざんげつおう) → 義旭(よしあきら・宮部みやべ、藩老/蘭学) C 4 7 0 5
 残月軒(ざんげつけん) → 清風(せいふう・鈴木すずき、商家/俳人) C 2 4 9 4
 残月堂(ざんげつどう) → 清蔭(きよかげ・松井まつい、歌人) V 1 6 2 3
 三軒(さんけん;号) → 円祥(えんしょう;法諱、真宗高田派僧) E 1 3 9 9
- E2028 参玄(さんげん・法師) ? - ? 僧/歌人、新後拾遺1322、
 [なほふかく山より山を尋ねてぞ捨てし心の奥もしられむ](新後拾;十六雑1322)
 三巖(さんげん・柳生) → 三巖(みつよし・柳生やぎむらう、十兵衛、剣豪) F 4 1 1 5
 三彦(さんげん・梅田) → 三彦(かずひこ・梅田うめだ、藩士/歌) M 1 5 4 0
 三彦(さんげん・賀茂) → 経春(つねはる・賀茂/岡本、神職/国学) D 2 9 2 9
 三玄(さんげん;字) → 大乘(だいじょう;法諱・三玄;字、曹洞僧) K 2 6 3 8
 三玄(さんげん;道号) → 宗訊(そうじん・小村こむら、連歌師) C 2 5 2 2
 算彦(さんげん・松木) → 算彦(かずひこ・松木まつき/度会、神職) V 1 5 7 4
 暫軒(ざんけん;法名) → 直利(なおとし・根岸、藩士/俳人) B 3 2 7 9
- M2011 山呼(さんこ) ? - ? 丹後宮津の俳人、1782蕪村「花鳥篇」1句入;34、
 [さくら咲く中や樵夫きりが飯いひけぶり](花鳥篇;34)
 三壺(さんこ・山田) → 四郎右衛門(しろうえもん・山田、記録編纂) N 2 2 0 8
 三虎(さんこ・中村) → 善武(よしたけ・中村なかむら、藩士/国学) O 4 7 2 2
- M2012 参後(さんご) ? - ? 若狭雲浜俳人、1691江水「元禄百人一句」目録入
 F2078 珊瑚(さんご) ? - ? 俳人、1706困水「こころ葉」発句入
 三午(さんご・熊野御堂) → 義路(よしみち・熊野御堂くまのみどう/高、国学) M 4 7 6 2
 三吾(さんご・斎藤) → 南溟(なんめい・斎藤さいとう、儒者) 3 2 3 8
 三吾(さんご・安原) → 方斎(ほうさい・安原やすはら、儒者) 3 9 8 1
 三吾(さんご・幡鎌) → 鄰斎(りんさい・幡鎌はたかま、儒者) K 4 9 2 9
 三吾(さんご・高橋) → 良休(よしやす・高橋たかはし、歌人) L 4 7 0 9
 三五(さんご・黒川/島川) → 鎌満(かままる・島川、藩士/国学/歌人) F 1 5 8 5
 三五(さんご・桑原) → 桂叢(けいそう・桑原くわばら、絵師) G 1 8 2 8
 参伍(さんご・武田) → 眞元(しんげん・武田たけだ、暦算家) O 2 2 2 3
 算吾(さんご・梅村) → 重操(しげあや・梅村うめむら、藩士/和算家) Q 2 1 5 6
 三古庵主(さんごあんしゅ) → 贅川(しせん・大島、儒者/藩儒) U 2 1 1 5
 三五庵木算(さんごあんぼくさん) → 浄心(じょうしん・三浦、武家/商/僧/戯作) T 2 2 6 1
 三五蔭(さんごいん・岡沢) → 友儀(ともり・岡沢たおかざわ、藩士/歌人) U 3 1 5 8

- M2013 三江(さんこう;道号・紹益しやうえき;法諱)1572-1650⁷⁹ 臨濟僧;建仁寺295世/常光院住/1606入院、
「三江和尚語録」「鷲峰一枝」著、連歌:「徳元千句」入(;俳人徳元との連句)、
各種和漢聯句;1599慶長四年八月十一日素調・紹益と/1611五月剛外と・七月古澗と、
1610頃;漢和連歌の発句「寿日僊家菊」作(;「石鼎集」下巻入;友林名)、
[三江紹益の通称/号]通称;益長老、号;友竹/友林/友雲
- G2033 三岡(さんこう) ? - ? 1691北枝「卯辰集」3句入;209/377/491、
[青梅を買ふて花問ふ里家さどや哉](卯辰集;二209/村里の家の庭先の花の名も聞く)
- N2005 三口(さんこう) ? - ? 江戸の俳人;1691不角「二葉之松」入(72)、
[殉死をひばらの隈がりに寺の草ふみて](二葉之松;72/殉死前に主君の墓前を歩く)、
(殉死は1663禁止されたが)
- E2029 杉更(さんこう、馬山子) ? - ? 江中期越前福井の俳人/尾張住、
1732撰集「色紙屏風」編
- E2030 山幸(さんこう) ? - ? 江中期俳人・1773雪門七部集「新夏引」編
- M2014 三考(さんこう・執中庵) ? - ? 江中期豊前香春の俳人;無耳庵嶺雲の一派?、
1773刊「鏡の山集」編
- M2015 山幸(さんこう・雪穿舎) ? - 1776 江戸の俳人:蓼太門、1773「俳諧新夏引集」編
- M2016 三敲(さんこう・苗村むら) ? - ? 江後期易占家:1801「相宅小鑑」「三才発秘鈔要」著
- E2031 三孝(さんこう・徳亭とくてい、和泉屋)?-? 江後期小石川の狂歌作者;初め狂歌堂社中、
のち戯作者:式亭三馬門/合巻作者、1812「書習廓文章」15「都鳥吾妻育」著、
[徳亭三孝(;)号]の通称/別号]通称;和泉屋勘右衛門、別号;一徳斎/桃種成とうしゅせい
- M2017 山厚(さんこう・奥寺おくでら、名;定振)1805-72⁶⁸ 陸中盛岡藩士/江戸住、俳人:山蝶門、
米庵流の能書家、「盛岡人連句」著、
[山厚(;)号]の字/通称/別号]字;子振、通称;八左衛門、別号;岐山白頭/橘庵/朝暮庵
- M2018 山公(さんこう・久富ひさとみ、名;福昌)1810-50⁴¹ 筑後久留米の俳人:1841頃江戸で多くの俳人と交流、
1842「無量升集」著、[山公(;)号]の通称/別号]通称;民右衛門、別号;雨凌
- M2019 三江(さんこう・桜さくら、通称;才蔵)?-? 江戸期常陸磯浜の絵師:「三江斎画譜」著
杉臯(さんこう) → 政美(まさよし・北尾/赤羽、絵師) I 4 0 6 0
三江(さんこう・勝川) → 春潮(しゅんちやう・勝川かつかわ、絵師/狂歌) K 2 1 2 5
三江(さんこう・松本) → 奎堂(けいどう・松本まつもと、儒者/天誅組) 1 8 8 7
三光(さんこう;字) → 観道(かんだう;法諱、時宗僧) R 1 5 5 5
三光(さんこう・中村) → 富士郎(ふじろう・2世とみじゅうろう・中村、歌舞伎役者) O 3 1 8 3
三光(さんこう・杏林堂) → 忠幹(ただもと・村上むらかみ、藩医/歌人) Z 2 6 8 9
三行(さんこう・並江/外村) → 半雲(はんうん・外村とのむら、藩士/儒者) H 3 6 2 3
三幸(さんこう) → 由輔(ゆすけ・初世ゆすけ・金井、歌舞伎作者) 4 6 1 6
三綱(さんこう・二木) → 三綱(みつな・二木にき/久川、国学/歌人) H 4 1 8 1
山公(さんこう・丸岡) → 莞爾(かんじ・丸岡まるおか/吉村、藩士/国学/政治) V 1 5 8 0
山叩(さんこう・黒瀬屋) → 仏仙(ぶつせん・北海坊、俳人) D 3 8 3 7
参行(さんこう・伊藤) → 参行(さんぎやう・伊藤いとう、富士講行者) M 2 0 0 5
- M2020 残光(ざんこう;号・正木まさき)?- ? 江前期肥後の文筆家、
1637-8島原乱の戦記を著、1668「金花傾嵐抄」(;幕末には同名の30巻物になる)、「銀の筭」著
- M2021 残香(ざんこう) ? - ? 江前期美濃俳人;蕉門、1694「炭俵」98「続猿蓑」各3句入、
[穂は枯れて台に花咲く椿かな](続猿蓑/接ぎ木の失敗;台木は今年も開花)
- F2079 残口(ざんこう・増穂/十寸穂まほ/本姓;藤原、初姓;竹中たけなか)1655-1742⁸⁸ 豊後白杵松岡の僧、
江戸で谷中感応寺の所化;諸国流浪、1715還俗/神道に転向;神道唱導の書を著述、
大阪で講釈師、1719京の吉田家入門;京五条の朝日神明社神主、近衛家に仕出、
1715「艶道通鑑」16「安者世鏡」19「神路の手引草」、19「残口八部書」(;男女和合の理)、
17375「七福神伝記」、「闇礫」「白山縁起」「三種神宝辨」「死出の田分言」「神国加魔祓」著、
[味噌は味噌ながら味噌臭きは悪く 侍は侍ながら侍臭きは悪き如く
粋いも粋臭きは粋ならぬものぞ](艶道通鑑)、
[残口(;)号]の名/通称/別号]名;最仲/正久、通称;大和/耶馬台やまと、

別号;似功齋/待暁翁/知足

- 三光院(さんこういん) → 実枝(さねき・三条西/藤原、内大臣/歌) 2 0 3 3
三光院(さんこういん) → 暹瞭(せんにょう;法諱、大僧正/歌人) O 2 4 2 3
山光院(さんこういん) → 日詮(にっせん・惠俊、天台/日蓮僧) E 3 3 7 3
三香園(さんこうえん) → 永隆(ながたか・喜多山きたやま、国学/兵学) L 3 2 8 5
三光峯(さんこうくつ) → 円慈(えんじ;法諱・東嶺とうれい、臨濟僧) B 1 3 7 6
三光国師(さんこうこくし) → 覚明(かくみょう;法諱・孤峰、臨濟僧) B 1 5 7 3
F2080 三光齋(さんこうさい・立川) ? - ? 幕末期落語家、芝居の咄
三耕子(さんこうし) → 光吉(みつよし・片岡かたおか、医者) F 4 1 2 0
三香社(さんこうしゃ) → 茶村(ちやそん・宮本、儒者/庄屋/詩人) F 2 8 5 8
山幸舎(さんこうしゃ) → 帯河(たいが・小西こにし、俳人) J 2 6 3 9
山高水長亭(さんこうすいちやうてい) → 半邨(はんそん・三木みき、儒者) I 3 6 3 6
三苟亭(さんこうてい) → 正鄰(まさちか・神村かみむら、国学/神道家) D 4 0 7 5
三缸亭(さんこうてい) → 利諄(としあつ・田中たなか、歌人) V 3 1 5 1
三光堂(さんこうどう) → 高雅(たかまさ・森もり、絵師) N 2 6 2 0
三光明(さんこうみょう;字) → 観道(かんどう;法諱、時宗僧) R 1 5 5 5
三光老人(さんこうろうじん) → 指月(しげつ;道号・慧印;法諱、曹洞僧) R 2 1 4 5
三五園(さんごえん) → 原甫(げんぼ・堀/小川、書肆) J 1 8 4 7
三谷(さんこく・岩田) → 広彦(ひろひこ・岩田いわた/大江、医者) G 3 7 9 7
杉谷(さんこく・伊沢) → 予(たのし・伊沢いざわ、儒詩/歌/教育) V 2 6 4 2
三斛庵(初世さんこくあん) → 柳居(りゅうきよ・佐久間、幕臣/俳人) D 4 9 3 3
三斛庵(2世さんこくあん) → 鳥酔(ちようすい・白井、俳人) 2 8 2 4
三斛庵(3世さんこくあん) → 秋瓜(2世しゅうか・松籟庵3世、俳人) G 2 1 9 3
山谷亭(さんこくいてい) → 忠風(ただかぜ・高木たかぎ、藩士/歌) X 2 6 9 9
杉谷堂(さんこくどう) → 井波(せいは、浪化3世、俳人) C 2 4 7 4
三国筆海堂(さんごくひつかいどう) → 正心(せいしん・真幸まさき、書家) I 2 4 9 0
三居士(さんこじ・市河) → 遂庵(すいあん・市河/横井、書家/詩人) 2 3 2 3
三戸修礼(さんこしゅうれい) → 利濟(としただ・南部なんぶ、藩主) M 3 1 7 2
讃古亭(さんこてい・岡田) → 重定(しげさだ・岡田おかだ、故実家) N 2 1 8 4
三古堂(さんこどう) → 贅川(しせん・大島、儒者/藩儒) U 2 1 1 5
三五夜(さんごや) → 澄方(すみかた・秋央亭/真山、狂歌作者) D 2 3 8 7
M2022 三五郎(2世さんごろう・嵐あらし、俳名:雷子)?-? 東武の生/京の歌舞伎役者、大阪新地花桐富松座;
1792五瓶「同計略花芳野山とばかりはなのよしのやま」の塚本狐が当り役、
俳人;1782蕪村「花鳥篇」入;[谷水へ手は届らずや桜狩]
三五郎(さんごろう・織田) → 長好(ながよし・織田おだ、茶人) G 3 2 3 8
三五郎(さんごろう・鮫屋) → 常範(つねのり・井口いぐち、医者/天文) D 2 9 1 2
三五郎(さんごろう・後藤) → 良山(こんざん・後藤ごとう、医者) P 1 9 2 4
三五郎(さんごろう・堤) → 朝風(あさかぜ・堤つみ/源、幕臣/国学者) 1 0 4 6
三五郎(さんごろう・下里) → 知足(ちそく・下里しもさと、醸酒業/俳人) E 2 8 6 1
三五郎(さんごろう・石井) → 重崇(しげたか・石井いしい、商家/歌) N 2 1 3 3
三五郎(さんごろう・日下部) → 重広(しげひろ・日下部くさかべ、国学/歌) O 2 1 2 8
三五郎(さんごろう・田付) → 直平(なおひら・田付たつけ、幕臣/砲術) N 3 2 6 1
三五郎(さんごろう・那須) → 道一(みちかず・那須なす、国学/歌) J 4 1 8 9
算砂(さんさ・本因坊;初世) → 本因坊算砂(ほんいんぼうさんさ・日蓮僧/囲碁) E 3 9 9 4
山三(さんざ・名護屋) → 山三郎(さんざぶろう・名古屋) E 2 0 3 2
M2023 山齋(さんさい・那波なば、名;広父、愴西男) 1680-1764⁸⁵ 陸前の医者;平井春益門/儒;伊藤東涯門、
仙台藩主伊達吉村の侍医、「古誼余論」/1731「理説通俗辨」32「語孟字義諺解附録」著
[山齋(;号)の字/別号]字;春林、別号;青陽/東奥山人/東奥散人
山齋(さんさい・鹿持) → 雅澄(まさずみ・鹿持かもち/飛鳥井/柳村、藩士/国学者) 4 0 0 9

- 山齋(さんさい・市岡) → 智寛(ともひろ・市岡、役所手代/博物学) Q 3 1 4 4
- 山齋(さんさい・山口) → 素絢(そけん・山口やまぐち/橋、絵師) D 2 5 6 8
- 杉齋(さんさい・岡田) → 新川(しんせん、岡田、儒者/詩人) 2 2 4 4
- 杉齋(さんさい・三輪) → 秀富(ひでとみ/ほさき・三輪、藩士/歌人) D 3 7 3 6
- 三才(さんさい・真野) → 安代(やすのり・真野まの、藩士/武家故実) C 4 5 6 5
- 三齋(さんさい、茶道) → 忠興(ただおき・細川/長岡、藩主/歌) E 2 6 8 6
- 三齋(さんさい) → 知修(知脩ともなが・林、文筆家) Q 3 1 0 8
- 三齋(さんさい・永井) → 義端(ぎたん・永井ながい、藩士/詩人) L 1 6 1 9
- 三濟(さんさい・岡谷) → 繁諷(しげあきら・岡谷おかや/源、藩士/歌) N 2 1 8 7
- F2081 三左衛門(さんざえもん・津打つうつ/つうち)?-? 江中期江戸の歌舞伎作者/市村座河原崎座森田座で活動、
1739「入船太平記」45「婦楠靚粧鑑おんなくすのきよそおいかがみ」(治兵衛と合作)/46「玉櫛粧曾我」、
1750「桜花女団七」51「祐経扇系図」52「寿舞鶴曾我」54「由良千軒蟾兔湊」外作品多数
- M2024 三左衛門(さんざえもん・原はら、名;正勤)?-? 江中期羽前米沢藩士;武芸/剣道;梅沢広通門、
阿字一刀流、1710「阿字一刀流伝書」「阿字一刀流居合伝書」受、
弓術;原甚兵衛正常門/日置流、瀬下秀義の師
- M2025 三左衛門(さんざえもん・増子まに、名;昵吉/慶治) 1788-1853 66 代々岩代安積郡郡山村下町の名主、
三左衛門を襲名、二本松藩の命で富岡村引立名主/農業振興に尽力;三本木用水池築造、
安積良斎の江戸遊学を支援、「農家遺戒」「稼稿大概」著、
[三左衛門(;通称)の号] 養然
- F2082 三左衛門(さんざえもん・山野やまの、鱗形うろこがた屋)?-? 江戸大伝馬町地本問屋、1889「江戸図鑑綱目」入
- 三左衛門(さんざえもん・久世) → 広宣(ひろのぶ・久世くぜ/源、武将/連歌) G 3 7 8 0
- 三左衛門(さんざえもん・海老原) → 為信(ためのお・江島、仮名草子/兵法/俳人) S 2 6 6 3
- 三左衛門(さんざえもん・長沼) → 宗敬(むねよし・長沼/津田、兵学者) C 4 2 8 5
- 三左衛門(さんざえもん・斎藤) → 定易(さだやす・斎藤/大坪、馬術家) K 2 0 0 4
- 三左衛門(さんざえもん・河野) → 通尹(みちただ・河野こうの、儒者/詩文) B 4 1 8 0
- 三左衛門(さんざえもん・山高) → 信賢(のぶかた・山高やまたか、幕臣/歌人) K 3 5 2 9
- 三左衛門(さんざえもん・山県) → 之纜(しらん・山県やまたが、藩士/記録) M 2 2 9 2
- 三左衛門(さんざえもん・斎田) → 茂先(しげゆき・斎田さいだ、藩士/地誌家) T 2 1 0 5
- 三左衛門(さんざえもん・斎田) → 三左衛門尉(さんざえもんのじょう・斎田/平典盛) F 2 0 8 3
- 三左衛門(さんざえもん・ちきり屋) → 三枝(さんし・猪飼、華道家) M 2 0 2 6
- 三左衛門(さんざえもん・大塚/福地) → 師政(もろまさ・福地/大塚、儒/和算家) H 4 4 9 3
- 三左衛門(さんざえもん・鈴木/北) → 静蘆(せいろ・北、国学/狂歌) D 2 4 2 3
- 三左衛門(さんざえもん・日田山) → 左右(さゆう・日田山ひたやま、藩士/文筆) L 2 0 5 9
- 三左衛門(さんざえもん・池田) → 綱政(つなまさ・池田、藩主/歌人) B 2 9 3 0
- 三左衛門(さんざえもん・小笠原) → 長貞(ながさだ・小笠原、幕臣/故実) D 3 2 6 7
- 三左衛門(さんざえもん・阿久津) → 政房(まさふさ・阿久津あくつ、藩士/詩) H 4 0 1 3
- 三左衛門(5世さんざえもん・渡辺) → 李亮(りりょう・渡辺、博学/俳人) J 4 9 9 0
- 三左衛門(さんざえもん・三壺) → 四郎右衛門(しろうえもん・山田/三壺、藩士) N 2 2 0 8
- 三左衛門(さんざえもん・山崎) → 北華(ほつか・山崎/平、医/俳人/戯作) E 3 9 4 8
- 三左衛門(さんざえもん・財津) → 左右(さゆう・日田山ひたやま、藩士/文筆) L 2 0 5 9
- 三左衛門(さんざえもん・杉村) → 家友(いえとも・杉村すぎむら、神職/俳人) E 1 1 8 9
- 三左衛門(さんざえもん・植木) → 無窮(むきゅう・植木うえき、詩人) 4 2 4 0
- 三左衛門(さんざえもん・平木) → 道牛(どうぎゅう・平木ひらき、藩士/医者) W 3 1 1 9
- 三左衛門(さんざえもん・柴田) → 勝興(かつおき・柴田、幕臣/歌) C 1 5 4 2
- 三左衛門(さんざえもん・柴田) → 勝明(かつあき・柴田しばた、幕臣/歌人) S 1 5 8 5
- 三左衛門(さんざえもん・松平) → 霍山(かくざん・松平、藩士/儒詩) E 1 5 8 7
- 三左衛門(さんざえもん・加藤/黒田) → 一成(かづなり・黒田、武将/藩士) M 1 5 3 4
- 三左衛門(さんざえもん・黒田) → 一貫(かづつら・黒田、家老/儒者) M 1 5 2 9
- 三左衛門(さんざえもん・小亀/新山/津高) → 勤斎(きんさい・小亀こがめ、書肆/仮名草子) I 1 6 9 8
- 三左衛門(さんざえもん・大竹) → 船積(ふなづみ・田原/俵たわらの、商家/狂歌/戯作) D 3 8 5 5

- 三左衛門(さんざえもん・菊池)→ 五大(こだい・菊池、俳人) N 1 9 0 4
 三左衛門(さんざえもん・山田)→ 募(つゐる・山田/藤原、藩士/槍術家) E 2 9 8 4
 三左衛門(さんざえもん・長)→ 連起(つらおき・長ちよう、藩士) E 2 9 3 9
 三左衛門(さんざえもん・川路)→ 聖謨(としあきら・川路/内藤、幕臣/詩歌) M 3 1 0 2
 三左衛門(さんざえもん・黒田)→ 溥整(ひろなり・黒田/加藤、家老/連歌) G 3 7 7 5
 三左衛門(さんざえもん・菅原)→ 貞継(さだつぐ・菅原すがわら、神職/国学) O 2 0 6 9
 三左衛門(さんざえもん・宮崎屋)→ 常之(つねゆき・井上/小原、商家/歌/画) E 2 9 1 5
 三左衛門(さんざえもん・太田)→ 佐良(すけよし・太田、農業/国学/歌人) H 2 3 9 2
 三左衛門(さんざえもん・加藤)→ 明随(めいずい・加藤かとう/藤原、旗本/歌) 4 3 6 0
 三左衛門(さんざえもん・天野)→ 康隆(やすたか・天野あまの、幕臣/歌人) F 4 5 1 8
 三左衛門(さんざえもん・平) → 源澄(もとずみ・平たいら/桜田/丹下、藩士) K 4 4 3 6
 三左衛門(さんざえもん・田所/海野)→ 顕周(あきかね・田所たどころ/海野、庄屋/歌) G 1 0 8 5
 三左衛門(さんざえもん・梅村)→ 重操(しげあや・梅村うめむら、藩士/和算家) Q 2 1 5 6
 三左衛門(さんざえもん・進藤)→ 正長(まさなが・進藤、幕臣) F 4 0 3 5
 算左衛門(さんざえもん・会田)→ 安明(やすあき・会田あいだ、和算家) 4 5 8 0
- F2083 **三左衛門尉**(さんざえもんのじょう・斎田さいだ/本姓;平、名;典盛のりもり)?-? 水戸藩士、
 清盛末孫と自称;平家物語異本を蔵、相模逗子海岸に六代御前(平高濂)の墓碑を建立、
 1811-21小宮山楓軒「懷宝日札」入
 三作(さんさく・辻) → 正賢(せいけん・辻つじ、和算家/教育) H 2 4 9 9
 三作(さんさく・芳賀) → 眞咲(まさき・芳賀はが、藩士/国学/神職) R 4 0 5 9
- E2032 **山三郎**(さんざぶろう・名古屋なごや、名越なごや高久男)?-1603 蒲生氏郷の小姓・一番槍で武勲、浪人、
 森美作守忠政の家臣、美貌/伊達男;歌舞伎者、歌舞伎始祖伝説;お国との艶聞?、
 後世脚色され伝説化
- F2084 **山三郎**(さんざぶろう・滝井たけい)?-1677? (19歳?) 歌舞伎役者:女形/濡事、座元、1668頃より活躍
 山三郎(さんざぶろう・綿屋)→ 是水(せすい・荒木あらき、書家) K 2 4 6 4
 山三郎(さんざぶろう・滝田/小堀)→ 政方(まさみち・小堀こぼり/滝田、幕臣) H 4 0 4 1
 山三郎(さんざぶろう・柴田)→ 勝興(かつおき・柴田、幕臣/歌) C 1 5 4 2
 山三郎(さんざぶろう・武野)→ 貞実(さだまね・武野たけの、藩士/和算家) I 2 0 1 9
 山三郎(さんざぶろう・林/宍戸)→ 眞激(まさもと・宍戸ししど/林、藩士/国事) H 4 0 9 6
 三三郎(さんざぶろう・三井)→ 高延(たかのぶ・三井みつゐ、商家/国学) Z 2 6 7 8
- F2085 **三山**(さんざん・谷たに、名;操、重之2男)1802-6766 母;樫村氏、大和高市郡八木の米穀商の生、
 幼少時聴力を喪失/独学で正史・経伝を修得;儒者;家塾興譲館を開き門弟を教授、
 1829兄原亭と猪飼敬所門/49大和高取藩主植村家貴に招聘;藩儒となる、
 数学の振興・尊攘を進言、晩年は失明、「天朝に上る書」「奇談輯録」「質疑手簡」、
 門弟;森鉄之助・吉村信之助・上田淇亭・岡本通理ら
 [三山(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;市三、字;子正/存正/存誠、通称;新助/昌平、
 別号;淡庵/淡斎/釋斎えきさい/相在室
- 徹山(さんざん・佐々木) → 春夫(はるお・佐々木、商人/国学/歌) G 3 6 0 5
 三山(さんざん;道号・曇伊)→ 円位(えんい;法諱・仲方;道号、臨濟僧) 1 3 8 7
 三山人(さんざんじん・小池/野崎)→ 巴明(はめい・野崎/小池、俳人) F 3 6 6 9
 三山亭(さんざんてい) → 方壺(ほうこ・竹村、農家/俳人) F 3 9 1 4
 山々亭有人(さんざんていありんど)→ 有人(あるんど、人情本/落語) C 1 0 0 6
 三三里人(さんざんりじん) → 正長(まさなが・九里くのり、藩士/歌研究) F 4 0 1 9
- E2033 **三思**(さんし) ? - ? 江前期俳人、1671重徳「新独吟集」入集
- E2034 **三之**(さんし・木瀬きせ、)1606-1695長寿90歳 山城宇治郡の歌人・連歌;;里村昌琢門、
 松永貞徳門/近江大津に住、歌学者;近世歌学の先駆;河辺長流・戸田茂睡・契沖より先んず、
 万葉集を講釈;堂上の古今伝授思想を排撃、歌学の革新、
 門弟に歌書・万葉集を講ず、宮川松堅・今井似閑の師、1679「三輪若宮縁起」著、
 晩年は大津に閑居、1722宮川松堅[倭譚五十人一首]・顕紀[同追加]入、

[志賀の浦や度士考羅たひかはらも拱こまきて浪しづかなる春は来にけり]、
 (倭譚五十人一首;3志賀の浦に春を迎へて/礫たひ瓦の如き我らも大平の世を楽しむ)、
 [何わざをなしてや待たん月も又たゞにはいでじ天香具山](同追加/待月)、
 [三之(;号)の名/通称/別号]名;正房/隨宜よりよし、通称;作兵衛、別号;竹林斎

- N2006 多子(さん) ? - ? 江前期俳人、1691不角「二葉之松」入(466)、
 [四五粒に飽あく徳のあれ世の精しげ](二葉之松;466/前句;夜は怠惰かだるや一日の業わざ)、
 (精は精米した米/少しで満腹する米があればあくせく働かなくてよいのに)
- M2026 三枝(さん・猪飼いかい、通称;ちきり屋三左衛門)?-? 江前期華道池坊の会頭、尋旧子の師、
 「華伝書」「立華百瓶図」著、「池坊立華百瓶図」編/1688「立花秘要抄」伝
- N2007 山枝(さん) ? - ? 江中期俳人、1729隆志「俳諧草結」入(217)、
 [寒梅やいまだ楊家よけの洗髪](俳諧草結;217/まだ化粧しない楊貴妃のごとし)
- M2027 山只(さん・増山ますやま、東桐舎)?-? 江中期越前福井の俳人/京住、吾仲に兄事、
 1733「秋のなごり」編、「吾妻からげ」著
- M2028 産子(さん・豊田とよだ:号)? - ? 江中期京の歌舞伎作者:1751-2頃榊山座で活動、
 1751「都鹿兒旭錦」/52「けいせい富士見血文」作
- M2029 山肆(さん) ? - ? 山城伏見の俳人;1773几董「続明烏」3句入;242/533/637、
 [でむしや蛙かはりの後あとの雨つゞき](続明烏;甲242/蛙鳴き蝸牛出て雨は続く)
- M2030 三志(さん・小谷おたに/こたに、太兵衛男)1765-1841 77 武州鳩ヶ谷の麴屋、神道家;富士講行者、
 伊藤参行門;富士講の奥義を修得;八代目教孫となる、宮中・京中にも教化、
 1805-14「参行六王恂御伝書」20「勸善録」、「禄行三志恂御文」著、
 [三志(;行名)の通称/別行名]通称;庄兵衛/鳩ヶ谷三志、別行名;禄行ろくぎょう三志(三思)
- M2031 三子(さん・学亭) ? - ? 益亭三友の兄?、1804-30頃合巻:三馬門、
 1812「近江志賀物語」「難波風流鮫鞘男」
- 三子(さん・高階/西田) → 惟恒(これつね・西田/高階、国学/歌人) O 1 9 5 4
 三四(さん) → 二柳(じりゅう・勝見、俳人) D 2 2 2 0
 三思(さん・小津) → 長正(ながまさ・小津おつ、道生/商家/歌) L 3 2 4 1
 三芝(さん・島田) → 鴻藏(こうぞう・島田、歌舞伎作者) K 1 9 3 5
 山子(さん・瀬山) → 命助(めいすけ・瀬山せやま、藩士) 4 3 2 2
 山之(さん・山野やまの、俳人) → 孫兵衛(まごべえ・鱗形屋うろこがたや、地本問屋) 4 0 8 3
 蚕子(さん・森野) → 治天(やてん・森野もりの、藩士/医者/俳人) D 4 5 8 2
- F2046 三治(さん) ? - ? 江前期;大阪?の俳人、
 1673西鶴「生玉万句」第七月の脇句/第二蛙発句等入、
 [観音同座いく玉の秋](生玉万句;月脇句/謡曲熊野;観音も同座あり闍提救世の方便、
 発句本秋;須彌山の南の坊の月見かな)
 [万句には池の蛙かはりや哥合](生玉万句;蛙発句)
- M2032 杉二(さん・小森こもり、不溢居ふいつきよ)?-? 江後期文政天保1818-44頃江戸の俳人、
 1827「俳諧多識」編
- 三二(さんじ/そうじ・山上) → 宗二(そうじ・山上やまのうえ、茶人) B 2 5 6 8
 三二(さんじ/そうじ・慶徳) → 家義(いえよし・慶徳けいとく/秦、歌人) K 1 1 2 4
 三二(さんじ・二三屋) → 活東子(かつとうし・岩本/萩原、書肆/伝記) C 1 5 4 8
 三二(さんじ・石河) → 正養(まさかい・石河いし/越智、藩士/国学) B 4 0 6 6
 三次(さんじ・荒木) → 素白(そはく・荒木あき、書家) K 2 5 3 2
 三次(さんじ・高木) → 秀条(ひでえだ・高木たかぎ、神道/歌人) L 3 7 7 3
 三次(さんじ・平山) → 季雄(すえお・平山ひらやま/藤原、藩士/絵師) J 2 3 0 6
 三治(さんじ・中原) → 三治(みはる・中原なかはら、神道家/教育) F 4 1 7 5
 三治(さんじ・小谷) → 秋水(しゅうすい・小谷おたに、藩士/儒者) H 2 1 7 8
 三治(三胤さんぢ・横井/市河) → 遂庵(すいあん・市河/横井、書家/詩) 2 3 2 3
 杉柿庵(さんしあん・小林) → 依兮(いけい・小林、俳人) C 1 1 2 0
 三四庵(さんしあん) → 雲裡(うんり・渡辺わたなべ、無名庵5世/俳人) B 1 2 6 3

- 三思庵(さんしあん) → 泉溪(せんけい・真柳、藩士/兵学/俳人) M 2 4 1 5
三時庵(2世さんじあん) → 霞梢(かしょう・三時庵2世、俳人) L 1 5 9 5
三四衛門(さんしえもん・本居) → 大平(おおひら・本居、国学者) 1 4 0 7
三枝園(さんしえん) → 篠斎(しょうさい・殿村安守/大神、商家/国学/歌) J 2 2 0 4
三枝園(さんしえん) → 宗直(むねなお・土崎つちざき、神職/国学) E 4 2 0 0
山樞窩(さんしか・真木) → 保臣(やすおみ・真木まさ、神職/勤王家) B 4 5 0 9
M2033 山笠(さんじく) ? - ? 俳人;1772几董「其雪影」1句入;378、
[御祓おほらひや春はかならずと配りけり](其雪影;卷尾378/伊勢の御師が厄除札を配る)
三芝居士(さんしこじ) → 文京(ぶんきょう・花笠、歌舞伎作者/合卷) F 3 8 0 2
三枝散人(さんしさんじん) → 古道(こどう・村井道静、医/俳人/地誌) D 1 9 4 1
霰柿持(さんしじ) → 霰柿持(あられのかきもち、狂歌作者) G 1 0 2 8
暫時舎(さんじしゃ) → 文里(ぶんり・田辺/田/藤、藩士/俳人) G 3 8 6 5
三四助(さんしじよ・並木) → 三四助(みよすけ・並木なみき、歌舞伎作者) G 4 1 7 3
算七(さんしち・島田) → 尚政(なおまさ・島田、和算家) C 3 2 4 0
三七(さんしち・二三屋) → 活東子(かつとうし・岩本/萩原、書肆/伝記) C 1 5 4 8
三七(さんしち・松尾) → 風悟(ふうご・松尾/松、藩士/俳人) 3 8 5 6
三七(さんしち・苜谷) → 常澄(つねずみ・苜谷/刈谷、藩士/国学) E 2 9 9 3
三七郎(さんしちろう・柏淵) → 静夫(しずお・柏淵かしぶら、里正/儒・国学) N 2 1 9 9
三七郎(さんしちろう・玉置) → 賢孝(よしとか・玉置たまおき/原、醸造/国学) N 4 7 8 8
三思亭(さんしてい) → 貞信(ていしん・照山てるやま、和算家/暦学) B 3 0 2 8
三四坊(さんしぼう) → 二柳(にりゅう・勝見、俳人) D 2 2 2 0
三四坊(さんしぼう) → 梅後(ばいご・牧山まさやま、俳人) B 3 6 1 6
三似房(さんじぼう) → 眠郎(みんろう・佐藤さとう、俳人) G 4 1 9 6
山柿門(さんしもん) → 内平(うちひら・松岡、国学者/歌) D 1 2 1 0
M2034 三車(さんしゃ・雪螢寮せつけいりょう)?-? 江後期安藝瀬野の俳人;六呂堂土方門、
公成こうせい「年浪春秋選」入、1852意藩より「芭蕉有也無也関」授与、
1854「俳諧鯉鱗行」「三冬の末卷」、1856独吟「夏秋の詠草」「冬の巻」「三春詠」(;六呂堂撰)、
三叉漁民(さんしゃぎょみん) → 豊信(とよしげ・山内、容堂、藩主/詩歌) R 3 1 1 8
三寂(さんじやく・常磐ときわ);丹後守藤原為忠の3人の子の総称;大原三寂とも/邸が常盤にあった
→ 寂念(じやくねん、為業・藤原) G 2 1 3 6
→ 寂超(じやくちよう、為経) G 2 1 3 4
→ 寂然(じやくねん、頼業) 2 1 3 8
三尺庵(さんじやくあん) → 一富士二鷹(いちひじにたか、藤田甚助、狂歌) D 1 1 5 9
三尺庵(さんじやくあん) → 文二(ぶんじ・地主ぢぬし、俳人) F 3 8 5 5
山雀庵(さんじやくあん・やまがら) → 舎遊(しゃゆう、俳人) W 2 1 3 6
三尺入道(さんじやくにゅうどう) → 義則(よしのり・赤松あかまつ/源、武将/歌) F 4 7 7 7
三守(さんしゅ・藤原) → 三守(みもり・藤原ふじわら、右大臣) H 4 1 3 7
M2035 山寿(さんじゅ・源みなもと) ? - ? 江後期武蔵秩父の文筆家、
1802「秩父社社縁起」著、「増補秩父風土記」補填
M2036 山寿(さんじゅ・加藤かとう、名;雄助/勇助、別号;恒月亭)?-? 相模三浦郡浦賀村の郷土史家、
1805家事を退き文筆活動、1812「三浦古尋録」14「源画易解」、「西国観音記」「東奥一覽」著
三寿(さんじゅ、読本作者) → 桃花園三千磨(とうかえんみちまる、狂歌/戯作) C 3 1 0 7
山寿(さんじゅ・楽亭、楽斎) → 玉粒(ぎよくりゅう・晋米斎、合卷/狂歌) D 1 6 1 2
山寿(さんじゅ・鶴田) → 田鳳(でんぼう・鶴田、酒造業/俳人) E 3 0 3 2
三樹(さんじゅ・頼) → 三樹三郎(みきさぶろう・頼り、儒者/詩) 4 1 6 9
E2036 残壽(ざんじゅ、僧) ? - ? 江前期仮名草子作者、1690「死靈解脱物語聞書」著
G2034 三秋(さんしゅう) ? - ? 江前期京四条立売西町住の俳人、
1690北枝「卯辰集」3句入;124/199/229、
[花咲きてなほいかめしき二王かな](卯辰集;124/花の寺の光景)
M2037 三洲(さんしゅう・林はやし、名;文肅)?-? 江中期1744-51頃伊勢桑名藩の儒臣、詩人、

朝鮮通信使朴敬行(矩軒)と尾張宮駅で詩文の贈答、「三洲詩集」「三洲近体集」著、
[三洲(；号)の字/通称]字；敬夫/敬父、通称；又太郎

F2086 **三洲**(さんしゅう・長ちよう、名；茨ひかる、梅外3男/本姓；長谷) 1833-95 63 豊後日田郡馬原村の儒者；父門、
1847(15歳)；広瀬淡窓門/広瀬旭荘の塾で塾生指導、詩人/書画を嗜む、父と共に尊攘派、
討幕運動で国事奔走；戊辰戦で参謀役/維新後は廃藩置県を主唱/明治学制の起草者、
1891「親封建論」(；廃藩置県論)/92「復古原論」、「三洲居士集」(11巻2千首；没後刊)著、
[三洲(；号)の通称] 富太郎/維新後；静妙子(静妙子)せいみょうし

E2037 **杉舟**(さんしゅう・大沼おぬま) ? - ? 俳人、採茶庵六世

三洲(さんしゅう；道号・白竜) → 白竜(はくりよう；法諱・三洲、曹洞僧) E 3 6 0 7
三洲(さんしゅう・山路) → 機谷(きこく・山路やまじ、儒者) K 1 6 3 8
三就(さんしゅう・松田) → 黄牛(こうぎゅう・松田まつだ、医者/儒者) G 1 9 5 2
三秀(さんしゅう・大田) → 晋庵(しんあん・大田おおた、医者) N 2 2 2 8
三周(さんしゅう；号) → 周斎(しゅうちよう；道号・大周、臨濟僧/詩) I 2 1 1 1
讚州(さんしゅう；狂名) → 玉角(ぎよくかく・讚州、真言僧/狂詩) I 1 6 3 9
三重(さんじゅう；初号) → 鉄卵(てつらん・上島/上嶋、俳人) C 3 0 6 6
三十一谷人(さんじゅういつこくじん) → 諭吉(ゆきち・福沢、幕臣/思想家) E 4 6 8 1
三秀園(さんしゅうえん) → 恒久(つねひさ・組屋くみや、国学者) D 2 9 4 1
三秀園(さんしゅうえん) → 流芝(りゅうし・鈴木すずき、卓池門俳人) E 4 9 4 8
讚州玉角(さんしゅうぎよつかく) → 玉角(ぎよくかく・讚州、狂詩) I 1 6 3 9
三秀亭(さんしゅうてい、李喬) → 忠寛(ただひろ・本多、俳人) Q 2 6 6 9
三十二草庵(さんじゅうにそうあん) → 正辞(まさこと・木村、国学/万葉研究) C 4 0 5 0

M2038 **三十郎**(さんじゅうろう・松下まつした、名；嘉綱/善綱よしのな、言綱男) ?-1758? 岩代福島藩士、
「福島曾根田牛王山天満宮縁起書」著

2051 **三十郎**(初世さんじゅうろう・関せき) 1765-1830 66 江戸期歌舞伎俳優

F2087 **三十郎**(二世さんじゅうろう・関せき) 1786-1839 54 江戸期歌舞伎俳優

三十郎(さんじゅうろう・遠山) → 景賢(かげかた・遠山とおやま、幕臣) K 1 5 8 5
三十郎(さんじゅうろう・藤田) → 安勝(やすかつ・藤田ふじた、藩士) B 4 5 1 6
三十郎(さんじゅうろう・竹俣) → 義秀(よしひで・竹俣たけのまた/保科、家老) G 4 7 3 7
三十郎(さんじゅうろう・大久保) → 狭南(きょうなん・大久保、幕臣/儒者) O 1 6 3 9
三十郎(さんじゅうろう・名取) → 正澄(まさずみ・名取なとり、藩士/兵法家) C 4 0 9 8
三十郎(さんじゅうろう・観世) → 元章(もとあきら・観世かんぜ、能楽/謡曲改訂) C 4 4 0 3
三十郎(さんじゅうろう・茜部) → 相嘉(すけよし・茜部あかなべ/藤原/伊藤/藤井、藩士/国学) D 2 3 7 5
三十郎(さんじゅうろう・津軽) → 親足(ちかたり・津軽つがる/黒田、藩主/歌) L 2 8 4 0
三十郎(さんじゅうろう・村上) → 左右児(すうじ・村上むらかみ、俳人) B 2 5 6 9
三十郎(さんじゅうろう・島田) → 正躬(まさみ・島田しまだ、幕臣//国学者) Q 4 0 1 6
三十郎(さんじゅうろう・小木曾) → 義徳(よしのり・小木曾おぎぞ/成田、藩士/歌) L 4 7 8 1
三重郎(さんじゅうろう・坂部) → 政幹(まさもと・坂部さかべ/渡辺、商家/国学) P 4 0 9 8
山十郎(さんじゅうろう・青地) → 浚新(しゅんしん・青地、礼幹、藩士/儒) K 2 1 0 0
山十郎(さんじゅうろう・青地) → 忠愛(ただよし・青地あおち、浚新男/藩士/記録) R 2 6 2 9
三十六鱗居士(さんじゅうろくりんこじ) → 牧山(ぼくざん・三井みつゐ高就、詩人) G 3 9 4 0
三十六峰外史(さんじゅうろっぽうがいし) → 山陽(さんよう・頼、儒/史家/詩文) 2 0 5 8
三十禄湾漁人(さんじゅうろくわんぎょじん) → 隆庵(りゅうあん・能美、医者/藩医) C 4 9 6 9
三十六湾書楼(さんじゅうろくわんじょうろう) → 春濤(しゅんとう・森もり、詩人) K 2 1 3 2
三手翁(さんしゅうおう・賀茂) → 規清(のりきよ・賀茂/梅辻、烏伝神道家) E 3 5 4 4
三樹翁(さんじゅうおう) → 通資(みちもと・三木みき、郷土史家) C 4 1 6 7
三叔(さんしゆく・高橋) → 景張(かげはる・高橋たかはし、歌人) U 1 5 9 4
三寿軒(さんじゅけん) → 家義(いえよし・慶徳けいとく/秦、歌人) K 1 1 2 4
三種亭(さんしゅてい) → 鶴翁(かくおう・花月庵、田中、茶人；煎茶) J 1 5 5 9
三春(さんしゅん・水野) → 三春(みはる・水野みずの、神職/歌人) E 4 1 5 3
三春(さんしゅん・長野) → 美波留(みはる・長野/藤原、国学/歌) 4 1 3 6

- 三俊(さんしゅん・白石) → 義隆(よしただ・白石しらい、国学/歌人) N 4 7 3 6
 三杵(さんしよ) → 三杵(みきね・科戸、俳人) 4 1 7 1
- E2038 整庶(さんしよ、洛陽誹士) ? - ? 雑俳点者、1710撰集「神子みの躰」序(；京の福寿軒板)
- E2039 三昌(さんしやう・高山たかやま/浜野はまの)?-? 大阪俳人、1675「大阪独吟集」；上巻に独吟百韻入、
 1678西鶴「物種集」(高山姓)入/1703鶴永(西鶴)「生玉万句」第九時雨発句(；浜野姓)入、
 [渋土さびつちの色をあらそふ時雨かな](生玉万句；時雨発句/茶室の壁などの赤土と紅葉)
- E2040 三嘯(さんしやう・松平まつだいら、名；定直、今治藩主松平定時長男)1660-1720⁶¹ 母；嶺頂院(側室)、
 伊予松山藩主松平定長の養子/1674襲封；松山4代藩主、淡路守/隠岐守/従四下、侍従、
 課税を定免法にし藩財政安定を図る、討入後の赤穂浪士10人を預かる、俳人；其角門
- 2052 三笑(さんしやう・金井かない)1731-1797⁶⁷ 江戸の歌舞伎作者、代々中村座の手代/1752帳元、
 1754中村座の狂言作者；番付、59森田座で立作者、60-76頃全盛期；二三治と併称される、
 1792劇を退く；出家、金井宗輔・門田候兵衛・増山金八の師、富本節「夏柳夢睦言」作詞、
 1760「夜半の乱髪」61「江戸紫根元曾我」「助六所縁江戸桜」/65「夜鶴綱手車」、
 1770「藻塩草須磨朧夜」71「梅花嗣鉢木」73「江戸春名所曾我」75「四十八手恋所訳」外多数、
 [金井三笑(；号)の別号]金井半九郎/与鳳亭/土盛(；出家後)、屋号；井筒屋
 三人の息子 長男 → 半九郎(2世はんくろう・金井、歌伎作者) H 3 6 4 6
 次男 → 三鳥(さんちやう・筒井、歌伎作者) G 2 0 0 4
 三男 → 由輔(初世ゆうすけ・金井/松井) 4 6 1 6
- F2088 三笑(さんしやう・福亭ふくてい/富久亭、姓；森/名；貞雄)?-? 江後期江戸牛込の手習師匠、
 噺本・戯作者；式亭三馬門、1802「穴可至子」06「譚話江戸嬉笑」「落話江戸喜笑」、
 1817「昔唄恋山崎」18「月雪花」「染替団七縞」/19「累辞絹川堤」外作品多数
- F2089 三笑(さんしやう・桃田ももた) ? - ? 江後期大坂南久太郎町二丁目の絵師、
 1810一九「画ばなし当時梅」画/1813「狂歌一人十首」画、13「舞ひとり稽古」著
- M2039 三蕉(さんしやう・中村なかむら、名；桑、弥門男)1817-94⁷⁸ 讃岐丸亀の生；僧；仏を捨て儒学に帰す、
 儒；亀井昭陽・帆足万里門、1849丸亀藩儒；藩校正明館副助教兼詩文係、1854昌平學に修学、
 安積良斎門、1856帰藩し前職復歸/侍読を兼任、69正明館教授/新政府出仕/72小学校教師、
 1888私塾を開く、「醒醉舎詩文抄」「適歩集」「余喘弄墨」「三蕉詩稿」「清気楼詩文鈔」等著多、
 [三蕉(；号)の字/通称/別号]字；子楡、通称；正蔵、別号；醒軒/清気楼
 三升(さんしやう) → 団十郎(2世だんじゅうろう・市川、歌舞伎役者) 2 6 8 9
 三升(さんしやう) → 団十郎(5世だんじゅうろう市川、歌舞伎役者/狂歌) I 2 6 3 1
 三升(さんしやう) → 団十郎(7世だんじゅうろう・市川、歌舞伎役者/合巻) 2 6 9 1
 三升(さんしやう) → 団十郎(8世だんじゅうろう・市川、歌舞伎役者) I 2 6 3 3
 三松(さんしやう・大同房) → 其弁(きべん；法諱、法相僧) L 1 6 9 1
 三松(さんしやう・草鹿) → 玄竜(げんりゅう・草鹿、医/詩人) M 1 8 9 2
 三松(さんしやう・多紀) → 元堅(もとかた・多紀たき/丹波、幕府奥医) C 4 4 3 6
 三昌(さんしやう・原田) → 三昌(みつまさ・原田はらだ、国学者) K 4 1 1 6
 山松(さんしやう・辻元) → 松庵(すうあん・辻元つじもと、幕府医官) F 2 3 2 0
 山樵(さんしやう・原) → 古処(こしょ・原/手塚、藩士/儒者/詩) C 1 9 9 4
 山樵(さんしやう・田能村) → 直入(ちよくにゅう・田能村たのむら、絵師) K 2 8 3 2
 算象(さんしやう・斎藤) → 宜義(のぶよし・斎藤、和算家) D 3 5 9 8
- M2040 三条(さんじやう) ? - ? 南北期花園院女房？、
 歌；1343五四番詩歌合参加、
 [をちこちの花をひとつに吹き寄せて風いとはれぬ山かげのには](五四番詩歌；十四右28)
 三条(さんじやう・大中臣) → 能宣(よしのぶ・大中臣おおなかとみ、神職/歌) 4 7 2 3
 三条(さんじやう・永福門院) → 二条(にじやう・後深草院、「とはずがたり」) 3 3 2 7
 三条(さんじやう・安嘉門院) → 御厩(みくしげ・式乾門院) 4 1 7 6
 三条(さんじやう・崇光院) → 崇光院三条(すこういんのさんじやう、歌人) J 2 3 5 0
 三条(さんじやう・民部卿) → 長家(ながいえ・藤原、権大納言/歌人) D 3 2 2 0
 三条(さんじやう・大中臣) → 親忠(ちかただ・大中臣おおなかとみ、神職) B 2 8 1 5
 三讓(さんじやう・三統) → 理平(まさひら・三統みむね、廷臣/詩歌) G 4 0 8 1

- 山城(さんじょう) すべて → 山城(やましろ)
- 残生(ざんしょう;号) → 残生(ざんせい;号、歌人) P 2 0 9 4
- 三小庵(さんしょうあん) → 粲(つばら・小出/松田、藩士/歌人) E 2 9 3 1
- 三少庵(さんしょうあん) → 貞澄(さだすみ・田中たなか、本陣/歌人) O 2 0 8 1
- 三条院女蔵人左近(さんじょういんのよくろうどのさこん) → 小大君(こおおきみ、歌人) 1 9 2 4
- 三条右大臣(さんじょう[の]うだいじん) → 定方(さだかた・藤原) B 2 0 7 7
- 三条右大臣実(さんじょう[の]うだいじん) → 実親(さねちか・三条/転法輪三条、右大臣) D 2 0 1 7
- 三松園主人(さんしょうえんしゅじん) → 良俊(よしとし・中川ながかわ、商家/儒者) O 4 7 1 4
- E2041 三松館主人(さんしょうかんしゅじん)?- ? 1851「広益秘事大全」(百科事典)
- E2042 三条小右近(さんじょうこうこん、姓;鴨かも)?-? 平安中期、源頼成女の祇子(三条殿)の女房、藤原頼通の妾、歌;後拾遺321(藤原資良の無音を怨み贈る)、
[さりともし思ひし人は音もせで荻の上葉うはばに風ぞ吹くなる](後拾遺;秋321)
- F2090 山松子(さんしょうし) ? - ? 江初期俳人:1697「俳諧錦繡緞」序
- 三条左大臣(さんじょうさだいじん) → 頼忠(よりただ・藤原、関白太政大臣/歌) I 4 7 9 5
- 三条太皇太后宮(さんじょうたいこうたいごうぐう) → 昌子内親王(しょうしなしいんのう) J 2 2 4 7
- 三条太皇太后宮(さんじょうたいこうたいごうぐう) → 遵子(じゆんし・藤原、円融后) J 2 1 8 0
- 三条太政大臣(さんじょうだいていじょうだいじん) → 頼忠(よりただ・藤原、歌人) I 4 7 9 5
- 三条太政大臣室(さんじょうだいていじょうだいじんのしつ) → 実重室(さねしげのしつ) D 2 0 0 6
- 三条大納言(さんじょうだいなごん) → 公氏(きんうじ・三条/正親町三条、日記) Q 1 6 6 6
- 三条中納言(さんじょうちゅうなごん) → 朝成(あさなり/あさひら・藤原、歌) E 1 0 3 6
- 三条中納言入道(さんじょうちゅうなごんのにゅうどう) → 長兼(ながかね・藤原/葉室/三条、詩人) D 3 2 4 8
- 三笑亭可楽(初世さんしょうていからく) → 可楽(初世からく・三笑亭、落語家) 1 5 4 3
- 三笑亭可楽(2世さんしょうていからく) → さん馬(さんば・2世、翁家初世) E 2 0 6 1
- 三笑亭可楽(3世さんしょうていからく) → さん馬(さんば・3世、翁家2世) E 2 0 6 2
- 三条殿(さんじょうどの) → 頼忠(よりただ・藤原、関白太政大臣/歌) I 4 7 9 5
- 三条殿(さんじょうどの) → 直義(ただよし・足利、武将/歌人) G 2 6 0 4
- E2044 三条天皇(さんじょうてんのう、名;居貞おきさだ親王、冷泉天皇第二皇子)976-101742 母:藤原兼家女の超子、1011受禪;即位/在位1011-16、藤原道長の圧迫と病弱眼疾のため1016(長和5)讓位;出家、皇太子に立てた息子小一条院敦明親王も三条天皇没後に道長により廃される、花山天皇・為尊親王・敦道親王の兄弟、皇后;藤原成子せいし(972-1025/濟時女/敦明・敦儀・敦平・師明親王・当子・禊子内親王の母)、中宮;藤原妍子(994-1027/道長次女/陽明門院禎子内親王・綏子・原子の母)、歌人;「居貞おきさだ親王屏風歌」、993「帶刀陣歌合」主催/鷹百首;詠、後葉集(2首)・続詞花集・雲葉集入、勅撰8首;後拾遺(860/1033/1104)詞花(97)新古(382/1500)新千(1487)新拾(1768)
[心にもあらでうき世にながらへば恋しかるべき夜半の月かな](後拾遺860)
- 三条入道前太政大臣(さんじょうにゅうどうさきのだいていじん:風雅以下) → 実重(さねしげ・三条) D 2 0 0 5
- 三条入道前内大臣(さんじょうにゅうどうさきのないだいじん:新拾遺) → 公親(きんちか・三条) E 1 6 3 1
- 三条入道前内大臣(さんじょうにゅうどうさきのないだいじん:菊葉集) → 実継(さねつぐ・三条/正親町三条) D 2 0 1 8
- 三条入道前太政大臣(さんじょうにゅうどうさきのだいていじん) → 実重(さねしげ・三条、歌人) D 2 0 0 5
- 三条入道左大臣(さんじょうにゅうどうのさだいじん) → 実房(さねふさ・三条/藤原) 2 0 4 5
- 三条入道相国(さんじょうにゅうどうのしょうこく) → 実重(さねしげ・三条/藤原、歌) D 2 0 0 5
- 三条入道内大臣(さんじょうにゅうどうのないだいじん:新後撰以下) → 公親(きんちか・三条) E 1 6 3 1
- 三条入道左府(さんじょうにゅうどうのさふ) → 実房(さねふさ・三条/藤原) 2 0 4 5
- 三条右大臣(さんじょうのうだいじん) → 定方(さだかた・藤原、右大臣/歌人) B 2 0 7 7
- 三条右大臣実(さんじょうのうだいじんじつ) → 実親(さねちか・三条/転法輪三条、右大臣) D 2 0 1 7
- M2095 参上遅滞人(さんじょうのおそんど)?- ? 狂歌;1787「才蔵集」入;456
[書きおくる文は卞和べんかがたまづさか又もどさるゝ事のかなしさ]
(和氏がの璧たま;周代楚の卞和が磨かぬ玉を2度王に献じその都度足を切られ、3度目に真価がわかったという故事)

- 三条后(さんじょうのきさい) → 枇杷皇太后宮(びわこうたいごうぐう・藤原妍子) 3 7 3 0
 三条小右近(さんじょうのこうこん) → 三条小右近(さんじょうこうこん) E 2 0 4 2
 三条浄土寺(さんじょうのじょうどじ) → 実親(さねちか・三条/転法輪三条、右大臣) D 2 0 1 7
 三条台女(さんじょうのだいじょ) → 志万(しま・松下) F 2 1 7 4
 三条大納言(さんじょうのだいなごん) → 公実(きんざね・藤原) E 1 6 0 5
 三条大納言(さんじょうのだいなごん) → 実国(さねくに・藤原) D 2 0 0 2
 三条中納言(さんじょうのちゅうなごん) → 長方(ながかた・藤原) 3 2 0 6
 三条中納言(さんじょうのちゅうなごん) → 朝成(あさなり/あさひら・藤原、歌) E 1 0 3 6
 三条局(さんじょうのつぼね) → 藤子(とうし・藤原、歌人) E 3 1 7 2
 三条内大臣(さんじょうのないだいじん) → 公教(きんのり・三条/転法輪三条/藤原) E 1 6 5 4
 三条内府(さんじょうのないふ) → 公教(きんのり・三条/転法輪三条、歌人) E 1 6 5 4
 三条坊門(さんじょうのぼうもん; 称) → 通成(みちなり・中院/源、廷臣/歌人) C 4 1 1 2
 三条坊門大納言(さんじょうのぼうもんのだいなごん) → 通守(みちもり・中院/源、廷臣/歌) C 4 1 7 0
 E2045 三条町(さんじょうのまち・姓; 紀/名; 静子、紀名虎女) ?-866 文徳天皇の后(更衣)、従四上or正四下?、
 惟喬親王これたかのみこ・惟条親王・恬子てんし内親王・述子内親王・珍子内親王の母、
 有常・三国町・敏行母の姉妹、歌; 古今集930、没後; 868雲林院で惟喬親王による供養
 [思ひせくこころの内の滝なれや落つとは見れど音のきこえぬ](古今; 雑930)、
 (文徳天皇が清涼殿の台盤所の女官詰所で滝の屏風絵を見て女官達に詠ませる)
 三条御息所(さんじょうのみやすどころ) → 能子(のうし、醍醐女御) 3 5 3 4
 三条民部卿(さんじょうのみんぶきょう) → 長家(ながいえ・藤原、権大納言/歌人) D 3 2 2 0
 F2091 三四郎(さんしろう・奥村おくむら) ?- ? 京島原の女郎屋主人、「遊廓作法記」、1655前「秘伝書」著
 F2092 三四郎(さんしろう・松会まつえ、市郎兵衛) ?-? 江前期江戸の書肆、16448「長明物語」刊
 三四郎(さんしろう・久世) → 広宣(ひろのぶ・久世くぜ/源、武将/連歌) G 3 7 8 0
 三四郎(さんしろう・小牧) → 徳方(のりかた・小牧、儒者; 経史学) E 3 5 4 0
 三四郎(さんしろう・堀田) → 安政(やすまさ・脇坂わかさか/堀田、藩主/歌) H 4 5 0 5
 三四郎(さんしろう・堀田) → 正毅(まさざね・堀田/紀、藩主/文学) C 4 0 6 3
 三四郎(さんしろう・久世) → 道空(どうくう・久世くぜ/源、幕臣/典礼/歌) T 3 1 2 3
 三四郎(さんしろう・建部) → 賢之(かたゆき・建部たけべ、幕臣/和算家) 1 5 2 2
 三四郎(さんしろう・松会) → 芳文(よしふみ/よしふみ・松会まつえ、書家) G 4 7 8 2
 三四郎(さんしろう・水野) → 正信(まさのぶ・水野みずの、陪臣/国学者) F 4 0 8 2
 三四郎(さんしろう・堀) → 直義(なおよし・堀ほり、歌人) K 3 2 3 0
 三四郎(さんしろう・大坪) → 方暉(まさてる・大坪おおつば、藩士/国学者) O 4 0 3 5
 三四郎(さんしろう・西村) → 義右(よしすけ・熊谷くまがい/小林/西村、商家/藩支援) M 4 7 6 0
 三四郎(さんしろう・幸田) → 草臣(くさおみ・幸田こうだ、国学/歌人) E 1 7 1 8
 三四郎(さんしろう・佐々木) → 高行(たかゆき・佐々木ささき、藩士/国学) X 2 6 1 7
 三四郎(さんしろう・宮本) → 守親(もりちか・宮本みやもと/安宅、国学) L 4 4 6 3
 三四郎(さんしろう・宮本) → 守壽(もりかず・宮本、守親男/大庄屋/歌) L 4 4 6 2
 三次郎(さんじろう・林) → 重澄(しげずみ・林はやし、幕臣/歌人) C 2 1 2 7
 三次郎(さんじろう・沢田) → 眉山(びざん・沢田さわだ、藩儒/書/詩人) C 3 7 3 0
 三次郎(さんじろう・羽鳥) → 蓼和(りゅうわ・5世りゅうわ・羽鳥、俳人) J 4 9 6 8
 三次郎(さんじろう・山崎) → 本因坊道策(ほんいんぼうどうさく、4世/棋士) E 3 9 9 9
 三次郎(さんじろう・丸屋/村居) → 眞師(まふつ・村居/丸屋、書肆/国学) H 4 0 2 4
 三次郎(さんじろう・道山) → 壮山(そうざん・道山みちやま、俳人) H 2 5 5 1
 三次郎(さんじろう・朝岡) → 興禎(さきさだ・朝岡/狩野、幕臣/絵師) H 2 0 1 7
 三次郎(さんじろう・小林) → 快正(よしまさ・小林こばやし、地役人/国学) M 4 7 7 7
 三二郎(さんじろう・赤羽/北尾) → 政美(まさよし・北尾きたお、絵師) I 4 0 6 0
 三治郎(さんじろう・鈴木) → 正秀(まさひで・川部/鈴木、刀工/鍛錬術) G 4 0 7 2
 三治郎(さんじろう・市河) → 遂庵(すいあん・市河/横井、書家/詩人) 2 3 2 3
 三賜老夫(さんしろうじん) → 義足(よしたり・伊藤/伊東、商家/歌人) E 4 7 4 4
 山次郎判官代(さんじろうはんぐんだい) → 重如(重之しげゆき・山口/河内、歌人) D 2 1 2 4

- 02059 **三鍼**(さんしん) ? - ? 江中後期;京の国学者/歌人;小沢蘆庵(1723-1801)門
 三信(さんしん・竹内) → 一葉子(いちようし・竹立軒、俳人) C 1 1 6 2
 三信(三辰さんしん・池田) → 孤村(こそん・池田いけだ、絵師) N 1 9 0 3
 三伸(さんしん・大橋) → 知伸(ともぶ・大橋、絵師/篆刻/俳) Q 3 1 2 3
 三臣(さんしん) → 潤甫(じゅんぽ;道号・周玉;法諱、臨濟僧/歌/狂歌) K 2 1 4 5
- E2047 **山人**(さんじん、神田、蝶々子ちようちようしの妻)?-? 俳人:女六俳仙、1660「新続犬筑波」入、
 1662安静「阿波手集」64友次「阿波手集」66一雪「俳諧洗濯物」などに入集、
 [我つまや肌にそへとてあはせ物](阿波手集/夫つまと棲を掛け裕物[初夏の衣]の縁語)
- F2093 **産人**(さんじん・将酉しょうゆう)? - ? 大坂狂歌 1800松好斎「戯場楽屋図絵」入
 山人(さんじん・藤原) → 永源(えいげん・藤原、三論僧/歌人) 1 3 2 3
 山人(さんじん・木下、戯作者) → 田楽(でんがく・椒芽きのめ、医/戯作) D 3 0 2 5
 山人(さんじん・尾崎) → 義正(よしまさ・尾崎おさき、和漢学/教育) L 4 7 9 0
 散人(さんじん、鈴川) → 鈴川散人(すずかわさんじん、神職) D 2 3 7 9
 山振舎(さんしんしゃ) → 周政(ちかまさ・武津ふかつ、藩士/国学者) N 2 8 3 8
 三辰磨(さんしんまろ/みときまろ・河村) → 秀辰(ひでとき・河村/俵、藩士/国学) D 3 7 2 9
- M2041 **三水**(さんすい) ? - ? 和泉俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
- E2043 **蚕水**(さんすい・稲葉いなば、名;正宗/正、成田隆言男)1757-182266 稲葉文右衛門の養子、
 常陸土浦の医者;凶南門、土浦藩奥医師、「長沙百選」「病源雑話」、1804「復古明試験」著、
 [蚕水(;号)の別号] 周貞/宗軒
- F2094 **山水**(さんすい・一花堂、河内屋清七)?-? 俄芸, 1849淀川「古今二和歌集」跋
- F2095 **散水**(さんすい・築山つきやま) ? - ? 漢詩:広瀬淡窓門 1854「宜園百家詩」3篇5・6巻編
- M2042 **三水**(さんすい) ? - ? 幕末期江戸の俳人、
 1867「菩提子」編、「玉しろ機」「芭蕉翁古池真伝」著、
 [三水(;号)の通称/別号]通称;近江屋吉右衛門、別号;莫作庵
 山水(さんすい・一筆) → 一筆山水(いっぴつのさんすい、狂歌) I 1 1 7 8
 山水(さんすい・江島) → 為信(ためのぶ・江島、仮名草子・俳人) S 2 6 6 3
 山水(さんすい・野村) → 立栄(2世りゅうえい・野村/野、医者) C 4 9 8 7
- E2049 **暫醉**(さんすい・従高) ? - 1681 真宗大通寺住:貞門俳人、
 1664季吟「俳諧両吟集」入(;季吟らと両吟百韻十巻)
 山水観主(さんすいかんしゅ) → 義恭(よしたか・毛束けつか、名主/神職/歌) M 4 7 6 7
 山水舎(さんすいしゃ) → 一之(いっし・須田すだ、医者/俳人) H 1 1 2 3
 三水淳翁(さんすいじゅうおう) → 元珍(もとよし・松尾まつお、酒造業/歌人) L 4 4 3 6
 山水亭(さんすいてい) → 周徳(しゅうとく・河西かさい、商家/俳人) I 2 1 1 6
 山水堂(さんすいどう) → 荘嶽(そうがく・乾いぬい、藩士/詩人) G 2 5 6 1
 三助(さんすけ・三好) → 紀隆(のりたか・三好、郷土史家) E 3 5 8 2
 三助(さんすけ・橋村) → 正令(まさり・橋村/度会、神職/和漢学/書) R 4 0 7 2
 三助(さんすけ・平岡) → 敬重(たかしげ・平岡ひらおか、歌人) Z 2 6 2 4
 三介(さんすけ・田中;変名) → 勘六(かんろく・近松ちかまつ、赤穂義士) R 1 5 8 8
 三介(さんすけ・村上) → 円方(まどかた・村上、国学者/歌人) J 4 0 9 2
 三介(さんすけ・奥村) → 国具(くにとも・奥村おくむら、和算家) C 1 7 9 8
 三介(さんすけ・中島/木山) → 楓溪(ふうけい・木山きやま、藩士/儒者) 3 8 4 9
 三輔(さんすけ・横道) → 居州(やすくに・横道よこみち、国学者) H 4 5 0 1
 算助(さんすけ・武野) → 貞実(さださね・武野たけの、藩士/和算家) I 2 0 1 9
 三寸庵(さんすんあん) → 万英(2世まんえい/ばんえい・波多野、俳人) L 4 0 1 1
 三寸鏡霊神(さんすんきやうれいしん) → 高尚(たかなお・藤井/大中臣、神職/歌学) 2 6 1 3
 山是庵(さんぜあん) → 是水(ぜすい・島しま、俳人) G 2 4 9 7
- 2053 **三省**(さんせい・小倉おぐら、名;克通/克、政平[政康]男)1604-5451 土佐藩士;1642出仕、
 学問;僧天室門、儒(程朱):土佐南学;谷時中門、土佐藩執政、土佐南学の発展に尽力、
 「周易大伝研幾」著、「小倉三省遺稿」、

[三省(；号)の字/通称]字;政実/政義、通称;弥右衛門

参照 南学の系譜 → 梅軒(ばいけん・南村)

B 3 6 0 6

- F2096 **三征**(さんせい) ? - ? 堺の俳人、1660頭成あきなり「境海草さかいたぐさ」入
- F2097 **三政**(さんせい・真壁まかべ) ? - ? 河内弓削の俳人、1659燕石「牛飼」/74宗旦「遠山鳥」百韻入、
狂歌;1666行風「古今夷曲集」2首入
[世捨人かいや夜はすてず月のもとの酒に心がうき蔵司どうすなり](古今夷曲;秋201)、
(月見の酒宴/浮蔵司は遊好きの剽軽坊主)
- G2013 **三清**(さんせい・宮原みやはら) ? - ? 江前期上方の俳人、
1673西鶴「生玉万句」第九頭巾脇句入、
[へらの先までわたる寒風](生玉万句;頭巾脇句、隙間風の吹く家、
発句正俊;糊加減紙は受けずも頭巾哉/糊を延ばす篋/紙子頭巾は貧困を示す)
- F2021 **杉声**(さんせい) ? - ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、
[ならひ住む隣や礎きぬた鍛冶の宿](丁卯集/四氏;工)
- F2098 **三星**(さんせい) ? - ? 上野富岡住の俳人;
1704友人酔月が滞在:酔月編「花見車集」(1705刊)入
- M2043 **三省**(さんせい・鈴木すずき、号;北越山人)?-? 江中期宝永1704-11頃越後の詩人、江戸/京に住、
1705・7「吟歩記」著
- M2044 **三省**(さんせい・蘆野あしの、名;永光、金野伝右衛門5男)?-? 江戸中期陸中の漢学者、蘆野東山の義兄、
居所を細桑屋敷と称す、「兔園集」著、
[三省(；号)の字/通称]字;有従、通称;酉松/三右衛門
- M2045 **山清**(さんせい、大原おおはら、名;武正/武寿/師寿) 1713-55 43 尾張熱田社の社家;1735大師大夫職、
1750「熱田神庫官符真偽難辨」著、
[三清(；号)の通称/別号]通称;弥六/弥五郎/多仲、別号;清千
- M2046 **三省**(さんせい・田村たむら、酒井忠知3男) 1734-1806 73 会津若松城下の町人の生、
会津藩士田村清右衛門の養嗣;1759家督継嗣;清次右衛門を襲名、吟味所所属の無役、
藩財政窮乏時に社倉方・勸業方を務め民政・農政に尽力;治績を残す、考古学・地質学精通、
珍石奇石を蒐集、「新編会津風土記」編纂に参画;途中で病没、
「会津石譜」「孫謀録」「会津年代重宝」著、
[三省(；号)の通称]通称;清次右衛門、
- 02077 **三省**(さんせい・関島せきじま、) ? - ? 江中後期;信濃飯田の町医者、国学者・歌人、
国学・歌;依田正純(1681-1749)・桃沢夢宅(1738-1810)門
- N2048 **三生**(さんせい・樋口ひぐち、日野祖右衛門重貞2男) 1770-1844 75 歳 信濃松島村の生、
同村樋口平右衛門光房の養嗣子、医学;諏訪藩医竹内惟石門;眼科医、帰郷し開業;繁昌、
同業医の迷惑を嫌い1808(文化5)江戸本銀町に開業;名医と評判;1812(文化9)幕府に招聘、
1830(天保元)幕府侍医/36法眼、医は仁術を信念;貧富を問わず治療、
遺言;[今我の葬を発引せんとするときでも病客あらばこれを拒んではならない]、
[三生(；号)の名/号] 貞平/求馬/光忠、号;士勤
[樋口家系譜] (初世) (2世) (4世)
光房(平右衛門) — 光忠(三生) — 光成(三圭) — 光義(三立)
(3世)
光徳(三益)(養嗣子)
- M2047 **山静**(さんせい) ? - ? 江後期陸中盛岡の俳人、「盛岡人連句」著、
奥寺山厚さんこう[1805-72]と交流
- M2048 **三省**(さんせい・心応軒しんおうけん、姓;恩田/名;子信) 1744-1810 67 三河吉田曲尺手かねての華道家、
是心軒一露門;松月堂古流修得、四時庵北英と共に三河華道の先達、
1784「古流生花相承辨」、「三遠瓶花之図」著、
[心応軒三省(；号)の通称] 太惣太
- 山井(さんせい・浅加) → 久敬(ひさたか・浅加あさか、藩士/国史・歌) B 3 7 2 1
山井(さんせい・朝香) → 文敬(ふみたか・朝香あさか/追川、医者/国学) H 3 8 9 1
山静(さんせい・狩野) → 永納(えいのう・狩野、絵師) 1 3 4 4

- 三正(さんせい・下石おろし) → 道二(どうに・下石おろし、槍術家) G 3 1 8 4
三生(さんせい・柴田) → 花守(はなもり・柴田しばた、神道家) F 3 6 5 0
三成(さんせい・大田部) → 三成(みなり・大田部おおたべ、万葉防人歌) F 4 1 4 1
三成(さんせい・藤原) → 三成(ただひら・藤原、平安期詩人) Q 2 6 6 4
三成(さんせい・石田) → 三成(みつなり・石田いしだ、武将/関ヶ原戦) E 4 1 2 3
三青(さんせい・玉松) → 操(みさお・玉松たままつ/山本、僧/国学/政治) J 4 1 7 2
三清(さんせい・室谷) → 賀弘(よしひろ・室谷むろたに、商家/詩歌/茶人) P 4 7 5 8
三政(さんせい・斎藤) → 赤城(せきじょう・斎藤さいとう、儒者/教育) K 2 4 2 2
三盛(さんせい・片山) → 良庵(りょうあん・片山かたやま、藩士/兵学者) G 4 9 0 3
三省(さんせい) → 堯憲(ぎょうけん; 法諱、僧/歌人) C 1 6 4 3
三省(さんせい・前田綱紀) → 松雲(しょううん・前田、藩主/藩政改革) F 2 2 3 2
三省(さんせい・川口) → 緑野(りよくや・川口かわぐち、医/藩儒) J 4 9 8 1
三省(さんせい・向井) → 橋洲(きしゅう・向井、儒者/詩人) F 1 6 9 4
三省(さんせい・片桐) → 致真(ゆきざね・片桐かたぎり、商家/歌人) G 4 6 7 3
三省(さんせい・服部) → 常職(つねより・服部はっとり、幕臣/国学) G 2 9 1 8
三省(さんせい・星野) → 泰俊(やすとし・星野ほしの、神職/国学/歌) G 4 5 5 6
三省(さんせい・堀田) → 成信(なりのお・堀田ほった、医者/歌人) O 3 2 6 5
三聖庵主人(さんせいあんしゅじん) → 梅村(ばいそん・山田やまだ、儒者/詩人) B 3 6 7 7
三清院(さんせいいん; 法号) → 広照(ひろてる・皆川みながわ、武将/藩主) G 3 7 4 7
三井園(さんせいえん) → 鉄斎(てっさい、俳人) C 3 0 3 1
三生翁(さんせいおう) → 林谷(りんこく・細川ほそかわ/広瀬、篆刻家/詩人) K 4 9 2 7
三省窩(さんせいか) → 国雅(くにまさ・北村きたむら、国学/歌人) E 1 7 1 3
三省軒(さんせいけん) → 鷺水(ろすい・青木あおき、俳人/浮与草子) 5 2 0 4
山晟斎(さんせいさい) → 永良(えいりょう・狩野、絵師) D 1 3 4 2
M2049 三星子(さんせいし) ? - ? 江中期備中笠岡の文筆家、1735「松風草」著
散正士(さんせいし) → 正秀(まさひで/せいしゅう・水田、商家/俳人) 4 0 1 7
三省堂(さんせいどう) → 春庵(しゅんあん・玉川/中津川、医者/詩) 2 1 9 6
三省堂(さんせいどう) → 如是観(にょぜかん・雲窓、真宗僧/国学) G 3 3 0 3
三晴堂(さんせいどう) → 益信(ますのぶ・田中たなか、絵師) J 4 0 1 3
山井堂(さんせいどう) → 高基(たかもと・山鹿、素行男/兵学者) N 2 6 3 8
山井道士(さんせいどうし) → 百庵(ひやくあん・寺町/越智、幕臣/茶/歌) E 3 7 4 3
三井老人(さんせいろうじん) → 鉄斎(てっさい、俳人) C 3 0 3 1
P2094 残生(ざんせい; 号) ? - ? 江前期; 京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]入、
河瀬家の人か?
[かくて又いく夜ねぎめの窓の月ただ老いらくの友ぞ恋いしき](麓の塵; 雑646)
E2050 山石(さんせき) ? - ? 肥後八代俳人、1664季吟「両吟集」・66重徳「独吟集」に入
E2051 山夕(初世さんせき・樋口ひぐち) ? - 1703 調和系江戸の俳人: 玄札門、
1681言水「東日記」「蘆分船」入、「続虚栗」「枯尾花」「末若葉」「斎非時」入、岩翁「若葉合」跋
M2050 三碩(さんせき・戸坂とさか) 1662-1736 75 羽後秋田藩士の生; 幼時父を失い無禄/長じて60石、
1691江戸で医者; 東野右衛門門、帰郷し医を開業、俳人: 其角門; 谷羊の号を受、1731隠居、
「靈枢辨鈔」編、
[三碩(; 号)の別号] 別号; 谷羊こくよう(; 俳号)/基春/葵衛足山人、法号; 清涼庵道誠居士
M2051 山夕(2世さんせき・桃井もい) ?-? 江中期江戸の俳人: 初世山夕門、
1712「正徳三癸巳歳旦」15「正徳五乙未歳旦」55「ほととぎす」58「宝永八辛卯歳旦」、外多数、
[山夕2世の別号] 仙水(初号)/鳴蛙斎/鳴蛙井/脱庵/故新軒
G2043 山夕(さんせき・深川ふかがわ、別号; 桃窓) ?-? 江後期江戸本郷竹町俳人; 其角座点者、玄々坊山夕系、
1848沾山せんざん7世「俳諧觸はいかいけい」点句入
三積(さんせき・堀内) → 三稜(みくり・堀内、国学者) 4 1 8 1
三積(さんせき・静間) → 三積(みさか・静間しずま、藩士/国学者) 4 1 8 2

- 三石(さんせき・一松軒) → 源八(げんぱち・菅原、村役/救民/俳人) M 1 8 1 5
 三石(さんせき・味木/沢) → 喬(たかし・沢さわ/味木、藩士/書画) L 2 6 9 6
 三蹟(さんせき) ; 平安期和様書道の三人の能書家、三賢ともいう、
 → 道風(とうふう/みちかぜ・小野、894-966) 3 1 2 0
 → 佐理(すけまさ/さり・藤原、944-998) 2 3 1 1
 → 行成(こうせい/ゆきなり/ゆきしげ・藤原、972-1027) 1 9 1 3
 山磧(さんせき・山村/沼田) → 未生齋一甫(みしょうさいいっぽ、華道家) 4 1 8 7
 杉夕(さんせき・農夫園) → 東雄(はるお・福島、名主/国学/地誌) G 3 6 0 2
 杉夕(さんせき・杉本) → 安平(やすひら・杉本すざもと、国学者) G 4 5 0 4
 G2035 残石(ざんせき・市村) ? - ? 京の俳人、1691江水「元禄百人一句」目録入
 三夕軒(さんせきけん) → 半兵衛(はんべえ・吉田、絵師) I 3 6 4 9
 三夕堂(さんせきどう) → 斉熙(なりひろ・毛利、藩主/俗謡作) I 3 2 0 7
 三石堂(さんせきどう) → 磊堂(らいどう・江邸えむら/田中、藩医) 4 8 8 7
 E2052 山雪(さんせつ・狩野かのう、光家/縫殿助、蛇足軒/桃源子、狩野山楽の養子) 1590-1651⁶² 狩野派絵師、
 装飾画に長ず、「雪汀水禽図屏風」画
 M2052 三折(さんせつ・嶺川みねかわ/修姓;嶺、名;玄允)?-? 江中期美濃の本草家;松岡怨庵門、
 1719「鍼用切紙」著/21「治方類案」編/26「衛幼捷徑」28「本草備考」31「三臟辨義」著、
 「和本草集類」「用薬指南」「諸証類案」編、「湯液選方」「妙薬方考」「大学章句私考」著
 M2053 山雪(さんせつ・本田ほんだ、名;尚澂)?-1790 尾張名古屋往還筋のの書家/文澂明の書法を修得、
 「老蟾先生左伝系譜」、門弟多数、
 [山雪(;号)の字/別号]字;叔清、別号;灌園、法号;観明院
 M2054 算節(さんせつ・外山とやま、幼名;喜太郎)?-? 江後期紀伊和歌山ト半町の棋士、
 京住:本因坊元丈門/六段、晩年;丸山正阿弥と称する料理屋を買い隠居、
 1820「置碁必勝」32「置碁必勝後編」著
 M2055 三折(さんせつ・水原みずはら、名;義博、最上勝躬男) 1782-1864⁸³ 代々近江八幡の医者、
 医;京の宇津木昆台・奥劣齋門/蘭学;海上随鷗門、賀川流産科を専門、
 探領器など種々の手術用器械や手術法を發明、1834「産科探領図訣」48「産育全書」著、
 「産科三器図式附経験図式」編/「産科回生鉤胞秘訣」編、
 [三折(;号)の字/法号]字;濟卿、法号;醇生庵濟譽三折居士
 三設(さんせつ・大島) → 半隠(はんいん・大島、藩士/儒者) H 3 6 2 1
 三折(三説/三悦さんせつ・本内) → 以慎(いしん・本内もとうち、儒者) F 1 1 6 9
 三折(さんせつ・長谷川) → 菅緒(菅雄すがお・長谷川、医/国学/歌) B 2 3 6 2
 三折(さんせつ・兼子) → 吉士(よしひと・兼子かねこ、医者/国学) M 4 7 2 6
 三折(さんせつ・森) → 熊夫(くまお・森もり、医者/国学) E 1 7 5 7
 三折(さんせつ・三沢) → 俊秀(としひで・三沢みさわ/源/小沢/布川、医薬/国学) N 3 1 5 2
 残雪(ざんせつ・木原) → 俊徳(としのり・木原きはら、歌人) U 3 1 9 2
 慙雪舎素及(さんせつしやそきゅう) → 素及(そきゅう、浮草子作者) D 2 5 4 7
 山雪堂(さんせつどう) → 梅伽(ばいか・府川ふかわ、俳人) 3 6 7 6
 杉雪楼(さんせつろう) → 至芳(しほう・井田、俳人) F 2 1 6 8
 F2099 山川(さんせん・寺村/幸村?、通称;弥右衛門)?-? 伊賀上野藤堂藩士、江戸勤番/俳人:其角門、
 1690其角「花摘」入/板下を書く、91「猿蓑」2句入、
 [芦原や鷺の寝ぬ夜を秋の風](猿蓑;三秋)
 N2010 三千(さんせん) ? - ? 江前期俳人;1692不角「千代見草」入
 [太き氣に細ほそや畳の縁へりづたひ](千代見草/夜這いは大胆にししかも細心に)
 G2017 三川(さんせん・山田やまだ、孝純男) 1804-62⁵⁹ 伊勢三重郡平尾村の医家の生、
 医;久保闌所門/儒;1821叔父津阪東陽門/25儒;昌平鬻入・古賀侗庵門/昌平鬻舎長、
 1838蝦夷松前藩出仕;徽典館教授/督学/48致仕、上野安中藩主板倉勝明に出仕;御金奉行、
 郡奉行/藩校造士館教授、安井息軒・渡辺華山・藤田東湖と交流、「三川雲霧集」編、
 1826「近蜀游草」、「つくば八方園」「回春話林」「三川雑記」「三川詩集」著、
 [三川(;号)の名/字/通称/別号]名;飛/載飛/載鳴、字;致遠/瞻仲せんちゅう、通称;三郎、

別号;四有、法号;田竜院

- 三遷(さんせん・高井) → 蘭山(らんざん・高井たかい、与力/戯作者) 4 8 0 4
三宣(さんせん・高木) → 源六郎(げんろくろう・高木たかぎ、幕臣/歌) N 1 8 4 5
三善(さんぜん・鍋田) → 三善(みつよし・鍋田、儒/叢書編纂) F 4 1 2 1
三善(さんぜん・渡辺) → 政香(まさか・渡辺/源、神職/国学/歌) B 4 0 6 4
産全庵(さんぜんあん) → 元忠(げんちゆう・平野ひらの、医者) L 1 8 2 1
三千院(さんぜんいん) → 日荘(にっそう;法諱・舜廓院、日蓮僧) E 3 3 8 9
三千貫(さんぜんかん) → 有斐(ゆうひ・大森おもり、茶道家) D 4 6 6 3
三遷居(三遷居さんせんきよ) → 大魯(たいろ・吉分[別]、藩士/俳人) C 2 6 3 7
三泉居士(さんせんこじ) → 桂谷(けいこく・藤森ふじもり、絵師/教育) F 1 8 6 0
三遷子(さんせんし) → 孤山(こざん・堀ほり、儒・医者) M 1 9 5 7
三千舎(さんぜんしゃ→みちのや) → 桃源(とうげん・渡辺、商家/俳人) D 3 1 4 5
三千丈(さんぜんじょう/みちたけ・柴田/加藤) → 行虎(みちたけ・加藤かとう、医者/歌人) B 4 1 7 4
三泉生(さんせんせい) → 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2
三千足(さんぜんそく・みちたり?・勝俣) → 秀安(ひでやす・勝俣かづまた、医者/国学) J 3 7 0 7
三扇堂一作(さんせんどういっさく) → 立栄(初世りゅうえい・野村/舎人、医者) C 4 9 8 5
山泉堂賞月(さんせんどうしょうげつ) → 賞七(粧七しょうしち・清水、歌舞伎作者) J 2 2 4 2
三千年(さんぜんねん/みちとせ) → 公明(きみあき・河内かわうち、医者/国学/歌) M 1 6 0 0

N2012 三千房(さんぜんぼう;組連) ? - ? 江中期江戸本郷井筒の雑俳の組連、

取次;1737・39・40「収月評万句合」入、

取次例;[めいように除よければ除ける方へ除け]、

(1737万句合/めいように[面妖に]は不思議にもの意)

- 三千房(さんぜんぼう) → 屋烏(おくう・渡辺/石井、藩士/俳人) B 1 4 4 6
三千房(さんぜんぼう) → 鵬雲(ほううん・三千房、俳人) 3 9 1 8
山叟(さんそう;道号) → 慧雲(えうん;法諱・山叟、臨濟僧) 1 3 5 1
三藻(さんそう・宮部) → 義正(よしまさ・宮部みやべ、藩士/歌人) H 4 7 0 4
三箱(さんそう) → 三箱(さんばこ・宝玉菴、川柳作者) G 2 0 2 7

G2000 三蔵(さんぞう・難波なにわ、姓;高田)?-? 江中期大坂の御城入医師、浄瑠璃・歌舞伎;陸奥茂太夫門、
浄瑠璃作者;1745曾根崎明石越後掾座「三軍桔梗原」合作(;春草堂名)、45陸竹座の太夫元、
1746陸竹小和泉座の「歌枕棗裳花合戦うたまくらやまぶきかつせん」合作、1746「女舞劔紅楓」単独で著、
1747「鎮西八郎射ゆみやの往来」著、歌舞伎作者;1748坂東豊三郎座「恋淵血汐絞染」正三と合作、
1749「染綱武蔵鏡そめたづなむさしあぶみ」単独著、難波三蔵名の豊竹座浄瑠璃作者;
1749「物ぐさ太郎」51「一谷嫩軍記」56「義経勲功記」57「前九年奥州合戦」等9作制作に参加、
俳人;上田秋成(漁焉)と一座;1762「雪達摩」秋成と歌仙入、1781「浪華宗匠発句集」入、

[難波三蔵(;号)の通称/別号]通称;高田瑞庵・安平治元珉(;医者名)/河内屋佐兵衛、

別号;春草堂/陸竹佐和太夫/陸竹和佐太夫/陸竹小泉太夫/

俳号;二条庵笛十てきじゅう

M2056 讚蔵(さんぞう・関せき、名;恒、勝之男長)1827-6438 母;関居易齋女、大坂の生/1833豊後日出に帰郷、
1844(18歳)家督嗣;日出藩士;140石/群書渉獵;兵学・砲術に通ず/1848長崎・高島秋帆門、
山本重知門;3年間西洋砲術を修学/帰藩;子弟教育、藩の兵制改革立案;振武流兵法と命名、
帆足万里が反射炉建造し大砲鑄造を企画の時これを指導完成させた、
1857「砲学通志」訳、「海魚志略」著、

[讚蔵(;通称)の字/別通称]字;君常、別通称;直吉、法号;忠憲院

- 三蔵(さんぞう・小倉) → 無隣(むりん・小倉おぐら無邪、儒者) D 4 2 3 0
三蔵(さんぞう・小倉おぐら) → 竹苞(ちくほう・小倉、儒者) D 2 8 7 8
三蔵(さんぞう・座光寺) → 南屏(なんべい・座光寺どうじ、儒/医者) J 3 2 4 0
三蔵(さんぞう・石野/佐々木) → 万彦(まひこ・佐々木、幕臣/歌人) L 4 0 0 0
三蔵(さんぞう・石野/佐々木) → 一陽(かづあき・佐々木、万彦の弟・養子/幕臣/歌) M 1 5 0 3
三蔵(さんぞう・宇佐美) → 黙斎(もくさい・宇佐美うさみ、茶人) 4 4 8 0
三蔵(さんぞう・蘆沢) → 下田翁(かでんおう・蘆沢あしざわ、藩士/儒) O 1 5 1 2

三蔵(さんぞう・下田) → 芳沢(ほうたく・下田しもだ/藤原、儒者) C 3 9 2 4
 三蔵(さんぞう・松田) → 棟園(ていえん・松田まつだ、藩儒) 3 0 3 5
 三蔵(さんぞう・亀田) → 綾瀬(りょうらい・亀田かめだ、儒者) 4 9 2 5
 三蔵(さんぞう・外山) → 利一(としかず・外山とやま、陪臣/国学者) V 3 1 8 1
 三蔵(さんぞう・安井) → 金童(きんりゅう・安井やすい、藩士/儒者) J 1 6 0 8
 三蔵(さんぞう・円山) → 溟北(めいほく・円山まるやま/小池、藩士/儒者) 4 3 3 7
 三蔵(さんぞう・岡崎) → 宜陳(よしのぶ・岡崎おかざき、藩士/測量) F 4 7 6 7
 三造(さんぞう・油屋/伊能) → 頼則(ひでのり・伊能、商家/国学/歌) D 3 7 6 5
 三造(さんぞう・松尾) → 為誠(ためまさ・松尾まつお、国学/歌人) Z 2 6 5 4
 参蔵(さんぞう・浜村) → 蔵六(4世ぞうろく・浜村/塩見、篆刻家) J 2 5 2 6
 三奏菴(さんそうあん・津田) → 吳逸(ごいつ・津田/四極田、俳人) 1 9 5 9
 三蔵院大僧正(さんぞういんのだいそうじょう) → 範憲(はんけん:法諱、法相僧/歌) H 3 6 5 1

Q2002 **三蔵院桃李**(さんぞういんのとうり)?- ? 鎌倉期;興福寺三蔵院の童、歌人、開創院主は範憲、1237刊[檜葉集]入、

[鳥のねのこのあか月もつらきかななかずはなほもまたましものを](檜葉;雑童739)

蚕桑園稻麿(さんそうえいいなまる) → 稻麿(いなまる・蚕桑園、養蚕家) I 1 1 1 1
 三巢園(さんそうえん) → 月居(げつきよ・江森、俳人) 1 8 0 7
 三草子(さんそうし→みさこ・松乃門まつのと) → 美佐子(みさこ・小川おがわ、小三、歌人) H 4 1 6 6
 三蔵楼(さんぞうろう) → 田鶴丸(たづまる・蘆辺あしべ/岩田、狂歌) 2 6 3 9
 三足庵(さんぞくあん) → 淳子(あつこ・山田やまだ袖香/近藤、歌人) L 1 0 5 5
 三足道人(さんぞくどうじん) → 金鶏(金雞きんけい・奇々羅/畑、医/狂歌/戯作) 1 6 6 0
 三足老人(さんぞくろうじん) → 丈山(じょうざん・石川、儒者/詩人) S 2 2 5 7
 三村山人(さんそんさんじん) → 尉信(やすのぶ・長島ながしま/小泉、農政家) C 4 5 5 7
 三代爽鳩(さんだいそうきゅう・鷹見) → 星阜(星岡せいこう・鷹見、藩士/儒/詩) B 2 4 4 5
 三大蘭方医(さんだいらんぼうい); 江戸で開業したいた3人のすぐれた蘭方医
 → 信道(のぶみち・坪井誠軒) 1795-1848 D 3 5 4 0
 → 静海(せいかい・戸塚) 1799-1876 H 2 4 7 0
 → 玄朴(げんぼく・伊東) 1800-1871 M 1 8 3 9

三太右衛門(さんだえもん・岩田) → 七左衛門(しちざえもん・岩田、藩中老/馬術家) U 2 1 3 0

G2001 **三朶花**(さんだか・石井いわい、名;収、盛定男/本姓;源) 1649-1724 76 安房山荻村の儒者/祖は里見氏、1674徳川光圀に出仕;水戸藩儒員/彰考館編纂員、詩に長ず;心越禅師が賞賛したという、「菊潭文集」編、「三朶花詩文集」、1717「石井収勧学文」20「破日蓮編」著、[三朶花(;号)の通称/法号]通称;弥五兵衛、法号;規法道豁

山琢(さんたく・岩瀬) → 雨銘(うめい・岩瀬いわけ、藩医/俳人) 1 2 9 1
 三多斎(さんたさい) → 肇(はじめ・寺井てらい、藩士/故実家) E 3 6 4 1
 三達(さんたつ・釜屋/鈴木) → 頂行(ちようぎょう・鈴木、神道家;富士講) H 2 8 8 8
 三太坊(さんたぼう・森田) → 元夢(げんむ・森田、俳人) D 1 8 1 1
 三大夫(さんだゆう・多賀) → 常政(つねまさ・多賀たが、故実家) D 2 9 7 2
 三大夫(さんだゆう・前田) → 安知(やすとも・前田まえだ/菅原、幕臣/歌) E 4 5 8 1
 三太夫(さんだゆう・馬場) → 重久(しげひさ・馬場ばば、医者/養蚕家) S 2 1 3 4
 三太夫(さんだゆう・戸板/新井) → 雨窓(うそう・新井あらい、儒者/詩歌) C 1 2 0 2
 三太夫(さんだゆう・森脇) → 三久(みつひさ・森脇もりわき、藩士/古典/神道/歌) K 4 1 8 3
 三太夫(さんだゆう・小出) → 松斎(しょうさい・小出こいで、藩士/国学者) J 2 2 0 2
 三太夫(さんだゆう・加藤) → 虞山(愚山ぐざん・加藤、藩士/地誌/歌) B 1 7 3 6
 三太夫(さんだゆう・深江) → 簡斎(かんさい・深江ふかえ、儒者) H 1 5 6 0
 三太夫(さんだゆう・松田) → 五松(ごしょう・松田まつだ、国学/俳人) M 1 9 7 9
 三太夫(さんだゆう・藤川) → 貞賢(さだかた・藤川ふじかわ、藩士/歌人) H 2 0 9 8
 三太夫(さんだゆう・森脇) → 惟久(これひさ・森脇/吉川、神道/歌人) R 1 9 2 3
 三太夫(さんだゆう・岡谷) → 繁諷(しげあきら・岡谷おかや/源、藩士/歌) N 2 1 8 7
 三太夫(さんだゆう・竹村) → 篤実(あつざね・竹村たけむら、歌人) H 1 0 9 7

三太夫(さんだゆう・河原田かわらだ)→春江(しゅんこう・河原田、藩士/儒者/兵学)M 2 1 7 9
三太夫(さんだゆう・山田大路)→親彦(ちかひこ・山田大路ようだおおじ/飯高、神職)B 2 8 6 7
三太夫(さんだゆう・三倉屋)→定功(さだこと・富山とみやま/辻/島田、商家/歌)O 2 0 9 2
三太夫(さんだゆう・丸岡)→荻爾(かじ・丸岡まるおか/吉村、藩士/国学/政治)V 1 5 8 0

E2054 **三陀羅法師**(さんだらほうし、清野/初姓;赤松、名;正恒)1731-1814⁸⁴ 江戸の生、
宝暦初1751頃に神田お玉ヶ池の左官職清野家の養子、俳諧のち狂歌;唐衣橋州門、
千秋側の棟梁/千柳亭唐麿に一葉号を譲渡、1787「おとし咄」90「絵本よもきの妻」編、
1794「狂歌三十六歌仙」/98「狂歌三陀羅かすみ」99「狂歌東西集」/1802「五十鈴川狂歌車」編、
1803「堀川太郎新狂歌集」05「狂歌吾妻集」編、「狂歌大つとみ」「狂歌続東西集」編、
「夷曲花鳥集」「水唐物語」「狂歌当載集」「狂歌連合女品定」外編著多数、
門人;鈍々亭和樽・千首楼堅丸・千柳亭唐麿など、

[三陀羅法師(;剃髮号)の字/別号]字;己巳き、別号;一寸一葉/千秋庵、法号;清信院

三太郎(さんたろう・月形)→漪嵐(いらん・月形つきがた弘、藩士/儒者)I 1 1 3 6
三太郎(さんたろう・早野)→橘隧(きつすい・早野はやの、儒者/講説/詩)I 1 6 6 5
三太郎(さんたろう・長島)→尉信(やすのぶ・長島ながしま/小泉、農政家)C 4 5 5 7
三太郎(さんたろう・進藤)→重記(しげのり・進藤/菅原、神職/地誌)S 2 1 0 6
山太郎(さんたろう・川江)→直種(なおたね・川江かわえ/定村、神職/歌)L 3 2 6 9
三多楼戯家山人(さんたろうぎかささんじん)→三馬(さんば・式亭ききてい、戯作者)2 0 5 5
三男蔵(さんなんぞう・松井)→峯山(がさん・松井まつい、絵師)L 1 5 7 4

M2057 **算知**(さんち・安井やすい・中野/名;俊哲、安井家8世仙知男)1810-58⁴⁹ 囲碁棋士:1825御城碁に出仕、
1838安井家9世を嗣;安井算知を名乗る/上手(7段)、天保4傑の1、駿河沼津で客死、
1847「囲碁捷徑」/48「佳致精局」

N2059 **三知**(さんち・高木たかぎ/本姓;源)?-? 江後期;歌人、幕臣、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[いつはりのかぎりをいつと知らぬみをおどろかしてや鳥の鳴くらん]、
(大江戸倭歌;恋1422)

[日のひかり袖にかざして旅衣君が御先の露やはらはん](同;雑1744、日光山へ御供)

三知(さんち→かざとも・寺町)→百庵(ひやくあん・寺町/越智、幕臣/茶/歌)E 3 7 4 3
三恥(さんち・赤井)→直喜(なおよし・赤井、藩士/文筆家)C 3 2 9 8
三治(三胤さんち・横井/市河)→遂庵(すいあん・市河/横井、書家/詩)2 3 2 3
三痴(さんち・榊原)→守典(もりり・榊原さかきばら/上田、儒者)G 4 4 2 5
三痴学人(さんちがくじん・梶原)→景惇(かげあつ・梶原、商家/和漢学)B 1 5 8 1
三竹(さんちく・野間)→静軒(せいけん・野間、医/詩文)2 4 0 8

G2002 **三中**(さんちゆう・都みよこ、通称;金太夫)?-? 江中期正徳1711-16頃浄瑠璃一中節:初世一中門、
江戸に一中節を広める

M2058 **三中**(さんちゆう・高宮たかみや、名;土彪/彪)?-? 江後期大阪の儒者、高島環中の一族か?、
1810「北遊雑記」著、「歳律環同韻」編、
[三中(;通称)の字/号]字;弼中ほうちゆう、号;整州ごうしゅう

G2003 **三中**(さんちゆう・色川いろかわ、英恵男)1801-55⁵⁵ 常陸土浦の薬種業/醤油醸造;富商の生、家業不振;
青年時代はその再建に尽力、国学:1836橋守部門;国史・古典研究に精励、歌人/蔵書家、
「六霜集」「香取歌合」「色川三中詠草」「常陸名所図絵」「万葉集名物字類」「和名部類」、
「足柄日記」「江戸の裏」「おもひ草」「香取路廻記」「苺萱」「京弁考」「意の葉」「俗言三百」、
「竹取物語」「千種の花」「東海随筆」「投猿志稿」「野中の清水」「倭方綱要」外著多数、
中山信名「常陸国誌」刊、黒川春村・山崎知雄と交流、佐久良東雄の師、
[三中(;名)の別名/通称/号]初名;英明、通称;桂助/三郎兵衛、号;東海/瑞霞園、
法号;中山道庸信士

三中(さんちゆう・大伴)→三中(御中みなか・大伴宿禰、廷臣/歌人)4 1 3 4
三中(さんちゆう・日下部)→三中(みなか・日下部使主くさかべのおみ、防人歌人)F 4 1 3 5
三中(さんちゆう→みなか・蔵田)→御中(三中みなか・松原まつばら/蔵田、国学/歌)I 4 1 9 9
三仲(さんちゆう・端山)→卓五(たくご・端山はやま、医者/俳諧)N 2 6 9 7

- 山中庵(さんちゅうあん) → 信之(のぶゆき・加地かじ、庄屋/歌人) H 5 8 5
- N2008 山鳥(さんちよう) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入(236)、
[子の重荷みな片付きし身の老入をいれ](二葉;236/前句;大船に乗る心持なり/老入は晩年)
- E2055 三蝶(さんちよう) ? - ? 江中期大阪の俳人:長谷川千四(浄瑠璃作者)門、
1733「はつか草」編(師千四の追善集)
- M2059 三蝶(さんちよう) ? - ? 江中期大阪俳人;
1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因[貞柳貞峨の父]25回忌・貞峨13回忌追善集)入、
1772几董「其雪影」入、
[百敷やさくらの枝を煤すはらひ](其雪影;巻尾412/宮中の桜の枝の雪払い)
千四門の三蝶と同一か?
- M2060 三蝶(さんちよう・泉花堂せんかどう、通称;十六兵衛)?-? 江中後期江戸の浮世草子/洒落本作者/挿画、
1764「梅一对奴」73「投扇興図式」著/78「東錦」編/80「草木芝居化物退治」99「百千鳥」著、
1803「年中時候往来」04「年中行事文章」、「刀鍛冶評判記」著
- E2056 三鳥(さんちよう・古今亭、通称;三河屋吉兵衛)?-? 江後期1804-30頃江戸日本橋薬種仲買商、
戯作者;式亭三馬門、1806「江戸嬉笑」08「笑顔始」12「玉藻前雲井檜扇」13「昔語本田始」、
1815「江戸桜全盛色里」23「花競操日記」25「隅田川屏風八景」29「廓薫名寄生梅川」外多数
- E2057 山鳥(三鳥さんちよう・岡おか、姓;島岡)?-1828 幕臣近藤金之丞に出仕/江戸の浪人;
文化1804-18頃読本の筆工/戯作;曲亭馬琴門;節亭琴驢号・式亭三馬門;岡山鳥号、
合巻・滑稽本作者/狂歌、1806「放家僧談」10「艶姿一对男」「艶姿娘島田」「菅原流梅花形」著、
1812「乗懸合羽雫仇討」13「上絃筑紫勲」19「岡釣話」27「江戸名所花暦」、「松が枝物語」外著多、
[岡山鳥(;号)の名/字/通称/別号]名;長盈、字;哲甫/哲輔(つけ、通称;島岡権六/芳右衛門、
/別号;丹前舎/竹廼門/五六六ごむろく/節亭琴驢
- G2004 三鳥(さんちよう・筒井つひ、金井三笑男)?-? 江中期京の歌舞伎作者、1772-89頃北川芝居の立作者、
天明年間1781-89頃京で没、1782「けいせい稚児淵」83「蓊時大津絵」、
父・兄弟も歌舞伎作者、
父 → 三笑(さんしょう・金井かない) 2 0 5 2
兄 → 半九郎(2世はんくろう・金井/筒屋) H 3 6 4 6
弟 → 由輔(初世ゆうすけ・金井/松井) 4 6 1 6
- E2058 杉長(さんちよう・井上いのうえ、名;良珉[良民])1770-1828 59 安房久保の医者(家業継承)、俳人;梅人門、
家督を甥に譲渡;諸国行脚、文化1804-18頃房総の海防担当白河藩主松平定信に医で出仕、
1823移封に随い桑名住、1803「水の音」/07「梅人句集」編、
[杉長(;号)の字/別号]字;元卿、別号;瓢庵/幻庵
- M2061 三鶯(さんちよう・村田むらた、名;只一/別号;松花楼)?-? 安藝広島藩士/俳人、
1832「与満知(四町)よまち集」編、35「俳諧春秋集」編、
[三月の着物で来たり花の客](四町集)
- M2062 三朝(さんちよう・高橋たかはし)? - ? 江後期1830-54頃陸前柴田郡大河原の俳人、
1843「清容帖俳句之部」編、[三朝(;号)の通称/別号]通称;忠次郎、別号;蓬萊居/青陽舎
三蝶(さんちよう・みちよう古阿こあ) → 古阿三蝶(こあみちよう、絵師・戯作) H 1 9 0 2
三朝(さんちよう) → 菊五郎(3世きくごろう・尾上、歌舞伎役者) 1 6 9 5
山長(さんちよう・勝部) → 眞楯(またて・勝部かつべ/佐々木、国学者/神職) O 4 0 9 1
杉鳥(さんちよう・嵐/吉田) → 小六(初世ころく・嵐・吉田、歌舞伎役者) E 1 9 6 2
三眺庵(さんちようあん) → 青蘿(せいら・松岡/竹沢/栗本、俳人) 2 4 1 4
三朝園(さんちようえん) → 呉山(ごさん・神野、俳人) M 1 9 6 5
三朝舎(さんちようしゃ) → 里松(りしょう・三朝舎、俳人) B 4 9 2 5
山鳥房(さんちようぼう) → 呂蛤(ろこう・西村にしむら、俳人) B 5 2 4 6
杉箸亭(さんちよてい) → 坪平(坪比良つばひら・本膳亭、戯作者) E 2 9 3 2
- M2063 三珍(さんちん) ? - ? 近江の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
- M2064 霰艇(さんてい) ? - ? 三河岡崎俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
三亭(さんてい) → 太祇(たいぎ・炭すみ/たん、俳人) 2 6 0 2

- 三貞(さんてい・田中) → 周山(しゅうざん・田中、医者) X 2 1 4 0
三鼎(さんてい・市河) → 得庵(とくあん・市河いちかわ、藩士/書家) K 3 1 4 3
参禎(さんてい・堀) → 参禎(かすただ・堀ほり、藩士/家老/国学) V 1 5 6 6
山底火靈社(さんていかいれいしゃ) → 昌興(まさおき・志貴しき、神職) B 4 0 4 4
杉亭金升(さんていきんしょう) → 金升(きんしょう・杉亭、戯作者) R 1 6 1 7
三亭光彦(さんていみつひこ) → 光彦(みつひこ・立斎りゅうさい/立亭、合巻作者) E 4 1 5 5
三的(さんてき・宇都宮) → 圭斎(けいさい・宇都宮、藩士/儒者) D 1 8 4 6
G2044 三哲(さんてつ・赤池あかひけ) ? - ? 摂津の住人/狂歌;1666行風「古今夷曲集」6首入
[まだ初うひの左官が嫁の化粧けさうには唐たうの土をや壁塗かべぬりにぬる](古今夷曲集;七)
(唐の土は白粉、土・壁塗は左官の縁語)
三徹(さんてつ・堀川) → 稻置(いなき・堀川、医者/国学者) I 1 1 0 5
算哲(二世さんてつ・安井/保井) → 春海(しゅんかい・渋川、天文曆算家) J 2 1 3 2
E2059 山店(さんてん・石川いしかわ、北鯉ほっこの弟)?-? 伊勢山本の俳人;芭蕉門、江戸住、
1683「虚栗」/86風瀑「一楼賦」/91「猿蓑」入、1696史邦「芭蕉庵小文庫」に句多数入集、
[猫の食干からびてある寒さかな](芭蕉庵小文庫)/
[木瓜ぼけ蒔あざみ旅して見たく野はなりぬ](猿蓑;四春)
三田舎(さんでんしゃ) → 荻風(てきふう・園田、俳人) C 3 0 0 7
算天堂主人(さんてんどうしゅじん) → 鈍斎(どんさい・小松、和算/天文) S 3 1 1 9
算杜(さんと・沢野) → 喬緒(たかお・沢野さわの、詩人) L 2 6 6 0
M2065 三等(さんとう;法諱、俗姓;高島) 16778-174669 讃岐三木郡大町村の真言僧;高松無量寿院で出家、
仁尾の覚城院住持;同院を中興、漢学者・詩人、備中宝島寺寂巖と学友、
1737「不動明王靈応記」、没後刊;「般若心経秘鍵蛇鱗記」「象頭山金毘羅大権現靈験記」著、
[三等(;法諱)の字/号]字;哲真、号;南月/南月堂
E2060 三島(さんとう・篠崎しのさき/修姓;篠、名;応道、静心男) 1737-181377 大阪の商家;伊予屋主人、
父が伊予の出身、1757家業継嗣、儒;兄楽郊けいらくご門・菅甘谷門、1765混沌詩社の社友、
田中鳴門・葛子琴・尾藤二洲・頼春水・杏坪らと交流、40歳で家業をやめ儒者となる;
私塾梅花書屋を開き子弟教育、徹心の弟/惟朴の兄、養嗣子;小竹、1775「甘谷先生遺稿」編、
1796「三島仙頌」、「浪華風土」「語孟術意」「碧紗籠集」、還暦賀集「三島仙頌」著、「草彙」編
[三島(;号)の字/通称/別号]字;安道、通称;長兵衛、別号;郁洲/梅花堂/梅花書屋
三桃(さんとう・松浦) → 舜挙(しゅんきょ・松浦、絵師) Z 2 1 3 6
三冬(さんとう)訓はすべて → 三冬(みつゆ) 2
三等(さんとう) → 竹林(ちくりん;法諱、結庵/詩歌) M 2 8 9 1
三濤(さんとう;号) → 神興(じんこう;法諱、徳母院/大谷派僧) O 2 2 3 4
杉東(さんとう・門田) → 重長(しげなが・門田もんでん、儒/書/教育) O 2 1 0 4
N2009 山洞(さんどう) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」2句入(79/86)、
[春ゆるむ心の弓の絃つるしめよ](二葉之松;79)
M2066 祭堂(さんどう・中田なかた/修姓;藤、名;正博、平蔵男) 1772-183261 江戸八丁堀住/幕臣;幕府与力、
漢学;谷麓谷門/儒・林家の門、詩文/篆刻を嗜む、1805「名花交叢」著/08「歴朝名公款譜」編、
[祭堂(;号)の字/通称/別号]字;学古、通称;平助/平右衛門、
別号;二水/万竹楼/醉竹/博泉/雲湖、法号;博教院
山洞(さんどう、俳名) → 単朴(たんぼく・伊藤、談義本作者) 2 6 9 7
三同(さんどう・真中) → 珍重(ちんちゆう・羽川はねかわ/太田、絵師) K 2 8 8 9
三洞(さんどう・丸山) → 閑山(かんざん・丸山まるやま、藩士/絵師) V 1 5 8 1
三堂(さんどう・浅田) → 信明(のぶあき・浅田、医者) 3 5 7 6
三堂(さんどう・沢田) → 眉山(びざん・沢田さわだ、藩儒/書/詩人) C 3 7 3 0
三堂(さんどう) → 海侃(かいかん;法諱、僧/歌人) U 1 5 1 9
杉堂(さんどう) → 為犬(いだい、俳人) F 1 1 9 2
杉堂(さんどう・佐藤) → 一米(いちべい・五大庵、佐藤常範/神職/俳) J 1 1 1 8
杉堂(さんどう・神原) → 業広(なりひろ・神原かんばんら、商家/国学) L 3 2 8 0
残灯(ざんとう・伊達) → 綱村(つなむら・伊達だて、藩主/歌人) B 2 9 3 7

山東庵(さんとうあん) → 京伝(きょうでん・山東さんとう、戯作) 1 6 3 7
 山東庵(さんとうあん) → 京山(きょうざん・山東、京伝弟/戯作) 1 6 3 3
 三冬庵(さんとうあん) → 自在(じざい・三冬庵、浄瑠璃作者/俳人) D 2 1 6 8
 山東閣(さんとうかく) → 北敬(ほくけい・春陽斎、絵師) D 3 9 0 2
 山東京伝妹よね(さんとうきょうでんのいもうとよね) → 黒鷹式部(くろとびしきぶ) B 1 7 8 4
 三島窟(さんとうくつ) → 道順(どうじゅん・鈴木すずき、医者) F 3 1 1 6
 山東鶏告(さんとうけいこう) → 鶏告(けいこう・山東、狂歌/洒本/絵師) E 1 8 5 3
 山東居士(さんとうこじ) → 文晁(ぶんちやう・谷たに、絵師) G 3 8 2 4
 山東汐風(さんとうせきふう) → 鶏告(けいこう・山東、戯作/狂歌/画) E 1 8 5 3
 三冬麿(さんとうまろ・蒲) → 八十村(やそむら・蒲がま、正茂男/商/国学/歌) F 4 5 7 7
 三徳(さんとく;法諱) → 善養(ぜんよう;法諱、真宗仏光寺派僧) N 2 4 2 1
 三徳(さんとく・丸山) → 三徳(かすやす・丸山まるやま、故実家)
 三毒(さんとく;号) → 一音(いちおん、噓居士はなびのこじ、俳人) B 1 1 1 5
 三徳丸(さんとくまる・嶋) → 計富(かすとみ・嶋・島/角鹿、神職/古典) M 1 5 3 1
三都の三北海(さんとのさんほっかい); 三都の北海名の優れた儒者・詩人
 → 北海(ほっかい・江村、京の儒者/詩) 1713-88 3 9 7 0
 → 北海(ほっかい・入江、江戸の儒者/詩) 1714-89 E 3 9 4 9
 → 北海(ほっかい・片山、大阪の儒者/詩) 1723-90 3 9 7 1

2054 **参和**(さんな・唐来とうらい、姓;加藤) 1744-1810? 67 江戸の武家/町人;本所松井町の妓家の入り婿?、
 黄表紙/洒落本作者、燕十の代作者?、1783洒落本「三教色」(;幕政批判)/85「和唐珍解」、
 1789「天下一面鏡梅鉢」、黄表「莫切自根金生木」、狂歌;1787才蔵集/徳和歌後万載集入、
 [唐来参和(;号)の通称/別号]通称;大和屋源蔵/和泉屋源蔵、

別号;東来三和/唐来参人/伊豆亭/質草少々/松下井三和/爐間恒斎、
 [日のあしの高輪へもう着きにけりならはぬ旅のうしのあゆみも](後万載;五羈旅)
 燕十(えんじゅう)と同一説あり → 燕十(えんじゅう・志水、戯作者) B 1 3 0 4

三内(さんない・松本) → 辰輔(たつすけ・松本、藩士/系譜) R 2 6 6 3
 山南陳人(さんなんちんじん) → 官鼠(かんそ・山南、俳人) E 1 5 1 0
 三二一(さんにいち;読方不明) → 三二一(みにいち、狂歌) H 4 1 0 1
 山入樵入(さんにいしゅうしょうにいしゅう) → 幸雄(ゆきお・後藤ごとう、国学者) G 4 6 8 3

M2067 **三如**(さんによ・日全にちぜん;法諱、三如院/三如上人、猪俣いのまた嘉兵衛男) 1704-81 78 佐渡小木日蓮僧、
 安隆寺擁護院の日新門、下総岩富の長福寺住持/下総香取の長満寺住持、歌人、
 「和歌物語」「安隆寺十二景和歌」「詠月十五首和歌」著

M2068 **山奴**(さんぬ・北見きたみ、杜格斎[初世])?-? 江後期俳人:4世桃隣門、1798「俳諧田毎の月」編

残念さん(ざんねんさん) → 伴蔵(ばんざう・依田よだ、藩士) H 3 6 7 5
 山王のお髭(さんのうのおひげ、髭翁しおう) → 信富(のぶよし・安井、神職/詩/狂歌) D 3 5 9 4
 三の御部屋(さんのおへや) → 喜世(きよ・勝田かつた、将軍家宣室、歌) N 1 6 0 0
 三之丞(さんのじょう・与村) → 弘正(ひろまさ・与村よむら、神職/神典) H 3 7 1 1
 三之丞(さんのじょう・久世) → 広之(ひろゆき・久世くぜ/源、藩主) H 3 7 6 0
 三之丞(さんのじょう・杉本) → 義鄰(よしちか・杉本すぎもと、藩士/報告録) E 4 7 4 8
 三之丞(さんのじょう・由比) → 勝生(かつなり・由比ゆい、藩士/文筆) N 1 5 6 7
 三之丞(さんのじょう・佐久間) → 柳居(りゅうきよ・佐久間、幕臣/俳人) D 4 9 3 3
 三之丞(さんのじょう・押田;変名) → 市右衛門(いちえもん・三浦、藩士) G 1 1 0 3
 三之丞(さんのじょう・植木屋) → 伊兵衛(3世いへい・伊藤、植物図説) E 1 1 3 3
 三之丞(さんのじょう・山崎) → 寛林(かんりん、山崎やまざき、和算家) R 1 5 8 4
 三之丞(さんのじょう・渋谷) → 国安(くにやす・渋谷しぶや、藩士/歌人) D 1 7 3 3
 三之丞(さんのじょう・青木) → 弘安(こうあん・青木あおき、儒者) H 1 9 2 5
 三之丞(さんのじょう・吉田) → 澹軒(たんけん・吉田よしだ、藩家老/財政) T 2 6 3 7
 三之丞(さんのじょう・青木) → 青城(せいじょう・青木あおき、儒者) C 2 4 2 7
 三之助(さんのすけ・桑山) → 泥室(でいしつ・桑山くわやま、俳人) E 3 0 8 4
 三之助(さんのすけ・歌川) → 貞虎(さだとら・歌川うたがわ、絵師) F 2 0 3 9

- 三之助(さんのすけ・倉地/山本)→ 東籬(とうり・山本/山、藩士/儒者) I 3 1 1 0
 三之助(さんのすけ・平塚/磯野)→ 政武(まさたけ・磯野/源/平塚、幕臣/歌) D 4 0 3 5
 三之助(さんのすけ・横山) → 丸三(まるみつ・横山、幕臣/淘宮術) K 4 0 2 2
 三之助(さんのすけ・増田) → 以明(もちあき・増田ますだ、藩士/詩歌) L 4 4 3 4
 三之助(さんのすけ・樺山/村山) → 松根(まつね・村山/樺山、藩士/歌) J 4 0 8 4
 三之助(さんのすけ・朝岡) → 興禎(さきさだ・朝岡/狩野、幕臣/絵師) H 2 0 1 7
 三之介(さんのすけ・武藤) → 安清(やすきよ・武藤むとう、幕臣/和学者) G 4 5 8 5
 三のみこ(後撰集歌人)→ 紀伊内親王(きいのないしんのう) 1 6 7 4
 三御子家越後(さんのみこけのえちご)→ 越後(えちご・三宮家、歌人) 1 3 7 0
 三宮(さんのみや) → 輔仁親王(すけひとしんのう、詩歌人) C 2 3 8 8
 三宮(さんのみや) → 良恕法親王(りょうじよほつしんのう、天台座主/歌人) 4 9 1 9
 三宮(さんのみや) → 惟明親王(これあきらしんのう、歌人) E 1 9 1 0
 三宮家越後(さんのみやけのえちご)→ 越後(えちご・三宮家、歌人) 1 3 7 0
 三宮甲斐(さんのみやのかい) → 甲斐 ⑥(かい・輔仁親王家) E 1 5 3 0
 三宮小大進(さんのみやのこだいしん)→ 小大進(こだいしん・花園左大臣家、三宮大進の女) D 1 9 2 2
 三宮僧正(さんのみやのそうじょう)→ 信証(しんしょう; 法諱、真言僧; 僧正) O 2 2 8 6
 三宮大進(さんのみやのだいしん)→ 大進(だいしん・輔仁親王家/三宮、歌人) B 2 6 6 7
- 2055 **三馬**(さんば・式亭しきてい、姓; 菊池/名; 泰輔、茂兵衛男) 1776-1822 47 代々八丈島属島[小島]の神主、祖父は小島の正一位八郎大明神第八代菊池武幾たけひさ、父は江戸に出て版木師を業とす、1784書肆翫月堂に奉公/1793(18歳)戯作執筆開始/書肆蘭香堂(万屋太治右衛門)の婿養子、妻早世; 離縁/1799「侠太平記向鉢巻」で筆禍・1806大火罹災; 翫月堂の娘と結婚、売薬店を開業し生活安定; 黄表紙・合巻・滑稽本を著作、1794「天道浮世出星操うきよのてづかい」、1805「雷いたづち太郎強悪物語」、1806「酩酊なまえい気質」、1809-13「浮世風呂」/1811-23「浮世床」など著作多数、石渡平八の兄、式亭小三馬の父、[式亭三馬(;号)の字/通称/別号]字; 久徳、通称; 西宮太助、別号; 洒落斎、遊戯堂、遊戯道人、四季山人、本町庵、酔夢閣、哆囉哩楼、滑稽堂、戯作舎、三多楼戯家山人、猪牙ちよき散人、法号; 歓誉喜楽奏天信士
- E2061 **さん馬**(初世さんば・翁家おきなや、本姓; 晒見、名; 柁善) ?-1847 落語家; 初世三笑亭可楽門、噺本、江戸東両国に定席の興行、1842「可楽即考」、筑前生れの僧の説あり、[初世翁家さん馬(;号)の別号] 友成、三笑亭可楽2世/西東さいとう太郎左衛門2世、臼井杵蔵うすいきねぞう/芝楽(初世)
- E2062 **さん馬**(2世さんば・翁家、3世三笑亭可楽) ?-1857 幕末期の噺本作家
 三羽(さんば・稲村いなむら) → 三羽(みつは・稲村いなむら、幕臣/国学/歌) H 4 1 6 6
- N2003 **三巴**(さんば) ? - ? 備後三次の薬舗三巴堂主人/俳人、出家、1807三巴令妹追善「追善短歌行」、[墨染の袖も泪や梅雨しめり] («追善短歌行」)
 三巴(さんば・橋本) → 伯寿(はくじゅ・橋本、蘭医) D 3 6 2 1
 三巴(さんば・原) → 溪崖(けいがい・原はら、華道家) 1 8 4 0
- G2005 **三伯**(さんぱく; 通称・味岡) ? - ? 江中期正徳1711-16頃京の医者: 饗庭東庵門、「味岡三伯切紙」「家伝切紙」「九九選方」「諸疾目録回春病門次第」、1726「黄扁性理眞誥」、三伯門の四傑 → 主信(しゅしん・井原いはら、道関、医者) Y 2 1 9 0
 → 策庵(さくあん・浅井あさい、周伯、医者) H 2 0 2 1
 → 一抱(いっぽう・岡本、医者/浄瑠璃作者) H 1 1 8 5
- M2069 **三白**(さんぱく・恵美えみ/初姓; 堤つみ、名; 貞栄) 1707-81 75 江中期広島島の医者/早く両親を失う、医者恵美良玄の養嗣子; 広島藩医、実子三圭幼少のため門弟大笑を嗣子、代々三白を称す、「医経論説」「奇方集」「医方略説」「晚成堂医談」「晚成堂方函」、「恵美君医事談」外多数、[三白(;通称)の字/号]字; 子幹、号; 寧固
- E2063 **三伯**(さんぱく・稲村いなむら/海上うながみ、町医松井如水3男) 1758-1811 54 因幡医; 鳥取藩医稲村三杏門、1771三杏の養子、儒医; 福岡の亀井南冥門/長崎で蘭学を修学、江戸藩邸勤務、大槻玄沢門、師玄沢や桂川甫周・宇田川玄真の協力で1796蘭日辞典「坡留麻和解はるまわげ」完成、1802退藩/千葉住; 海上随鷗と改名、晩年は京に蘭学塾を開く、「奥遊記事」「洋注傷寒論」著、

[三伯(；字)の幼名/名/通称/号]幼名;竜介、名;箭、通称;白羽、
号;随鷗ずいおう/原昆堂/白髮書生

- M2071 **三白**(さんぱく・志雪窓) ? - ? 江中後期南部盛岡の俳人、1791「はすのくき」著
- N2050 **三伯**(さんぱく・篠崎しのぎ、朴庵長正男)1772-? 江戸浜町の医者;父の幕府奥医朴庵門、
1790(寛政2)幕府西城奥医/1800法眼、田安斉匡の側室唯心院(武藤三益女)の義父、
[三伯(；号)の名/通称/別号]名;発おさ、通称;勝五郎/長明(長命)?、別号;快順
☆歌人の法眼篠崎長明と篠崎長命は同一?or同族か?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(；法眼篠崎長明名)、
1860鋤柄助之「現存百人一首」入(；篠崎長命名)、
[野辺わけて菫摘まんとたたずめば袖の下より雲雀立つなり](大江戸倭歌;春219)、
[夏山にかへる鶯こととはむ青葉がくれに花やのこると](現存百人一首;60)
- 三白(さんぱく・恵美) → 大笑(たいしょう・恵美えみ/長尾、三白の養子/医者) K 2 6 3 4
三白(さんぱく・恵美) → 三圭(さんけい・恵美えみ、三白男/医者) M 2 0 0 7
三白(さんぱく・無色軒) → 半兵衛(はんべい・吉田、絵師) I 3 6 4 9
三白(さんぱく・日柳) → 燕石(えんせき・日柳さなき、詩人/勤王派) B 1 3 8 1
三伯(さんぱく・岩田) → 七左衛門(しちざえもん・岩田、藩中老/馬術家) U 2 1 3 0
三伯(さんぱく・沢;変名) → 長英(ちやうえい・高野、蘭医) H 2 8 3 9
山白(さんぱく・河津) → 吉迪(よしのぶ・河津かわづ/藤原、鑑定家) F 4 7 6 5
三白翁(さんぱくおう) → 草雲(そううん・田崎たさき、藩士/絵師) 2 5 5 9
- G2027 **三箱**(さんばこ・宝玉菴ほうぎょくあん)?-1858 江戸三田通新町の雑俳;川柳作者、摺師か?、
真砂連を主導;1833月並句会集「俳風濱真砂」(3冊)刊、「柳の葉末」編、
1833「狂句百人集(川柳百人一首)」(；歌川国直画)編、追善「三箱居士追福狂句合」、
「よしんば酒は呑ふが詩はできず」(柳多留;一二四)、辞世[真ツ直に跡ふり向ず浄土道]、
[宝玉菴三箱(；号)の本名/別号]本名;伊三郎、別号;達磨/(剃髪後;)坐禅堂
三番叟早人(さんばそうはやと) → 常恒(つねね・板屋/山村吉衛門、狂歌) C 2 9 5 4
- E2065 **三八**(さんぱち・吾妻あずま) ? - ? 江前中期元禄-享保1688-1736頃歌舞伎役者・作者、
大坂の嵐座の役者/宝永1704-11頃作者となる、1705「女大臣職人鏡」06「お七歌祭文」、
1710「鬼鹿毛無佐志鏡」11「今川物語」12「曾我振分髪」17「浮世は夢浮橋」27「女土佐日記」、
1729「けいせい一雙首」「嫁入七五三」/30「花契情抱留弥陀」外著作多数
- E2066 **山八**(さんぱち・藤川ふじかわ、藤川繁右衛門男)1723-7553 大坂歌舞伎;初め役者/作者:茶谷さく門、
1754上京/1555染松座で立作/色事趣向の巧者、74息山吾を座本にし並木吾八(五瓶を)招聘、
1755「女文字平家物語」56「傾城花街蛙」65「宝来山金礎」74「旭耀金丸山」外多数、
[藤川山八(；通称)の別通称] 山川藤八/不二川一向、屋号;土佐屋、法号;月光院
- 三八(さんぱち・宮地) → 春樹(はるき・宮地みやぢ、藩士/儒/国学) G 3 6 2 4
三八(さんぱち・河口) → 静斎(せいさい・河口/河、儒者/詩人) B 2 4 5 6
瓊美(さんび・大菅) → 圭(けい・大菅おおすが、国学/詩歌人) 1 8 0 0
- E2025 **山扉**(さんび) ? - ? 江中期俳人;1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、
[押合うて人やめじろの船の中](伊丹発句合;秋/桑名に渡りて)
- 杉皮庵(さんびあん) → 広出(こうしゅつ・頭井あきらい、歌人) J 1 9 5 7
- 三筆**(さんびつ) ; 三人の能書家
- 平安期初期三筆 → 空海(くうかい、774-835) 1 7 0 1
→ 嵯峨天皇(さがてんのう、786-842) B 2 0 2 5
→ 逸勢(はやなり・橘たちばな、?-842) 3 6 2 6
- 世尊寺流三筆 → 行成(こうせい/ゆきなり・藤原、972-1027) 1 9 1 3
→ 行能(ゆきよし・世尊寺/藤原、1180-1256) 4 6 2 6
→ 行尹(ゆきただ/ゆきまさ・世尊寺/藤原、?-1350) E 4 6 7 0
- 寛永の三筆 → 光悦(こうえつ・本阿弥ほんあみ、1558-1637) 1 9 0 5
→ 信尹(のぶただ・近衛、三藐院さんみやくいん、1565-1614) 3 5 0 8
→ 昭乗(しょうじょう・松花堂しょうかどう、1584-1639) 2 1 8 6
- 黄檗の三筆 → 隠元(いんげん;道号・隆琦りゅうき;法諱、1592-1673) C 1 1 0 3

→ 木庵(もくあん:道号・性瑠しょうとう:法諱、1611-84) 4 4 6 4
→ 即非(そくひ:道号・如一にょいつ:法諱、1616-71) D 2 5 5 6

幕末の三筆

→ 菱湖(りょうこ・巻まき、1777-1843) H 4 9 4 2
→ 海屋(かいおく・貫名ぬきな、1778-1863) 1 5 9 1
→ 米庵(べいあん・市河いちかわ、1779-1858) 2 7 0 0

三筆楼胤成(さんびつろうたねなり) → 胤成(たねなり・三筆楼、伊藤、狂歌作者) R 2 6 9 1

攢眉道者(さんびどうしゃ) → 一具(いちぐ・高梨、浄土僧/俳人) B 1 1 1 8

F2065 三ぶ(さんぶ・奈河ながわ/三好みよし)?-? 江中後期歌舞伎作者;奈河亀輔門、
のち師を離れ大阪で福田籠松軒らと合作、1779「赤坂城皐花合戦」「唐土日本往古図」作

三譜(さんぷ・石川) → 三譜(みつづ・石川いしかわ、旅館業/歌人) L 4 1 2 1

杉夫(さんぶ、渡辺) → 雲裡(うんり、俳人・無名庵五世) B 1 2 6 3

2056 杉風(さんふう・杉山すぎやま、賢永[仙風]男) 1647-1732⁸⁶ 江戸日本橋小田原町幕府御用魚問屋;鯉屋、
家業継承、俳人;談林系/のち芭蕉門;芭蕉の後援者/深川六間堀別荘を芭蕉庵に提供、
禪;大竜寺門/画;狩野昌運門/茶;宗甫門、1680「桃青門弟独吟廿歌仙」参加、
1680「常盤屋句合」、89「角田川紀行」著、99「さらしな紀行」編/1700「冬かつら」編、
「杉のしをり」「杉風句集」、1694子珊「別座鋪」歌仙入、93洒堂「俳諧深川」6句入、
1717雁山「通天橋」発句入、あら野・猿蓑・炭俵・続猿蓑入、中川宗瑞の師、
[襟巻に首引き入れて冬の月](猿蓑)、[瘦顔に団扇をかざし絶し息](辞世)、
[杉風(;号)の名/通称/別号]名;元雅もとまさ、通称;藤左衛門/市兵衛、屋号;鯉屋
別号;採茶庵/茶庵/茶舎/蓑翁/蓑杖/五雲亭/存耕庵/一元、法号;尺一元居士

M2072 杉風(さんふう・平野ひらの、五雲[鶴歩]男)?-? 俳人;1735鶴歩「鶴のあゆみ」五吟歌仙入

M2073 三楓(さんふう・大野おの、通称;紋七郎) 1817-89⁷³ 尾張藩士/俳人;黄山門、茶の湯を嗜む、
法華経書写、1867「那かそ羅なかそら集」編、法号;積善常修日行

杉風(2世さんふう) → 梅人(ばいじん・平山、2世採茶庵、俳人) B 3 6 6 3

山風(さんふう) → 白鯉館卯雲(はくりかんぼううん、木室、幕臣/狂歌/嘶本) 3 6 1 2

杉風庵(さんふうあん) → 曾秋(そしゅう・立川たちかわ、農/俳/心学) L 2 5 0 5

杉福(さんふく・北) → 栄親(ひでちか・北きた、武将/軍記作者) D 3 7 1 8

三仏斎(さんぶつさい) → 俊道(しゅんどう・百々どど、医者/本草家) L 2 1 5 9

三府七十二縣庵主(さんぶななじゅうにけんあんしゅ) → 蓑虫山人(みのむしさんじん、土岐源吾/絵師) H 4 1 4 0

山分(さんぶん・村上) → 雅澄(まさずみ・村上むらかみ、国学者) T 4 0 0 9

三文舎自楽(さんぶんしゃじらく) → 曲山人(きょくさんじん、人情本作者) 1 6 4 2

M2074 三平(さんぺい・美玉みたま、初姓;高橋/名;親輔) 1822-63⁴² 薩摩鹿兒島城下武村の焼酎醸造家の生、
島津家用人関口軍兵衛の家臣(薩摩藩士);美玉三平と改名、国学;栗原信充門/兵学に習熟、
1847江戸昌平覺修学、尊攘派;1862寺田屋事件連座;脱走/63但馬生野の年貢減免一揆に参、
尊攘の兵を挙る(生野の変);鎮圧され逃亡中播磨の農兵により討死、
1863「美玉三平経歴日記」著、

[三平(;通称)の別通称/号/変名]初通称;祐次郎、号;雷西/横軒/戴恩/天恩、
変名;秦安磨

三平(さんぺい:歌人三平、江戸後期「平」の付く3人の主要歌人)

→ 依平(よりひら・石川・1791-1859) J 4 7 6 2

→ 諸平(もろひら・加納・1806-1857) 4 4 3 5

→ 年平(としひら・飯田・1820-1886) N 3 1 5 8

三平(さんぺい・鍋島) → 元茂(もとしげ・鍋島なべしま、藩主/兵法家) C 4 4 5 9

三平(さんぺい・萱野・茅野かやの) → 涓泉(けんせん・萱野、俳人) C 1 8 5 5

三平(さんぺい・宇野) → 明霞(めいか・宇野/宇、商家/儒者) 4 3 0 7

三平(さんぺい・横田) → 何求(可及かきゅう・横田、儒者) H 1 5 2 3

三平(さんぺい・中村) → 重助(2世じゅうすけ・中村、歌舞伎作者) H 2 1 8 1

三平(さんぺい・金井) → 候兵衛(そろべえ・門田かどた、歌舞伎作者) E 2 5 5 9

三平(さんぺい・松岡) → 稻坡(とうは・松岡、藩士/俳/詩/書) G 3 1 9 0

三平(さんぺい・手塚) → 兎月(とげつ・手塚、読本/俳人) L 3 1 6 4

三平(さんぺい・豊福) → 秋風(しゅうふう・豊福とよふく、眼科医/俳人) Y 2 1 2 7
 三平(さんぺい・安原) → 方斎(ほうさい・安原やすはら、儒者) 3 9 8 1
 三平(さんぺい・円山/丸山) → 学古(がくこ・円山/丸山まるやま、医/儒者) J 1 5 7 7
 三平(さんぺい・円山) → 溟北(めいほく・円山まるやま/小池、学古の養子/藩士/儒者) 4 3 3 7
 三平(さんぺい・梶原) → 景惇(かげあつ・梶原、商家/和漢学) B 1 5 8 1
 三平(さんぺい・古原) → 敏行(としゆき・古原こはら、藩士/和算家) O 3 1 1 3
 三平(さんぺい・佐伯/田上/緒方) → 洪庵(こうあん・緒方、蘭医/教育) 1 9 6 9
 三平(さんぺい・松野/河野;変名) → 玄瑞(げんずい・久坂くさか、藩士/奇兵隊) C 1 8 4 2
 三平(さんぺい・高橋) → 重賢(しげかた・高橋、幕臣;奉行) C 2 1 0 2
 三平(さんぺい・竹垣) → 直道(なおみち・竹垣たけがき、幕臣/代官) C 3 2 6 2
 三平(さんぺい・中田) → 淡斎(たんさい・中田なかつ、儒者) T 2 6 5 5
 三平(さんぺい・伊沢) → 方勝(まさかつ・伊沢いざわ、藩陪臣/国学) N 4 0 3 8
 三平(さんぺい・末松) → 重恭(しげかた・川崎かわさき、国学者) R 2 1 2 3
 三平(さんぺい・永鳥) → 秀実(ひでさね・永鳥ながとり/松村、国学者) K 3 7 4 3
 三平(さんぺい・秋元) → 芳樹(よしき・大橋おおはし/秋元、教育/神職) L 4 7 9 9
 三平(さんぺい・太田) → 久孝(ひさたか・太田おた、藩士/国学者) I 3 7 8 9
 三平(さんぺい・加藤) → 德基(のりもと・加藤かとう/清水、藩儒) H 3 5 8 6
 三平(さんぺい・福田) → 頼実(よりさね・福田ふくだ、藩士/国学者) O 4 7 8 2
 蓋瓶(さんぺい・飯塚) → 恰(ゆたか・飯塚/平元、藩士/歌/狂詩) G 4 6 0 7

E2067 三兵衛(さんべえ・荒木屋あらかや、名;栄、伊太郎男)?-? 交趾国と朱印船貿易、1681朱印返上、
 1731「金札和解」、「荒木家由緒書」著

三兵衛(さんべえ・太田) → 然々(ぜんぜん・太田おた、俳人) M 2 4 8 1
 三兵衛(さんべえ・飯塚) → 恰(ゆたか・飯塚/平元、藩士/歌/狂詩) G 4 6 0 7
 三兵衛(さんべえ・鈴木) → 古式(ひさのり・鈴木すずき、藩士、国学者) J 3 7 9 6
 三兵衛(さんべえ・瀬口) → 善和(よしかず・瀬口せぐち、藩茶坊主/歌) N 4 7 5 2
 参兵衛(さんべえ・天川) → 友春(ともはる・天川/赤松、酒造業/歌) Q 3 1 2 9
 三癖老人(さんへきろうじん) → 水石(すいせき・壬生みぶ、与力/篆刻家) 2 3 7 6

E2068 三甫(さんぼ・三浦みうら) ?-? 安桃期天正1573-92頃磐城屋形の人?、
 1579上京;細川幽斎の軍陣に逗留/幽斎一門の連歌会に出座、紹巴・昌叱・心前と交流、
 1579「紹三問答」問/「甫紹問答」問

三甫(さんぼ・犬童) → 長澄(ながすみ・犬童いぬどう/印藤・院道、歌・俳人) L 3 2 2 5
 三浦(さんぼ;号) → 桂悟(けいご;法諱・了庵、臨濟僧/遣明使) 1 8 4 9
 三輔(さんぼ・市川) → 兼恭(かねたか/かねのり・市川、医者/洋学) O 1 5 5 9

M2075 杉峰(さんぼう) ?-? 尾張名古屋の俳人;1691「猿蓑」入、
 [人の手にとられて後や桜海苔さくらのり](猿蓑;四/目立たぬ物も人の手が加わると賞さる)

E2070 山峰(さんぼう・高橋たかはし、通称;文次郎)?-? 江戸の俳人・其角門、1697其角「末若葉」36句入、
 1698「続猿蓑」6句入、
 [白魚しらうをのしろき噂うはさもつきぬべし](続猿蓑;下/この白さの表現に挑戦できない)

E2071 三忘(さんぼう) ?-? 俳人、1832「発句今様五子稿」編

三方(さんぼう→みかた・沙彌) → 三方沙彌(三形/御方-みかたのさみ、山田史三方、万葉歌人) 4 1 0 1
 三峰(さんぼう・丸山) → 武雄(たけお・丸山、家老/歌人) O 2 6 2 9
 三峯(さんぼう・荷田かだ) → 在満(ありまる・荷田/羽倉、歌学/故実) 1 0 3 4
 三峰(さんぼう・荷田かだ) → 信郷(のぶさと・荷田/羽倉、神職/国学) B 3 5 5 4
 三鳳(さんぼう・村井) → 蕉雪(しょうせつ・村井むらい、藩医/絵師) K 2 2 3 4
 三仰(さんぼう・高橋) → 景張(かげはる・高橋たかはし、歌人) U 1 5 9 4
 山房(さんぼう・守村) → 抱儀(ほうぎ・守村[邨]、商家/俳人) 3 9 3 9
 三宝庵(さんぼうあん) → 堯祐(ぎょうゆう・川辺かわべ、天台僧/歌人) U 1 6 0 1
 三宝院権僧正(さんぼういんのごんのそうじょう) → 勝覚(しょうかく;法諱、真言醍醐寺僧) H 2 2 7 2
 三宝院准后(さんぼういんのじゅごう) → 満濟(まんさい/まんせい;法諱、真言僧/歌) 4 0 3 6

- 三宝院僧正(さんぼういんのそうじょう)→賢俊(けんしゅん・日野、政界宗教界実力/歌) D 1 8 8 6
 三宝院大僧正(さんぼういんのだいそうじょう)→義賢(ぎけん;法諱、真言僧/門跡/歌) B 1 6 0 7
 三宝院大僧正(さんぼういんのだいそうじょう)→定海(じょうかい;法諱、真言醍醐寺座主) H 2 2 6 3
 三峯樵者(さんぼうしゅうしゃ)→義恭(よしただ・毛束けつか、名主/神職/歌) M 4 7 6 7
 三宝道人(さんぼうどうじん)→真人(まひと・まこと・林はやし/原、藩士/歌) R 4 0 9 0
- M2091 三方長熨斗(さんぼうながのし)? - ? 名古屋狂歌;1785「後万載集」3首/87「才蔵集」入、
 [夢にさへ君が心ははなれ馬うしを見し夜ぞ今は恋しき](後万載集;九恋620/寄午恋)、
 (牛と大人と憂しを掛る)
- 藤峰楼主人(さんぼうろうしゅじん)→周文(しゅうぶん・行徳ぎょうとく/平、医者) Y 2 1 2 9
- E2064 散木(さんぼく) ? - ? 詩人;1672重徳「俳諧塵塚」上巻和漢入;季吟と
 E2001 三木(さんぼく) ? - ? 伊賀上野俳人;1672宗房(芭蕉)「貝おほひ」2句入、
 [にほひある声や伽羅節きやらぶし謡うたひ初ぞめ](貝おほひ;一番左)
- M2076 山木(さんぼく) ? - ? 大阪の俳人;1691賀子「蓮実」1句入;300、
 [女郎花をみなへし女房の留守に植うる哉](蓮実;秋300)
- G2016 散木(さんぼく・田中たなか、名;世誠/世継、基当もとまさ男) 1749-1816 68 近江の人/彦根藩士、
 儒;野村東皐門、竜草廬・大菅中養父門、武道;岡本半介門、彦根藩校稽古館の創設に尽力/
 1799稽古館教授、文武を指導、物主兼書物奉行/藩命で系譜編纂事業参画、
 川除奉行;愛知川の水防に参画、
 「彦嶺美談」「散木詩文集」著、
 [散木(;号)の字/通称]字;文実、通称;藤十郎/藤一郎/五介
- G2006 山木(さんぼく) ? - ? 江中期俳人、1726以之「務津能波那」入
 三木(さんぼく) → 珠ト(はぶく・森岡、船問屋/俳人) D 3 8 7 5
 散木(さんぼく・今井/亀屋) → 文宝(ぶんぼう・文宝亭、商家/狂歌) G 3 8 4 7
 山木山材(さんぼくさんざい) → 丈山(じょうざん・石川、儒者/詩人) S 2 2 5 7
 散木子(さんぼくし) → 安良(やすよし・山口やまくち、醸造業/国学) D 4 5 5 7
 山歩人(さんぼじん) → 大睡(だいすい・岸、商人/俳人) B 2 6 7 1
- G2007 多甫先生(さんぼせんせい) ? - ? 嘶本作者 1776「高笑い」著(南畝序)
 三畝荘(さんぼそう) → 禾木(かぼく、俳人) P 1 5 4 1
 三菩提院(さんぼだいいん) → 眞敬親王(しんけいしんのう、僧/画/日記) O 2 2 0 8
 三步庭(さんぼてい;号) → 青人(せいじん・三步庭、俳人) I 2 4 9 3
- E2072 三昧(さんまい・石塚いしづか、名;忠誨)?-? 江後期天保・嘉永1830-54頃下総関宿の書家、
 江戸横山町住、1837「百名家書画帖」39「百名家書画帖二編」編、49「嘉永百名家書画集」著、
 [三昧(;号)の字/通称]字;公実、通称;清助
- 三昧阿闍梨(さんまいあじり) → 良祐(りょうゆう;法諱、天台三昧流の祖) J 4 9 5 5
 三昧庵(さんまいあん) → 棕隠(そういん・中島なかじま、漢学/詩人) 2 5 0 4
 三昧院(さんまいいん) → 均光(なのおみつ・柳原、廷臣/歌人) C 3 2 6 6
 三昧座主(さんまいざす) → 喜慶(ききょう;法諱、天台僧) J 1 6 9 2
 三昧堂(さんまいどう) → 土卵(とらん・富とみ、洒落本/雑俳) R 3 1 8 1
 三昧堂(さんまいどう) → 尾道の三味道(おのみちのさんまいどう、狂歌) B 1 4 8 9
 三摩地院(さんまちいん) → 堯恭法親王(ぎょうきょうほうしんのう、天台僧) N 1 6 5 9
 三磨(さんまろ/みまろ・淡海) → 兵庫(ひょうご・栗本、塗師/劇書) F 3 7 2 2
 三万堂(さんまんどう) → 馬両(ばりょう・三万堂、雑俳点者) F 3 6 9 2
- E2073 三位(さんみ、藤原豪子、俊忠女)?-? 母;藤原顕隆女、平安後期歌人、従三位、
 藤原公能室/実定・実家・実守・公衡・忻子(後白河天皇妃)・多子(近衛・二条天皇妃)の母、
 俊成・藤原顕長室・藤原頼室の姉妹、千載587(1041夫公能没後息実家の贈歌への返歌)、
 [椎柴の露けき袖は七夕もかさぬにつけてあはれとや見む](千載;九哀傷587)、
 (実家の贈歌;七夕に今年はかさぬ椎柴の袖しもことに露けかりけり;千載586、
 七夕乞巧奠の織姫に今年は供えない椎柴染の喪服)
- E2074 三昧(さんみ・菊賀きさぐの) ? - ? 狂歌、1785徳和歌後万載集巻二・2首入;133/139、

[世の人のひく袖がきに咲ながらちると思へばみるもうの花](後万載;夏133/卯花)、
(袖を引くは言寄ること/咲きながら散るは遊女が身を売ること/憂しと卯花を掛る)

E2075 三味(さんみ・大事だいじ) ? - ? 狂歌、1785後万載集2首入;268/526、
[そろばんのそろそろかけし月影をみやさん七の二十一日](後万載;秋268)
(はつき廿一日の夜月を見侍りて/十露盤縁語構成;月の欠けと掛け・見やさんしと三七)

三位(さんみ・頭綱女)	→ 伊予三位(いよのさんみ)	5 4 7 9
三位(さんみ・崇光院)	→ 資子(すけ・庭田・源、歌人)	C 2 3 1 2
三位(さんみ)	→ 賢海(けんかい;法諱、真言僧)	I 1 8 0 6
三位(さんみ)	→ 允能(いんのう;号、室町期医者)	E 1 1 5 8
三位(さんみ・生源寺)	→ 業雅(なりまさ・祝部ほりべ/生源寺、神職/歌)	I 3 2 1 9
三位(さんみ・鴨)	→ 祐之(すけゆき・鴨かも/梨本、神職/国学/歌)	D 2 3 2 1
三密房(さんみつぼう)	→ 源運(げんうん;法諱、真言僧)	H 1 8 7 9
三密坊(さんみつぼう)	→ 聖賢(しょうけん;法諱、真言醍醐寺僧)	I 2 2 3 5
三位入道(さんみにゅうどう)	→ 義祐(よしすけ・伊東いとう、戦国武将)	D 4 7 7 7
三位尼君(さんみのあまぎみ)	→ 喜世(きよ・勝田、将軍家宣側室、歌人)	N 1 6 0 0
三位阿闍梨(さんみのじゃり)	→ 日順(にちじゅん;法諱・三位房、日蓮僧)	C 3 3 2 3

M2077 三位侍従母(さんみのじじゅうのはは) ? - ? 鎌倉期歌人:1232道家「名所月歌合」参加、
1232洞院摂政家百首参加、
正三位侍従(非参議)源具定(33歳)の母[;俊成卿女(俊成の孫・猶子)]か?、
[万代よろよも御裳濯みそ川の頻浪しきなみもすめる雲みの秋の月影](名所月歌合;十一番左21)
[涙もる袖をば秋のやどとてや朝おく露のまつ結ぶらん](洞院家百首;585)、

☆	→ 俊成卿女(としなりきょうのむすめ・嵯峨禅尼/越部禅尼)	3 1 4 5
三位僧正(さんみのそうじょう)	→ 隆澄(りゅうちよう;法諱、真言僧/僧正)	F 4 9 2 1
三位中将(さんみのちゅうじょう)	→ 師良(もろなが・一条/藤原、歌人)	H 4 4 6 2
三位中将(さんみのちゅうじょう)	→ 重衡(しげひら・平たいら、武将/歌人)	C 2 1 9 2
三位局(さんみのつぼね)	→ 盈子(えいし・小槻、女房/日記)	C 1 3 8 2
三位法印(さんみのほういん)	→ 禅覚(ぜんかく;法諱、真言御室僧)	L 2 4 9 8
三位法印(さんみのほういん)	→ 最寛(さいかん;法諱、真言僧)	G 2 0 6 0
三位律師(さんみのりっし)	→ 行海(ぎょうかい;法諱、真言僧)	N 1 6 4 1
三位房(さんみぼう)	→ 日順(にちじゅん;法諱・三位阿闍梨、日蓮僧)	C 3 3 2 3
三藐院(さんみやくいん)	→ 信尹(のぶただ・近衛、関白/書/歌/連歌)	3 5 0 8
三妙庵(さんみょうあん)	→ 一叟(いっそう・鈴木/飛鳥園4世、俳人)	B 1 1 5 7
三妙院(さんみょういん)	→ 日生(にっしょう;法諱・本清院、日蓮僧)	E 3 3 3 5
山民(さんみん・谷頭)	→ 溟南(めいなん・谷頭やがしら、藩士、儒者)	4 3 3 2
山民(さんみん・十河)	→ 筋堂(せつどう・十河そごう、篆刻家)	L 2 4 3 2
三夢(さんむ・片桐)	→ 良保(りょうほ・片桐かたざり、俳人)	J 4 9 4 2
三無(さんむ・秋山)	→ 白賁堂(はくびどう・秋山/鈴木、藩儒)	D 3 6 8 4

M2078 残夢(ざんむ) ? - ? 大阪の俳人;1776几董「続明烏」2句入;163/642、
[陰に寐て寐ぬ世也けり山桜](続明烏;甲163)、
(平忠度;「行きくれて木の下陰を宿とせば花や今宵のあるじならまし」を踏まえる)

2057 残夢(ざんむ・高橋たかはし、名;正澄まさずみ、平松ひらまつ正春男)1775-1851/77 京室町の生;1788生家焼失、
一家で父の実家備中松山に帰郷/懇望され備中笠岡の庄屋高橋美啓の養子、
笠岡の丸山栄子はえこ(1787-1857/歌人)を妻とす、正純まさずみの父、
歌;鴨祐為門/国学・歌学:香川景樹門;桂門四天王の1、語学者;言霊研究、
1822(文政5)讒言により家産没収/備中を追われ家没落/大坂住;木下幸文の歌塾継嗣、
門人の援助で学問と歌道に専念/1829(文政12)剃髪;残夢を称す、晩年失明;詠歌継続、
1843家集「塵室草露」/46「万葉詞林抄」/「万葉物名考」/48「万葉国字抄」/「記紀縫結抄」、
1849「やまとにしき」/「言霊古言考」/「清園詞藻」/「清園集」/「清園後草」/「残夢歌文集」、
「万葉縫結抄」/「藻塩草」/「からにしき」/「記紀名物考」/「序歌集」、家集「残の夢」、外著多数、
失明後の[残夢さぐり書き]と称される短冊あり、

[残夢(；剃髪後の名)の通称/号]通称；元右衛門/文右衛門、
号；蓼園/清園すみぞの/鹿室/有所遊居、

M2079 残夢(さんむ・井上いのうえ、名；政矩、政武男)1784-1849⁶⁶ 桑名藩士；松平定信に出仕；学頭勤、
1844致仕、詩人、「限山堂残稿」、

[残夢(；号)の字/通称/別号]字；松卿、通称；八郎右衛門、別号；限山堂/極楽庵主人

残夢(さんむ・岩崎、残夢老人)→ 鷗雨(おうう・岩崎いわさき、儒者/詩) C 1 4 3 2

残夢(さんむ・佐藤) → 蕉廬(しょうろ・佐藤、幕吏/国学/詩歌) M 2 2 0 7

纘明(さんめい・宮崎/上田)→ 纘明(つぐあき・上田/宮崎、藩士/教育) 2 9 6 5

三明学人(さんめいがくじん) → 高敏(たかとし・三井みつゐ、商家/国学) D 2 6 2 1

三明書楼(さんめいしやうろう) → 高敏(たかとし・三井みつゐ、商家/国学) D 2 6 2 1

杉門(さんもん→すぎかど・三輪)→ 三輪杉門(みわのすぎかど、狂歌) H 4 1 0 4

杉門主人(さんもんしゅじん→すぎかど)→ 宣隆(のぶたか・草鹿砥くさかど、儒/国学) B 3 5 7 4

三文先生(さんもんせんせい) → 通笑(つうしやう・市場、黄表紙) 2 9 0 2

02018 三弥(さんや・太田おた、水谷勝行2男)?-1834 越前福井藩士太田直清の養嗣子；家督嗣、
大御番頭、国学者/歌人、

[三弥(；名)の通称] 金之助

三野(さんや・刑部) → 三野(みの・刑部直おさかべのあたゐ、防人/万葉歌) F 4 1 5 8

賛也(さんや；号) → 宗貞(むねさだ・浅沼、俳人) B 4 2 3 2

三弥(さんや・十時、三弥助)→ 惟保(これやす・十時とき/大神、藩士) G 1 9 1 1

三弥(さんや・細合) → 張庵(ちやうあん・細合ほそあい、儒者/詩人) H 2 8 1 3

三弥(さんや・丸屋/村居)→ 眞師(まふつ・村居/丸屋、書肆/国学) H 4 0 2 4

三野逸民(さんやいつみん・稲津/梁川)→ 星巖(せいがん・梁川やながわ、詩人) 2 4 0 5

山野聳民(さんやごうみん) → 稲川(とうせん・山梨、儒者/詩人) 3 1 1 9

E2089 三友(さんゆう・多古たこ) ? - ? 江前期；大坂?の俳人、

1673西鶴「生玉万句」；第七月第三句/第十年忘発句等入、

[股振またふりや小鹿の角にまがふらん](生玉万句；月第三/股振；木の枝の股、

脇句重玄；紅葉折り焚く行水の下、紅葉の股振と鹿の取合せの連想)

M2080 三雄(さんゆう・高柴たかしは/修姓；高、名；英)?-? 江後期江戸の地誌家、1847「花知留佐登」著、
1849「日本道中記」、「江戸名所案内」、「江戸絵図」、「繁栄御江戸絵図」著

E2076 三友(さんゆう・益亭、別号；呉竹園/三友堂益亭)?-? 江戸末期1804-54頃戯作者；三馬門、合巻、

雑俳点者、1809「花鳥風月仇討話」10「鶴銀杏対山門」12「吾孀育露之荒事」、「たねふくべ」評

三友(さんゆう・齋藤) → 三友(みつとも・齋藤さいとう、幕臣/国学) J 4 1 1 7

三友(さんゆう・秋山) → 白費堂(はくひどう・秋山/鈴木、藩儒) D 3 6 8 4

三友(さんゆう・横田) → 何求(可及かきゆう・横田、儒者) H 1 5 2 3

三由(さんゆう・平野) → 三由(かざよし・平野ひらの、藩士/歌人) V 1 5 5 0

三雄(さんゆう・狩野) → 三雄(みつお/さんゆう・狩野かのう/三谷、藩御用絵師) I 4 1 6 6

三酉(さんゆう) → 大秀(おおひで・田中たなか、国学者) 1 4 0 6

三酉(さんゆう・水原) → 史郎(ふみお・水原みずはら、国学者/歌人) I 3 8 7 4

三遊(さんゆう・古内) → 弘見(ひろみ・古内ふるうち、邑主/国学) K 3 7 9 1

三友院(さんゆういん；法号)→ 高国(たかくに・細川、武将/歌人/連歌) C 2 6 7 2

M2081 三友軒(さんゆうけん・都筑つぎ、名；以直、以正男)1654-1723⁷⁰ 幕臣；在京37年/致仕後風雅の生活、
漢学/俳人、言水・伊藤東涯らと交流、「よつ乃題」編

[三友軒(；号)の通称]市左衛門

三友軒(さんゆうけん) → 敏昌(としまさ・永田/森島、和算家) N 3 1 7 2

三有軒(さんゆうけん) → 川斎(せんさい・松本まつもと、神道家) F 2 4 4 0

G2008 三友亭(さんゆうてい) ? - ? 狂歌；1808「百よぐるま」(回文狂歌集)

三友堂(さんゆうどう) → 煥光(あきみつ・春木はるき、神職/本草家) D 1 0 9 8

三友堂益亭(さんゆうどうえきてい)→ 三友(さんゆう・益亭、戯作者) E 2 0 7 6

三又木堂(さんゆうもくどう) → 遠影(とおかげ・丁野ちやうの、藩士/官吏/歌) V 3 1 7 5

三余(さんよ・清水) → 由斎(ゆうさい・清水しみず、医者/俳人) B 4 6 7 9

- 三誉(さんよ・縁蓮社) → 輪超(りんちよう;法諱、浄土僧/詩歌) K 4 9 6 9
- M2082 杉葉(さんよう・隅屋すみや、名;正封)?-? 江中期安藝加計の製鉄業/俳人;野坡門流、
1768「松の落葉」編、俳人臥熊がゆう[1742生]の兄
- G2009 山陽(さんよう・芝の屋/司馬の屋、小島市右衛門/能勢のせ嘉門)?-1836? 江戸狂歌/狂詩・南畝門、
旗本千村邸内に住、中良・菅江・橘洲門/1796四方側判者、1827雅望・眞顔の宗匠事件主謀?
1798「狂歌立雲集」1800「狂歌年代記」01「布毛等濃夷詞」「浅間山麓の石」/編、「芝の屋集」、
1787「才蔵集」入;[薄雲に一声たつるほとゝぎすいま口きりの御茶の水にて]
(御茶の水は將軍家が茶の湯用に使った神田川岸辺の銘水の井戸)
[芝の屋山陽の通称/別号]通称;内記、別号;大井千尋おおいのちひろ/山陽堂瑛沙/奇応観
- 2058 山陽(さんよう・頼らい、名;裏のぼる、春水長男)1780-1832⁵³ 母;梅颯ばいし、大坂江戸堀生、
父と安藝広島住、父が広島藩儒、儒;叔父杏平門/詩才発揮/1797叔父に随い江戸游学、
尾藤二洲・服部栗斎門、朱子学修学;1798帰国;神経系持病昂じ1800脱藩;
京から戻され座敷牢に幽閉;廢嫡、この間「日本外史」執筆に着手、
1805解放;備後神辺の菅茶山門/廉塾後継者;1年余で上京、私塾開設;
1822京三本木の水西荘に住/28山紫水明処を築く、生涯仕官せず著作;子弟教育、
史家/詩人/書家、1804「山陽文稿」06「新策」12「二家対策」15「清十家絶句」27「象墜記」著、
1827「日本外史」28「日本楽府」32「山陽詩鈔」、「日本政記」「臥遊集」「芸圃茗談」「山陽集」、
「頼山陽先生一夜話」「頼山陽先生詩文集」「頼山陽先生横江帖」「頼翁湊川帖」外編著多数、
死の直前まで執筆活動、
[患者常に上に在り以て智者を役えさせば久しくして変ぜざる能はず 則ち天運然るなり]
(日本政記)、
[山陽(;号)の字/通称/別号]字;子賛/子成、通称;久太郎/憐二/改亭/徳太郎、
別号;三十六峰外史、
[山陽の子息]; → 聿庵(いつあん) E 1 1 2 8
→ 支峰(しほう) F 2 1 7 0
→ 三樹三郎(みきさぶろう、鴨崖おうがい) 4 1 6 9
頼家系図は → 春水(しゅんすい・頼らい) 2 1 6 0
三楊(さんよう・森) → 淡々(たんたん・松本、俳人) 2 6 9 4
三要(さんよう・閑室;道号) → 元佶(げんきつ・閑室、臨濟僧) 1 8 1 0
三養(さんよう・木下) → 徳精(のりきよ・木下きのした、国学/信仰) I 3 6 0 9
三耀(さんよう・三善) → 清行(きよゆき・三善みよし、廷臣/漢学) 1 6 4 9
三葉庵(さんようあん) → 大睡(だいすい・岸、商人/俳人) B 2 6 7 1
山陽逸民(さんよういつみん) → 拙斎(せつさい・西山/坂本、医儒/詩歌) E 2 4 3 0
三陽院(さんよういん) → 枝賢(えだかた・清原、廷臣/儒者) E 1 3 0 2
三養居(さんようきよ) → 美成(よししげ・山崎やまざき、商家/国学者) 4 7 1 2
三養軒(さんようけん) → 道達(どうたつ・宮川、和学/歌人) G 3 1 3 5
山陽山散(さんようさんさん) → 大叔(だいしゆく;法諱・季弘、臨濟僧) B 2 6 5 6
山陽散人(さんようさんじん) → 慎庵(しんあん・藪やぶ、藩士/儒者) D 2 2 4 5
山陽舎(さんようしゃ) → 長安(ながやす・浅石、軍学) G 3 2 2 0
山陽堂(さんようどう) → 治兵衛(ちへい・橘屋、蕉門書肆) G 2 1 1 3
三養堂(さんようどう) → 蘭軒(らんせん・伊沢いさわ、藩医/詩人) B 4 8 9 3
山陽堂瑛沙(さんようどうえいさ) → 山陽(さんよう・芝の屋、狂歌) G 2 0 0 9
山陽備人(さんようびじん) → 得巖(とくがん;法諱・惟肖、臨濟僧五山文学) K 3 1 5 3
三余学人(さんよがくじん) → 濃蘭(のうらん・武谷たけや、蘭医) 5 1 7 0
三余斎(さんよさい) → 麴文(まがふみ・鶴川うかわ、俳人/季語研究) E 2 5 3 1
三余堂(さんよどう) → 単山(たんざん・高齋こうさい/滝沢、書家) I 2 6 7 7
三余亭(さんよてい) → 秋成(あきなり・上田、国学/俳/読本) 1 0 0 9
三余堂(さんよどう) → 単山(たんざん・高齋、書家詩人) I 2 6 7 7
三余堂(山陽堂瑛沙) → 延貞(のぶさだ・河崎、神職/医者) B 3 5 4 5
- 2059 山楽(さんらく・狩野かのう、名;光頼、木村永光男)1559-1635⁷⁷ 近江蒲生郡の生/豊臣秀吉に出仕、

絵師;初世狩野永徳門/永徳の養嗣;士分となる/大坂住、秀吉没後男山に移住;家泰に謁す、京に移住;京狩野家の祖、天王寺堂壁の「聖徳太子縁起」(;秀吉の命)、1633「当麻寺縁起」画、竜虎鷹馬などの画に秀づ、宋元の画風を慕い鍾馗を描く、狩野山雪の養父、
[山楽(;号)の通称]通称;平三/修理/修理亮しゆりのすけ、

- E2077 **三楽**(さんらく) ? - ? 肥後熊本の俳人;1675京に滞在;
1677「肩入奉公がたいれぼうこう」編(季吟「花千句」の論難書)
(季吟側反駁「大長刀おおなぎなた」[水雲子名])、
1691刊「かゝみ幕」編、
三楽について2説ある;熊本俳人永崎一見説(俳諧大系図)と椋梨一雪変名説(阿誰軒)、
→ 一見(いっけん・永崎/長崎、維舟門俳人/狂歌) D 1 1 7 2
→ 一雪(いっせつ・椋梨/成田、西武梅盛門俳人) B 1 1 5 4
- 2047 **三楽**(さんらく) ? - ? 大阪の俳人;1690之道「江鮭子あめご」入、
上記三楽との関係不詳、
[名月に人あふのくもうは気哉](あめ子;発句170、
あふのく;あおむく/浮気;気もそぞろの様)
- G2042 **珊瑚楽**(さんらく・花月斎) ? - ? 江中期讃岐の俳人;寒瓜門、
讃岐寒川郡志度に住み富商の渡辺不遠と共に志度の俳諧を興す、
1706「十二律俳諧集」編
- E2078 **三駱**(さんらく・秦はた) ? - ? 俳人;蓼太門、1777「吐月高点集」「蓼太高点集」編、
1781「七部集振々抄」編、85「蓼太句集」87「吏登句集」98「不白翁句集」を編集、外編著多数、
[三駱(;号)の通称/別号]通称;雪太郎、別号;三鷺/振々亭
- G2010 **三楽**(さんらく・柳糸亭りゅうしてい、三蔵)?-? 常盤津太夫/三味線、1865「都の錦・老の戯言」編
- E2079 **山楽**(さんらく・隣柳庵りんりゅうあん、姓;大塚/名;知居)?-? 下野藤岡の盆景師;門人の勧めで一派形成、
1781「盆山秘言」、「盆景伝書」「盆山之書」著、息子泰山が継承、
[三楽(;号)の字/通称/別号]字;松翁、通称;平左衛門、別号;隣柳庵/隣柳斎
- N2055 **三楽**(さんらく・姓不詳) ? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[紅葉して照りそふ月のかつら川水にも秋の色ぞ流るる](大江戸倭歌;秋883/川月)
- 三楽(さんらく・歌伎役者俳名) → 三右衛門(さんえもん・嵐) 2 0 4 9 / E 2 0 1 4
三楽(さんらく・朝岡) → 興禎(さきさだ・朝岡/狩野、幕臣/絵師) H 2 0 1 7
三楽(さんらく・曾我部) → 則温(のりあつ・曾我部そがべ/秦、庄屋/歌) I 3 5 8 5
三楽(さんらく・香山) → 適園(てきえん・香山かやま、儒者/詩人) B 3 0 8 7
三楽(さんらく・日柳) → 燕石(えんせき・日柳くさなぎ、詩人/勤王派) B 1 3 8 1
三楽(さんらく・古内) → 弘見(ひろみ・古内ふるうち、邑主/国学) K 3 7 9 1
山楽(さんらく・関根) → 徳升(とくしょう・五柳亭ごりゅうてい、戯作) K 3 1 9 7
三楽庵(さんらくあん) → 景雄(かげお・三島、商家/国学/歌人) 1 5 6 6
三楽軒(さんらくけん) → 流憩(りゅうけい・野尻のじり、藩儒/教育) D 4 9 4 4
三楽室(さんらくしつ) → 塵隠(じんいん・国造くにのみやつこ/くにづくり/国、儒/医者) D 2 2 4 6
三楽亭(さんらくてい) → 直恒(なおつね・熊谷、藩士/記録) B 3 2 7 3
杉籬(さんり・山口) → 言信(げんしん・山口やまぐち、和算家) K 1 8 2 1
- E2080 **三力**(さんりき・鼻中庵) ? - ? 長州の俳人、大阪奈良に住、
1783俳論「俳諧第一義集」著(;禅意で解釈)、
三立(さんりつ・北島) → 雪山(せつざん・北島きたじま、書家/儒者) E 2 4 3 7
- F2008 **山里東士**(さんりとうし) ? - ? 江戸の狂歌作者:
一九「夷曲東いきよあづま日記」に吉原の歌入
山里坊(三梨坊さんりぼう) → 青蘿(せいら・松岡/竹沢/栗本、俳人) 2 4 1 4
山李坊令茶(さんりぼうれいちや) → 青蘿(せいら・松岡/竹沢/栗本、俳人) 2 4 1 4
- E2081 **三柳**(さんりゅう・中山なかやま、名;忠義) 1614-1684 71 土佐の医者;長沢道寿門/美濃大垣藩儒医;致仕、
京に住;後水尾院の脈取;法眼、儒;三宅道乙門、俳人、1648随筆「飛鳥川」、70「醍醐随筆」、
1672「病家要覧」「百雑考」/80「遂生雑記」/83「蹄疾集」、「度量衡解」「保児三方」著、

[三柳(；通称)の号]華陽軒/華陽子/識丁子

- M2083 **三柳**(さんりゅう) ? - ? 越前の俳人；「短夜」編、1702轍士「花見車」目録入
- M2084 **三柳**(さんりゅう・秦はた/波多野はたの)?-? 京室町通丸太町の開業医；
方啓院法印塙宗悦是選門流、1694「保嬰三方」著
- 三竜(さんりゅう・佐渡) → 三良(さんりょう・佐渡さど、医者/詩人) M 2 0 8 5
- 三竜(さんりゅう→みたつ・浅野)→武経(たけつね・浅野あさの、藩士/国学/歌) U 2 6 3 3
- 霰笠(さんりゅう・蜂須賀) → 茂韶(もちあき・蜂須賀はちすか、藩主/政治) K 4 4 9 9
- 暫留(さんりゅう・由比) → 勝生(かつなり・由比ゆい、藩士/文筆) N 1 5 6 7
- 残隆院(さんりゅういん) → 日題(にちだい；法諱・蓮華院、日蓮僧) C 3 3 7 9
- 三柳舎(さんりゅうしゃ) → 馬遊(ばゆう・野辺地のべち、俳人) F 3 6 7 8
- M2085 **三良**(さんりょう・佐渡さど、名；在邦)1820-7859 代々越中高岡の医者；養順を称す、
医；1838京の小石元瑞門/儒；江戸昌平覺で修学、家業の医を継嗣、1844-54頃娛吟社結成、
詩学研鑽に励む、1866「和蘭薬性歌」著、坪井信良の兄、
[三良(；号)の字/通称/別号]字；達夫、通称；達太郎/三竜/養順、
別号；山梁/詩痴/葆齋/葆光齋
- 三良(さんりょう・尾崎) → 三良(さぶろう・尾崎おさき/若林、勤王家) L 2 0 5 1
- 三稜(さんりょう・堀内) → 三稜(みくり・堀内長郷、国学者) 4 1 8 1
- 三稜(さんりょう・堀内) → 昌郷(まささと・堀内、三稜男/庄屋/国学者) C 4 0 5 9
- 山亮(さんりょう・狩野) → 永伯(えいはく・狩野、絵師) D 1 3 3 1
- 山梁(さんりょう) → 馬琴(ばきん・曲亭きょくてい、読本作者) 3 6 0 7
- 山梁(さんりょう・狩野) → 永岳(えいがく・狩野、絵師) C 1 3 5 9
- 山梁(さんりょう・佐渡) → 三良(さんりょう・佐渡さど、医者/詩人) M 2 0 8 5
- 杉涼園(さんりょうえん) → 実行(さねゆき・古久保ふるくぼ、神職/国学) P 2 0 2 8
- E2082 **山隣**(さんりん) ? - ? 加賀金沢犀川の俳人；支考門(宝永1704-11頃)、
1723「獅子物狂」編、「難陳二百韻」共編(蘇守と三隣の二派に分れ相互難陳し支考が判定)、
[山隣(；号)の別号]鳳巢下主人/江山隣
- 三林(さんりん・大伴) → 三林(みはやし・大伴宿禰、万葉歌人/三依の誤写説あり) F 4 1 7 2
- 山林逸翁(さんりんいつおう) → 可彦(よしひこ・陸くが、医者) G 4 7 2 3
- N2052 **三礼**(さんれい・佐藤さとう) ? - ? 江後期；歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[夕風にさそはれ出でて今宵また月をもまつの下涼みせり](大江戸倭歌；夏645)、
[庭桜植ゑし昔のしのばれて袂におもる花の夕露](同；雑1884/春懐旧)
- 三霊(さんれい；号) → 不昧(ふまい；道号・紹省、臨濟僧) H 3 8 4 9
- 繖嶺(さんれい・松浦) → 果(か・あきら・松浦まつら、藩士/歌人) V 1 5 7 3
- 産霊舎(さんれいしゃ) → 孝道(たかみち・中村なかむら、国学者) N 2 6 2 8
- 産霊舎伝言霊(さんれいしゃでんごんれい) → 孝道(たかみち・中村、国学者) N 2 6 2 8
- 三連(さんれん・宮谷) → 三連(みつら・宮谷みやたに、神職/国学) K 4 1 7 3
- 三蓮社縁蒼吟応(さんれんしゃえんよぎんおう) → 称念(しょうねん；法諱、浄土僧；捨世派祖) L 2 2 3 2
- M2086 **山路**(さんろ) ? - ? 京の俳人；1690言水「新撰都曲」2句入、
[稻妻いなづまに枝木えだき動かぬ念仏ねぶつ哉](新撰都曲；下323)
- E2083 **杉露**(さんろ・鯉屋、採茶庵五世)?-? 俳人、杉風一門、杉山家に書留
- M2087 **山路**(さんろ・吉田よしだ、別号；旭庵)?-? 江後期俳人、1817「もぬけの殻」編
玄武坊門の旭庵と同一? → 旭庵(きょくあん・吉田、俳人) O 1 6 7 8
- 三鷺(さんろ；号) → 春水(初世しゅんすい・為永、人情本作者) 2 1 6 1
- 三鷺(さんろ・秦) → 三駱(さんらく・秦はた、俳人)
- 三蘆(さんろ；号) → 周鏡(しゅうきやう；法諱・月翁げつおう・げつとう、臨濟僧) H 2 1 1 0
- 傘路(さんろ・森) → 忠洪(ただひろ・森もり、藩主/俳人) Q 2 6 6 8
- 残露庵(さんろあん) → 長翠(ちやうすい・常世田とこよだ、俳人) J 2 8 0 9
- 三滝院(さんろういん；諡号) → 真瑞(しんずい；法号、真宗本願寺派僧) O 2 2 9 9

- 三露園(さんろえん) → 岱年(たいねん・花守/早川/森、俳人) K 2 6 9 2
 三露園(さんろえん) → 万和(まんわ、俳人) K 4 0 8 8
 M2088 杉六(さんろく) ? - ? 名古屋の俳人: 暁台門、
 1768-72暁台「秋の日」(明和五年1768戊子九月山荘に宿し歌仙; 4句入)、
 [皮剥かばぎのこゝろ尖すどに淺ましき](秋の日; 明和五年歌仙47)、
 (魚のカワハギは物の気配に意外に機敏/前句; 日裏は杉の雫とくとく)
- 三六(さんろく・鈴木) → 交陵(こうりょう・鈴木すずき、名主、儒/詩) L 1 9 6 0
 三六(さんろく・幸塚) → 野鶴(やかく・幸塚こうづか、俳人) 4 5 3 9
 三六(さんろく・星野) → 貞暉(さだてる・星野ほしの/橘、機業/国学/歌) P 2 0 0 1
 三鹿(さんろく・千坂) → 畿(みやこ・千坂ちさか/横山、幕臣/儒者) F 4 1 9 2
 三鹿齋(さんろくさい) → 鱧水(がくすい・江木えぎ、藩士/儒/兵学) E 1 5 7 3
 参和(さんわ) → 参和(さんわ・唐来) 2 0 5 4